

なな いろ づか い せき
七 色 塚 遺 跡 II
— B 1 ち てん 地点 —

きた ぼり しん でん まえ い せき
北 堀 新 田 前 遺 跡
— A 1 ち てん 地点 —

— 本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1 —

2008

本庄市教育委員会



1. 七色塚遺跡B地点調査区全景（東より）



2. 七色塚遺跡B地点調査区全景（真上より）



1. 北堀新田前遺跡A地点調査区全景（真上より）



2. 北堀新田前遺跡A 1 地点全景（北より）

序

本庄市は、平成5年に本庄地方拠点都市地域の指定を受けて、新幹線本庄早稲田駅の開設、早稲田リサーチパーク地区の整備、土地区画整理事業などにより、当地域の新たな拠点形成を推進してまいりました。特に「職・住・遊・学」の機能を備えた魅力ある街づくりを行うことを目的とした本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業は、地区面積64.6haの大規模造成工事を伴う中心的な開発事業であります。当然ながら、その事業地内には当地域の歴史と文化の形成を知るうえで欠かせない資料である貴重な文化財が数多く存在しており、その保護と開発については、計画当初より長い年月をかけ、多くの関係機関を含めて調整を行ってまいりました。

本書は、この土地区画整理事業地内の都市計画道路建設に伴う事前の記録保存を目的として、平成18年度に実施された七色塚遺跡のB1地点と北堀新田前遺跡のA1地点の発掘調査の成果を記録したものです。調査の結果、両遺跡とも古墳時代から奈良・平安時代にかけての集落跡と中世の屋敷跡を主体とする遺跡であることが判明し、特に七色塚遺跡では当時の人々が生活していた夥しい数の住居跡とともに、当時の人々が使用していた膨大な量の土器が出土し、当時における当地方の繁栄ぶりを窺い知ることができ、大きな成果をあげることができました。

本書が、学術研究の基礎資料としてはもとより、埋蔵文化財の保護・普及啓発の資料として、多くの方々に広くご活用いただければ幸甚に存じます。

最後になりましたが、現地の発掘調査から整理・報告書の刊行にあたり、多大なご協力をいただきました独立行政法人都市再生機構本庄都市開発事務所をはじめ、様々なご教示やご尽力をいただきました地元関係者各位に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

平成20年3月1日

本庄市教育委員会
教育長 茂木孝彦

例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市東富田字下田196-2他に所在する七色塚遺跡(No53-071) B 1 地点と、同じく本庄市北堀字新田前1958-1他に所在する北堀新田前遺跡(No53-063) A 1 地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う都市計画道路の東西通り線(七色塚遺跡 B 1 地点)と新都心環状線(北堀新田前遺跡 A 1 地点)建設に先立つ事前の記録保存を目的として、平成18年12月18日から平成19年3月23日の期間に実施した。
3. 発掘調査は、本庄市教育委員会が行い、その調査担当には七色塚遺跡を恋河内昭彦が、北堀新田前遺跡を太田博之・松本 完・的野善行の3名があたった。
4. 発掘調査から本書刊行に要した経費は、独立行政法人都市再生機構本庄都市開発事務所の委託金である。
5. 本書中で使用した地図は、国土地理院発行の2万5千分の1、参謀本部陸軍部測量局作成の2万分の1迅速測図である。
6. 本書第9図中に記載したXY座標値は、世界測地系による新座標値である。また、報告書抄録中の北緯・東経の数値も新座標値から換算した数値である。
7. 七色塚遺跡 B 1 地点出土遺物の整理作業の一部と遺物の写真撮影は、毛野考古学研究所に委託した。
8. 本書中の遺物観察表に示した記号は、以下のとおりである。
A－法量、B－成形手法、C－整形・調整手法、D－胎土(材質)、E－色調、F－残存度、
G－備考、H－出土位置(層位)、
9. 本書の執筆は、第IV章を松本、第V章を株式会社パレオ・ラボ、その他を恋河内が行った。
10. 本書の編集は、恋河内が行った。
11. 発掘調査及び本書刊行に際して、下記の方々や機関からご助言・ご協力を賜った。ここに記して感謝いたします。
赤熊 浩一、浅野 晴樹、荒川 正夫、有山 径世、大谷 徹、柿沼 幹夫、金子 彰男、
小出 輝雄、駒宮 史朗、昆 民生、坂本 和俊、桜井 和哉、佐々木幹雄、篠崎 潔、
外尾 常人、田中 広明、田村 誠、富田 和夫、戸森 茂、鳥羽 政之、中沢 良一、
中村 倉司、長井 正欣、長滝 歳康、日沖 剛史、福田 聖、丸山 修、宮本 直樹、
矢内 勲、割田 博之、
埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、埼玉県埋蔵文化財調査事業団、有限会社毛野考古学研究所、株式会社測研、帝国石油パイプライン株式会社、
12. 発掘調査及び本書刊行のための整理作業には下記の者が参加した。
青山 力、明戸 浩美、新井 嘉人、新井千都子、新井 正治、池田 一彦、磯崎 勝人、
井田 恭代、今井 豊和、落合智恵美、鎌塚 晋一、亀山 久枝、亀山 等、川中子浩史、
神田 恵子、木島 覚、工藤 和美、熊谷由美子、倉林 美紀、黒沢 律子、小暮 悠樹、

小林美代子、小林 芳子、斉藤真理子、桜井 明広、渋谷 裕子、塩原 晴幸、塩原 浩之、清水 美則、篠原 朗、菅野 裕子、高井 武一、高田 和正、高橋 愛子、田口 照代、塚越 金作、辻野 琢也、土屋 牧子、戸沢ミチ子、戸谷佐知子、中原 好子、野辺 恵、野本ミチ子、長谷川周平、原野 真祐、福島 礼子、藤重千恵子、逸見百合子、細谷 悟、槇島 直樹、町田 泰三、三木きよ子、宮下 和雄、最能 秀行、安田 泰彦、山崎 和子、山田マサミ、山本 勇、吉田 耕作、吉田 重政、吉田真由美、渡辺 典子、渡辺 裕子、

13. 発掘調査及び整理報告書刊行にかかる本庄市教育委員会の組織は以下のとおりである。

発掘調査組織（平成18年度）

主体者	本 庄 市 教 育 委 員 会		
	教 育 長	茂 木 孝 彦	
事務局	事 務 局 長	丸 山 茂	
	文化財保護課		
	課 長	前 川 由 雄	
	課 長 補 佐	増 田 一 裕	
	課 長 補 佐 兼	鈴 木 徳 雄	
	埋蔵文化財係長		
	主 事	松 澤 浩 一	
担当者	主 査	恋 河 内 昭 彦	（七色塚B）
〃	主 査	太 田 博 之	（北堀新田前A）
〃	主 事	松 本 完	（ 〃 ）
〃	臨 時 職 員	的 野 善 行	（ 〃 ）

整理・報告書刊行組織（平成19年度）

主体者	本 庄 市 教 育 委 員 会		
	教 育 長	茂 木 孝 彦	
事務局	事 務 局 長	丸 山 茂	
	文化財保護課		
	課 長	儘 田 英 夫	
	課 長 補 佐	鈴 木 徳 雄	
	埋蔵文化財係長	太 田 博 之	
	主 任	大 熊 季 広	
	主 任	松 澤 浩 一	
担当者	主 査	恋 河 内 昭 彦	（七色塚B）
〃	主 事	松 本 完	（北堀新田前A）
〃	臨 時 職 員	的 野 善 行	（ 〃 ）

目 次

序

例 言

第 I 章 発掘調査に至る経緯 1

第 II 章 遺跡の立地と歴史的環境 3

第 III 章 七色塚遺跡 B 1 地点の発掘調査 7

第 1 節 遺跡の概要 7

第 2 節 検出された遺構と遺物 11

1. 竪穴式住居跡 11

2. 掘立柱建物跡 143

3. 井 戸 跡 146

4. 土 壙 149

5. 道路状遺構 165

6. 溝 跡 166

7. 性格不明遺構 175

8. 調査区東側黒色包含層出土遺物 175

9. その他の遺物 177

第 IV 章 北堀新田前遺跡 A 1 地点の発掘調査 181

第 1 節 遺跡の概要 181

第 2 節 検出された遺構と遺物 182

1. 竪穴式住居跡 182

2. 井 戸 跡 191

3. 埋 没 谷 192

4. その他の遺物 194

第 V 章 自然科学的分析 195

第 1 節 七色塚遺跡 B 地点第 28 号住居跡出土炭化材の樹種同定 195

第 2 節 北堀新田前遺跡 A 1 地点埋没谷内堆積物中の軽石質テフラの同定 196

第 VI 章 ま と め —七色塚遺跡 B 1 地点出土土器の様相— 199

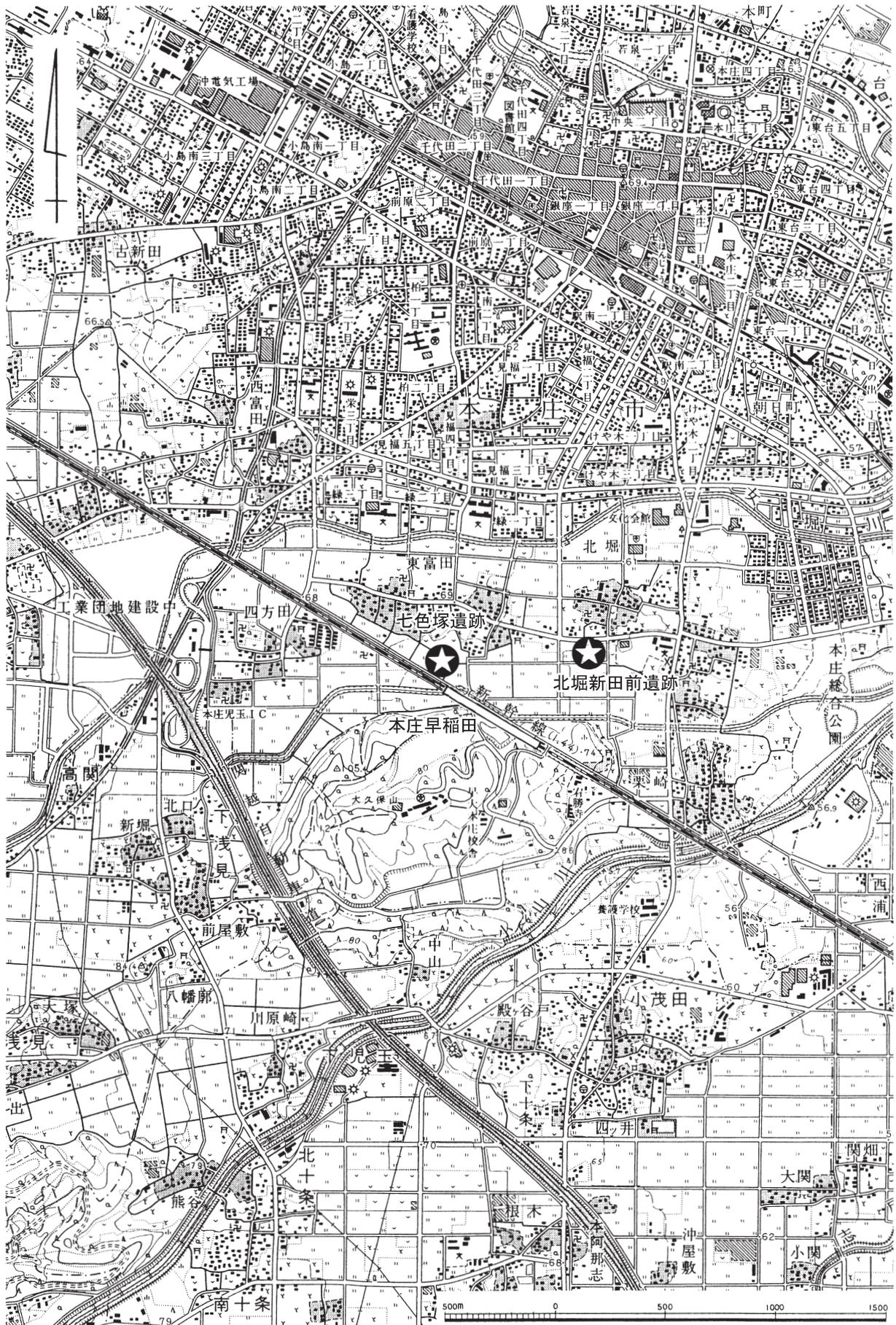
第 1 節 古墳時代土器の時期区分と様相 199

第 2 節 白鳳～平安時代土器の時期区分と様相 204

引用・参考文献 211

写 真 図 版

報 告 書 抄 録



第1図 遺跡の位置(1)

—国土地理院平成10年発行:一部改変—

第 I 章 発掘調査に至る経緯

本庄市は、平成5年8月に本庄地方拠点都市地域の指定を受けてより、その地方拠点の中核をなす上越新幹線本庄早稲田駅周辺の北堀・栗崎・東富田地区における「本庄新都心地区」の整備計画を進めてきた。そして平成7年3月に基本計画の承認を得て、平成8年以降その地区内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて、文化財担当部局の埼玉県教育委員会や本庄市教育委員会と具体的な協議を重ね、平成14年3月20日付けで三者による「本庄新都心土地区画整理事業地区内の埋蔵文化財に関する協定書」を締結した。

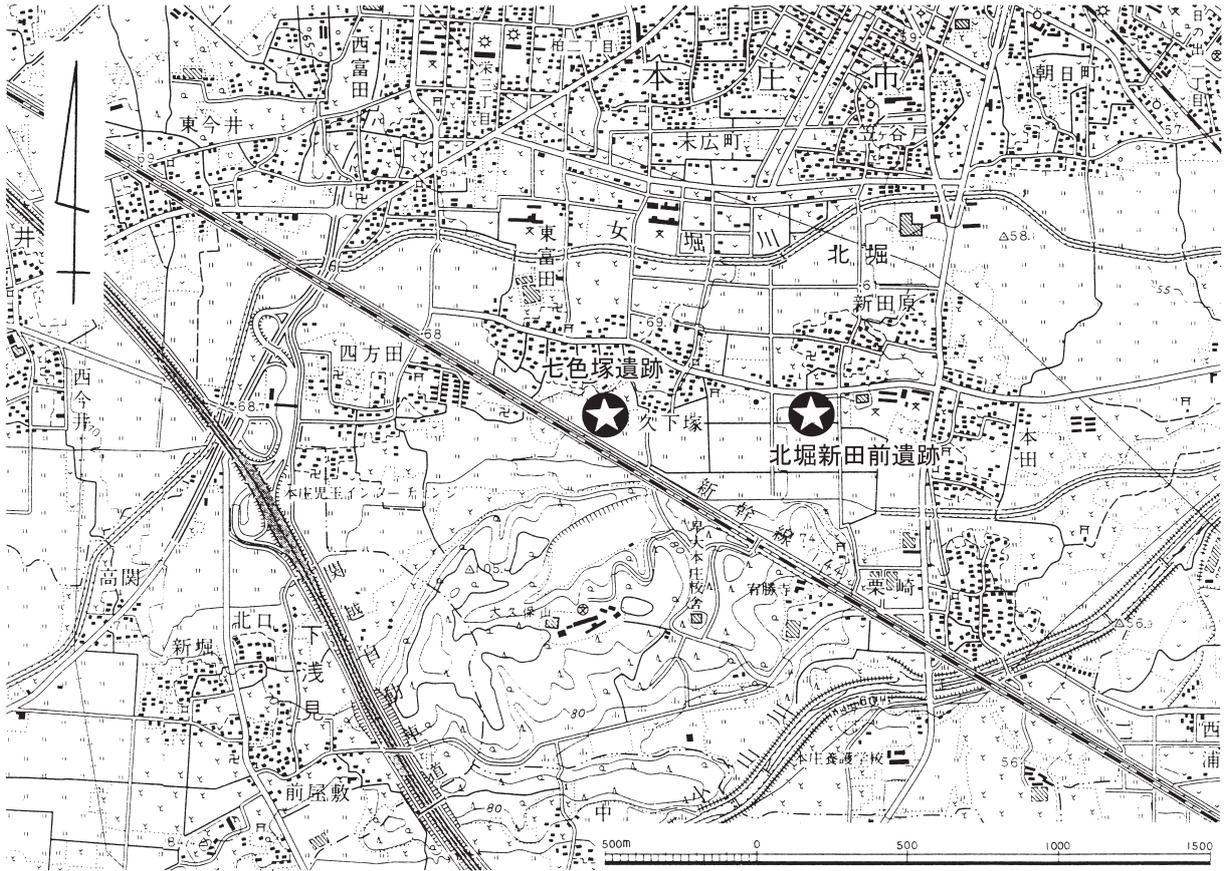
その後、平成15年3月に本庄新都心地区154haが市街化区域に編入され、土地区画整理事業が都市計画に定められたが、平成16年7月に事業主体が地域振興整備公団から特殊法人整理合理化計画に基づいて発足した独立行政法人都市再生機構に移行したのを機に、都市再生機構施行地区の区域の縮小を含めた事業規模の再検討と見直しが行われた。そして、平成18年9月によりやく事業が認可されたことから、都市再生機構本庄都市開発事務所、本庄市、本庄市教育委員会、埼玉県教育委員会の四者により、土地区画整理事業地区内における埋蔵文化財の取り扱いについて定めた「本庄早稲田駅周辺地区埋蔵文化財に関する協定書」を平成18年11月10日付けで締結した。

事業地区内における平成18年度の発掘調査は、西側東富田の七色塚遺跡(No53-071)と東側北堀の北堀新田前遺跡(No53-063)の一部を実施した。そのうち、今回報告する都市再生機構側の負担箇所である都市計画道路部分の七色塚遺跡B1地点(東西通り線)と北堀新田前遺跡A1地点(新都心環状線)の発掘調査については、先の協定書に基づいて都市再生機構本庄都市開発事務所と本庄市で業務委託契約を平成18年12月15日付けで締結し、現地の発掘調査は七色塚遺跡B1地点が平成18年12月18日から平成19年3月23日、北堀新田前遺跡A1地点が平成19年1月9日から1月31日の期間に実施した。

発掘調査に関わる通知は、文化財保護法第94条第1項の規定により、都市再生機構本庄都市開発事務所からとし43-23号(七色塚遺跡No53-071)・とし43-24号(北堀新田前遺跡No53-063)による「埋蔵文化財発掘の通知」が、埼玉県埋蔵文化財事務処理要綱第15条に基づいて、本庄市教育委員会から本教文保発第363号(北堀新田前遺跡No53-063)・本教文保発第380号(七色塚遺跡No53-071)による文化財保護法第99条に関わる「埋蔵文化財発掘調査の通知」が、それぞれ埼玉県教育委員会に提出されている。

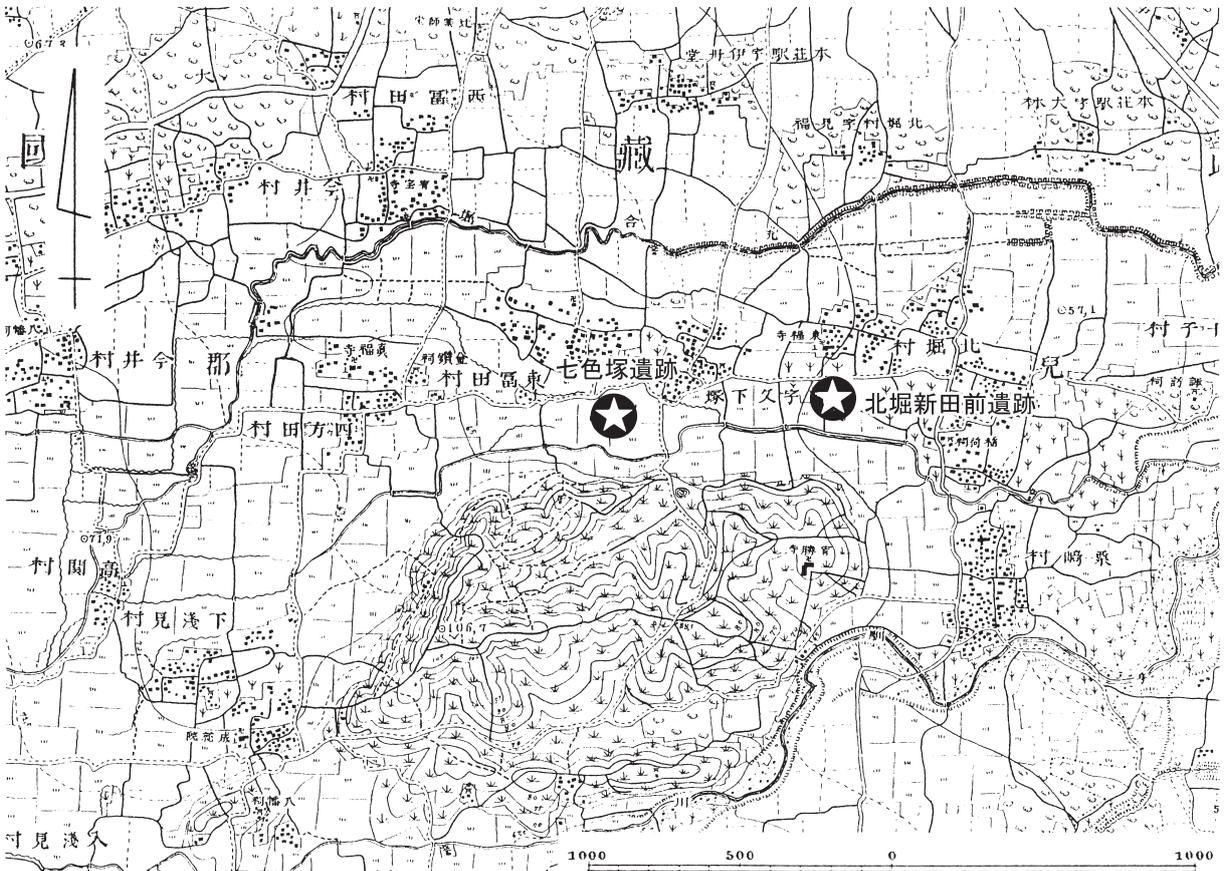


七色塚遺跡B1地点



第2図 遺跡の位置 (2)

—国土地理院昭和60年発行—



第3図 遺跡の位置 (3)

—参謀本部陸軍部測量局明治18年作成—

第Ⅱ章 遺跡の立地と歴史的環境

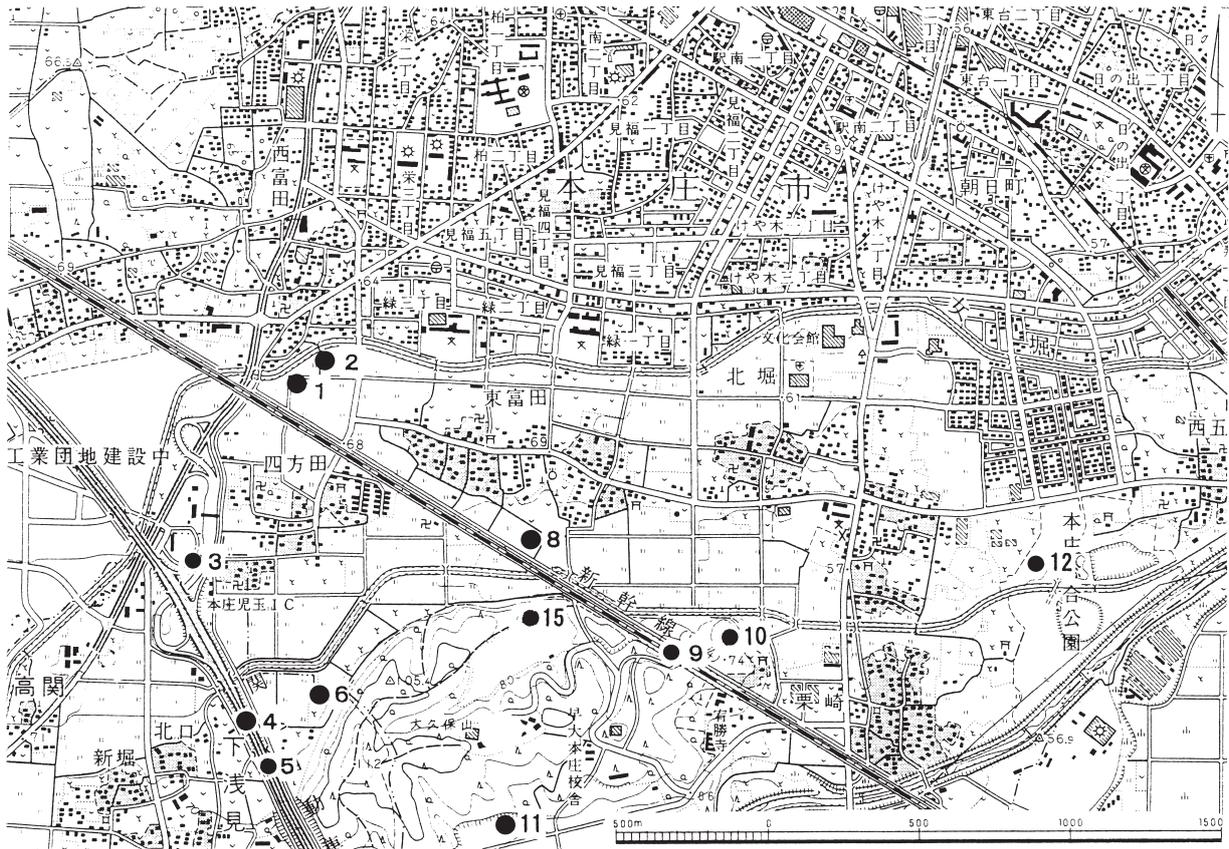
今回報告する七色塚遺跡と北堀新田前遺跡は、上越・長野新幹線本庄早稲田駅のそれぞれ北西側約100mと北東側約500mの位置にある。両遺跡周辺は、埼玉県と群馬県の県境をなす神流川の両側に広がる神流川扇状地の東端部にあたり、南側の上武山地内からの湧水を集めて扇状地東端部付近を概ね南西から北東方向に流れる現女堀川の下流域に位置する。両遺跡は、この女堀川沖積低地内の女堀川と男堀川に挟まれた標高59m～63mを測る東西方向に長い微高地上に立地し、低地の北側には中山道本庄宿から発展した現在の市街地が広がる広大で低平な本庄台地があり、南側には中世児玉党と関係の深い宥勝寺や早稲田大学本庄校舎などがある残丘性丘陵の大久保山がある。

縄文時代の遺跡は、当地域では草創期～前期は丘陵上や山地内が主体で、前期後半～中期に丘陵下の台地上に集落が進出し、中期末以降になって台地下の低地内に小規模な集落が散在的に出現する特徴が見られる。両遺跡周辺でも、南側の大久保山残丘上に草創期～早期の土器を出土した大久保山遺跡浅見山Ⅰ地区(大久保山A遺跡)や宥勝寺北裏遺跡が、微高地上や低地内に七色塚遺跡・西富田前田遺跡・西富田四方田条里遺跡など中期加曾利EⅢ式期の小規模集落が存在している。

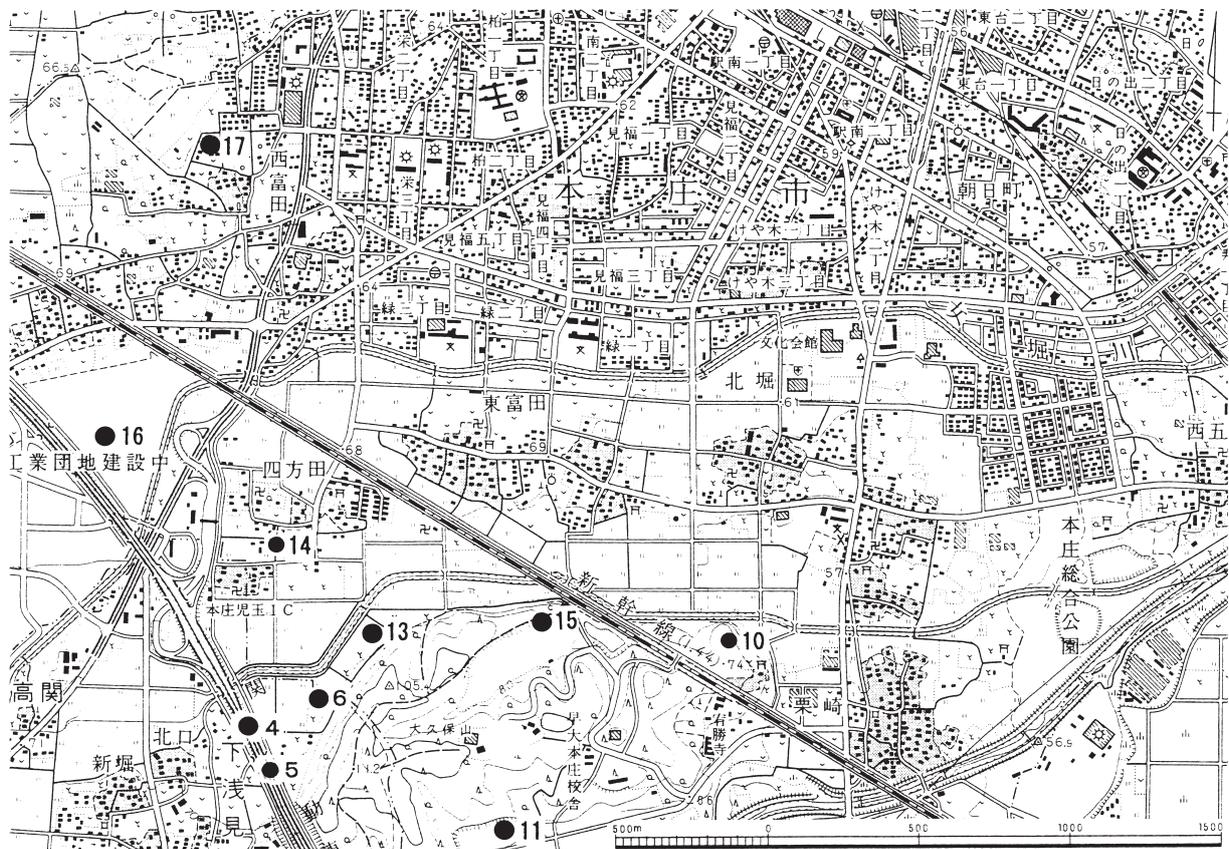
弥生時代の遺跡は、当地域では全体的に少ないながらも、中期は丘陵部から低地周辺、後期は丘陵部を主体に立地する傾向が認められ、おそらく中期には生産性の高い沖積低地の部分的で一時的な開発が行われつつも継続安定化せず、後期には生産性は低いが少ない労働力でも経営可能な丘陵部の谷田を生産基盤として選択していたと思われる。両遺跡周辺でも、中期では大久保山残丘上の大久保山遺跡浅見山Ⅰ地区、低地内の今井条里遺跡、本庄台地上の夏目西遺跡などで中葉段階の土壌や土壌群が見られ、後期では大久保山残丘上やその周辺の低台地上を主体に、吉ヶ谷式末期の大久保山遺跡、樽式末期の山根遺跡や飯玉東遺跡などの小規模集落、二軒屋式土器を出土した塚本山遺跡・宥勝寺北裏遺跡・山根遺跡などが存在している。

古墳時代の遺跡は、当地域では前時代までに比べて遺跡数が爆発的に増加し、特に前期より低地内への集落の進出が顕著に認められる。これらの低地内に進出した集落は、弥生時代からの伝統的な在地系の土器ではなく、畿内系や東海西部系などの外来系土器を主体としており、おそらくこれまでとは水田経営の技術的系譜を異にした集団によって、灌排水路の掘削による低地内の大規模開発と地域社会の再編成が行われ、その低地開発の成果を基盤にして中・後期まで継続的に発展したことが窺える。この地域的发展を反映して、当地域では前期～後期の古墳が多数造営されており、両遺跡周辺でも大久保山残丘上に前期末の前方後円墳とされる前山1号墳や中期前半の方墳とされる前山2号墳、低地内の微高地上に叩き目埴輪を持つことで著名な中期の大形円墳である公卿塚古墳や後期群集墳を主体とする東富田古墳群と西五十子古墳群、及び残丘上に宥勝寺裏埴輪窯跡などが見られる。

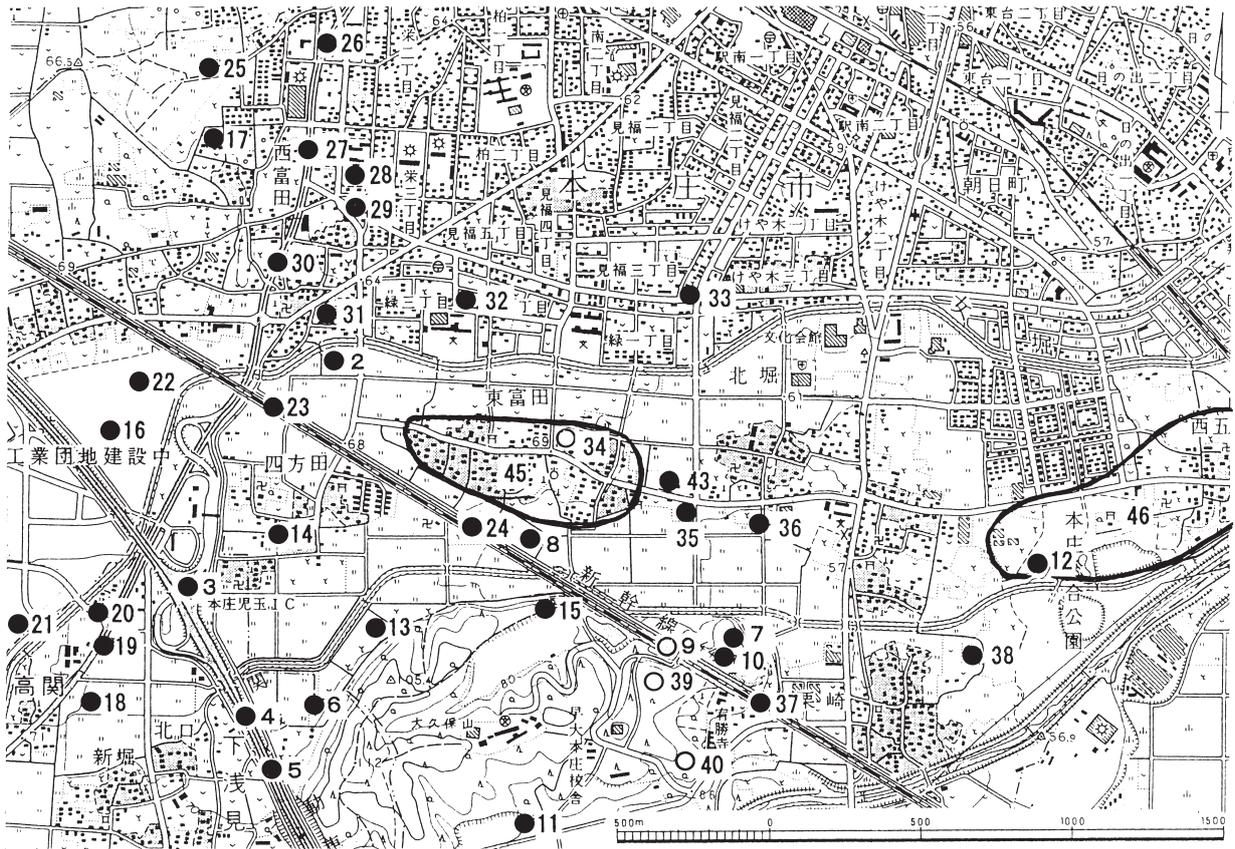
白鳳・奈良・平安時代の遺跡は、当地域では7世紀中頃になると、これまで低地内にあった集落の多くが廃絶されて、低地を取り囲むように本庄台地の縁辺部や生野山・鷲山・大久保山の残丘列上及びその斜面下の低台地上に集落が移動する現象が認められる。その後、平安時代の9世紀後半～10世紀になると、本庄台地の縁辺部側に展開した集落は衰退し、再び低地内の微高地上に小規模な集落が散在的に出現するようになる。両遺跡周辺の女堀川下流域では、低地内の微高地上に古墳時代前期では北堀新田前遺跡の方形周溝墓群、中・後期では公卿塚古墳や東富田古墳群が形成され、集落の居



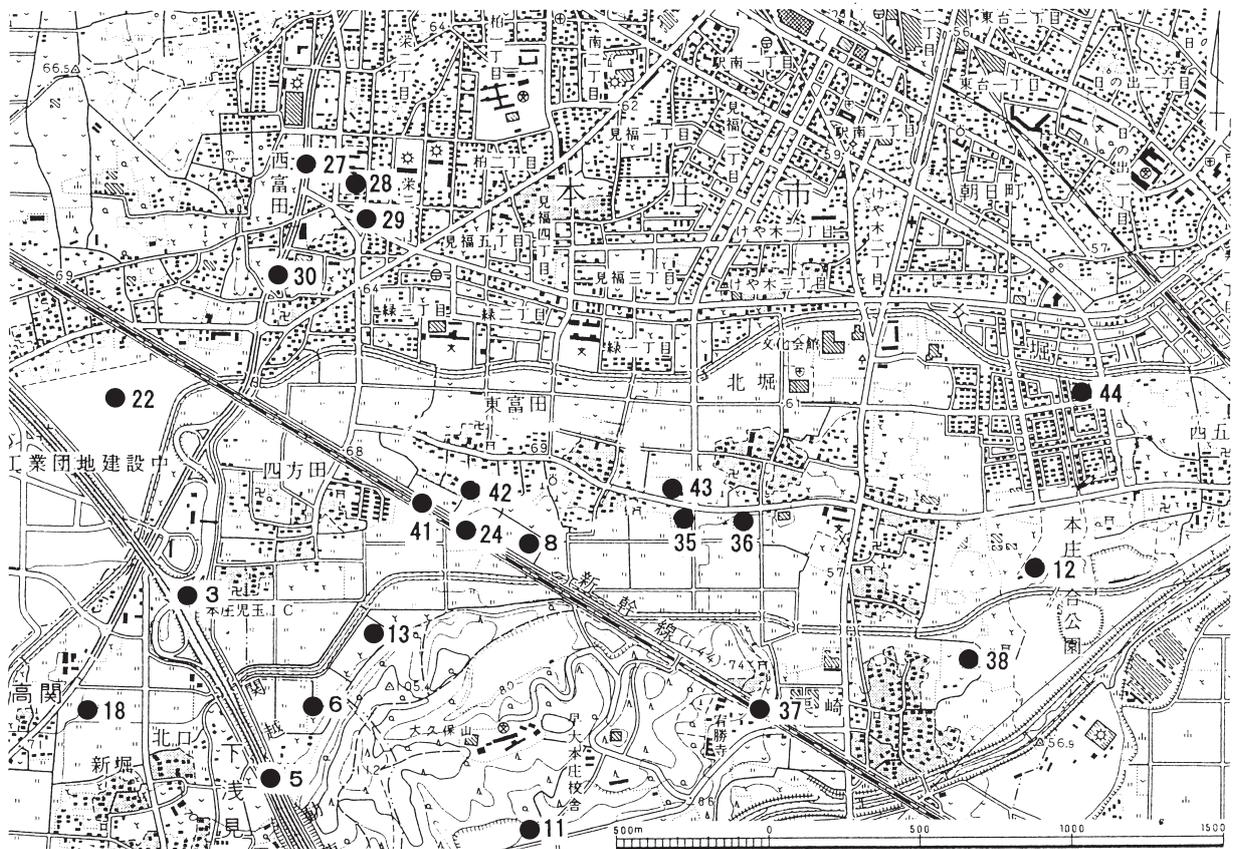
第4図 遺跡周辺の縄文時代遺跡



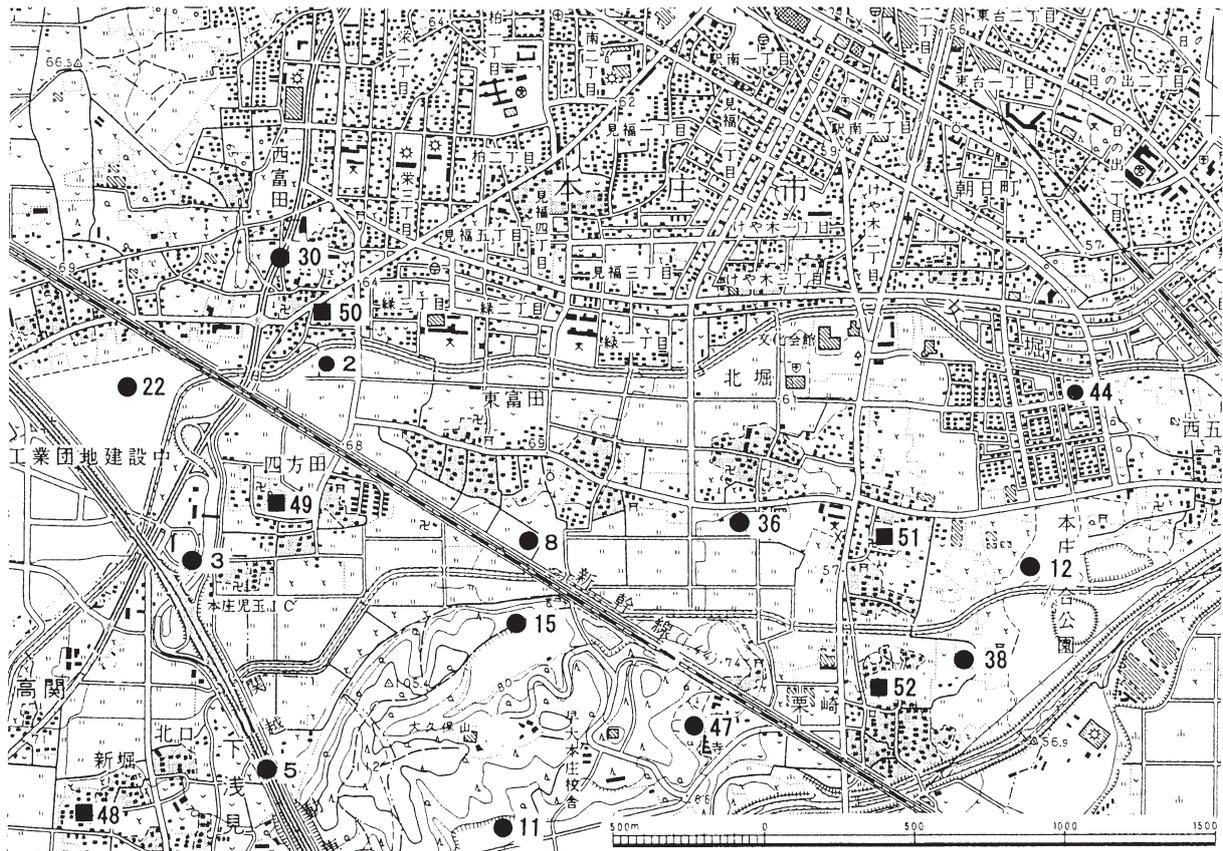
第5図 遺跡周辺の弥生時代遺跡



第6図 遺跡周辺の古墳時代遺跡



第7図 遺跡周辺の白鳳・奈良・平安時代遺跡



第8図 遺跡周辺の中世遺跡

1. 西富田前田遺跡
2. 西富田四方田条里遺跡
3. 後張遺跡
4. 飯玉東遺跡
5. 雷電下遺跡
6. 根田遺跡
7. 宥勝寺裏埴輪窯跡
8. 七色塚遺跡
9. 前山2号墳
10. 宥勝寺北裏遺跡
11. 大久保山遺跡
12. 西五十子古墳群内遺跡
13. 山根遺跡
14. 四方田遺跡
15. 大久保山遺跡浅見山I地区(大久保山A遺跡)
16. 今井条里遺跡
17. 夏目西遺跡
18. 東牧西分遺跡
19. 梅沢遺跡
20. 川越田遺跡
21. 今井川越田遺跡
22. 地神・塔頭遺跡
23. 九反田遺跡
24. 下田遺跡
25. 西富田新田遺跡
26. 二本松遺跡
27. 夏目遺跡
28. 薬師遺跡
29. 南大通り線内遺跡
30. 社具路遺跡
31. 西富田本郷遺跡
32. 雌濠遺跡
33. 笠ヶ谷戸遺跡
34. 公卿塚古墳
35. 久下前遺跡
36. 北堀新田前遺跡
37. 東谷遺跡
38. 東本庄遺跡
39. 前山1号墳
40. 東谷古墳
41. 観音塚遺跡
42. 元富遺跡
43. 久下東遺跡
44. 本端屋敷遺跡
45. 東富田古墳群
46. 西五十子古墳群
47. 大久保山寺院跡
48. 関根氏館跡
49. 四方田氏館跡
50. 薬師元屋敷遺跡
51. 北堀本田館跡
52. 栗崎館跡

住域を廃するかあるいは近接して墓域が設定されていたが、白鳳時代以降になると再び低地内の微高地上に七色塚遺跡・下田遺跡・久下東遺跡・久下前遺跡・北堀新田前遺跡など多くの集落が出現し、ある程度の継続性をもって平安時代まで集落が存在している。

中世の遺跡は、当地域は平安時代末から鎌倉時代初期にかけて活躍した武蔵七党の児玉党の発祥地であり、児玉党諸氏の本貫地と考えられる地名も多く存在し、また中世後期には関東内乱の象徴とも言える関東管領上杉氏側の一大防衛陣地である五十子陣が所在したことから、それらに関する遺跡や伝承が多く残っている。特に両遺跡周辺の大久保山は、児玉党の菩提寺と言われる西光寺や南北朝時代に北畠顕家と足利義詮が戦った薊山合戦の伝承があり、遺跡としても墳墓群を伴う大久保山寺院跡、鎌倉永福寺の創建期の唐草文軒平瓦を出土した大久保山遺跡、連珠文軒平瓦や大形格子目文様叩き平瓦を焼成した窯跡が検出された大久保山遺跡浅見山I地区など寺院関連の遺跡が多く所在しており、近くでも東本庄遺跡や社具路遺跡で関係する中世瓦が出土している。また、中世後期の屋敷や館跡も、大久保山遺跡をはじめとして多くの遺跡でそれに関連する遺構が検出されている。

第Ⅲ章 七色塚遺跡B 1 地点の発掘調査

第1節 遺跡の概要

本遺跡は、女堀川流域の下流域に位置し、大久保山残丘の北側に広がる低地内の女堀川と男堀川に挟まれた標高63mを測る比較的広い微高地上に立地している。この同じ微高地上の西側では元富遺跡(増田1987)、東側では久下東遺跡(増田1985)などの古墳時代～平安時代を主体とする集落遺跡が調査されており、北側の一帯には公卿塚古墳(太田他1991)や西原古墳(増田1987・1989)をはじめとする東富田古墳群が広がっている。

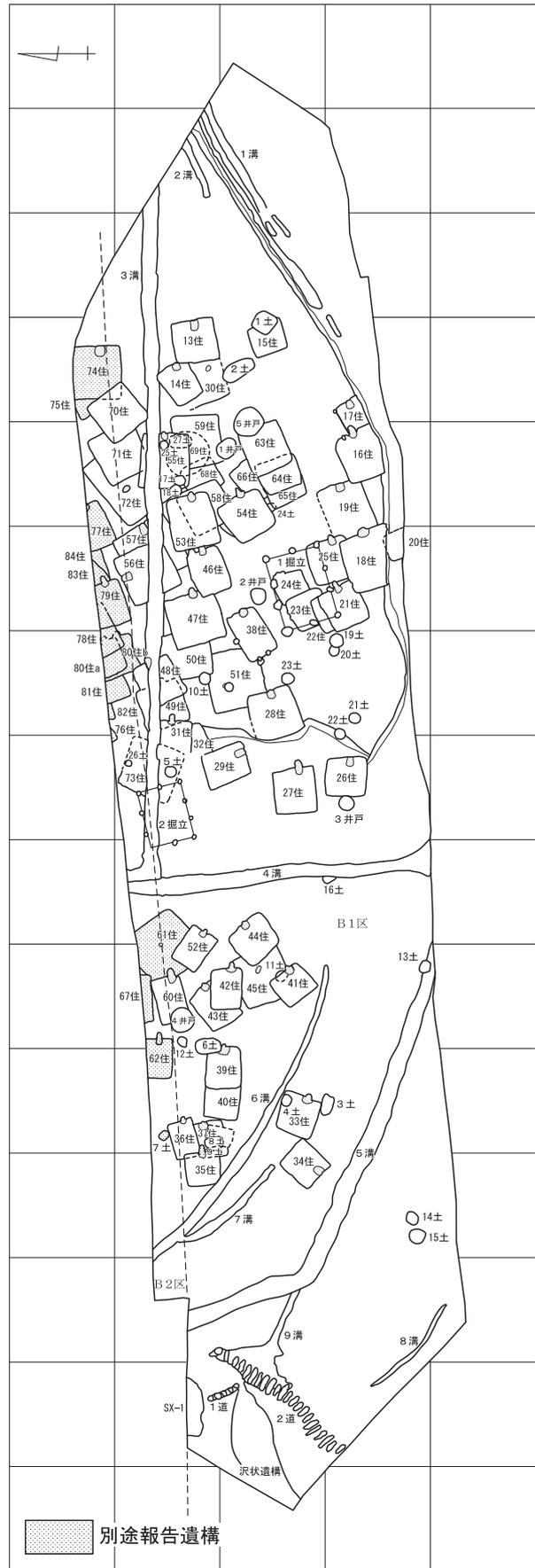
本遺跡は、すでに県営ほ場整備事業児玉南部地区の昭和60年度工区に伴う小排水路建設に先立って発掘調査が実施されており(増田1987)、今回の調査は本遺跡の第二次調査にあたる。そのため、昭和60年度に調査した箇所をA地点、今回の調査箇所をB地点と呼称し、さらにB地点の都市計画道路東西通り線建設予定部分をB 1 地点、その北側の排水路建設のための拡幅部分をB 2 地点と、便宜的に細別している(第10図)。

B 地点は、水田部と接する微高地の南端部にあたり、ほ場整備前は調査区の東側半分は畑地として、西側半分は水田として利用されていた場所である。第1号溝跡と第6号溝跡はその旧地割りの痕跡を残す遺構で、第1号溝跡は畑地と水田の境の溝、第6号溝跡は道路に沿う溝である。B 地点の調査で検出された主な遺構は、竪穴式住居跡73軒・掘立柱建物跡2棟・井戸跡5基・土壇27基・道路状遺構2・溝跡9条である。これらの時期は、縄文時代中期と古墳時代前期から中世にわたるものが主体であるが、後者は長期間継続的に営まれたものではなく、いくつか断絶する時期が見られる。

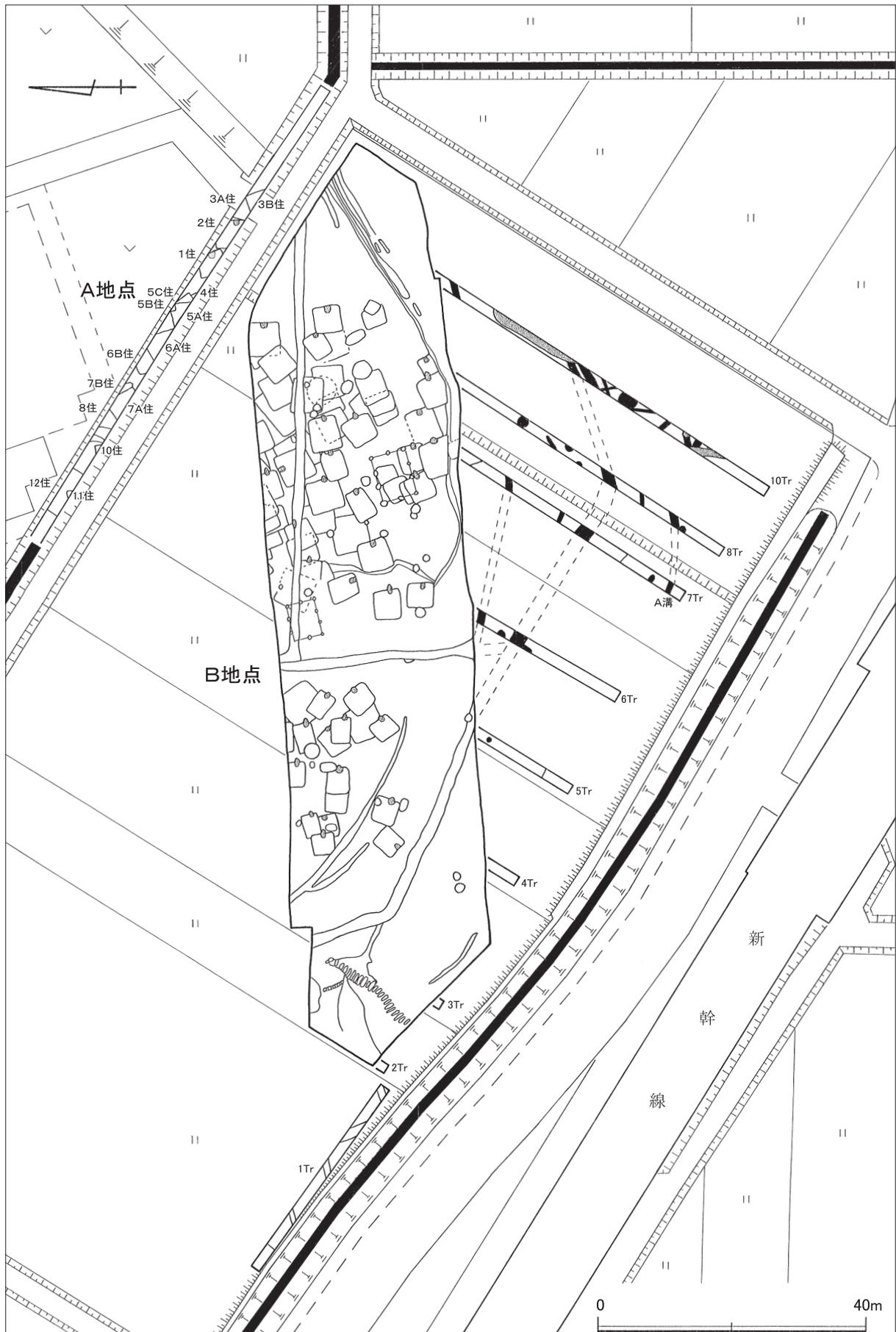
今回報告するB 1 地点に関する遺構は、竪穴式住居跡58軒・掘立柱建物跡2棟・井戸跡5基・土壇26基・道路状遺構2・溝跡9条で、北側拡幅部のB 2 地点にかかる竪穴式住居跡15軒と土壇1基については、別途報告の予定である。縄文時代中期の遺構は、住居跡1軒(第69号住居跡)と土壇2基(第9・27号土壇)がある。時期は加曾利EⅢ～Ⅳ式期のもので、比較的小規模な集落を形成していたようである。古墳時代の遺構は、前期末から後期初頭までであり、竪穴式住居跡25軒(前期1・中期4・後期20)・土壇6基(中期1・後期5)・溝跡3条(中期1・後期2)が確認されている。前期～中期の住居跡は、いずれも住居の中央付近に炉をもっている。中期の住居跡は、5m前後の方形のものが主体であるが、第72号住居跡は一辺が7m強の規模を有するB 地点で最大の住居跡である。後期初頭の住居跡は、規模が一辺3.5m前後～5.6m程度で、多くが転用高坏の支脚を有するカマドをもつ。位置は東カマドが主体であるが、第29号住居跡や第34号住居跡のように、南側にカマドを付設する住居跡も見られる。白鳳時代(7世紀後半)～平安時代前期(9世紀)の遺構は、竪穴式住居跡32軒・掘立柱建物跡1棟・井戸跡2基・土壇8基・道路状遺構2で、主体は白鳳時代から奈良時代である。住居跡は、規模が3m～5.4m程度の長方形のものが多く、住居の壁を掘り込んだ東カマドが主体である。これらの住居跡の中で8世紀後半の第60号住居跡からは、「廣永」の文字が線刻された石製紡錘車が出土しており注目される。中世の遺構は、掘立柱建物跡1棟・井戸跡1基・土壇8基・溝跡2条で、これらの遺構の大半は溝によって区画された屋敷を構成すると考えられる。この中で、東西方向に直線的に延びる区画堀の第3号溝跡は、西側の女堀川流域に広がる条里形地割りの坪線とはほぼ一致しており、中世においては本遺跡周辺も条里形地割りの規制を若干受けていたことが窺われる。



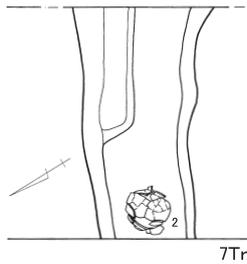
第9図 B地点調査区全体図



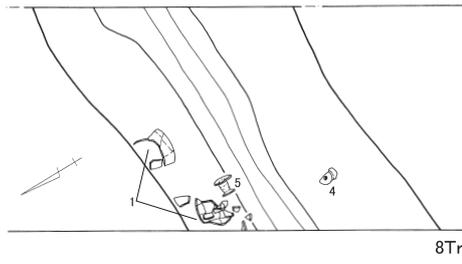
第10図 B地点遺構配置図



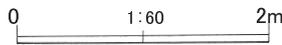
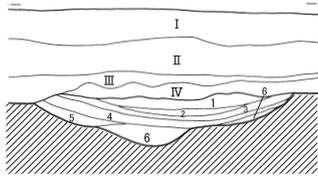
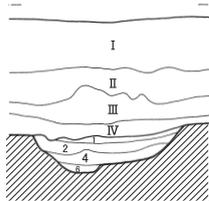
第 11 図 七色塚遺跡 A・B 地点



7Tr



8Tr



A溝(第7・8トレンチ)土層説明

第I層:現耕作土。

第II層:盛土(ほ場整備時)。

第III層:旧耕作土(ほ場整備前)。

第IV層:暗灰色粘土層(ローム粒子・マンガン塊・B軽石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第1層:暗黄灰褐色土層(ローム粒子・細砂を多量含む。粘性に富み、しまりはない。)

第2層:暗灰色土層(マンガン塊・細砂を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

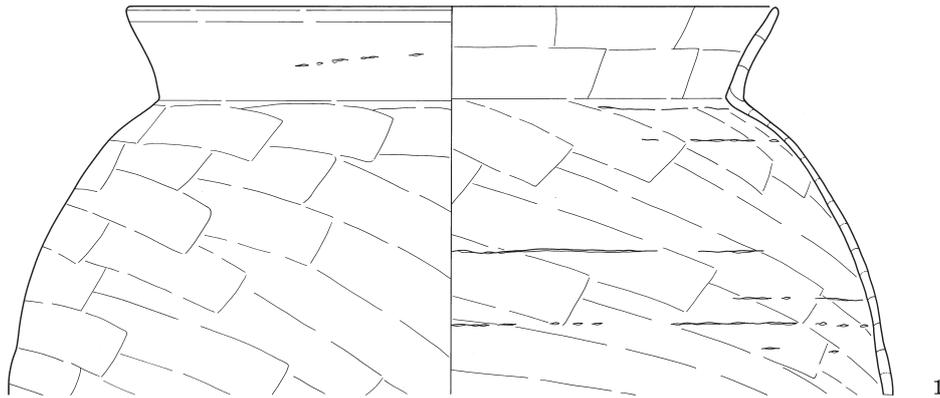
第3層:暗灰色土層(マンガン塊・細砂を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第4層:黒灰色土層(ローム粒子・細砂を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

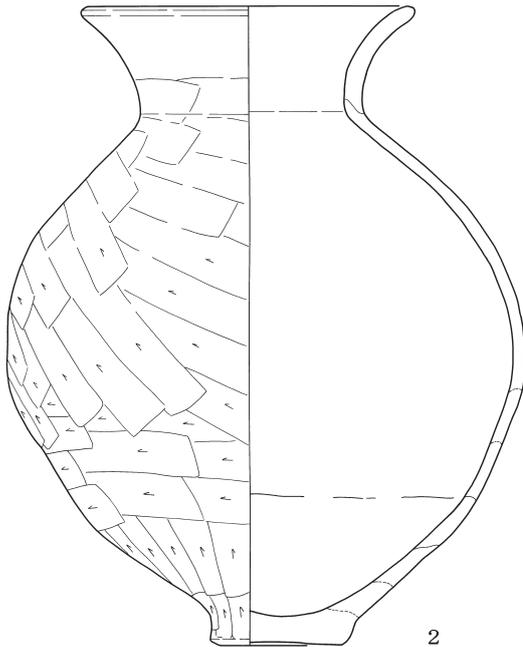
第5層:暗黄褐色土層(細砂を多量に、ローム粒子・小石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第6層:黒褐色土層(砂礫を主体に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

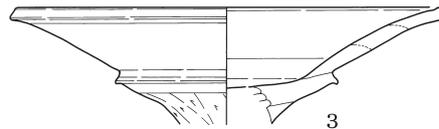
第12図 A溝(第7・8トレンチ)



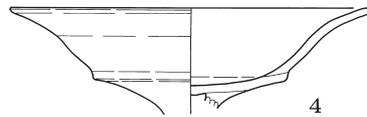
1



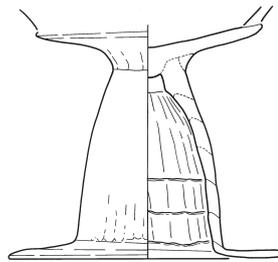
2



3



4



5



第13図 A溝出土遺物

第2節 検出された遺構と遺物

1. 竪穴式住居跡

第13号住居跡（第14図、図版5・6）

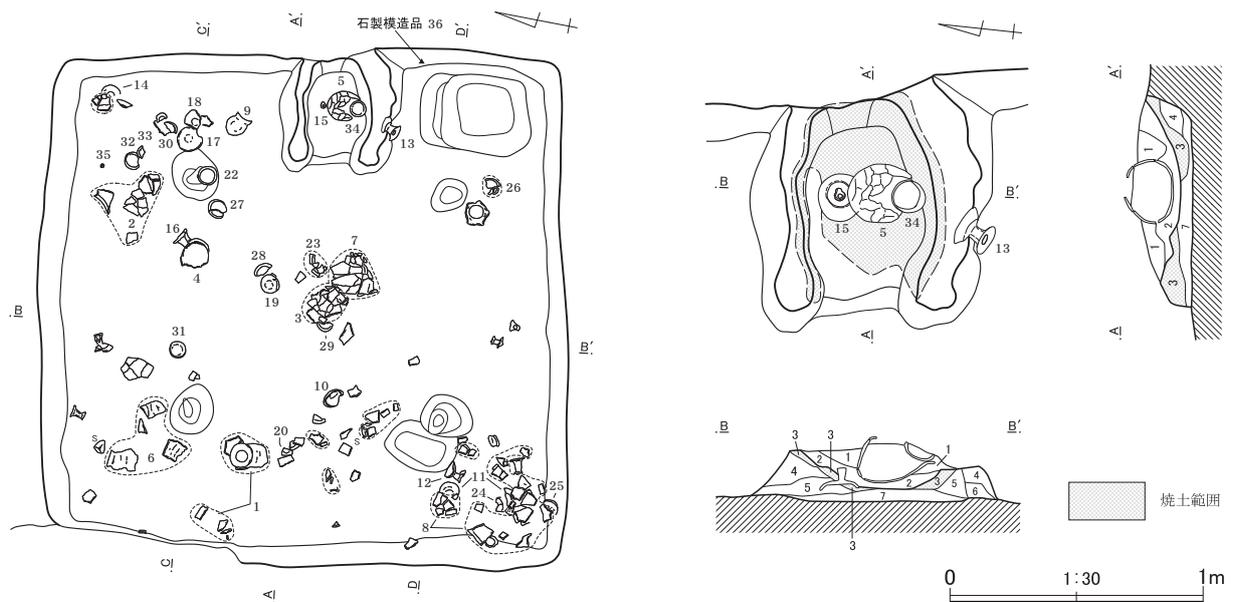
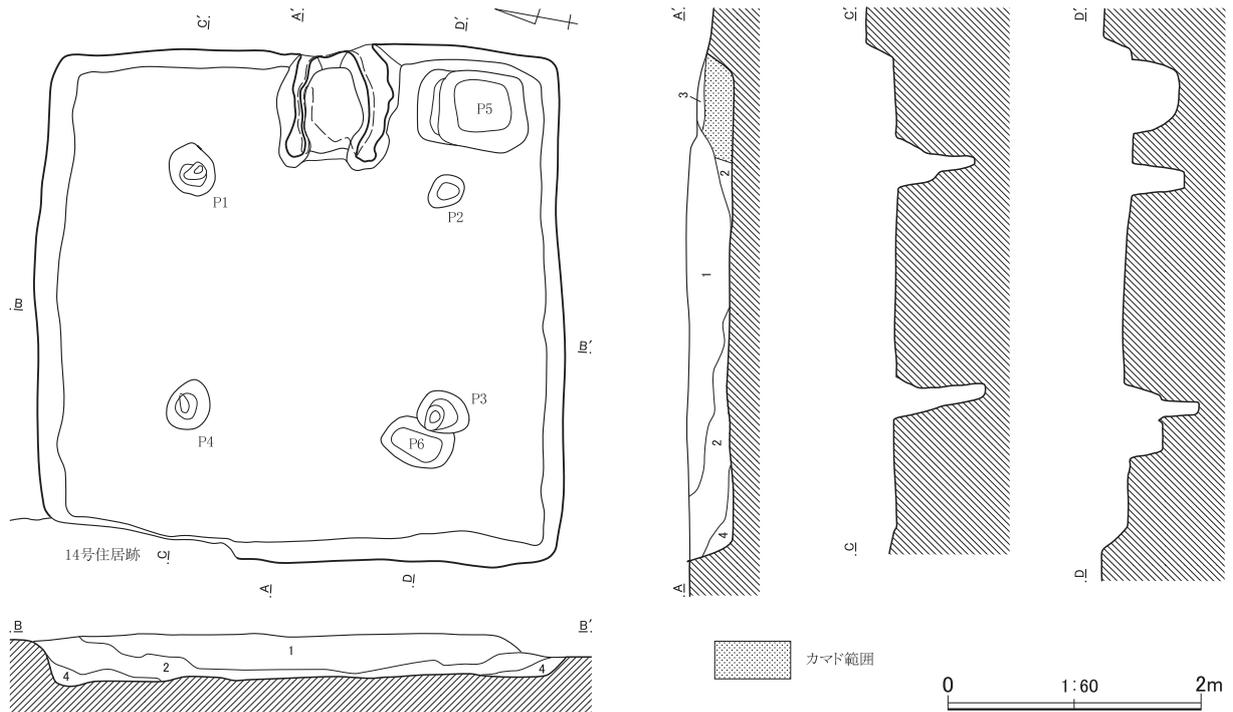
調査区東側中央付近の黒色土中に位置し、重複する第14号住居跡と第30号住居跡を切っている。平面形は、比較的整った方形を呈し、規模は東西方向4.11m・南北方向4.18mを測る。主軸方向は、N—80°—Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で33cmある。各壁下には、壁溝は見られない。床は、ロームブロックを微量含む黒褐色土を埋め戻した貼床式で、住居の中央付近は土間状に硬く締まっているが、壁際はやや軟弱である。ピットは、住居内から6箇所検出されている。P1～P4は、支柱穴でほぼ住居の対角線上に配置されている。いずれも30cm～40cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは40cm～70cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と言われているもので、カマド右側の南東側コーナー部にある。平面形は、コーナー部の丸みが強い長方形ぎみの形態で、二段に深くなっている。規模は88cm×62cm、床面からの深さは38cmある。P6は、P3の西側で重複している。55cm×38cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは30cmある。

カマドは、住居東側壁のほぼ中央付近に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長91cm、最大幅92cmを測る。燃焼部底面(火床)は、住居の床面より10cm程度高く、燃焼部内面は非常に良く焼けて赤色化している。燃焼部内の中央やや北側寄りの位置には、高坏を伏せて再利用した転用支脚が据えられている。袖は、淡褐色粘土ブロックと淡黄褐色粘土ブロックを含む淡褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。カマド内からは、高坏を伏せた転用支脚の上に据えられていた甕が、南側に横転したような状態で出土しており、その支脚の位置からすると土器の掛け方は2個併置式であったと推測される。また、この横転した甕の口縁部付近からは坏が重なって出土しており、あるいはこの坏を蓋として利用していたのかもしれない。

出土遺物は、住居内のほぼ全域から比較的多くの土器が出土している(第15～17図)。これらの土器は、その大半が覆土中から出土しており、住居廃絶後の覆土埋没過程中に周囲から投げ込まれたものである。土器以外では、カマド南側の壁際覆土中から、完形の剣形石製模造品(第17図No36)が1点出土している。

第13号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A. 口縁部径19.3、残存高15.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面篋ナデ。D. 白色粒。E. 外—にぶい橙色、内—にぶい赤褐色。F. 口縁～胴部上半2/3。G. 外面は荒れている。H. 覆土中。
2	甕	A. 口縁部径(20.8)、残存高26.6。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ケズリの後篋ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外—灰褐色、内—にぶい橙色。F. 口縁～胴部1/4。G. 外面は荒れている。H. 覆土中。
3	甕	A. 口縁部径18.9、器高30.7、底部径8.2。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後篋ナデ、内面上半篋ナデ、下半ケズリの後篋ナデ。底部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外—黒褐色、内—にぶい黄褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部下半は熱を受ける。H. 床面付近。
4	甕	A. 口縁部径19.2、残存高17.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外—にぶい橙色。F. 口縁～胴部上半2/3。G. 外面は荒れている。H. 覆土中。
5	甕	A. 口縁部径(19.5)、器高29.6、底部径7.0。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面篋ナデ、内面上～中位篋ナデ、下位ケズリ。底部外面ナデ、内面ケズリ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外—にぶい褐色、内—にぶい黄褐色。F. 3/4。H. カマド内。



第13号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（白色粒子を均一に、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（白色粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（焼土粒子・焼土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：黒褐色土層（白色粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第13号住居跡カマド土層説明

第1層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：淡黄褐色土層（淡黄褐色粘土ブロックを主体とする。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗赤褐色土層（焼土粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

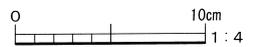
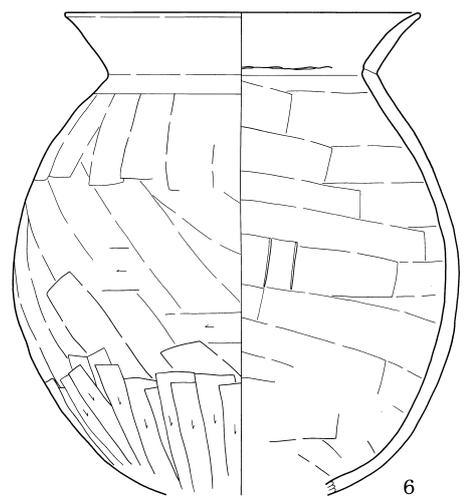
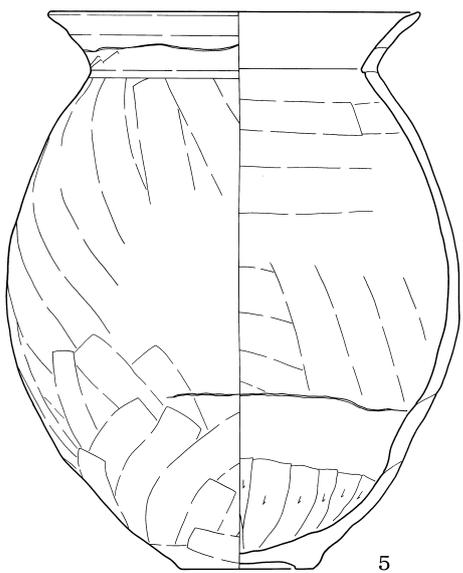
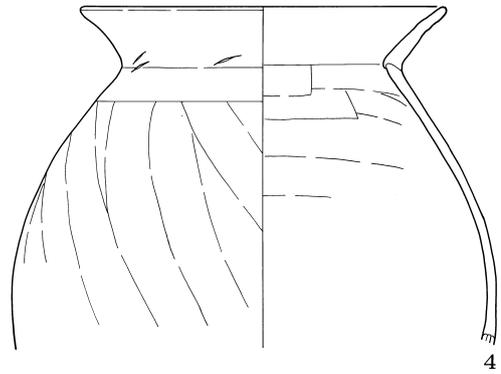
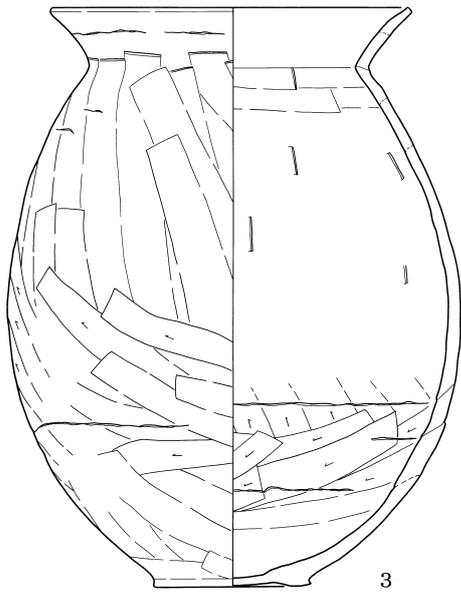
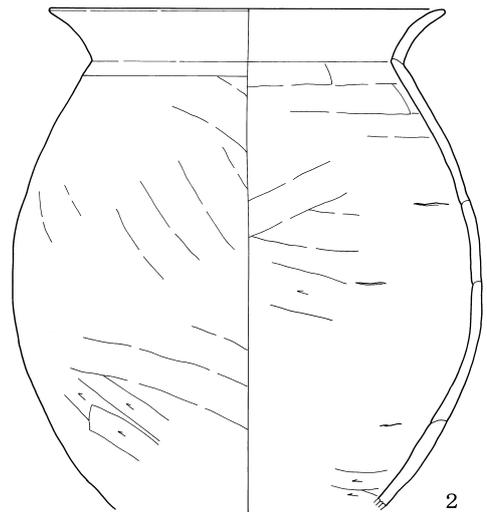
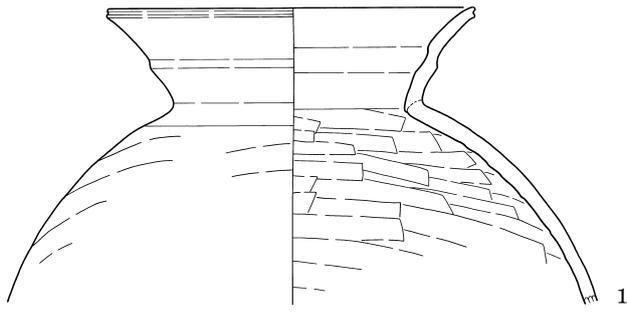
第4層：暗赤褐色土層（焼土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：淡褐色土層（淡褐色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

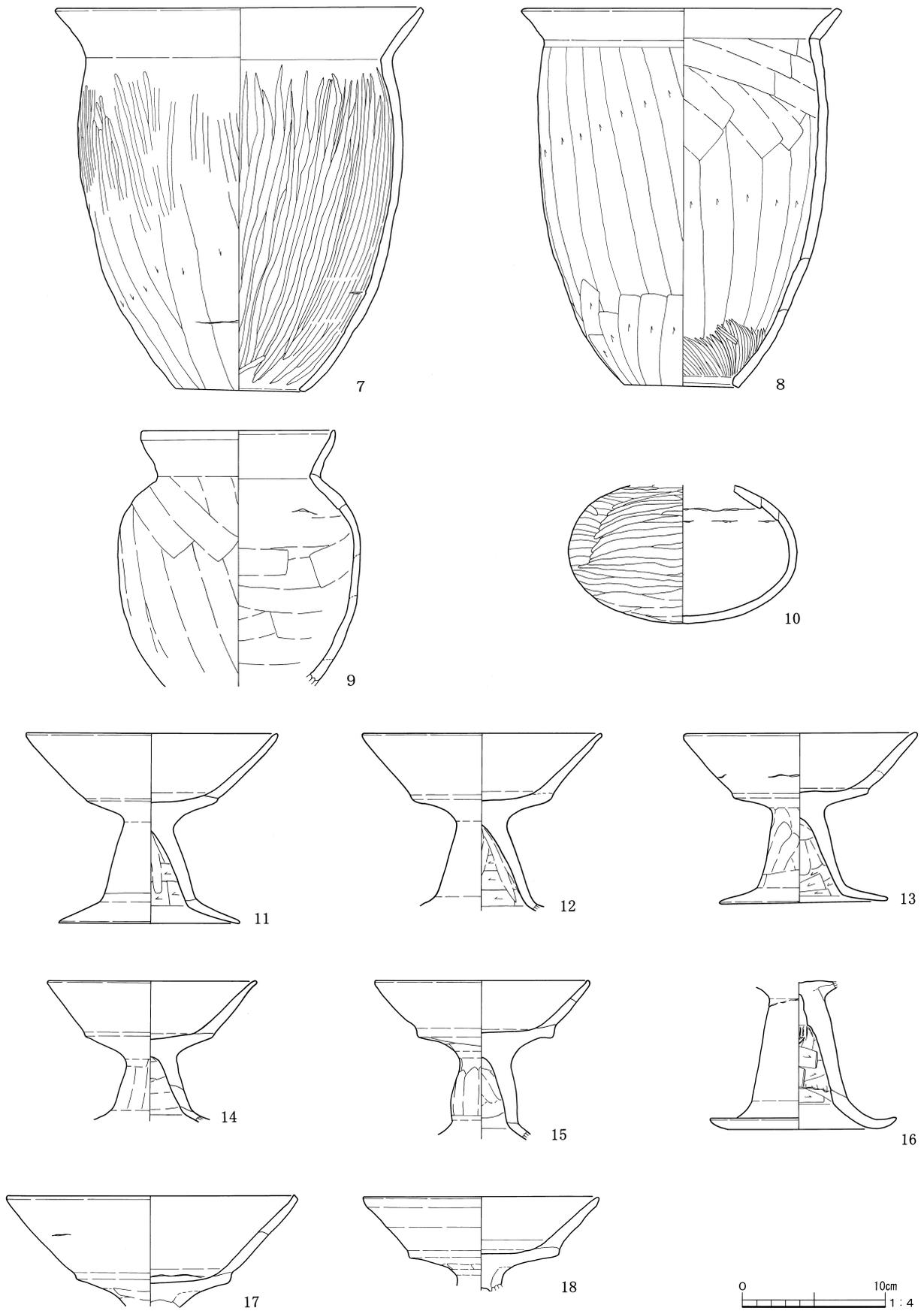
第6層：黒褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第7層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

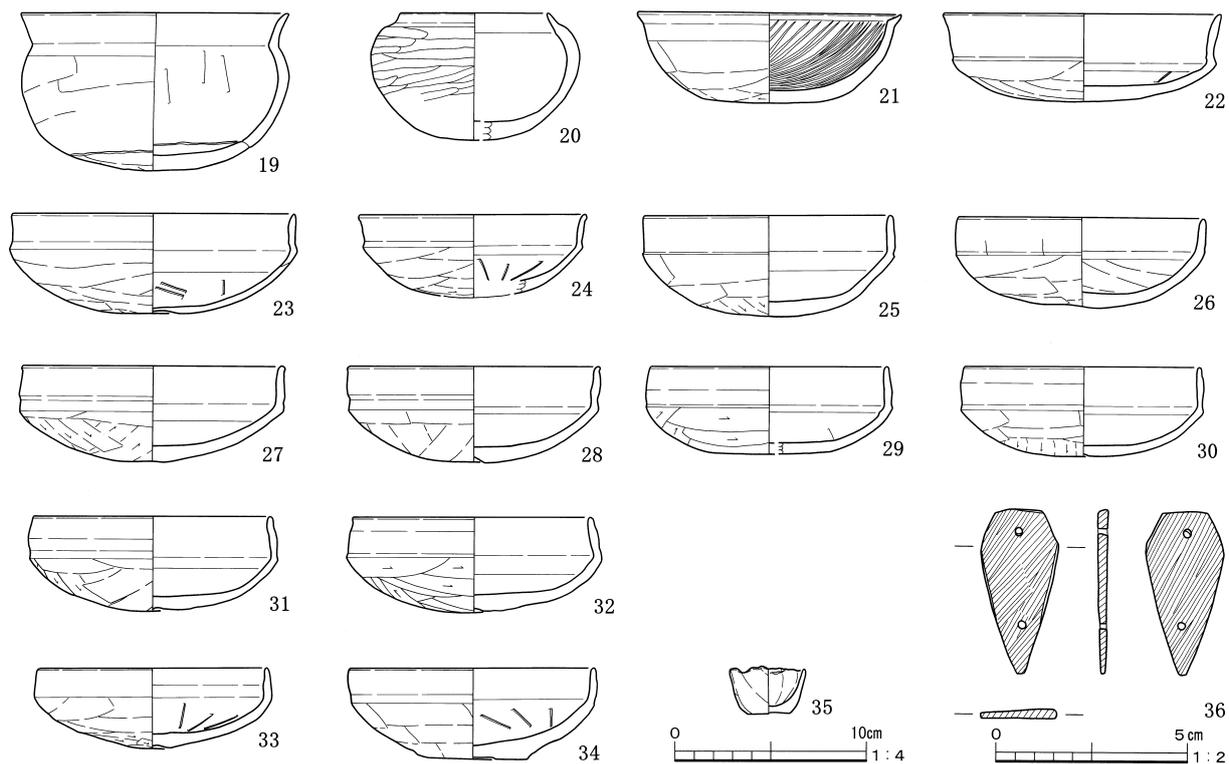
第 14 図 第 13 号住居跡



第15图 第13号住居跡出土遺物(1)



第 16 图 第 13 号住居跡出土遺物 (2)



第17図 第13号住居跡出土遺物(3)

6	甕	A. 口縁部径18.6、残存高25.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上～中位ケズリの後篋ナデ、下位ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 外-灰褐色、内-にぶい黄橙色。F. 底部欠損。H. 覆土中。
7	大形甑	A. 口縁部径25.8、器高27.0、底部径9.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面篋ナデの後ミガキ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部一部欠損。G. 外面は荒れている。H. 床面付近。
8	大形甑	A. 口縁部径(22.4)、器高26.8、底部径8.0。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ケズリの後上位篋ナデ・下端ミガキ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
9	小形甕	A. 口縁部径(13.6)、残存高18.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面上端ヨコナデ・中～下位ナデ、内面ヨコナデ。胴部内外面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外-灰褐色。F. 口縁～胴部1/3。G. 外面は荒れている。H. 覆土中。
10	直口壺	A. 残存高9.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面篋ナデ後ミガキ、内面篋ナデ。底部内外面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外-赤褐色。F. 口縁部欠損。H. 覆土中。
11	高坏	A. 口縁部径(17.5)、器高13.4、底部径12.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁～坏部内外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ後ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 2/3。G. 坏部内外面は荒れ、器面剥離。H. 床面付近。
12	高坏	A. 口縁部径16.8、残存高12.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ後ナデ。D. 白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部1/4・脚端部欠損。G. 口縁～坏部内外面は荒れ、器面剥離。H. 床面付近。
13	高坏	A. 口縁部径16.4、器高12.0、底部径11.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ、内面篋ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ後ナデ、脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外-赤褐色。F. 口縁・裾部一部欠損。H. 床面直上。
14	高坏	A. 口縁部径14.6、残存高9.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面篋ナデ。脚柱部内外面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外-橙色。F. 脚端部欠損。G. 内外面は荒れている。H. 覆土中。
15	高坏	A. 口縁部径15.1、残存高11.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。脚柱部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 外-にぶい褐色、内-明褐色。F. 脚端部欠損。G. 外面・内面坏部に赤化した粘土附着。H. カマド内支脚。

16	高 坏	A. 底部径(13.1)、残存高10.4。B. 粘土紐巻き上げ。C. 脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい褐色、内-赤褐色。F. 脚部2/3。H. 覆土中。
17	高 坏	A. 口縁部径20.4、残存高7.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-橙色、内-明赤褐色。F. 坏部のみ。G. 内面は荒れている。H. 覆土中。
18	高 坏	A. 口縁部径(16.6)、残存高6.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 坏部3/4。H. 覆土中。
19	鉢	A. 口縁部径13.9、器高8.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙色。F. 口縁部一部欠損。G. 外面・内面口縁部は荒れている。H. 覆土中。
20	坏	A. 口縁部径(8.0)、器高(6.7)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面篋ナデの後上位ミガキ、内面篋ナデ。底部内外面篋ナデ。D. 白色粒。E. 外-明赤褐色、内-にぶい赤褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
21	坏	A. 口縁部径(14.0)、器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部外面ケズリの後ナデ、内面ナデの後放射状傾斜暗文。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-橙色。F. 1/4。H. 覆土中。
22	坏	A. 口縁部径14.7、器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部内外面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 完形。H. 覆土中。
23	坏	A. 口縁部径(14.8)、器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 1/3。H. 床面付近。
24	坏	A. 口縁部径12.0、器高(4.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部外面ケズリの後強いナデツケ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
25	坏	A. 口縁部径13.2、器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-褐色、内-赤褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
26	坏	A. 口縁部径12.9、器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部内外面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 一部欠損。G. 外面は荒れている。H. 覆土中。
27	坏	A. 口縁部径13.7、器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 口縁部~体部一部欠損。G. 外面は荒れている。H. 覆土中。
28	坏	A. 口縁部径(13.3)、器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部内外面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 2/3。G. 外面は荒れている。H. 覆土中。
29	坏	A. 口縁部径(12.6)、器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリの後強いナデツケ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 外-橙色、内-明赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
30	坏	A. 口縁部径(12.6)、器高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 1/2。G. 外面は荒れている。H. 覆土中。
31	坏	A. 口縁部径12.6、器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
32	坏	A. 口縁部径12.7、器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 4/5。H. 覆土中。
33	坏	A. 口縁部径12.2、器高4.2、底部径(1.5)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部外面ケズリ後ナデ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 外-にぶい赤褐色、内-明赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
34	坏	A. 口縁部径12.8、器高4.8、底部径5.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-にぶい褐色。F. 口縁部一部欠損。H. カマド内。
35	ミニチュア	A. 口縁部径4.0、器高2.5、底部径2.1。B. 手捏ね。C. 内外面ナデ。D. 白色粒。E. 外-赤褐色、内-明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
36	石製模造品 (剣形)	A. 全長4.5、最大幅2.0、厚さ0.3、重量3.48g。C. 表裏面とも丁寧な研磨。D. 蛇紋岩。F. 完形。G. 穿孔2カ所。H. 覆土中。

第14号住居跡（第18図、図版7・8）

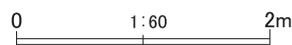
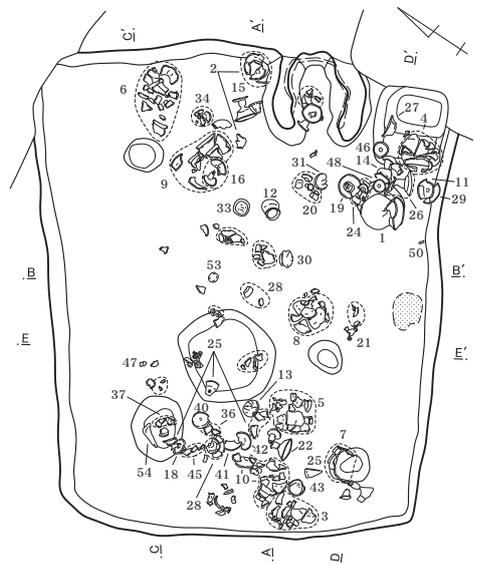
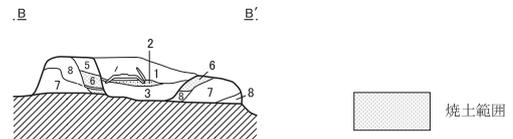
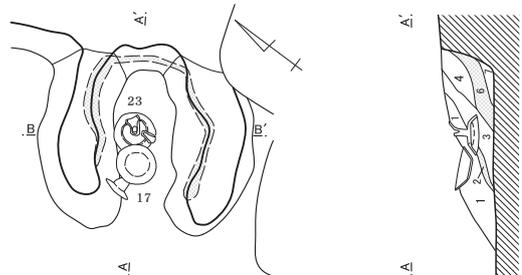
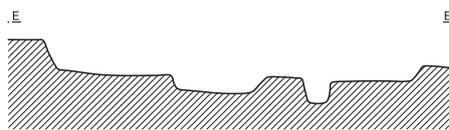
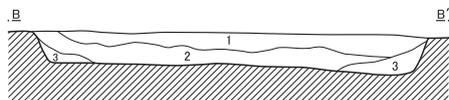
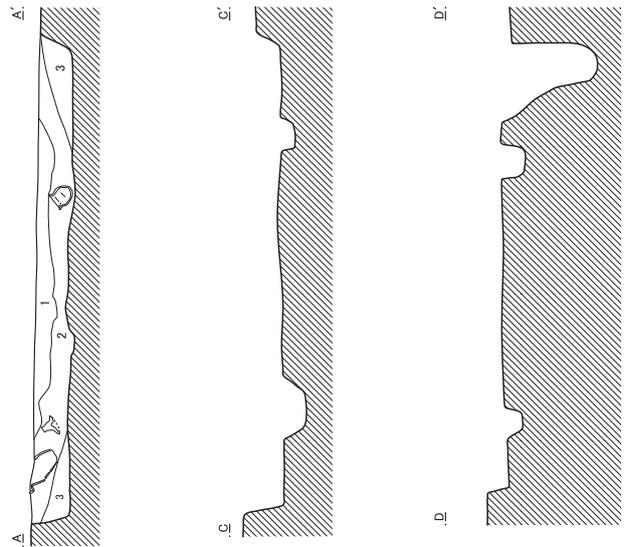
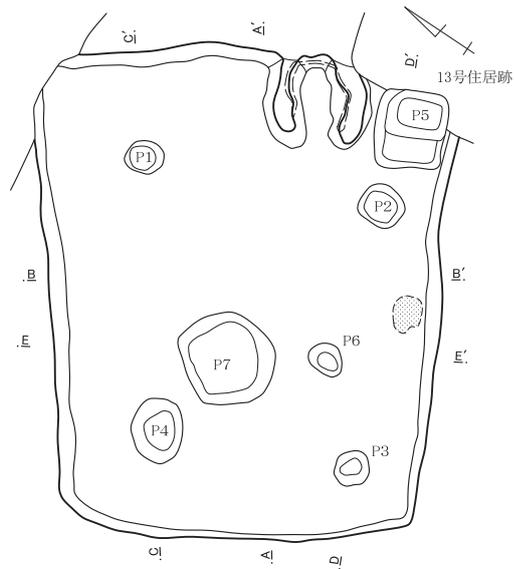
調査区東側中央付近の黒色土中に位置し、重複する第30号住居跡を切り、第14号住居跡と第3号溝跡に切られている。平面形は、長方形ぎみの形態を呈し、規模は北東～南西方向3.95m・北西～南東方向3.37mを測る。主軸方向は、N—56°—Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で34cmある。各壁下には、壁溝は見られない。床は、ロームブロックを微量含む黒褐色土を埋め戻した貼床式であるが、全体的にやや軟弱である。ピットは、住居内から7箇所検出されている。P1～P4は、その位置から支柱穴の可能性が高いと考えられるもので、住居の対角線上に近い位置に配置されている。いずれも30cm～50cmの楕円形ぎみの形態が多く、床面からの深さは13cm～20cm程度である。P5は、いわゆる貯蔵穴と言われているもので、カマド右側の東側コーナー部にある。平面形は、整った長方形を呈し、北東側に向かって二段に深くなっている。規模は63cm×56cmで、床面からの深さは78cmある。P6は、29cm×23cmの楕円形を呈し、床面からの深さは18cmある。P7は、74cm×72cmの不整形ぎみの形態を呈する土壌状のもので、床面からの深さは14cmある。

カマドは、住居北東側壁の中央からやや南側寄り位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長73cm、最大幅86cmを測る。燃焼部底面(火床)は、住居床面とほぼ同じ高さで、燃焼部内面は良く焼けて赤色化している。燃焼部内の中央付近には、高坏を伏せて再利用した転用支脚が据えられている。袖は、淡褐色粘土ブロックを含む淡茶褐色粘質土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、カマド周辺から住居の中央付近を中心に、比較的多くの土器が出土している(第19～22図)。このうち本住居跡に伴うと考えられるのは、カマド内の土器とカマド周辺から貯蔵穴周辺にかけての床面上から出土した土器群である。住居の中央付近の土器群は、ほとんどが覆土中から出土しており、住居廃絶後の覆土埋没過程で周辺から投げ込まれたものであろう。土器以外では、棒状の土製品や粘土塊(第22図No50～52)の他、住居南東側壁際の床面上に本住居のカマド構築材と同じ淡褐色粘土の塊が見られ、住居中央西側寄りの覆土中から比較的大きな台石状の磨石(第22図No54)が出土している。

第14号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径25.0、器高39.0、底部径7.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後部分的な篋ナデ・下端ナデ、内面篋ナデ。底部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい黄橙色、内-にぶい橙色。F. 口縁部1/3欠損。G. 外面胴部下位に煤帯状付着。H. 床面直上。
2	甕	A. 底部径7.1、残存高30.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部～底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 外-にぶい黄橙色、内-褐色。F. 口縁部・胴部～底部1/3欠損。H. 床面付近。
3	甕	A. 口縁部径20.1、器高26.7、底部径7.4。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外-灰黄褐色、内-灰黄色。F. 2/3。H. 覆土中。
4	甕	A. 口縁部径17.0、器高28.3、底部径6.5。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半篋ナデ・下半ケズリ、内面篋ナデ。底部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 外-灰黄褐色、内-黒褐色。F. 一部欠損。G. 外面胴部上半は荒れている。H. 貯蔵穴P5上。
5	甕	A. 口縁部径(24.0)、残存高24.9。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半篋ナデ・下位ケズリ、内面篋ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-灰黄褐色。F. 口縁～胴部1/3。H. 覆土中。
6	甕	A. 口縁部径20.8、器高24.8、底部径8.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面木口状工具によるナデ。胴部外面木口状工具によるナデ・下位～底部ナデ、内面上半篋ナデ、下半～底部木口状工具によるナデ。D. 白色粒。E. 内外-灰黄褐色。F. 4/5。H. 床面直上。



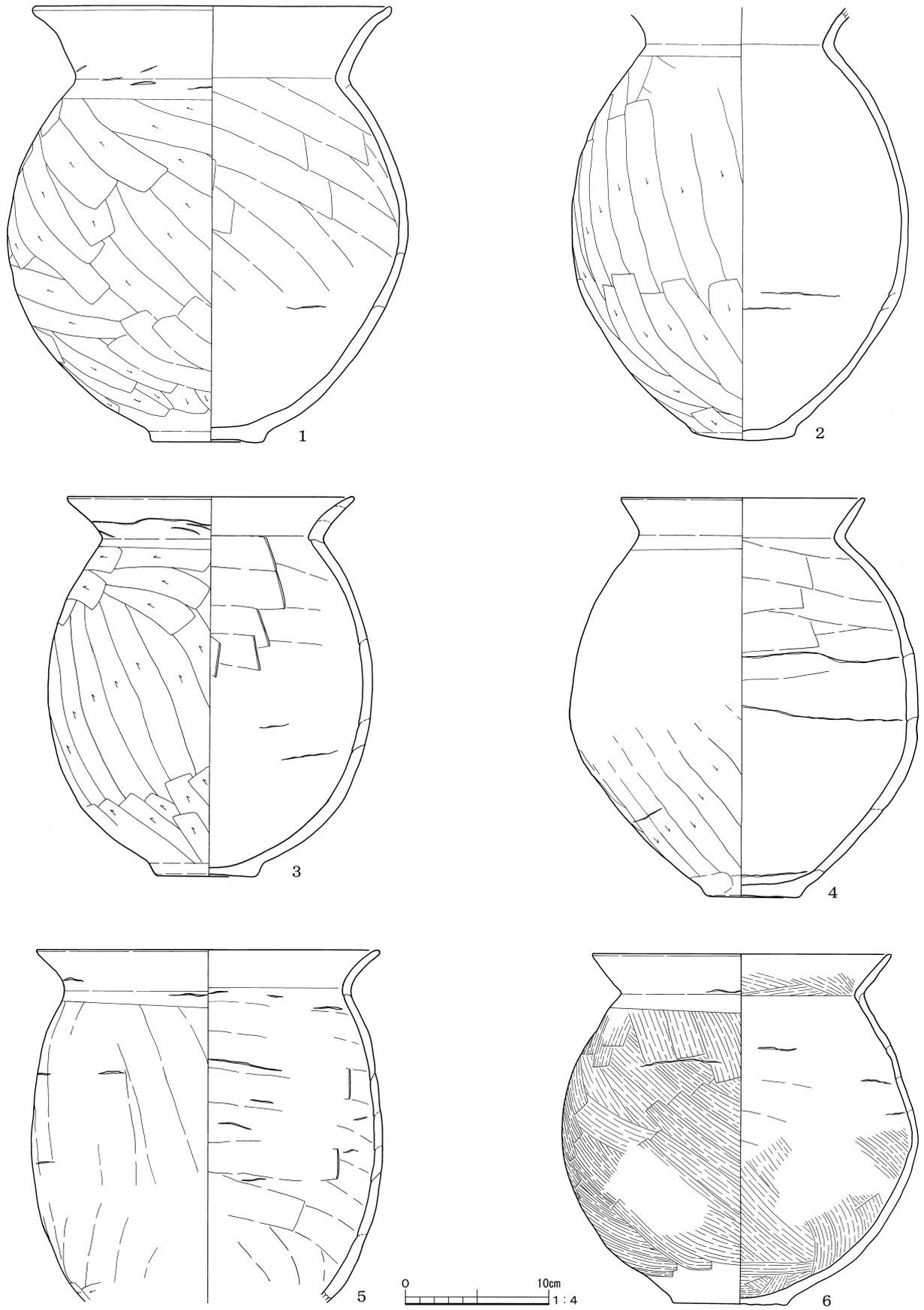
第14号住居跡カマド土層説明

- 第1層: 黒褐色土層 (焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗赤褐色土層 (焼土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 黒褐色土層 (淡黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗褐色土層 (淡黄褐色粘土ブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層: 淡黄褐色土層 (淡褐色粘土ブロックを主体とする。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層: 暗赤褐色土層 (焼土層。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第7層: 淡茶褐色土層 (淡褐色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第8層: 黒褐色土層 (淡褐色粘土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

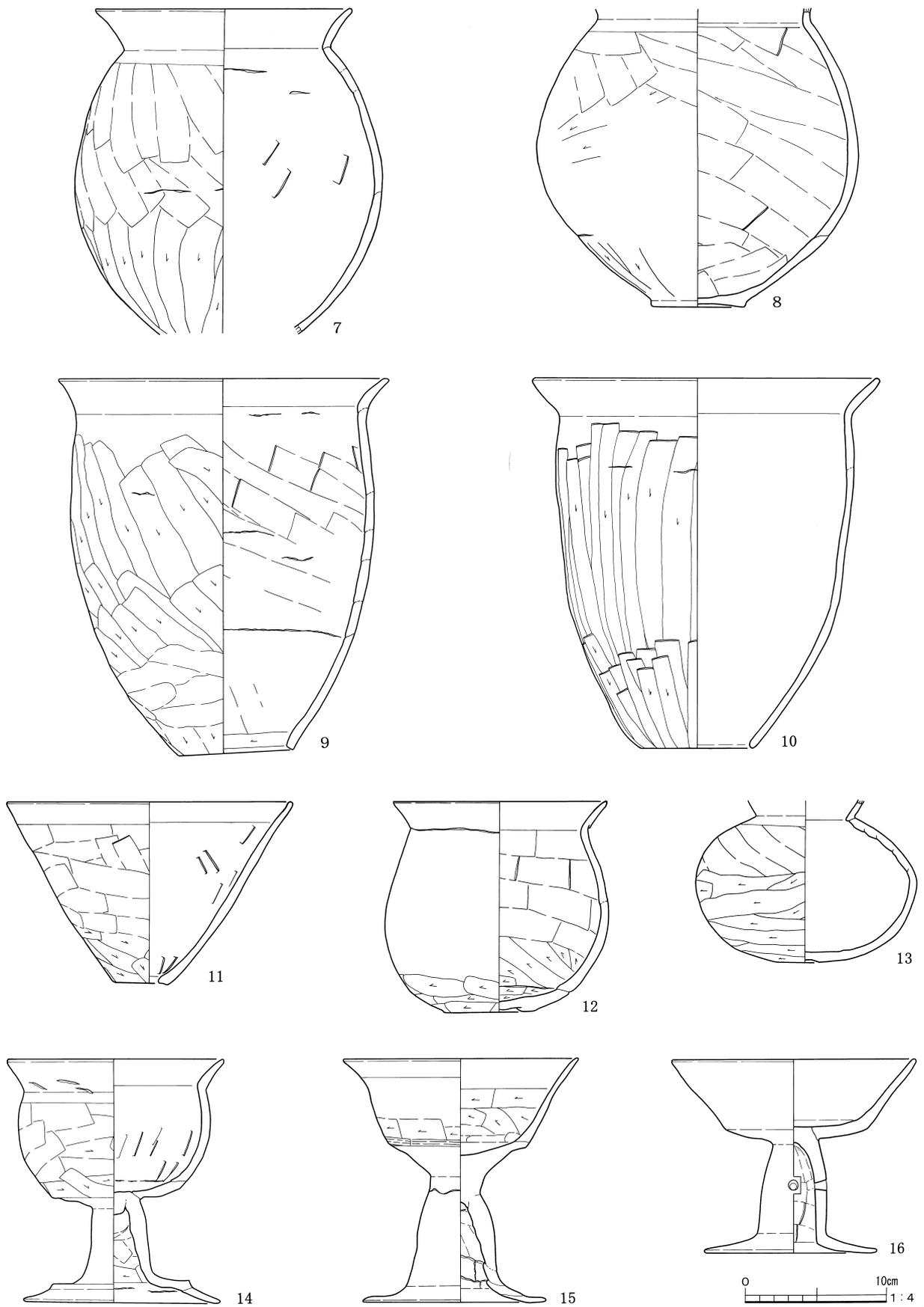
第14号住居跡土層説明

- 第1層: 黒褐色土層 (白色粒子・ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 黒褐色土層 (ローム粒子・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗褐色土層 (ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

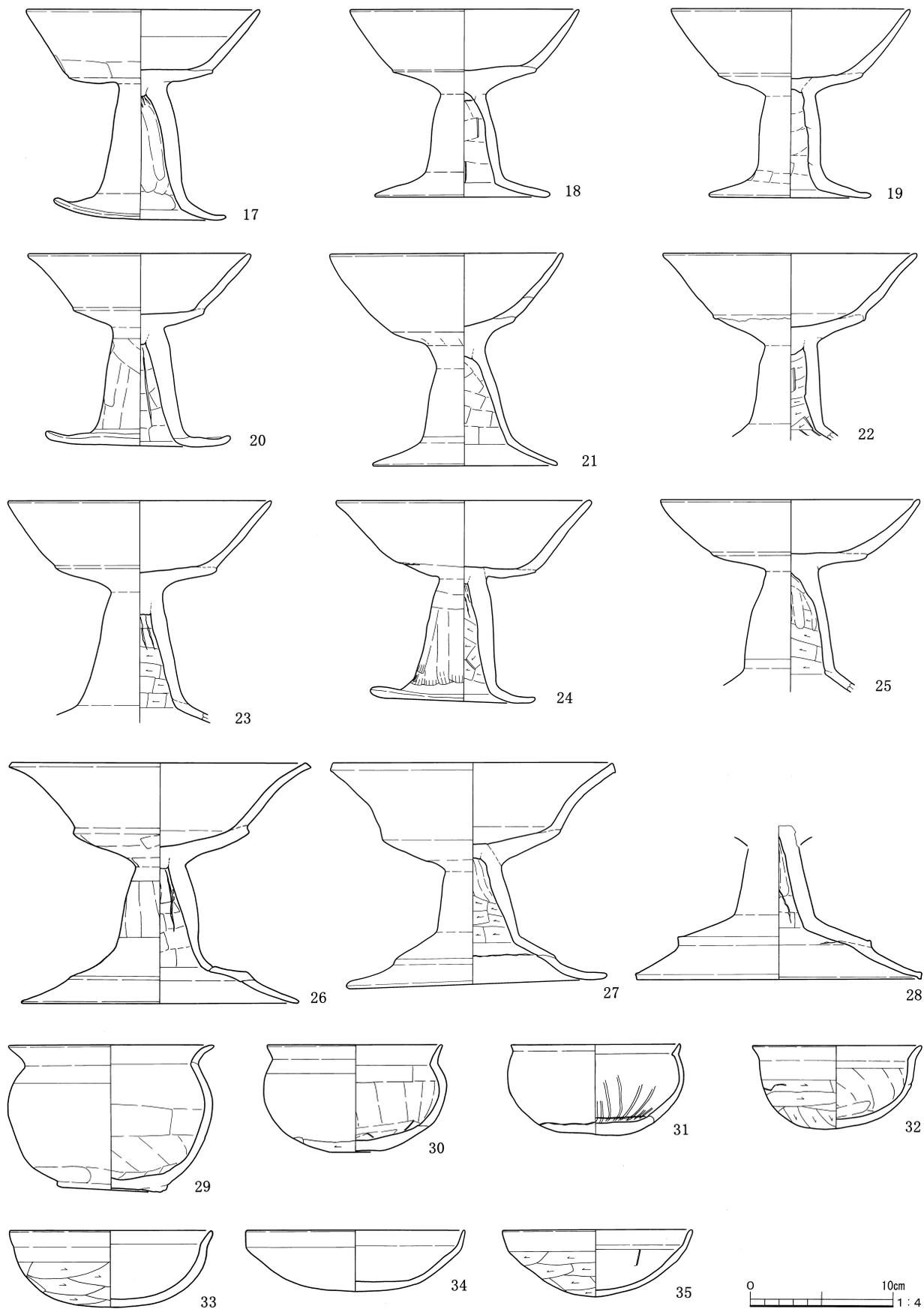
第 18 図 第 14 号住居跡



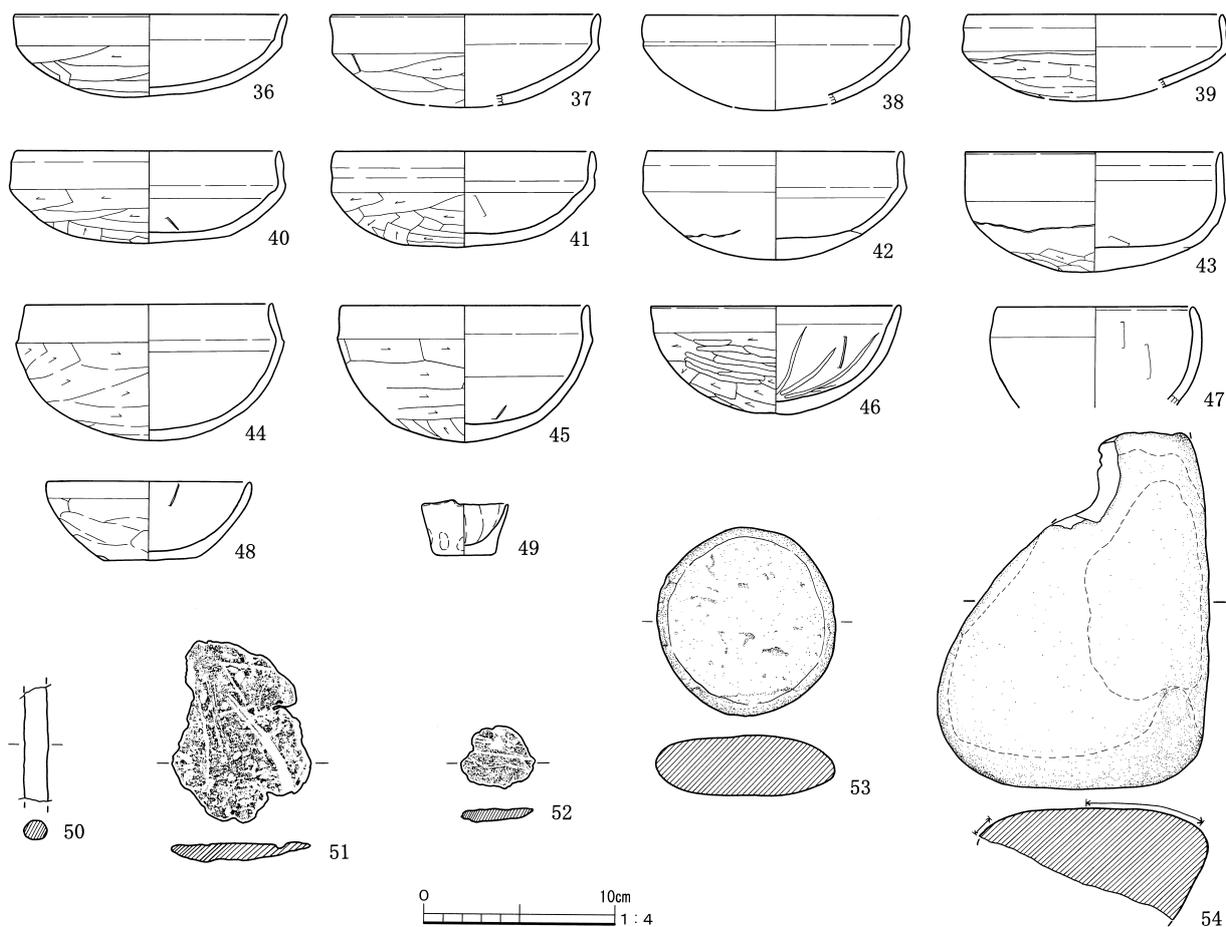
第 19 图 第 14 号住居跡出土遺物 (1)



第 20 图 第 14 号住居跡出土遺物 (2)



第 21 图 第 14 号住居跡出土遺物 (3)



第22図 第14号住居跡出土遺物(4)

7	甕	A. 口縁部径18.0、残存高23.0。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半箇ナデ、内面箇ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-橙色、内-赤褐色。F. 口縁部~胴部2/3。H. 覆土中。
8	甕	A. 底部径6.7、残存高21.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリの後上位箇ナデ、内面箇ナデ。底部外面ケズリ、内面箇ナデ。D. 白色粒。E. 外-黒褐色、内-にぶい赤褐色。F. 口縁部欠損。G. 外面は器表面剥離。H. 覆土中。
9	大形甕	A. 口縁部径23.1、器高26.7、底部径8.0。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後下位ナデ、内面箇ナデ・下端ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面付近。
10	大形甕	A. 口縁部径(24.3)、器高26.2、底部径7.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面箇ナデ。D. 白色粒。E. 外-にぶい褐色、内-にぶい赤褐色。F. 4/5。G. 内面は荒れている。H. 覆土中。
11	小形甕	A. 口縁部径20.0、器高12.9、底部径3.8、孔径1.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上~中位箇ナデ、内面箇ナデ。底部外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-赤褐色。F. 5/6。H. 床面付近。
12	小形甕	A. 口縁部径15.0、器高24.9、底部径6.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ・下端ケズリ、内面ケズリ後に上~中位箇ナデ。底部外面ナデ、内面箇ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外-にぶい赤褐色、内-にぶい黄褐色。F. 口縁部1/4欠損。G. 外面胴部上半は荒れている。H. 床面直上。
13	直口壺	A. 残存高11.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面上半箇ナデ、下半ケズリ、内面箇ナデ。底部外面ケズリ、内面箇ナデ。D. 白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部欠損。H. 覆土中。
14	有段脚付鉢	A. 口縁部径15.1、器高17.2、底部径13.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後箇ナデ、内面箇ナデ。台部外面ナデ、内面ケズリの後ナデ。台端部ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外-赤褐色。F. 完形。G. 内外面に黒斑あり。H. 床面直上。

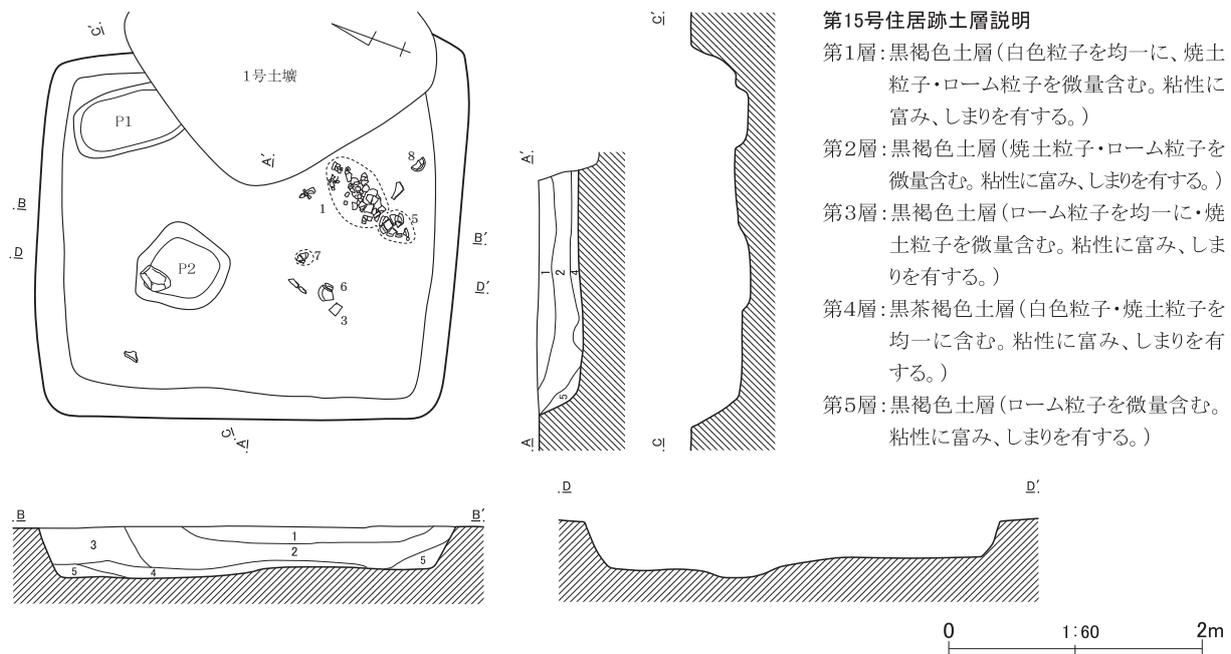
15	高 坏	A. 口縁部径16.6、器高17.2、底部径12.9。B. 脚部粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ケズリの後ナデ。坏部～脚柱部内外面ナデ。脚端部ヨコナデ。D. 石英、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 脚端部一部欠損。G. 脚柱部外面は荒れている。H. 床面直上。
16	高 坏	A. 口縁部径17.1、器高13.7、底部径12.1、孔径0.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部～脚柱部外面ナデ、内面篋ナデ。脚端部ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外一赤褐色。F. 口縁部一部欠損。G. 脚柱部中に穿孔1ヵ所あり。外面は荒れている。H. 覆土中。
17	高 坏	A. 口縁部径16.3、器高14.8、底部径12.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面篋ナデ。脚部内外面ナデ。脚端部ヨコナデ。D. 片岩粒、黒色粒。E. 外一赤褐色、内一橙色。F. 脚端部一部欠損。G. 外面・脚柱部内面に黒斑。脚柱部外面は荒れている。H. カマド内。
18	高 坏	A. 口縁部径(16.1)、器高13.2、底部径12.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部～脚柱部外面ナデ、内面篋ナデ。脚端部ヨコナデ。D. 白色粒。E. 外一明赤褐色、内一にぶい赤褐色。F. 坏部1/2欠損。G. 外面坏部～脚柱部・内面坏部は荒れている。H. 覆土中。
19	高 坏	A. 口縁部径16.9、器高13.3、底部径11.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部～脚柱部外面ナデ、内面篋ナデ。脚端部ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい黄橙色、内一にぶい褐色。F. 脚端部一部欠損。G. 脚柱部外面・坏部内面に黒斑あり。H. 床面直上。
20	高 坏	A. 口縁部径15.6、器高13.6、底部径12.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部～脚柱部内外面ナデ。脚端部ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁・脚端部一部欠損。G. 脚柱部外面・坏部内面に黒斑あり。H. 床面直上。
21	高 坏	A. 口縁部径(16.3)、器高14.9、底部径(13.0)。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面篋ナデ。脚端部ヨコナデ。D. 白色粒。E. 外一にぶい褐色、内一にぶい赤褐色。F. 1/2。G. 外面・坏部内面は荒れている。H. 覆土中。
22	高 坏	A. 口縁部径17.7、残存高13.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ、内面篋ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 脚端部欠損。G. 内面坏底部は器表面剥離。H. 覆土中。
23	高 坏	A. 口縁部径18.4、残存高15.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ、内面篋ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。D. 白色粒。E. 外一明赤褐色、内一橙色。F. 脚端部欠損。G. 内外面ともに強い熱を受ける。外面に赤化した粘土粒付着、器表面剥離。H. カマド内支脚。
24	高 坏	A. 口縁部径18.0、器高14.2、底部径11.6。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面篋ナデ。脚柱部外面篋ナデ、内面ケズリの後下位ナデ。脚端部ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面・坏部内面に黒斑あり。H. 床面直上。
25	高 坏	A. 口縁部径18.1、残存高13.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ、内面篋ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリの後ナデ。D. 白色粒。E. 外一明赤褐色、内一明褐色。F. 脚端部欠損。G. 外面は荒れている。H. 覆土中。
26	有段高坏	A. 口縁部径21.1、器高16.9、底部径19.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面篋ナデ。脚柱部外面篋ナデの後上・下位ヨコナデ、内面篋ナデ。脚端部ヨコナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外一明赤褐色、内一にぶい黄褐色。F. ほぼ完形。G. 外面・坏部内面に黒斑あり。H. 床面直上。
27	有段高坏	A. 口縁部径20.2、器高15.9、底部径18.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ヨコナデ、内面篋ナデ。脚柱部外面ナデ、内面上半ナデ、下半ケズリ。脚端部ヨコナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外一にぶい赤褐色、内一にぶい褐色。F. 脚端部一部欠損。G. 内外面に黒斑あり。H. 貯蔵穴P5内。
28	有段高坏	A. 底部径20.0、残存高10.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部内外面ナデ。脚端部ヨコナデ。D. 白色粒。E. 外一褐色、内一にぶい赤褐色。F. 脚端部4/5。G. 外面は荒れている。H. 覆土中。
29	鉢	A. 口縁部径14.3、器高10.3、底部径7.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外一にぶい黄褐色。F. ほぼ完形。G. 外面に煤付着。H. 床面直上。
30	坏	A. 口縁部径12.3、器高7.5、底部径3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 石英、白色粒。E. 内外一にぶい黄褐色。F. ほぼ完形。H. 床面付近。
31	坏	A. 口縁部径11.8、器高6.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデの後暗文。D. 白色粒。E. 外一黒褐色、内一にぶい褐色。F. 口縁部一部欠損。G. 内面は荒れている。H. 床面付近。
32	坏	A. 口縁部径11.8、器高5.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外一明赤褐色、内一赤褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。

33	坏	A. 口縁部径14.2、器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい褐色、内一赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面は荒れている。H. 覆土中。
34	坏	A. 口縁部径15.3、器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁部一部欠損。H. 床面直上。
35	坏	A. 口縁部径13.3、器高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部ヨコナデ。体部～底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。H. 貯蔵穴P5内。
36	坏	A. 口縁部径14.2、器高(4.9)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4欠損。H. 覆土中。
37	坏	A. 口縁部径14.2、器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外一赤褐色。F. 口縁部1/5欠損。H. 覆土中。
38	坏	A. 口縁部径13.8、器高(5.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい褐色、内一赤褐色。F. 1/2。G. 外面は荒れている。H. 覆土中。
39	坏	A. 口縁部径(13.4)、器高(4.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ケズリの後に強いナデ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
40	坏	A. 口縁部径14.0、器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外一赤褐色。F. 口縁部一部欠損。H. 覆土中。
41	坏	A. 口縁部径13.6、器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
42	坏	A. 口縁部径13.5、器高5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ケズリの後丁寧なナデ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外一赤褐色。F. 完形。G. 底部は荒れている。H. 覆土中。
43	坏	A. 口縁部径13.5、器高6.3。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ケズリの後上～中位ナデ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 外一赤褐色、内一にぶい褐色。F. 完形。H. 覆土中。
44	坏	A. 口縁部径(13.0)、器高7.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい褐色、内一にぶい赤褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
45	坏	A. 口縁部径13.0、器高7.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
46	坏	A. 口縁部径13.2、器高5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ケズリの後に一部ミガキ、内面篋ナデ後に暗文。D. 白色粒。E. 内外一赤褐色。F. 完形。H. 床面直上。
47	塊	A. 口縁部径10.3、残存高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一赤褐色。F. 口縁～体部1/2。H. 覆土中。
48	坏	A. 口縁部径10.7、器高4.2、底径4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。H. 床面直上。
49	ミニチュア	A. 口縁部径(4.6)、器高2.9、底部径3.2。B. 手捏ね。C. 内外面指ナデ。D. 白色粒。E. 内外一黒褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
50	土製品	A. 残長6.0、幅1.2、厚さ1.0、残重11.06g。C. ナデ。D. 白色粒。E. 灰黄褐色。F. 両端部欠損。H. 床面直上。
51	粘土塊	A. 最大長9.6、最大幅7.4、最大厚1.0、重量54.71g。C. 指ナデ。D. 白色粒。E. 灰黄褐色。F. 完形。H. 覆土中。
52	粘土塊	A. 最大長3.3、最大幅3.9、最大厚0.6、重量7.13g。C. 指ナデ。D. 白色粒。E. 黒褐色。F. 完形。H. 覆土中。
53	磨石	A. 全長10.0、幅9.4、厚さ3.2、重量361.60g。D. 輝石安山岩。F. 完形。G. 表裏面は全体的に擦られている。H. 覆土中。
54	磨石	A. 残長19.0、最大幅14.2、残厚7.8、残重2037.31g。D. 輝石安山岩。F. 1/2。G. 表面は非常に良く擦られており平滑。H. 覆土中。

第15号住居跡（第23図、図版9）

調査区東側中央付近の黒色土中に位置し、重複する第1号土壌に切られている。平面形は、比較的整った方形を呈し、規模は北東～南西方向3.06m・北西～南東方向3.34mを測る。主軸方向は、おそらくN-72°-Eを向くと思われる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高41cmある。各壁下には、壁溝は見られない。床は、ロームブロックを微量含む黒褐色土を埋め戻した貼床式で、住居の中央付近は土間状に硬く締まっているが、壁際はやや軟弱である。ピットは、住居内から2箇所検出されているが、いずれも比較的規模の大きくて浅い土壌状を呈するものである。カマドは、残存する部分には見られないが、おそらく第1号土壌と重複する住居の北東側壁に付設されていたものと推測される。

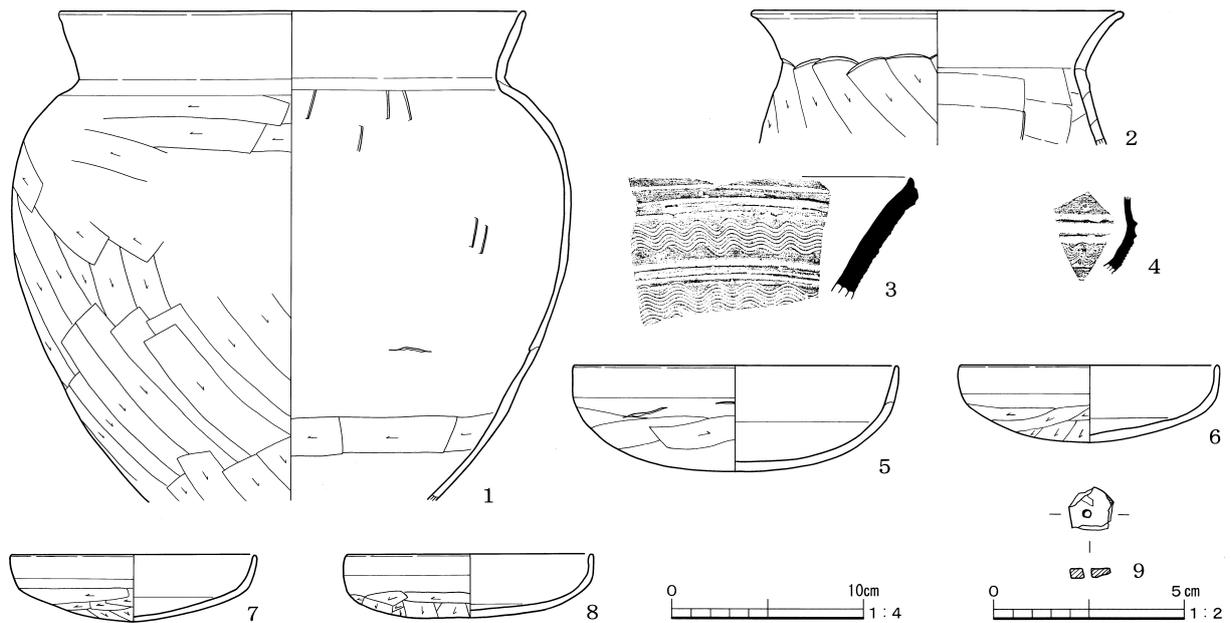
出土遺物は、住居の床面付近や覆土中から土師器や須恵器の破片が出土している。土器以外では、古墳時代に属する石製模造品(有孔円盤)の破片(第24図No.9)が覆土中に混入して1片出土し、住居中央部西側寄りの床面付近より比較的大きな自然石が1個出土している。



第23図 第15号住居跡

第15号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(24.4)、残存高25.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデの後下半ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁～胴部片。H. 床面直上。
2	甕	A. 口縁部径19.6、残存高7.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 3/4。G. 器表面は荒れている。H. 覆土中。
3	須恵器甕	B. ロクロ成形。C. 口縁部回転ナデの後外面櫛描波状文。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 口縁部片。G. 還元焰焼成。H. 床面直上。
4	須恵器高坏	B. ロクロ成形。C. 坏部内外面回転ナデの後外面櫛描波状文。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 還元焰焼成。内面自然釉。H. 覆土中。
5	坏	A. 口縁部径17.1、器高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外一にぶい黄褐色、内一黒褐色。F. 5/6。G. 器表面は荒れている。H. 床面付近。



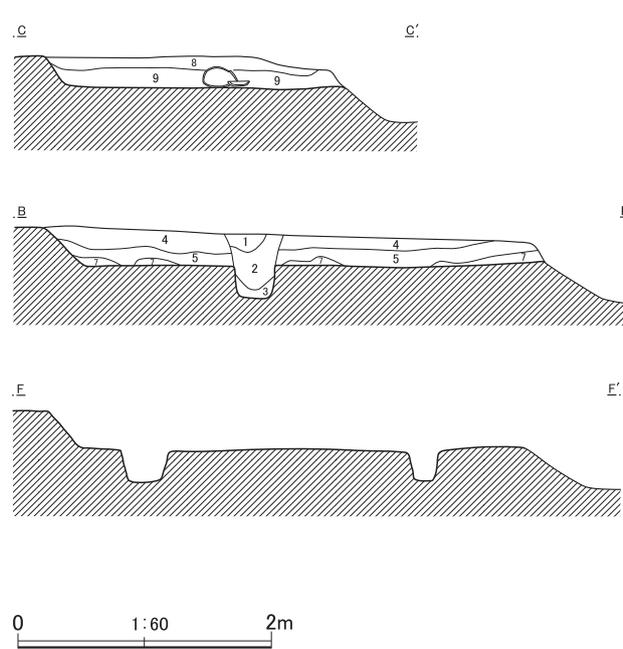
第24図 第15号住居跡出土遺物

6	坏	A. 口縁部径(13.5)、器高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面箇ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 4/5。H. 床面直上。
7	坏	A. 口縁部径(12.9)、器高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面箇ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
8	坏	A. 口縁部径13.0、器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
9	石製模造品 (有孔円板)	A. 直径(1.2)、厚さ0.3、残重0.6g。C. 表裏面は未調整。側面研磨。D. 蛇紋岩。F. 端部欠損。H. 覆土中。

第16号住居跡（第25図、図版10）

調査区東側の南側寄りに位置し、重複する第17号住居跡と第19号住居跡を切っている。本住居跡の南側は、後世の水田造成により、住居跡の床面下まで削平されている。平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ長方形を呈し、規模は北東～南西方向が4.93m、北西～南東方向は4.15mまで測れる。主軸方位は、N-65°-Eをとる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で31cmある。各壁下には、壁溝は見られない。床は、ロームブロックを微量含む黒褐色土を埋め戻した貼床式である。カマド前から住居の中央付近は土間状に硬く締まっているが、壁際はやや軟弱である。ピットは、住居跡内から14箇所検出されている。すべてが本住居に伴うものではないが、このうちのP2は、いわゆる貯蔵穴と考えられるもので、カマドの右側に位置している。平面形は、80cm×66cmは長方形ぎみの形態で、床面からの深さは24cmある。

カマドは、住居の北東側壁の中央やや北側寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長136cm・最大幅114cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られており、内面はあまりよく焼けていない。燃焼部底面(火床)は明瞭ではないが、住居の床面よりも若干低く、煙道部に向かって緩やかに傾斜しているようである。袖は、燃焼部の奥壁近くまで淡黄褐色粘土を廻して構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。



第16・17号住居跡土層説明

- 第1層：黒褐色土層（白色粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

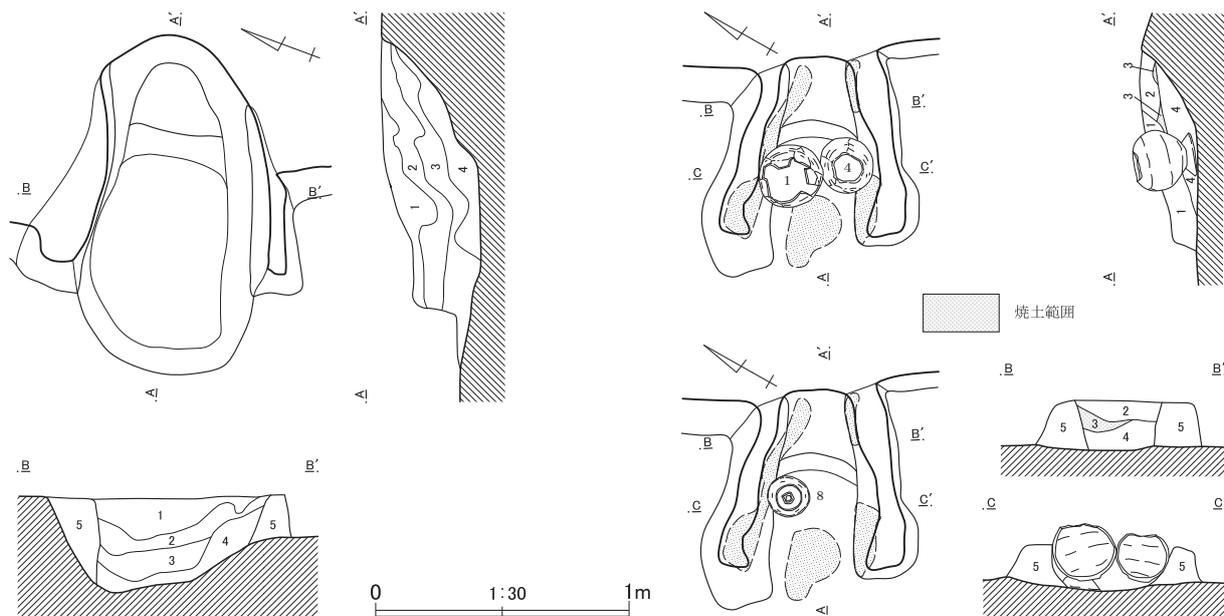
〈第16号住居跡〉

- 第4層：暗褐色土層（白色粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：黒褐色土層（焼土粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：黒褐色土層（黄褐色粘土ブロック・焼土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第7層：黒色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

〈第17号住居跡〉

- 第8層：暗褐色土層（白色粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第9層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第25図 第16・17号住居跡



第16号住居跡カマド土層説明

- 第1層: 黒褐色土層 (白色粒子を均一に、淡黄褐色粘土ブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗黄褐色土層 (淡黄褐色粘土ブロック・焼土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 黒褐色土層 (焼土粒子・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗褐色土層 (焼土粒子を均一に、淡黄褐色粘土ブロック・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層: 淡黄褐色土層 (黄褐色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第17号住居跡カマド土層説明

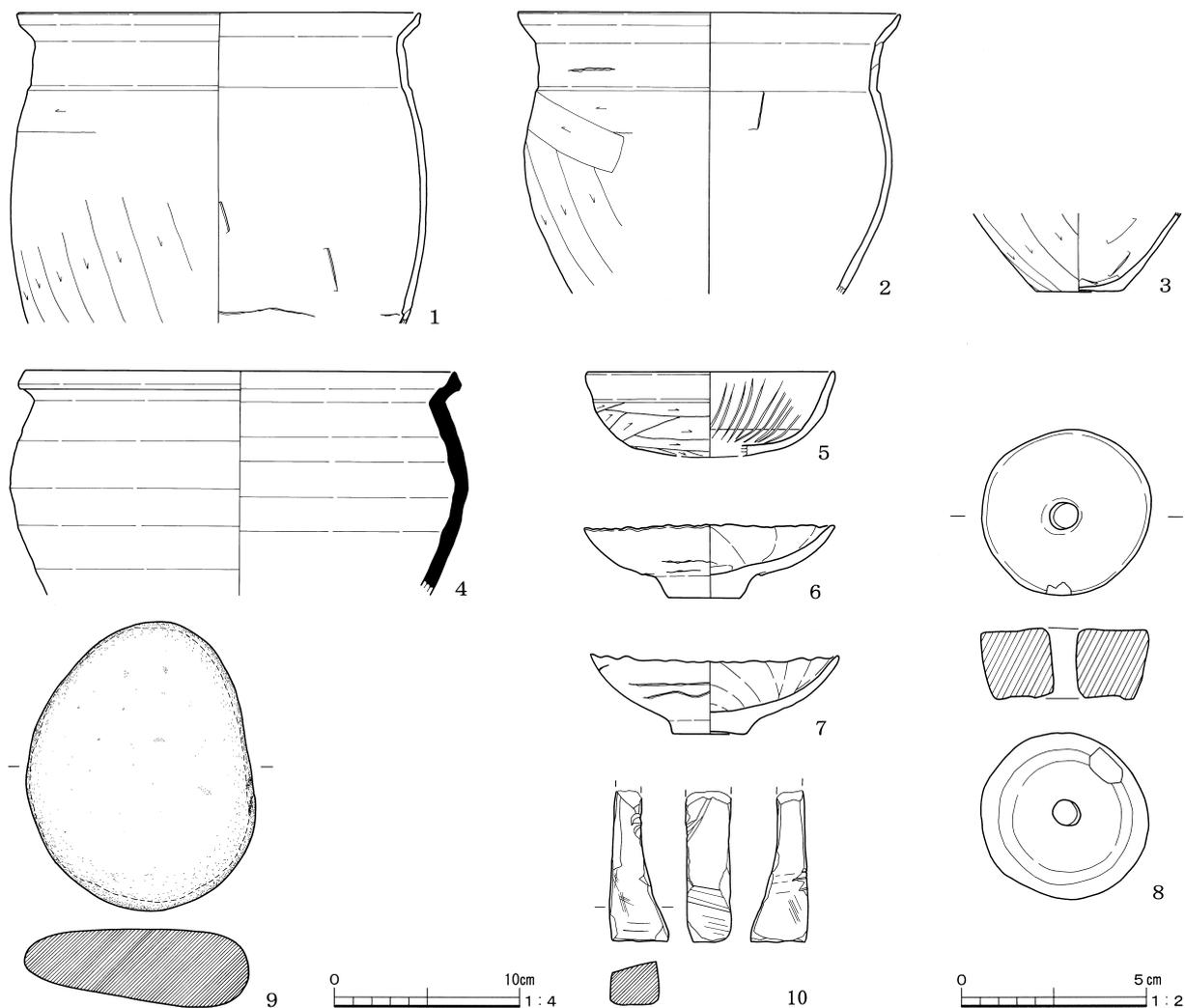
- 第1層: 黒褐色土層 (焼土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗褐色土層 (淡黄褐色粘土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗赤褐色土層 (焼土粒子・焼土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗褐色土層 (ローム粒子・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層: 黄褐色土層 (ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第 26 図 第 16・17 号住居跡カマド

出土遺物は、住居跡の覆土中を主体に、比較的多くの土師器の破片と少量の須恵器の破片が出土している(第27図)。土器以外では、カマド内から柱状砥石(No10)、P 1 内より完形の土製紡錘車(No 8)が出土している。

第16号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(22.0)、残存高17.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部～胴部片。G. 器表面は荒れている。H. カマド内。
2	甕	A. 口縁部径(21.0)、残存高15.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい橙色、内一明赤褐色。F. 口縁部～胴部片。G. 器表面は荒れている。H. カマド内。
3	甕	A. 底部径4.8、残存高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 外一にぶい黄褐色、内一にぶい褐色。F. 胴部下位～底部。H. 覆土中。
4	須恵器鉢	A. 口縁部径(24.0)、残存高12.3。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 外一にぶい黄橙色、内一灰黄褐色。F. 口縁部～胴部片。G. 焼成不良。器表面は風化している。H. カマド内。
5	坏	A. 口縁部径(13.5)、残存高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後放射状暗文。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 1/3。H. 覆土中。
6	坏	A. 口縁部径13.7、器高4.0、底部径3.9。B. 粘土紐巻き上げ。C. 内外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。H. 床面直上。
7	坏	A. 口縁部径(13.5)、器高4.4、底部径4.1。B. 粘土紐巻き上げ。C. 内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。H. 貯蔵穴P 2内。



第27図 第16号住居跡出土遺物

8	土製紡錘車	A. 直径4.5、厚さ1.9、重量44.54g。C. 表裏面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。F. ほぼ完形。H. P1内。
9	磨石	A. 全長15.8、幅12.4、厚さ4.3、重量1241.08g。D. 輝石安山岩。F. 完形。G. 表裏面は全体的に擦られている。H. 床面付近。
10	砥石	A. 残長8.3、最大幅3.1、厚さ2.3、残重74.10g。D. 流紋岩。F. 端部欠損。G. 全面に擦痕あり。H. カマド内。

第17号住居跡（第25図、図版11・12）

調査区東側の南側寄りに位置し、重複する第16号住居跡に切られている。本住居跡の南側は、後世の水田造成により、住居跡の床面下まで削平されている。平面形は、残存する部分から推測すると、方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、北西～南東方向が3.34mまで、北東～南西方向が3.06mまで測れる。主軸方位は、N-59°-Eをとる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で26cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床は、ロームブロックを微量含む黒褐色土を埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅緻であるが、壁際の周辺部はやや軟弱である。ピットは、住居跡の残存する部分からはまったく検出されていない。

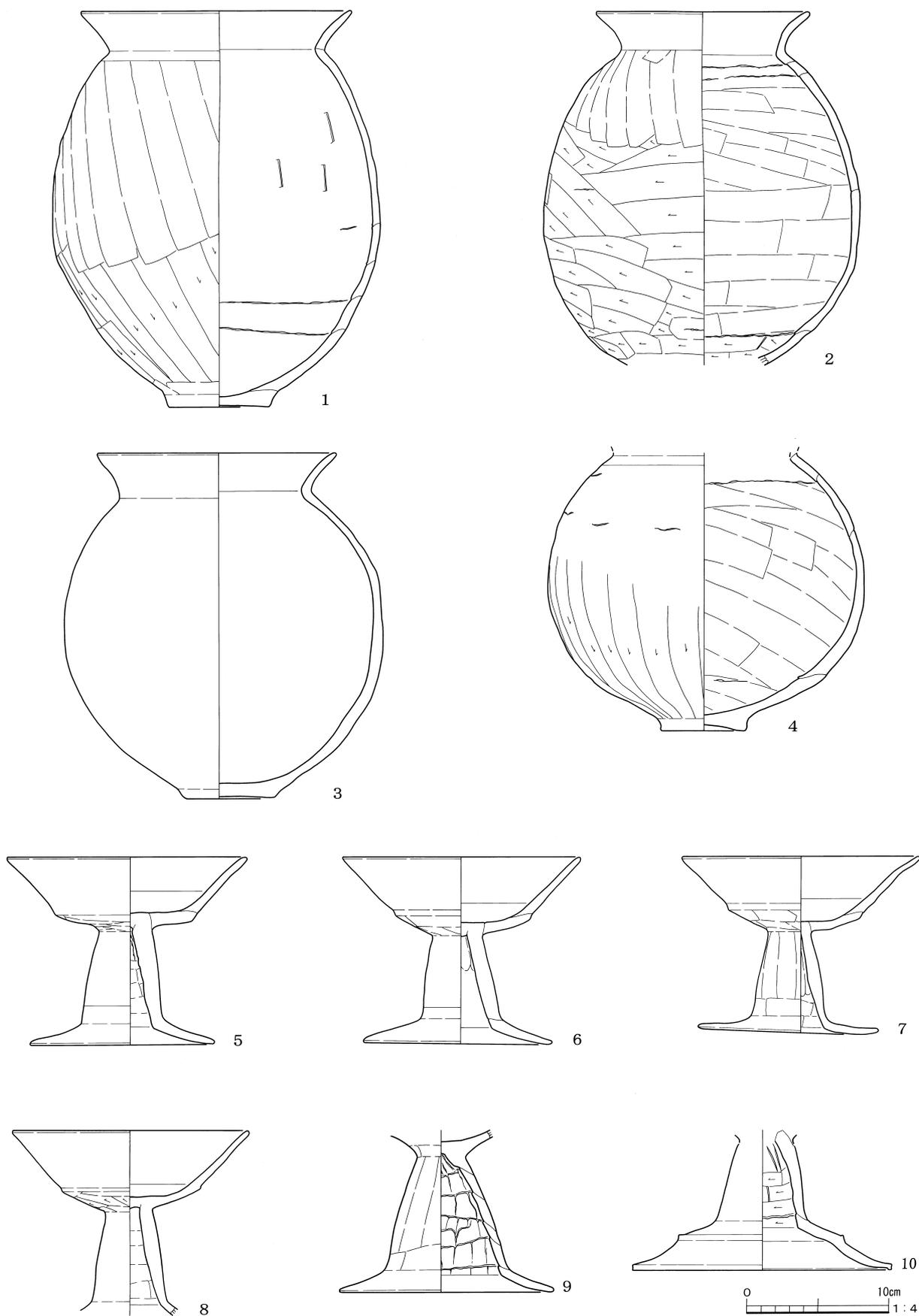
カマドは、住居北東側壁に位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長83cm、最

大幅86cmを測る。燃焼部底面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、煙道部に向かって緩やかに傾斜している。燃焼部内面は、比較的良く焼けて赤色化している。燃焼部内の中央やや北側寄りの位置には、高坏を伏せて再利用した転用支脚が据えられている。袖は、ロームブロックを多量に含む黄褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。カマド内からは甕が2個体横に並んで出土しており、本カマドの土器の掛け方が2個併置式であったことがわかるが、右側の甕の下には支脚は見られない。

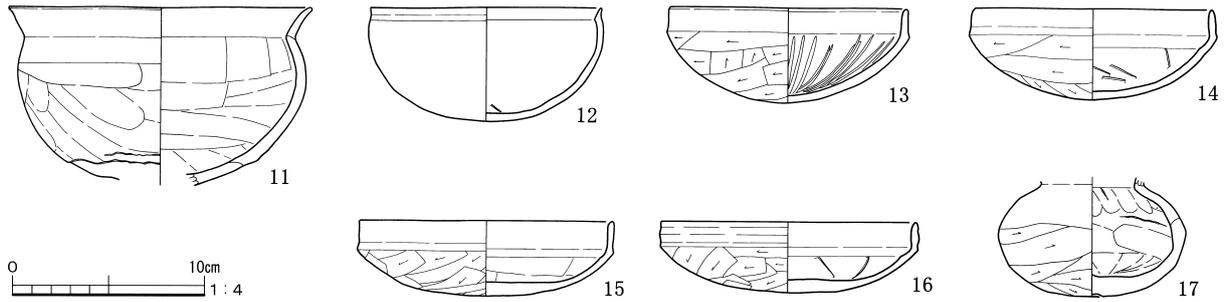
出土遺物は、カマド周辺から住居中央部の床面上から、完形に近い土器が比較的多く出土している(第28～29図)。これらの土器の多くは、その出土状態から見て住居の廃絶に伴って、使用していた土器をそのまま遺棄したものと推測され、良好な一括資料と言えるものである。

第17号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(18.8)、器高28.0、底部径7.0。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半篋ナデ、内面篋ナデ。底部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 外一橙色、内一明赤褐色。F. 口縁部2/3欠損。G. 外面は被熱し荒れている、胴部下半は器面剥離。H. カマド内。
2	甕	A. 口縁部径(15.0)、残存高24.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上位篋ナデ、内面篋ナデ・下端ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
3	甕	A. 口縁部径16.6、器高24.4、底部径6.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面篋ナデ。底部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 外一橙色、内一にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 器面は荒れている。H. 床面直上。
4	甕	A. 底部径6.0、残存高19.5。B. 粘土紐巻き上げ。C. 胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面篋ナデ。底部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一赤褐色。F. 口縁部欠失。G. 胴部外面上半は荒れている。H. カマド内。
5	高 坏	A. 口縁部径16.6、器高13.2、底部径12.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面篋ナデ。脚柱部外面ナデ、内面篋ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面直上。
6	高 坏	A. 口縁部径16.6、器高13.2、底部径13.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面篋ナデ。脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁部一部欠損。H. 床面直上。
7	高 坏	A. 口縁部径16.6、器高12.5、底部径12.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ、内面篋ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリの後ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部一部欠損。G. 外面・坏部内面煤付着。H. 床面直上。
8	高 坏	A. 口縁部径16.5、残存高13.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。脚柱部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 脚端部欠損。H. カマド支脚。
9	高 坏	A. 底部径(15.0)、残存高11.4。B. 粘土紐巻き上げ。C. 脚柱部外面篋ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 脚部2/3。H. 床面付近。
10	有段高坏	A. 底部径18.3、残存高9.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 脚部1/2。G. 外面は荒れている。H. カマド内。
11	台付鉢	A. 口縁部径15.9、残存高9.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 台部欠失。H. 床面直上。
12	坏	A. 口縁部径(12.1)、器高6.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 外一にぶい赤褐色、内一明赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
13	坏	A. 口縁部径12.7、器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面篋ナデの後放射状暗文。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。H. 床面直上。
14	坏	A. 口縁部径12.5、器高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面は荒れている。H. 床面直上。
15	坏	A. 口縁部径13.4、器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 底部内面は荒れている。H. 床面直上。
16	坏	A. 口縁部径13.5、器高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 完形。H. 床面直上。
17	小形丸底壺	A. 残存高6.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒・白色粒。E. 外一にぶい赤褐色、内一赤褐色。F. 1/2。H. 床面付近。



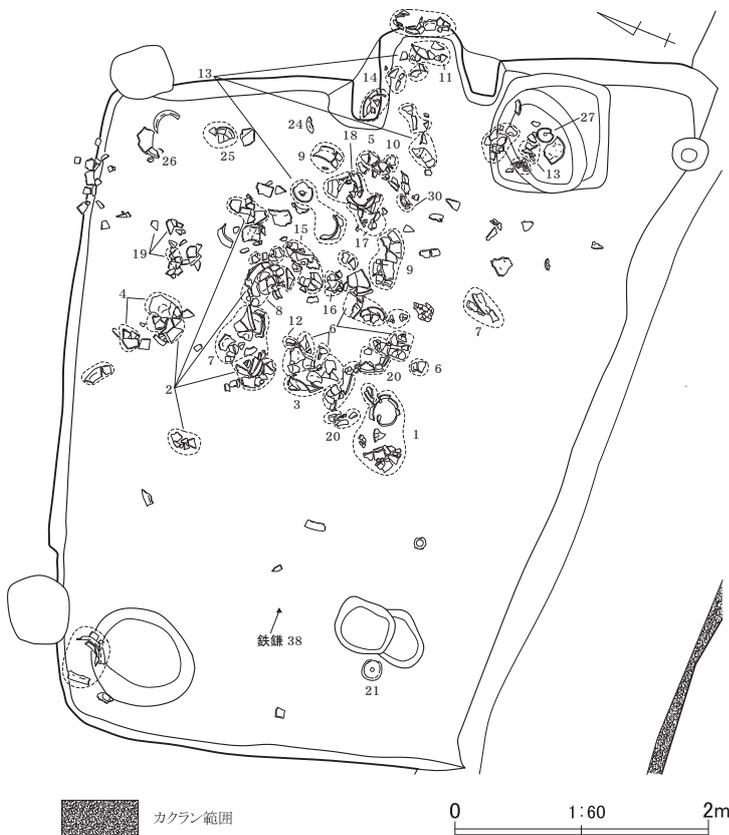
第28图 第17号住居跡出土遺物(1)



第29図 第17号住居跡出土遺物(2)

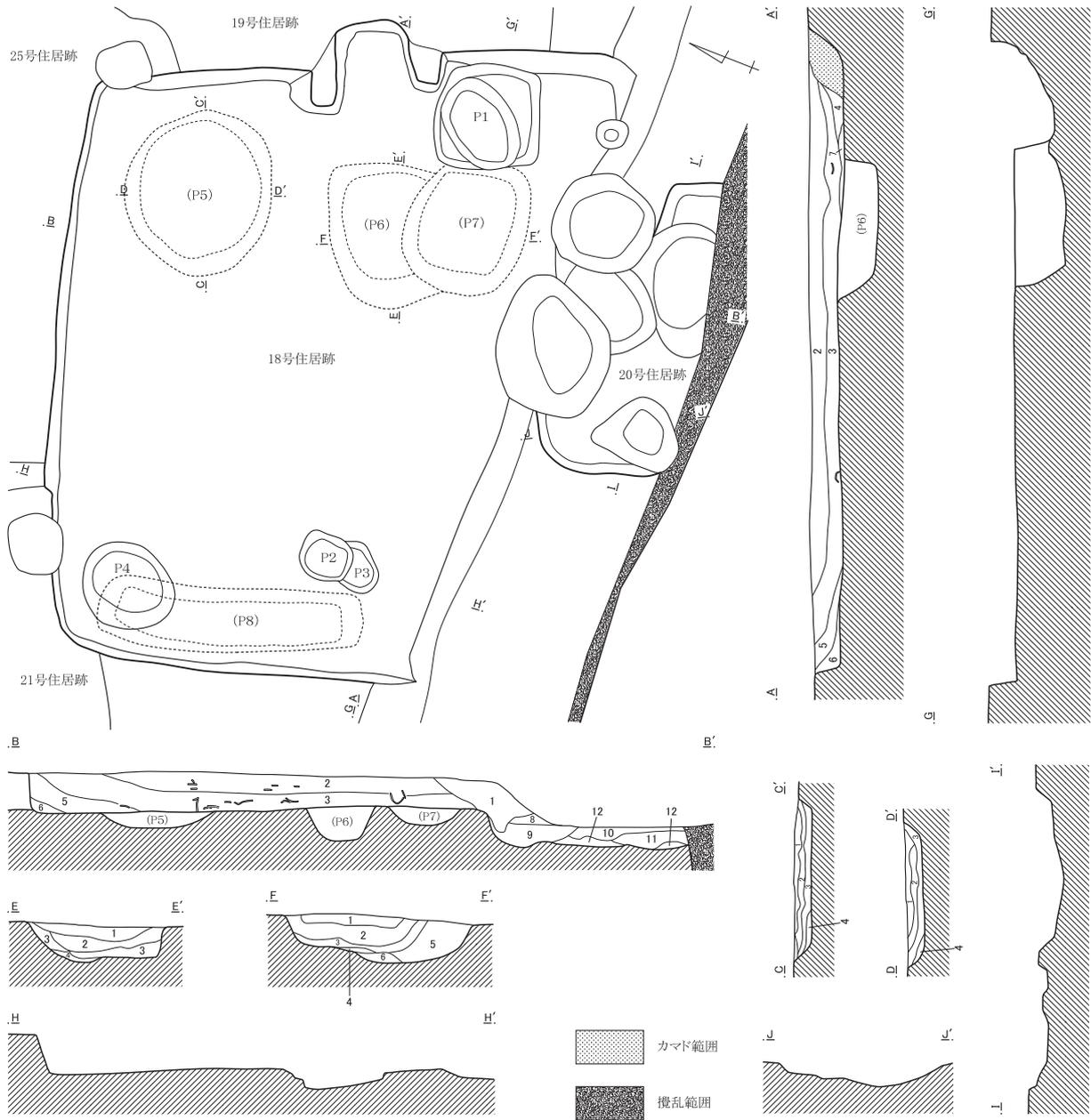
第18号住居跡(第31図、図版13・14)

調査区中央の南側寄りに位置し、重複する第19号住居跡・第21号住居跡・第25号住居跡を切り、第20号住居跡に切られている。本住居跡の南側は、後世の水田造成により、住居跡の床面下まで削平されている。平面形は、残存する部分から推測すると、長方形を呈していたものと思われる。規模は、北東～南西方向5.42m、北西～南東方向は4.38mまで測れる。主軸方位は、N-71°-Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で30cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅緻であるが、壁際の周辺部はやや軟弱である。ピットは、P1～P4の4箇所が検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と考えられるもので、カマド右側の壁際に位置している。平面形は、94cm×93cmの方形を呈し、床面からの深さは30cmある。P2とP3は、南西壁際の中央付近に



第30図 第18号住居跡遺物出土状態

重複して位置している。いずれも40cm程度の不整形を呈し、床面からの深さは10cm程度である。P4は、西側コーナー部分付近に位置する。径70cm程度の楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは15cmある。P5～P8は、住居の床下から検出された土壌状の掘り込みで、いわゆる床下土壌と考えられるものである。P5は、住居の北東側に位置する。149cm×131cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは15cmある。P6とP7は、カマドの前付近に重複して位置する。P6が131cm×127cm、P7が122cm×116cmのいずれも長方形ぎみの形態で、床面からの深さは34cmと42cmある。いずれも覆土中に焼土粒子を含んでおり、P6の上面には貼床が施されている。P8は、住居の南西壁際に位置する。237cm×57cmの長方



第18・20号住居跡土層説明

〈第18号住居跡〉

- 第1層: 暗灰褐色土層 (A軽石・鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗褐色土層 (焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗褐色土層 (ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗黄褐色土層 (焼土粒子・淡黄褐色粘土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層: 暗褐色土層 (ローム粒子・焼土粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層: 暗褐色土層 (ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第7層: 暗黄褐色土層 (ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

〈第20号住居跡〉

- 第8層: 暗褐色土層 (ロームブロック・鉄斑を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第9層: 暗赤褐色土層 (焼土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第10層: 暗灰褐色土層 (鉄斑を均一に、ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第11層: 暗灰褐色土層 (ロームブロック・焼土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第12層: 暗茶灰色土層 (ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第31図 第18・20号住居跡

第18号住居跡床下土壌(P5)土層説明

- 第1層:暗灰褐色土層(ローム粒子・鉄斑を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗黄褐色土層(ロームブロック・鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:暗灰褐色土層(鉄斑を均一に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:暗褐色土層(ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

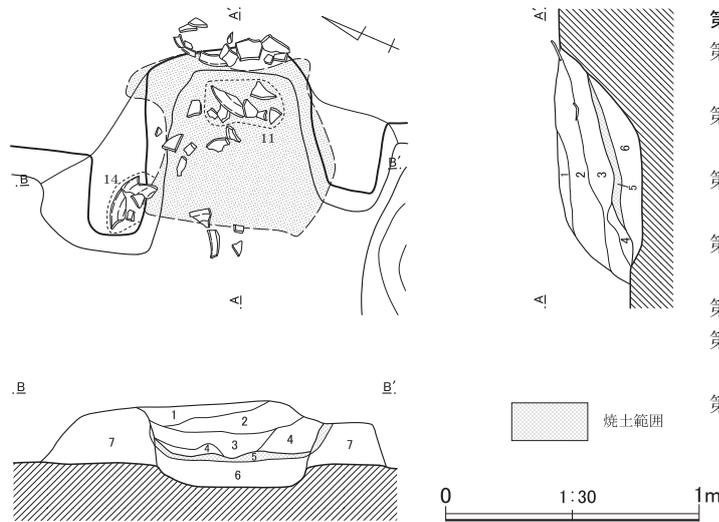
第18号住居跡床下土壌土層(P6・P7)説明

〈第18号住居跡床下土壌(P6)〉

- 第1層:暗黄褐色土層(ロームブロックを多量に、鉄斑・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗灰褐色土層(ロームブロックを均一に、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:暗灰色土層(ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:暗黄褐色土層(ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

〈第18号住居跡床下土壌(P7)〉

- 第5層:暗褐色土層(ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層:暗褐色土層(ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)



第18号住居跡カマド土層説明

- 第1層:暗褐色土層(白色粒子・ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗茶褐色土層(ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:暗褐色土層(淡黄褐色粘土粒子を均一に、焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:淡黄褐色土層(淡黄褐色粘土ブロックを均一に、焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層:暗赤褐色土層(焼土層。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層:黒褐色土層(炭化粒子・鉄斑を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第7層:淡黄褐色土層(淡黄褐色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第 32 図 第 18 号住居跡カマド

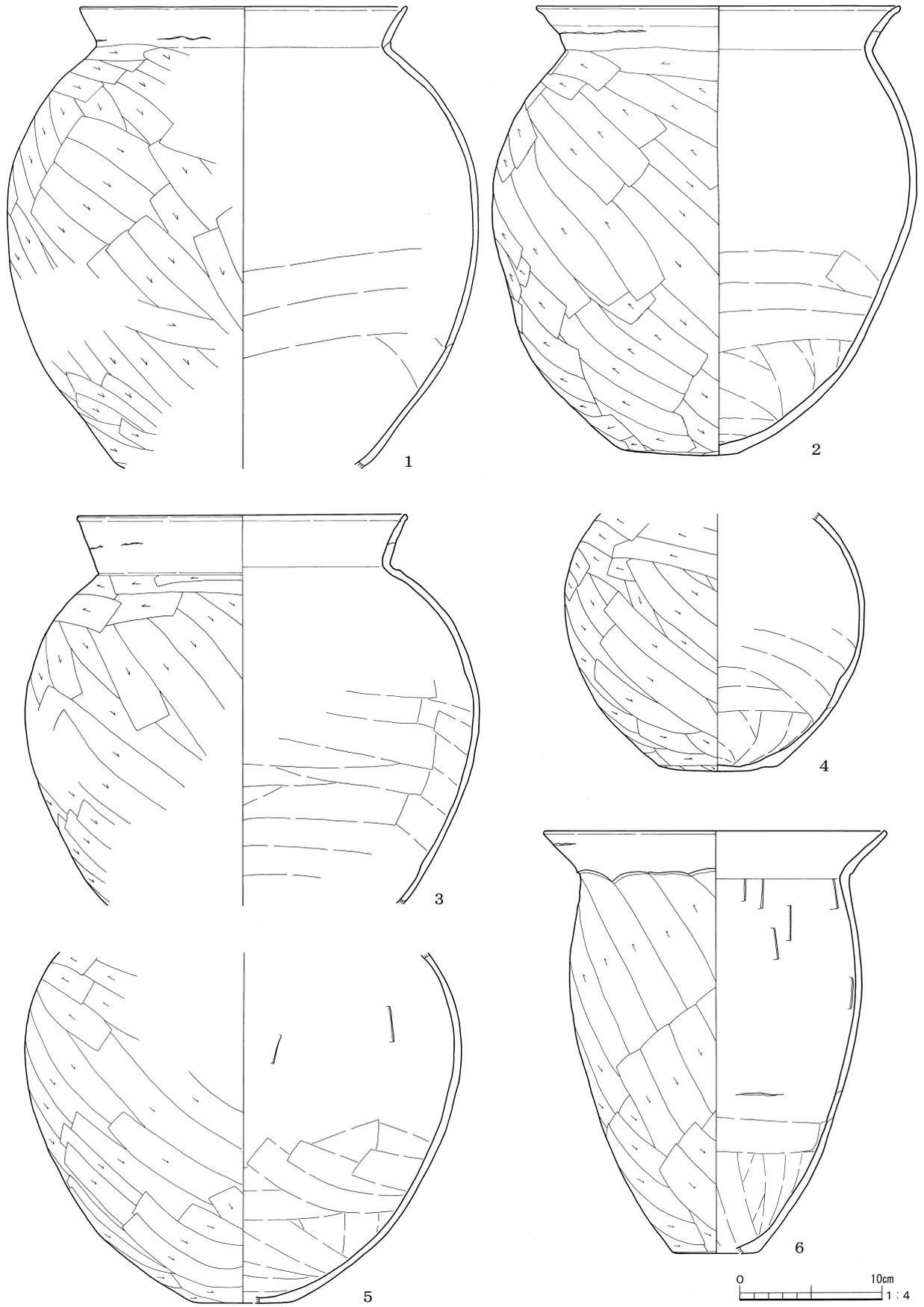
形ぎみの形態で、床面からの深さは40cmある。

カマドは、住居北東側壁のほぼ中央付近に位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長83cm、最大幅140cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られており、内面は非常に良く焼けて赤色化している。燃焼部底面(火床)は、住居の床面よりも若干高く、煙道部に向かって緩やかに傾斜している。袖は、淡黄褐色粘土ブロックを盛り上げて構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られないが、燃焼部奥端からは長甕の口縁部破片が出土しており、あるいは煙道部の補強に使用されていたものかもしれない。

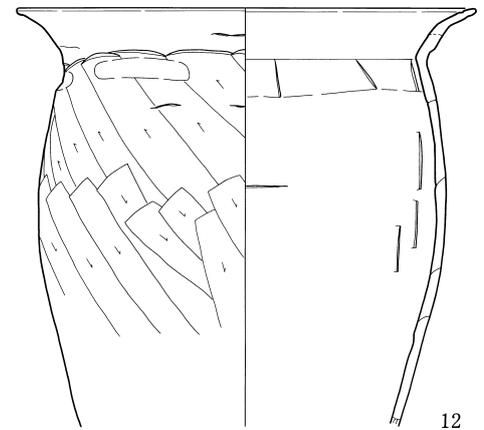
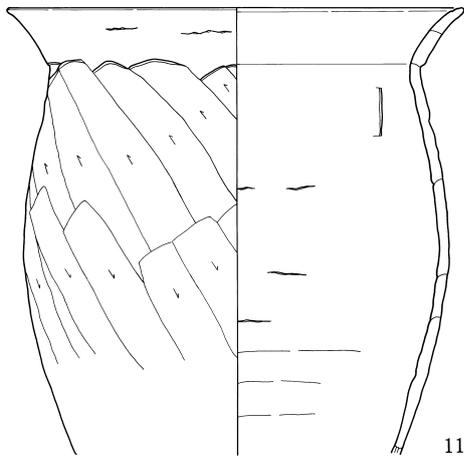
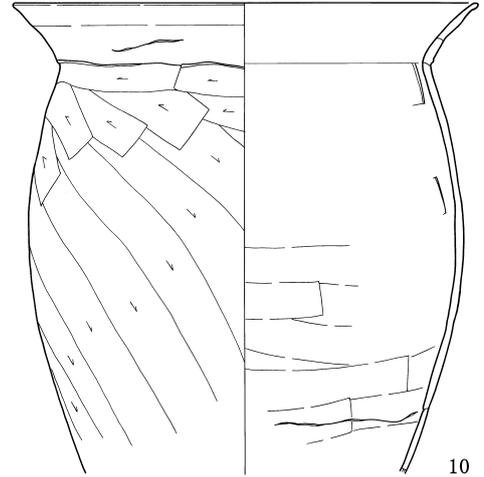
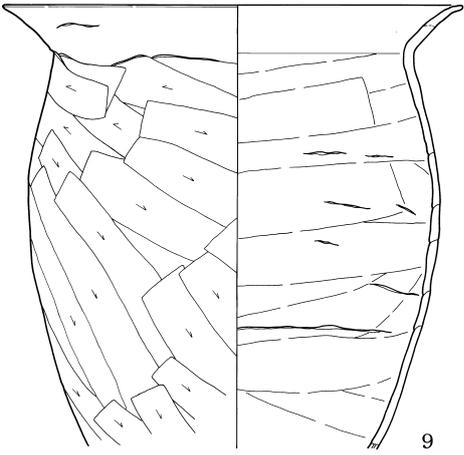
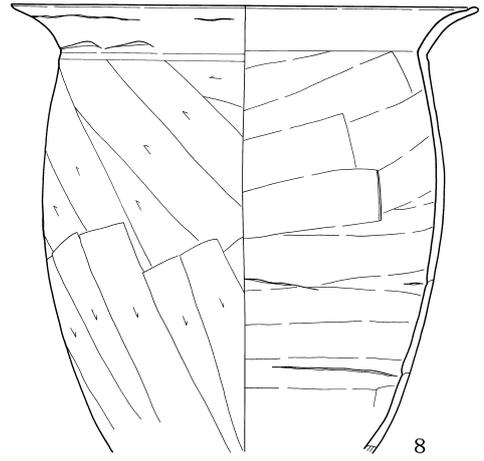
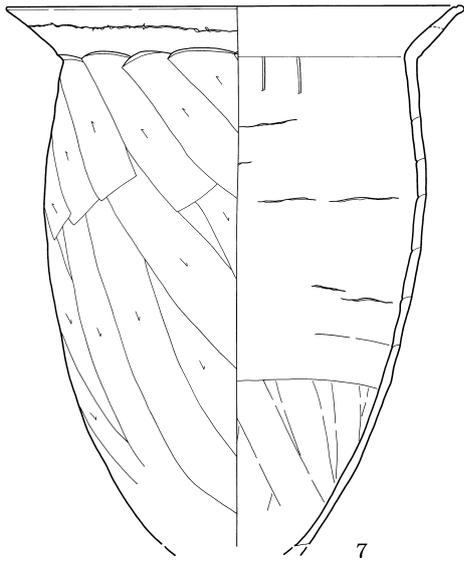
出土遺物は、住居跡内より土器片が多量に出土しているが、その大半は破損品で、完形品はほとんど見られない(第33～36図)。これらの土器は、住居跡北東側の覆土中から出土しており、その大半は住居廃絶後の覆土埋没過程中に周辺から投げ込まれたもので、土師器の甕が圧倒的に多い。土器以外では、No33～37の土製品の他に、住居東側寄りの床面上より鉄製鎌の破片(No40)、P3床下土壌の覆土中から鉄鏃(No39)の破片、P6床下土壌の覆土中から刀子(No38)の破片などが出土している。

第18号住居跡出土遺物観察表

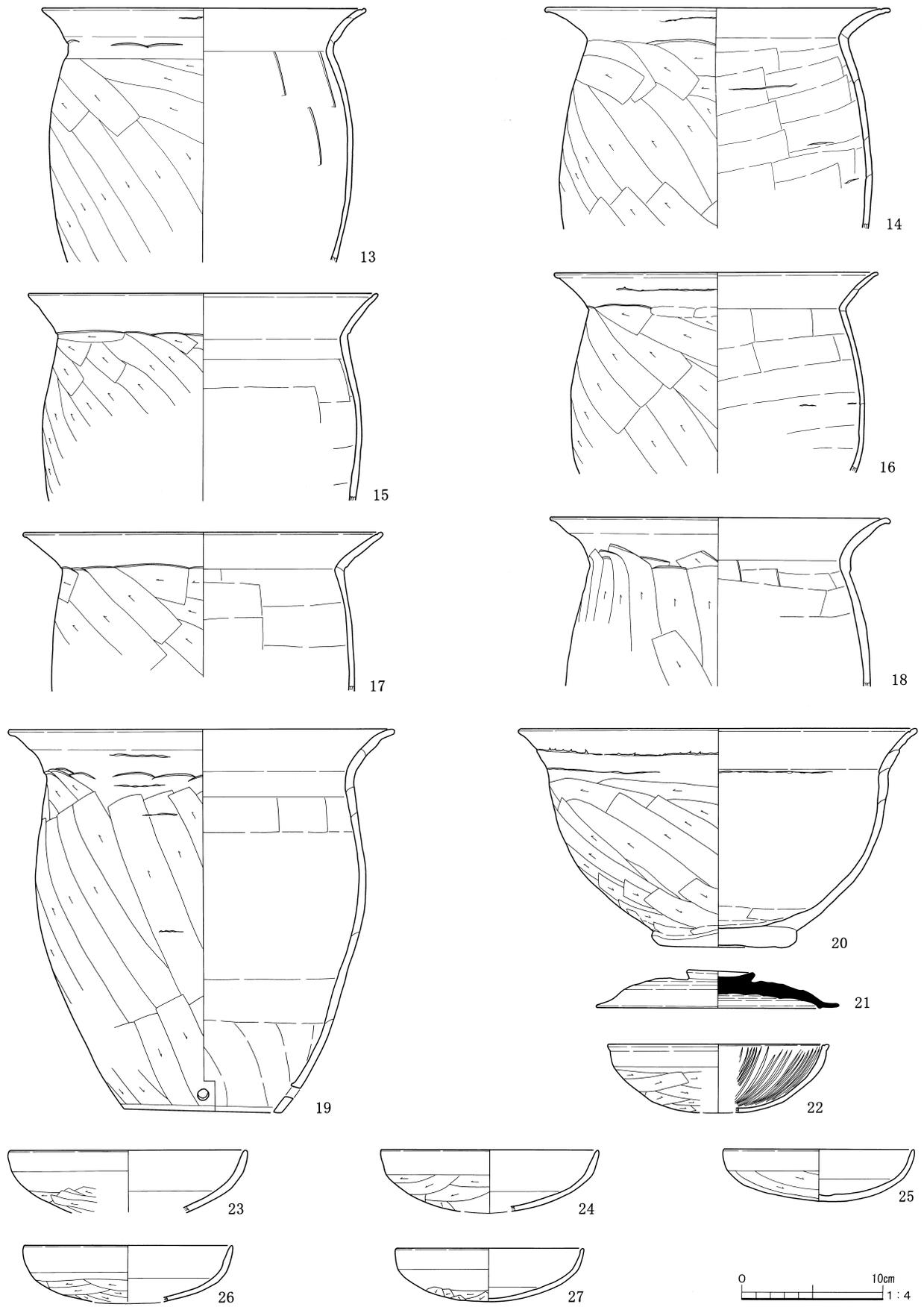
1	甕	A. 口縁部径(23.0)、残存高32.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笥ナデ。D. 白色粒。E. 内外一黒褐色。F. 1/5。G. 口唇部内側に細い沈線が巡る。H. 床面付近。
---	---	--



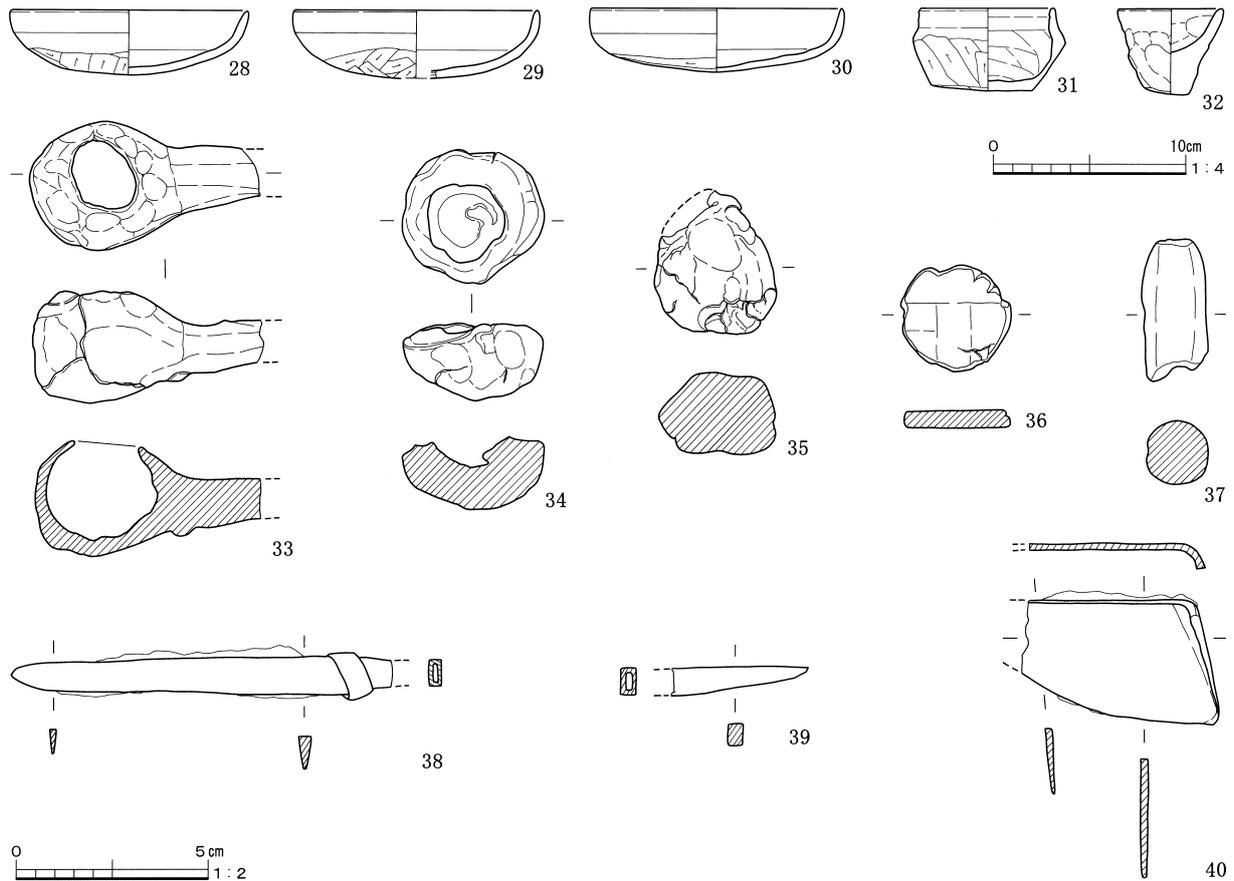
第33图 第18号住居跡出土遺物(1)



第34图 第18号住居跡出土遺物(2)



第 35 图 第 18 号住居跡出土遺物 (3)



第36図 第18号住居跡出土遺物(4)

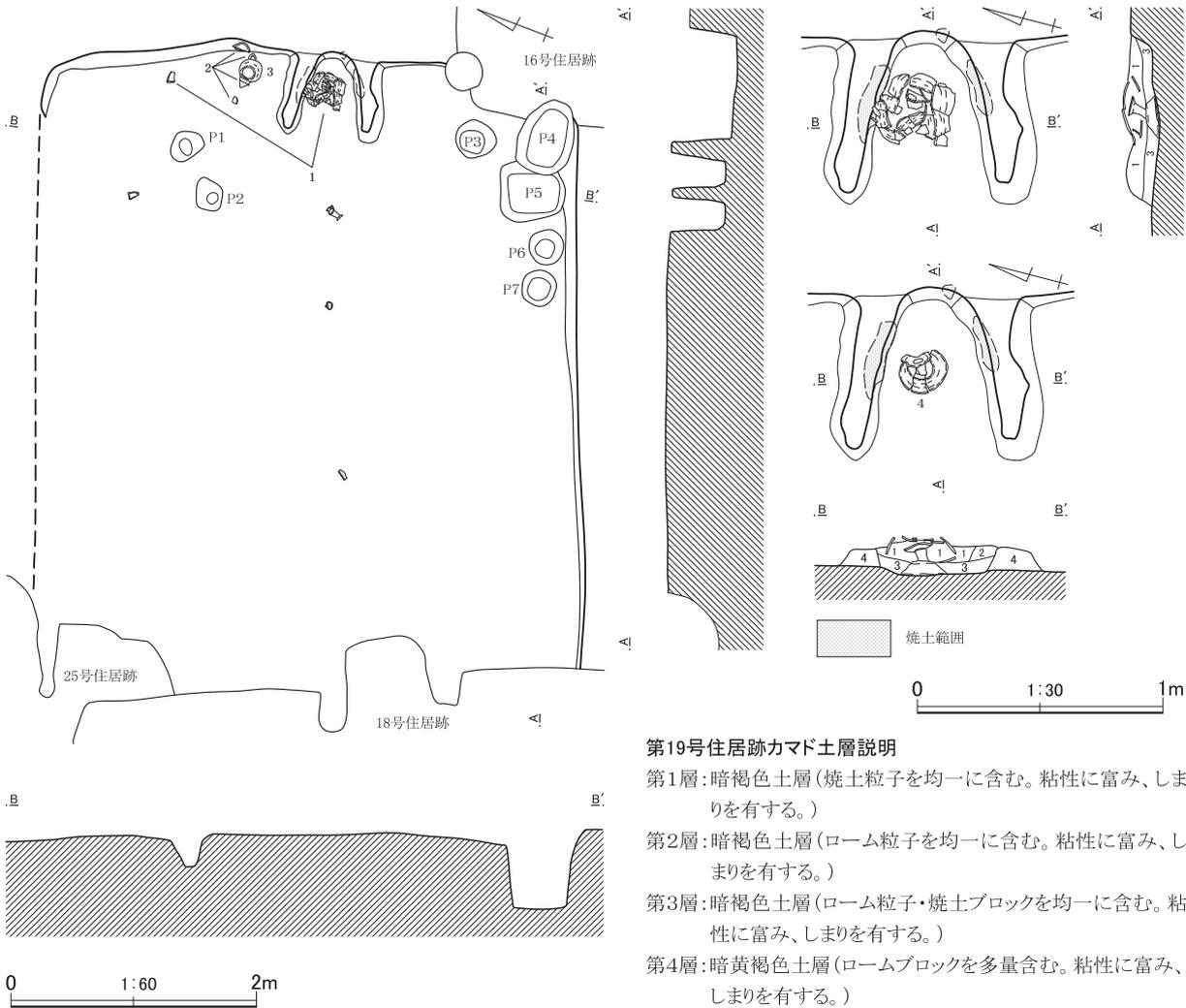
2	甕	A. 口縁部径25.6、器高32.0、底部径8.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部～底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 2/3。G. 口唇部内側に細い沈線が巡る。H. 覆土中。
3	甕	A. 口縁部径23.2、残存高27.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-暗褐色。F. 1/2。G. 口唇部内側に細い沈線が巡る。H. 床面付近。
4	甕	A. 底部径8.3、残存高18.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部～底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 胴部～底部。H. 覆土中。
5	甕	A. 底部径(7.2)、残存高24.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-灰黄褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
6	甕	A. 口縁部径(24.1)、器高30.0、底部径(6.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部～外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 2/3。H. 床面付近。
7	甕	A. 口縁部径24.0、残存高28.7。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、赤色粒。E. 外-にぶい褐色、内-明赤褐色。F. 3/4。G. 口唇部内側に細い沈線が巡る。H. 床面付近。
8	甕	A. 口縁部径(24.5)、残存高23.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-黒褐色。F. 2/3。G. 口唇部内側に細い沈線が巡る。H. 床面付近。
9	甕	A. 口縁部径(24.0)、残存高23.5。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 2/3。G. 胴部外面に赤化した粘土粒附着。H. 覆土中。
10	甕	A. 口縁部径(24.4)、残存高25.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい赤褐色、内-黒褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
11	甕	A. 口縁部径(24.0)、残存高23.7。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 1/2。G. 口唇部内側に細い沈線が巡る。H. カマド内。

12	甕	A. 口縁部径24.1、残存高22.2。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 2/3。G. 口唇部内側に細い沈線が巡る。H. 床面付近。
13	甕	A. 口縁部径(23.0)、残存高18.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。H. カマド内。
14	甕	A. 口縁部径(24.4)、残存高15.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 1/4。G. 胴部外面に赤化した粘土付着。H. カマド内。
15	甕	A. 口縁部径(24.5)、残存高14.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 1/4。G. 口唇部内側に細い沈線が巡る。H. 床面付近。
16	甕	A. 口縁部径(23.0)、残存高14.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一橙色、内一にぶい黄褐色。F. 1/3。G. 口唇部内側に細い沈線が巡る。胴部外面煤付着。H. 床面付近。
17	甕	A. 口縁部径(25.3)、残存高11.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗赤褐色。F. 1/2。G. 口唇部内側に細い沈線が巡る。H. 覆土中。
18	甕	A. 口縁部径23.9、残存高11.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一橙色、内一明赤褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
19	大形甗	A. 口縁部径27.2、器高27.3、底部径11.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後下端ナデ、内面篋ナデの後下端ナデ。D. 白色粒。E. 外一にぶい赤褐色、内一黒色。F. 3/4。G. 胴部下端に穿孔2カ所あり。H. 覆土中。
20	大形鉢	A. 口縁部径(28.1)、器高15.5、底部径10.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後下端ナデ、内面篋ナデ。底部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 2/3。H. 床面付近。
21	須恵器蓋	A. 口縁部径17.1、器高2.7、摘み径4.8。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. ほぼ完形。H. 床面付近。
22	坏	A. 口縁部径(15.6)、器高(4.9)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデの後放射状暗文。D. 白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
23	坏	A. 口縁部径(16.6)、残存高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
24	坏	A. 口縁部径(15.4)、器高(4.5)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
25	坏	A. 口縁部径13.5、器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外一にぶい赤褐色、内一黒褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
26	坏	A. 口縁部径(14.7)、器高(4.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
27	坏	A. 口縁部径13.3、器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい黄褐色。F. ほぼ完形。H. 貯蔵穴P1上面。
28	坏	A. 口縁部径(12.4)、器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい赤褐色、内一暗赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
29	坏	A. 口縁部径12.8、器高(3.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
30	坏	A. 口縁部径(13.4)、器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外一にぶい橙色、内一にぶい黄褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
31	ミニチュア	A. 口縁部径(7.2)、器高4.4、底部径5.3。B. 手捏ね。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 外一灰褐色、内一にぶい赤褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
32	ミニチュア	A. 口縁部径(5.5)、器高4.5、底部径2.2。B. 手捏ね。C. 口縁部内外面ナデ。体部～底部内外面指ナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁部3/4欠損。H. 覆土中。
33	土製品	A. 残存長6.0、最大高3.0、残重29.88g。C. 指ナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 柄端部欠失。H. 覆土中。
34	粘土塊	A. 長さ3.5、幅3.7、器高2.0、重さ19.27g。C. 指ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 覆土中。
35	粘土塊	A. 長さ3.7、幅3.2、厚さ2.1、残重21.01g。C. 指ナデ。D. 白色粒。E. 外一にぶい黄褐色。F. 一部欠損。H. 覆土中。
36	土製品	A. 長さ2.8、幅2.9、厚さ0.5、重さ4.89g。C. 表裏とも篋ナデ。D. 白色粒。E. 外一にぶい赤褐色。F. 完形。G. ボタン状を呈する。H. 覆土中。

37	土製品	A. 長さ3.8、幅2.8、厚さ1.7、重さ8.71g。C. ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい橙色。F. 一部欠損。G. 棒状を呈する。H. 覆土中。
38	鉄製品 (刀子)	A. 残存長10.0、刃部長8.6、刃部幅0.8、刃部厚0.4、残重14.27g。F. 刃部～基部片。H. P6床下土壌内。
39	鉄製品 (鉄鏃)	A. 残存長3.6、茎部幅0.7、茎部厚0.4、残重1.92g。F. 茎部片。H. 3号床下土壌内。
40	鉄製品 (鉄鎌)	A. 残存長5.2、最大幅3.3、厚さ0.2、残重18.93g。F. 基部片。G. 基部6mm程折り曲がる。H. 床面直上。

第19号住居跡 (第37図、図版15・16)

調査区東側の南側寄りに位置し、重複する第16号住居跡・第18号住居跡に切られている。平面形は、残存する部分から推測すると、長方形を呈していたものと思われる。規模は、北西～南東方向が4.40m、北東～南西方向は5.34mまで測れる。主軸方位は、N-69°-Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で16cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床は、ロームブロックを微量含む黒褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。ピ

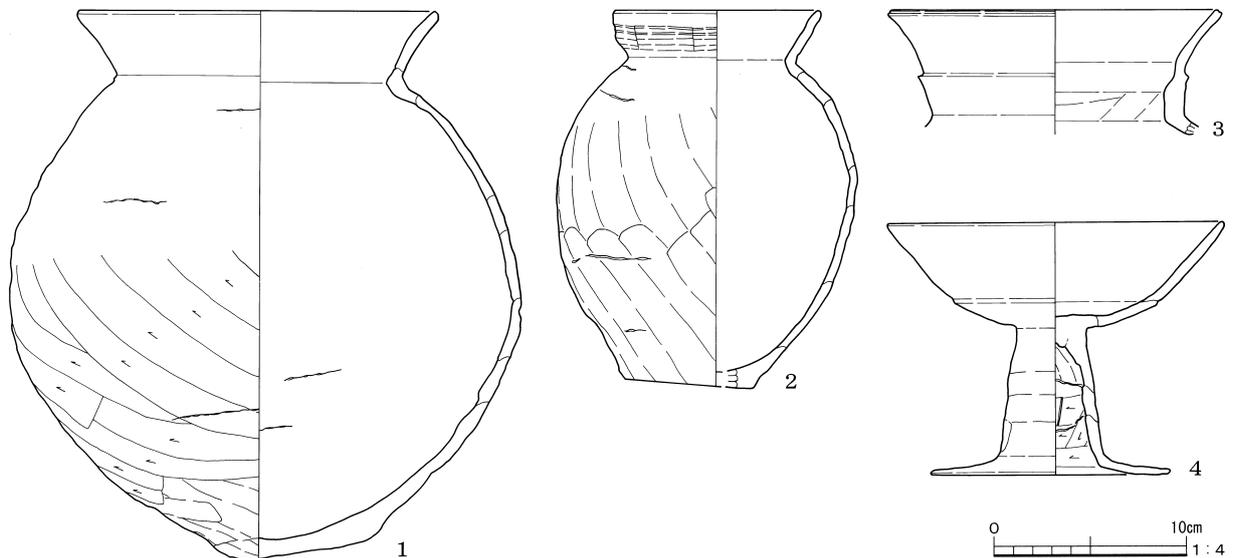


第37図 第19号住居跡

ットは、住居跡内から7箇所検出されている。P1とP2は、いずれも長さ25cm程度の不整形を呈し、床面からの深さは20cm程度である。P3は東側コーナー部付近に位置する。径30cm程度の円形ぎみの形態で、床面からの深さは52cmとやや深い。P4とP5も東側コーナー部の壁際に位置する。いずれも長さ50cm～60cmの長方形ぎみの形態で、床面からの深さは44cmと52cmある。P6とP7も南西側壁の壁際に位置する。いずれも直径30cm程度の円形を呈し、床面からの深さは45cmある。

カマドは、住居北東側壁の中央付近に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長72cm、最大幅87cmを測る。燃焼部は、住居内にあり内面はあまり良く焼けていない。燃焼部底面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで水平である。燃焼部内の中央やや北側寄りの位置には、高坏を伏せて再利用した転用支脚が据えられている。袖は、ロームブロックを多量含む暗黄褐色土を壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は比較的少なく、カマド内やその周辺から土器が少量出土しただけである。



第38図 第19号住居跡出土遺物

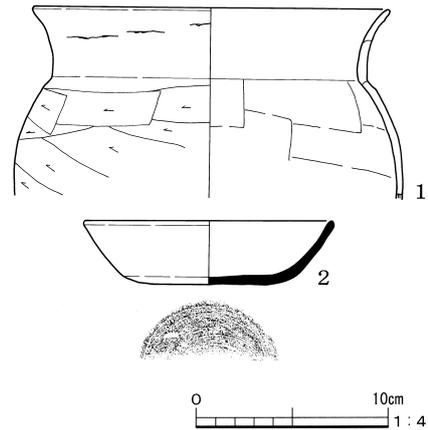
第19号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径18.9、器高29.1、底部径7.5。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半・下位ナデ、内面篋ナデ。底部内外面ナデ。D. 白色粒、小礫。E. 外-明褐色、内-黄褐色。F. 2/3。H. カマド内。
2	小形甕	A. 口縁部径(11.0)、器高20.0、底部径(6.9)。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部外面木口状工具によるナデ、内面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。底面外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒、小礫。E. 外-にぶい赤褐色、内-灰黄褐色。F. 1/2。G. 外面は荒れている。H. 床面直上。
3	壺	A. 口縁部径17.5、残存高6.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面上半ヨコナデ・下半篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部のみ。G. 器表面剥離。H. 床面直上。
4	高坏	A. 口縁部径17.7、器高13.3、底部径(12.6)。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ナデの後下半ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 脚端部2/3欠損。G. 脚柱部外面に赤化した粘土付着。H. カマド支脚。

第20号住居跡（第31図、図版16）

調査区中央の南側寄りに位置し、重複する第18号住居跡を切っている。本住居跡の上面は、後世の水田造成によって住居床面下まで削平され、また本住居跡の南側は天然ガスのパイプラインによってすでに破壊されているため、遺構の遺存状態は極めて劣悪である。平面形は、残存する掘り方部分から推測すると、方形か長方形に近い形態を呈していたものと思われる。規模は、残存する部分で北東～南西方向が2.26mまで、北西～南東方向が1.38mまで測れる。主軸方位は、N—68°—E位をとると思われる。住居の掘り方は、一部の壁下までしか達しない可能性もあるが、ほぼ床下全面に及ぶ形態のものと思われ、ロームブロックや焼土粒子を含む暗灰褐色土で埋め戻されている。掘り方底面は、かなり大きな土壌状の凹凸が複数見られ、この中には床下土壌もあった可能性がある。

出土遺物は、掘り方埋土中から土器片が少量出土しただけである。



第39図 第20号住居跡
出土遺物

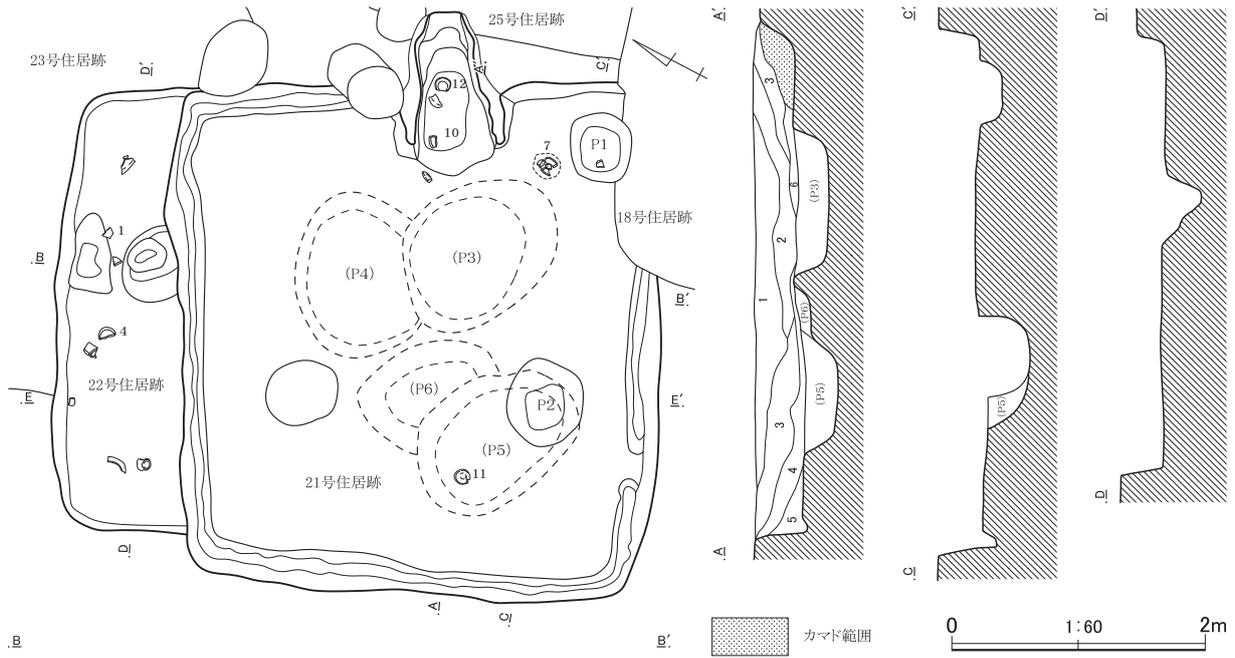
第20号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(18.8)、残存高10.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外—明赤褐色。F. 1/3。H. 床下土壌内。
2	須恵器 坏	A. 口縁部径(13.2)、器高3.4、底部径(6.4)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後周縁ナデ。D. 白色粒。E. 内外—にぶい黄色。F. 1/3。G. 焼成不良、器器面は風化している。H. 覆土中。

第21号住居跡（第40図、図版17・18）

調査区中央の南側寄りに位置する。重複する第22号住居跡と第25号住居跡を切り、第18号住居跡と第1号掘立柱建物跡の柱穴に切られている。平面形は、比較的整った方形を呈し、規模は北東～南西方向4.11m・北西～南東方向3.96mを測る。主軸方位は、N—63°—Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で40cmある。壁溝は、各壁下に見られるが、北東側壁下と南東側壁下は一部途切れている。上幅は13cm～25cmで、床面からの深さは10cm程度である。床は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、若干住居中央部が深く湾曲している。ピットは、住居内から2箇所検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているものに類似し、カマド右側の東側コーナー部に位置する。54cm×48cmのやや丸みの強い長方形ぎみの形態で、床面からの深さは18cmある。P2は、住居中央部の南東側寄りに位置する。70cm×61cmの不整円形を呈し、床面からの深さは42cmある。住居の床面下からは、(P3)～(P6)の4箇所の床下土壌が検出されている。これらは住居の中央部付近に位置し、(P3)と(P4)、(P5)と(P6)がそれぞれ重複している。規模は、(P3)・(P4)・(P5)が長さ130cm程度、(P6)が長さ115cmで、いずれも楕円形ぎみの形態である。床面からの深さは、(P6)が12cmの他は、いずれも20cm～26cmある。

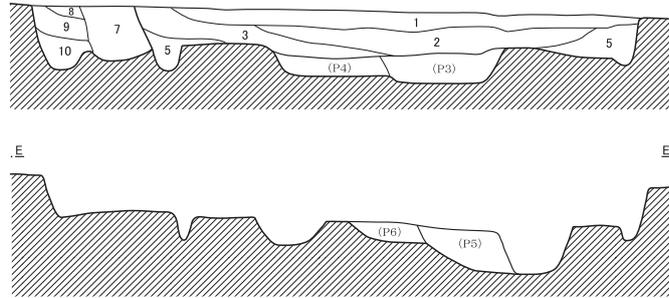
カマドは、北東側壁の中央やや南側寄りの位置に、壁をほぼ直角に掘り込んで付設している。規模は、全長130cm・最大幅97cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られている。燃焼部底面(火床)は、住居の床面よりも若干低く、奥壁は煙道部に向かって緩やかに立ち上がっている。袖は、燃焼部の奥壁近くまで淡黄褐色粘土を廻して構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕



第21・22号住居跡土層説明

〈第21号住居跡〉

- 第1層:暗褐色土層(白色粒子を均一に、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗褐色土層(ロームブロック・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:暗褐色土層(ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)



- 第4層:暗褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層:暗褐色土層(ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層:淡褐色土層(淡褐色粘土ブロック・焼土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

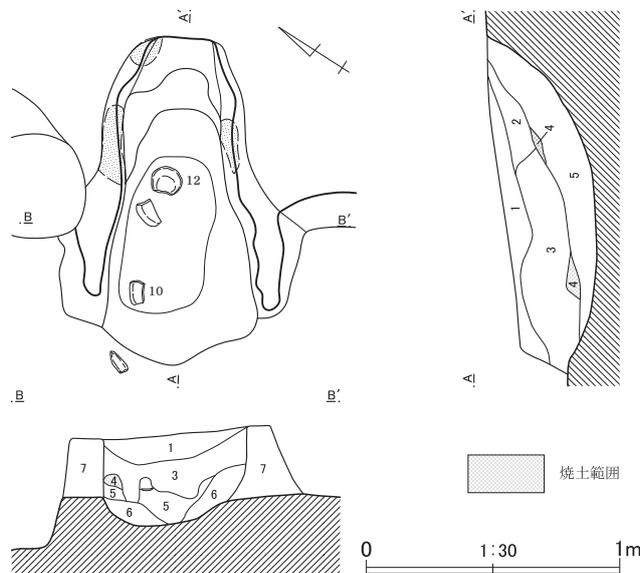
〈第22号住居跡〉

- 第7層:暗褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第8層:暗褐色土層(ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

- 第9層:暗褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第10層:暗褐色土層(ロームブロック・焼土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第21号住居跡カマド土層説明

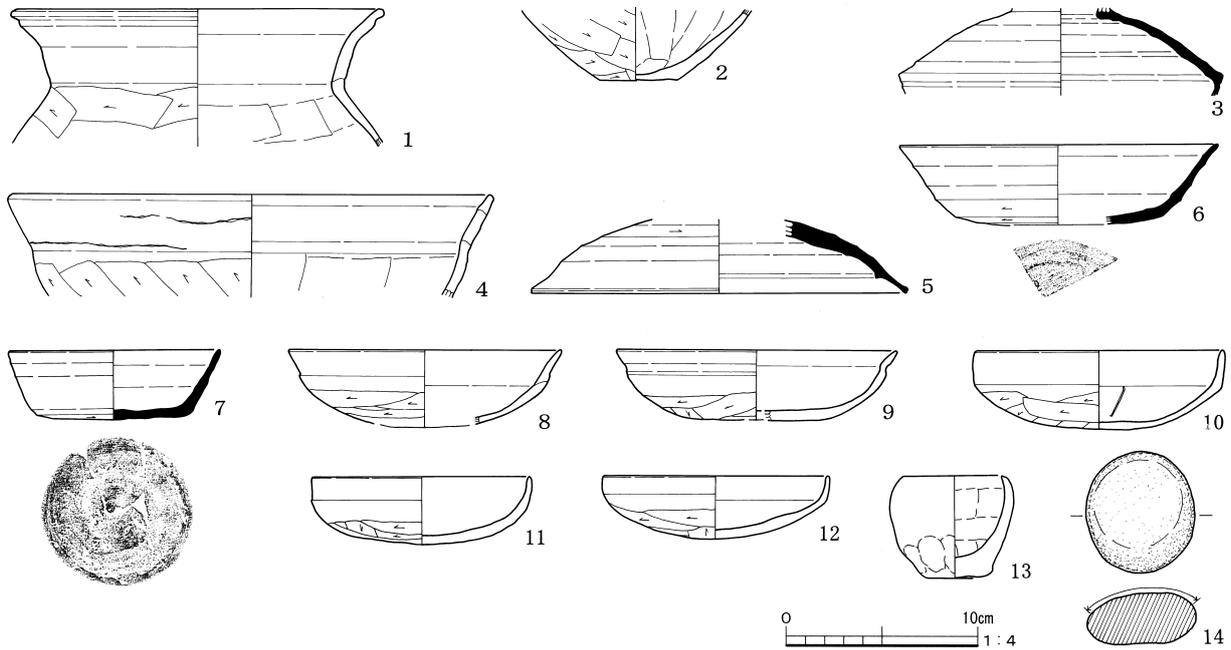
- 第1層:暗黄褐色土層(淡黄褐色粘土ブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗黄褐色土層(焼土粒子を均一に、焼土ブロック・淡黄褐色粘土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:淡黄褐色土層(淡黄褐色粘土ブロックを多量、焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:暗赤褐色土層(焼土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層:暗灰褐色土層(焼土粒子を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層:暗褐色土層(炭化粒子を均一に、淡黄褐色粘土ブロック・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第7層:淡黄褐色土層(淡黄褐色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)



第40図 第21・22号住居跡

跡は見られない。

出土遺物は、比較的少なく、カマド内や覆土中から土器が少量出土しただけである。



第41図 第21号住居跡出土遺物

第21号住居跡出土遺物観察表

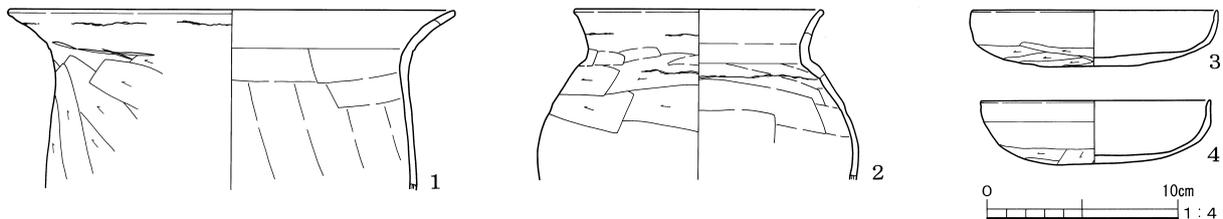
1	甕	A. 口縁部径(19.6)、残存高7.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部～胴部上位片。G. 器面は荒れている。H. 床下埋土中。
2	甕	A. 底部径4.1、残存高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一黒褐色、内一明赤褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
3	須恵器 長頸壺	A. 残存高4.6。B. ロクロ成形。C. 胴部内外面回転ナデ。D. 黒色粒。E. 内外一黄灰色。F. 肩部片。G. 外面に自然釉がかかる。H. 覆土中。
4	大形鉢	A. 口縁部径(25.6)、残存高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外一明赤褐色、内一にぶい赤褐色。F. 1/3。H. 床下埋土中。
5	須恵器 蓋	A. 口縁部径(20.0)、残存高3.9。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転篋ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 破片。H. 覆土中。
6	須恵器 坏	A. 口縁部径(16.8)、器高4.2、底部径(8.6)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。体部外面下端～底部回転篋ケズリ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外一灰黄色。F. 1/5。G. 焼成不良、器面は風化している。H. 覆土中。
7	須恵器 坏	A. 口縁部径11.2、器高3.7、底部径8.0。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転篋ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 口縁部1/4欠損。H. 床面直上。
8	坏	A. 口縁部径(14.4)、器高(4.1)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一橙色、内一明赤褐色。F. 1/5。G. 内面煤付着。H. 床下埋土中。
9	坏	A. 口縁部径(14.8)、器高(3.7)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 1/4。G. 器面は荒れている。H. 覆土中。
10	坏	A. 口縁部径13.1、器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、赤色粒。E. 外一明赤褐色、内一橙色。F. 3/4。H. カマド内。
11	坏	A. 口縁部径11.6、器高3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
12	坏	A. 口縁部径12.0、器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部一部欠損。H. カマド内。

13	ミニチュア	A. 口縁部径(5.3)、器高5.4、底部径3.5。B. 手捏ね。C. 内外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一黒褐色。F. 口縁部1/3欠損。G. 外面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
14	磨石	A. 全長6.4、幅5.7、厚さ2.8、重さ154.09g。D. 輝石安山岩。F. 完形。G. 表裏面は全体的に擦られている。H. 覆土中。

第22号住居跡（第40図、図版17・18）

調査区中央の南側寄りに位置し、重複する第23号住居跡を切り、第21号住居跡に切られている。平面形は、遺構の大半を第21号住居跡に切られているため不明であるが、残存する部分から推測すると方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、北東～南西方向が3.54m、北西～南東方向は1.05mまで測れる。主軸方位は、おそらくN-66°-E位をとるとと思われる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で36cmある。壁溝は、残存する各壁下には見られない。床は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式である。残存する部分が住居の壁際のためか、全体的にやや軟弱である。

出土遺物は、住居跡の床面上や覆土中から土器が少量出土しただけである。



第42図 第22号住居跡出土遺物

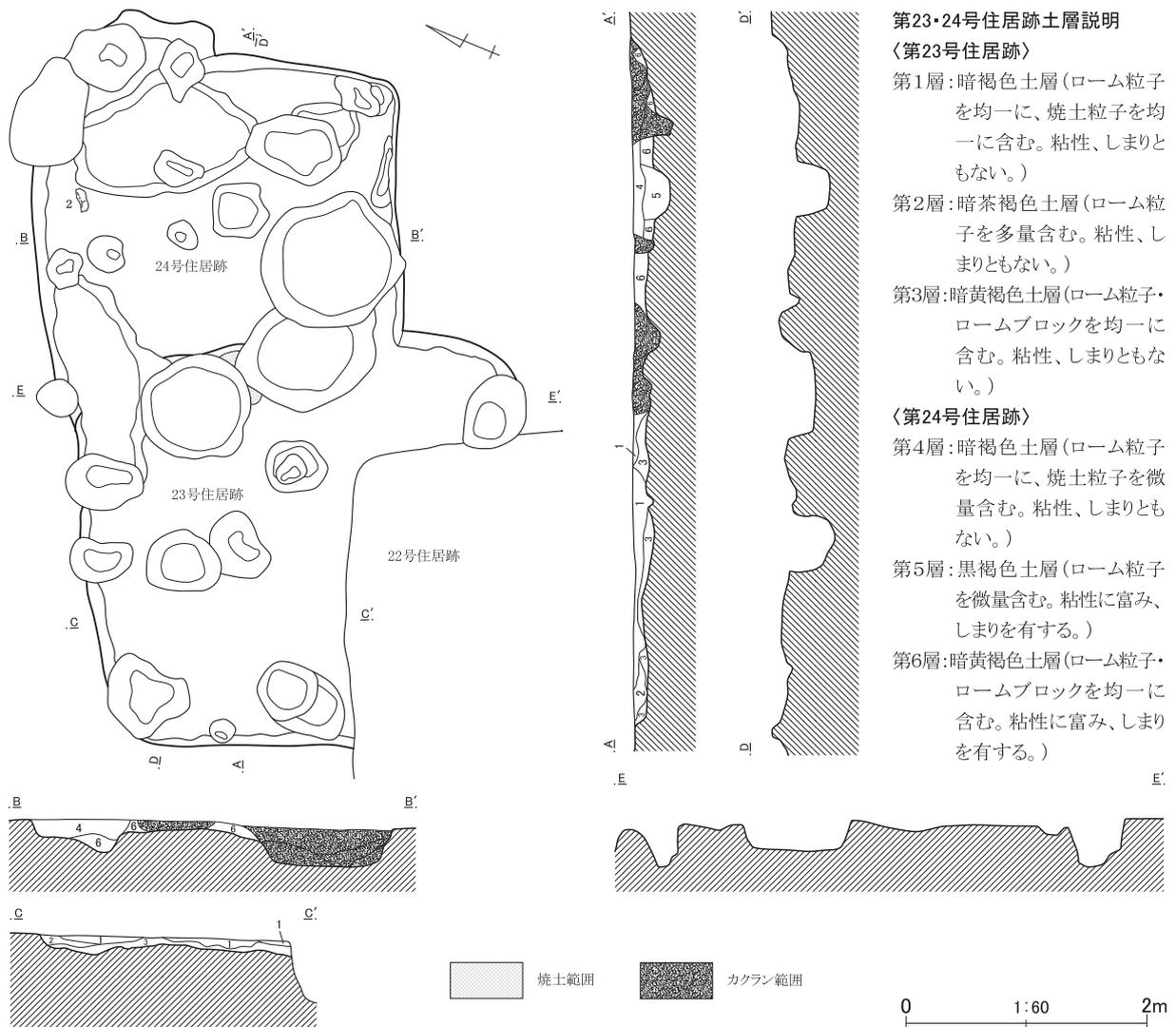
第22号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(13.2)、残存高9.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外一橙色、内一灰褐色。F. 1/3。H. 床面直上。
2	小形甕	A. 口縁部径(23.5)、残存高9.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部片。H. 覆土中。
3	坏	A. 口縁部径(13.0)、器高3.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 2/3。G. 器表面は荒れている。H. 覆土中。
4	坏	A. 口縁部径12.2、器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 2/3。H. 床面直上。

第23号住居跡（第43図、図版18）

調査区中央のやや南側寄りに位置し、重複する第24号住居跡を切り、第22号住居跡と第1号掘立柱建物跡の柱穴に切られている。本住居跡の上面はすでに削平されており、残存しているのは住居床下の掘り方部分だけである。平面形は、残存する掘り方部分から推測すると、コーナー部がやや丸みを持つ方形を呈していたと思われる。規模は、北東～南西方向3.36m・北西～南東方向3.70mを測る。主軸方位は、N-64°-Eをとる。掘り方は、住居の床下全面に及ぶもので、底面は凹凸が顕著で、確認面からの深さは10cm～15cmある。掘り方内には、ピット状の掘り込みが多数見られるが、本住居跡に伴うものは明確ではない。

カマドは、すでに削平され存在していないが、住居跡の北東側壁の中央付近に一部焼土の分布が見



第43図 第23・24号住居跡

られる箇所があることから、おそらくその場所にカマドが付設されていたものと思われる。カマドの掘り方は明確ではないが、奥壁が住居の壁と一致していることから、カマド燃焼部は住居内に存在していたものと推測される。

出土遺物は、遺構の遺存状態を反映して非常に少なく、掘り方埋土中から土器の破片が少量出土しただけである。

第24号住居跡（第43図、図版18）

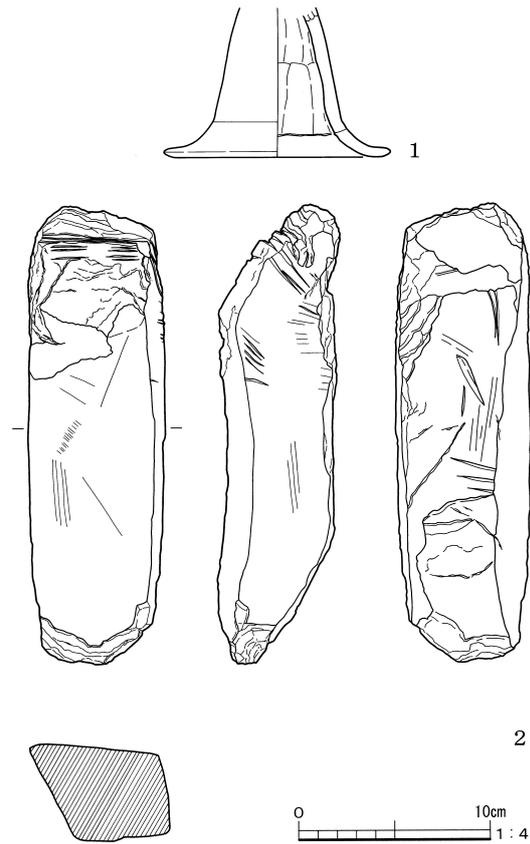
調査区中央のやや南側寄りに位置し、重複する第23号住居跡と第1号掘立柱建物跡の柱穴に切られている。第23号住居跡と同様に本住居跡もすでに上面は削平されており、残存しているのは住居床下の掘り方部分だけである。平面形は、残存する掘り方部分から推測すると、方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、北西～南東方向が3.05m、北東～南西方向は3mまで測れる。主軸方位は、ほぼN—64°—Eをとる。掘り方は、住居の床下全面に及ぶが、住居中央部に比べて壁際が若干深く

なる周溝状に近い形態である。底面は凹凸が顕著で、確認面からの深さは8cm～15cmある。掘り方内には、ピット状の掘り込みがいくつか見られるが、本住居跡に伴うものは明確ではない。

出土遺物は、遺構の遺存状態を反映して非常に少なく、床下掘り方埋土から土器の破片が少量出土しただけである。土器以外では、長さ20cm程度の自然石を利用した砥石(第44図No 2)が1点出土している。

第24号住居跡出土遺物観察表

1	高 坏	A. 脚端部径(12.0)、残存高7.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 脚部1/3。H. 床下埋土中。
2	砥 石	A. 長さ24.2、最大幅7.7、厚さ4.9、重さ1427.86g。D. 緑色岩類。F. 一部剥離。G. 全面に擦痕あり。H. 床下埋土中。



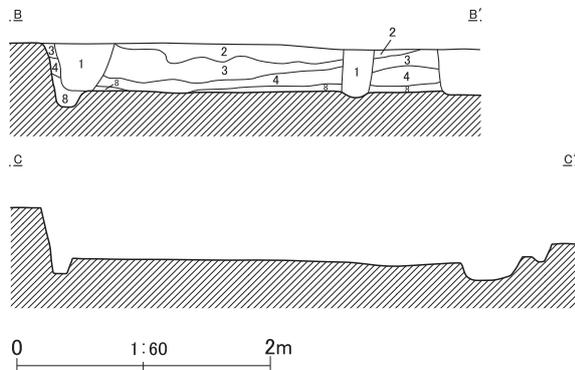
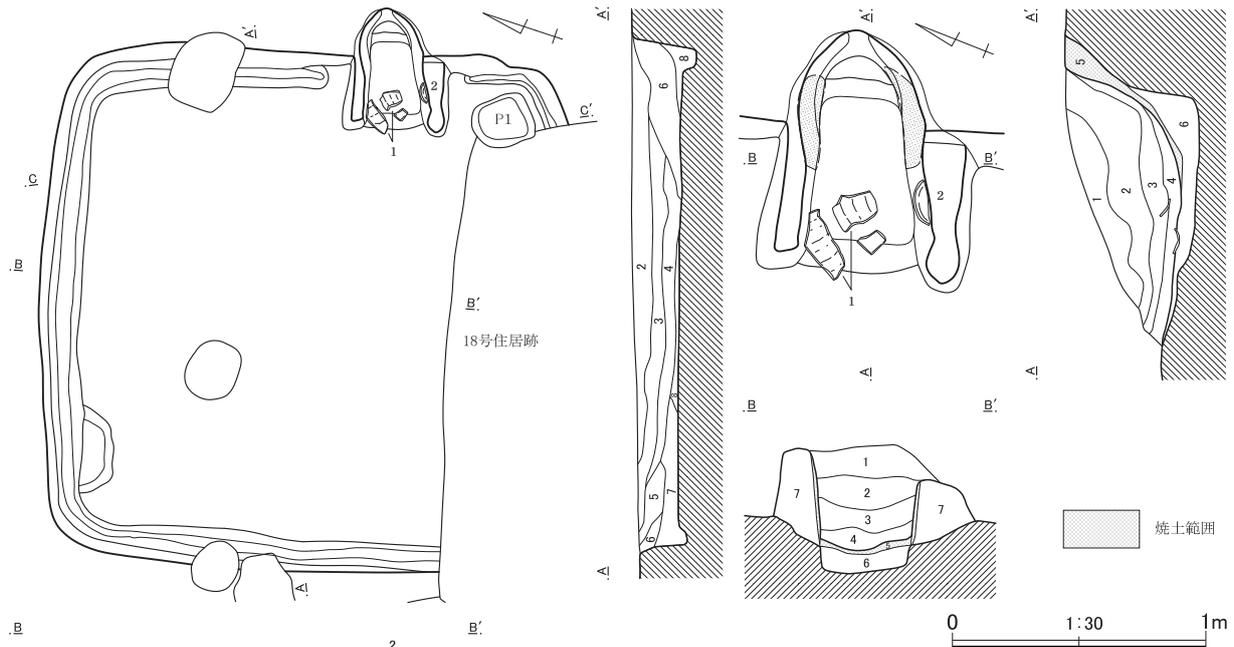
第 44 図 第 24 号住居跡出土遺物

第25号住居跡 (第45図、図版19)

調査区中央の南側寄りに位置し、重複する第18号住居跡・第21号住居跡と第1号掘立柱建物跡の柱穴に切られ、第23号住居跡と第24号住居跡を切っている。平面形は、コーナー部の丸みがやや強い方形を呈していたと推測される。規模は、北東～南西方向4.13m・北西～南東方向4.06mを測る。主軸方位は、N-73°-Eをとる。壁は、直線的に若干傾斜して立ち上がり、中位に稜をもつ。確認面からの深さは、最高で42cmある。壁溝は、残存する各壁下に見られ、途切れずに全周している。上幅が15cm～25cmの比較的整った形態で、床面からの深さは4cm～15cm程度である。床は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的に平坦で堅緻である。本住居跡に伴うピットは、1箇所検出されただけである。P1は、カマド右側の東側コーナー部に位置する。48cm×40cmの隅丸長方形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは13cmある。

カマドは、住居北東側壁の南側寄りの位置に、壁をほぼ直角に掘り込んで付設している。規模は、全長102cm、最大幅84cmを測る。燃烧部は、住居の壁を掘り込んで作られており、内面は比較的良く焼けている。燃烧部底面(火床)は、住居の床面よりも若干低く、奥壁は煙道部に向かって緩やかに立ち上がっている。袖は、燃烧部の奥壁近くまで淡黄褐色粘土を廻して構築している。右側の袖は、第46図No 2の甕を伏せた状態で埋め込んで補強にしている。カマドの焚き口付近からは、第46図No 1の甕の破片が出土しているが、カマドで使用されていたものか補強に使われていたものか明確ではない。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、比較的少なく、カマド内や覆土中から土器が少量出土しただけである。



第25号住居跡土層説明

- 第1層: 暗褐色土層(白色粒子・ローム粒子を均一に含む、粘性、しまりともない。)
- 第2層: 暗褐色土層(ローム粒子を微量に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗褐色土層(ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層: 暗褐色土層(ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

- 第6層: 暗黄褐色土層(ロームブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第7層: 黒褐色土層(ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第8層: 暗褐色土層(ローム粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

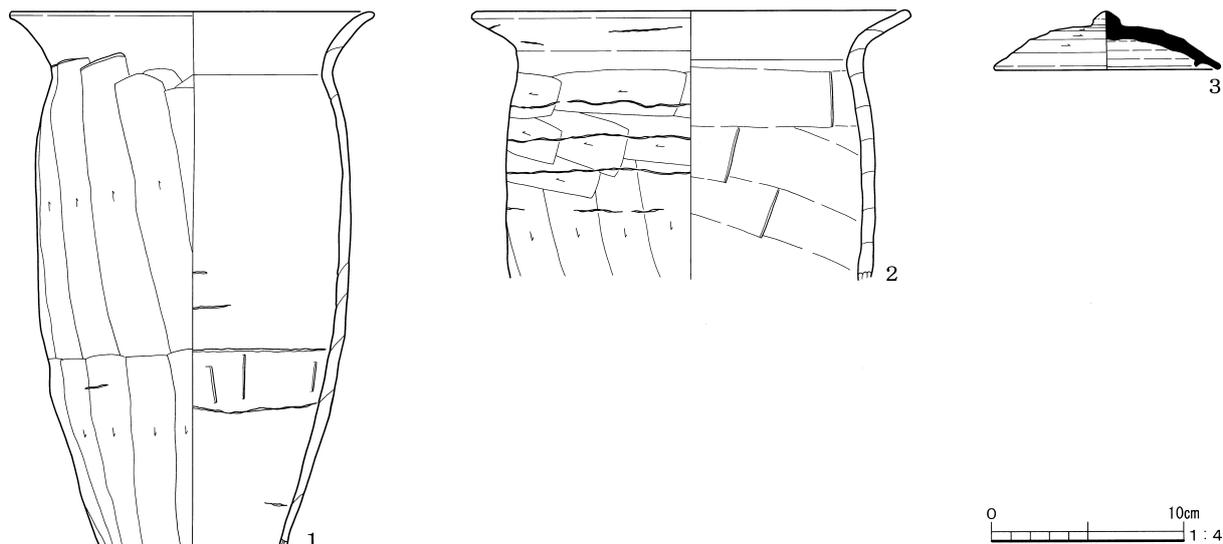
第25号住居跡カマド土層説明

- 第1層: 暗褐色土層(ロームブロック・炭化粒子・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 淡黄褐色土層(淡黄褐色粘土ブロックを均一に、焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗褐色土層(淡黄褐色粘土粒子・炭化粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗黄褐色土層(淡黄褐色粘土ブロック・焼土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層: 暗赤褐色土層(焼土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層: 黒褐色土層(淡黄褐色粘土粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第7層: 淡黄褐色土層(淡黄褐色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第45図 第25号住居跡

第25号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径19.0、残存高28.4。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 3/4。G. 外面煤付着。H. カマド内。
2	甕	A. 口縁部径(23.2)、残存高14.2。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 2/3。H. カマド袖補強材。
3	須恵器蓋	A. 口縁部径(12.0)、器高3.1、つまみ高0.7。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。天井部外面回転ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 1/6。H. 覆土中。



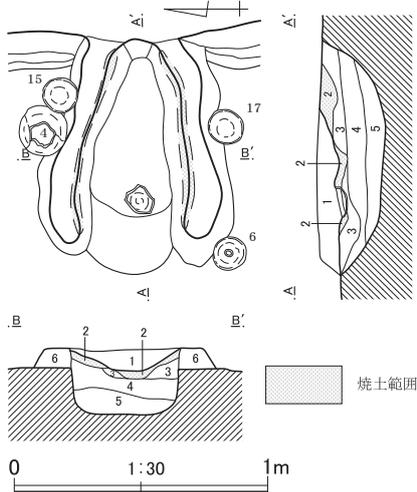
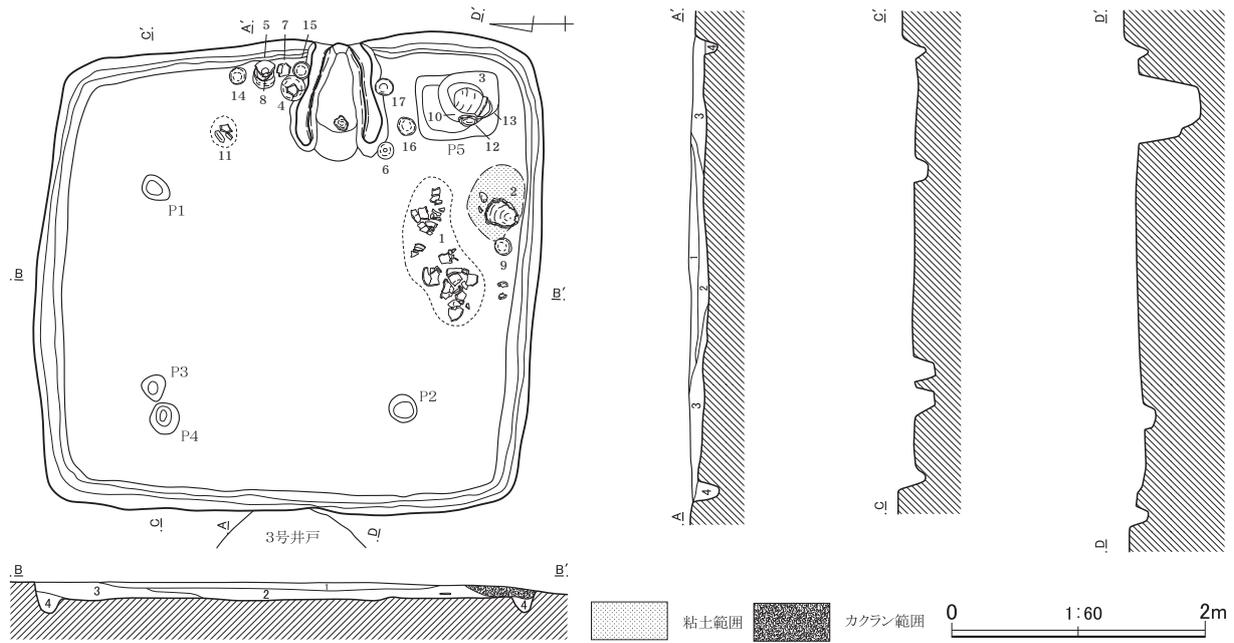
第46図 第25号住居跡出土遺物

第26号住居跡（第47図、図版20）

調査区中央の南側寄りに位置し、重複する第3号井戸跡に住居跡の一部を切られている。平面形は、コーナー部がやや丸みを持つ方形であるが、若干平行四辺形状に歪んでいる。規模は、東西方向3.81m・南北方向3.98mを測る。主軸方位は、N-92°-Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で15cmある。各壁下には、幅15cm前後で床面からの深さが10cm程度の、比較的均一な形態の壁溝が途切れずに全周している。床は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式である。細かな凹凸が見られるが、比較的平坦に作られており、全体的に堅緻である。ピットは、住居内から5箇所検出されている。P1～P3は、住居の対角線上に位置し、その配置から4本主柱を構成する主柱穴の一部と考えられる。いずれも20cm前後の円形か楕円形を呈し、床面からの深さは10cm～20cm程度である。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の南東側コーナー部に位置する。65cm×53cmの長方形を呈し、南側に向かって二段に深くなっている。床面からの深さは53cmあり、中からは完形の甕と坏が出土している。

カマドは、住居東側壁の中央からやや南側に寄った位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長93cm、最大幅78cmを測る。燃烧部は、住居内にあり内面は比較的良く焼けている。燃烧部底面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、煙道部に向かって緩やかに傾斜している。燃烧部内に支脚が据えられていたような痕跡は見られない。袖は、ロームブロックを多量含む暗黄褐色粘土を、壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、カマド周辺や南側壁際中央付近の床面上及びP5の貯蔵穴内から、完形に近い土器が比較的多く出土している。これらの土器は、その出土状態から見て、本住居で使用されていたものが、住居の廃絶に伴ってそのまま遺棄されたものと推測される。この中で、カマド左側から多くの土器とともに並んで出土したNo5の小形鉢とNo8の坏は、台に再利用された甕上半部の上に重ねられた状態で出土している。この他では、貯蔵穴西側の住居南側壁際中央付近の床面上から、カマド袖の構築材と同一の粘質ロームの塊がまとまって出土している。



第26号住居跡土層説明

第1層:暗灰褐色土層(白色粒子・鉄斑を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第2層:暗灰褐色土層(ローム粒子・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第3層:暗褐色土層(ローム粒子・鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第4層:暗褐色土層(ロームブロック・鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第26号住居跡カマド土層説明

第1層:黒褐色土層(白色粒子を均一に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第2層:暗赤褐色土層(焼土層。粘性に富み、しまりを有する。)

第3層:暗灰褐色土層(焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第4層:暗灰褐色土層(ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

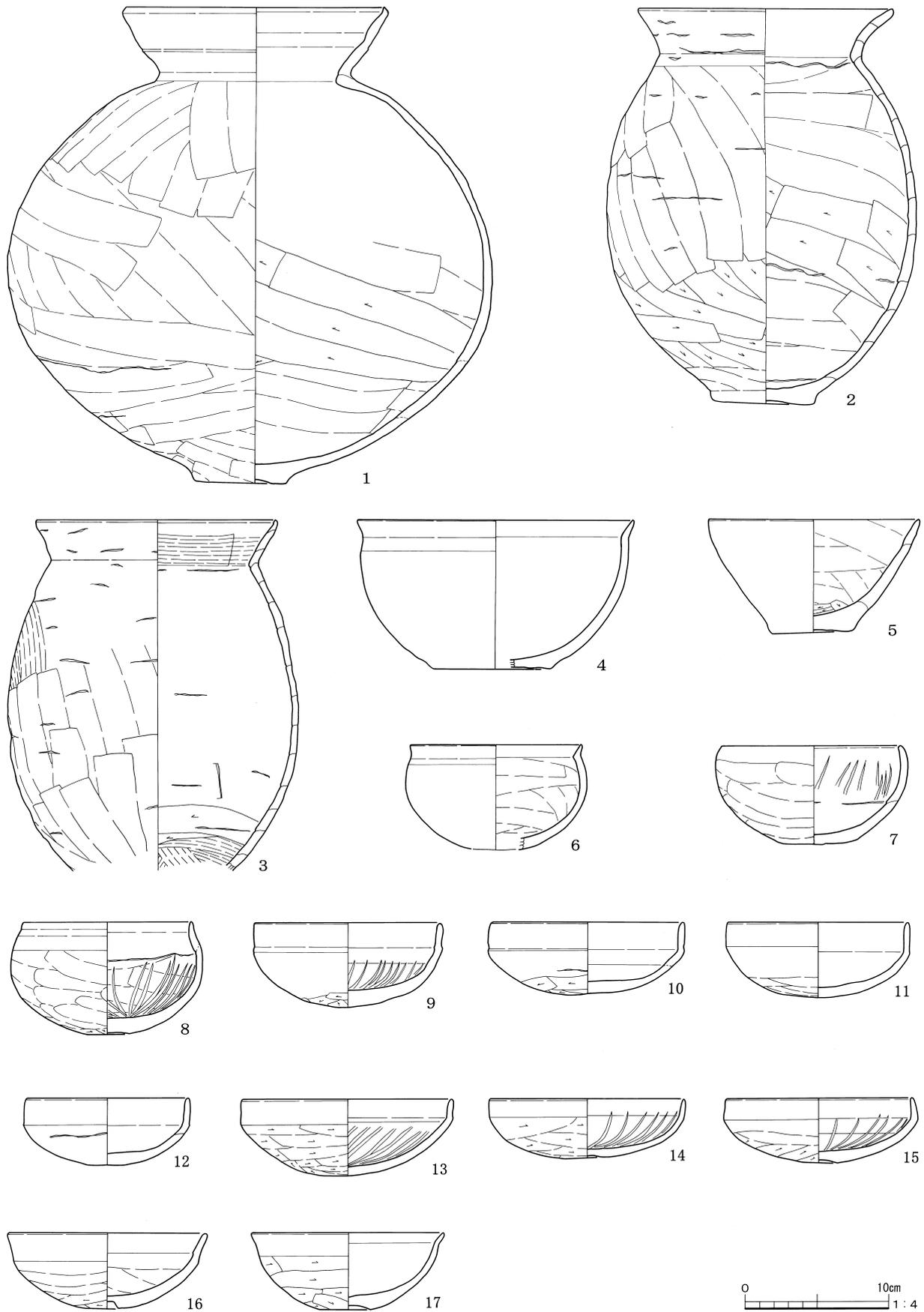
第5層:暗灰褐色土層(ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第6層:暗黄褐色土層(ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第 48 図 第 26 号住居跡

第26号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A. 口縁部径18.7、器高33.8、底部径6.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面篋ナデ、内面篋ナデの後中位ケズリ。底部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面付近。
2	甕	A. 口縁部径17.9、器高28.1、底部径7.0。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半・下端ナデ、内面篋ナデの後中位ケズリ。底部内外面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外一灰黄褐色、内一にぶい赤褐色。F. 3/4。H. 床面直上。
3	甕	A. 口縁部径16.9、残存高24.8。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面木口状工具によるナデ。胴部外面篋ナデ、内面篋ナデ・下位木口状工具によるナデの後ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一にぶい橙色、内一にぶい黄色。F. 底部欠損。H. 貯蔵穴(P5)内。
4	鉢	A. 口縁部径19.5、器高10.5、底部径(8.3)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。G. 器表面は荒れている。H. 床面直上。
5	鉢	A. 口縁部径14.7、器高8.1、底部径5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部～体部外面ナデ、内面篋ナデ。底部内外面ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。H. No8の坏と重なって出土。
6	坏	A. 口縁部径12.1、残存高(7.5)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一明赤褐色、内一黒色。F. 底部欠損。G. 外面は荒れている。H. 床面直上。



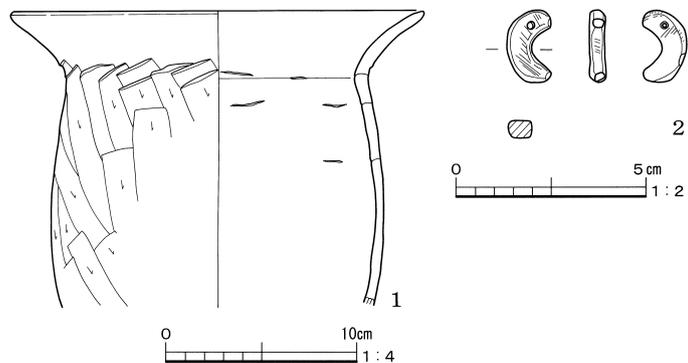
第 49 图 第 26 号住居跡出土遺物

7	坏	A. 口縁部径12.6、器高7.0、底部径4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ナデの後放射状暗文。底部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一赤褐色。F. 2/3。G. 内面は荒れている。H. 床面付近。
8	坏	A. 口縁部径11.8、器高7.9、底部径2.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面笠ナデの後放射状暗文。底部外面ナデ、内面笠ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一明赤褐色、内一にぶい赤褐色。F. 2/3。H. 胴部上半の甕の上に重ねられて出土。
9	坏	A. 口縁部径13.3、器高6.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ナデの後放射状暗文。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。H. 床面直上。
10	坏	A. 口縁部径13.5、器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一赤褐色。F. 完形。H. 貯蔵穴(P5)内。
11	坏	A. 口縁部径12.8、器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面笠ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。H. 床面直上。
12	坏	A. 口縁部径11.3、器高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一明褐色、内一暗灰黄色。F. 完形。G. 器表面は荒れている。H. 貯蔵穴(P5)内。
13	坏	A. 口縁部径14.8、器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデの後放射状暗文。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 貯蔵穴(P5)内。
14	坏	A. 口縁部径13.7、器高4.2、底部径2.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデの後放射状暗文。底部外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。H. 床面直上。
15	坏	A. 口縁部径13.0、器高4.6、底部径2.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデの後放射状暗文。底部外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一赤褐色。F. 口縁部一部欠損。H. 床面付近。
16	坏	A. 口縁部径14.0、器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ、内面笠ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一黒褐色。F. 完形。H. 床面直上。
17	坏	A. 口縁部径13.5、器高5.4、底部径3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ナデ、内面笠ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一明赤褐色、内一にぶい褐色。F. 完形。G. 内面は荒れている。H. 床面直上。

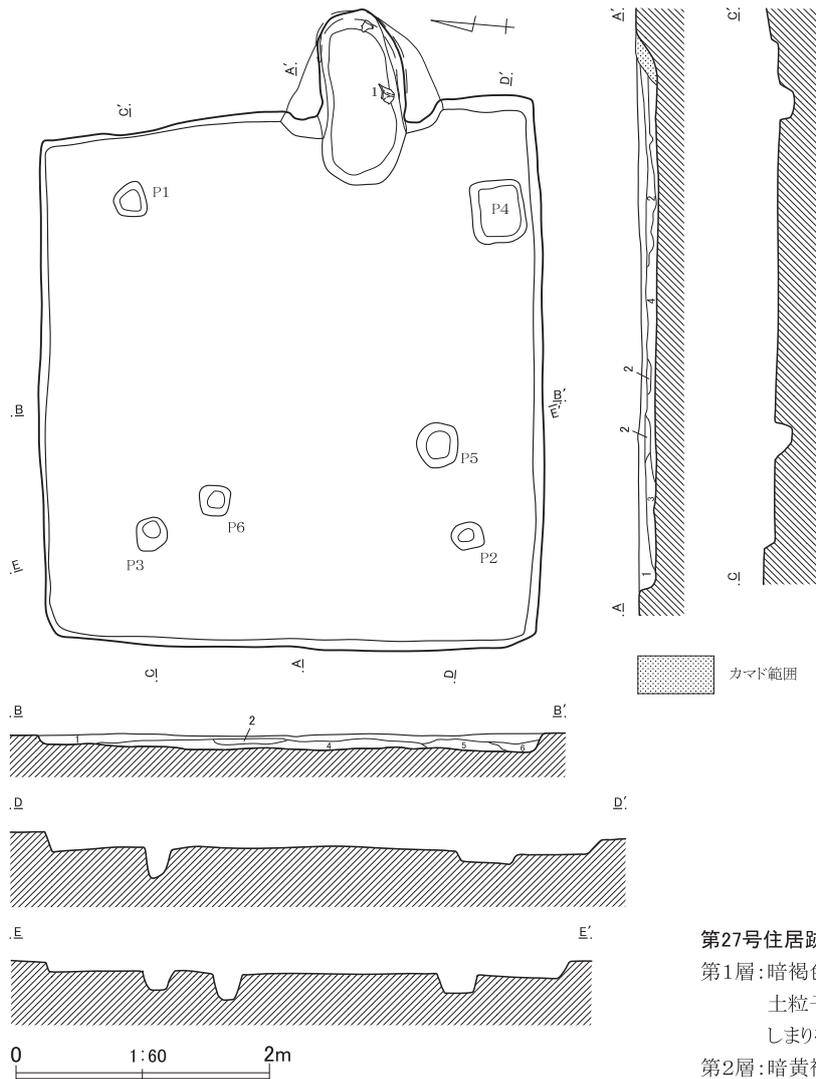
第27号住居跡（第51図、図版21）

調査区の中央付近に単独で位置する。平面形は、方形を呈するが、東西両側壁が若干開きやや台形状に歪んでいる。規模は、東西方向4.38m・南北方向4.00mを測る。主軸方位は、N—85°—Eをとる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で15cmある。各壁下に壁溝は見られない。床は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、比較的平坦に作られている。ピットは、住居内から6箇所検出されている。P1～P3は、ほぼ住居の対角線上に位置し、その配置から4本支柱を構成する支柱穴の一部の可能性がある。いずれも25cm前後の不整形を呈し、床面からの深さは12cm～23cmある。

P4は、カマド右側の住居南東側コーナー部分付近に位置する。形態は、50cm×42cmの比較的整った長方形を呈しているが、床面からの深さは10cmしかない。P5とP6は、住居の西側に位置する。いずれも25cm～30cmの不整形を呈し、床面からの深さは15cmと20cmである。



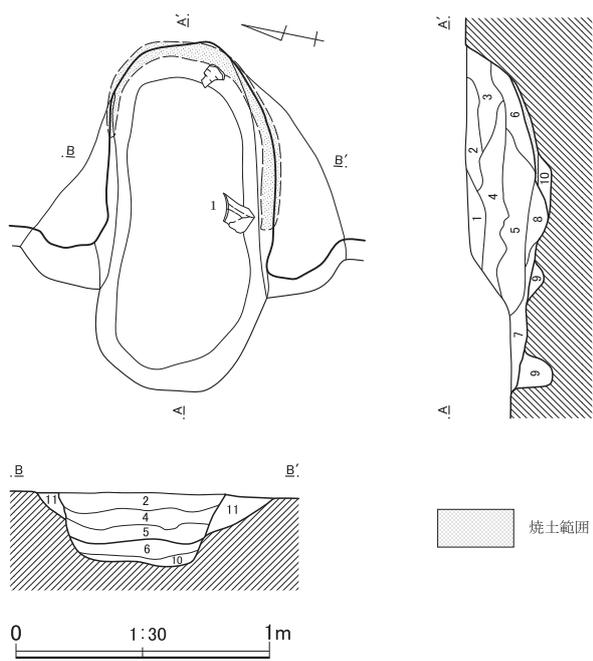
第50図 第27号住居跡出土遺物



第27号住居跡土層説明

- 第1層:暗褐色土層(ローム粒子・焼土粒子を中量、白色粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を中量、焼土粒子・焼土ブロック・白色粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子・白色粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:暗褐色土層(白色粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層:暗褐色土層(ローム粒子を中量、焼土粒子・焼土ブロック・白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層:黒褐色土層(ロームブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

カマド範囲



第27号住居跡カマド土層説明

- 第1層:暗褐色土層(ロームブロックを中量、焼土ブロック・焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗黄褐色土層(焼土ブロック・焼土粒子を中量、ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:暗赤灰色土層(焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第4層:暗褐色土層(白色粒子を中量、ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層:暗褐色土層(ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を少量、褐灰色粘土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層:黒褐色土層(焼土ブロック・焼土粒子を少量、白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第7層:黒褐色土層(白色粒子を中量、焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第8層:暗褐色土層(褐灰色粘質土ブロック・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第9層:暗黄灰色土層(ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第10層:暗黄褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第11層:暗黄褐色土層(ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

焼土範囲

第51図 第27号住居跡

カマドは、住居東側壁のやや南側に寄った位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長137cm、最大幅130cmを測る。燃烧部は、住居の壁を掘り込んで作られている。燃烧部底面(火床)は、住居の床面よりも5cm～10cm程度低く、奥壁は煙道部に向かって緩やかに立ち上がっている。燃烧部内に支脚の痕跡は見られない。袖は、ロームブロックを多量含む暗黄褐色粘土を、燃烧部の奥壁近くまで廻して構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、カマド内や覆土中から、土器が少量出土している。土器以外では、覆土中から小形の石製勾玉(第50図No2)が1点出土している。

第27号住居跡出土遺物観察表

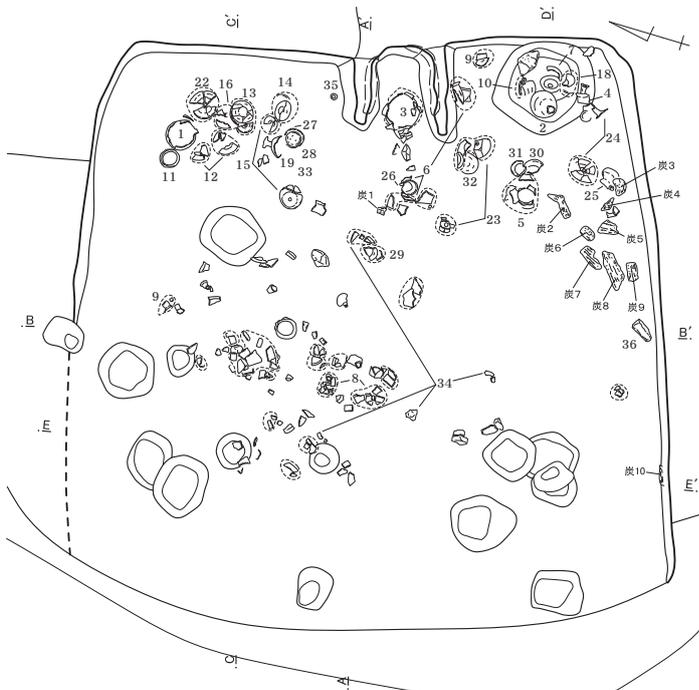
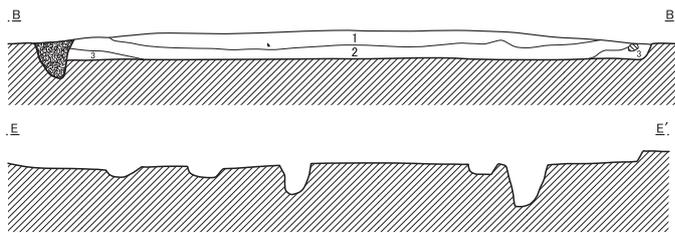
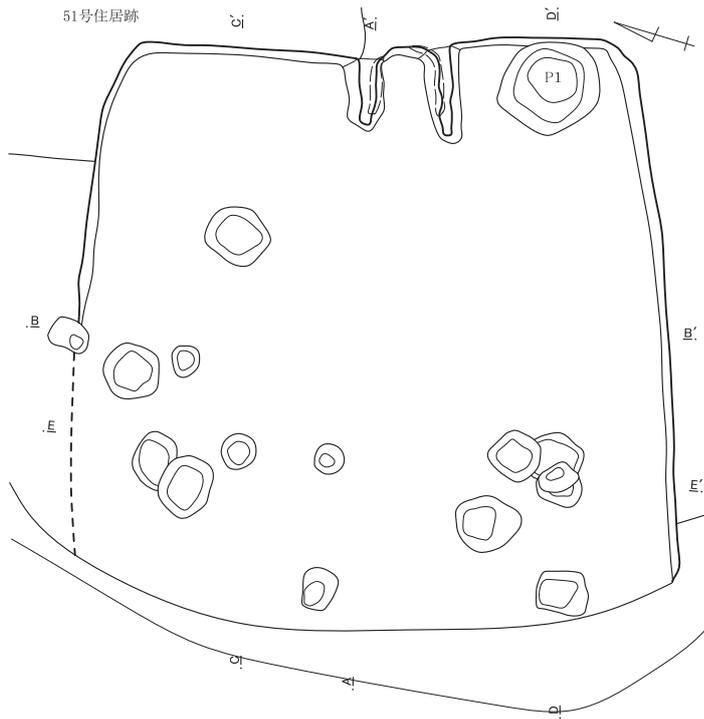
1	甕	A. 口縁部径(21.8)、残存高15.6。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 口縁～胴部片。G. 内面は荒れている。H. カマド内。
2	石製品 (勾玉)	A. 全長1.9、最大幅0.75、厚さ0.45、重量1.46g。C. 表裏面とも丁寧な研磨。D. 蛇紋岩。F. 完形。G. 上端に穿孔痕あり。H. 覆土中。

第28号住居跡(第52図、図版22～24)

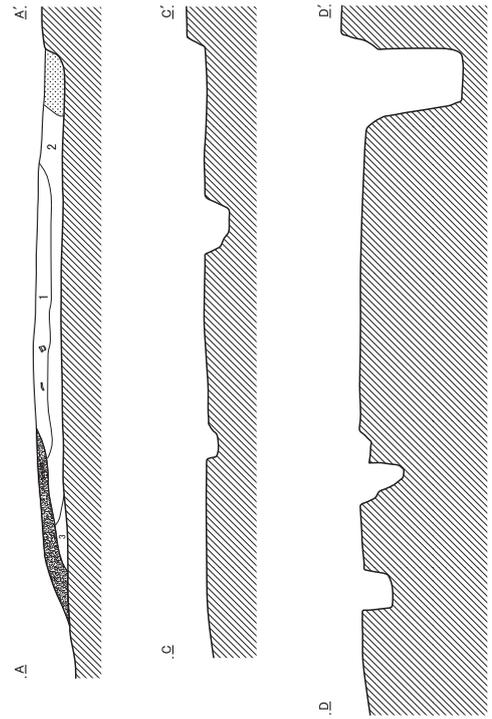
調査区の中央付近に位置し、重複する第51号住居跡を切っている。本住居跡の南西側は、後世の水田造成によってすでに削平されている。平面形は、残存する部分から推測すると、方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、北西～南東方向が4.64m、北東～南西方向は4.65mまで測れる。主軸方位は、N-73°-Eをとる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で19cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式である。細かな凹凸が見られるが、全体的に平坦に作られている。住居中央部は比較的堅く緻密で、周辺部はやや軟弱である。ピットは、住居の西側から比較的多く検出されているが、大半は中世以降のものである。本住居跡に確実に伴うと考えられるものは、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置するP1だけである。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、82cm×73cmの不整形円形を呈している。床面からの深さは80cmあり、内部からは甕や坏の完形に近い土器が多く出土している。本住居跡は、火災によって消失した住居のようで、住居の中央部や南側からは複数の炭化材が出土し、カマドの前面からは熱によって硬化したカマド天井部の一部と思われる大形の粘土塊が出土している。この炭化材については、樹種同定の結果、クヌギ節1(No1)、クリ6(No2・5～8・10)、クワ属3(No3・4・9)であることが分かっている(第V章第1節)。

カマドは、住居北東側壁の中央やや南側に寄った位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長77cm、最大幅91cmを測る。燃烧部は、住居内にあり内面はあまり良く焼けていない。燃烧部底面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、奥壁は住居の壁と一致している。燃烧部底面のほぼ中央には、高坏を伏せて支脚にした転用支脚が据えられている。この転用支脚の上からは甕が1個体出土していることから、本カマドの土器の掛け方は1個単独であったことがわかる。袖は、ロームブロックを均一に含む暗褐色粘土を壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

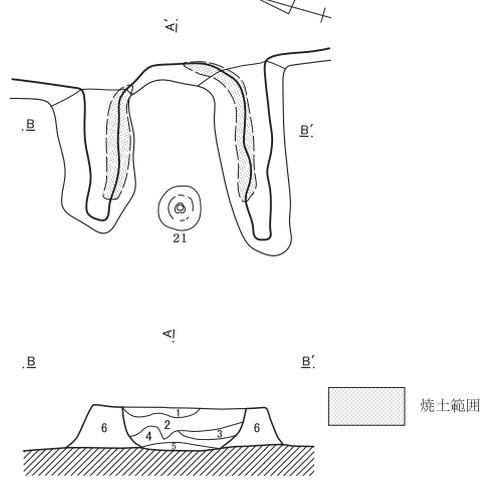
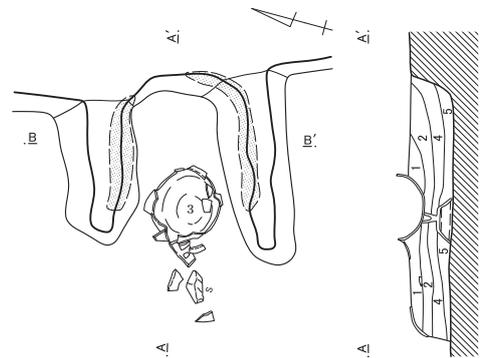
出土遺物は、住居跡内から多量の土器が出土している(第53～55図)。このうち、本住居跡に伴うものは、カマドや貯蔵穴の内部及びそれらの周辺の床面上から出土したもので、住居跡中央付近の覆土



0 1:60 2m



カマド範囲 石断面
 カクラン範囲



0 1:30 1m

第52図 第28号住居跡

第28号住居跡土層説明

- 第1層:暗褐色土層(白色粒子を均一に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第2層:暗褐色土層(ローム粒子・炭化粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第3層:暗褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

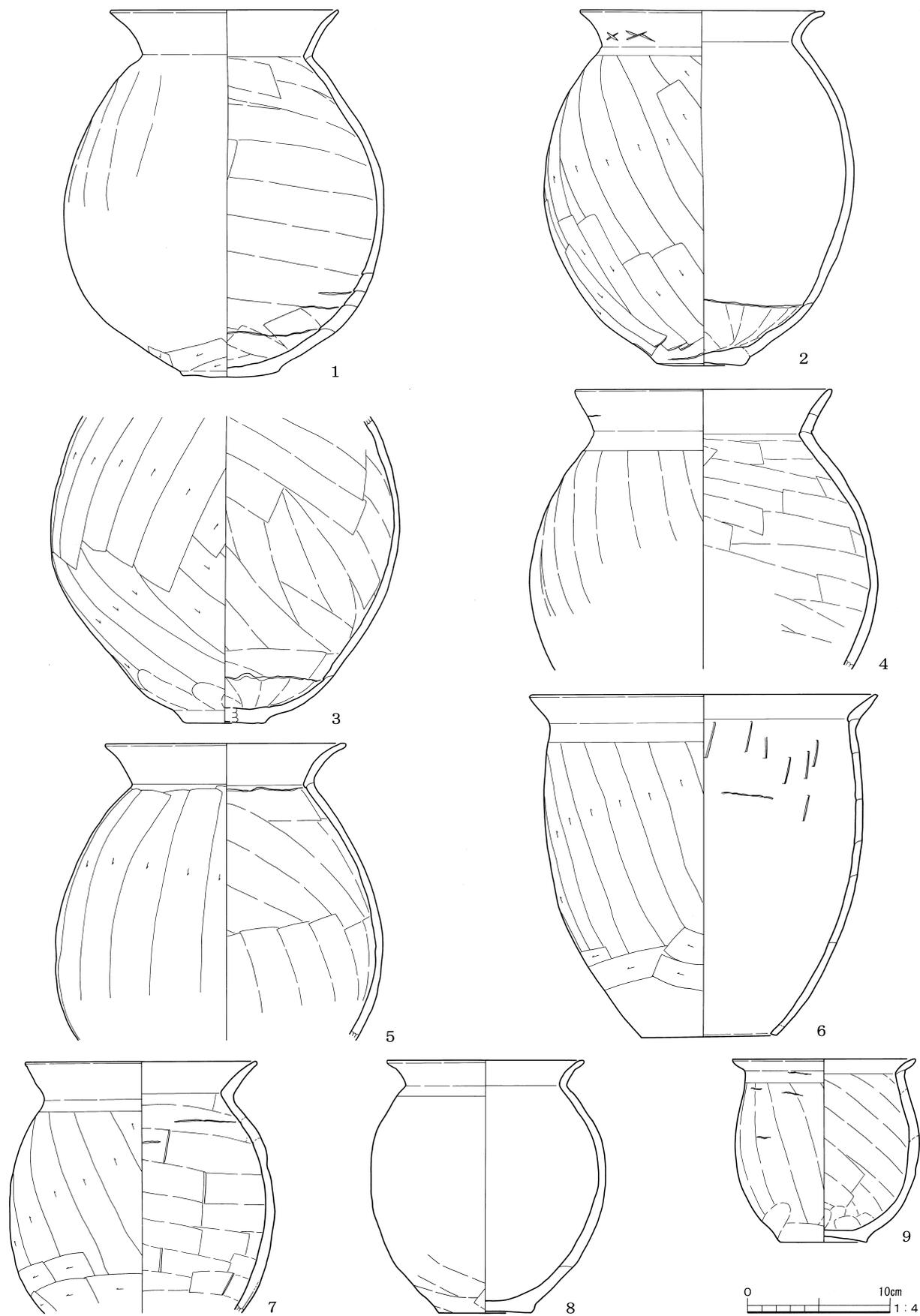
第28号住居跡カマド土層説明

- 第1層:暗褐色土層(焼土粒子を均一に、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第2層:黒褐色土層(ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第3層:暗褐色土層(焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。)
 第4層:暗褐色土層(ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第5層:暗褐色土層(ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第6層:暗褐色土層(ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

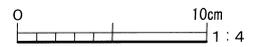
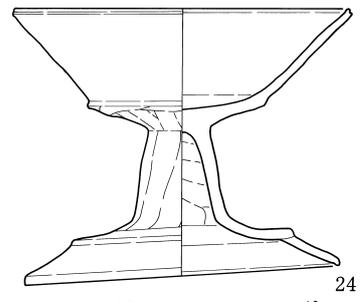
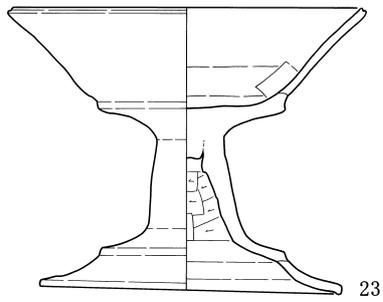
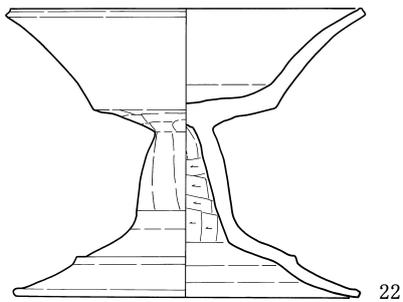
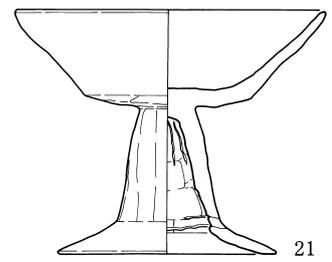
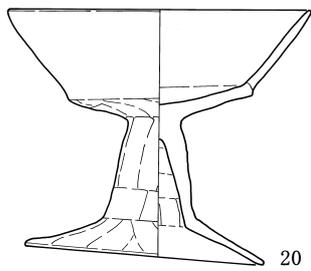
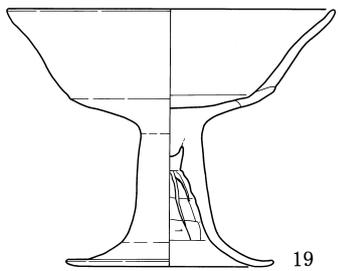
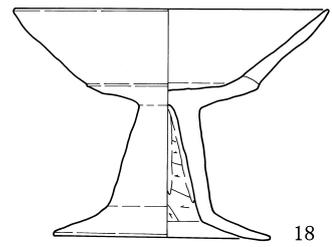
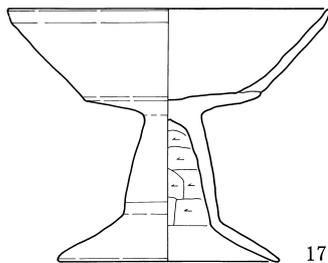
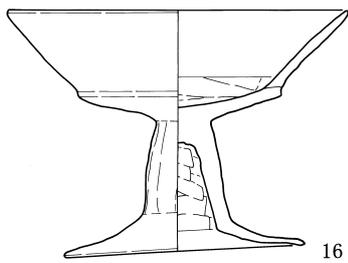
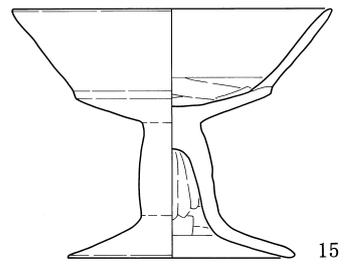
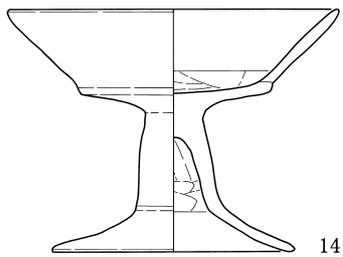
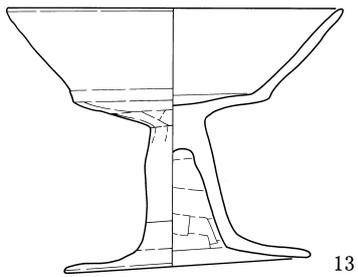
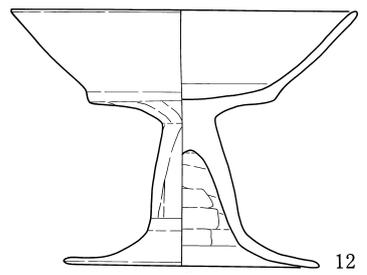
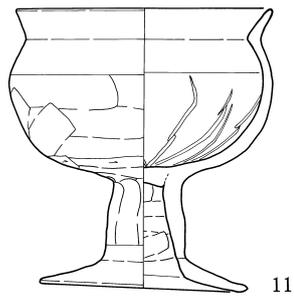
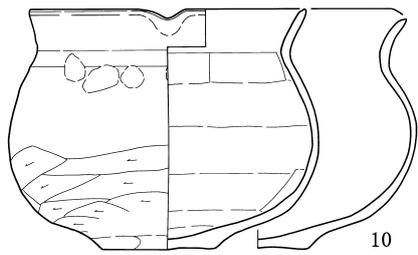
中から出土した土器群は、その出土状態から見て住居廃絶後の覆土埋没過程中に周辺から投棄されたものと考えられる。土器以外では、覆土中から多くの土壁の破片(図版110)や比較的大きな自然石を使用した磨石の破片(第55図No36)が1点出土している。

第28号住居跡出土遺物観察表

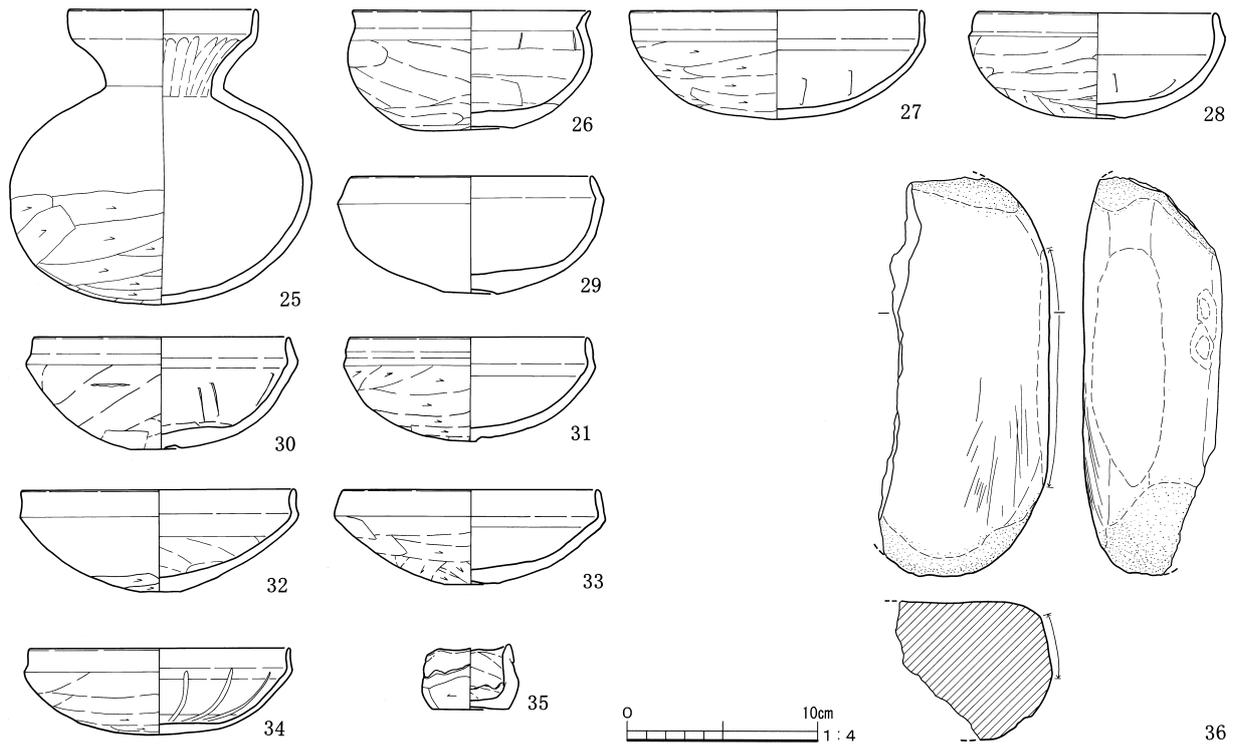
1	甕	A. 口縁部径(15.9)、器高26.0、底部径6.6。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面篋ナデ・下端ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一赤褐色。F. 4/5。H. 床面付近。
2	甕	A. 口縁部径17.0、器高25.2、底部径6.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい褐色、内一赤褐色。F. ほぼ完形。H. 貯蔵穴(P1)内。
3	甕	A. 底部径(5.5)、残存高21.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリの後下端ナデ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 3/4。H. カマド内。
4	甕	A. 口縁部径18.0、残存高19.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい褐色、内一明赤褐色。F. 1/2。H. 床面付近。
5	甕	A. 口縁部径16.8、残存高20.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。H. 床面付近。
6	大形甕	A. 口縁部径24.4、器高24.2、底部径9.5。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい褐色、内一明赤褐色。F. 2/3。G. 内面は荒れている。H. 床面付近。
7	甕	A. 口縁部径16.2、残存高17.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 底部欠損。G. 二次焼成を受け器表面は荒れている。H. 貯蔵穴(P1)内。
8	小形甕	A. 口縁部径(13.8)、器高17.8、底部径6.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面篋ナデ。底部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい赤褐色、内一橙色。F. 1/2。G. 器表面は荒れている。H. 覆土中。
9	小形甕	A. 口縁部径(12.8)、器高12.9、底部径6.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 2/3。H. 床面直上。
10	鉢	A. 口縁部径14.4、器高12.7、底部径(6.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一赤褐色、内一黒褐色。F. 4/5。G. 片口を有する。頸部外面に指頭圧痕あり。H. 貯蔵穴(P1)内。
11	脚付鉢	A. 口縁部径13.6、器高15.0、底部径11.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデの後放射状暗文。脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。H. 覆土中。
12	高坏	A. 口縁部径18.2、器高13.6、底部径13.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ、内面篋ナデ。脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 覆土中。
13	高坏	A. 口縁部径17.6、器高14.0、底部径12.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 脚端部1/3欠損。H. 床面付近。



第53图 第28号住居跡出土遺物(1)



第 54 图 第 28 号住居跡出土遺物 (2)



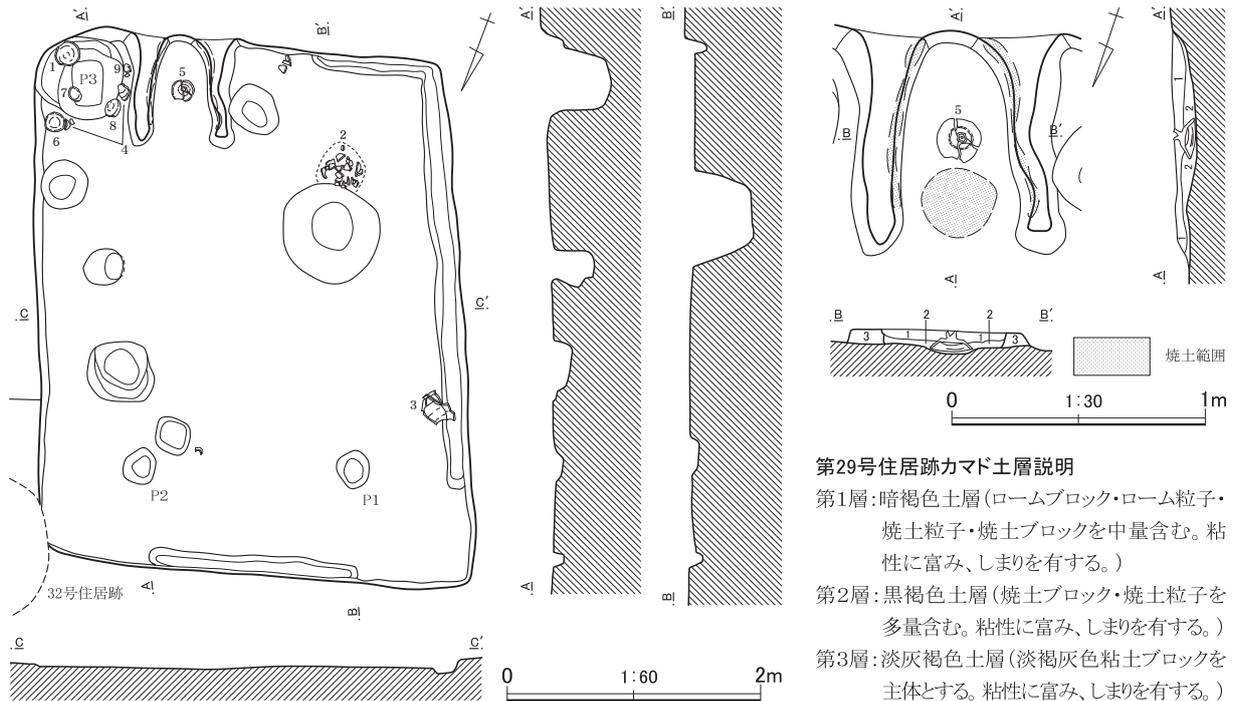
第55図 第28号住居跡出土遺物(3)

14	高 坏	A. 口縁部径17.4、器高12.8、底部径(12.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ、内面篋ナデ。脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 脚部1/3欠損。H. 床面付近。
15	高 坏	A. 口縁部径16.7、器高13.1、底部径11.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ、内面篋ナデ。脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 脚柱部一部欠損。H. 床面付近。
16	高 坏	A. 口縁部径17.8、器高13.0、底部径12.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ、内面篋ナデ。脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面付近。
17	高 坏	A. 口縁部径(17.0)、器高13.3、底部径11.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面篋ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一明赤褐色、内一黒色。F. 2/3。H. カマド内。
18	高 坏	A. 口縁部径(16.5)、器高12.2、底部径11.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリの後ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一赤褐色。F. 坏部1/2欠損。H. 貯蔵穴(P1)内。
19	高 坏	A. 口縁部径17.2、器高13.6、底部径(10.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ、内面篋ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 脚端部3/4欠損。H. 床面直上。
20	高 坏	A. 口縁部径16.0、器高13.5、底部径12.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面篋ナデ。脚柱部外面篋ナデ、内面ナデ。脚端部外面篋ナデ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
21	高 坏	A. 口縁部径16.2、器高12.9、底部径11.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 脚端部1/4欠損。G. 内面は荒れている。H. カマド内支脚。
22	有段高坏	A. 口縁部径18.8、器高15.3、底部径18.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 床面付近。
23	有段高坏	A. 口縁部径18.9、器高15.2、底部径16.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ、内面篋ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部一部欠損。H. 坏部床面直上、脚部覆土中。

24	有段高坏	A. 口縁部径17.5、器高14.7、底部径16.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ、内面篋ナデ。脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面直上。
25	有段口縁直口壺	A. 口縁部径10.0、器高15.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。頸部外面ヨコナデ、内面ナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一明褐色、内一明赤褐色。F. 完形。H. 床面直上。
26	坏	A. 口縁部径12.5、器高6.4、底部径4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面篋ナデ。底部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
27	坏	A. 口縁部径15.6、器高5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一明赤褐色、内一赤褐色。F. 口縁部1/4欠損。H. 床面付近。
28	坏	A. 口縁部径12.5、器高5.6、底部径2.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。底部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面付近。
29	坏	A. 口縁部径12.8、器高6.3、底部径2.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部一部欠損。G. 器表面は荒れている。H. 覆土中。
30	坏	A. 口縁部径13.4、器高5.9、底部径2.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。底部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 4/5。H. 床面付近。
31	坏	A. 口縁部径12.6、器高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。底部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一明赤褐色、内一橙色。F. 口縁部1/4欠損。H. 床面付近。
32	坏	A. 口縁部径14.4、器高5.4、底部径1.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。底部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一橙色、内一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面直上。
33	坏	A. 口縁部径13.6、器高5.0、底部径2.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。底部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一にぶい橙色、内一橙色。F. ほぼ完形。H. 床面付近。
34	坏	A. 口縁部径13.7、器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ヨコナデの後放射状暗文。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部1/5欠損。H. 覆土中。
35	ミニチュア	A. 口縁部径4.3、器高3.4、底部径4.0。B. 手捏ね。C. 口縁部内外面ナデ。体部外面ナデの後下位ケズリ、内面ナデ。底部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一灰黄褐色。F. 完形。H. 覆土中。
36	磨石	A. 全長21.2、残存幅8.2、残存厚7.4、残存重1831.89g。D. 輝石安山岩。F. 1/2。G. 表裏面及び側面は全体的に擦られている。H. 覆土中。

第29号住居跡（第56図、図版25）

調査区の中央付近に位置し、重複する第32号住居跡に切られている。本住居跡の上面は、後世の水田造成によって削平されているため、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。平面形は、長方形を呈しているが、若干平行四辺形状に歪んでいる。規模は、南東～北西方向4.26m・南西～北東方向3.43mを測る。主軸方位は、この時期の他の住居跡と異なり、N-156°-Eをとる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高8cmある。壁溝は、住居の北西側壁以外の各壁下に部分的に見られる。いずれも上幅が15cm前後の比較的均一な形態で、床面からの深さは5cm～10cmある。床は、ロームブロックを多量含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、住居中央部は堅く締まっているが、住居の壁際に近い周辺部はやや軟弱である。全体的に細かな凹凸が見られ、比較的平坦に作られている。ピットは、住居跡内から多く検出されているが、本住居跡に伴うと考えられるものはP1～P3の3ヶ所である。P1とP2は、住居のほぼ対角線上に位置し、その配置から4本主柱を構成する主柱穴の痕跡の可能性が考えられる。いずれも長さ30cm弱の不整円形を呈し、床面からの深さ



第 56 図 第 29 号住居跡

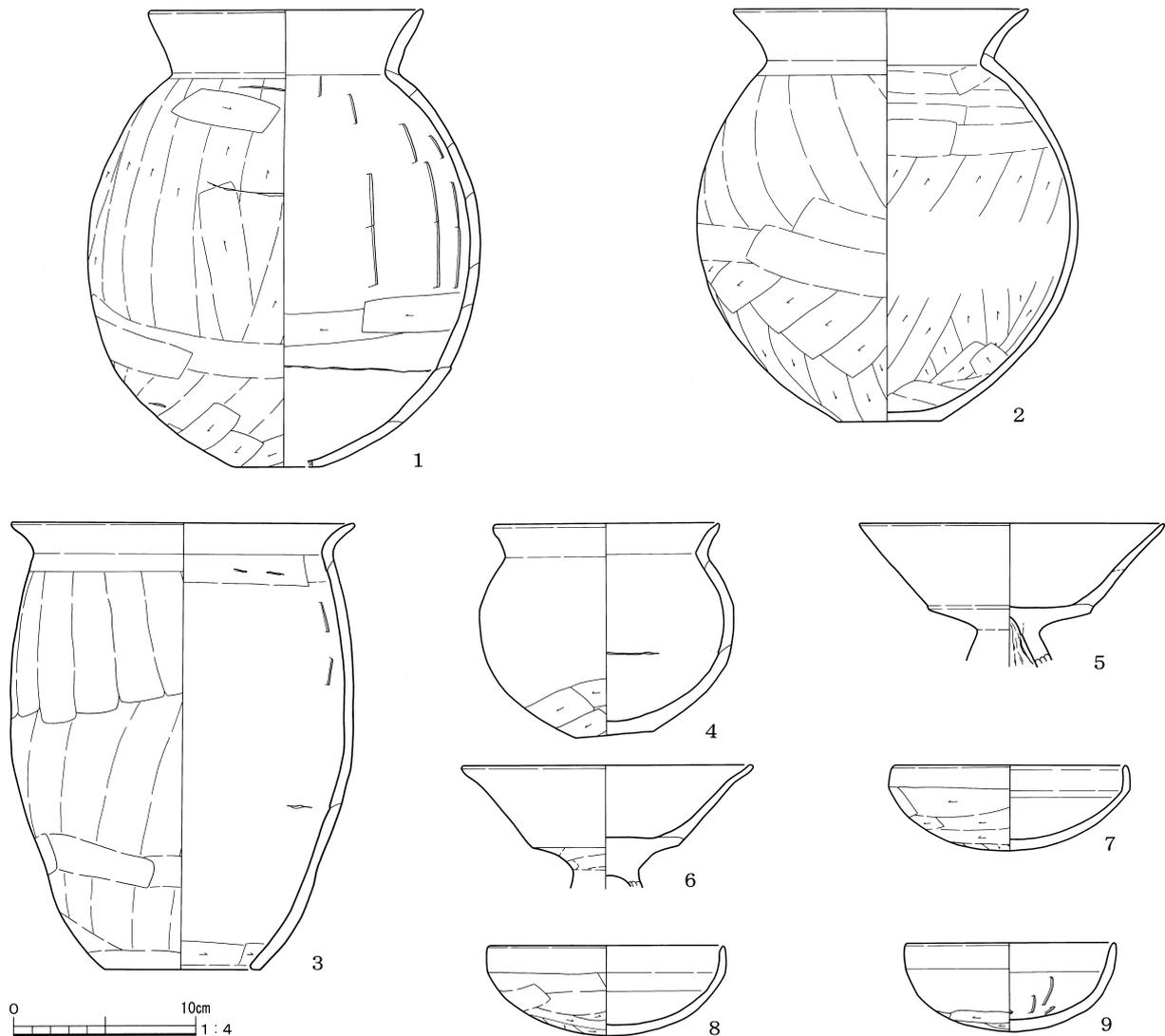
は 6 cm である。P 3 は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド左側の住居東側コーナー部に位置する。66cm×68cm の楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは 50cm である。

カマドは、他の住居跡と異なって住居南東側壁の東側寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長 89cm、最大幅 82cm を測る。燃焼部は、住居内にあり奥壁は住居の壁と一致している。内面は部分的に良く焼けている。燃焼部底面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さである。中央部には高坏を伏せて再利用した転用支脚 1 個据えられており、その支脚の位置から本カマドの土器の掛け方は、1 個単独であったと考えられる。袖は、淡褐灰色粘土を主体とし、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、遺構の遺存状態を反映して比較的少ないが、カマド及び貯蔵穴周辺の床面上から完形に近い土器がいくつか出土している(第 57 図)。

第 29 号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(15.2)、器高 25.5、底部径 5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデの後中位ケズリ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-黒褐色、内-にぶい赤褐色。F. 2/3。H. 貯蔵穴(P 3)上面。
2	甕	A. 口縁部径(16.4)、器高(23.0)、底部径 5.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリの後篋ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-黒褐色、内-赤褐色。F. 3/4。H. 床面直上。
3	大形甗	A. 口縁部径(19.0)、器高 24.8、底部径(8.5)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面篋ナデ・下端ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-赤褐色。F. 1/3。H. 床面直上。
4	小形甕	A. 口縁部径(12.6)、器高 11.9、底部径 4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-明赤褐色、内-暗赤灰色。F. 2/3。G. 器表面は荒れている。H. 床面直上。
5	高坏	A. 口縁部径 16.7、残存高 8.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。脚柱部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 坏部のみ。G. 二次焼成を受け、器表面は荒れている。H. カマド支脚。



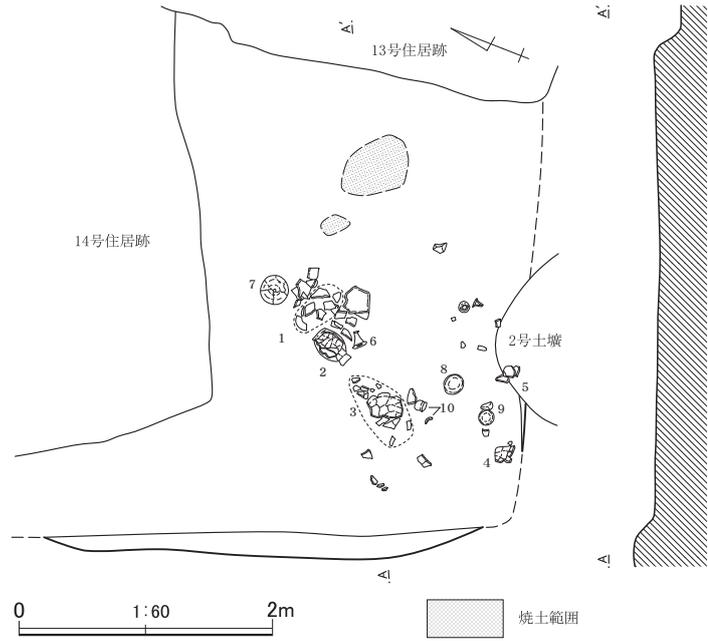
第57図 第29号住居跡出土遺物

6	高 坏	A. 口縁部径16.2、残存高6.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 坏部のみ。H. 床面直上。
7	坏	A. 口縁部径12.8、器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい赤褐色、内-赤褐色。F. ほぼ完形。H. 貯蔵穴(P3)内。
8	坏	A. 口縁部径13.0、器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-赤褐色、内-明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面直上。
9	坏	A. 口縁部径11.6、器高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-褐色、内-明赤褐色。F. 1/2。H. 床面直上。

第30号住居跡（第58図、図版26）

調査区東側の中央付近に位置し、重複する第13号住居跡・第14号住居跡・第2号土壌に切られている。本住居跡は、黒色土中であつたため遺構の確認が難しく、住居跡の南西側壁と南東側壁の一部しか確認できなかった。平面形は、残存する部分から推測すると、方形か長方形を呈していたものと思

われる。規模は、北東～南西方向が4.30mまで、北西～南東方向が3.28mまで測れる。主軸方位は、他の住居跡から推測すると住居の南東側壁の方向(N-73°-E)とほぼ一致していたものと思われる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高22cmある。残存する部分には壁溝は見られない。床は、ロームブロックを微量含む黒褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的に軟弱である。床面上には焼土が分布している場所が2箇所見られるが、あまり焼けておらず、炉の可能性は低いと思われる。

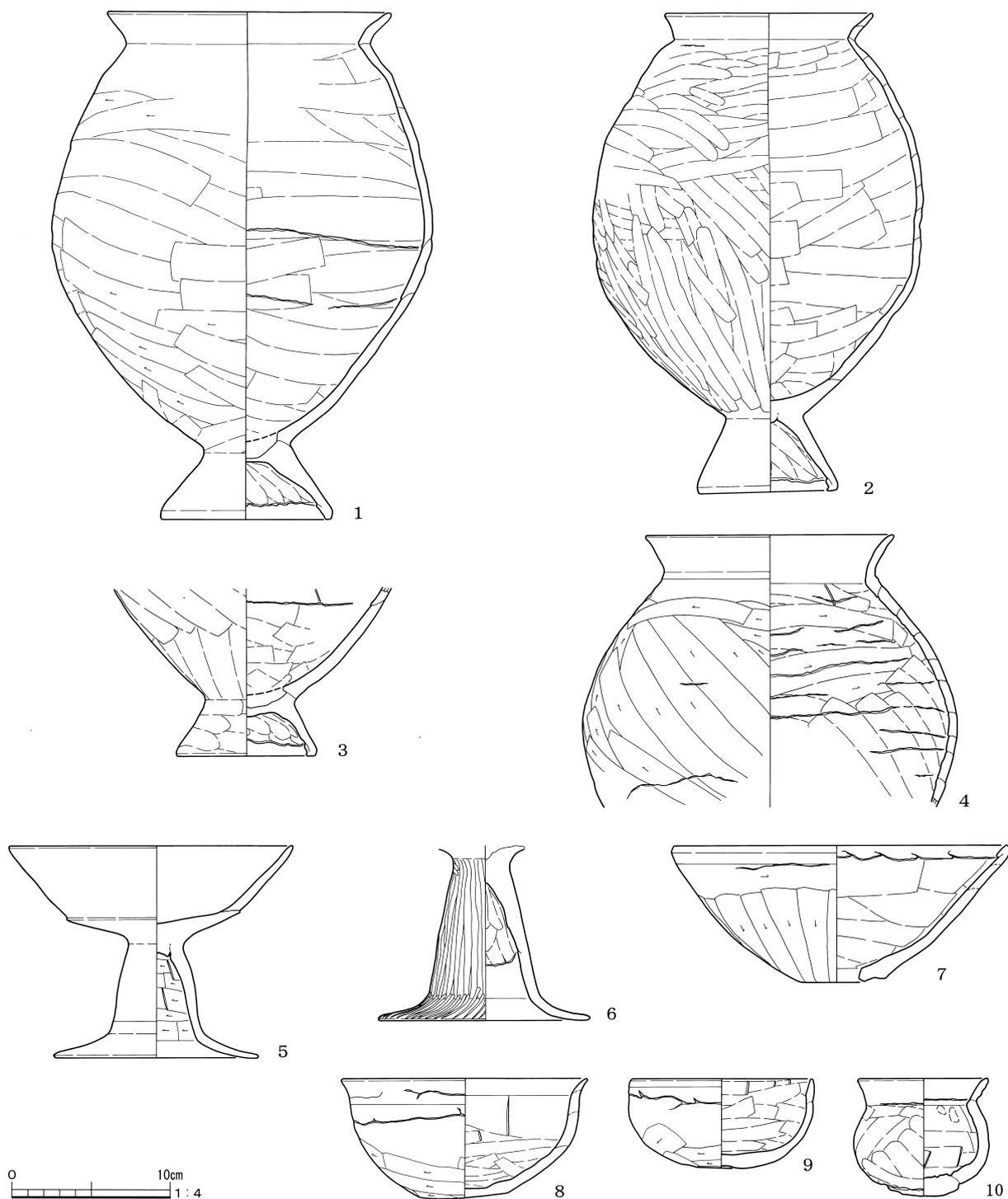


第58図 第30号住居跡

出土遺物は、住居中央部から南側の床面上から、完形に近い土器が複数出土している(第59図)。これらの土器の大半は、その出土状態から見て、本住居で使用していたものを住居の廃絶に伴ってそのまま遺棄したものと推測されるが、No 5の高坏は他の出土した土器群に比べてやや新しいと考えられ、その出土位置からも重複する第2号土壇に伴う可能性が高いと思われる。

第30号住居跡出土遺物観察表

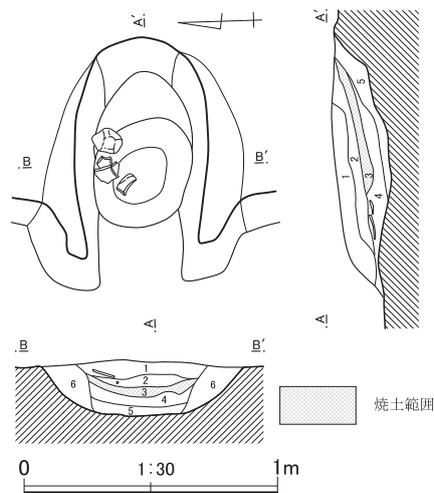
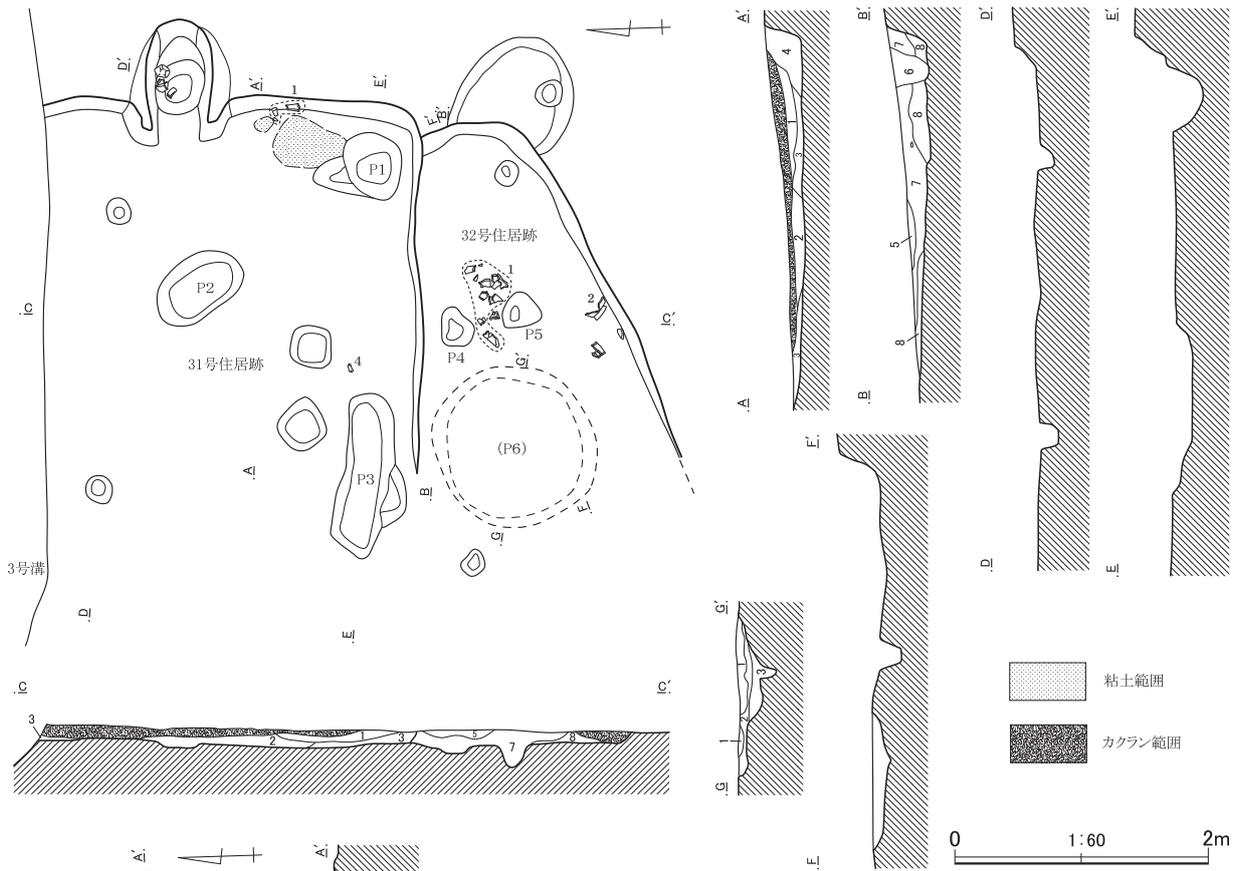
1	台付甕	A. 口縁部径(18.0)、器高32.7、底部径10.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面笠ナデ。脚部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 1/2。H. 床面直上。
2	台付甕	A. 口縁部径(13.2)、器高31.0、底部径8.9。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面笠ナデ。脚部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-黒褐色。F. 2/3。H. 床面直上。
3	台付甕	A. 底部径8.7、残存高8.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部内外面笠ナデ。脚部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい赤褐色、内-黒褐色。F. 2/3。H. 床面付近。
4	甕	A. 口縁部径(15.8)、残存高17.4。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ケズリの後ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-褐色、内-にぶい褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
5	高坏	A. 口縁部径(18.0)、器高13.6、底部径13.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ、内面笠ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 1/2。G. 器表面は荒れている。H. 覆土中。
6	高坏	A. 底部径13.5、残存高11.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部外面ミガキ、内面ナデ。脚端部外面ヨコナデの後ミガキ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 脚部のみ。H. 床面直上。
7	小形甑	A. 口縁部径21.5、器高8.8、底部径5.5。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上位ナデ・中～下位ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ、内面笠ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 完形。H. 床面直上。
8	鉢	A. 口縁部径15.7、器高7.6、底部径5.5。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ、内面笠ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-にぶい赤褐色、内-明赤褐色。F. 完形。H. 床面直上。
9	坏	A. 口縁部径11.6、器高5.7、底部径2.5。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面笠ナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ、内面笠ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-にぶい褐色。F. 完形。H. 覆土中。
10	小形丸底壺	A. 口縁部径8.3、器高7.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面笠ナデ。底部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面直上。



第59図 第30号住居跡出土遺物

第31号住居跡（第60図、図版27）

調査区中央の北側寄りに位置し、重複する第32号住居跡・第49号住居跡・第73号住居跡を切り、第3号溝跡に切られている。本住居跡の西側は、後世の水田造成により削平されている。平面形は、残存する部分から推測すると、方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、東西方向が3mまで、南北方向が2.98mまで測れる。主軸方位は、N-92°-Eをとる。壁は、緩やかに傾斜して立ち



第31・32号住居跡土層説明

〈第31号住居跡〉

- 第1層:暗褐色土層(焼土粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗茶褐色土層(ローム粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:暗褐色土層(ロームブロックを均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:暗灰色土層(暗灰色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

〈第32号住居跡〉

- 第5層:暗灰褐色土層(暗灰褐色粘土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層:黒褐色土層(白色粒子・ロームブロック・暗灰褐色粘土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

- 第7層:暗褐色土層(暗灰褐色粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第8層:暗褐色土層(暗灰褐色粘土粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第31号住居跡カマド土層説明

- 第1層:暗灰褐色土層(ロームブロックを均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗灰褐色土層(ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:暗赤褐色土層(焼土ブロックを均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:暗褐色土層(焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第5層:暗褐色土層(ローム粒子・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第6層:灰白色土層(灰白色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第32号住居跡床下土壌(P6)土層説明

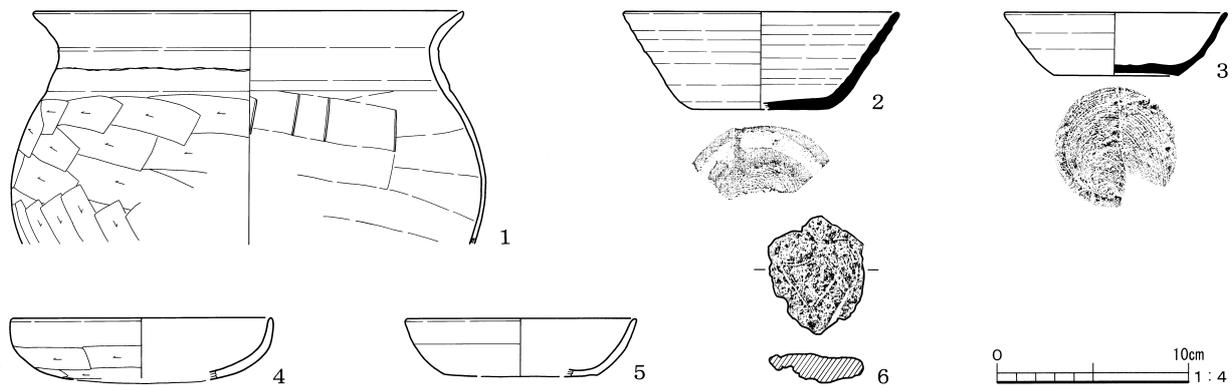
- 第1層:暗灰褐色土層(灰白色粘土粒子・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:灰白色土層(灰白色粘土ブロックを主体とする。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:黒褐色土層(ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第 60 図 第 31・32 号住居跡

上がり、確認面からの深さは最高24cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、やや湾曲している。住居の中央部は比較的堅緻であるが、壁際に近い周辺部はやや軟弱である。ピットは、住居跡内から多く検出されているが、本住居に伴う可能性が高いと思われるものはP1～P3の3箇所である。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東コーナー部に位置する。57cm×46cmの不整形ぎみの形態で、床面からの深さは28cmある。P2は、住居中央部にある。74cm×46cmの楕円形を呈し、床面からの深さは11cmある。P3は、南側壁際にある。132cm×40cmの細長い溝状の形態で、床面からの深さは10cmある。P2・P3ともその性格は不明である。

カマドは、住居東側壁の中央付近に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長100cm、最大幅85cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られており、内面は比較的良く焼けている。燃焼部底面(火床)は、住居の床面よりも若干低く、煙道部に向かって緩やかに傾斜している。燃焼部の中央北側寄りの位置には、長細い自然石が1個縦に据えられており、支脚として据えられていたものかもしれない。袖は、灰白色粘土を主体とし、燃焼部の奥壁近くまで廻して構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、比較的少なく、カマド内外や覆土中から土器片が少量出土しただけである。遺物以外では、カマドと貯蔵穴の間の床面上より、カマド構築材と同じ灰白色粘土の塊が出土している。



第61図 第31号住居跡出土遺物

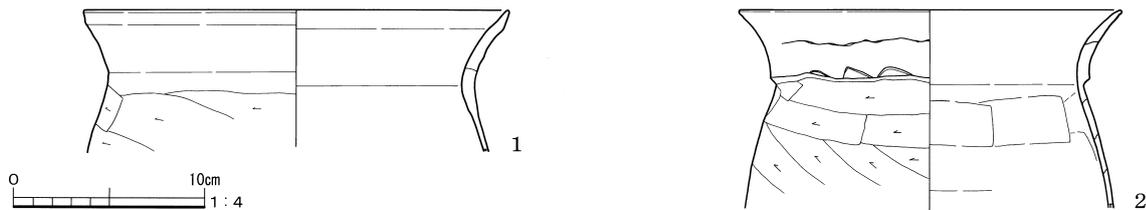
第31号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(22.6)、残存高12.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匱ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁～胴部上位片。H. 覆土中。
2	須恵器 坏	A. 口縁部径(14.6)、器高5.2、底部径(7.2)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後、外周匱ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 1/5。H. カマド内。
3	須恵器 坏	A. 口縁部径11.6、器高3.3、底部径6.5。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 2/3。G. 焼成不良。器表面は風化している。H. 覆土中。
4	坏	A. 口縁部径(13.8)、残存高3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 破片。H. 覆土中。
5	坏	A. 口縁部径(12.2)、器高3.1、底部径(7.9)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一にぶい黄褐色、内一灰黄褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
6	粘土塊	A. 最大長6.3、最大幅5.0、最大厚1.5、重量28.55g。C. 指ナデ。D. 白色粒。E. にぶい黄橙色。F. 完形。H. カマド内。

第32号住居跡（第60図、図版27・28）

調査区中央の北側寄りに位置し、重複する第29号住居跡を切り、第31号住居跡に切られている。本住居跡の西側は、後世の水田造成により削平されており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部がやや丸みの強い方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、北東～南西方向が3.20mまで、北西～南東方向が2.00mまで測れる。主軸方位は、住居の南東側壁の方向（N—66°—E）をとるとと思われる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高27cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。本住居跡に伴うと考えられるピットは、P4～P6の3箇所がある。P4とP5は、住居の中央付近にある。いずれも長さ30cm前後の不整形で、床面からの深さはそれぞれ9cmと17cmある。P6は、住居の床下から検出されたいわゆる床下粘土土壌である。形態は、130cm×123cmの円形を呈し、床面からの深さは20cmある。土壌内には、本遺跡の住居跡のカマド構築材に良く使用されている灰白色粘土が充填されており、その上面は暗灰褐色土によって貼床されている。

出土遺物は、住居内の床面上や覆土中から土器片が少量出土しただけである。



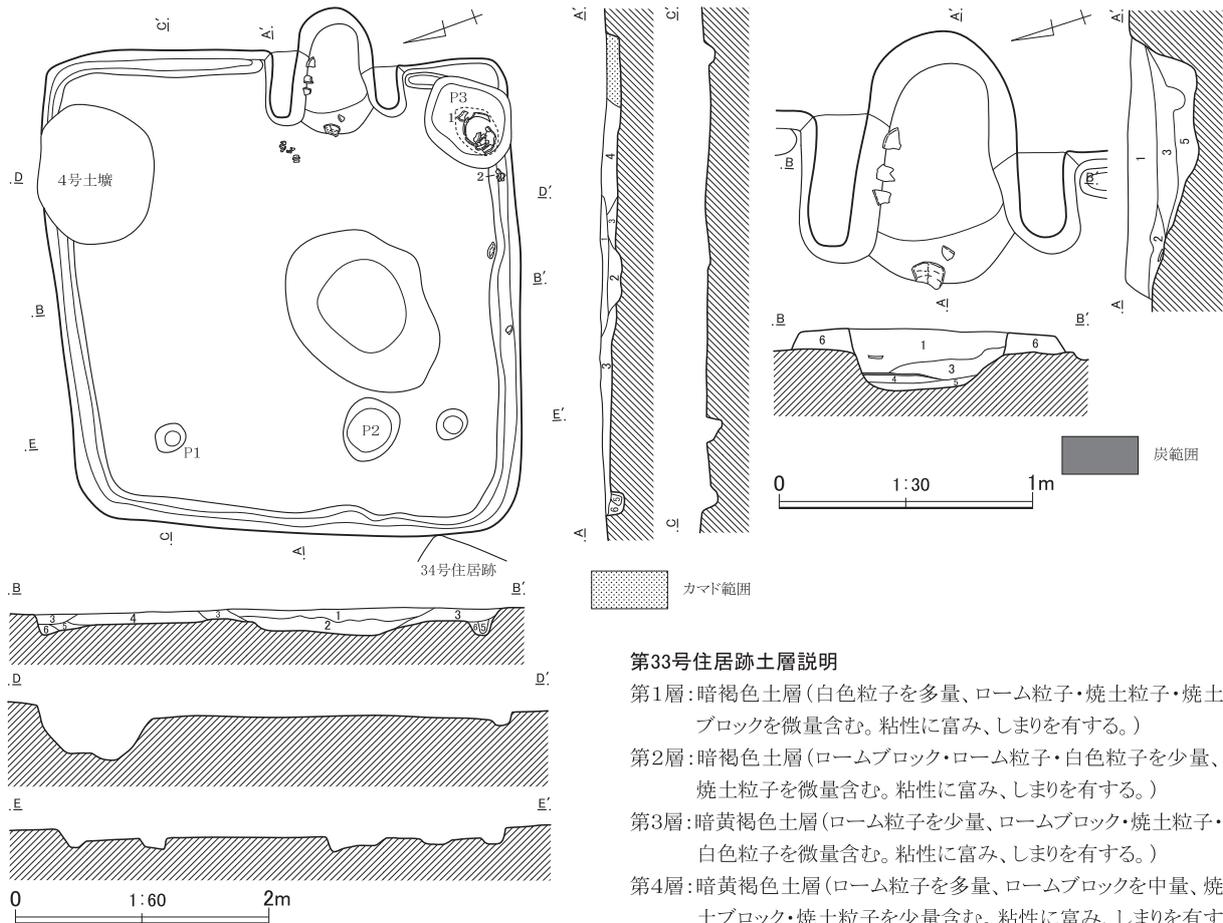
第62図 第32号住居跡出土遺物

第32号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径22.3、残存高7.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窺ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外—橙色。F. 3/4。G. 器表面は荒れている。H. 覆土中。
2	甕	A. 口縁部径(20.2)、残存高10.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窺ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外—にぶい赤褐色、内—にぶい黄褐色。F. 1/4。H. 床面直上。

第33号住居跡（第63図、図版29）

調査区西側の中央付近に位置し、重複する第34号住居跡を切り、第4号土壌に切られている。平面形は、コーナー部がやや丸みを持つ方形であるが、北東側壁がやや歪んでいる。規模は、北東～南西方向3.74m、北西～南東方向3.80mを測る。主軸方位は、N—108°—Eをとる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で11cmある。各壁下には上幅13cm～21cm、床面からの深さ6cm～12cmの比較的整った形態の壁溝が、途切れずに全周している。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的に平坦であるが若干東側に向かって傾斜している。住居中央部は比較的堅緻であるが、壁に近い周辺部はやや軟弱である。ピットは、3箇所検出されている。P1とP2は、住居の対角線上に近い位置にあるが、4本主柱を構成する支柱穴かどうか明確ではない。床面からの深さは、P1が14cm、P2が7cmある。P3は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれてい



第33号住居跡土層説明

- 第1層:暗褐色土層(白色粒子を多量、ローム粒子・焼土粒子・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子・白色粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:暗黄褐色土層(ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:暗黄褐色土層(ローム粒子を多量、ロームブロックを中量、焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

- 第5層:暗黄褐色土層(ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層:暗黄灰色土層(ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

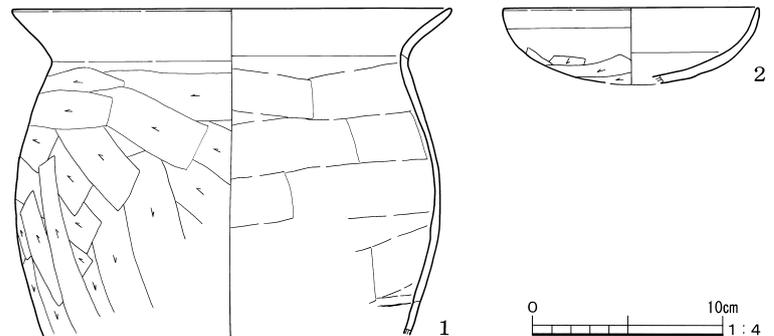
第33号住居跡カマド土層説明

- 第1層:暗黄褐色土層(ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:褐灰色土層(焼土粒子・焼土ブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:灰色土層(焼土粒子・焼土ブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第4層:暗黄褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子・焼土ブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層:黄褐色土層(ロームブロックを主体とする。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層:褐灰色土層(褐灰色粘土ブロックを主体にする。粘性に富み、しまりを有する。)

第 63 図 第 33 号住居跡

るもので、カマド右側の住居南側コーナー部に位置している。形態は、68cm×66cmの不整形を呈し、床面からの深さは15cmある。P 3 の上面からは、甕の破片が出土している。

カマドは、住居南東側壁の中央やや南側寄りの位置にあり、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長100cm、最大幅109cmを測る。燃烧部は、住居の壁を掘り込んで作られており、内面はあまり良く焼けていない。燃烧部底面(火床)は、住居床面よりも若



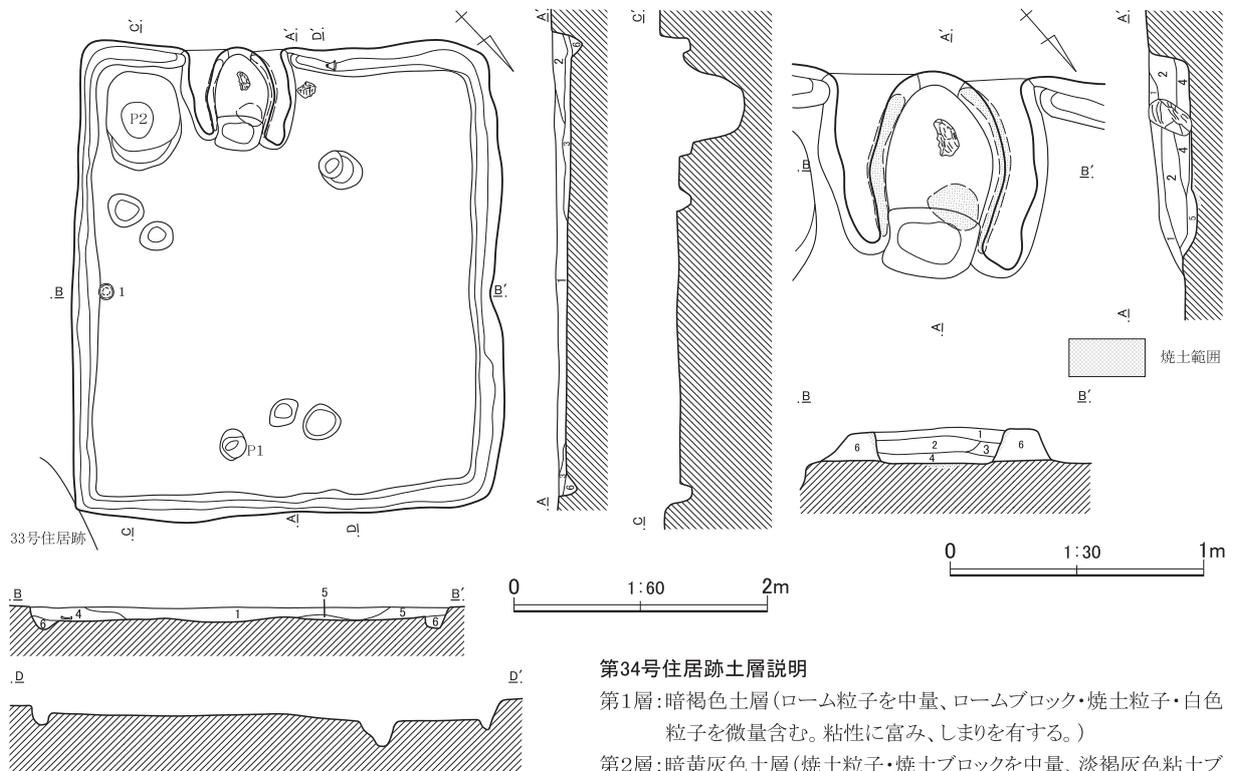
第 64 図 第 33 号住居跡出土遺物

干低く、ほぼ水平である。燃焼部内からは、土器の破片が少量出土しているが、支脚の痕跡は見られない。袖は、ロームブロックを主体とする暗黄褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、カマド内や貯蔵穴上面及び住居跡の覆土中から、土器片が少量出土しただけである。

第33号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径23.0、残存高17.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一赤褐色。F. 1/2。H. 貯蔵穴(P3)上面。
2	坏	A. 口縁部径(13.5)、残存高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 1/4。H. 南側壁溝内。



第34号住居跡土層説明

- 第1層: 暗褐色土層 (ローム粒子を中量、ロームブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗黄灰色土層 (焼土粒子・焼土ブロックを中量、淡褐灰色粘土ブロック・ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

- 第3層: 暗褐色土層 (白色粒子・焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗褐色土層 (ローム粒子・白色粒子を少量、ロームブロック・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層: 暗褐色土層 (ローム粒子・白色粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層: 暗黄褐色土層 (ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第34号住居跡カマド土層説明

- 第1層: 暗褐色土層 (焼土粒子・焼土ブロック・白色粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 褐灰色土層 (褐灰色粘土ブロックを主体に、焼土粒子・焼土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗褐色土層 (焼土粒子・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗褐色土層 (焼土粒子・焼土ブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層: 暗褐色土層 (焼土ブロック・焼土粒子を中量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第6層: 淡褐灰色土層 (淡褐灰色粘土ブロックを主体とする。粘性に富み、しまりを有する。)

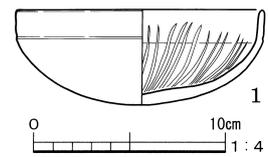
第 65 図 第 34 号住居跡

第34号住居跡（第65図、図版30）

調査区西側の中央付近に位置し、重複する第33号住居跡に切られている。平面形は、比較的整った方形を呈している。規模は、北東～南西方向3.77m、北西～南東方向3.40mを測る。主軸方位は、本遺跡で検出された他の住居跡と異なり、唯一N—137°—Wの南東側に主軸方向をとっている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で16cmある。壁溝は、上幅10cm～18cm、床面からの深さ9cm程度の比較的均一な形態で、各壁下を途切れずに全周している。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的に堅緻である。ピットは、住居跡内から7箇所検出されているが、覆土の状態から本住居跡に伴う可能性が高いと考えられるものは、P1とP2の2箇所だけである。P1は、カマドと反対側の住居北東側壁の壁際近くに位置する。25cm×21cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは25cmある。P2は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド左側の住居南側コーナー部に位置している。78cm×59cmの丸みの強い長方形ぎみの形態で、床面からの深さは52cmある。

カマドは、南西側壁の中央やや南側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。本遺跡で調査された多数の住居跡の中で、住居の南西側壁にカマドを付設するのは、本住居跡だけである。規模は、全長82cm、最大幅91cmを測る。燃烧部は、住居内にあり奥壁は住居の壁と一致している。内面は比較的良く焼けている。燃烧部底面(火床)は、住居の床面よりも若干低く、中央部のやや奥側には、自然石を利用した支脚が1個据えられている。袖は、褐灰色粘土を主体とし、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、住居跡の床面上や覆土中から、土器が少量出土しただけである。



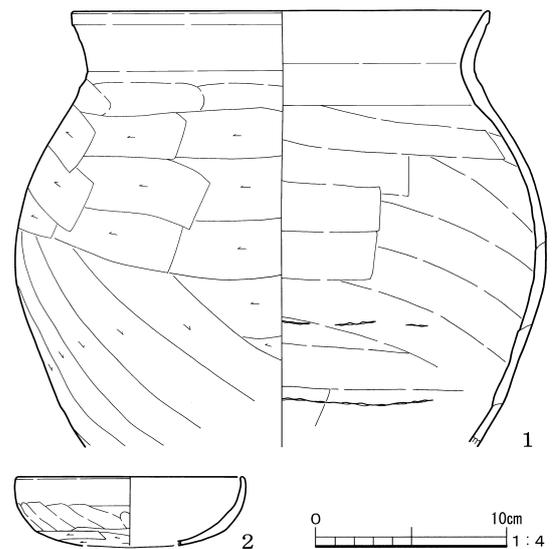
第66図 第34号住居跡出土遺物

第34号住居跡出土遺物観察表

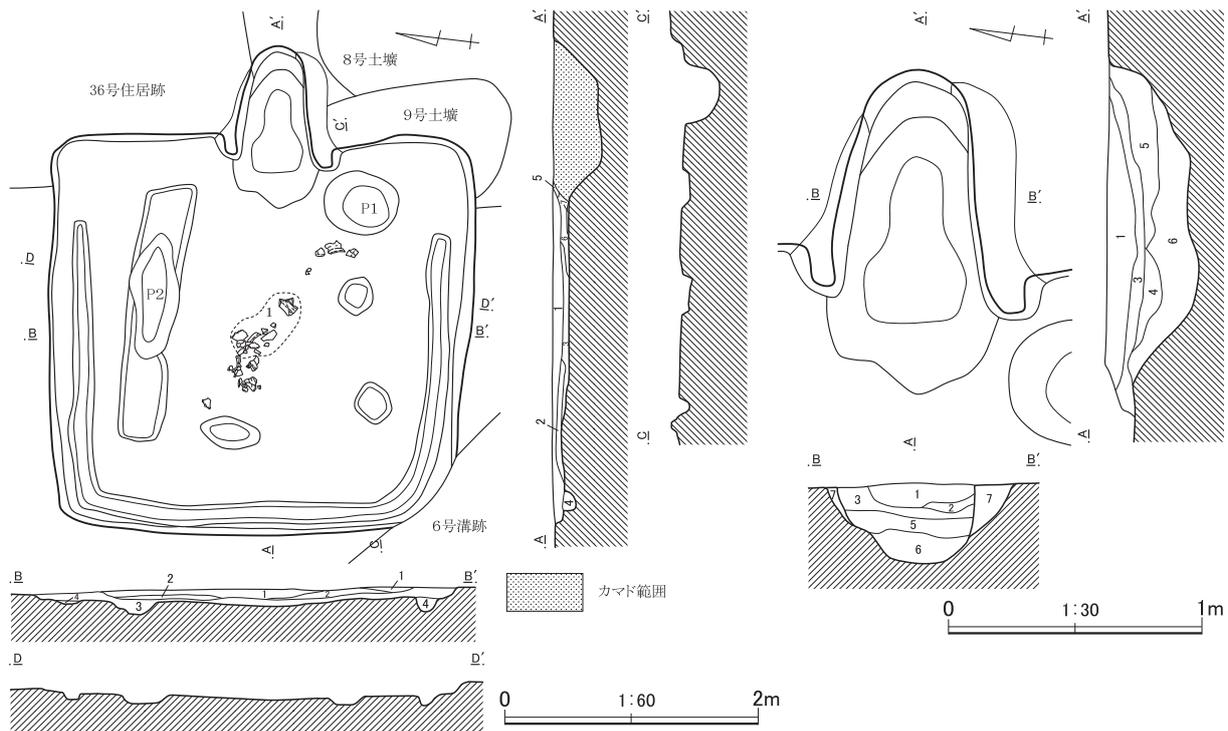
1	坏	A. 口縁部径12.9、器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下端ケズリ、内面篋ナデの後放射状暗文。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面直上。
---	---	--

第35号住居跡（第68図、図版32）

調査区西側の北寄りに位置し、重複する第36号住居跡・第37号住居跡・第9号土壇を切り、第6号溝跡に切られている。平面形は、コーナー部がやや丸みを持つ方形を呈している。規模は、東西方向3.20m、南北方向3.38mを測る。主軸方位は、N—84°—Eをとる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高12cmある。住居の東側壁以外の各壁下には、上幅17cm、床面からの深さ5cm～10cmの壁溝が途切れずに巡っている。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的に堅緻である。ピットは、住居跡内から5箇所検出されているが、確実に本住居跡に伴うと



第67図 第35号住居跡出土遺物



第35号住居跡土層説明

- 第1層:暗褐色土層(白色粒子を多量、ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を多量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:暗褐色土層(ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:暗黄褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層:淡褐色土層(淡褐色粘土ブロックを主体に、焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層:暗褐色土層(炭化粒子・焼土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第7層:暗褐色土層(ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第35号住居跡カマド土層説明

- 第1層:淡褐色土層(淡褐色粘土ブロックを主体に、焼土粒子・焼土ブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗褐色土層(焼土粒子・焼土ブロックを少量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第3層:暗褐色土層(焼土粒子・焼土ブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第4層:暗褐色土層(ローム粒子・焼土粒子・焼土ブロックを少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第5層:淡褐色土層(焼土粒子・焼土ブロックを中量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層:暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を多量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第7層:淡褐色土層(淡褐色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第 68 図 第 35 号住居跡

考えられるものは、P 1 と P 2 の 2 箇所である。P 1 は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の壁際に位置する。60cm×50cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは26cmある。P 2 は、住居の北側寄りに位置する。204cm×40cmの細長い溝状の形態で、何だかの住居内施設の痕跡と思われる。

カマドは、住居東側壁のほぼ中央の位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長129cm、最大幅102cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られており、内面はあまり良く焼けていない。燃焼部底面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、煙道部に向かって緩やかに傾斜している。袖は、淡褐色粘土を主体とし、燃焼部の奥壁近くまで廻して構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、住居中央部付近の覆土中から、土器片がまとまって出土している。

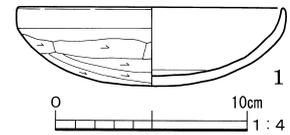
第35号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(22.0)、残存高23.0。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-明赤褐色、内-にぶい褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
2	坏	A. 口縁部径(6.0)、残存高3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい橙色、内-橙色。F. 1/5。H. 覆土中。

第36号住居跡 (第70図、図版33)

調査区西側の北寄りに位置し、重複する第35号住居跡に切られ、第37号住居跡を切っている。平面形は、長方形を呈しているが、南西側壁はやや歪んでいる。規模は、北東～南西方向3.73m、北西～南東方向2.45mを測る。主軸方位は、N-74°-Eをとる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高8cmある。壁溝は、住居の南西側壁下及び北西側壁下と南東側壁下の一部に見られる。上幅が15cm～23cm、床面からの深さが3cm～7cmの比較的整った形態で、住居の西側半分を途切れずに巡っている。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体に細かな凹凸が見られるものの、ほぼ平坦に作られている。ピットは、2箇所検出されている。P1は、住居中央の西側寄りに位置する。32cm×27cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは19cmある。P2は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の住居東側コーナー部に位置している。52cm×30cmの長細い楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは5cm程度である。

カマドは、住居北東側壁の南側寄りの位置に、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長63cm、最大幅120cmを測る。燃烧部は、住居の壁を掘り込んで作られており、内面はあまり良く焼けていない。燃烧部底面(火床)は、住居の床面と同じ高さでほぼ水平をなし、煙道部に向かって緩やかに傾斜している。袖は、ロームブロックを多量含む黄褐色土を燃烧部の奥壁近くまで廻して構築している。右袖に対して左袖が極端に広いが、左袖の外側は貼壁状になっている。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。



第69図 第36号住居跡出土遺物

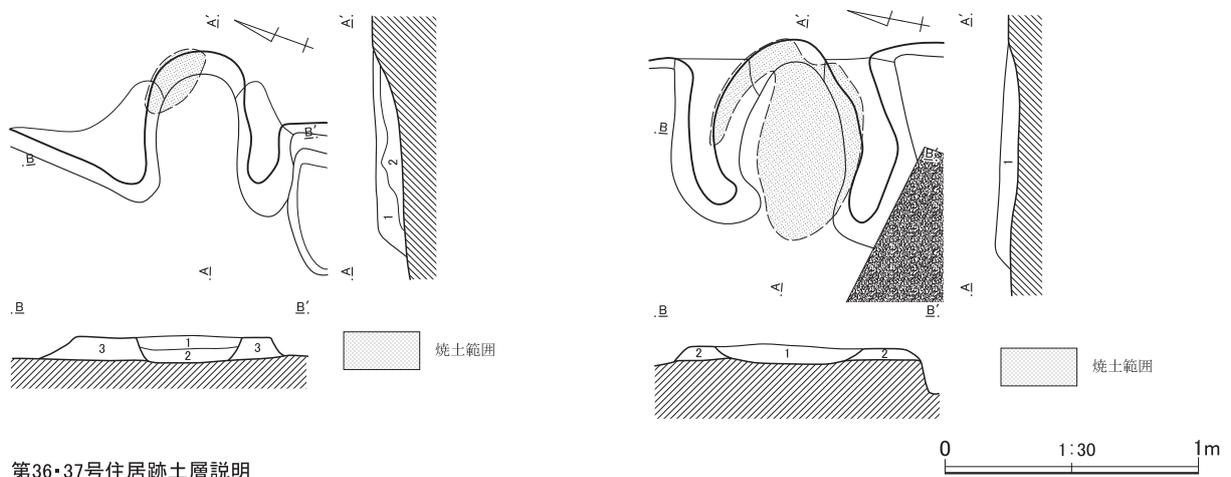
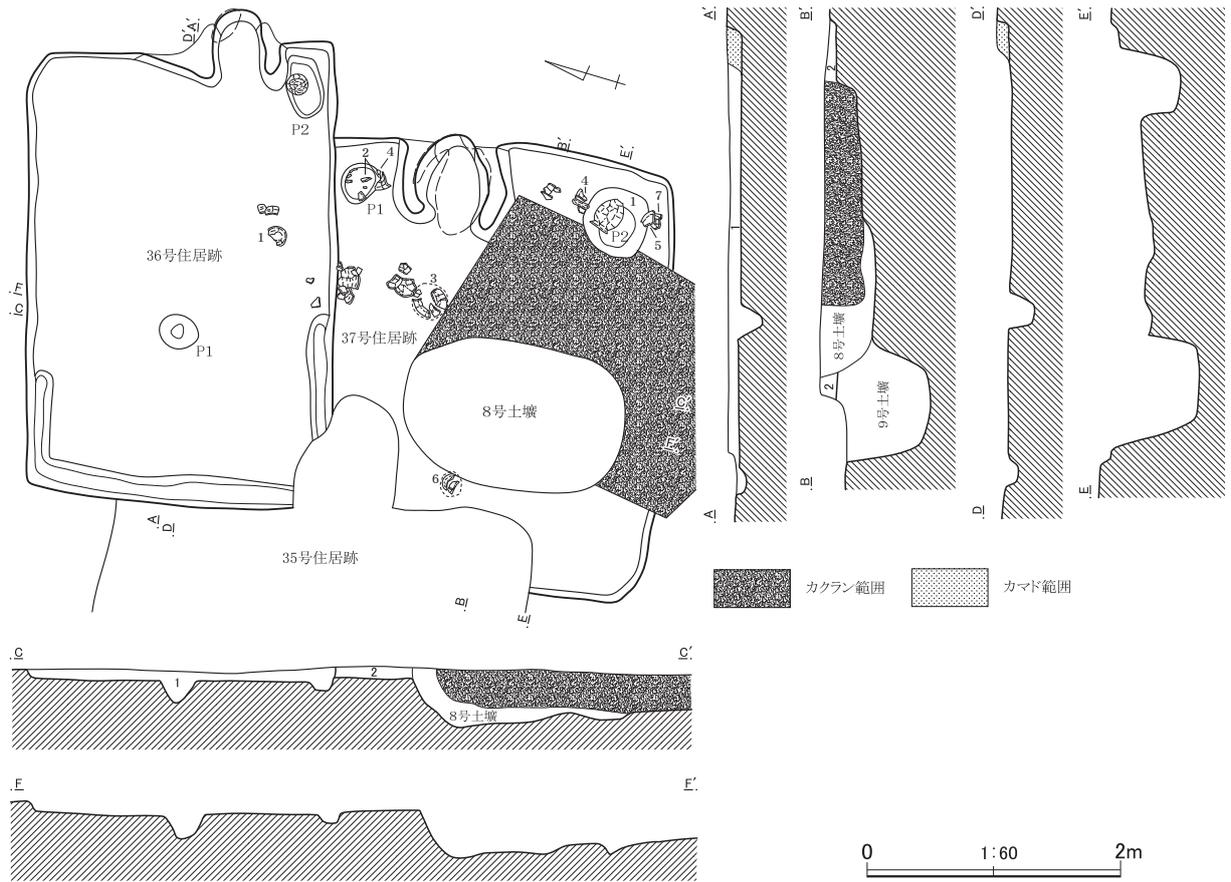
出土遺物は、P2の貯蔵穴上面や住居中央南側寄りの床面上から、土器が少量出土している。

第36号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A. 口縁部径14.0、器高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-黒褐色。F. 3/4。H. 床面付近。
---	---	--

第37号住居跡 (第70図、図版34)

調査区西側の北寄りに位置する。重複する第35号住居跡・第36号住居跡・第8号土壌に切られ、住居跡の中央部から南側にかけて、後世の攪乱を受けている。平面形は、残存する部分から推測すると方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、北東～南西方向が3.60m、北西～南東方向は2.65mまで測れる。主軸方位は、N-79°-Eをとる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高12cmある。残存する各壁の壁下には壁溝は見られない。床は、ロームブロックを多量含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、比較的平坦に作られている。ピットは、2箇所検出されている。P1は、カマドの左側に位置する。34cm×28cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは5cm



第36・37号住居跡土層説明

〈第36号住居跡〉

第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

〈第37号住居跡〉

第2層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第36号住居跡カマド土層説明

第1層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：黄褐色土層（ロームブロックを主体とする。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：淡黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第37号住居跡カマド土層説明

第1層：暗黄褐色土層（ローム粒子を中量、黄褐色粘土ブロック・ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

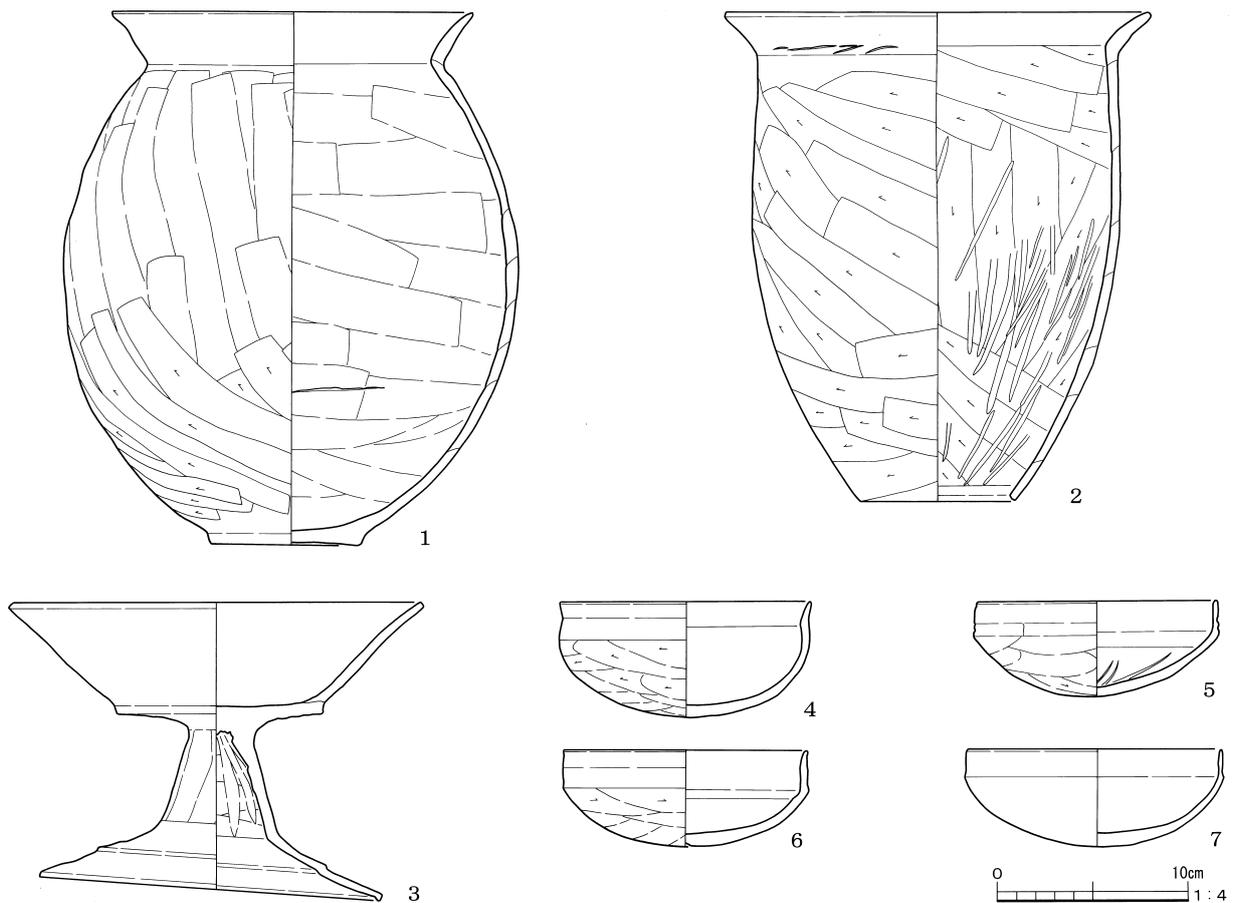
第2層：黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第 70 図 第 36・37 号住居跡

ある。P 2は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の住居東側コーナー部に位置する。形態は、54cm×51cmの不整円形を呈し、床面からの深さは48cmある。中からは完形の甕が1個体出土している。

カマドは、住居北東側壁の中央付近に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長80cm、最大幅90cmを測る。燃焼部は、住居内にあり、内面は比較的良く焼けている。燃焼部に支脚が据えられていた痕跡は見られない。袖は、ロームブロックを多量含む黄褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、カマド周辺の床面付近や貯蔵穴内から、完形に近い土器が比較的多く出土している。



第 71 図 第 37 号住居跡出土遺物

第37号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径19.0、器高28.3、底部径7.9。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面篋ナデの後下半ケズリ、内面篋ナデ。底部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 胴部内外面煤付着。内面器表面剥離。H. 貯蔵穴(P 2)内。
2	大形甑	A. 口縁部径(22.4)、器高25.9、底部径(8.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ケズリの後ミガキ・下端ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 1/4。H. 床面直上。
3	有段高杯	A. 口縁部径21.8、器高15.8、底部径18.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。杯部内外面篋ナデ。脚柱部内外面篋ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一橙色、内一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面に黒斑あり。H. 床面付近。
4	杯	A. 口縁部径13.2、器高6.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一赤褐色。F. 口縁部～体部1/4欠損。H. 床面直上。

5	坏	A. 口縁部径12.6、器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデの後放射状暗文。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部1/3欠損。H. 床面直上。
6	坏	A. 口縁部径12.9、器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 1/2。H. 床面直上。
7	坏	A. 口縁部径13.5、器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一橙色、内一明赤褐色。F. 1/2。G. 器表面は荒れている。H. 床面直上。

第38号住居跡（第72図、図版35）

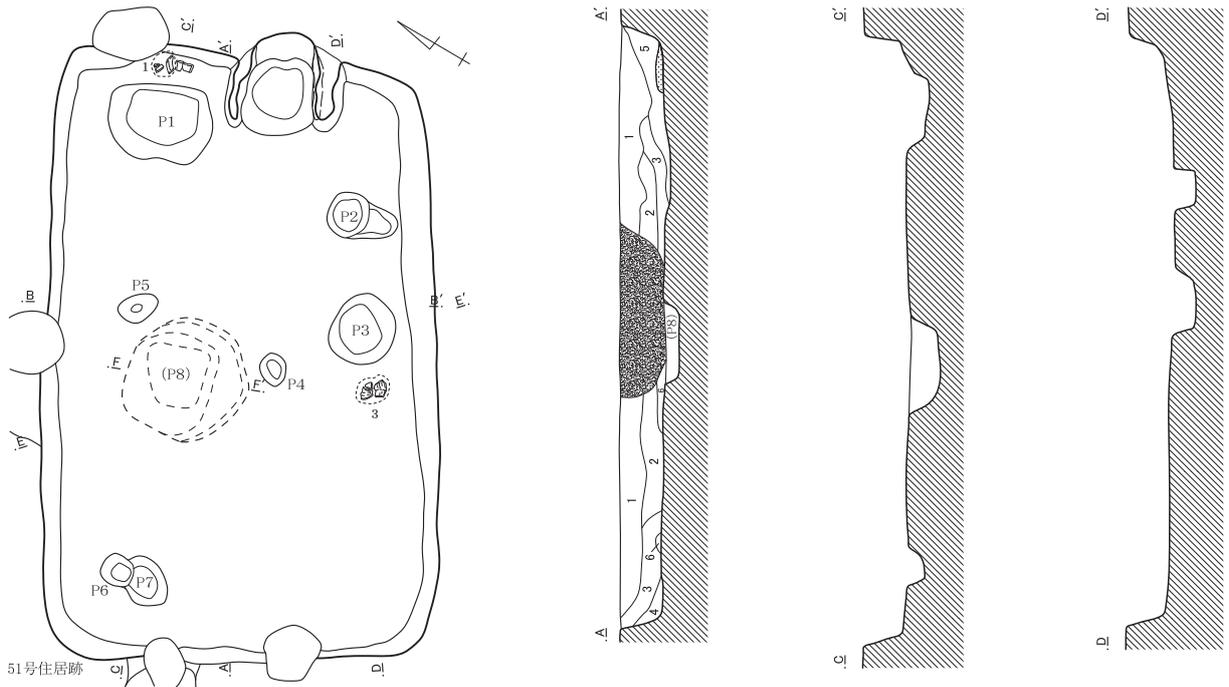
調査区の中央部に位置し、重複する第51号住居跡を切っている。平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ長方形を呈しているが、北東側壁はやや歪んでいる。規模は、北東～南西方向4.88m、北西～南東方向3.16mを測る。主軸方位は、N-60°-Eをとる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高35cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床は、ロームブロックを多量含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、比較的平坦に作られている。住居の中央部は比較的堅緻であるが、周辺部はやや軟弱である。ピットは、8箇所検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているものに類似し、カマド左側の住居北側コーナー部に位置している。形態は、83cm×60cmのコーナー部の丸みが強い不整の長方形を呈し、床面からの深さは17cmある。P2は、住居の南東側壁際に位置する。形態は、36cm×32cmの円形ぎみで、床面からの深さは16cmある。P3は、P2と同じく住居の南東側壁際に位置する。形態は、57cm×50cmの楕円形ぎみで、床面からの深さは20cmある。P4は、住居の中央付近にある。27cm×21cmの不整円形を呈し、床面からの深さは4cm程度である。P5は、住居中央部の北側寄りに位置する。32cm×22cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは20cmある。P6は、住居西側コーナー部付近に位置し、P7と重複している。26cm×24cmのコーナー部の丸みが強い方形ぎみの形態で、床面からの深さは14cmある。P7は、住居西側コーナー部付近に位置し、P6と重複している。44cm×32cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは11cmある。P8は、いわゆる床下土壌と考えられるものである。96cm×94cmの不整円形の形態で、二段に深くなっており、床面からの深さは26cmある。上面には部分的に貼床が施され、覆土中にはローム粒子や焼土粒子を微量含んでいる。

カマドは、住居北東側壁の中央やや南側寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長81cm、最大幅90cmを測る。燃焼部は、住居内にあり、内面はあまり良く焼けていない。燃焼部底面(火床)は、住居の床面よりも若干低く、奥壁は急に立ち上がって煙道部に移行する。袖は、ロームブロックを多量含む暗黄褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

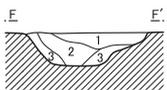
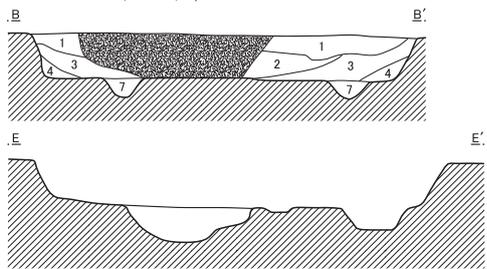
出土遺物は、比較的少なく住居の覆土中から土器片が少量出土しただけである。

第38号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(19.2)、残存高9.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一褐色、内一にぶい赤褐色。F. 口縁部～胴部片。H. 覆土中。
2	甕	A. 口縁部径(18.4)、残存高7.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一褐色、内一にぶい赤褐色。F. 2/3。H. カマド内。
3	甕	A. 底部径(4.2)、残存高9.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリの後下端篋ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一褐色、内一にぶい橙色。F. 2/3。H. 覆土中。

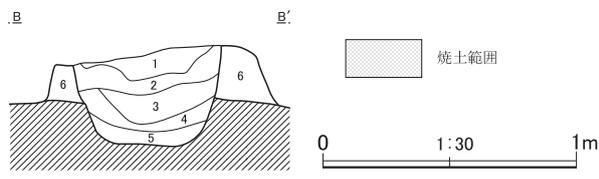
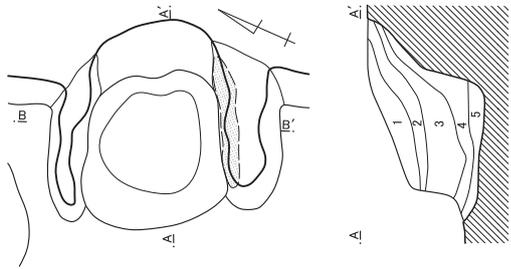


51号住居跡



カマド範囲
カクラン範囲

0 1:60 2m



焼土範囲

0 1:30 1m

第38号住居跡土層説明

- 第1層:暗褐色土層(ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗褐色土層(ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:暗褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:暗茶褐色土層(ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第5層:暗茶褐色土層(ロームブロック・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層:暗黄褐色土層(ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第7層:黒褐色土層(ローム粒子・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。)

第38号住居跡カマド土層説明

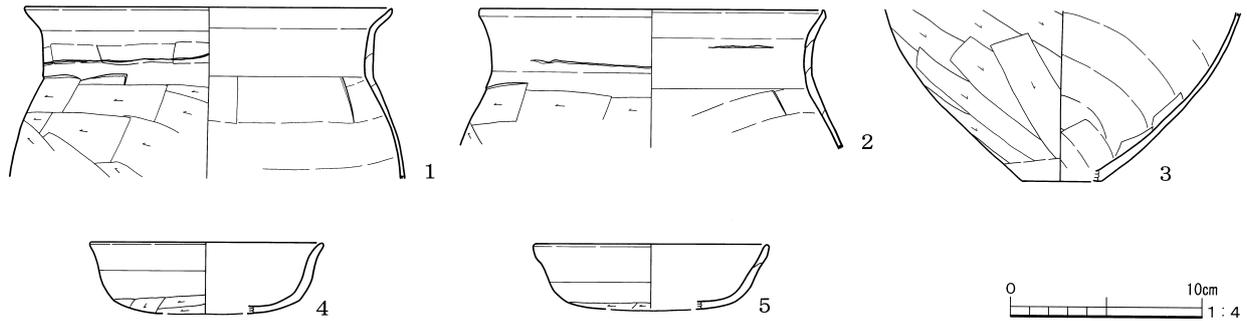
- 第1層:暗褐色土層(ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗黄褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

- 第3層:暗褐色土層(焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第5層:暗褐色土層(ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第6層:暗黄褐色土層(ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第38号住居跡床下土層(P8)土層説明

- 第1層:暗茶褐色土層(ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗褐色土層(ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:暗茶褐色土層(ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第 72 図 第 38 号住居跡



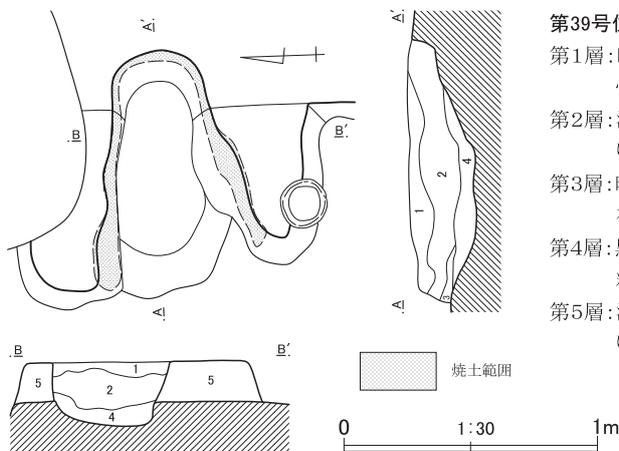
第73図 第38号住居跡出土遺物

4	坏	A. 口縁部径(12.2)、残存高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一橙色、内一明赤褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
5	坏	A. 口縁部径(12.5)、残存高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 1/4。H. 覆土中。

第39号住居跡 (第75図、図版36・37)

調査区西側の北寄りに位置し、重複する第6号土壌に切られ、第40号住居跡を切っている。平面形は、コーナー部がやや丸みを持つ長方形を呈している。規模は、東西方向4.04m・南北方向3.48mを測る。主軸方位は、N-92°-Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高22cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、比較的平坦に作られている。全体的にやや軟弱である。ピットは、2箇所検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。形態は、48cm×45cmの不整形を呈し、床面からの深さは30cmある。P2は、住居南側壁際に位置する。31cm×27cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは10cmある。

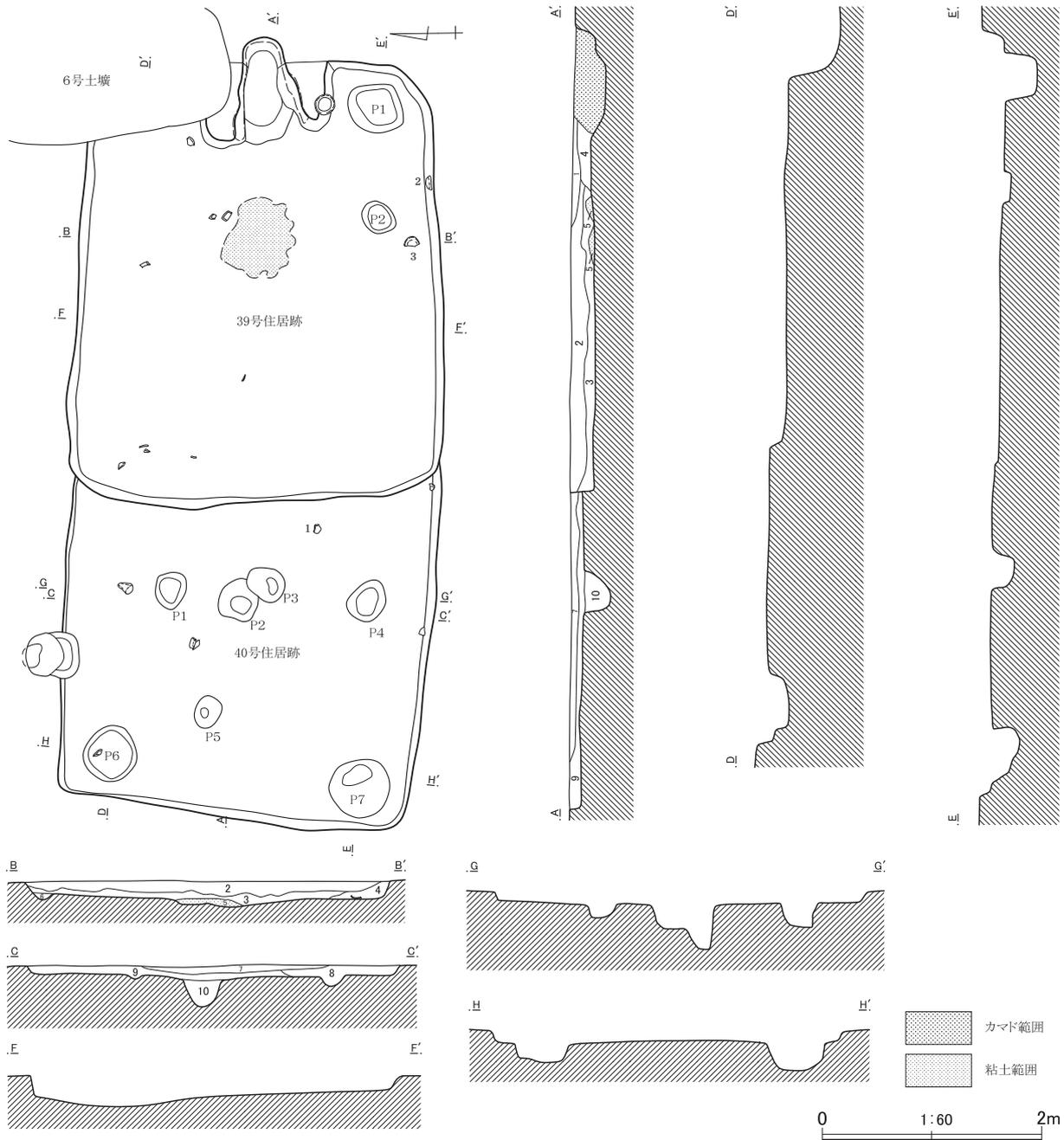
カマドは、住居東側壁のほぼ中央に位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長95cm、最大幅124cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られており、内面は比較的良く焼けている。燃焼部底面(火床)は、住居の床面より若干低く、煙道部に向かって緩やかに傾斜している。燃焼部内



第39号住居跡カマド土層説明

- 第1層: 暗褐色土層(ロームブロック・焼土粒子・焼土ブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 淡褐色灰色土層(暗褐色灰色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗褐色土層(ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 黒褐色土層(炭化粒子を主体に、焼土粒子・焼土ブロックを少量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第5層: 淡褐色灰色土層(淡褐色灰色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第74図 第39号住居跡カマド



第39・40号住居跡土層説明

〈第39号住居跡〉

- 第1層: 暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗褐色土層(ローム粒子を多量、白色粒子を中量、ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・焼土ブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 淡褐色土層(ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層: 灰白色土層(灰白色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層: 暗褐色土層(ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

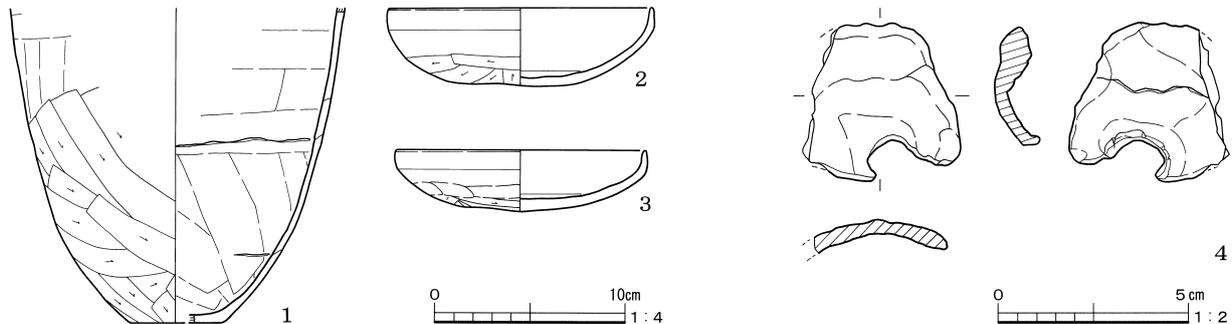
〈40号住居跡〉

- 第7層: 暗褐色土層(白色粒子を多量、ローム粒子を中量、ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第8層: 暗褐色土層(ローム粒子・白色粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第9層: 暗褐色土層(ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第10層: 暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第75図 第39・40号住居跡

には、支脚の痕跡は見られない。袖は、褐灰色粘土を住居の壁に直接貼り付けて構築しており、右袖には甕を補強に使用している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、住居の覆土中や床面上から土器が少量出土している。土器以外では、住居中央の床面上から、カマド構築材と類似した灰白色粘土の塊が置かれた状態で出土し、覆土中から焼成された粘土の塊(図版110)が多く出土している。



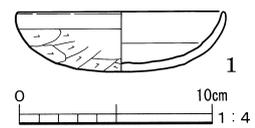
第76図 第39号住居跡出土遺物

第39号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 底部径4.8、残存高16.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面篋ナデの後下半ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-褐色、内-にぶい黄橙色。F. 2/3。H. 貯蔵穴(P1)内。
2	坏	A. 口縁部径14.0、器高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-灰黄褐色、内-にぶい黄褐色。F. 口縁部1/4欠損。H. 床面直上。
3	坏	A. 口縁部径13.2、器高3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙色。F. 3/4。H. 床面直上。
4	土製品	A. 最大長4.2、残存幅4.2、最大厚0.8、残重11.51g。C. 指ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-赤褐色。F. 端部欠損。H. 覆土中。

第40号住居跡 (第75図、図版37)

調査区西側の北寄りに位置し、重複する第39号住居跡に切られている。平面形は、残存する部分から推測すると方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、南北方向3.42m、東西方向は3.45mまで測れる。主軸方位は、N-94°-Eをとる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で11cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床は、ロームブロックを多量含む黄褐色土を埋め戻した貼床式で、比較的平坦に作られている。ピットは、7箇所検出されている。P1~P4は、いずれも住居の中央付近に位置する。長さ35cm前後の不整円形か楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは、それぞれ10cm・25cm・43cm・21cmある。P5は、住居の西側寄りに位置する。30cm×24cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは18cmある。P6とP7は、住居の北西側と南西側のコーナー部にそれぞれ位置する。平面形は50cm前後の円形ぎみの形態で、床面からの深さは17cmと16cmである。



第77図 第40号住居跡出土遺物

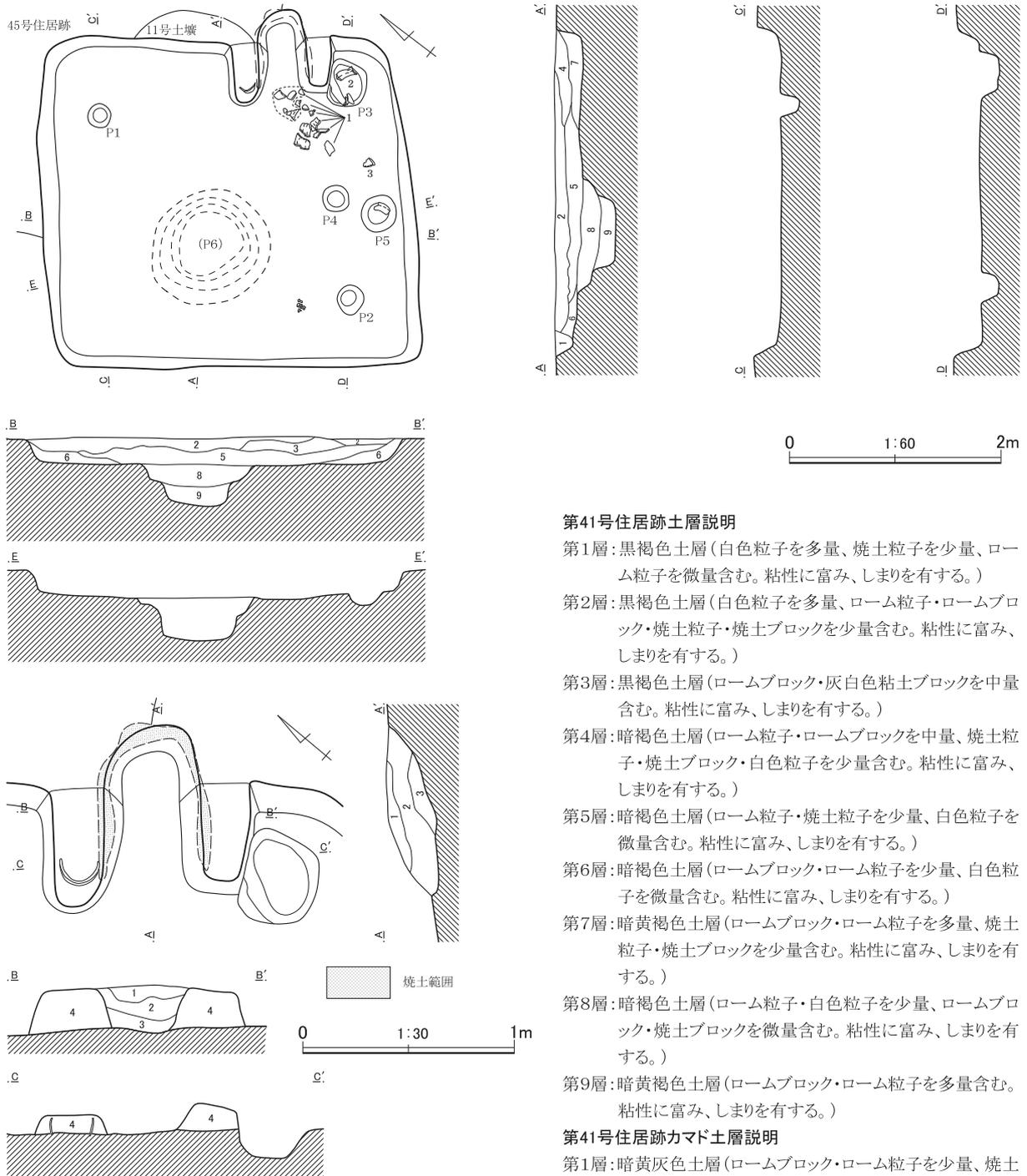
出土遺物は、住居跡の覆土中から土器片が少量出土している。

第40号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A. 口縁部径(10.9)、器高3.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-にぶい褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
---	---	---

第41号住居跡（第78図、図版38）

調査区西側の中央付近に位置し、重複する第45号住居跡と第11号土壌を切っている。平面形は、住居の各コーナー部が丸みを持つ長方形を呈しているが、住居の南東側壁はやや歪んでいる。規模は、



第41号住居跡土層説明

- 第1層：黒褐色土層（白色粒子を多量、焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：黒褐色土層（白色粒子を多量、ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・焼土ブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：黒褐色土層（ロームブロック・灰白色粘土ブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを中量、焼土粒子・焼土ブロック・白色粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第7層：暗黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子・焼土ブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第8層：暗褐色土層（ローム粒子・白色粒子を少量、ロームブロック・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第9層：暗黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第41号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗黄灰色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

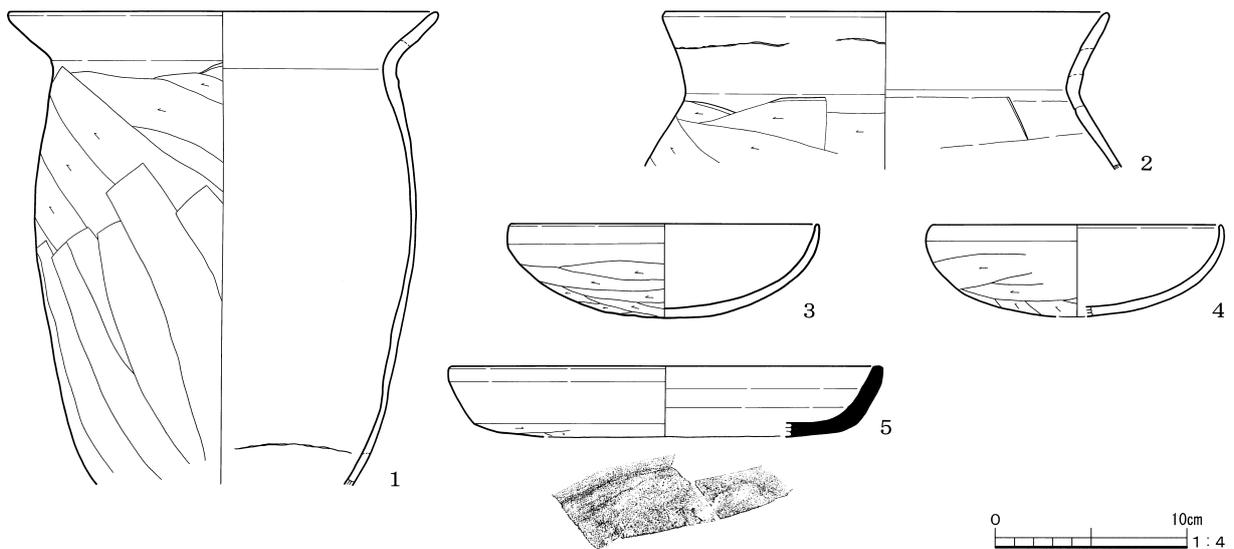
- 第2層：暗褐色灰色土層（焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色灰色土層（褐色灰色粘土ブロックを中量。焼土粒子・焼土ブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色灰色土層（褐色灰色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第78図 第41号住居跡

北東～南西方向3.15m、北西～南東方向3.50mを測る。主軸方位は、N-52°-Eをとる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で25cmある。各壁下には、壁溝は見られない。床は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的にほぼ平坦に作られている。ピットは、床面上で5ヶ所検出されている。P1とP2は、ほぼ住居の対角線上に位置し、4本主柱の痕跡である可能性も考えられる。いずれも長さ25cm前後の円形ぎみの形態で、床面からの深さは20cm程度である。P3は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているものに類似し、カマド右側の住居東側コーナー部に位置する。47cm×37cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは16cmある。P4とP5は、住居の南東側壁の壁際中央にある。25cm～30cmの円形ぎみの形態で、床面からの深さはいずれも10cm程度である。P6は、住居中央部の床面下から検出された床下土壌で、116cm×106cmの楕円形ぎみの形態を呈している。床面からの深さは40cmあり、2段に深くなっている。

カマドは、住居北東側壁の南側寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長84cm、最大幅105cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込んでおり、内面は比較的良く焼けている。燃焼部底面(火床)は、住居の床面よりも若干低く、煙道部に向かって緩やかに傾斜している。燃焼部内に、支脚の痕跡は見られない。袖は、褐灰色粘土を住居の壁に直接貼り付けて構築しており、左側袖の先端付近には甕を補強に使用している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

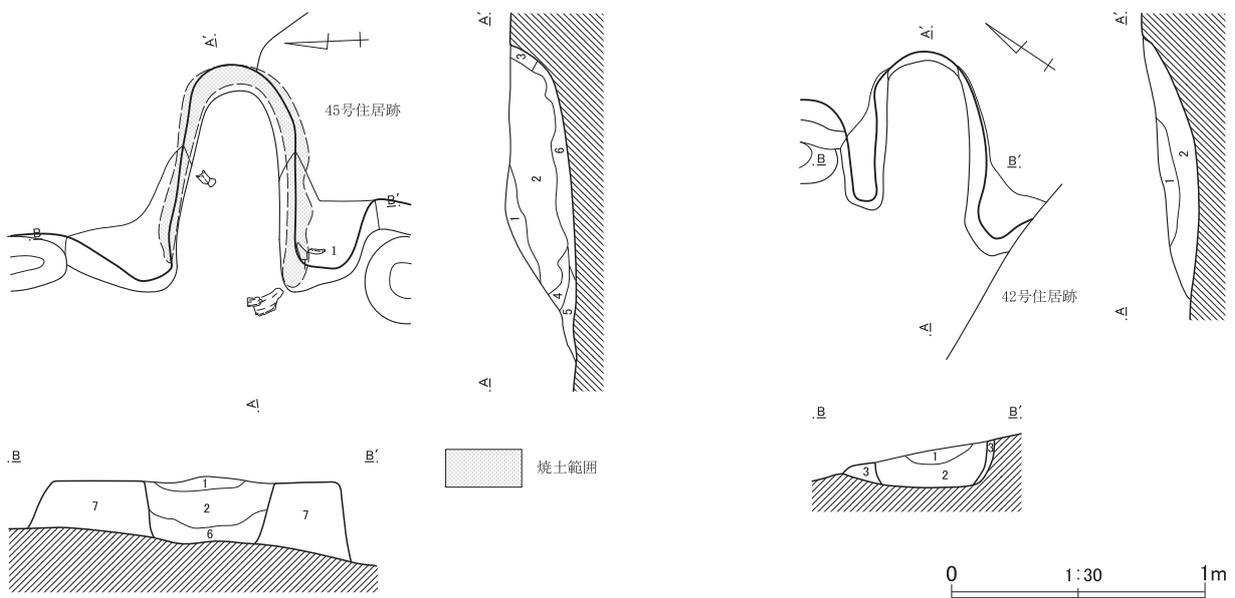
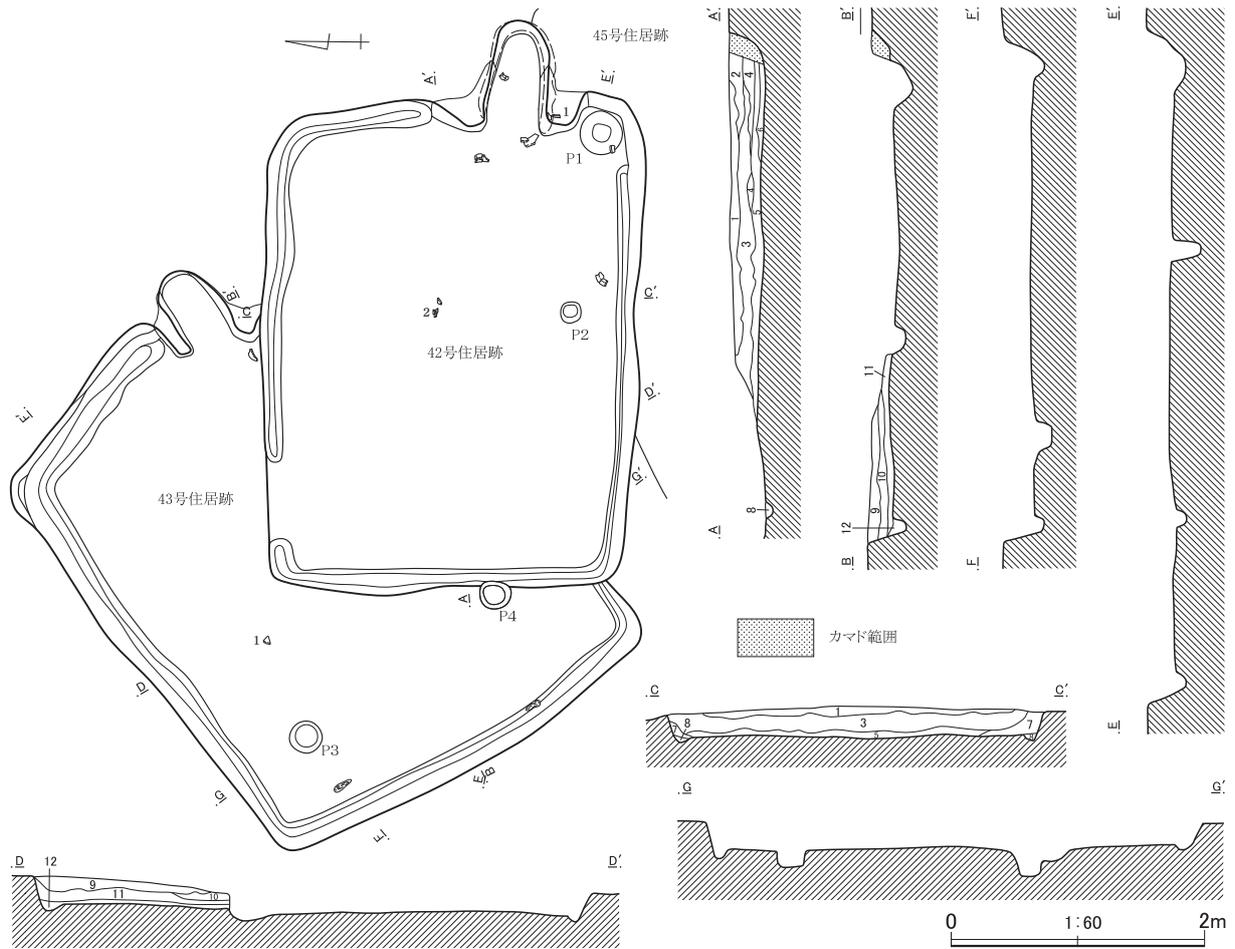
出土遺物は、カマド前の床面付近や住居跡の覆土中から、土器の破片が出土しているだけである。



第79図 第41号住居跡出土遺物

第41号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(22.5)、残存高25.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窺ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙色。F. 2/3。G. 器表面は荒れている。H. 床面直上。
2	甕	A. 口縁部径23.5、残存高8.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窺ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁部～胴部上位。H. 貯蔵穴(P3)内。
3	坏	A. 口縁部径16.3、器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-橙色。F. 3/4。H. 床面直上。
4	坏	A. 口縁部径15.2、器高(4.9)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土中。
5	須恵器盤	A. 口縁部径(23.0)、器高3.7、底部径(17.4)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面手持ち窺ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-黄灰色。F. 破片。H. 覆土中。



第80図 第42・43号住居跡

第42号住居跡（第80図、図版39）

調査区西側の北寄りに位置し、重複する第43号住居跡と第45号住居跡を切っている。本住居跡の西側は、後世の攪乱によって上面を削平されており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。平面形は、住居の各コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、東西方向3.94m、南北方向3.01mを測る。主軸方位は、N—89°—Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で22cmある。各壁下には、上幅10cm～15cm、床面からの深さ3cm～10cm程度の壁溝が巡っているが、住居北側壁と南東側コーナー部で途切れている。床は、ロームブロックを含む暗褐色土を全体的に埋め戻した貼床式である。全体的に平坦であるが、東側に向かって若干傾斜している。ピットは、2箇所検出されている。P1は、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。34cm×33cmの円形を呈し、床面からの深さは8cmである。P2は、住居南側壁際付近に位置する。17cm×16cmの円形を呈し、床面からの深さは24cmある。

カマドは、住居東側壁の南側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長91cm、最大幅125cmを測る。燃烧部は、住居の壁を掘り込んで作られており、その大半は住居の壁外にある。燃烧部底面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、奥壁は煙道部に向かって緩やかに立ち上がっている。燃烧部内に、支脚の痕跡は見られない。袖は、褐灰色粘土を住居の壁から燃烧部の中位まで廻して構築しており、右側袖の先端付近には甕を補強に使用している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、カマドの内外や住居跡の覆土中から土器片が少量出土しただけである(第81図)。

第42・43号住居跡土層説明

〈第42号住居跡〉

- 第1層:暗褐色土層(白色粒子を中量、焼土粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:淡褐色土層(焼土粒子・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:暗褐色土層(焼土ブロック・焼土粒子を中量、白色粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:暗黄褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を中量、焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層:暗褐色土層(焼土ブロック・焼土粒子・白色粒子を少量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層:暗黄褐色土層(焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第7層:暗褐色土層(ローム粒子を少量、焼土ブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第8層:暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

〈第43号住居跡〉

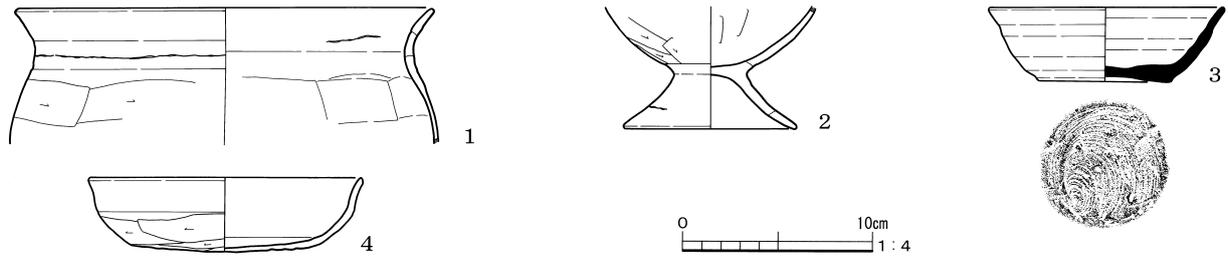
- 第9層:暗褐色土層(白色粒子を多量、ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第10層:暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を中量、焼土ブロック・白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第11層:暗褐色土層(ローム粒子を中量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第12層:暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第42号住居跡カマド土層説明

- 第1層:暗褐色土層(白色粒子を中量、焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:褐灰色土層(褐灰色粘土ブロックを主体に、焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:暗褐色土層(焼土ブロック・焼土粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:暗褐色土層(焼土ブロック・焼土粒子・白色粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層:暗褐色土層(焼土ブロック・焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層:黒褐色土層(炭化粒子を主体に、焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第7層:褐灰色土層(褐灰色粘土ブロックを主体とする。粘性に富み、しまりを有する。)

第43号住居跡カマド土層説明

- 第1層:暗褐色土層(褐灰色粘土ブロック・焼土ブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗褐色土層(褐灰色粘土ブロック・ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:褐灰色土層(褐灰色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)



第 81 図 第 42 号住居跡出土遺物

第42号住居跡出土遺物観察表

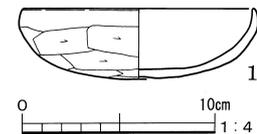
1	甕	A. 口縁部径(22.1)、残存高7.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外—橙色、内—にぶい橙色。F. 口縁部片。H. カマド右袖内。
2	小形台付甕	A. 台部径9.2、残存高6.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。台部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外—明赤褐色。F. 台部のみ。G. 熱を受け器表面は荒れている。H. 覆土中。
3	須恵器坏	A. 口縁部径(12.4)、器高4.0、底部径7.1。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 外—にぶい赤褐色、内—にぶい褐色。F. 1/2。G. 酸化焰焼成。H. 覆土中。
4	坏	A. 口縁部径(14.5)、器高3.9、底部径(9.7)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外—にぶい褐色。F. 1/2。H. 覆土中。

第43号住居跡（第80図、図版40）

調査区西側の北寄りに位置し、重複する第42号住居跡に切られている。平面形は、住居の各コーナー部分が丸みをもつ長方形を呈しているが、北東側壁と南西側壁がやや開き、台形状に歪んでいる。また、規模は、北東～南西方向4.41m、北西～南東方向3.36mを測る。主軸方位は、N—52°—Eをとる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高25cmある。残存する各壁の壁下には、上幅15cm前後、床面からの深さ6cm～10cmの壁溝が途切れずに巡っている。住居の北東側壁は、残存する部分から推測すると、カマドの左側と右側でその位置が異なる可能性が高い。床は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的に平坦である。住居中央部は比較的堅緻であるが、壁際に近い周辺部はやや軟弱である。ピットは、住居内からP3とP4の2箇所検出されている。P3とP4は、住居のほぼ対角線上に位置し、その配置から4本主柱の痕跡の一部と推測されるものである。いずれも直径25cm程度の円形を呈し、床面からの深さはP3が14cm、P4が9cmある。

カマドは、住居北東側壁の中央付近に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長75cm、最大幅は80cmまで測れる。燃烧部は、住居の壁を掘り込んで作られており、内面はあまり焼けていない。燃烧部底面(火床)は、住居の床面よりも若干低く、奥壁は煙道部に向かって緩やかに傾斜している。燃烧部内に、支脚の痕跡は見られない。袖は、褐灰色粘土を燃烧部の奥壁近くまで廻して構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、土器片が住居跡の覆土中から少量出土している。土器以外では、住居南西側壁際の床面上から、長さ15cm前後の棒状の自然石がやや



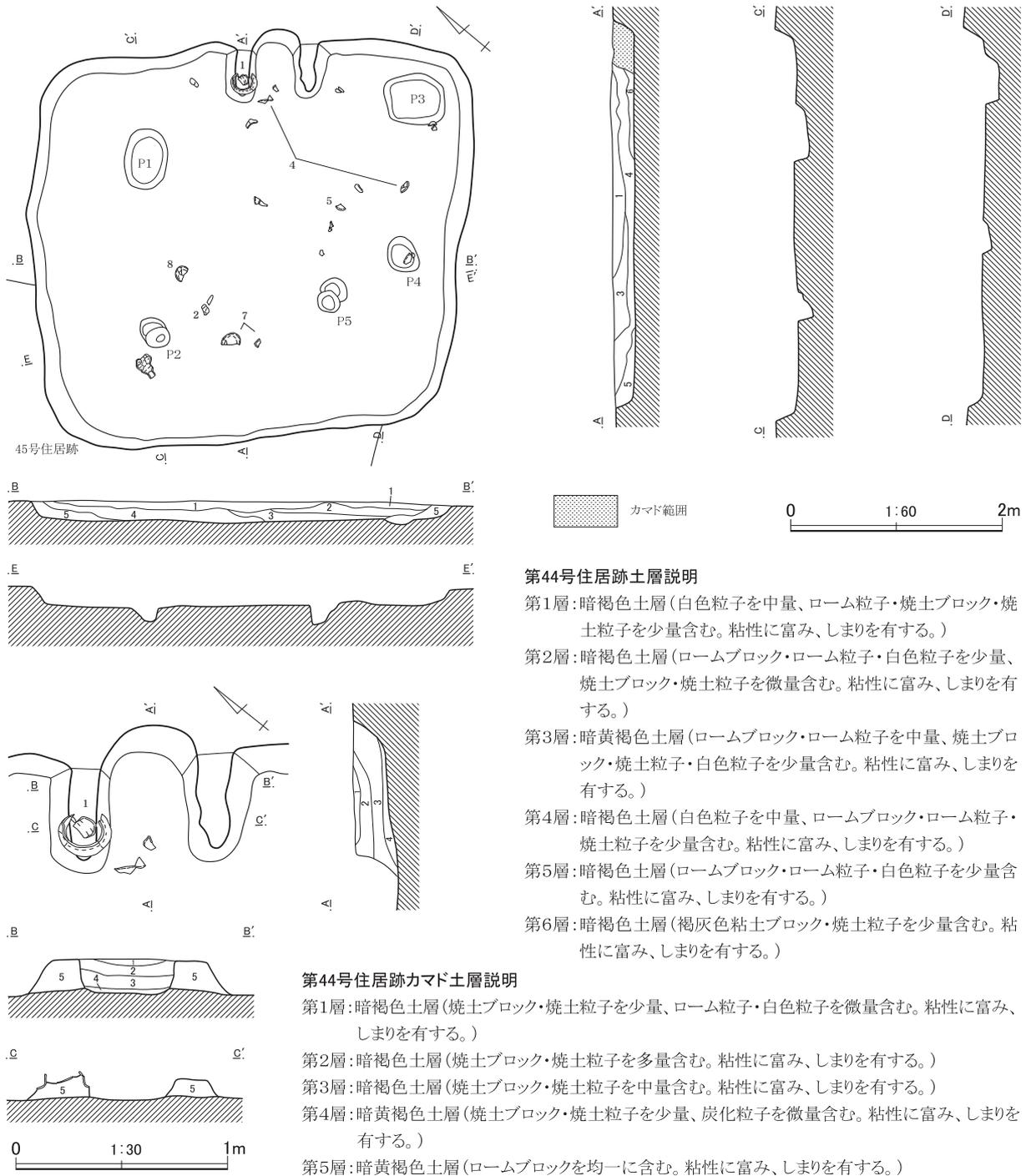
第 82 図 第 43 号住居跡出土遺物

第43号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A. 口縁部径(12.2)、器高3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外—橙色。F. 1/4。H. 床面付近。
---	---	---

第44号住居跡（第83図、図版41・42）

調査区西側の中央付近に位置し、重複する第45号住居跡を切っている。平面形は、住居の各コーナー部の丸みが強い方形を呈しているが、住居南東側壁は東側に開いて歪んでいる。規模は、北東～南西方向3.73m、北西～南東方向4.17mを測る。主軸方位は、N-49°-Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。

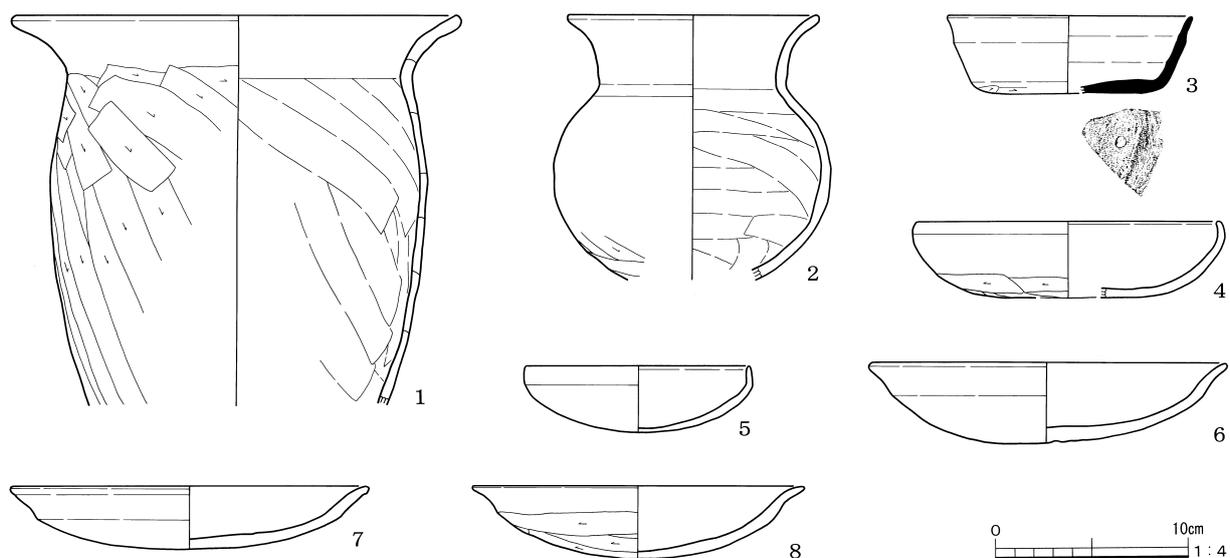


第 83 図 第 44 号住居跡

床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色を埋め戻した貼床式で、全体的に平坦に作られている。ピットは、住居内から5ヶ所検出されている。P1とP2は、住居のほぼ対角線上に位置するもので、4本主柱の一部の痕跡である可能性が考えられるものである。P1は、58cm×41cmの楕円形を呈し、床面からの深さは13cmある。P2は、23cm×18cmの楕円形を呈している。床面からの深さは15cmで、2段に深くなっている。P3は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の住居東側コーナー部に位置している。57cm×50cmの隅丸長方形ぎみの形態で、床面からの深さは14cmある。P4は、36cm×30cmの不整形を呈し、床面からの深さは10cmある。P5は、23cm×19cmの不整形円形を呈し、床面からの深さは18cmある。

カマドは、住居北東側壁の中央やや南側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長71cm、最大幅96cmを測る。燃烧部は、住居の壁を若干掘り込んで作られており、内面はあまり良く焼けていない。燃烧部底面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、奥壁は煙道部に向かって緩やかに立ち上がっている。燃烧部内には、支脚の痕跡は見られない。袖は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築しており、左側袖の先端には甕を伏せて補強している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、比較的少なく、住居の覆土を主体に土器が少量出土しているだけである。



第84図 第44号住居跡出土遺物

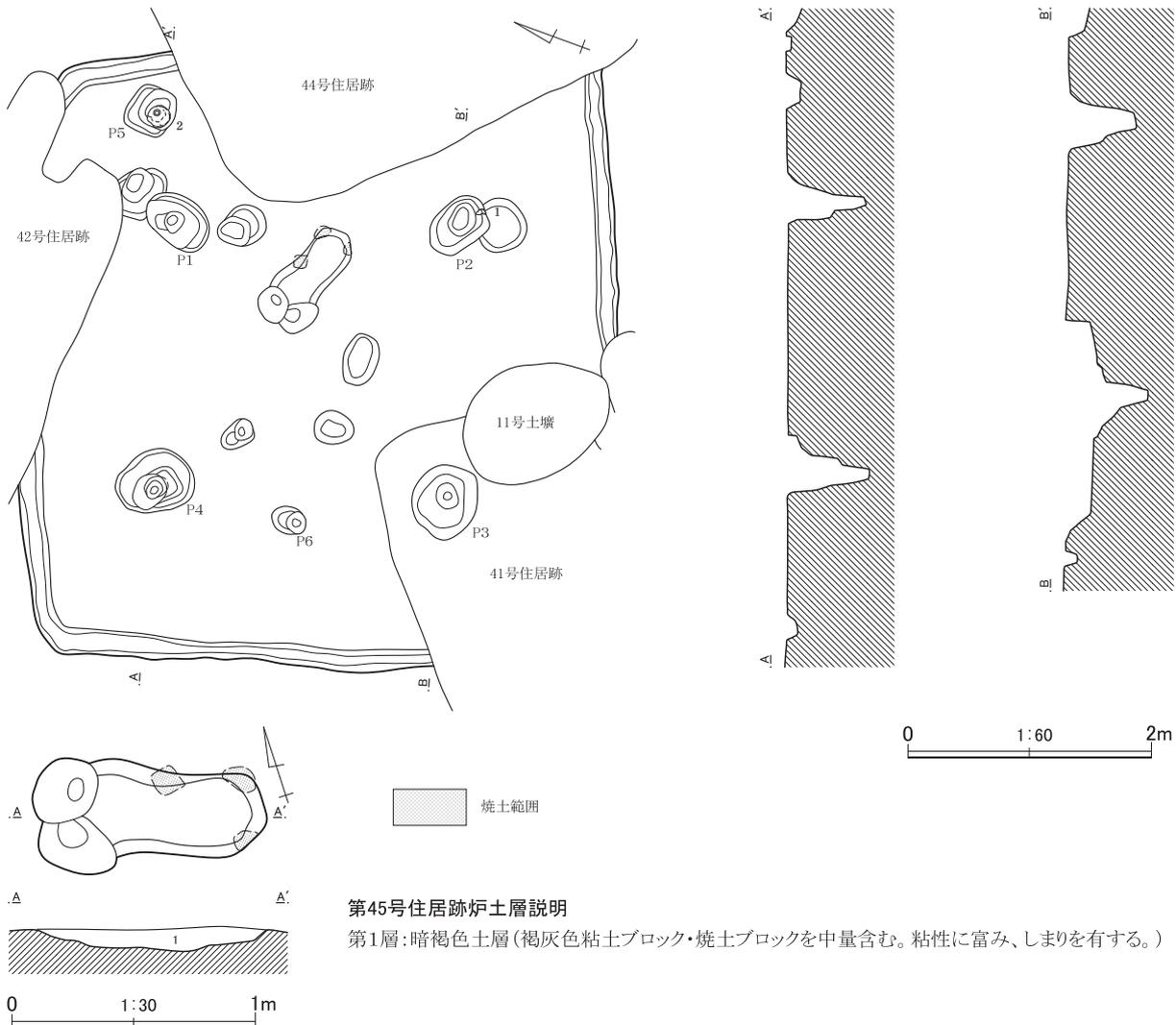
第44号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径23.6、残存高20.6。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面籠ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい褐色、内-明褐色。F. 1/4。H. カマド左袖内。
2	小形甕	A. 口縁部径(13.3)、残存高14.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下位ケズリ、内面籠ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-にぶい褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
3	須恵器 坏	A. 口縁部径(12.8)、器高(4.1)、底部径(9.7)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面籠切りの後周縁手持ち籠ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-灰色。F. 1/5。H. 覆土中。
4	坏	A. 口縁部径(16.0)、残存高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙色。F. 1/3。G. 器表面は荒れている。H. 覆土中。

5	坏	A. 口縁部径11.9、器高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-明赤褐色、内-橙色。F. 3/4。G. 器表面は荒れている。H. 床面付近。
6	皿	A. 口縁部径18.9、器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面に黒斑あり。器表面は荒れている。H. 掘り方埋土中。
7	皿	A. 口縁部径18.8、器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙色。F. 2/3。G. 器表面は荒れている。H. 床面付近。
8	皿	A. 口縁部径17.6、器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 器表面は荒れている。H. 床面付近。

第45号住居跡（第85図、図版42）

調査区西側の中央付近に位置し、重複する第41号住居跡・第42号住居跡・第44号住居跡と第11号土壇に切られている。本住居跡は、後世の水田造成によってすでに住居跡の床面付近まで削平されており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。平面形は、残存する部分から推測すると、各コーナー部がやや丸みをもつ方形を呈していたものと思われる。規模は、北東～南西方向5.00m、北西～

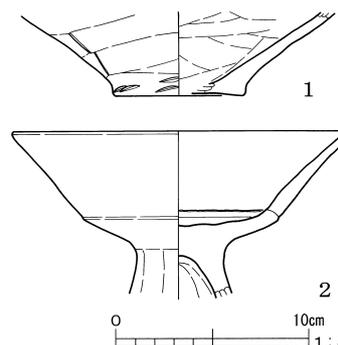


第85図 第45号住居跡

南東方向4.94mを測る。主軸方位は、概ねN—68°—Eをとると推測される。壁は、ほとんど削平されているが、残存する各壁の壁下には上幅15cm～20cm、床面からの深さ5cm～9cmの壁溝が巡っている。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式である。住居中央部は比較的堅緻であるが、支柱穴と壁の間の周辺部はやや軟弱である。住居跡内からは比較的多くのピットが検出されているが、本住居跡に伴うと考えられるものはP1～P6の6箇所である。P1～P4は、支柱穴と考えられ、ほぼ住居の対角線上に配置されている。いずれも長さ50cm前後の楕円形や不整形円形を呈し、床面からの深さは55cm～70cmある。P5は、住居の北側コーナー部付近に位置する。40cm×40cmの隅丸方形ぎみの形態で、床面からの深さは16cmある。中からは、高坏の坏部が伏せた状態で出土している。P6は、支柱穴P3とP4の中間に位置する。30cm×22cmの楕円形を呈し、床面からの深さは13cmある。

炉は、支柱穴P1とP2の中間で、支柱穴間の内側に位置する。平面形は、74cm×40cmの長細い楕円形ぎみの形態で、床面を6cm程度掘り窪めた地皿炉である。あまり良く焼けておらず、部分的に赤色化している。

出土遺物は、土器片が少量出土しただけである。



第86図 第45号住居跡出土遺物

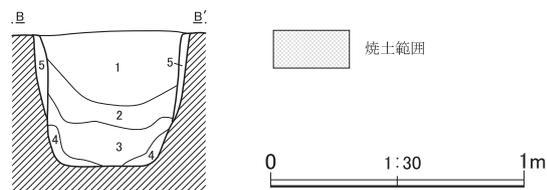
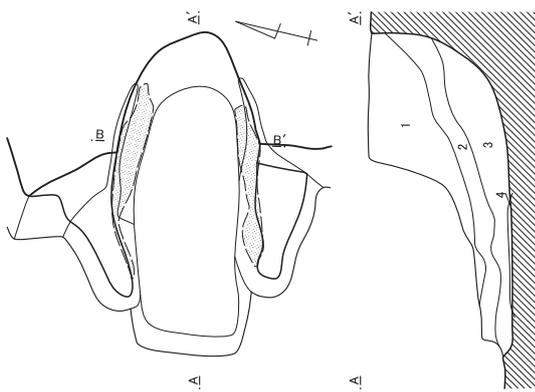
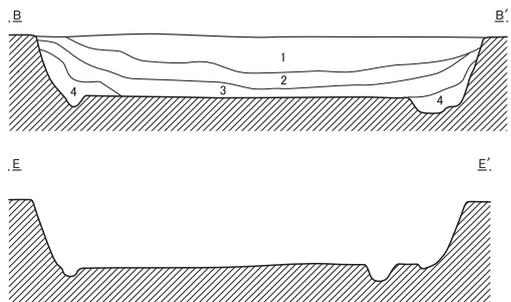
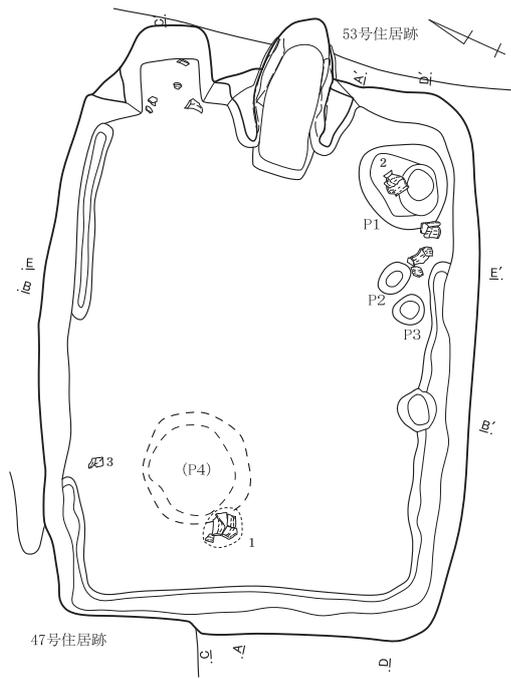
第45号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 底部径6.9、残存高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部内外面篋ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外—にぶい黄褐色。F. 胴部下位～底部片。H. 支柱穴P2内。
2	高坏	A. 口縁部径17.6、残存高8.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面篋ナデ。脚柱部外面篋ナデ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外—明赤褐色。F. 坏部～脚柱部上位のみ。G. 坏部内面は剥離している。H. P5内。

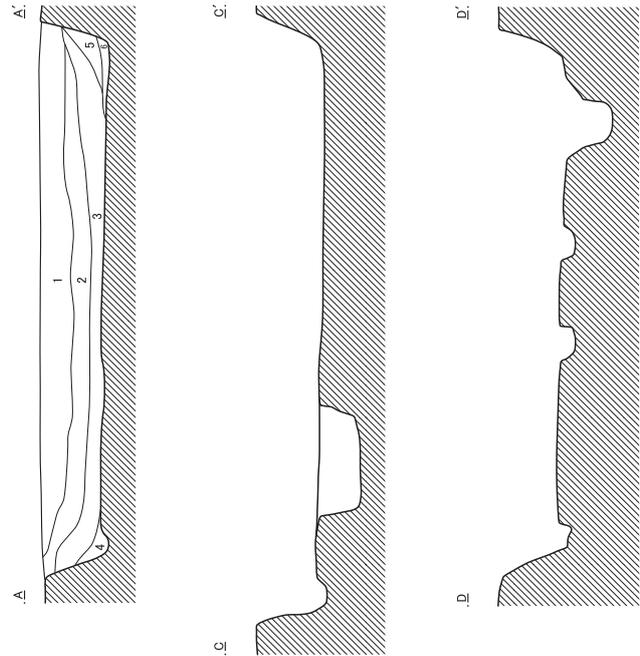
第46号住居跡（第87図、図版43）

調査区の中央部に位置し、重複する第47号住居跡・第53号住居跡・第57号住居跡を切っている。平面形は、各コーナー部がやや丸みをもつ長方形を呈している。規模は、北東～南西方向4.40m、北西～南東方向3.47mを測る。主軸方位は、N—70°—Eをとる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で53cmある。壁溝は、カマドのある北東側壁以外の各壁の壁下に見られる。上幅15cm～25cm、床面からの深さが4cm～9cmの比較的整った形態で、北西側壁の壁溝は中央部が120cmほど途切れている。住居北東側壁のカマド左側の北側コーナーに寄った場所には、カマド燃焼部の形態に類似した張り出しが見られる。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的に堅緻である。ピットは、住居内から3箇所検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の住居東側コーナー部に位置する。形態は、70cm×67cmの不整形円形を呈し、床面からの深さは38cmある。P1の上面からは、小形台付甕が横転したような状態で出土している。P2とP3は、住居南東側の壁際に近接して位置する。いずれも長さ25cm前後の楕円形ぎみの形態で、床面からの深さはいずれも13cmある。P4は、住居西側の床下から検出された床下土壌である。90cm×84cmの円形に近い形態を呈し、床面からの深さは33cmある。

カマドは、住居北東側壁のほぼ中央に位置し、壁に対して若干斜めに付設されている。規模は、全



第 87 図



第46号住居跡土層説明

- 第1層:暗褐色土層(白色粒子・ローム粒子を均一に、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗褐色土層(ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:暗褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:暗褐色土層(ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層:淡褐色土層(淡褐色粘土ブロックを多量、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層:暗褐色土層(ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

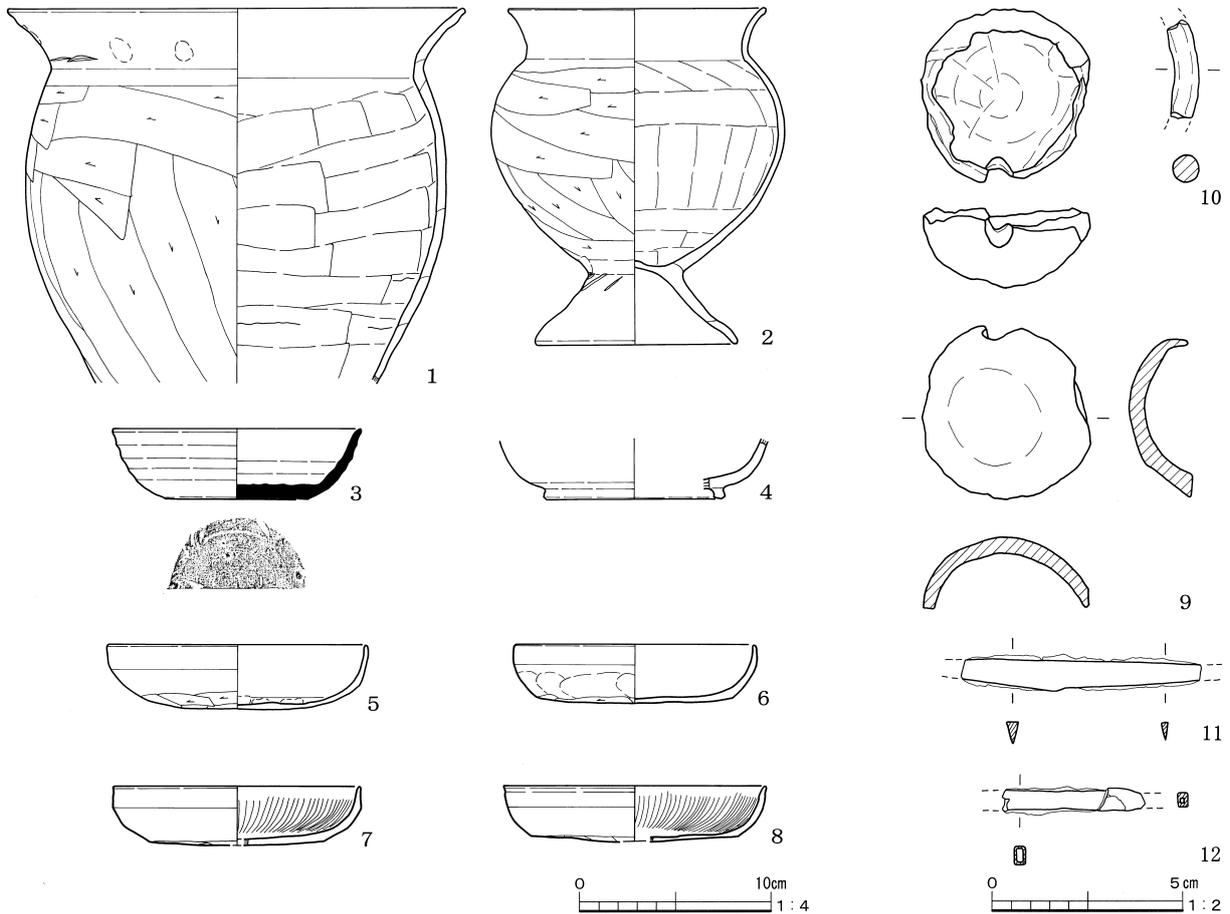
第46号住居跡カマド土層説明

- 第1層:暗茶褐色土層(ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗赤褐色土層(焼土ブロックを均一に、淡灰褐色粘土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:黒褐色土層(炭化粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第4層:暗黄褐色土層(ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第5層:淡灰褐色土層(淡灰褐色粘土を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第 46 号住居跡

長128cm、最大幅104cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られており、内面は比較的良く焼けている。燃焼部底面(火床)は、住居の床面よりも若干高く(第2層)、煙道部に向かって緩やかに傾斜している。燃焼部内には、支脚の痕跡は見られない。袖は、淡灰褐色粘土を燃焼部の奥壁近くまで廻して構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、カマド及び貯蔵穴の内外や覆土中から、土器の破片が比較的多く出土している。



第 88 図 第 46 号住居跡出土遺物

第46号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(24.0)、残存高19.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匱ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/4。G. 口縁部外面に赤化した粘土附着、指頭圧痕あり。H. 覆土中。
2	小形 台付甕	A. 口縁部径(13.7)、器高17.9、底部径10.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後下端匱ナデ、内面匱ナデ。台部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. 2/3。H. 貯蔵穴(P1)上面。
3	須恵器 坏	A. 口縁部径(13.0)、器高3.7、底部径(7.5)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転匱ケズリの後ナデ。D. 白色針状粒、白色粒。E. 内外一黄灰色。F. 1/4。H. 覆土中。
4	高台付埴	A. 底部径(9.6)、残存高3.2。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。高台部貼り付け。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 底部片。G. 高台貼付の後周縁ナデ。器表面は荒れている。H. 覆土中。
5	坏	A. 口縁部径(13.6)、器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 1/2。G. 底部内面に指頭圧痕あり。H. 覆土中。
6	坏	A. 口縁部径(12.8)、器高3.1、底部径(10.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一灰褐色、内一褐色。F. 2/3。H. 覆土中。

7	坏	A. 口縁部径(13.0)、器高(3.1)、底部径(9.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデの後放射状暗文。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 1/4。H. 覆土中。
8	坏	A. 口縁部径(13.8)、器高(2.9)、底部径(10.9)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデの後放射状暗文。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 1/3。H. 覆土中。
9	土製品	A. 最大長4.5、最大幅4.5、最大厚0.5、重量17.26g。C. 内外面篋ナデ。D. 白色粒。E. 外一にぶい黄褐色、内一にぶい褐色。F. 完形。H. 覆土中。
10	土製品	A. 残存長2.7、幅0.7、厚さ0.7、残重1.55g。C. 指ナデ。D. 白色粒。E. にぶい黄褐色。F. 両端部欠損。H. 覆土中。
11	鉄製品 (刀子)	A. 残存長6.3、最大幅0.8、最大厚0.3、残重5.56g。F. 両端部欠損。H. 床面直上。
12	鉄製品 (刀子)	A. 残存長3.8、最大幅0.6、最大厚0.2、残重2.59g。F. 茎部片。H. 床面直上。

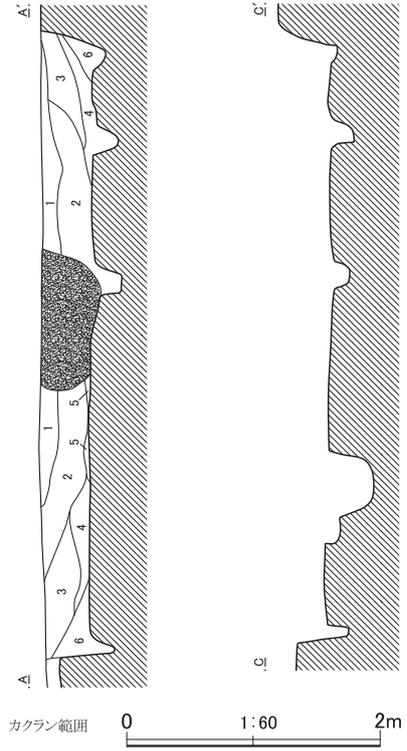
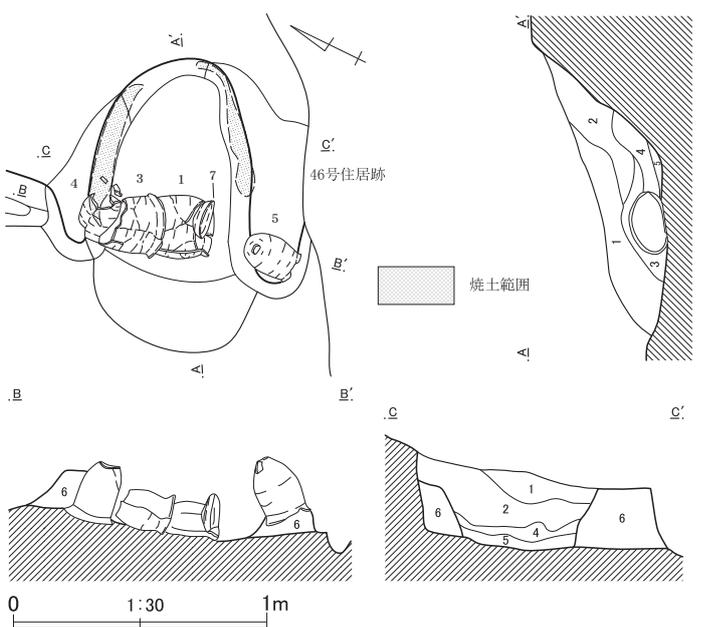
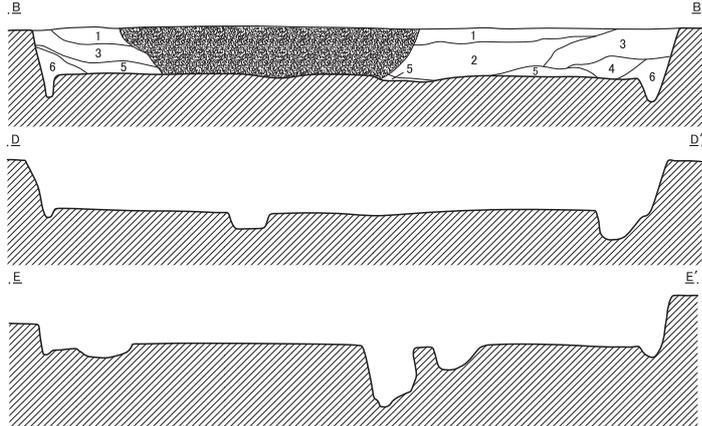
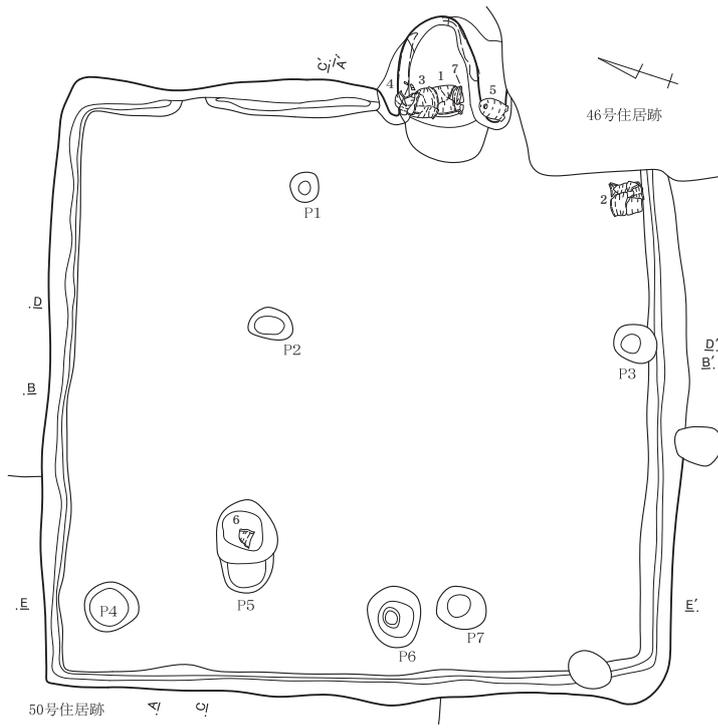
第47号住居跡（第89図、図版44）

調査区の中央部に位置し、重複する第50号住居跡を切り、第46号住居跡に切られている。平面形は、比較的整った方形を呈している。規模は、北東～南西方向 4.88 m、北西～南東方向 5.08 mを測る。主軸方位は、N-72° -Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で41cmある。壁溝は、上幅15cm～20cm、床面からの深さ 6 cm～13cmの比較的均一な形態で、各壁下を巡っているが、北東側壁の壁下で一部途切れている。床は、ロームブロックを多量含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的に堅緻である。ピットは、住居内から7箇所検出されている。P 1は、住居の北東側に位置し、24cm×23cmの円形ぎみの形態で、床面からの深さは17cmある。P 2は、住居の中央付近に位置する。36cm×25cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは14cmある。P 3は、住居南東側の壁際に位置する。35cm×30cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは13cmある。P 4は、住居西側コーナー部付近に位置する。43cm×40cmのの不整円形を呈し、床面からの深さは10cmある。P 5は、住居西側に位置する。74cm×48cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは36cmある。P 6は、住居南西側の壁際に位置する。48cm×42cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは49cmある。P 7は、P 6に近接して位置する。40cm×33cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは20cmある。

カマドは、住居北東側壁の南側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長115cm、幅は107cmまで測れる。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られており、内面は比較的良く焼けている。燃焼部底面(火床)は、住居の床面よりも若干低く、奥壁は燃焼部に向かって緩やかに傾斜しながら立ち上がっている。燃焼部内には、支脚の痕跡は見られない。袖は、淡褐色粘土を燃焼部の奥壁近くまで廻して構築している。左右両側の袖の先端付近には、甕(No 4・5)を倒立させて芯にしており、その上の焚口上面には、甕を2個体(No 1・3)入れ子状に連結させて、その口縁部には皿(No 7)で蓋をして、補強にしていたようである。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

本住居跡の覆土中には、あまり風化していないロームブロックを多量に含む層(第2層・第4層)が顕著に見られ、あるいは住居廃絶後に埋め戻された可能性も考えられる。

出土遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、土器の破片が比較的多く出土している(第90図)。



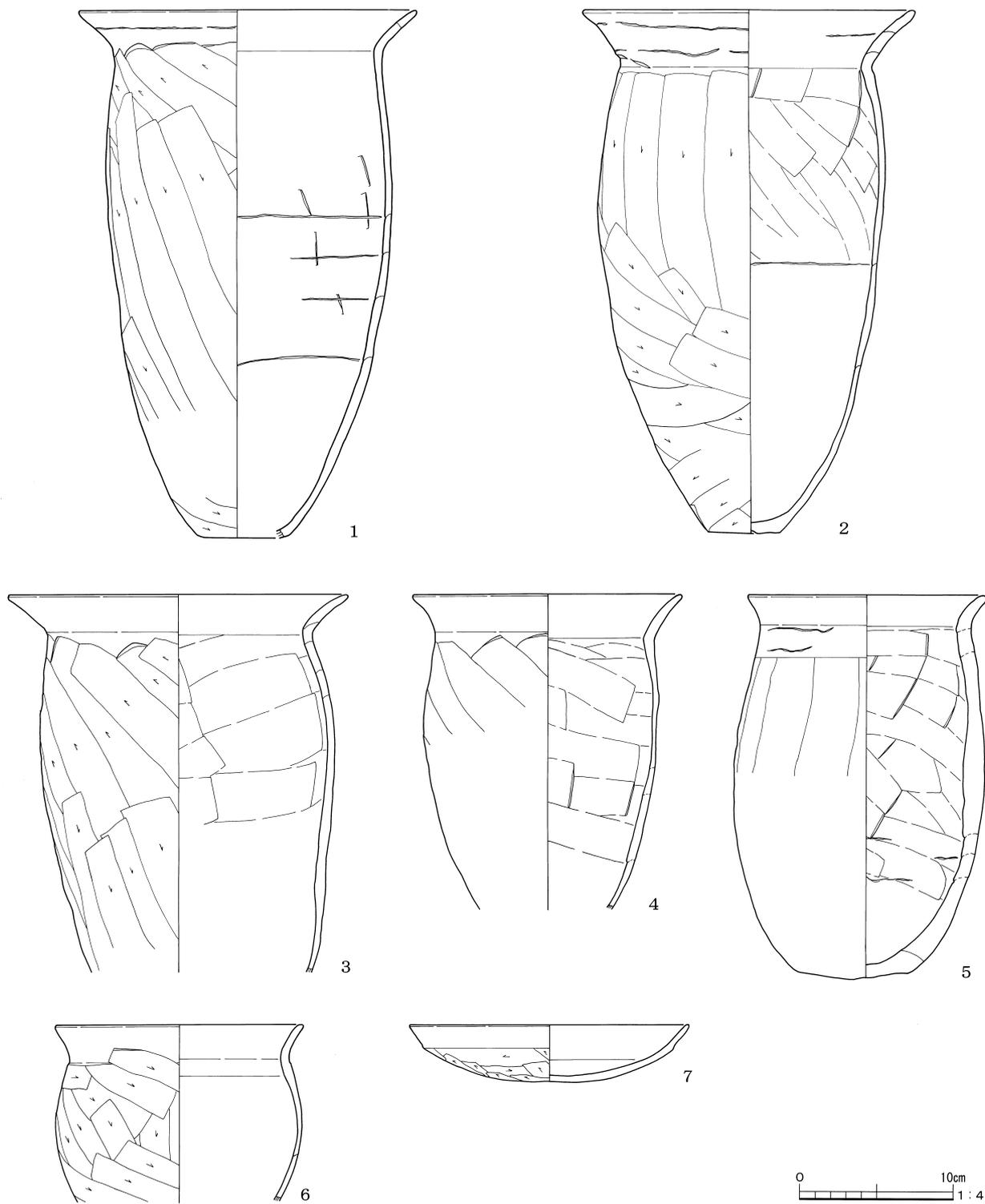
第47号住居跡土層説明

- 第1層: 暗褐色土層 (白色粒子・ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗黄褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 黒褐色土層 (白色粒子を均一に、ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗褐色土層 (ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層: 暗褐色土層 (ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層: 暗褐色土層 (ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。)

第47号住居跡カマド土層説明

- 第1層: 淡褐色土層 (淡褐色粘土ブロックを主体に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗褐色土層 (淡褐色粘土粒子・ロームブロック・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗黄褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗赤褐色土層 (焼土粒子・焼土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層: 黒褐色土層 (炭化粒子・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第6層: 淡褐色土層 (淡褐色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第 89 図 第 47 号住居跡



第90図 第47号住居跡出土遺物

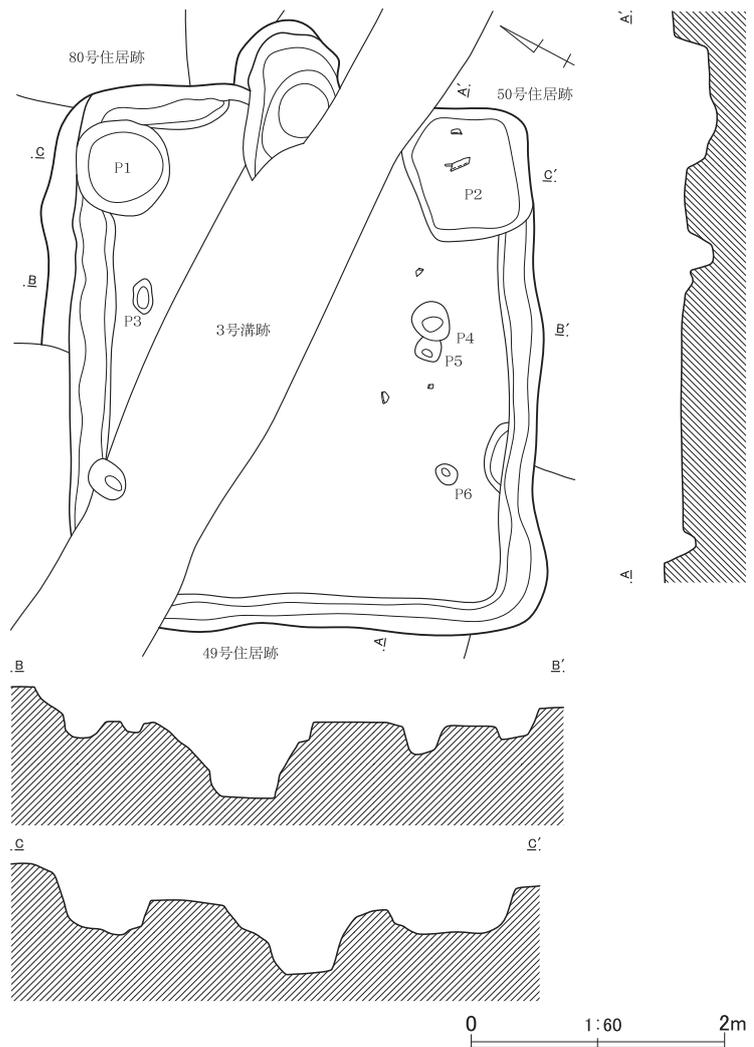
第47号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(22.0)、器高35.0、底部径(6.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 2/3。G. カマド焚口天井部の補強材に使用。二次焼成を受け、外面は荒れている。外面胴部下位に赤化した粘土付着。H. カマド内。
2	甕	A. 口縁部径21.8、器高34.8、底部径4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 3/4。G. 外面に黒班あり。H. 床面直上。

3	甕	A. 口縁部径22.2、残存高25.0。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部。G. カマド焚口天井部の補強材に使用。H. カマド内。
4	甕	A. 口縁部径17.7、残存高20.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外一にぶい赤褐色、内一明赤褐色。F. 底部欠失。G. カマド左側袖先端の補強材に使用。二次焼成を受け、外面は荒れている。H. カマド袖。
5	甕	A. 口縁部径15.6、器高25.5、底部径(7.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 一部欠損。G. カマド右側袖先端の補強材に使用。二次焼成を受け、外面は荒れている。外面胴部下半に赤化した粘土付着。H. カマド袖。
6	小形甕	A. 口縁部径(16.2)、残存高11.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 1/3。H. P5内。
7	皿	A. 口縁部径18.4、器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一橙色、内一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. カマド焚口天井部補強材の甕(No1)の蓋に使用。H. カマド内。

第48号住居跡（第91図、図版45）

調査区中央部の北側寄りに位置し、重複する第49号住居跡・第50号住居跡・第80b号住居跡を切り、第3号溝跡に切られている。平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、北東～南西方向4.33m、北西～南東方向3.78mを測る。主軸方位は、N—63°—Eをとる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高29cmある。各壁の壁下には、上幅25cm～33cm、床面からの深さ15cm程度の壁溝が、途切れずに巡っている。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、比較的平坦に作られている。住居中央部は堅緻であるが、壁際の周辺部はやや軟弱である。ピットは、住居内から6箇所検出されている。P1は、住居北側コーナー部に位置する。75cm×74cmの不整円形を呈し、床面からの深さは24cmある。P2は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の住居東側コーナー部に位置する。104cm×101cmのコーナー部がやや丸みを

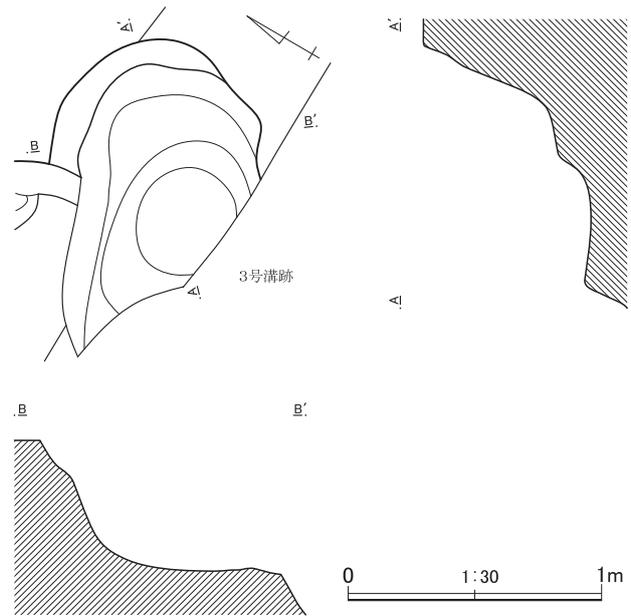


第91図 第48号住居跡

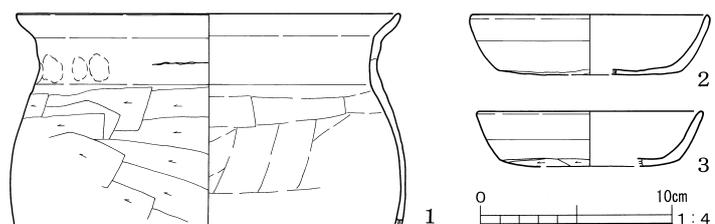
もつ方形ぎみの形態で、床面からの深さは20cmある。P 3は、住居の南西側に位置する。28cm×16cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは10cmある。P 4は、住居の南東側に位置し、P 5と重複している。33cm×28cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは21cmある。P 5は、20cm程度の円形ぎみの形態で、床面からの深さは8cmある。P 6は、住居の南側に位置する。18cm×16cmの不整円形を呈し、床面からの深さは16cmある。

カマドは、住居北東側壁のほぼ中央付近に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。カマドの南側を第3号溝跡に切られているため全容は不明であるが、長さは128cmまで、幅は83cmまで測れる。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られており、内面はあまり良く焼けていない。燃焼部底面(火床)は、住居の床面よりも低く、煙道部に向かって緩やかに傾斜して立ち上がっている。燃焼部内には、支脚の痕跡は見られない。袖の痕跡はなく、煙道部もすでに削平されている。

出土遺物は、住居の覆土中から土器の破片が少量出土しただけである。



第92図 第48号住居跡カマド



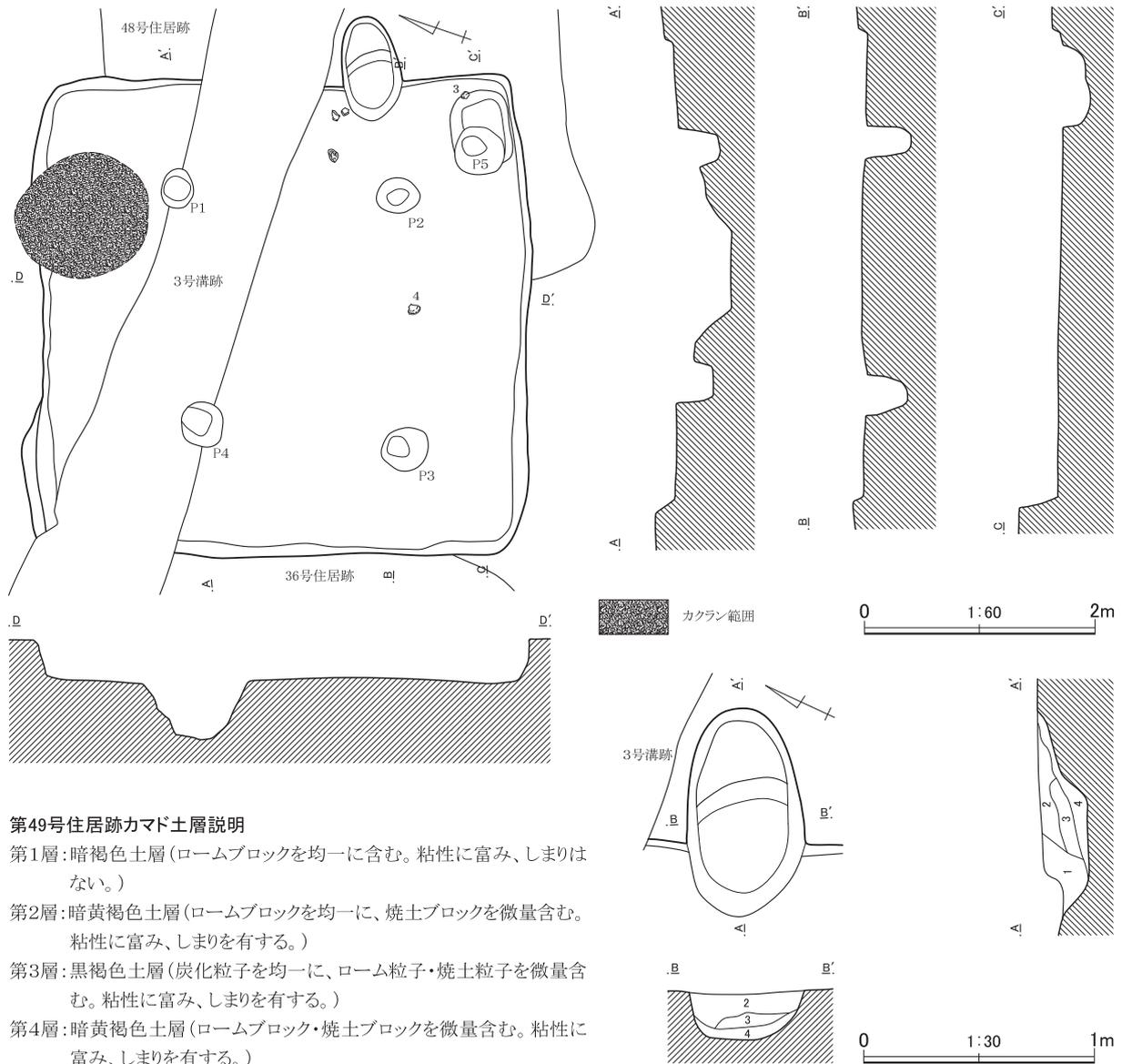
第93図 第48号住居跡出土遺物

第48号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(20.2)、残存高11.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一橙色。G. 頸部外面に指頭圧痕あり。F. 1/4。H. 覆土中。
2	坏	A. 口縁部径(12.5)、器高3.2、底部径(9.7)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 1/4。H. 覆土中。
3	坏	A. 口縁部径(11.8)、器高(2.9)、底部径(9.5)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 1/5。H. 覆土中。

第49号住居跡 (第94図、図版46)

調査区中央部の北側寄りに位置し、重複する第31号住居跡・第48号住居跡・第3号溝跡に切られている。平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ方形を呈している。規模は、北東～南西方向4.14m、北西～南東方向4.30mを測る。主軸方位は、N-71°-Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高39cmある。残存する各壁下に、壁溝は見られない。床は、ローム



第49号住居跡カマド土層説明

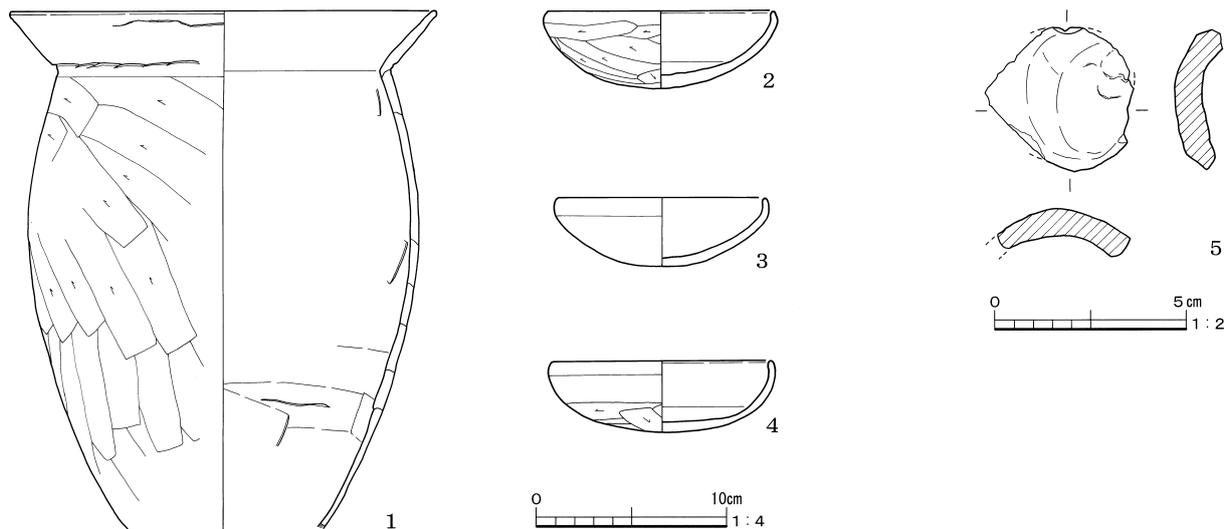
- 第1層:暗褐色土層(ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第2層:暗黄褐色土層(ロームブロックを均一に、焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:黒褐色土層(炭化粒子を均一に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:暗黄褐色土層(ロームブロック・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第94図 第49号住居跡

ブロックを均一に含む暗黄褐色を埋め戻した貼床式で、全体的に平坦に作られている。主柱穴に囲まれた中央部は比較的堅緻であるが、主柱穴と壁の間の周辺部はやや軟弱である。ピットは、住居跡内から5箇所検出されている。P1～P4は、ほぼ住居の対角線上に配置されており、主柱穴と考えられるものである。いずれも長さ40cm前後の楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは35cm～60cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の住居東側コーナー部に位置している。73cm×51cmの隅丸長方形ぎみの形態で、床面からの深さは20cmある。

カマドは、住居北東側壁の南側寄りに位置し、住居の壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長91cm、最大幅52cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られており、内面はあまり良く焼けていない。燃焼部底面(火床)は、住居の床面よりも低く、煙道部に向かって緩やかに傾斜している。燃焼部内には、支脚の痕跡は見られない。袖の痕跡はなく、煙道部もすでに削平されている。

出土遺物は、床面上や覆土中から土器が少量出土しただけである。



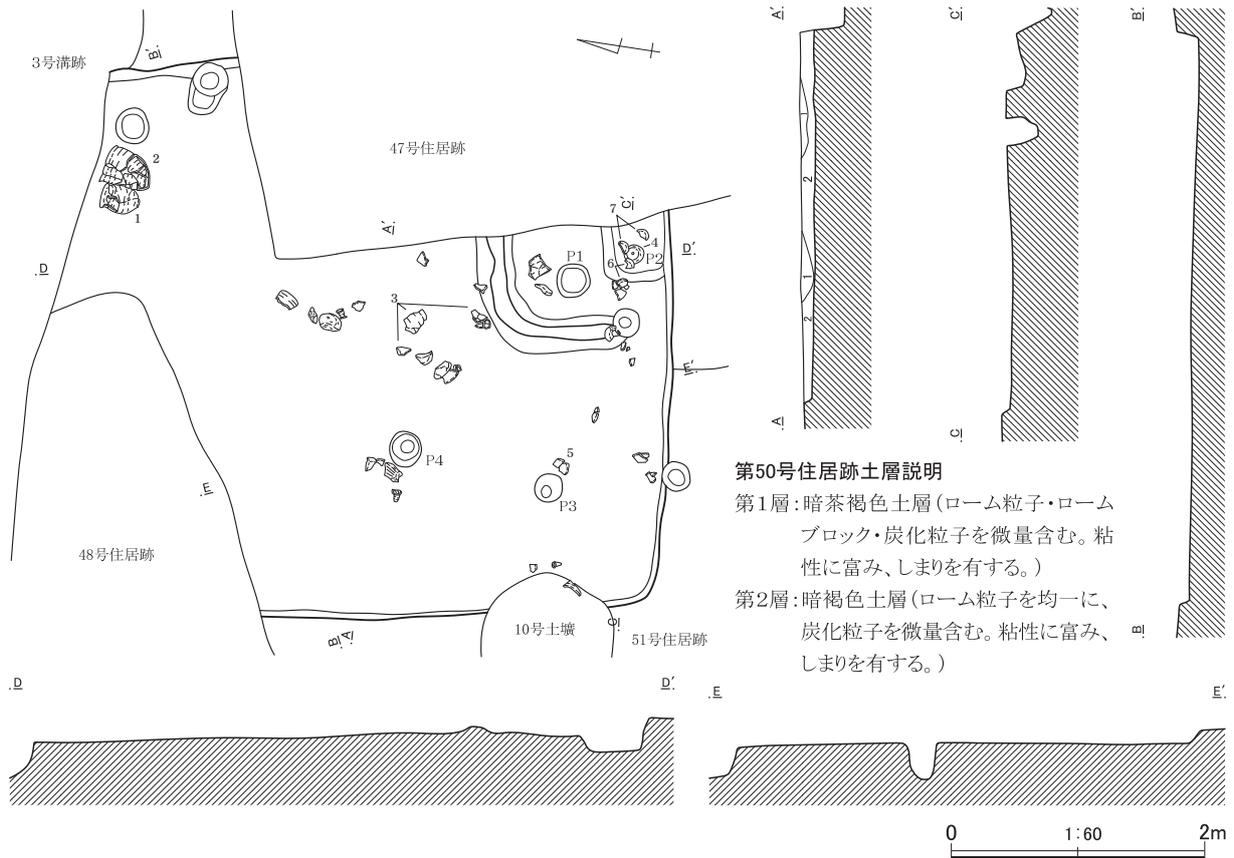
第95図 第49号住居跡出土遺物

第49号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(22.4)、残存高17.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面箇ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい黄橙色、内-にぶい橙色。F. 1/6。G. 二次焼成を受け、器表面は荒れている。内面胴部中位は帯状に器面剥離。H. カマド内。
2	坏	A. 口縁部径12.1、器高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい橙色、内-にぶい褐色。F. 口縁部一部欠損。H. 覆土中。
3	坏	A. 口縁部径(11.0)、器高3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい黄橙色、内-にぶい橙色。F. 1/2。G. 内外面は荒れている。H. 貯蔵穴(P5)上面。
4	坏	A. 口縁部径11.6、器高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-橙色、内-明赤褐色。F. 3/4。H. 床面直上。
5	土製品	A. 最大長3.8、残存幅3.9、最大厚0.7、残重13.21g。C. 内外面ナデ。D. 白色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-にぶい黄褐色。F. 端部欠損。H. 覆土中。

第50号住居跡 (第96図、図版47・48)

調査区の中央部に位置し、重複する第51号住居跡を切り、第47号住居跡・第48号住居跡・第10号土壇・第3号溝跡に切られている。平面形は、残存する部分から推測すると、方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、北東～南西方向4.43m、北西～南東方向は4.93mまで測れる。主軸方位は、N-82°-Eをとるとと思われる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高20cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的に平坦に作られている。住居中央部は比較的堅緻であるが、周辺部はやや軟弱である。住居の南東側には、幅25cm～30cm、高さ6cm程度の「コ」の字形をした土堤が見られる。このような住居内の土堤は、調査区東側の第71号住居跡でも見られる。ピットは、住居跡内から多数検出されているが、住居に伴うと考えられるものはP1～P4の4箇所である。P1は、住居南東側の土堤の内側に位置する。形態は、27cm×26cmの円形を呈し、床面からの深さは15cmある。P2は、住居南東側壁の壁下中央に位置し、前面を「コ」の字形の土堤に囲まれている。東側を第47号住居跡に切られているため、その全容は不明であるが、残存する部分から推測すると長方形を呈し



第 96 図 第 50 号住居跡

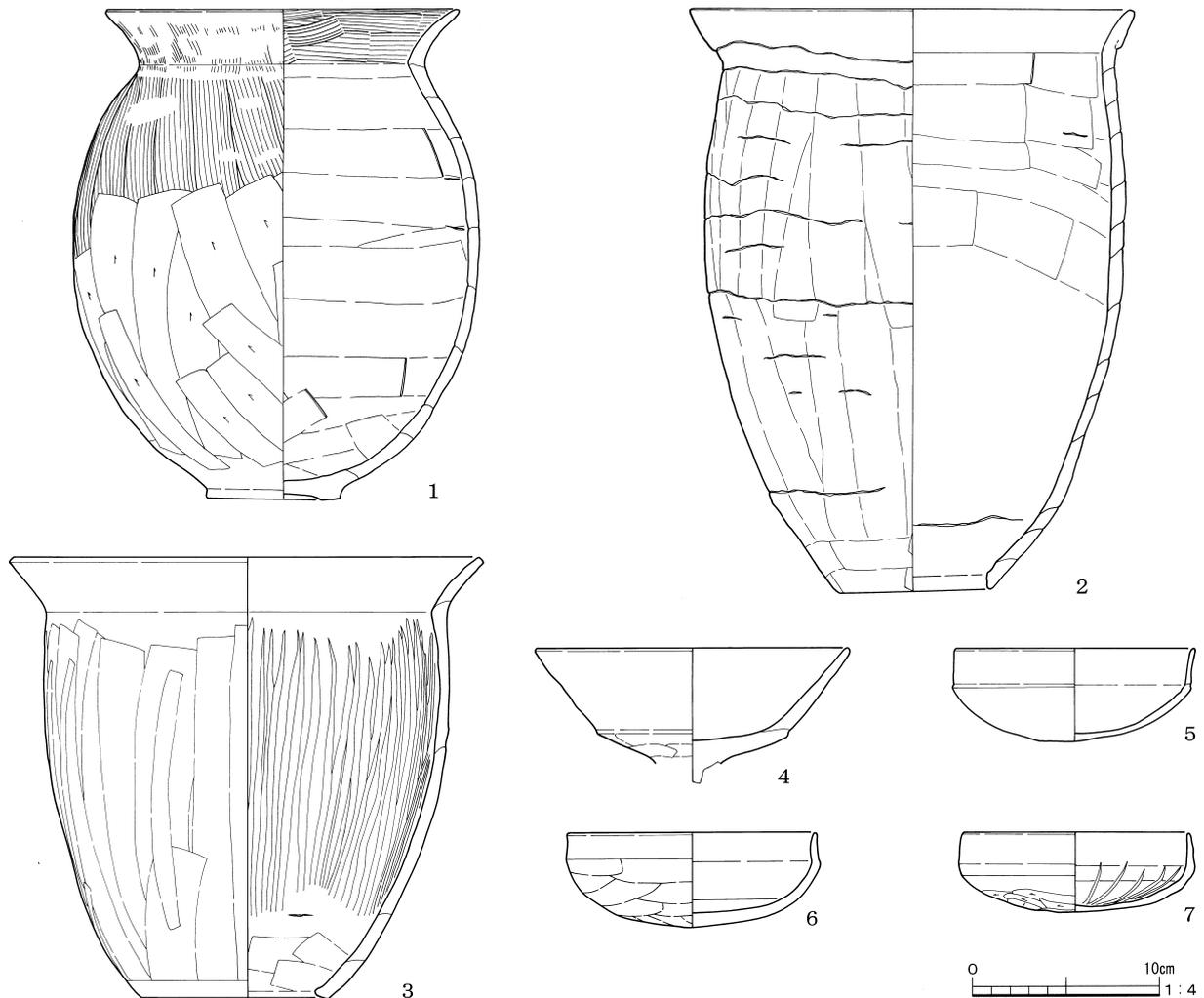
ていたものと思われる。床面からの深さは13cmあり、中からは丸い自然石と高坏の坏部が、上面からは坏の破片が出土している。P 3 は、住居の南西側に位置する。直径23cmの円形を呈し、床面からの深さは18cmある。P 4 は、住居西側に位置する。28cm×25cmの円形ぎみの形態で、床面からの深さは29cmある。

カマドは、住居跡の残存する部分には見られないが、同様の土堤をもつ第71号住居跡の例からすると、住居の北東側壁に付設されていたものと思われる。

出土遺物は、住居の床面上より比較的多くの土器が出土している。土器以外では、住居中央部の床面上から比較的大きな自然石が5個やや離れて出土している。

第50号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径18.9、器高26.7、底部径7.2。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部外面ハケの後ナデ、内面ハケ。胴部外面ハケの後下半ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい赤褐色、内一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面直上。
2	大形甕	A. 口縁部径24.0、器高31.9、底部径8.2。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一橙色、内一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面直上。
3	大形甕	A. 口縁部径(25.4)、器高24.0、底部径(10.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面篋ナデの後下端ヨコナデ、内面篋ナデの後ミガキ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明褐色。F. 1/2。H. 床面直上。
4	高坏	A. 口縁部径16.8、残存高7.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 坏部のみ。H. P 2内。
5	坏	A. 口縁部径12.8、器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 1/2。G. 二次焼成を受け、器表面は荒れている。H. 床面直上。

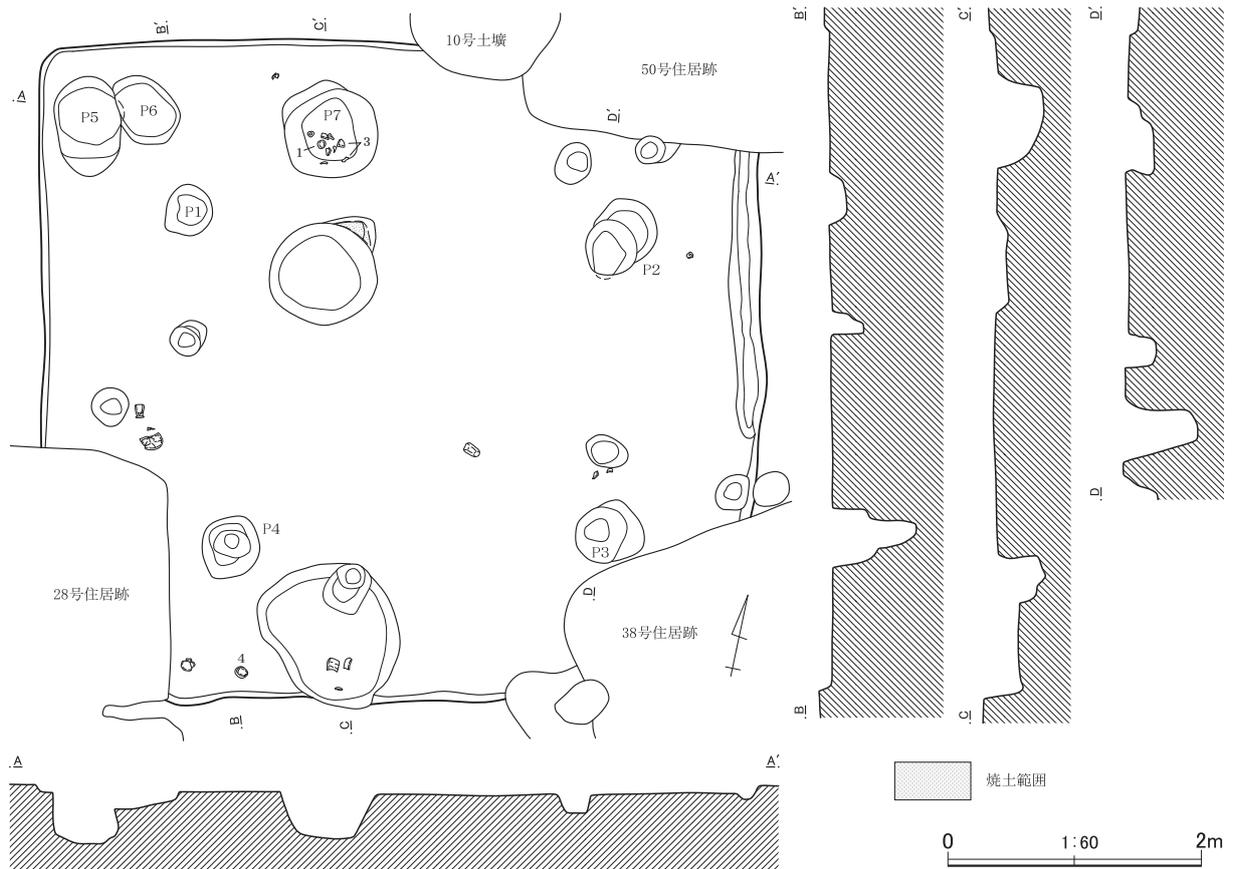


第97図 第50号住居跡出土遺物

6	坏	A. 口縁部径13.4、器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-橙色、内-明赤褐色。F. 4/5。H. 床面直上。
7	坏	A. 口縁部径12.2、器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面篋ナデの後放射状暗文。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. ほぼ完形。H. P 2内。

第51号住居跡（第98図、図版49）

調査区の中央部に位置し、重複する第28号住居跡・第38号住居跡・第50号住居跡・第10号土壌に切られている。平面形は、残存する部分から推測すると、方形を呈していたものと思われる。規模は、北東～南西方向5.72m、北西～南東方向は5.27mまで測れる。主軸方位は、N-79°-Eをとると思われる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高11cmある。壁溝は、住居北東側壁の一部に見られ、上幅14cm・床面からの深さ10cmの比較的均一な形態である。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的に平坦に作られている。ピットは、住居跡内から多数検出されているが、住居に伴うと考えられるものはP1～P7の7箇所である。P1～P4は、住居のほぼ対角線上に配置されており、主柱穴と考えられるものである。規模や形態は様々で、35cm～50cmの不整円形や楕円形ぎみの形態で、床面からの深さはP1とP2が13cmと15cm、

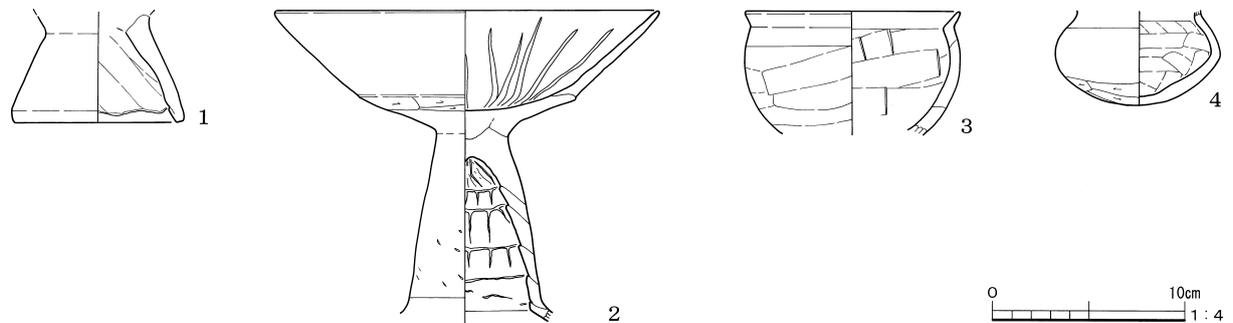


第 98 図 第 51 号住居跡

P 3 と P 4 が 56cm と 66cm ある。P 5 は、住居の西側コーナー部に位置する。79cm×52cm の楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは 42cm ある。P 6 は、P 5 の東側に一部重複して位置する。62cm×45cm の楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは 13cm ある。P 7 は、住居北西側の壁際近くに位置する。78cm×73cm の不整形円形を呈し、床面からの深さは 37cm ある。中からは、No 1 の台付甕や No 3 の小形丸底壺など土器の破片が多く出土している。

炉は、4 本支柱穴の P 1・P 2 間の内側にある。大部分を現代の土壌状の掘り込みによって切られているため、その全容は不明であるが、床面を 3cm 程度掘り窪めた地皿炉のようである。

出土遺物は、住居の床面付近や P 7 内から土器の破片が少量出土しただけである。



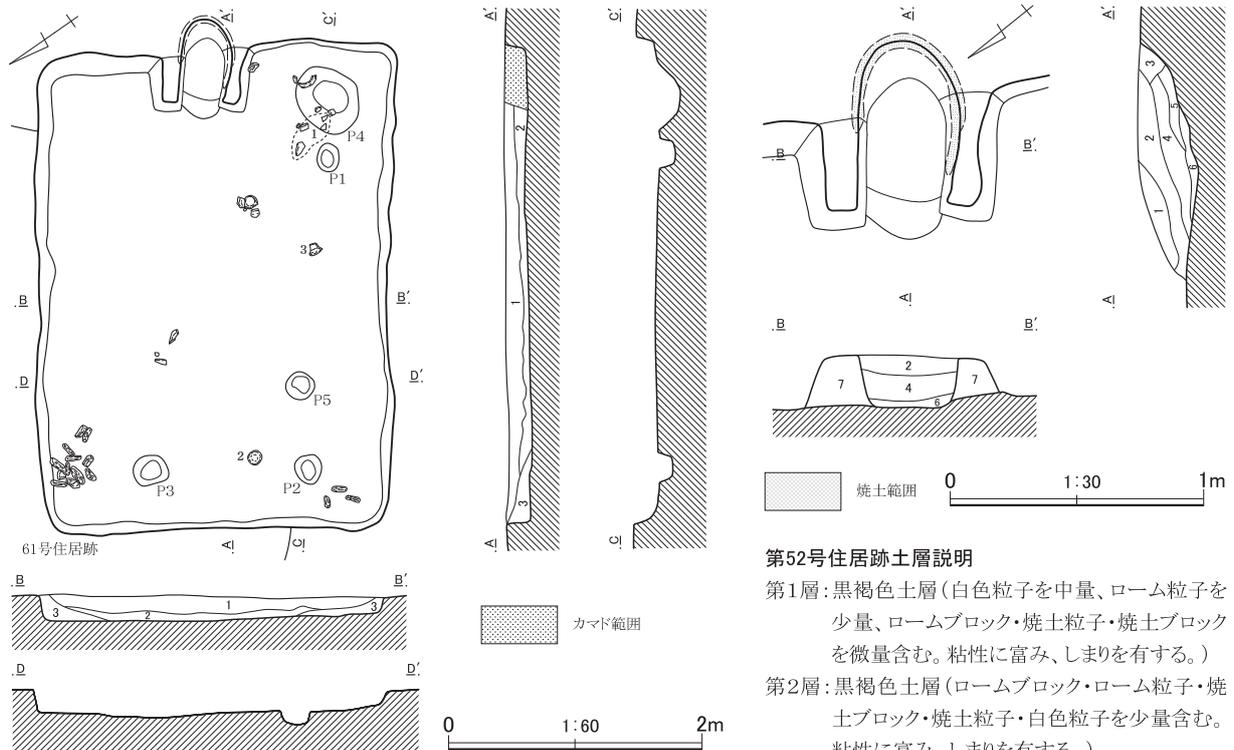
第 99 図 第 51 号住居跡出土遺物

第51号住居跡出土遺物観察表

1	台付甕	A. 台端部径8.9、残存高5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 台部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい褐色、内-にぶい赤褐色。F. 脚部のみ。H. P 7内。
2	高 坏	A. 口縁部径(20.3)、残存高16.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面篋ナデの後放射状暗文。坏部外面ナデの後周縁ケズリ。脚柱部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 脚端部欠失。G. 脚柱部外面に爪の痕跡あり。H. 覆土中。
3	坑	A. 口縁部径(11.4)、残存高6.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外-にぶい褐色。F. 口縁部~体部のみ。H. P 7内。
4	小形丸底壺	A. 残存高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-褐色。F. 1/3。H. 覆土中。

第52号住居跡 (第100図、図版49・50)

調査区西側の北寄りに位置し、重複する第61号住居跡を切っている。平面形は、各コーナー部がやや丸みをもつ長方形を呈している。規模は、南東から北西方向 3.09 m、南西~北東方向 2.84 mを測る。主軸方位は、N-125°-Eをとる。壁は、直線的に若干傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高22cmある。壁溝は、見られない。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼



第52号住居跡土層説明

- 第1層: 黒褐色土層(白色粒子を中量、ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 黒褐色土層(ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・白色粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第3層: 暗褐色土層(ローム粒子を中量、ロームブロック・白色粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第52号住居跡カマド土層説明

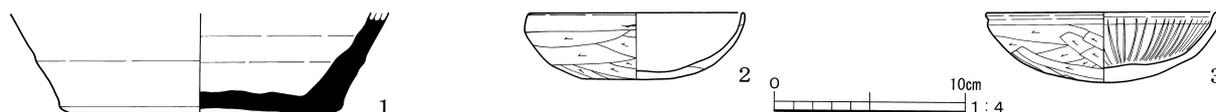
- 第1層: 黒褐色土層(焼土ブロック・焼土粒子を中量、白色粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗褐色土層(焼土ブロック・焼土粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子・白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗褐色土層(焼土ブロック・焼土粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗褐色土層(ローム粒子・暗褐色粘土ブロックを少量、焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層: 暗褐色土層(焼土ブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層: 暗褐色土層(焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第7層: 暗褐色土層(暗褐色粘土ブロックを主体とする。粘性に富み、しまりを有する。)

第 100 図 第 52 号住居跡

床式である。全体的に平坦であるが、東側に向かって若干傾斜している。ピットは、住居内から5箇所検出されている。P1～P3は、住居の対角線上から若干ずれているが、その配置から4本支柱を構成する支柱穴の可能性が考えられるものである。いずれも20cm前後の楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは10cm～15cmある。P4は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の住居南側コーナー部に位置している。57cm×48cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは21cmある。P5は、住居西側に位置する。直径22cmの円形を呈し、床面からの深さは11cmある。

カマドは、住居南東側のほぼ中央に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。燃焼部は、壁を掘り込んで作られており、内面はあまり良く焼けていない。燃焼部底面(火床)は、住居の床面より若干低く、奥壁は煙道部に向かって緩やかに傾斜している。燃焼部内には、支脚の痕跡は見られない。袖は、褐灰色粘土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、住居跡の覆土中を主体に、土器が少量出土している。土器以外では、長さ15cm程度の棒状の結晶片岩を主体とする自然石が、住居の北側コーナー部付近で12個集石されたような状態で、西側コーナー部付近で3個がまとまって出土している。



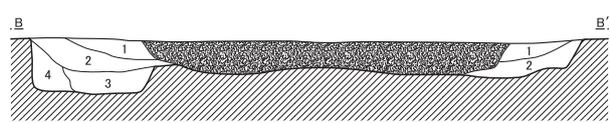
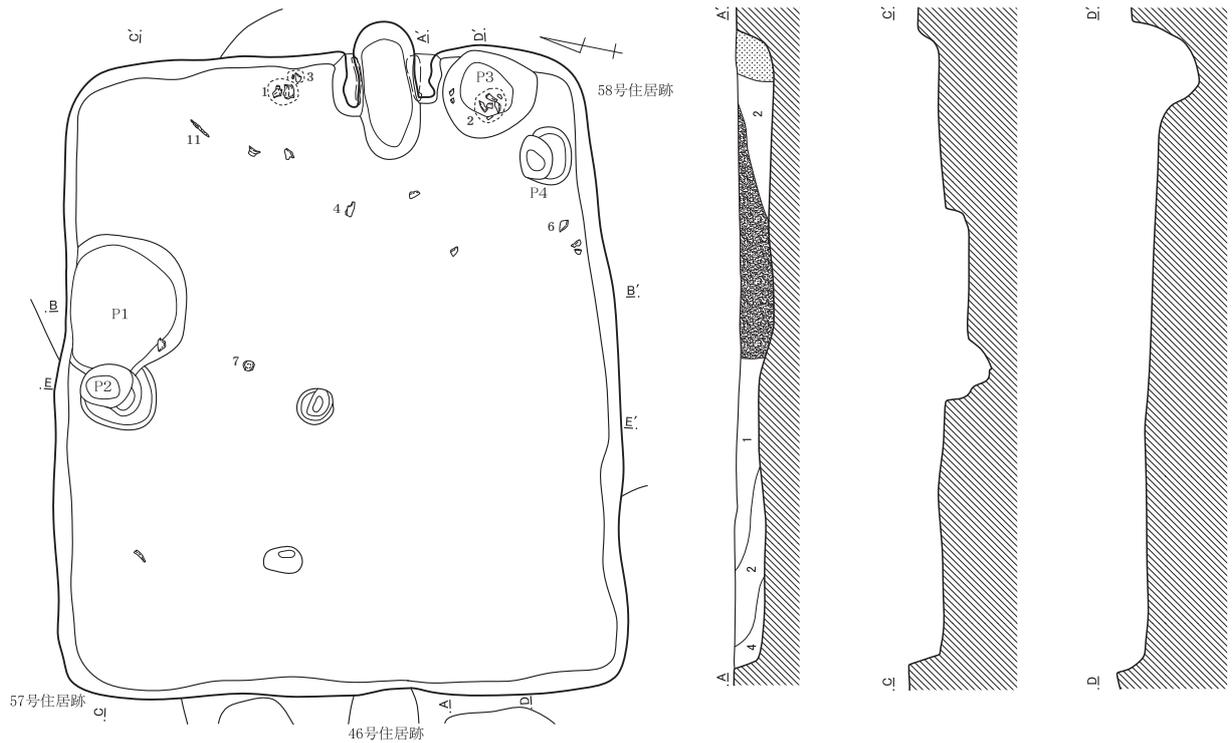
第101図 第52号住居跡出土遺物

第52号住居跡出土遺物観察表

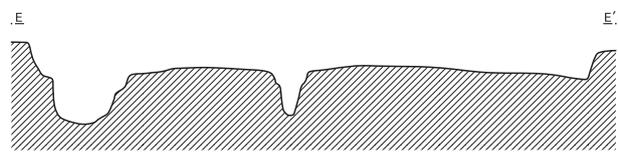
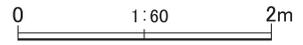
1	須恵器甕	A. 底部径(14.9)、残存高5.3。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面手持ち篋ケズリの後ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一灰黄色。F. 1/3。G. 器表面は風化している。H. 覆土中。
2	坏	A. 口縁部径11.4、器高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
3	坏	A. 口縁部径(12.4)、器高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後放射状暗文。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。

第53号住居跡(第102図、図版51)

調査区の東側に位置し、重複する第46号住居跡・第57号住居跡・第58号住居跡に切られている。平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、北東～南西方向5.14m、北西～南東方向は4.50mまで測れる。主軸方位は、N-76°-Eをとると思われる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高26cmある。壁溝は、見られない。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的にやや起伏が見られる。住居に伴うと考えられるピットは、4箇所検出されている。P1は、住居の北西側壁の壁下中央に位置する。112cm×96cmの楕円形を呈する土壇状の形態で、床面からの深さは22cmある。P2は、住居北西側壁の壁際で、P1と重複している。60cm×51cmの不整形円形を呈し、床面からの深さは40cmある。P3は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の住居東側コーナー部に位置する。76cm×70cm不整形楕円形を呈し、床面からの深さは20cmある。P4は、住居東側コーナー部付近に位置する。34cm×26cmの



カマド範囲
カクラン範囲



第53号住居跡土層説明

第1層: 暗褐色土層(ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
第2層: 暗褐色土層(ローム粒子・焼土粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)

第3層: 暗茶褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)

第4層: 暗茶褐色土層(ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第53号住居跡カマド土層説明

第1層: 暗灰褐色土層(暗灰褐色粘土ブロック・焼土粒子を均一に、焼土ブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

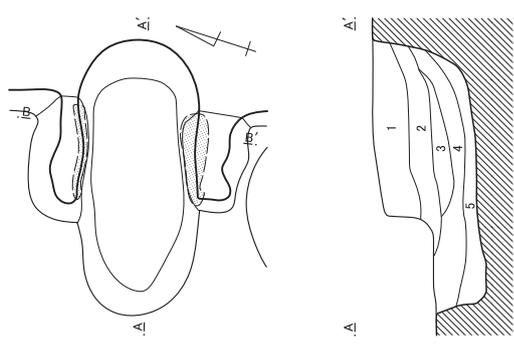
第2層: 暗褐色土層(ローム粒子・炭化粒子を均一に、焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第3層: 暗褐色土層(炭化粒子を均一に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。)

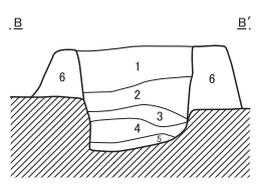
第4層: 暗褐色土層(淡灰褐色粘土ブロック・焼土ブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第5層: 暗黄褐色土層(ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第6層: 暗灰褐色土層(暗灰褐色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)



焼土範囲

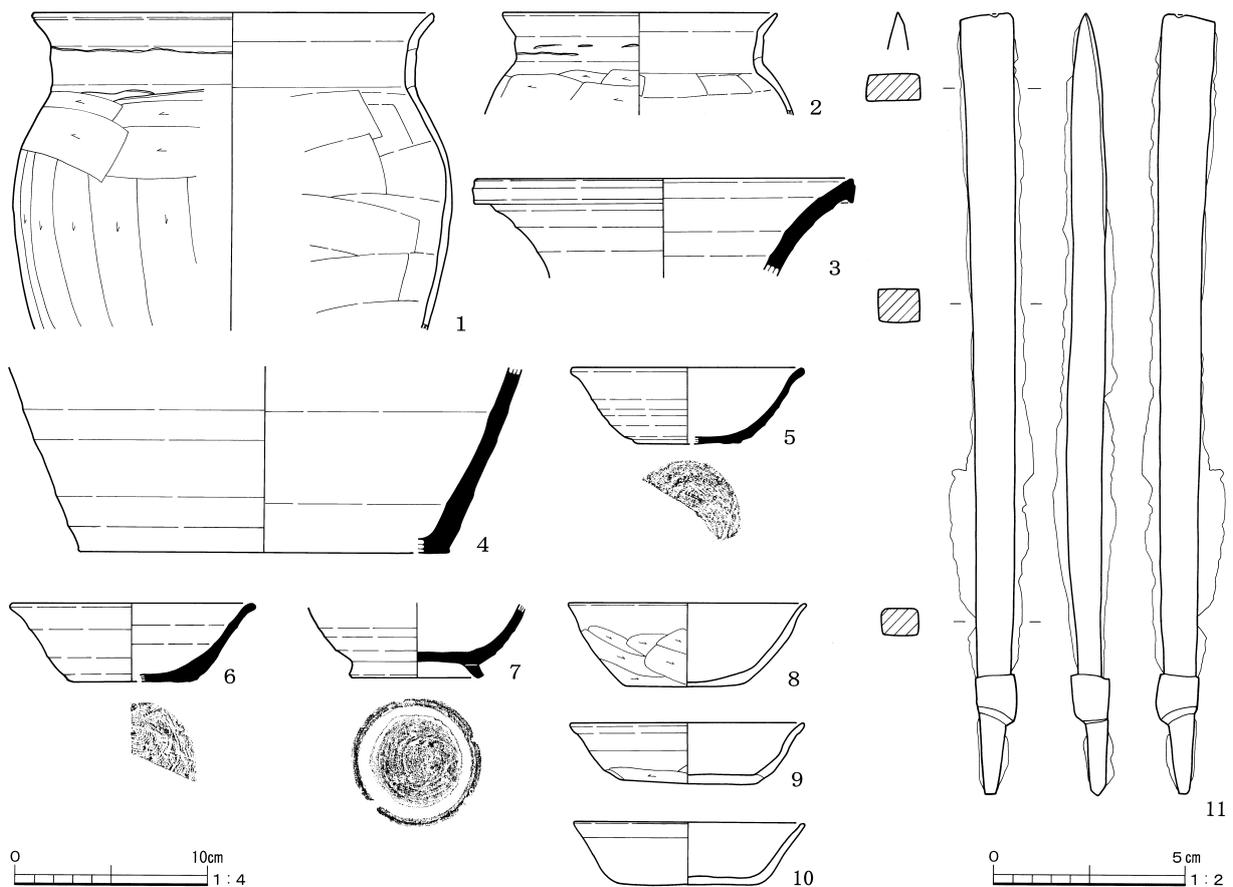


第 102 図 第 53 号住居跡

楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは17cmある。

カマドは、住居北東側壁の南側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長108cm、最大幅83cmを測る。燃烧部は、住居の壁を掘り込んで作られており、内面は比較的良く焼けている。燃烧部底面(火床)は、住居の床面よりも低く、奥壁は煙道部に向かってやや急に立ち上がっている。燃烧部内に支脚の痕跡は見られない。袖は、灰褐色粘土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、覆土中から土器の破片が多く出土している。土器以外では、カマド左側の住居北東壁際近くから、鑿状の鉄器(No11)が1点出土している。



第103図 第53号住居跡出土遺物

第53号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(21.0)、残存高16.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面籠ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. 口縁部～胴部片。H. 床面付近。
2	甕	A. 口縁部径(14.5)、残存高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面籠ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一明褐色、内一にぶい褐色。F. 口縁部片。H. 貯蔵穴P3内。
3	須恵器甕	A. 口縁部径(22.0)、残存高5.2。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外一暗灰色、内一灰色。F. 口縁部片。H. 覆土中。
4	須恵器甕	A. 底部径(19.4)、残存高9.7。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外一暗灰色、内一灰色。F. 胴部～底部片。H. 覆土中。
5	須恵器坏	A. 口縁部径(12.4)、器高4.0、底部径(5.6)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 外一黄褐色、内一にぶい黄色。F. 1/4。G. 酸化焰焼成。器表面は風化している。H. 覆土中。

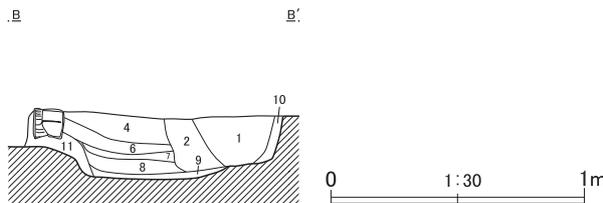
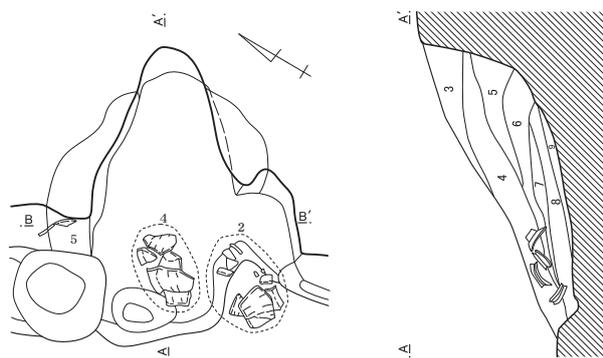
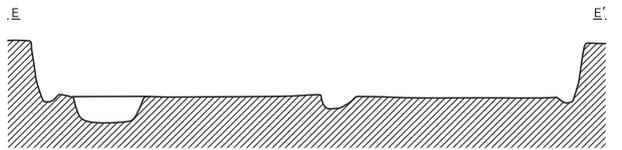
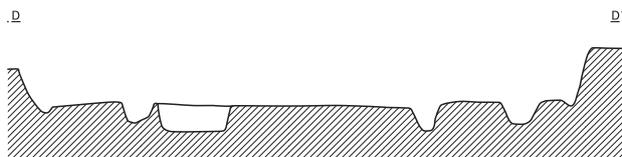
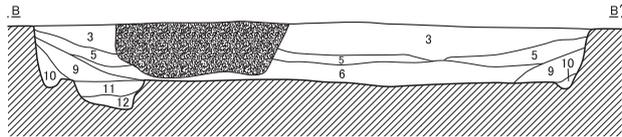
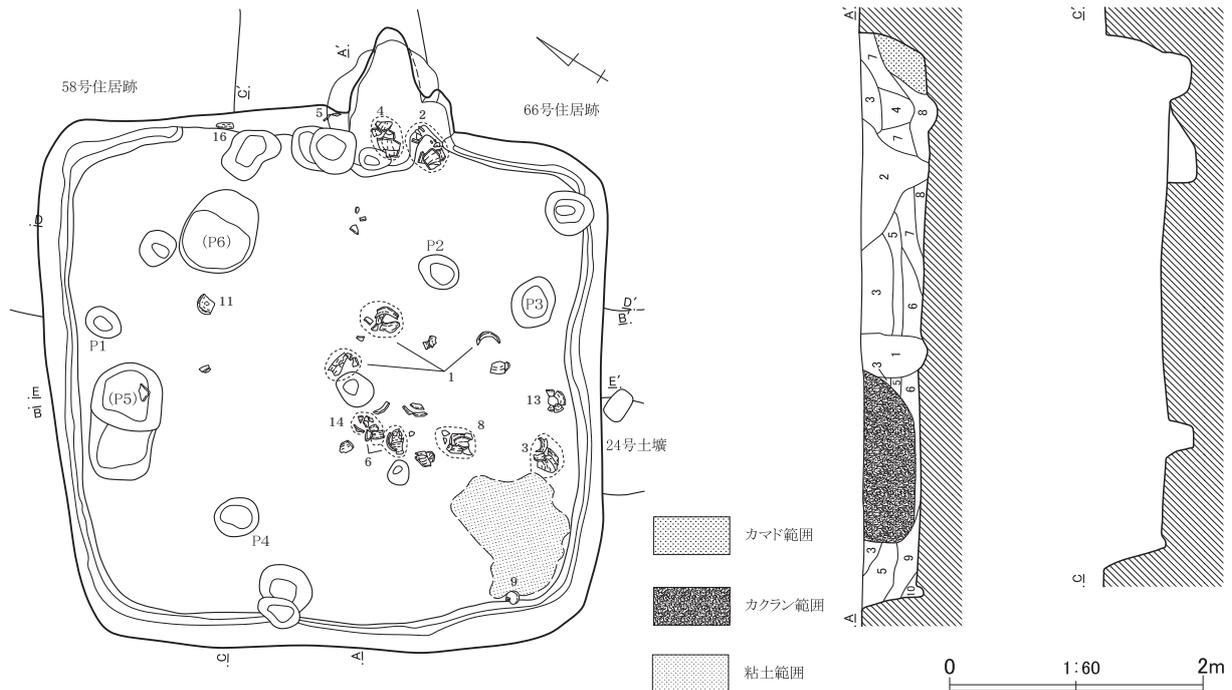
6	須恵器 坏	A. 口縁部径(12.8)、器高4.1、底部径(6.8)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 1/3。H. 覆土中。
7	須恵器 高台付塊	A. 底部径7.0、残存高3.9。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切りの後ナデ。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 口縁部欠失。H. 覆土中。
8	坏	A. 口縁部径12.6、器高4.4、底部径6.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい赤褐色、内一にぶい褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
9	坏	A. 口縁部径12.4、器高3.2、底部径7.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一褐色、内一橙色。F. 2/3。H. 覆土中。
10	坏	A. 口縁部径(12.2)、器高3.3、底部径(7.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一明赤褐色、内一橙色。F. 1/2。H. 覆土中。
11	鉄製品 (鏝)	A. 全長20.6、刃部幅1.4、茎元部幅0.9、茎元部厚0.7、重量110.78g。F. 完形。H. 床面付近。

第54号住居跡（第104図、図版52）

調査区東側の中央付近に位置し、重複する第58号住居跡・第66号住居跡・第24号土壌を切っている。平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、北東～南西方向4.14m、北西～南東方向4.54mを測る。主軸方位は、N-60°-Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高47cmある。壁溝は、各壁下に見られ、途切れずに全周している。上幅が8cm～15cm、床面からの深さ5cm程度の比較的均一な形態である。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式である。ほぼ平坦に作られており、全体的堅緻である。ピットは、住居内から多数検出されているが、住居に伴うと考えられるものは、P1～P6の6箇所である。P1は、住居北西側の壁際に位置する。31cm×22cmの楕円形を呈し、床面からの深さは15cmある。P2は、住居東側に位置する。34cm×27cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは24cmある。P3は、住居南東側の壁際に位置する。42cm×34cmの不整円形を呈し、床面からの深さは18cmある。P4は、住居西側に位置する。36cm×31cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは22cmある。P5は、床下から検出されたいわゆる床下土壌で、住居北西側の壁際に位置する。94cm×56cmの隅丸長方形ぎみの形態で床面からの深さは23cmある。P6も、床下土壌で住居北側に位置する。71cm×58cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは24cmある。

カマドは、住居北東側壁の中央やや南側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長116cm、最大幅90cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られており、内面は比較的良く焼けている。燃焼部中央付近から右袖にかけては、後世のピットによって切られている。燃焼部底面(火床)は、住居の床面よりも若干低く、奥壁に向かって緩やかに傾斜し、奥壁は煙道部に向かってやや急に立ち上がっている。袖は、褐灰色粘土を燃焼部の奥壁近くまで廻して構築している。左側袖の先端付近は、甕を立てて補強にしている。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、カマド内外や住居中央部から南側の床面上から土器が比較的多く出土している(第105図)。土器以外では、住居北東側の壁際から鉄製刀子(No16)の破片が出土している。また、住居の南側コーナー部の床面上には白色粘土塊が広範囲に分布している。覆土中から出土したNo15の剣形石製模造品は、重複する古墳時代後期初頭の第58号住居跡か第66号住居跡から混入したものであろう。



第54号住居跡土層説明

- 第1層: 黒褐色土層(B軽石を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 黒褐色土層(B軽石・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗褐色土層(ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗褐色土層(焼土粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層: 暗褐色土層(ローム粒子・淡褐色粘土粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層: 暗茶褐色土層(ローム粒子・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第7層: 暗茶褐色土層(ロームブロック・焼土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第8層: 暗褐色土層(淡褐色粘土粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第9層: 暗褐色土層(ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第10層: 暗黄褐色土層(ローム粒子を多量含む。粘性、しまりともない。)
- 第11層: 暗褐色土層(ローム粒子・ロームブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第12層: 暗黄褐色土層(ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

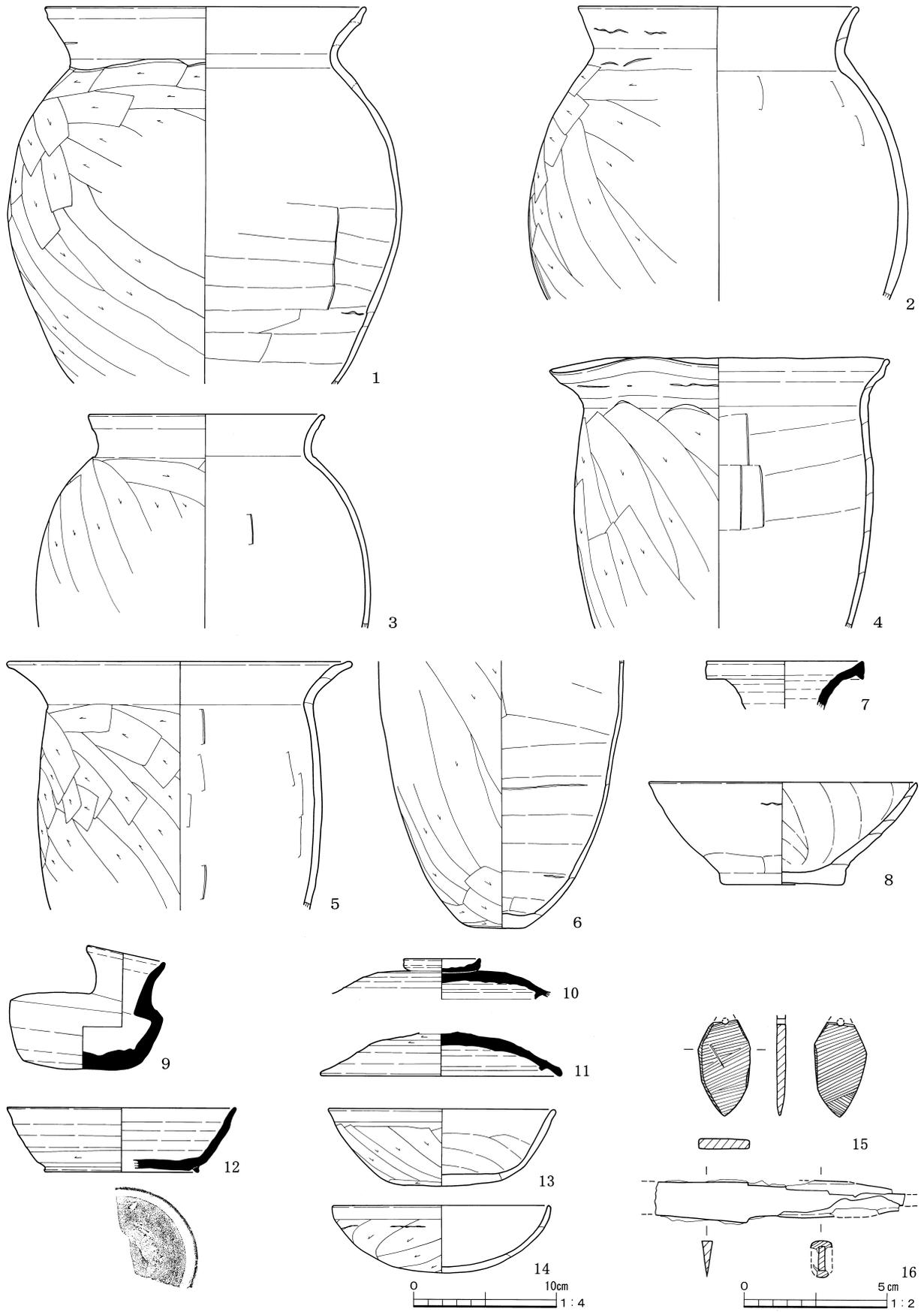
第 104 図 第 54 号住居跡

第54号住居跡カマド土層説明

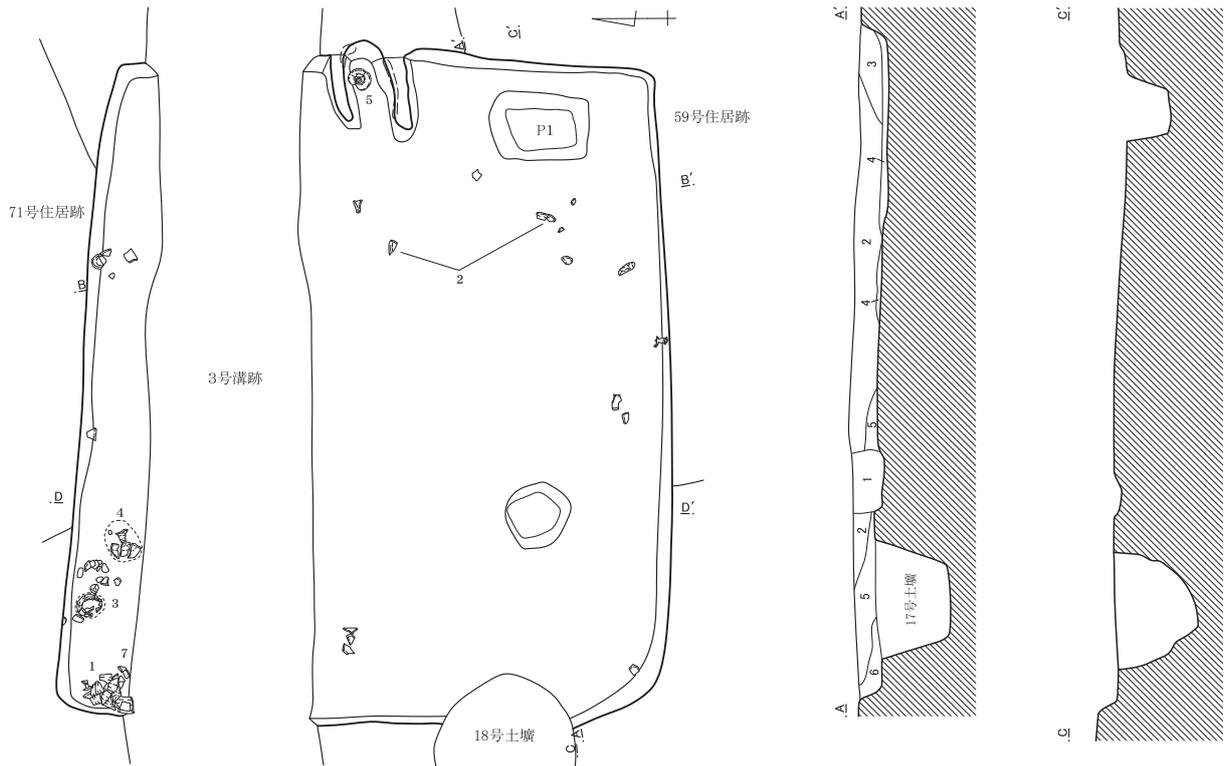
- 第1層:暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗褐色土層(ロームブロックを中量、焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:暗褐色土層(焼土ブロック・焼土粒子を少量、白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を中量、白色粒子・焼土粒子を少量、焼土ブロック・褐灰色粘土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層:褐灰色土層(褐灰色粘土ブロックを主体に、焼土ブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層:暗赤灰色土層(焼土ブロックを主体とする。粘性に富み、しまりはない。)
- 第7層:黒褐色土層(炭化粒子を主体に、焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第8層:暗褐色土層(焼土ブロック・焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第9層:暗黄褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第10層:暗褐色土層(焼土ブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第11層:褐灰色土層(褐灰色粘土を主体とする。粘性に富み、しまりを有する。)

第54号住居跡出土遺物観察表

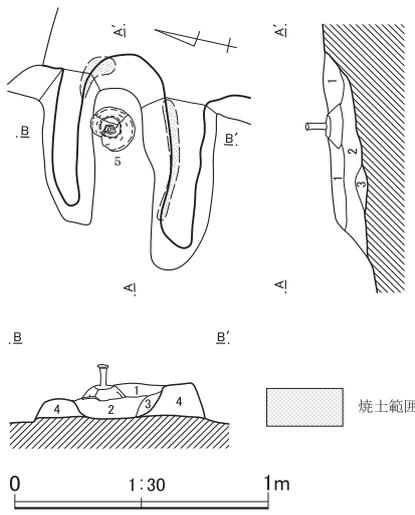
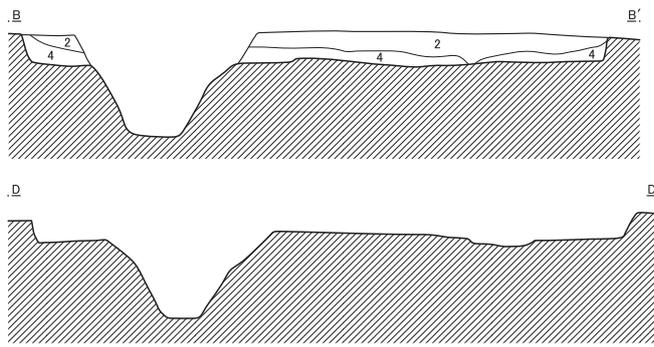
1	甕	A. 口縁部径22.5、残存高26.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一赤褐色、内一暗赤褐色。F. 1/3。H. 床面付近。
2	甕	A. 口縁部径(19.4)、残存高20.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 1/4。H. 床面直上。
3	甕	A. 口縁部径16.6、残存高15.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一赤褐色。F. 1/3。H. 床面直上。
4	甕	A. 口縁部径23.8、残存高19.0。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外一赤褐色。F. 口縁部～胴部のみ。H. カマド内。
5	甕	A. 口縁部径(24.0)、残存高17.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一明赤褐色、内一橙色。F. 1/3。G. カマド左側袖の補強材として使用。H. カマド左側袖。
6	甕	A. 底部径4.0、残存高18.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一黒褐色、内一明赤褐色。F. 胴部～底部。H. 床面付近。
7	須恵器壺	A. 口縁部径(11.0)、残存高3.4。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一黄灰色、内一灰オリーブ色。F. 口縁部片。G. 内面に自然釉。H. 覆土中。
8	鉢	A. 口縁部径18.7、器高7.2、底部径8.6。B. 粘土紐巻き上げ。C. 内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一橙色、内一明赤褐色。F. 3/4。G. 内面は荒れている。H. 床面直上。
9	須恵器瓶	A. 口縁部径(5.6)、器高8.7、底部径7.8。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外一にぶい黄褐色、内一灰黄褐色。F. 口縁部一部欠損。G. 器表面は風化している。二次焼成を受けている。H. 床面直上。
10	須恵器蓋	A. つまみ部径5.4、残存高2.8。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。天井部外面回転篋ケズリ。D. 黒色粒。E. 外一灰オリーブ色、内一灰色。F. 口縁部欠失。G. 外面に自然釉。H. 覆土中。
11	須恵器蓋	A. 口縁部径(17.0)、残存高3.1。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。天井部外面回転篋ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一灰白色。F. つまみ部欠失。G. 内面に墨の痕跡あり。H. 床面付近。
12	須恵器高台付坏	A. 口縁部径(16.0)、器高4.5、底部径(10.7)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。体部外面下位回転ヘラケズリ。底部外面回転篋ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 1/3。H. 覆土中。
13	坏	A. 口縁部径16.1、器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面付近。
14	坏	A. 口縁部径15.4、器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外一明褐色、内一明赤褐色。F. 2/3。G. 内面は荒れている。H. 床面直上。
15	石製模造品(剣形)	A. 残存長3.3、最大幅1.8、厚さ0.4、残量3.46g。C. 表裏面とも丁寧な研磨。D. 蛇紋岩。F. 上端部欠損。G. 穿孔痕1カ所。H. 覆土中。
16	鉄製品(刀子)	A. 残存長8.7、刃部幅1.3、刃部厚0.4、茎部幅1.3、茎部厚(0.7)、残重11.76g。F. 両端部欠失。H. 北東壁際。



第 105 图 第 54 号住居跡出土遺物



0 1:60 2m



第55号住居跡土層説明

- 第1層: 暗褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗褐色土層(ローム粒子、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗褐色土層(ローム粒子を均一に、焼土ブロック・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗茶褐色土層(ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層: 暗茶褐色土層(ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層: 暗茶褐色土層(ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第55号住居跡カマド土層説明

- 第1層: 暗赤褐色土層(焼土粒子・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第2層: 黒褐色土層(炭化粒子・ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第3層: 暗褐色土層(ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗黄褐色土層(ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

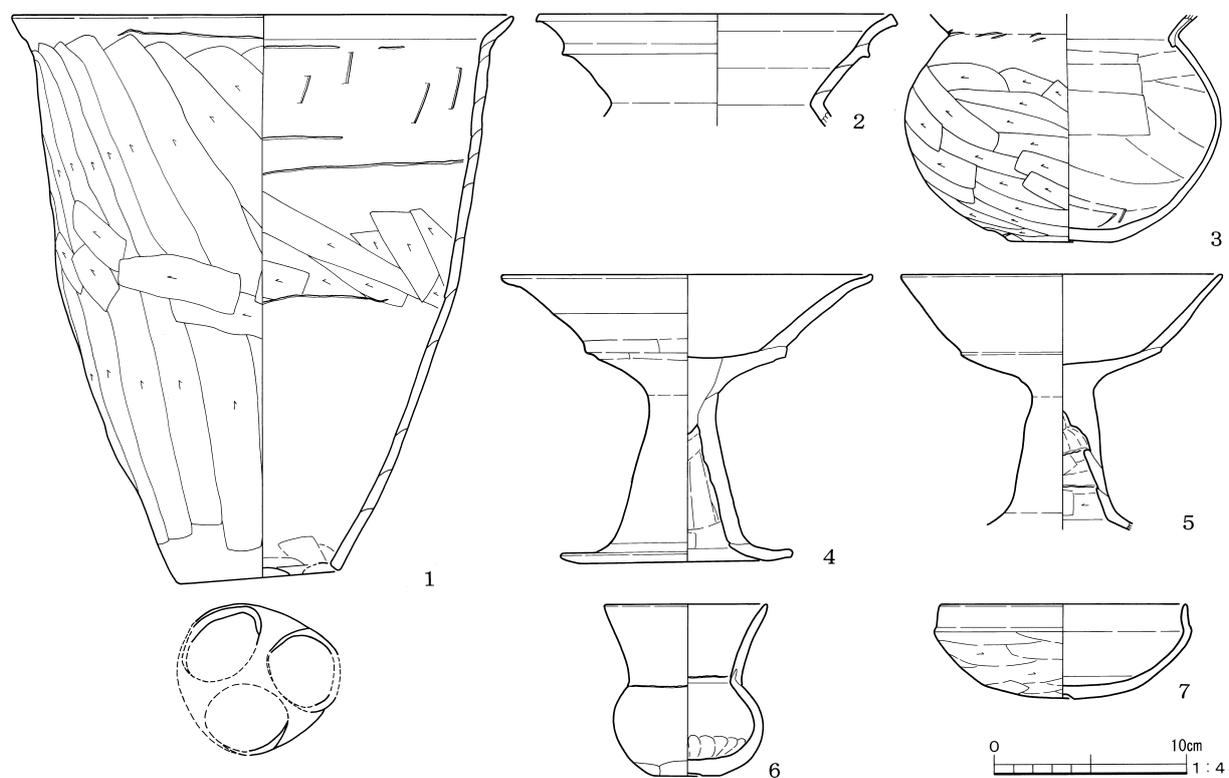
第 106 図 第 55 号住居跡

第55号住居跡（第107図、図版53）

調査区東側に位置し、重複する第59号住居跡・第68号住居跡・第69号住居跡・第71号住居跡・第72号住居跡・第17号土壙を切り、第18号土壙・第3号溝跡に切られている。平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ長方形を呈している。規模は、東西方向5.35m、南北方向4.82mを測る。主軸方位は、N-91°-Eをとる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高21cmある。各壁下には、壁溝は見られない。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、南東側にやや傾斜している。住居中央部は比較的堅緻であるが、周辺部はやや軟弱である。ピットは、1箇所検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置している。80cm×54cmの長方形ぎみの形態で、床面からの深さは35cmある。

カマドは、住居北東側壁のほぼ中央に位置し、壁に対してやや斜めに付設されている。規模は、全長84cm、最大幅68cmを測る。燃焼部は、住居内にあり、奥壁の位置は住居の壁とほぼ一致している。燃焼部底面(火床)は、住居の床面よりも15cm程度高く、奥壁に向かって緩やかに傾斜している。燃焼部内の中央やや奥寄りの位置には、高坏を伏せた転用支脚が1個体据えられている。袖は、ロームブロックを多量含む暗黄褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、住居の北西側コーナー部の床面付近より、土器がまとまって出土している。この中でNo1の大形甑は、底部が多孔の甑と推測されるもので、当地域ではあまり例を見ないものである。No2の壺とNo6の小形丸底壺は、本住居跡出土の他の土器群よりも古いもので、おそらく重複する第72号住居跡から混入したものと考えられる。



第107図 第55号住居跡出土遺物

第55号住居跡出土遺物観察表

1	大形甑	A. 口縁部径26.4、器高30.2、底部径(8.5)。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデの後中位ケズリ。底部外面ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一赤褐色。F. 2/3。G. 底部穿孔3カ所。H. 床面直上。
2	壺	A. 口縁部径18.5、残存高5.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一にぶい赤褐色、内一明赤褐色。F. 口縁部2/3。G. 外面は荒れている。H. 覆土中。
3	鉢	A. 残存高12.1、底部径5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 体部外面ナデの後ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい赤褐色、内一黒色。F. 口縁部欠失。G. 外面は荒れている。H. 床面付近。
4	高坏	A. 口縁部径19.6、器高15.3、底部径12.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面上半ヨコナデ・下半ヘラナデ、内面ヨコナデ。坏部外面篋ナデ、内面ナデ。脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一明褐色、内一明赤褐色。F. 4/5。H. 床面直上。
5	高坏	A. 口縁部径17.0、残存高13.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい赤褐色、内一明赤褐色。F. 脚端部欠損。G. カマド支脚に転用。H. カマド内。
6	小形丸底壺	A. 口縁部径(8.5)、器高9.0、底部径3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下端ケズリ、内面ナデ。底部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁部1/2欠損。H. 覆土中。
7	坏	A. 口縁部径13.0、器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部1/4欠損。H. 床面付近。

第56号住居跡(第108・109図、図版54)

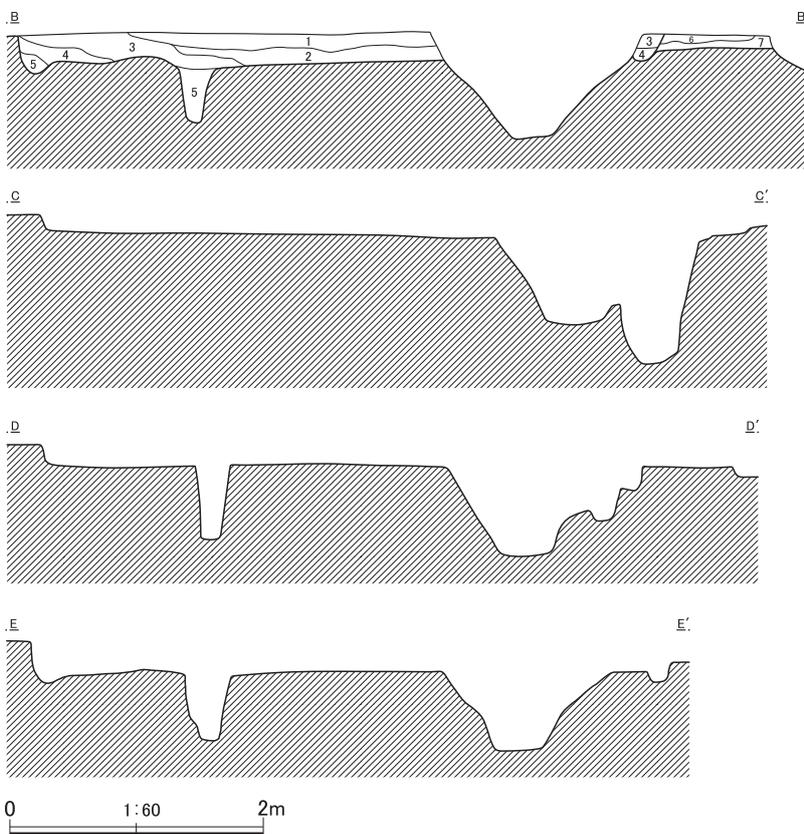
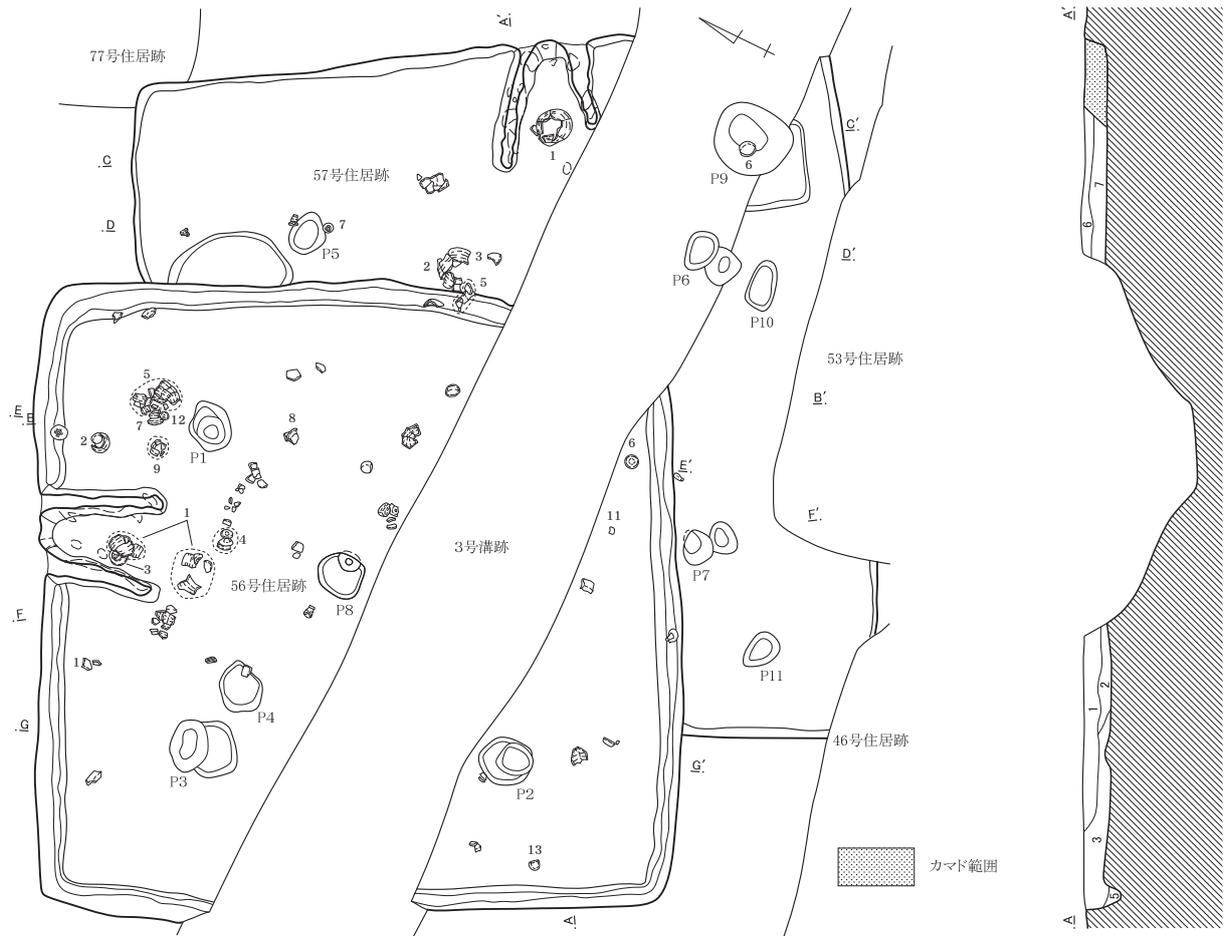
調査区中央部の北側寄りに位置し、重複する第57号住居跡を切り、第3号溝跡に切られている。平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ方形を呈している。規模は、北東～南西方向5.11m、北西～南東方向5.06mを測る。主軸方位は、N—26°—Wをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高33cmある。壁溝は、各壁下に見られ、途切れずに全周している。上幅が18cm、床面からの深さ3cm～11cm程度の比較的均一な形態である。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、ほぼ平坦に作られている。住居中央部は比較的堅緻であるが、周辺部はやや軟弱である。ピットは、住居内から4箇所検出されている。P1～P3は、住居の対角線上に位置し、その配置から4本主柱を構成する主柱穴と考えられる。いずれも長さ30cm～40cmの楕円形や円形ぎみの形態で、床面からの深さは45cm～56cmある。P4は、住居の中央部に位置する。41cm×34cmの不整円形を呈し、床面からの深さは17cmある。

カマドは、住居北西側壁の中央やや北側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長91cm、最大幅91cmを測る。燃烧部は、住居内にあり、奥壁の位置は住居の壁と一致している。燃烧部底面(火床)は、住居の床面よりも5cm程度高く、奥壁は煙道部に向かって比較的急に立ち上がっている。燃烧部内の中央やや左寄りの位置には、高坏を伏せた転用支脚が1個体据えられており、その位置から見て本カマドの土器の掛け方は2個併置式の可能性が高い。袖は、褐灰色粘土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、カマド内やその周辺の床面付近から、土器が比較的多く出土している(第110図)。

第56号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径17.3、器高27.5、底部径6.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一褐色、内一にぶい黄褐色。F. 口縁部1/3欠損。H. カマド内、床面直上。
2	有段口縁直口壺	A. 口縁部径9.5、器高13.4。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部下半は荒れている。H. 床面付近。



第56・57号住居跡土層説明

〈第56号住居跡〉

第1層: 暗褐色土層(白色粒子を中量、ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第2層: 暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を中量、焼土ブロック・白色粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第3層: 暗黄褐色土層(ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子・白色粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第4層: 暗黄褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

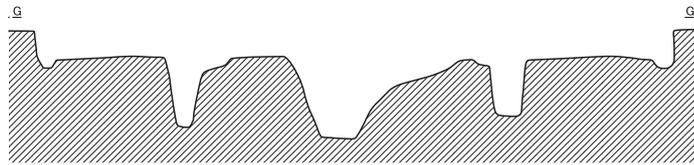
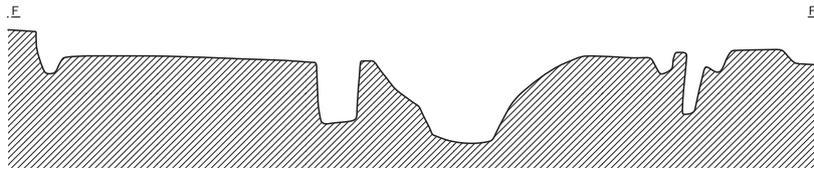
第5層: 暗黄褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

〈第57号住居跡〉

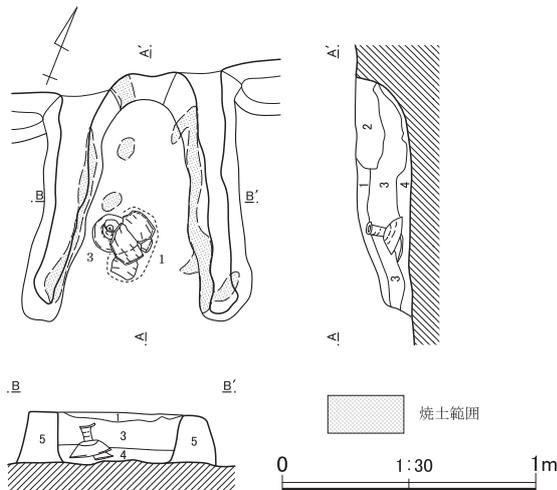
第6層: 暗褐色土層(ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第7層: 暗褐色土層(ローム粒子を中量、白色粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第 108 図 第 56・57 号住居跡 (1)

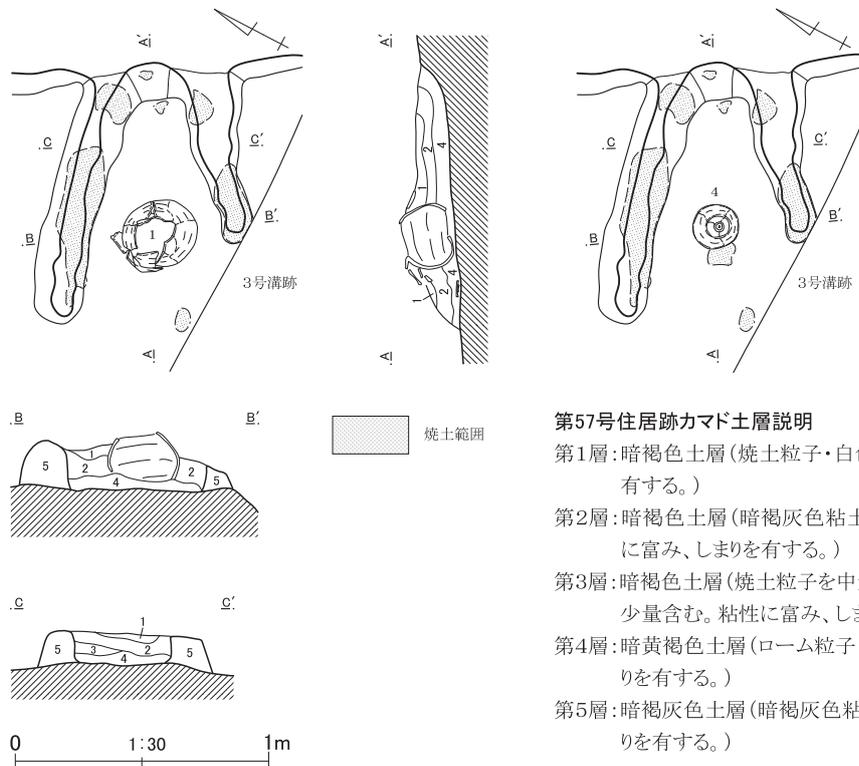


0 1:60 2m



第56号住居跡カマド土層説明

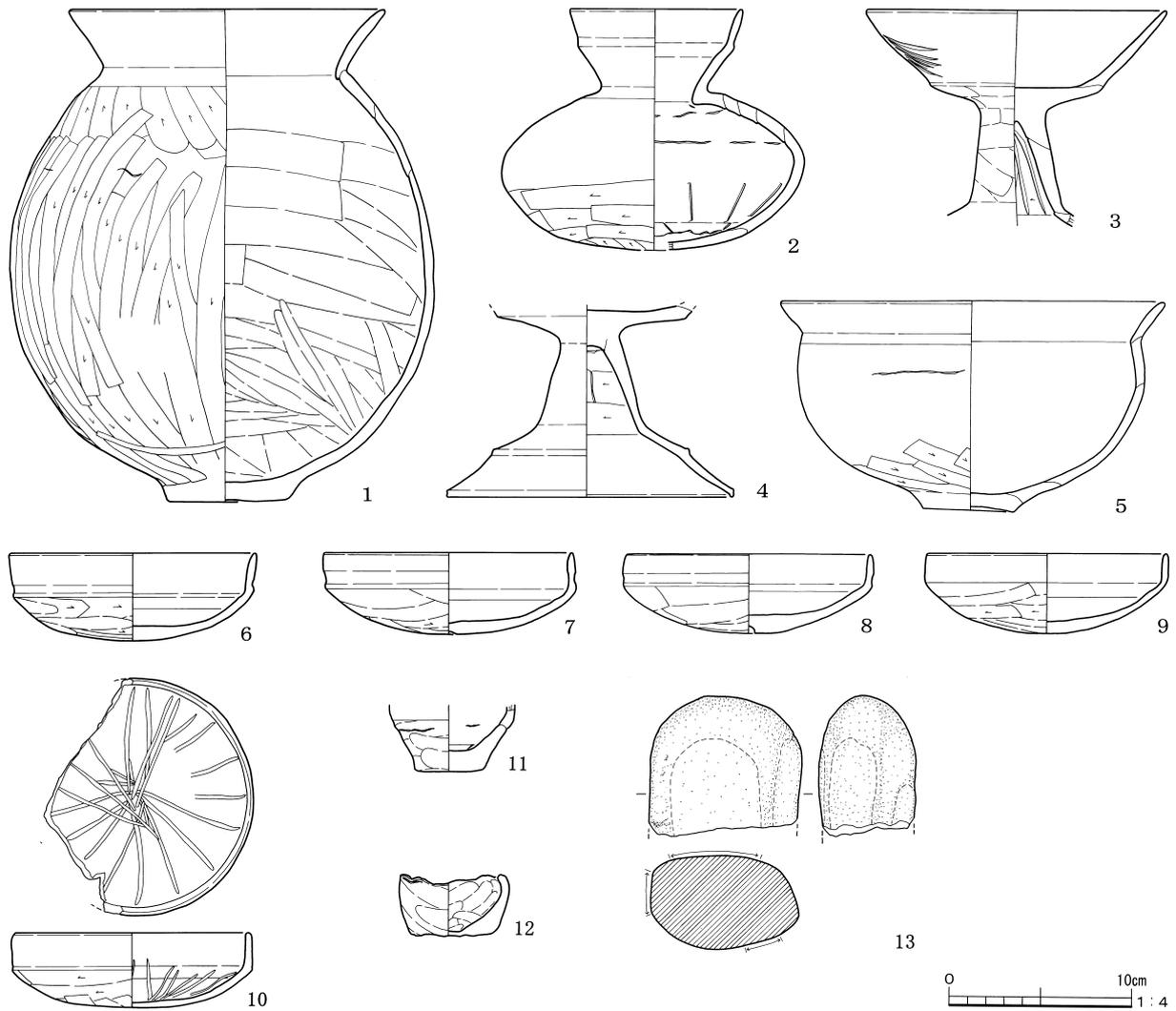
- 第1層:暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗黄褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を中量、焼土ブロック・焼土粒子を微量含む、粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:暗黄褐色土層(暗灰色粘土ブロック・ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:暗褐色土層(ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層:暗灰色土層(暗灰色粘土ブロックを主体に、白色粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)



第57号住居跡カマド土層説明

- 第1層:暗褐色土層(焼土粒子・白色粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗褐色土層(暗褐色灰色粘土ブロック・焼土ブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:暗褐色土層(焼土粒子を中量、暗褐色灰色粘土ブロック・焼土ブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:暗黄褐色土層(ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層:暗褐色土層(暗褐色灰色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第109図 第56・57号住居跡(2)



第110図 第56号住居跡出土遺物

3	高 坏	A. 口縁部径16.5、残存高12.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 脚端部欠失。G. 坏部外面に線刻か。カマド支脚に転用。H. カマド内。
4	有段高坏	A. 残存高10.6、脚端部径(15.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 1/2。H. 床面直上。
5	大形鉢	A. 口縁部径21.4、器高11.7、底部径5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下端ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリの後中央ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一褐色、内一黒色。F. 3/4。G. 二次焼成を受け、器表面は荒れている。H. 床面直上。
6	坏	A. 口縁部径13.6、器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面付近。
7	坏	A. 口縁部径13.8、器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一オリーブ褐色、内一暗灰黄色。F. 2/3。G. 二次焼成を受け、器表面は荒れている。H. 床面直上。
8	坏	A. 口縁部径(13.6)、器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 1/2。H. 床面付近。
9	坏	A. 口縁部径13.2、器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部1/5欠損。H. 床面直上。
10	坏	A. 口縁部径12.8、器高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデの後放射状暗文。D. 白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 2/3。H. 覆土中。

11	ミニチュア	A. 底部径3.7、残存高3.7。B. 手捏ね。C. 体部外面ナデの後上位ヨコナデ、内面ヨコナデ。底部外面ナデ、内面笠ナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁部欠損。H. 覆土中。
12	ミニチュア	A. 口縁部径(5.5)、器高3.4、底部径4.6。B. 手捏ね。C. 内外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部1/2欠損。H. 床面直上。
13	磨石	A. 残存長5.9、残存幅8.3、残存厚5.2、残重479.98g。D. 輝石安山岩。F. 1/2。G. 表裏面及び側面は全体的に擦られている。H. 床面直上。

第57号住居跡 (第108・109図、図版55)

調査区中央部の北側寄りに位置し、重複する第46号住居跡・第53号住居跡・第56号住居跡・第77号住居跡・第3号溝跡に切られている。平面形は、残存する部分から推測すると、方形を呈していたと思われる。規模は、北東～南西方向5.63m、北西～南東方向5.62mを測る。主軸方位は、N-60°-Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高17cmある。壁溝は、残存する各壁下には見られない。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、ほぼ平坦に作られている。住居中央部は比較的堅緻であるが、周辺部はやや軟弱である。ピットは、住居内から7箇所検出されている。P5～P8は、ほぼ住居の対角線上に位置し、その配置から4本主柱の主柱穴と考えられる。いずれも長さ30cm前後の楕円形や円形ぎみの形態で、床面からの深さは43cm～68cmある。P9は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の住居東側コーナー部に位置する。上面を第3号溝跡に切られているため全容は不明であるが、円形か楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは102cmある。上面には四角形状の浅い掘り込みが見られ、P9に伴う可能性が高い。P10は、住居南東側に位置する。40cm×22cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは11cmある。P11は、住居南側コーナー部に位置する。33cm×24cm楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは10cmある。

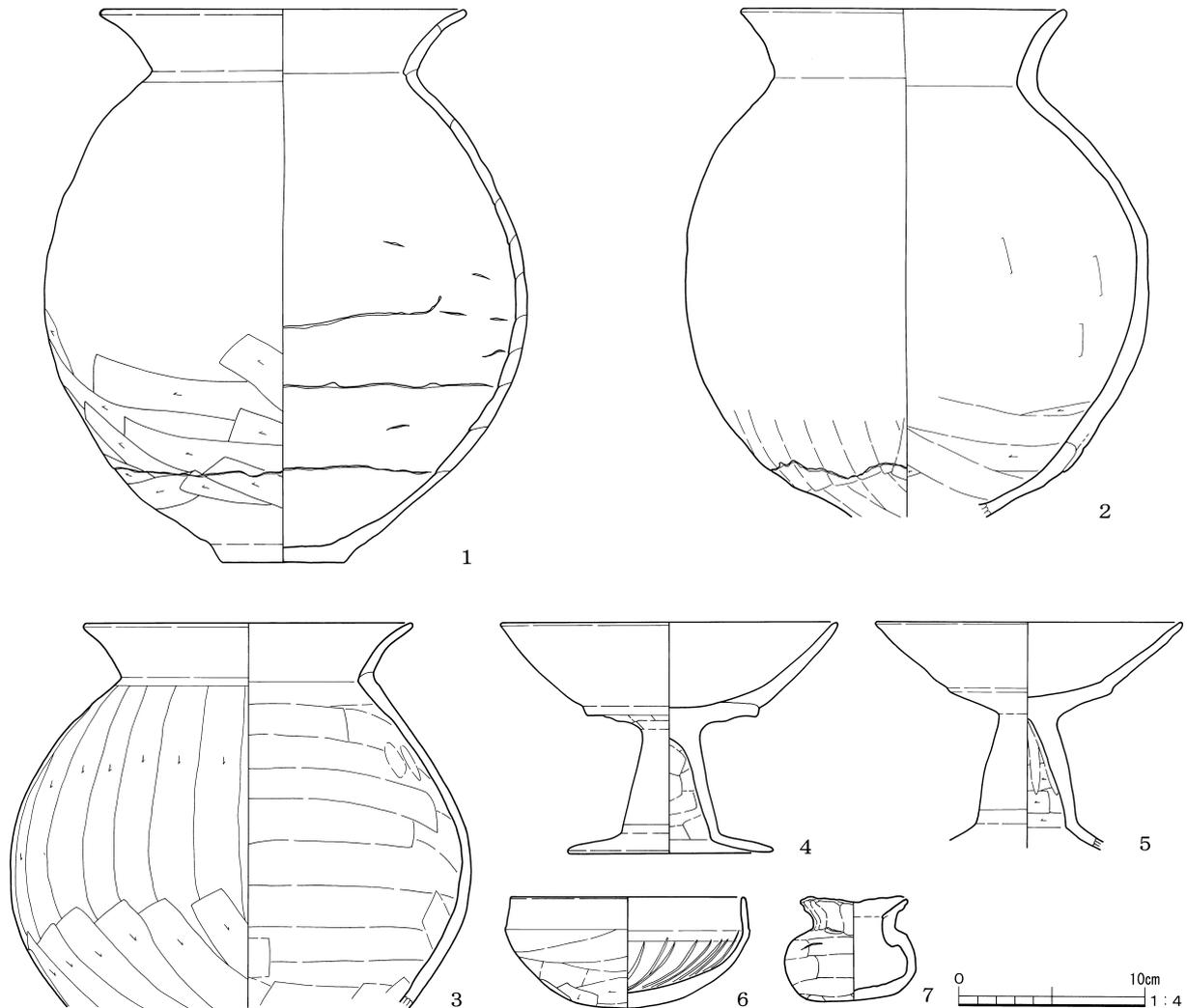
カマドは、住居北東側壁の南側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長104cm、最大幅は85cmまで測れる。燃焼部は、住居内にあり、奥壁の位置は住居の壁と一致している。燃焼部底面(火床)は、住居の床面よりも5cm程度高く、奥壁は煙道部に向かって緩やかに立ち上がっている。燃焼部内の中央の位置には、高坏を伏せた転用支脚が1個体据えられており、その上からは甕が1個体つぶれたような状態で出土している。袖は、褐灰色粘土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、カマドや貯蔵穴内及び覆土中から、土器が少量出土しただけである(第111図)。

第57号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(19.9)、器高31.5、底部径6.6。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ナデ、内面笠ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一橙色、内一暗灰黄色。F. 口縁部1/2欠損。H. カマド内。
2	甕	A. 口縁部径(17.5)、残存高28.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面笠ナデ、内面笠ナデ・下位ケズリの後ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一にぶい褐色、内一明赤褐色。F. 1/3。G. 器表面は荒れている。H. 床面付近。
3	甕	A. 口縁部径(17.9)、残存高21.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 2/3。H. 床面付近。
4	高坏	A. 口縁部径18.4、器高12.6、底部径(11.3)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面笠ナデ。脚柱部内外面笠ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一明赤褐色、内一橙色。F. 脚部1/2欠損。G. 坏部内面に赤化した粘土付着。カマド支脚に転用。H. カマド内。
5	高坏	A. 口縁部径(16.6)、残存高12.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリの後ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 脚端部欠失。G. 外面は荒れている。坏部内面は器表面剥離。H. 覆土中。

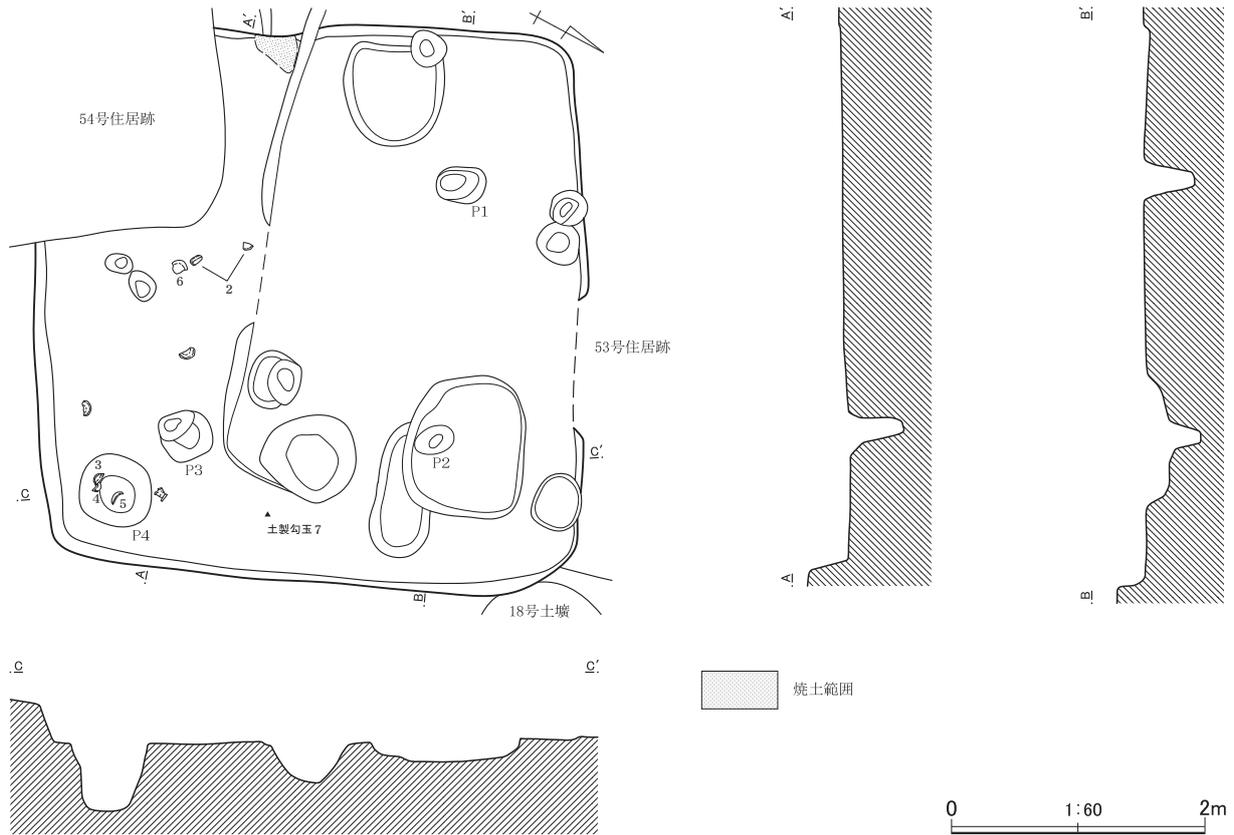
6	坏	A. 口縁部径12.8、器高6.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面匏ナデの後放射状暗文。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。H. 貯蔵穴(P9)内。
7	ミニチュア	A. 口縁部径5.9、器高5.6。B. 手捏ね。C. 口縁部内外面ナデ。胴部内外面ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい黄褐色、内一褐色。F. 口縁部3/4欠損。H. 覆土中。



第111図 第57号住居跡出土遺物

第58号住居跡（第112図、図版56）

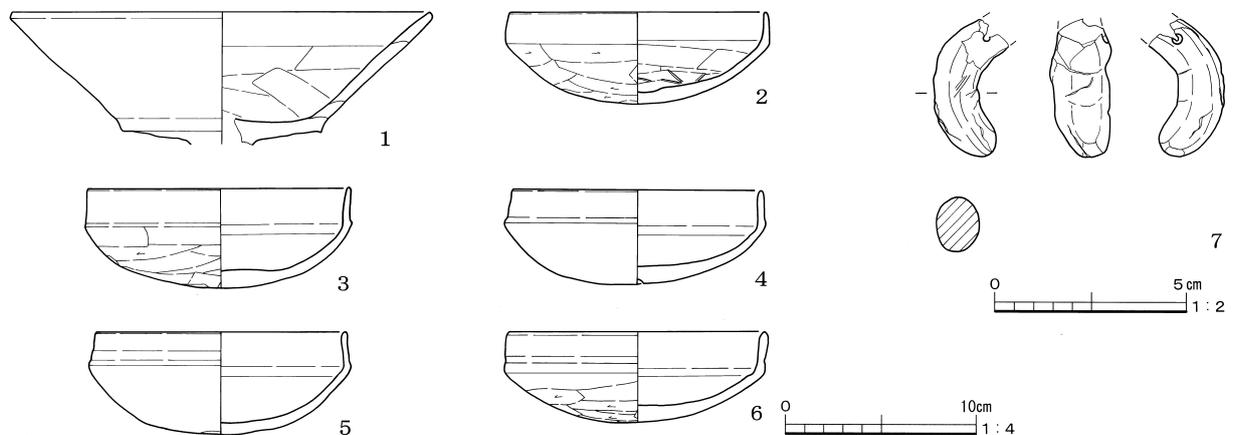
調査区東側に位置し、重複する第68号住居跡を切り、第53号住居跡・第54号住居跡・第18号土壌に切られている。平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈しているが、住居北東側壁はやや歪んでいる。規模は、北東～南西方向4.49m、北西～南東方向4.37mを測る。主軸方位は、N-119°-Wをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高32cmある。壁溝は、各壁下には見られない。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。本住居跡に伴うと考えられるピットは、4箇所検出されている。P1～P3は、ほぼ住居の対角線上に位置し、その配置から4本主柱を構成する支柱穴と考えられる。いずれも長さ



第112図 第58号住居跡

40cm前後の楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは39cm～46cmある。P4は、住居東側コーナー部に位置する。59cm×55cmの隅丸方形ぎみの形態で、床面からの深さは45cmある。覆土中からは、完形に近い坏の破片が多く出土している。このP4は、その形態や位置から見て、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているものに類似しており、おそらく住居の北東側壁に付設されていた旧カマドに伴う貯蔵穴と推測される。

カマドは、住居南西側壁の中央やや南側寄りの位置にその痕跡が見られるが、攪乱や他の住居跡等によってその大半を切られているため、全容は不明である。燃焼部は、住居内にあったようで、奥壁は住居の壁と一致している。燃焼部底面(火床)は、住居の床面よりも5cm程度高く、奥壁は煙道部に



第113図 第58号住居跡出土遺物

向かって緩やかに立ち上がっている。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。本住居跡のカマドは、P 4 の位置から推測されるように、当初は住居の北東側壁に付設されていたものが、住居廃絶時には南西側壁に付け替えられていたものと推測される。

出土遺物は、残存する床面上やP 4 内から土器が少量出土している(第113図)。土器以外では、住居北東側壁近くの床面上から、土製勾玉(No 7)が1点出土している。

第58号住居跡出土遺物観察表

1	高 坏	A. 口縁部径22.0、残存高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 外—明赤褐色、内—灰黄褐色。F. 坏部1/3。H. 覆土中。
2	坏	A. 口縁部径(13.6)、器高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外—赤褐色。F. 2/3。H. 床面付近。
3	坏	A. 口縁部径13.8、器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外—赤褐色。F. 2/3。H. P 4 内。
4	坏	A. 口縁部径13.3、器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外—明赤褐色。F. ほぼ完形。H. P 4 内。
5	坏	A. 口縁部径13.3、器高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外—明赤褐色。F. 口縁部1/2欠損。H. P 4 内。
6	坏	A. 口縁部径13.5、器高5.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外—褐色、内—明赤褐色。F. 1/2。H. 床面付近。
7	土製品 (勾玉)	A. 残存長3.7、最大幅1.2、厚さ1.5、残重7.03g。C. ナデ。D. 白色粒。E. 外—明黄褐色。F. 上端部欠損。G. 上端に穿孔痕あり。H. 覆土中。

第59号住居跡(第114図、図版56)

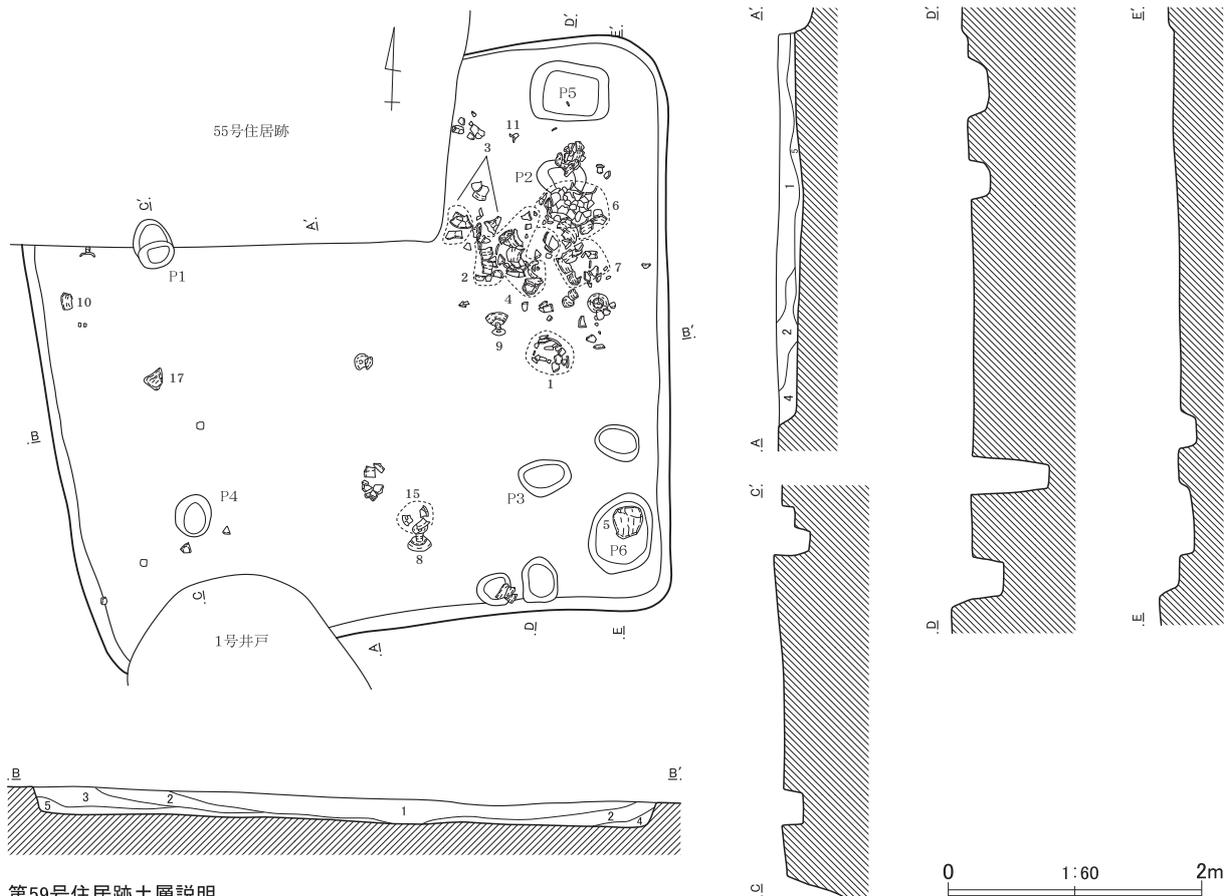
調査区東側に位置し、重複する第68号住居跡・第69号住居跡を切り、第55号住居跡・第1号井戸跡に切られている。平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈しているが、やや台形状に歪んでいる。規模は、東西方向4.62m、南北方向5.07mを測る。主軸方位は、N—84°—Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高20cmある。壁溝は、各壁下には見られない。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。本住居跡に伴うと考えられるピットは、6箇所検出されている。P 1～P 4は、ほぼ住居の対角線上に位置し、その配置から4本主柱を構成する主柱穴の可能性が高いと考えられるものである。いずれも長さ40cm前後の楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは17cm～40cmある。P 5は、住居北東側コーナー部に位置する。63cm×48cmの隅丸長方形ぎみの形態で、床面からの深さは18cmある。このP 5は、その形態や位置から見て、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているものに類似している。P 6は、住居南東側コーナー部に位置する。66cm×50cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは11cmある。

カマドは、住居跡の残存する部分には見られないが、P 5の位置から見て、おそらく第55号住居跡に切られている住居北側壁に付設されていたものと思われる。

出土遺物は、住居跡の覆土中から比較的多くの土器片が出土している(第115～116図)。特に住居北東側の覆土中に密集して出土した土器群は、本住居跡に直接伴うものではなく、住居廃絶後に周囲から投棄されたものであろう。

第59号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径17.9、器高29.1、底部径5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。底部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外—灰褐色、内—にぶい褐色。F. 1/2。G. 外面は荒れている。H. 覆土中。
---	---	---

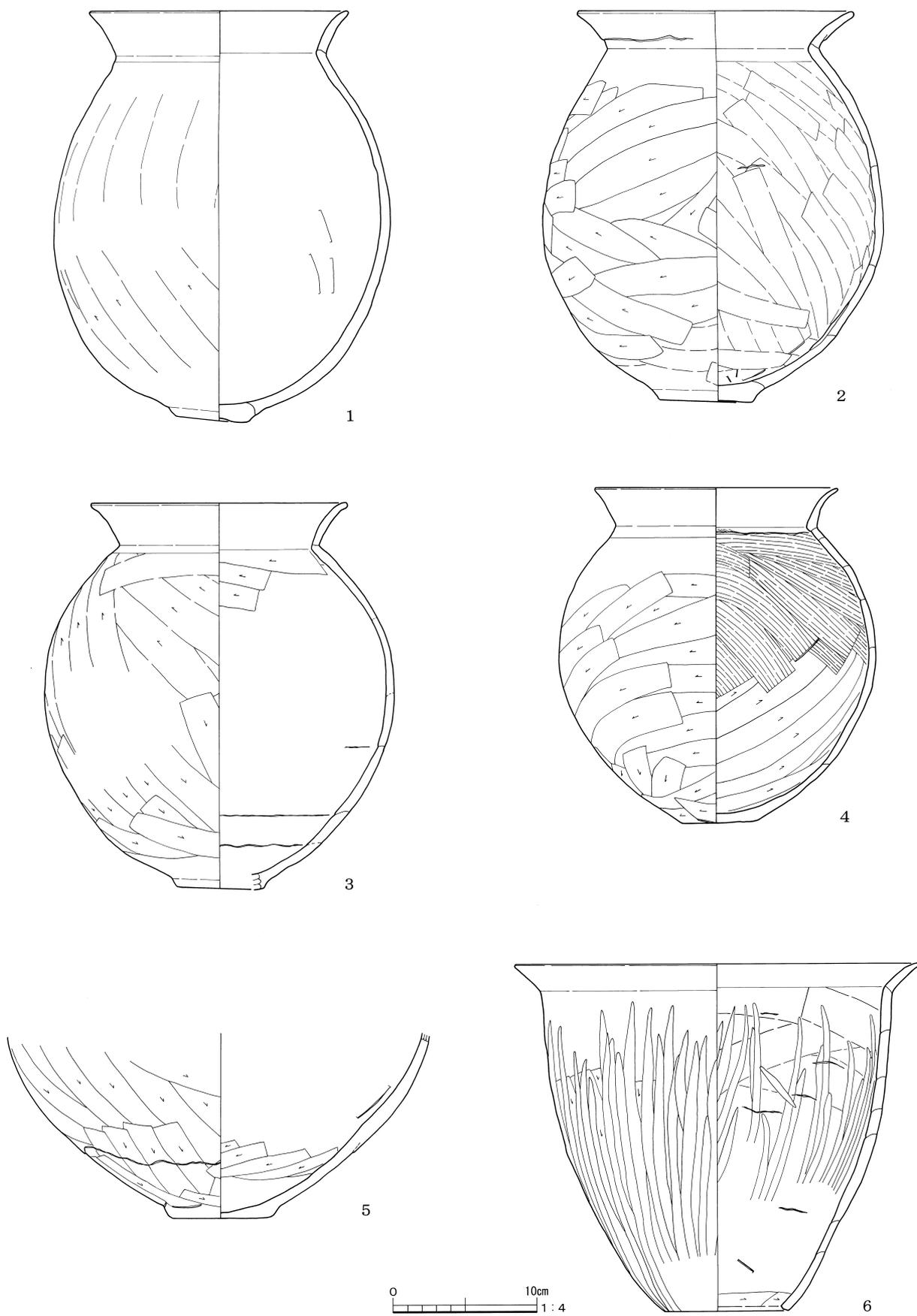


第59号住居跡土層説明

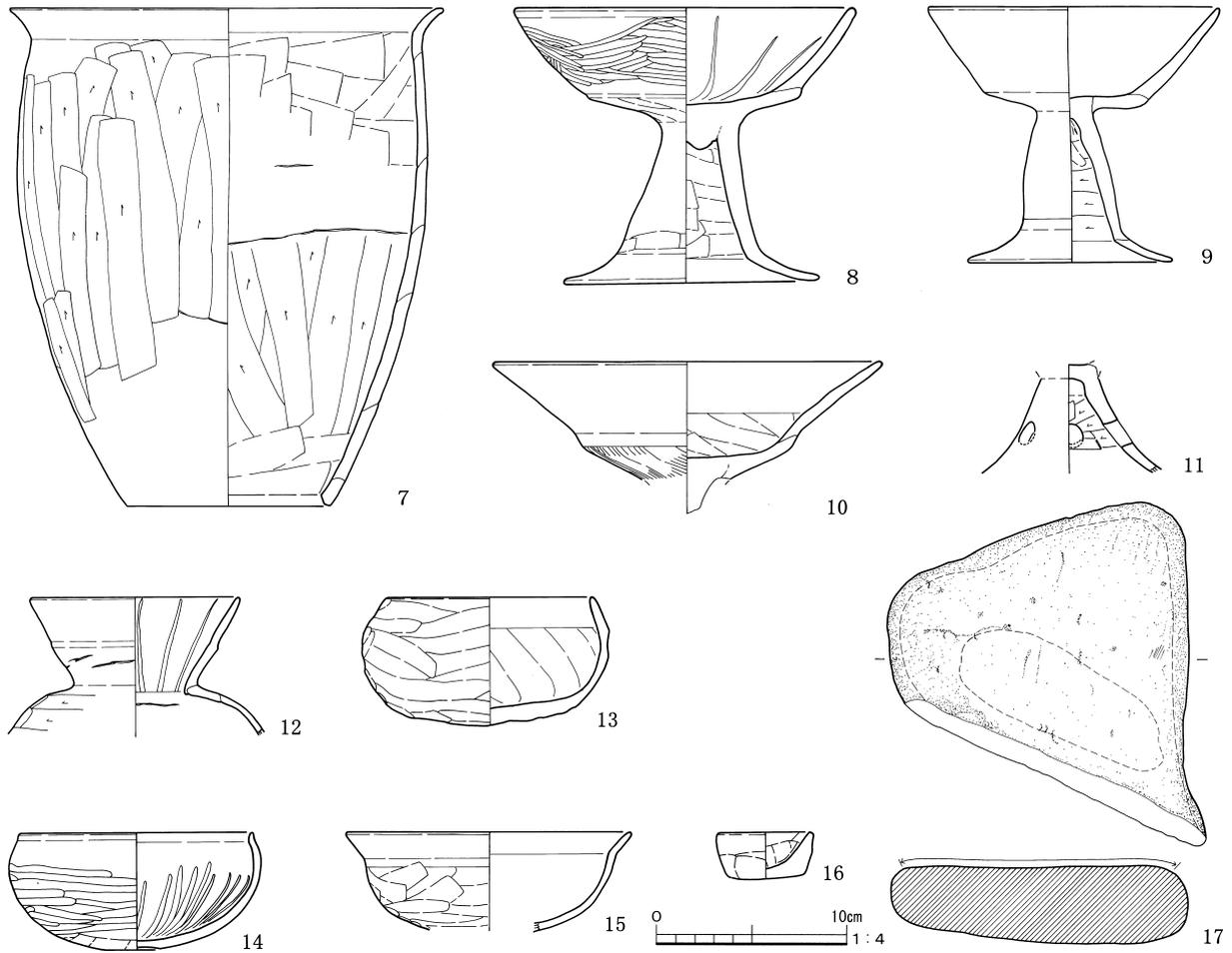
- 第1層: 暗褐色土層(ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗茶褐色土層(ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗褐色土層(ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層: 暗褐色土層(ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第114図 第59号住居跡

2	甕	A. 口縁部径19.2、器高27.7、底部径6.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面篋ナデの後ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-赤褐色、内-明赤褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
3	甕	A. 口縁部径(18.0)、器高27.8、底部径(6.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリのナデ、内面ナデの後上端ケズリ。D. 白色粒。E. 外-にぶい褐色、内-にぶい黄褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
4	甕	A. 口縁部径17.0、器高23.7、底部径5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ケズリの後上半木口状工具によるナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい褐色、内-にぶい黄褐色。F. 5/6。H. 覆土中。
5	甕	A. 底部径7.0、残存高13.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面篋ナデの後下位ケズリ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-明褐色、内-明赤褐色。F. 1/2。G. 外面は荒れている。H. P 6 上面。
6	大形甕	A. 口縁部径28.4、器高24.5、底部径8.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上位ナデ・中~下位ケズリの後ミガキ、内面篋ナデの後ミガキ・下端ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-赤褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
7	大形甕	A. 口縁部径22.8、器高26.5、底部径(10.6)。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ケズリの後上・下位篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-橙色、内-赤褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
8	高坏	A. 口縁部径18.1、器高14.6、底部径13.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデの後ミガキ、内面ヨコナデの後放射状暗文。坏部外面篋ナデ。脚柱部内外面篋ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙色。F. 完形。H. 床面直上。



第115图 第59号住居跡出土遺物(1)

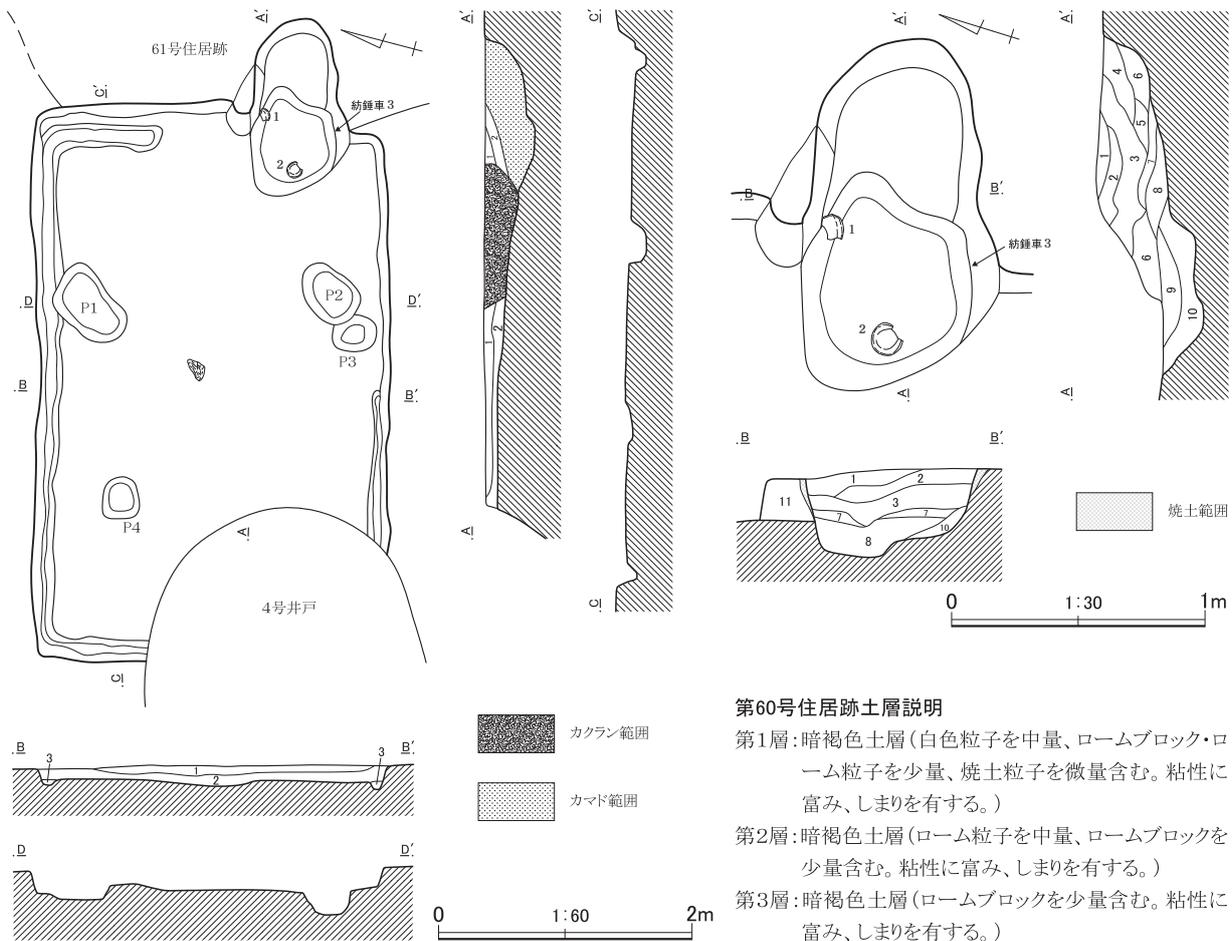


第116図 第59号住居跡出土遺物(2)

9	高 坏	A. 口縁部径(15.4)、器高13.5、底部径10.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリの後上位ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 2/3。H. 床面直上。
10	高 坏	A. 口縁部径(20.5)、残存高8.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面箇ナデの後上半ヨコナデ。坏部外面木口状工具によるナデ。D. 白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 坏部1/2。H. 床面付近。
11	高 坏	A. 残存高5.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部外面ナデ、内面ナデの後上半ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 脚柱部2/3。G. 穿孔痕3カ所。H. 床面付近。
12	有段口縁直口壺	A. 口縁部径11.0、残存高7.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後ミガキ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部～胴部上位のみ。H. 覆土中。
13	坏	A. 口縁部径10.8、器高6.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ナデ、内面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
14	坏	A. 口縁部径12.3、器高6.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ミガキ、内面箇ナデの後放射状暗文。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
15	坏	A. 口縁部径15.1、残存高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面箇ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。H. 覆土中。
16	ミニチュア	A. 口縁部径5.2、器高2.5、底部径4.0。B. 手捏ね。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部ほぼ欠損。H. 覆土中。
17	磨 石	A. 残存長18.1、残存幅16.8、残存厚4.2、残重747.84g。D. 輝石安山岩。F. 1/2。G. 表面は全体的に擦られている。H. 床面付近。

第60号住居跡（第117図、図版57）

調査区西側の北寄りに位置し、重複する第61号住居跡を切り、第4号井戸跡に切られている。平面形は、長方形を呈しているが、住居北東側壁ではカマドの左側と右側で、壁の位置が28cmほど異なっている。規模は、北東～南西方向4.43m、北西～南東方向2.81mを測る。主軸方位は、N-75° - Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高23cmある。壁溝は、各壁下に見られるが、北東側壁の南側半分と南東側壁の北側半分には壁溝が見られない。上幅15cm～20cm、床面からの深さ5cm～8cm程度の比較的整った形態である。床は、ロームブロックを多量含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的に堅緻である。ピットは、住居内から4箇所検出されている。



第60号住居跡土層説明

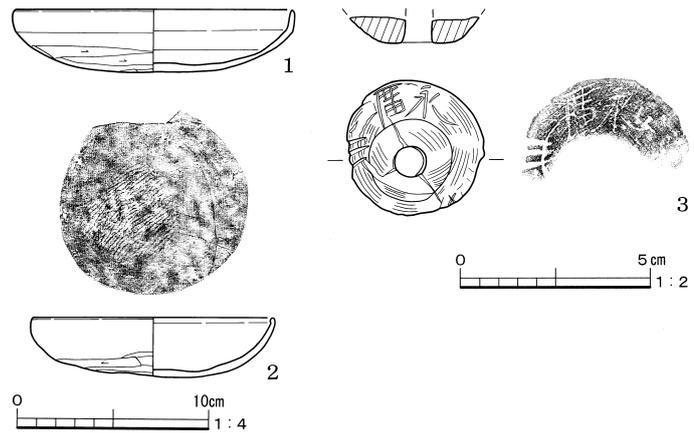
- 第1層: 暗褐色土層 (白色粒子を中量、ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗褐色土層 (ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗褐色土層 (ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第60号住居跡カマド土層説明

- 第1層: 褐灰色土層 (焼土ブロック・焼土粒子・マンガン粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗褐色土層 (白色粒子を中量、ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 褐灰色土層 (褐灰色粘土ブロックを主体に、焼土ブロック・焼土粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗褐色土層 (ローム粒子・白色粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層: 暗褐色土層 (褐灰色粘土ブロック・焼土ブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層: 暗褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第7層: 暗灰色土層 (ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第8層: 暗黄灰色土層 (ロームブロック・ローム粒子を中量、焼土ブロック・焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第9層: 暗黄褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を中量、焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第10層: 暗黄褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を中量、焼土ブロック・焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第11層: 褐灰色土層 (褐灰色粘土ブロックを主体に、マンガン粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第 117 図 第 60 号住居跡

る。P 1 は、住居北西側の壁際に位置する。66cm×43cmの不整形を呈し、床面からの深さは12cmある。P 2 は、住居南東側の壁際に位置し、P 3 と重複している。53cm×38cmの楕円形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは15cmある。P 3 は、35cm×30cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは19cmある。P 4 は、住居の北西側に位置する。33cm×30cmの隅丸方形ぎみの形態で、床面からの深さは7cmある。



第 118 図 第 60 号住居跡出土遺物

カマドは、住居北東側壁の南側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長140cm、最大幅101cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られており、内面はあまり良く焼けていない。燃焼部底面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、奥壁は煙道部に向かって、比較的急に立ち上がっている。燃焼部内には、支脚の痕跡は見られない。袖は、褐灰色粘土を燃焼部の中位まで廻して構築している。煙道部は、すでに削平されており、その痕跡は見られない。

出土遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、土器が少量出土している。土器以外では、カマドの上面から線刻による「廣」と「永」の文字が記載された石製紡錘車(No 3)の破片が出土し、住居中央部の床面上からは長さ20cm・厚さ10cmの自然石が1個出土している。

第60号住居跡出土遺物観察表

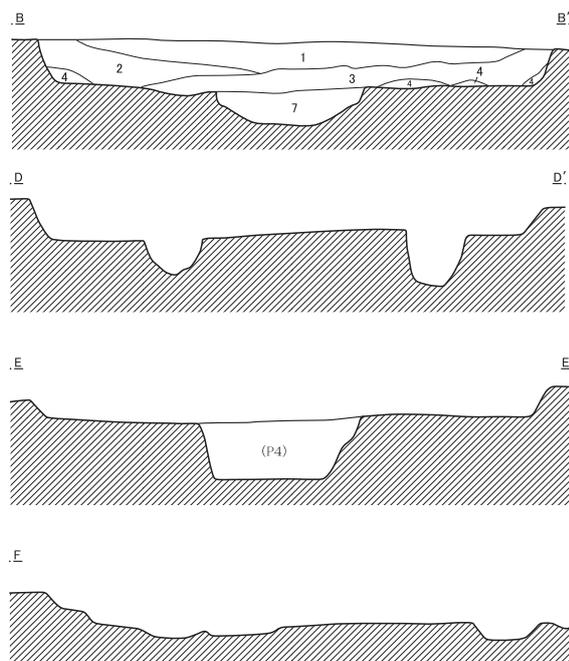
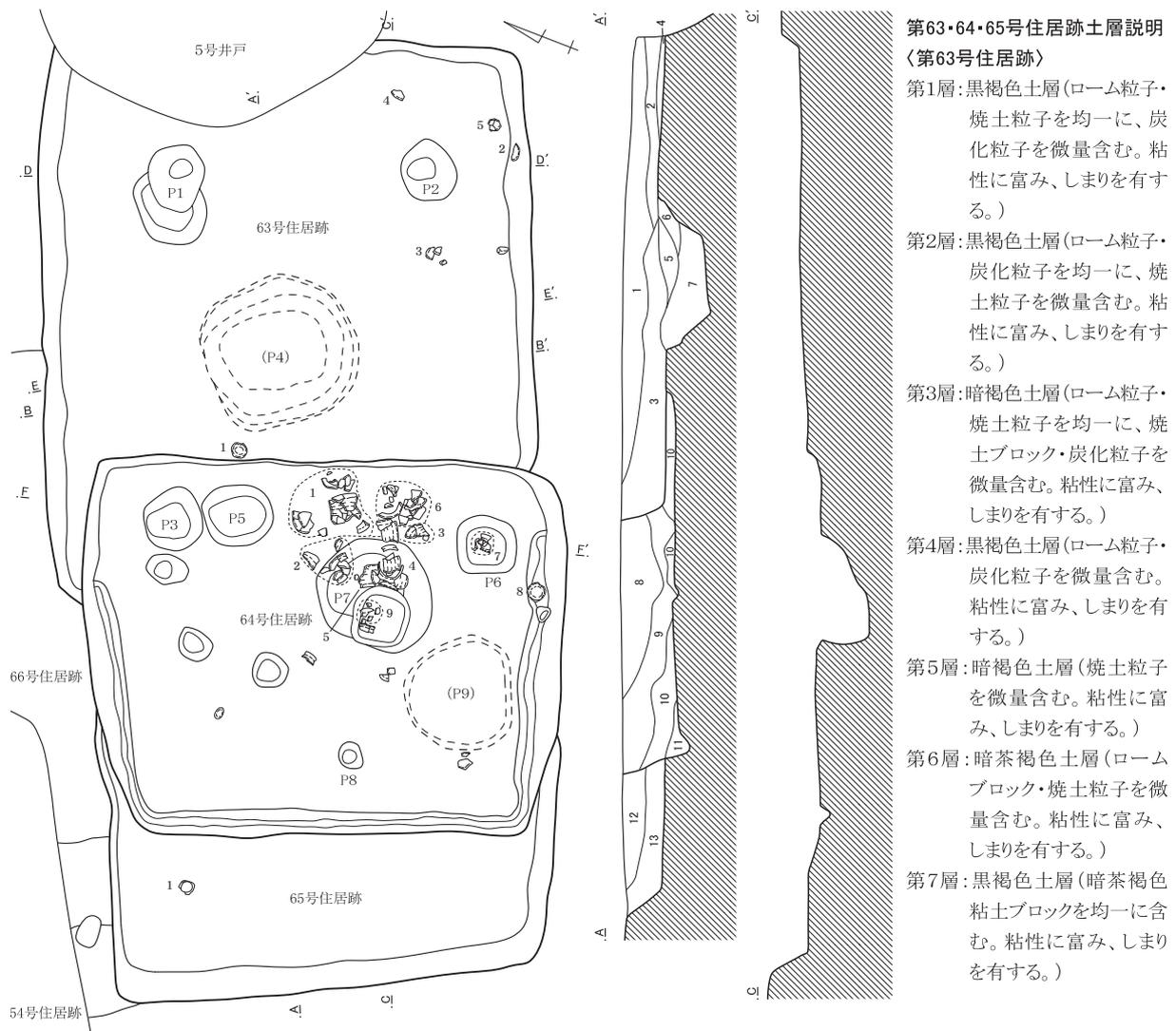
1	坏	A. 口縁部径(14.6)、器高3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 1/2。H. カマド内。
2	坏	A. 口縁部径12.7、器高3.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい黄褐色、内一灰黄褐色。F. 一部欠損。G. 体部内面に圧痕あり。H. カマド内。
3	石製紡錘車	A. 残存長3.6、残存幅3.6、残存厚1.3、残重12.76g。C. 表・側面とも丁寧な研磨。D. 結晶片岩。F. 1/2。G. 側面に「廣」「永」の線刻文字あり。H. カマド上面。

第61号住居跡 (B 2 北側拡幅調査区、別途報告)

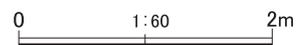
第62号住居跡 (B 2 北側拡幅調査区、別途報告)

第63号住居跡 (第119図、図版58)

調査区東側の中央付近に位置し、重複する第64号住居跡・第66号住居跡を切り、第5号井戸跡に切られている。平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、北東～南西方向4.62m、北西～南東方向4.08mを測る。主軸方位は、N-68°-Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で30cmある。壁溝は、各壁下には見られない。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。ピットは、4箇



- 〈第64号住居跡〉**
 第8層: 暗褐色土層(焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第9層: 暗褐色土層(焼土粒子・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第10層: 暗茶褐色土層(ローム粒子を多量に、ロームブロック・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第11層: 暗茶褐色土層(ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 〈第65号住居跡〉**
 第12層: 暗茶褐色土層(ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第13層: 黒褐色土層(ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

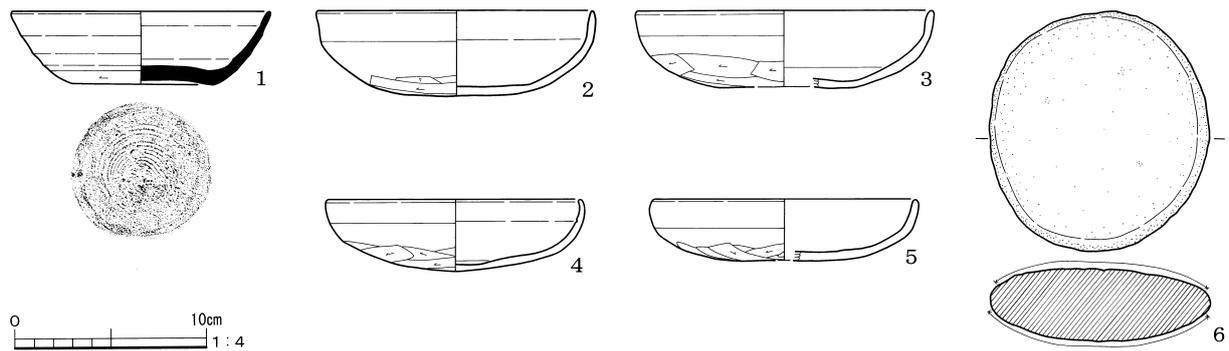


第119図 第63・64・65号住居跡

所検出されている。P 1～P 3は、ほぼ住居の対角線上に位置し、その配置から4本主柱を構成する主柱穴の可能性が高いと考えられるものである。いずれも50cm前後の不整形を呈し、床面からの深さは16cm～41cmある。P 4は、いわゆる床下土壌である。126cm×124cmの不整円形を呈し、床面からの深さは43cmある。P 4の覆土中には、焼土粒子と粘土ブロックを含んでいる。

カマドは、残存する各壁に見られないことから、おそらく第5号井戸跡に切られている住居の北東側壁に付設されていたと思われる。

出土遺物は、住居の覆土中を主体に、土器の破片が比較的多く出土している。



第120図 第63号住居跡出土遺物

第63号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A. 口縁部径13.5、器高3.9、底部径7.4。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。体部外面下端回転篋ケズリ。底部外面回転糸切りの後外周回転篋ケズリ。D. 片岩粒、褐色粒。E. 外—黄褐色、内—灰黄色。F. ほぼ完形。G. 器表面は風化している。H. 覆土中。
2	坏	A. 口縁部径14.7、器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外—明赤褐色。F. 口縁部1/3欠損。H. 南東側壁面。
3	坏	A. 口縁部径(15.8)、器高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外—橙色。F. 1/3。H. 覆土中。
4	坏	A. 口縁部径13.5、器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外—にぶい褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
5	坏	A. 口縁部径(14.0)、器高3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外—明赤褐色。F. 1/3。H. 床面付近。
6	磨石	A. 全長12.7、最大幅11.5、最大厚3.8、重量734.61g。D. 輝石安山岩。F. 完形。G. 表裏面は全体的に擦られている。H. 覆土中。

第64号住居跡（第119図、図版58）

調査区東側の中央付近に位置し、重複する第65号住居跡・第66号住居跡を切り、第63号住居跡に切られている。平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、北東～南西方向3.10m、北西～南東方向4.03mを測る。主軸方位は、N—68°—Eをとる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で48cmある。壁溝は、住居北東側壁以外の各壁下に見られる。上幅15cm～20cm、床面からの深さ6cmの比較的整った形態である。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的に堅緻である。ピットは、住居跡内から多数検出されているが、本住居跡に伴うと考えられるものは、P 5～P 9の5箇所である。P 5は、住居北東側壁際に

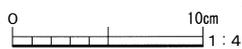
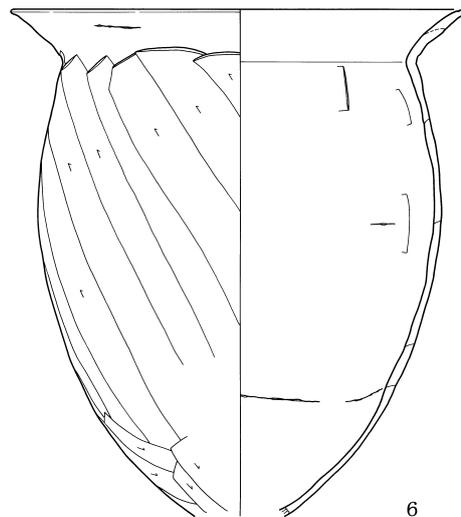
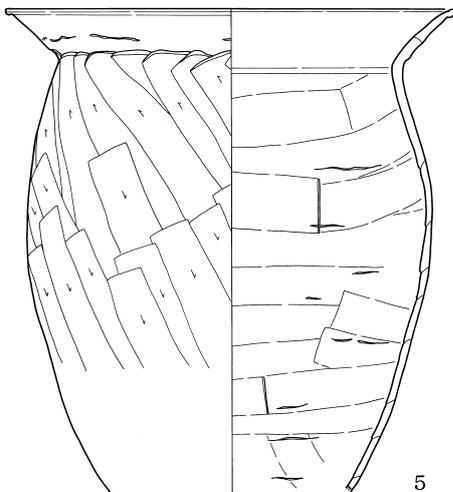
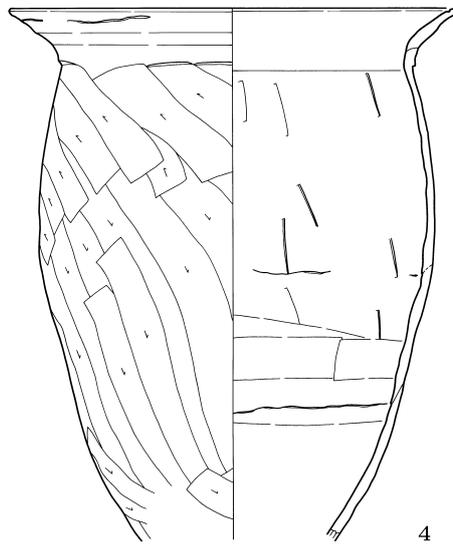
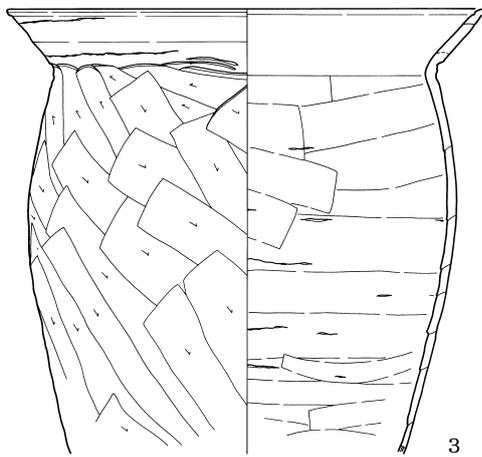
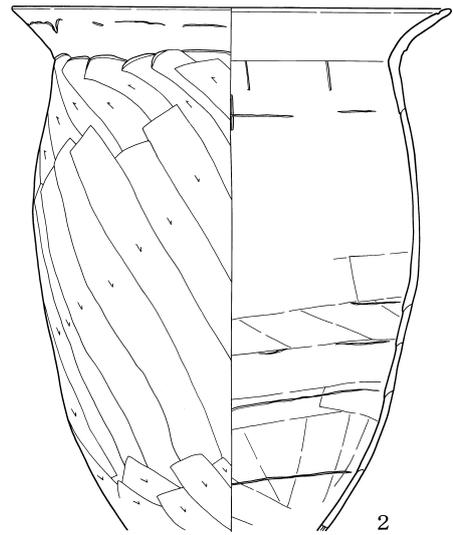
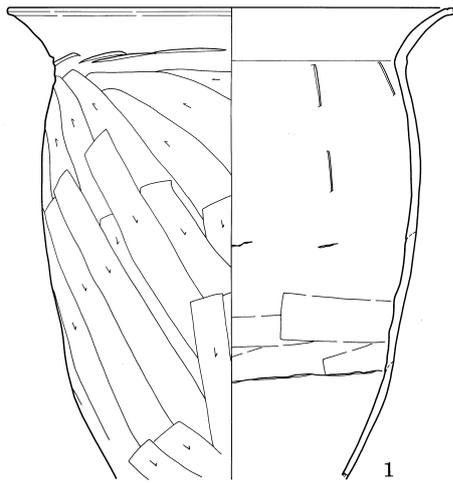
位置する。58cm×50cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは6cmある。P 6は、住居東側コーナー部に位置する。50cm×48cmの隅丸方形ぎみの形態を呈し、床面からの深さ12cmある。P 7は、住居中央部の東側寄りに位置する100cm×90cmの円形ぎみの土壌状を呈する形態で、床面からの深さは44cmある。中からは、多くの甕の破片が落ち込んだような状態で出土している。P 8は、住居南西側に位置する。23cm×19cmの不整円形を呈し、床面からの深さは19cmある。P 9は、いわゆる床下土壌で、住居南東側の壁際に位置する。96cm×89cmの不整円形を呈し、床面からの深さは16cmある。

カマドは、重複する第63号住居跡によってすでに破壊されている可能性が高いため、その痕跡は確認できなかったが、おそらく住居北東側壁の中央やや南側寄りの甕が多く出土しているあたりに付設されていたものと思われる。

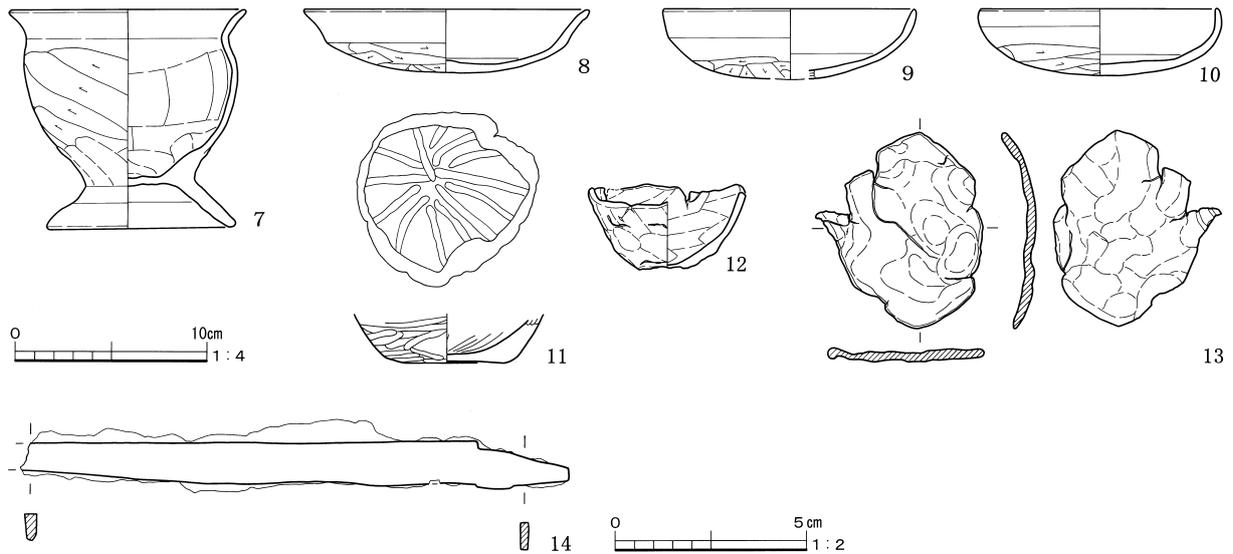
出土遺物は、住居の床面上やP 7内から、比較的多くの土器が出土しており、土器以外では覆土中から鉄製刀子の破片(No14)が1点出土している。

第64号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径23.3、残存高28.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 1/3。G. 口唇部内側に細い沈線が巡る。胴部外面は荒れている。H. 床面直上。
2	甕	A. 口縁部径23.0、残存高27.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 1/2。H. 床面直上、P 7内。
3	甕	A. 口縁部径25.0、残存高23.6。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 1/3。G. 口唇部内側に細い沈線が巡る。H. 床面直上。
4	甕	A. 口縁部径(23.4)、残存高25.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 外一明赤褐色、内一明褐色。F. 2/3。G. 口唇部内側に細い沈線が巡る。H. 床面直上。
5	甕	A. 口縁部径(23.5)、残存高25.6。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 2/3。G. 口唇部内側に細い沈線が巡る。外面に赤化した粘土付着。H. 床面直上。
6	甕	A. 口縁部径24.0、残存高26.8。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一明褐色、内一橙色。F. 1/2。G. 口唇部内側に沈線が巡る。外面は荒れている。H. 床面付近。
7	小形 台付甕	A. 口縁部径12.2、器高11.6、底部径9.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。上部内外面上半ナデ・下半ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一明赤褐色、内一にぶい赤褐色。F. 5/6。H. P 6上面。
8	皿	A. 口縁部径15.0、器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 口縁部一部欠損。H. 南東側壁下壁溝内。
9	坏	A. 口縁部径13.2、器高(3.7)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一明褐色、内一明赤褐色。F. 1/2。H. P 9内。
10	坏	A. 口縁部径12.4、器高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 内面はやや荒れている。H. 覆土中。
11	坏	A. 底部径5.3、残存高2.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 体部外面ナデの後ミガキ、内面篋ナデの後放射状暗文。底部外面ナデの後ミガキ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい赤褐色、内一にぶい黄褐色。F. 口縁部欠失。H. 覆土中。
12	ミニチュア	A. 口縁部径8.2、器高4.4、底部径2.5。B. 手捏ね。C. 内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 口縁部一部欠損。H. 覆土中。
13	土製品	A. 全長10.3、最大幅8.8、最大厚0.5、重量43.82g。B. 手捏ね。C. 内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 完形。H. 覆土中。
14	鉄製品 (刀子)	A. 残存長14.5、最大幅1.1、最大厚0.3、残重27.16g。F. 刃部先端欠失。H. 覆土中。



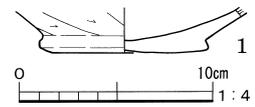
第121图 第64号住居跡出土遺物(1)



第122図 第64号住居跡出土遺物(2)

第65号住居跡(第119図、図版58)

調査区東側の中央付近に位置し、重複する第66号住居跡・第24号土壌を切り、第64号住居跡に切られている。平面形は、残存する部分から推測すると、方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、北西～南東方向が3.80m、北東～南西方向が2.50mまで測れる。主軸方位は、おそらくN—65°—Eをとるものと思われる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で43cmある。壁溝は、残存する各壁下には見られない。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。



第123図 第65号住居跡出土遺物

出土遺物は、住居跡の覆土中から土器の破片が少量出土しただけである。

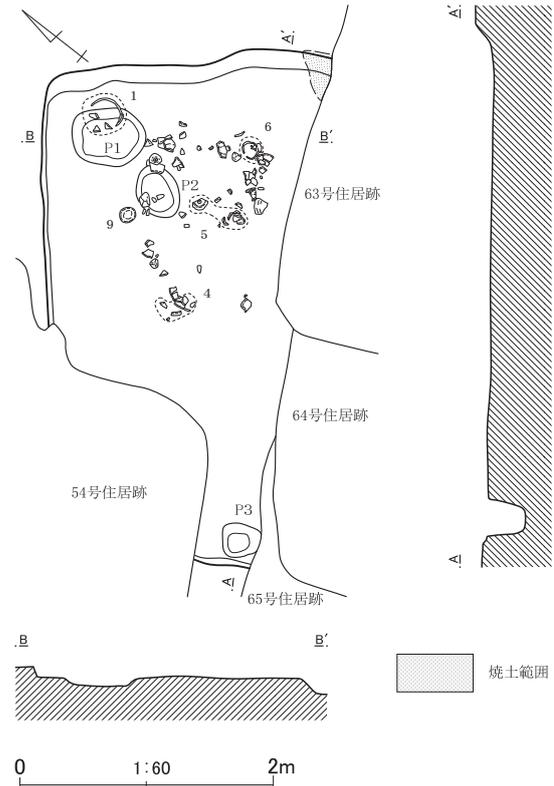
第65号住居跡出土遺物観察表

1	大形鉢	A. 底部径8.8、残存高2.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外—黒褐色、内—にぶい黄褐色。F. 底部のみ。H. 床面付近。
---	-----	--



第66号住居跡（第124図、図版58）

調査区東側の中央付近に位置し、重複する第54号住居跡・第63号住居跡・第64号住居跡・第65号住居跡に切られている。平面形は、残存する部分から推測すると、方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、北東～南西方向が4.13 m、北西～南東方向は2.26 mまで測れる。主軸方位は、N—51°—Eをとる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で30cmある。壁溝は、残存する各壁下には見られない。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。ピットは、3箇所検出されている。P 1は、住居北側コーナー部に位置する。58cm×46cmの不整形を呈し、床面からの深さは8 cmある。P 2は、住居北側に位置する。44 cm×33cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは11cmある。P 3は、住居南西側壁の壁際に位置する。31cm×27cmの不整形を呈し、床面からの深さは30cmある。



第 124 図 第 66 号住居跡

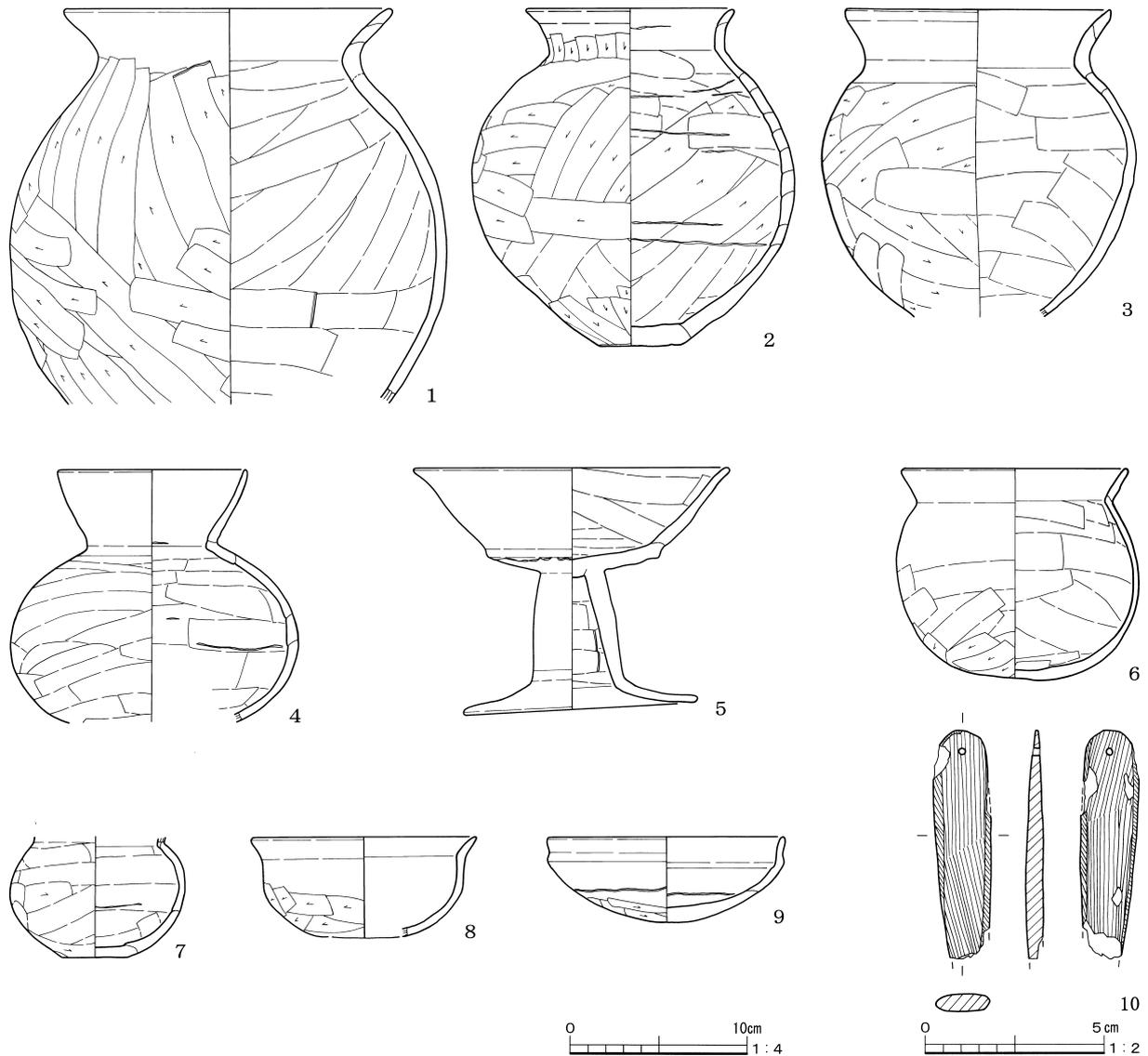
カマドは、住居北東側壁に壁面が焼けて赤色化している部分が見られることから、おそらくその場所に付設されていたものと思われる。

出土遺物は、住居北側の覆土中から多くの土器が破片になって出土している(第125図)。これらの土器は、本住居跡に直接伴うものではなく、住居廃絶後の覆土埋没過程に周辺から投棄されたものである。

第66号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(18.6)、残存高22.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
2	甕	A. 口縁部径12.8、器高19.2、底部径4.8。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部外面ヨコナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面笠ナデの後上半ケズリ。底部外面ケズリ、内面笠ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外一褐色、内一黒褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
3	甕	A. 口縁部径(15.0)、残存高17.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面笠ナデ。D. 白色粒。E. 外一黒褐色、内一にぶい黄褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
4	直口壺	A. 口縁部径(10.6)、残存高14.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面笠ナデ。D. 白色粒。E. 外一にぶい黄褐色、内一赤褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
5	高 坏	A. 口縁部径18.0、器高14.0、底部径13.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面笠ナデ。坏部外面ナデ、内面笠ナデ。脚柱部外面ナデ、内面笠ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。H. 覆土中。
6	鉢	A. 口縁部径12.6、器高12.0、底部径5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面笠ナデの後ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ、内面笠ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一褐色、内一にぶい赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
7	小丸底壺	A. 底部径3.6、残存高6.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリの後笠ナデ、内面笠ナデ。底部内外面笠ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 口縁部欠失。G. 内面及び頸部割れ口に白色・赤色物附着。H. 覆土中。
8	坏	A. 口縁部径(12.7)、残存高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面笠ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。

9	坏	A. 口縁部径13.4、器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一赤褐色。F. 完形。H. 覆土中。
10	石製模造品	A. 残存長6.5、最大幅1.6、最大厚0.5、残量8.42g。C. 表裏面とも丁寧な研磨。D. 蛇紋岩。F. 下部欠損。G. 上端部に1ヵ所穿孔。H. 覆土中。



第125図 第66号住居跡出土遺物

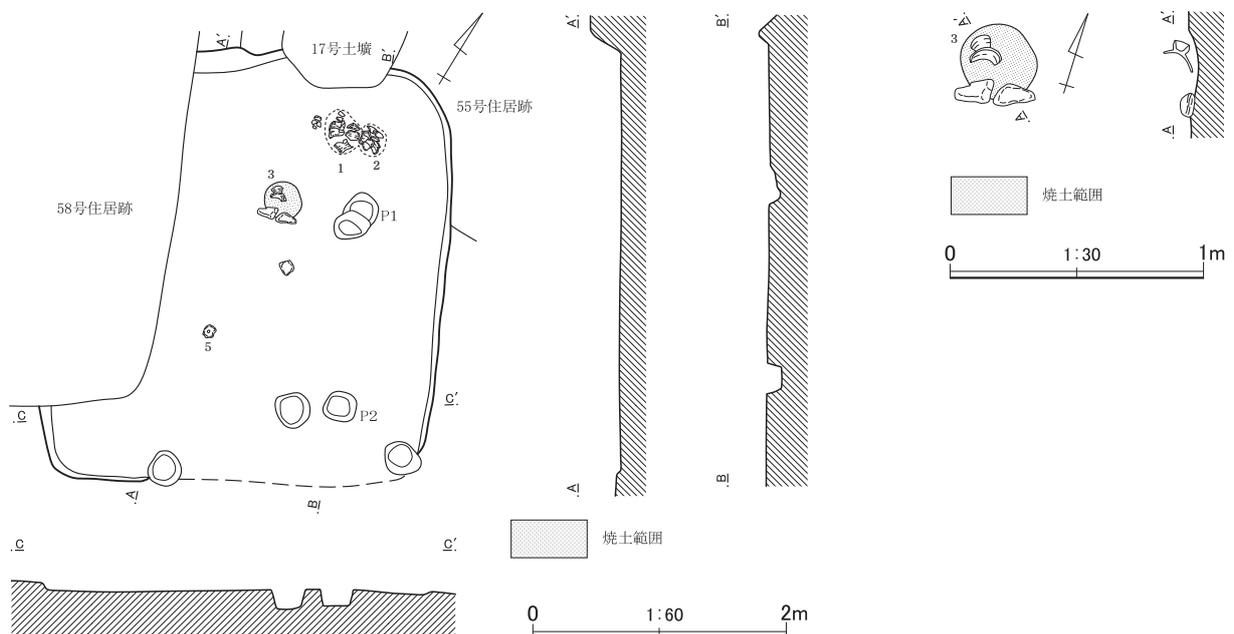
第67号住居跡 (B2北側拡幅調査区、別途報告)

第68号住居跡 (第126図、図版59)

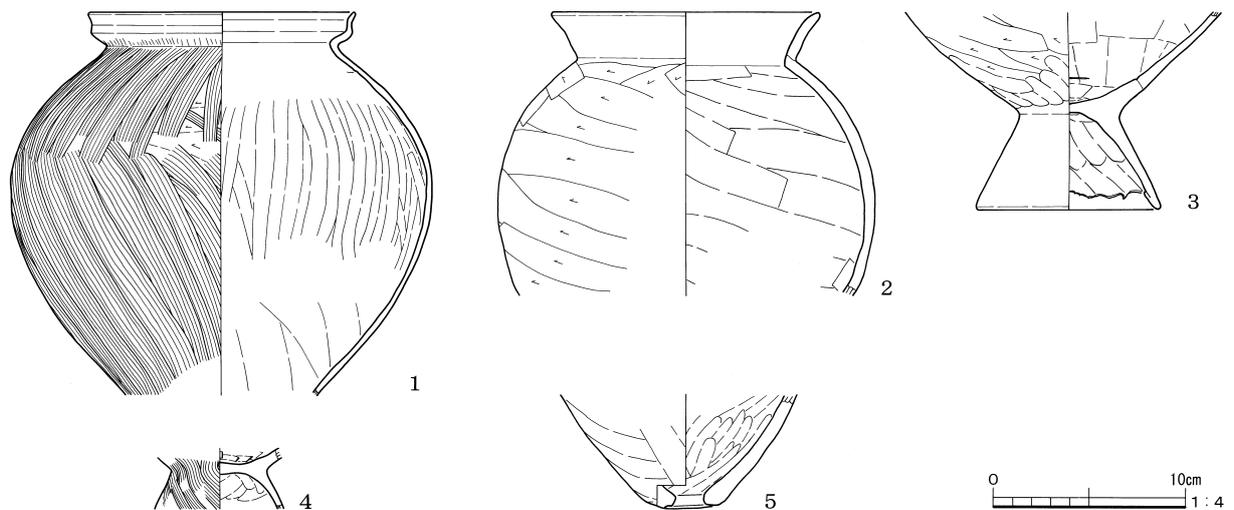
調査区東側の中央付近に位置し、重複する第55号住居跡・第58号住居跡・第59号住居跡・第17号土壇に切られている。平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部の丸みが強い方形を呈していたものと思われる。規模は、北東～南西方向が3.10m、北西～南東方向3.46mを測る。主軸方位は、N-28°-Eをとる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で25cmある。壁溝は、

残存する各壁下には見られない。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。住居跡内からは多くのピットが検出されているが、本住居跡に伴うと考えられるピットは、P1とP2の2箇所である。P1とP2は、概ね住居の対角線付近に位置し、4本主柱を構成する支柱穴の可能性のあるものである。いずれも長さ25cm前後の不整形を呈し、床面からの深さは5cmと13cmある。

炉は、住居北西側のおそらく支柱穴間に位置するものと思われる。床面を4cm程度掘り窪めた地皿炉で、32cm×30cmの円形を呈している。炉の住居中央部側には、長さ15cm程度の自然石を2個横に並べた炉石を伴う。炉の底面は非常に良く焼けており、炉石も焼けて赤色化している。炉の中からは、台付甕の台部(No3)が横転したような状態で出土している。



第126図 第68号住居跡

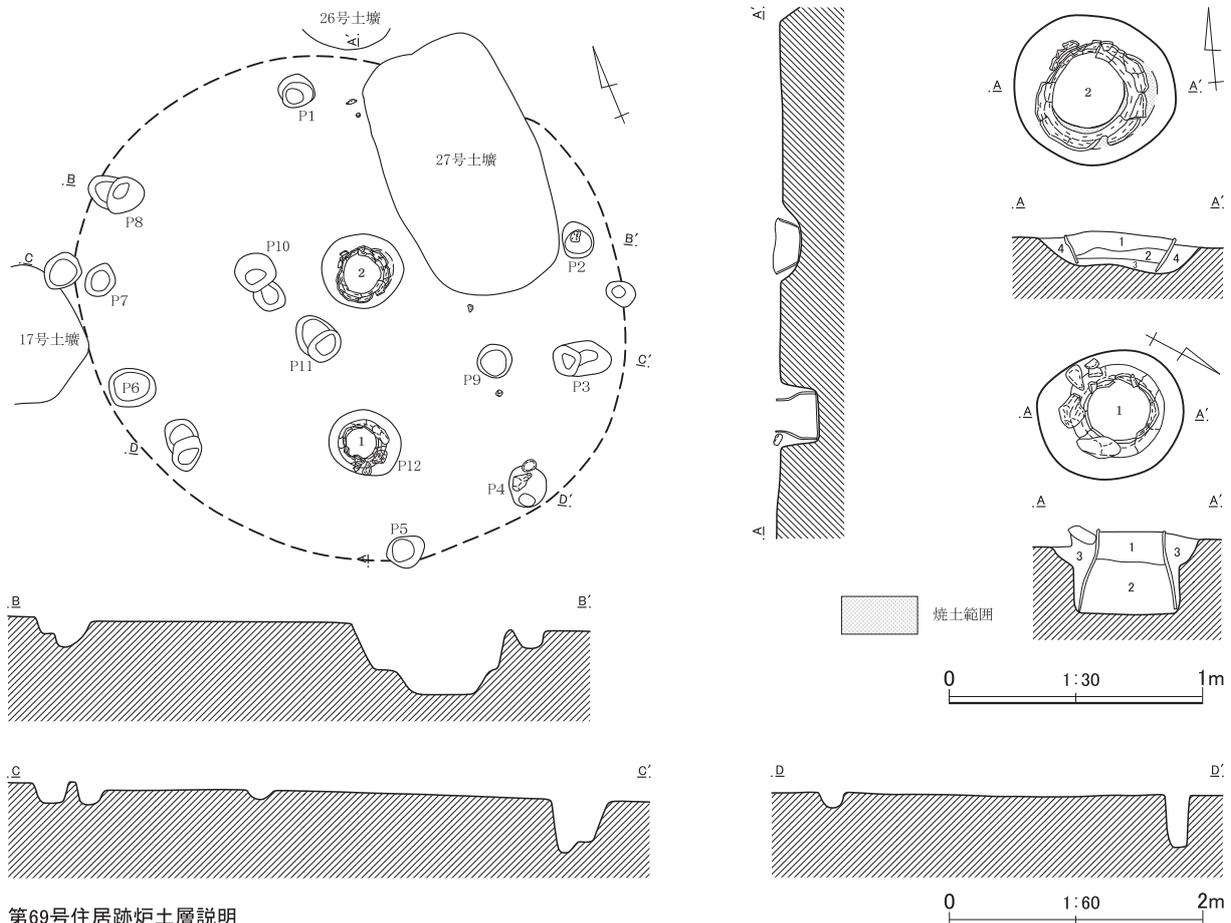


第127図 第68号住居跡出土遺物

出土遺物は、炉内や住居の覆土中から、古墳時代前期末頃の土器が少量出土しただけである。

第68号住居跡出土遺物観察表

1	S字状口縁台付甕	A. 口縁部径(13.8)、残存高20.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ→ハケ、内面下半箇ナデ・上半指ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-灰褐色、内-灰黄褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
2	甕	A. 口縁部径(14.2)、残存高15.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面箇ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-オリーブ黒色、内-にぶい褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
3	台付甕	A. 底部径9.5、残存高10.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリの後ナデ、内面箇ナデ。台部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい褐色、内-褐色。F. 台部のみ。H. 炉内。
4	S字状口縁台付甕	A. 残存高3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 台部外面ナデの後ハケ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 台部1/2。H. 覆土中。
5	小形甕	A. 底部径2.0、残存高6.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部内外面ナデ。底部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 外-にぶい褐色、内-にぶい赤褐色。F. 胴部下位～底部のみ。H. 覆土中。



第69号住居跡炉土層説明

- 第1層: 暗褐色土層(白色粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗茶褐色土層(ローム粒子を均一に、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗茶褐色土層(ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗褐色土層(ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第69号住居跡埋設土器土層説明

- 第1層: 暗褐色土層(ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗褐色土層(ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗茶褐色土層(ローム粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

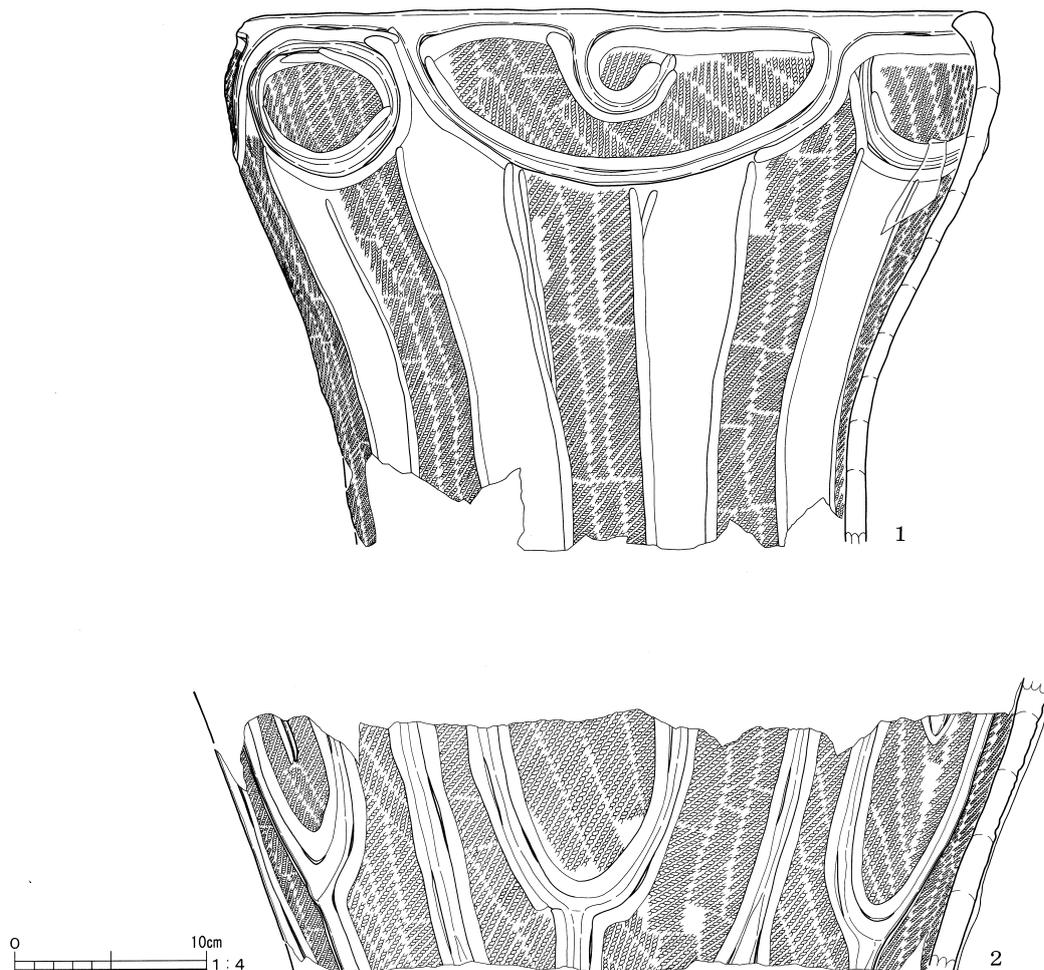
第128図 第69号住居跡

第69号住居跡（第128図、図版60・61）

調査区東側の中央付近に位置し、重複する第55号住居跡・第59号住居跡・第68号住居跡及び第27号土壇に切られている。本住居跡は、住居の床面付近まで多くの住居跡によって削平されているため、遺構の遺存状態は極めて悪い。平面形は、住居の壁がすでに削平されているため不明であるが、周辺ピットの配列から見ると、円形ぎみの形態ではなかったかと思われる。規模は、推定で北東～南西方向が4.00m、北西～南東方向が4.40m程度ではないかと思われる。壁溝等の痕跡は見られない。ピットは、炉周辺のP 1～P 12が本住居跡と関係するものではないかと思われる。P 12の埋甕以外のP 1～P 11のピットは、いずれも長さ30cm前後の円形や楕円形ぎみの形態を呈している。確認面からの深さは10cm～50cmまで様々である。P 12の埋甕は、炉の南西側約1 mの場所にある。掘り方は、57cm×51cmの楕円形ぎみの形態で、確認面からの深さは28cmある。底面は広く平坦で、深鉢土器の口縁を底面につけて、逆に埋設している。上面は、土器の回りに長さ10cm～15cmの自然石を3個並べている。

炉は、65cm×60cmの円形を呈し、確認面からの深さは12cmある。中に直径45cm程度の胴部下半を欠いた深鉢土器を据えて炉体になっている。底面は焼けて赤色化している。

出土遺物は、炉体土器（No 2）や埋甕（No 1）の他は、周辺から土器の破片が少量出土しただけである。



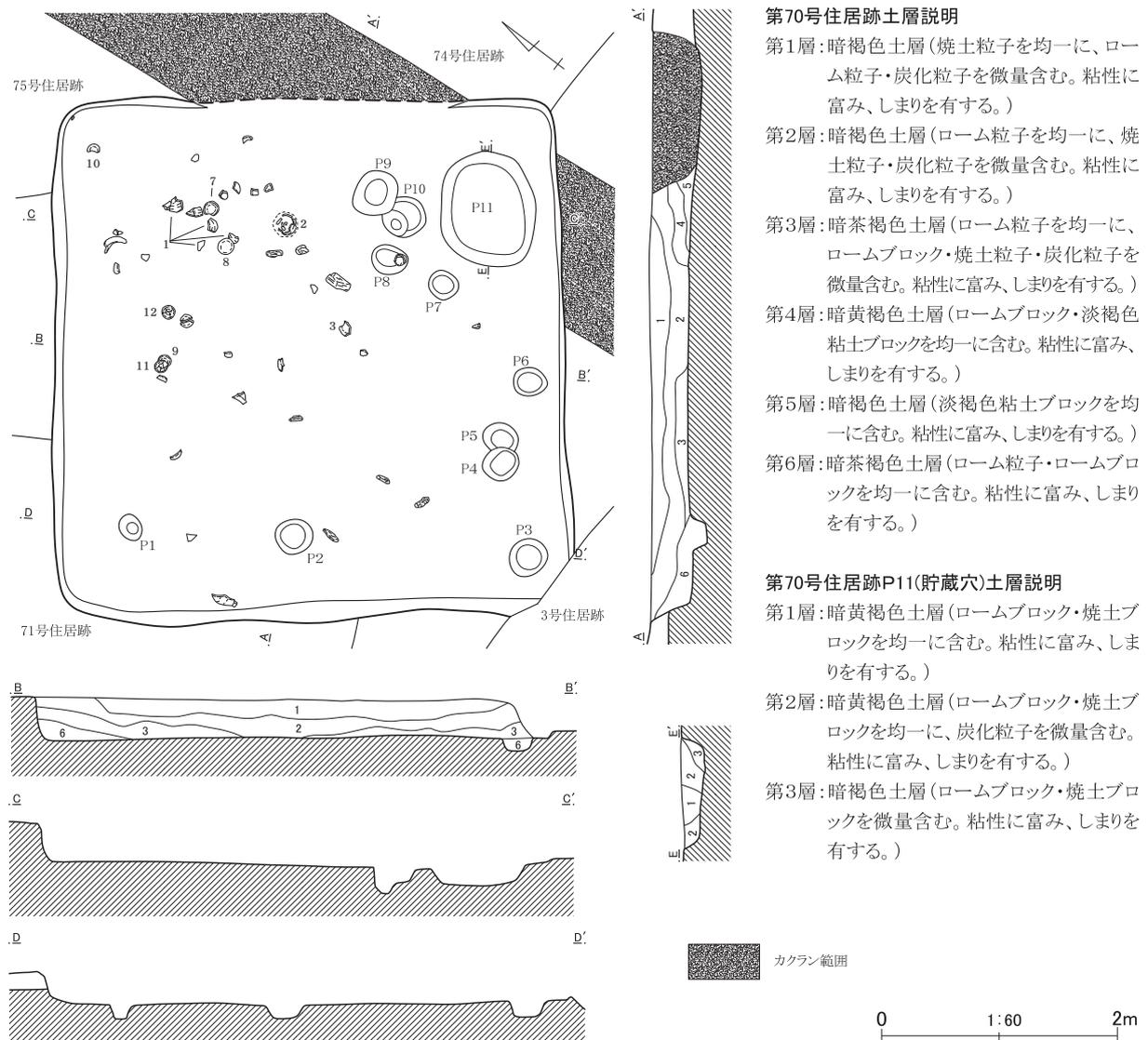
第129図 第69号住居跡出土遺物

第69号住居跡出土遺物観察表

1	深鉢	A. 口縁部径39.2、残存高28.3。B. 粘土紐輪積み。C. 平縁口縁。外面は口縁部文様帯に弧状・楕円形状の隆帯貼り付け後区画内に0段多条RL縄文を施す。弧状の区画内には口縁端部より垂下する渦巻状の隆帯が付される。隆帯脇には幅広沈線が施される。体部文様帯には0段多条RL縄文施文後丸棒状工具による縦位沈線が施される。沈線間は縄文施文と無文が交互に繰り返される。内面は横位の磨き。D. 砂粒、チャート、片岩粒、黒色鉱物。E. 外一にぶい黄褐色。F. 口縁部～体部上半がほぼ完全に遺存。H. 埋甕。
2	深鉢	A. 残存高15.5。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は単節RL縄文縦位施文・「Y」字状及び縦位に垂下する隆帯貼付後、隆帯脇に幅広沈線を施す。「Y」字状隆帯の上端部は渦巻状を呈するものと想定される。内面は横位の磨き。D. 砂粒、チャート、黒色鉱物。E. 外一橙色。F. 体部中位がほぼ完全に遺存。H. 炉体土器。

第70号住居跡（第130図、図版62）

調査区東側の北寄りに位置し、重複する第71号住居跡・第74号住居跡・第75号住居跡を切り、住居跡の南端を第3号溝跡に、東側を試掘溝に切られている。平面形は、コーナー部が丸みをもつ比較的整った方形を呈している。規模は、北東～南西方向4.51m、北西～南東方向4.47mを測る。主軸方位は、N-55°-Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で36cm

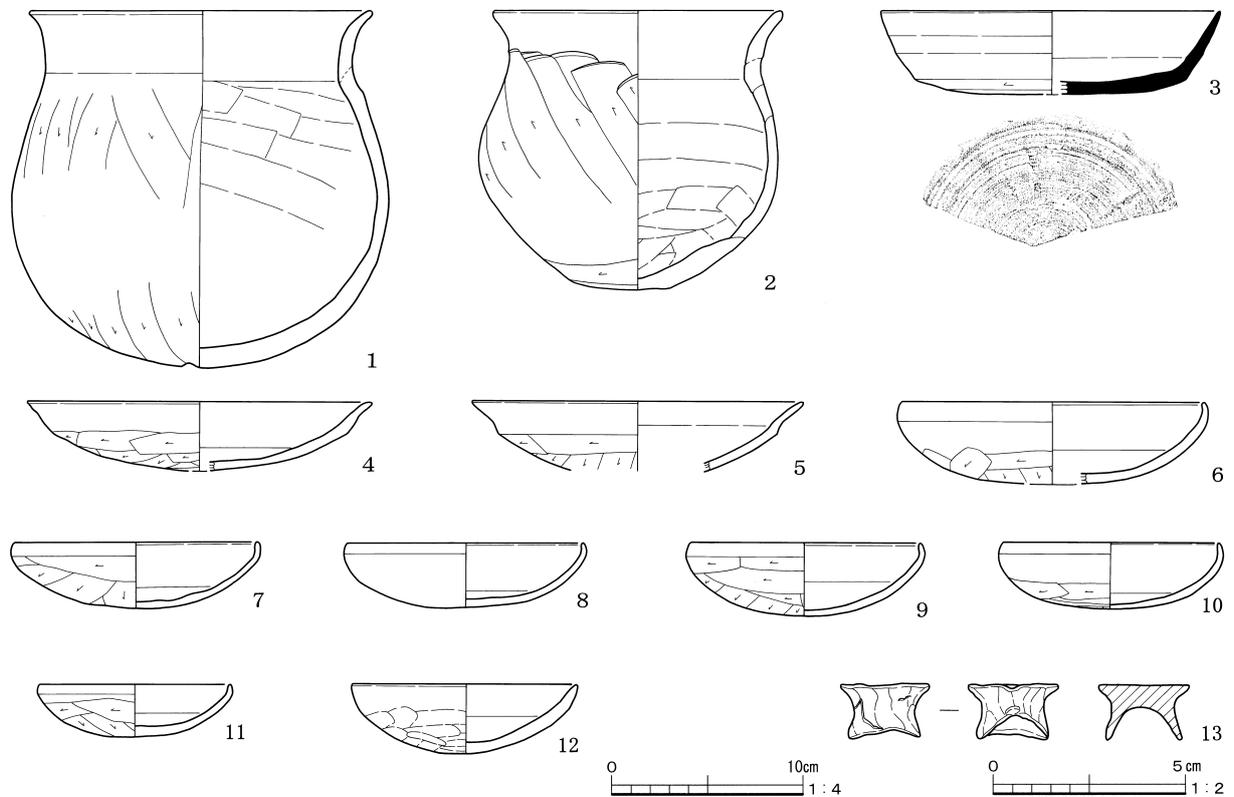


第130図 第70号住居跡

ある。壁溝は、各壁下には見られない。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的に平坦である。住居中央部は比較的堅緻であるが、周辺部はやや軟弱である。ピットは、住居跡内から11箇所検出されている。P 1は、住居西側コーナー部付近に位置する。23cm×18cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは12cmある。P 2は、住居南西側の壁際付近に位置する。33cm×30cmの円形を呈し、床面からの深さは15cmある。P 3は、住居南側コーナー部に位置する。34cm×33cmの円形を呈し、床面からの深さは14cmある。P 4・P 5・P 6は、住居南東側に位置し、P 4とP 5は重複している。いずれも長さ30cm程度の楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは14cmある。P 7は、住居東側に位置する。26cm×23cmの円形を呈し、床面からの深さは11cmある。P 8は、住居東側に位置する。31cm×25cmの楕円形を呈し、床面からの深さは14cmある。P 8の中からは土器が出土している。P 9とP 10は、住居東側で重複している。いずれも長さ40cm弱の楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは13cmと23cmある。P 11は、住居の東側コーナー部に位置する。98cm×81cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは20cmある。このP 11は、その位置や形態から、貯蔵穴の可能性が高いと考えられるものである。

カマドは見られないが、P 11の位置からすると試掘溝によって切られた住居の北東側壁に付設されていたものと思われる。

出土遺物は、住居の覆土中から土器の破片が比較的多く出土しており、土器以外では棒状の自然石が覆土中に散在して出土している。



第131図 第70号住居跡出土遺物

第70号住居跡出土遺物観察表

1	小形甕	A. 口縁部径(17.9)、器高18.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい赤褐色、内-明赤褐色。F. 1/2。G. 外面は荒れている。H. 覆土中。
2	小形甕	A. 口縁部径(15.3)、器高14.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外-橙色、内-灰黄褐色。F. 口縁部1/2欠損。H. 覆土中。
3	須恵器 坏	A. 口縁部径(18.0)、器高4.4、底部径(14.3)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転篋ケズリ。D. 白色粒。E. 外-暗灰黄色、内-灰黄褐色。F. 1/3。G. 底部外周に沈線。H. 覆土中。
4	皿	A. 口縁部径(18.0)、器高(3.7)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
5	皿	A. 口縁部径(17.5)、残存高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙色。F. 1/2。G. 器表面は荒れている。H. 覆土中。
6	坏	A. 口縁部径(16.0)、器高(4.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土中。
7	坏	A. 口縁部径12.8、器高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙色。F. 口縁部一部欠損。G. 外面は荒れている。H. 覆土中。
8	坏	A. 口縁部径12.4、器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-橙色。F. 完形。G. 外面は荒れている。H. 覆土中。
9	坏	A. 口縁部径12.2、器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい赤褐色、内-明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
10	坏	A. 口縁部径11.3、器高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
11	坏	A. 口縁部径10.0、器高2.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙色。F. 完形。H. 覆土中。
12	坏	A. 口縁部径11.9、器高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
13	土製品	A. 全長1.5、上端部幅2.4、下端部幅1.4、重量4.54g。B. 手捏ね。C. 内外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-にぶい褐色。F. 完形。H. 覆土中。

第71号住居跡（第132・133図、図版62）

調査区東側の北寄りに位置し、重複する第72号住居跡を切り、第55号住居跡・第70号住居跡に切られている。平面形は、コーナー一部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、北東～南西方向4.92m、北西～南東方向4.24mを測る。主軸方位は、N-61°-Eをとる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。壁溝は、上幅10cm～18cm、床面からの深さ5cm～13cmの比較的整った形態で、住居北東側壁以外の各壁下に見られる。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的に平坦である。住居中央部は比較的堅緻であるが、周辺部はやや軟弱である。住居南東側中央の壁際付近には、幅25cm・高さ5cm程度の「コ」の字状を呈する土堤が見られる。ピットは、住居跡内から4箇所検出されている。P1は、住居中央部の北東側寄りに位置し、北東側を第70号住居跡に切られている。幅58cmの隅丸長方形ぎみの形態で、床面からの深さは24cmある。P2は、南東側の「コ」の字状を呈する土堤の内側に位置する。34cm×28cmの不整円形を呈し、床面からの深さは24cmある。P2の上面からは完形の坏が出土している。P3は、住居中央部に位置する。21cm×20cmの円形を呈し、床面からの深さは12cmある。P4は、住居西側コーナー一部付近に位置する。37cm×29cmの楕円形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは11cmある。

カマドは残存していないが、おそらく第70号住居跡に切られている住居の北東側壁の南側寄りに付設されていたものと思われる。



第71・72号住居跡土層説明

〈第71号住居跡〉

第1層:暗茶褐色土層(ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第2層:暗茶褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第3層:暗褐色土層(ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第4層:暗褐色土層(ロームブロック・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

〈第72号住居跡〉

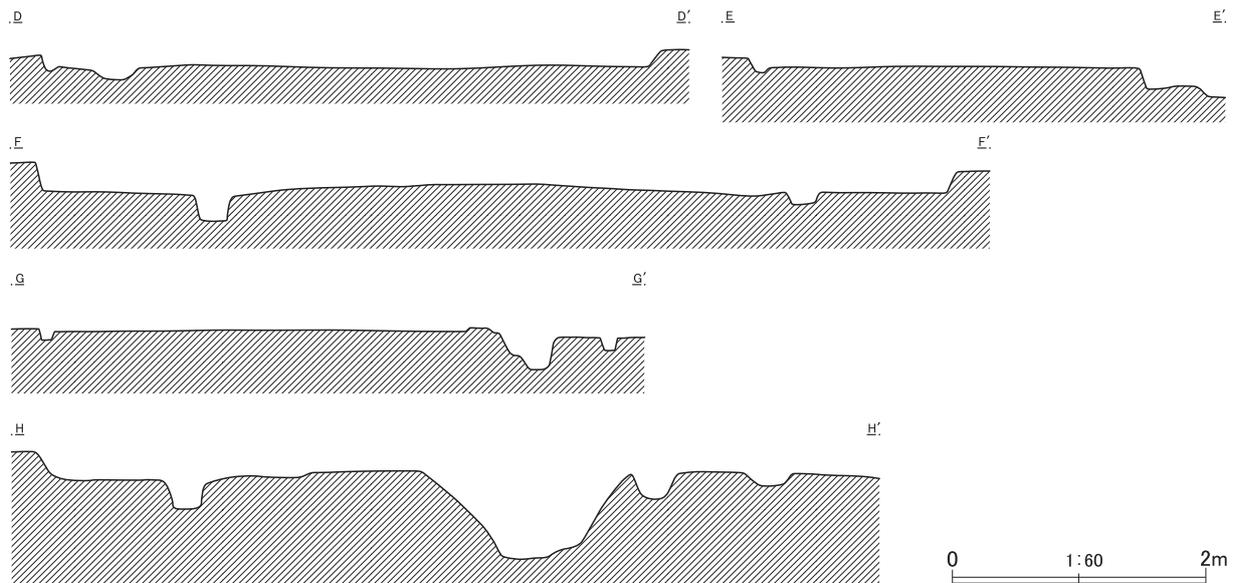
第5層:暗茶褐色土層(ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第6層:暗茶褐色土層(ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第7層:暗褐色土層(ローム粒子・ロームブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第8層:暗赤褐色土層(焼土ブロックを均一に含む。粘性、しまりともない。)

第132図 第71・72号住居跡(1)



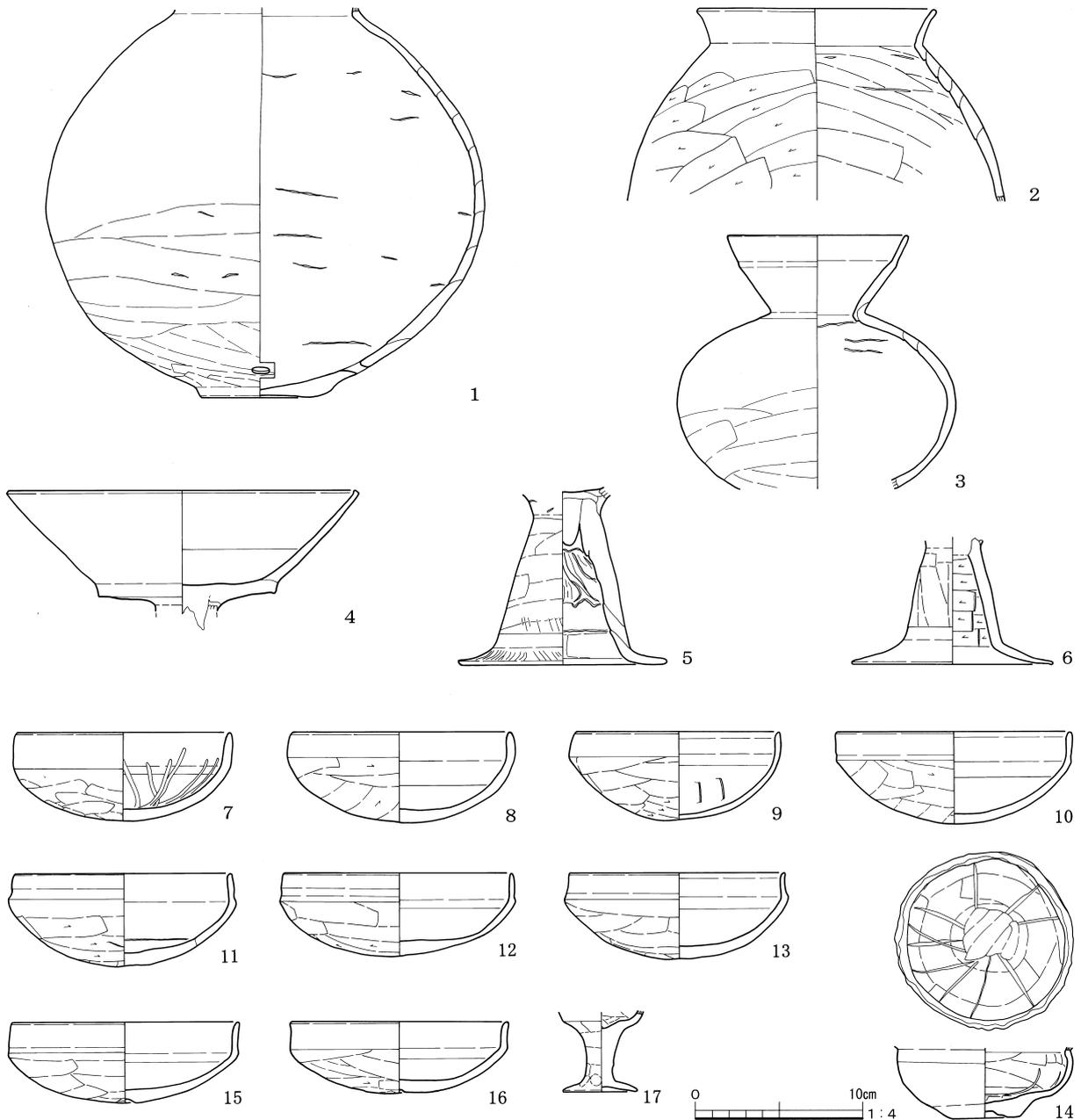
第133図 第71・72号住居跡(2)

出土遺物は、住居中央部の床面付近から完形に近い土器が多く出土している。土器以外では、住居中央部の床面上から、大形の打製石斧(第172図No5)が1点出土している。

第71号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A. 底部径7.0、残存高23.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部内外面篋ナデ。底部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-明赤褐色、内-にぶい黄褐色。F. 口縁部欠失。G. 胴部下端に1カ所焼成後穿孔。H. 床面付近。
2	甕	A. 口縁部径(14.2)、残存高11.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-灰黄褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
3	有段口縁直口壺	A. 口縁部径(10.8)、残存高20.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
4	高坏	A. 口縁部径21.0、残存高8.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面上半ヨコナデ・下半篋ナデ。坏部内外面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-橙色、内-明赤褐色。F. 坏部のみ。H. 覆土中。
5	高坏	A. 底部径12.5、残存高10.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部外面篋ナデ、内面ナデ。脚端部外面ヨコナデの後ハケ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-赤褐色。F. 脚部2/3。H. 覆土中。
6	高坏	A. 底部径12.0、残存高7.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部外面篋ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-赤褐色。F. 脚部のみ。H. 床面付近。
7	坏	A. 口縁部径12.9、器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデの後放射状暗文。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. ほぼ完形。H. P6上面。
8	坏	A. 口縁部径13.0、器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-明赤褐色、内-赤褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
9	坏	A. 口縁部径12.2、器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黄褐色、内-赤褐色。F. 口縁部1/3欠損。H. 床面直上。
10	坏	A. 口縁部径14.0、器高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 3/4。G. 内面は荒れている。H. 覆土中。
11	坏	A. 口縁部径13.0、器高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 器表面は荒れている。H. 床面直上。
12	坏	A. 口縁部径13.8、器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面直上。
13	坏	A. 口縁部径13.0、器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。H. 床面付近。

14	坏	A. 底部径4.2、残存高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 体部外面ナデ、内面篋ナデ。底部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部欠失。G. 内面に粗い放射状暗文を施す。H. 覆土中。
15	坏	A. 口縁部径13.7、器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。H. 床面付近。
16	坏	A. 口縁部径13.2、器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。G. 器表面は荒れている。H. 覆土中。
17	ミニチュア	A. 底部径(4.5)、残存高4.8。B. 手捏ね。C. 坏部外面ヨコナデ、内面ナデ。脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部欠失。G. 脚端部外面に指頭痕。H. 覆土中。



第134図 第71号住居跡出土遺物

第72号住居跡（第132・133図、図版63）

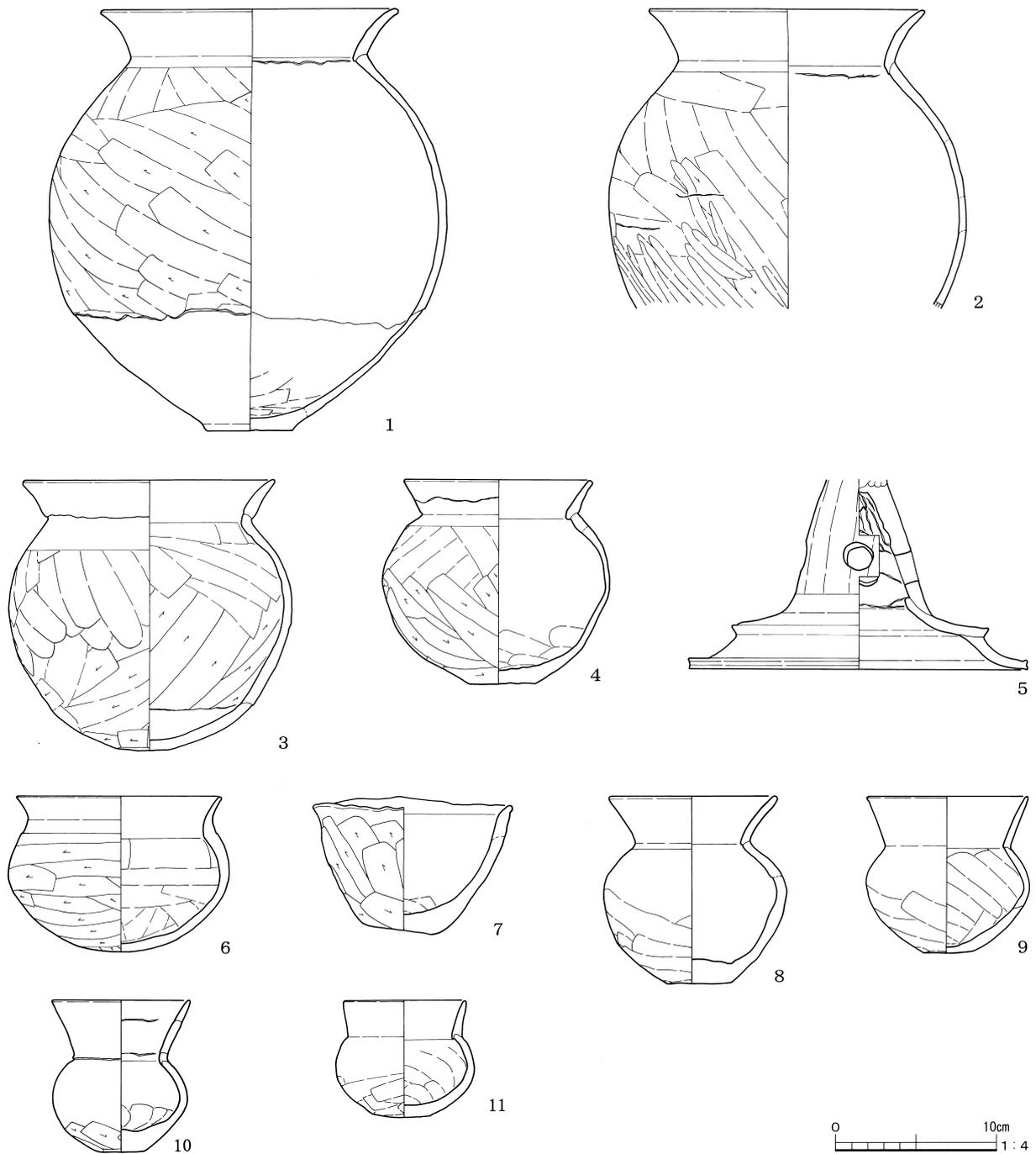
調査区東側の北寄りに位置し、重複する第55号住居跡・第71号住居跡・第18号土壌・第3号溝跡に切られている。平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、北東～南西方向7.28m、北西～南東方向は5.20mまで測れる。主軸方位は、N-50°-Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で23cmある。壁溝は、各壁下には見られない。床は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的に平坦である。住居中央部は比較的堅緻であるが、周辺部はやや軟弱である。ピットは、住居跡内からP5～P10の6箇所が検出されている。P5～P8は、ほぼ住居の対角線上に位置し、その配置から4本支柱を構成する支柱穴と考えられるものである。いずれも40cm前後の円形や楕円形を呈し、床面からの深さは10cm～22cmある。P9は、住居の南側に位置する。46cm×42cmの不整形円形を呈し、床面からの深さは21cmある。P10は、住居北西側の壁際に位置する。31cm×29cmの円形を呈し、床面からの深さは10cmある。

炉は、住居中央部のやや北西側寄りに位置する。床面を5cm程度掘り窪めた地皿炉で、比較的良く焼けている。平面形は、73cm×52cmの楕円形を呈している。炉石等の付属施設は伴わない。

出土遺物は、炉周辺の住居中央付近の床面上から、土器が比較的多く出土している。

第72号住居跡出土遺物観察表

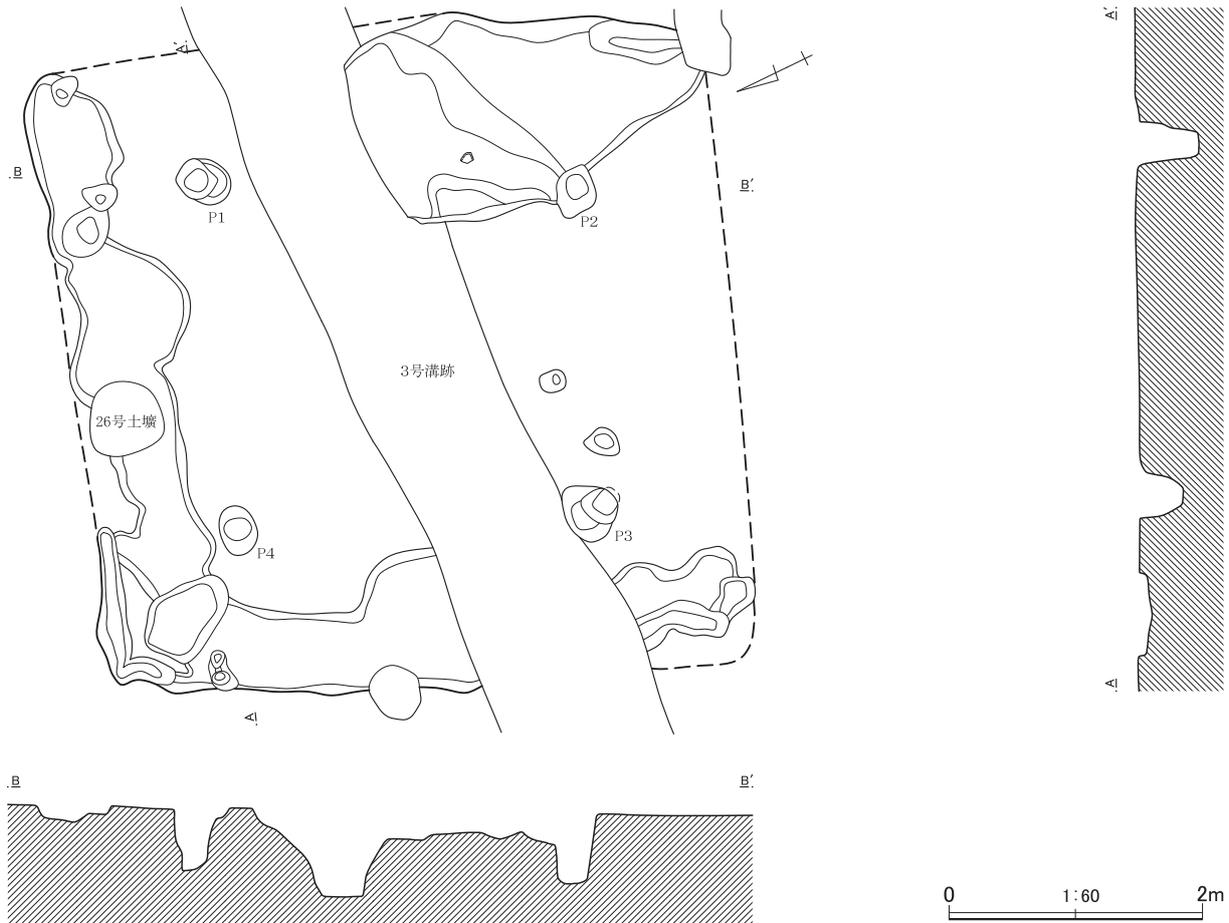
1	甕	A. 口縁部径18.3、器高26.6、底部径5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面篋ナデ。底部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-にぶい褐色、内-明褐色。F. 1/3。H. 床面付近。
2	甕	A. 口縁部径(17.4)、残存高18.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半篋ナデ、下半ケズリの後ナデ・ミガキ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 外-灰黄褐色、内-灰黄色。F. H. 床面付近。
3	小形甕	A. 口縁部径15.8、器高17.1、底部径3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半ケズリの後篋ナデ・下位篋ナデ。底部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面直上。
4	小形甕	A. 口縁部径11.9、器高12.9、底部径4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-橙色、内-明赤褐色。F. 完形。H. 床面付近。
5	有段高坏	A. 底部径21.1、残存高11.9。B. 粘土紐巻き上げ。C. 脚柱部外面篋ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい赤褐色、内-赤褐色。F. 脚部のみ。G. 脚柱部に焼成前の円孔4カ所。H. 覆土中。
6	鉢	A. 口縁部径(12.8)、器高9.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、黒色粒。E. 外-にぶい赤褐色、内-赤褐色。F. 3/4。H. 床面付近。
7	鉢	A. 口縁部径12.5、器高8.6、底部径4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。H. 床面直上。
8	小形丸底壺	A. 口縁部径10.3、器高11.8、底部径4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面篋ナデ、内面ナデ。底部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 完形。H. 床面直上。
9	小形丸底壺	A. 口縁部径(10.0)、器高9.9、底部径3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面篋ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外-にぶい赤褐色、内-明赤褐色。F. 2/3。H. 床面付近。
10	小形丸底壺	A. 口縁部径8.6、器高9.6、底部径2.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下位ケズリ、内面ナデ。底部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 外-にぶい褐色、内-赤褐色。F. 完形。H. 床面付近。
11	小形丸底壺	A. 口縁部径7.7、器高7.4、底部径3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面篋ナデ、内面ナデ。底部外面篋ナデ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁部1/4欠損。H. 床面直上。



第 135 図 第 72 号住居跡出土遺物

第73号住居跡（第136図、図版63）

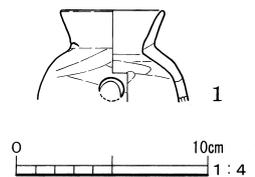
調査区中央部の北寄りに位置し、重複する第31号住居跡・第2号掘立柱建物跡・第26号土壇・第3号溝跡に切られている。本住居跡は、後世の水田造成によって住居の床面下まで強く削平されており、残存しているのは住居の掘り方部分だけである。平面形は、残存する掘り方部分や4本支柱穴の配置から推測すると、方形を呈していたものと思われる。規模は、北東～南西方向が推定5.18m、北西～南東方向が推定5.41mを測る。主軸方位は、N-111°-Eをとると思われる。住居掘り方は、住居



第 136 図 第 73 号住居跡

の壁際を周溝状に掘り窪めた形態のもので、確認面からの深さは最高で15cm程度ある。ピットは、4箇所残存している。P 1～P 4は、その配置から4本支柱穴と考えられるもので、ほぼ住居の対角線上に配置されている。いずれも 30cm～40cm の楕円形や不整形を呈しており、確認面からの深さは 33cm～56cm ある。残存する部分からは、カマドの痕跡は認められなかった。

出土遺物は、住居跡上面や掘り方埋土内から、土器の破片が少量出土しただけである。これらの土器破片の中には平安時代の土師器片も多く含まれているが、それらはおそらく重複する第31号住居跡や第32号住居跡から混入したものと考えられる。



第 137 図 第 73 号住居跡
出土遺物

第73号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(5.4)、残存高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面匱ナデ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部片。G. 胴部に焼成前の円孔。器表面は荒れている。H. 床下掘り方埋土内。
---	---	--

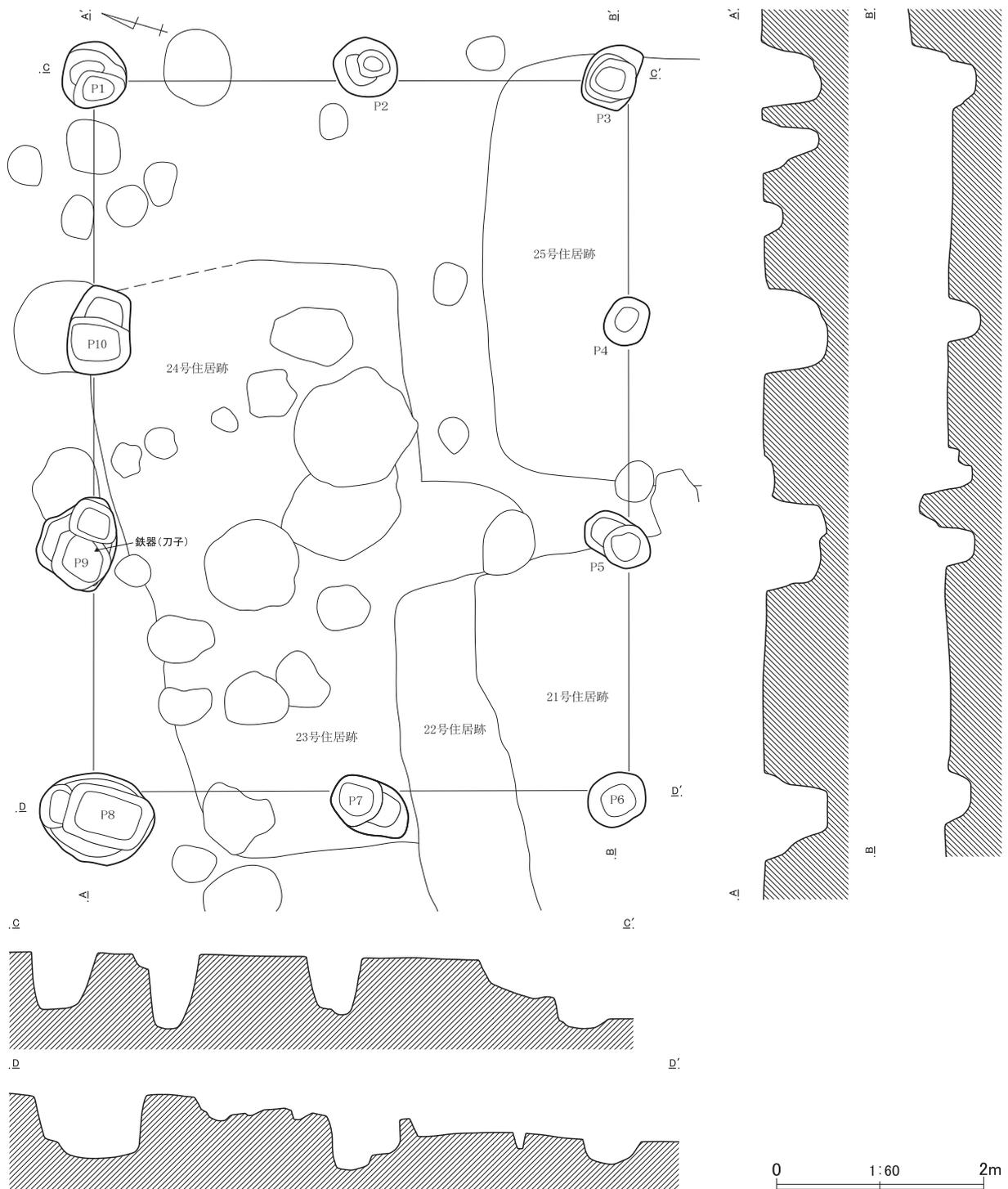
第74～84号住居跡 (B 2 北側拡幅調査区、別途報告)

2. 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第138図、図版64）

調査区中央部の南寄りに位置し、重複する第21号住居跡・第22号住居跡・第23号住居跡・第24号住居跡・第25号住居跡を切っている。

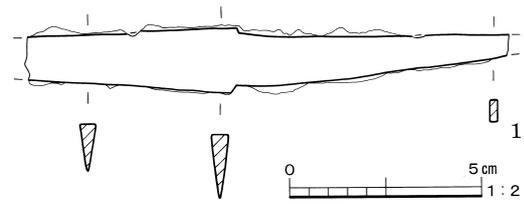
建物の形態は、北東～南西方向3間、北西～南東方向2間の、平面形が長方形を呈する側柱式建



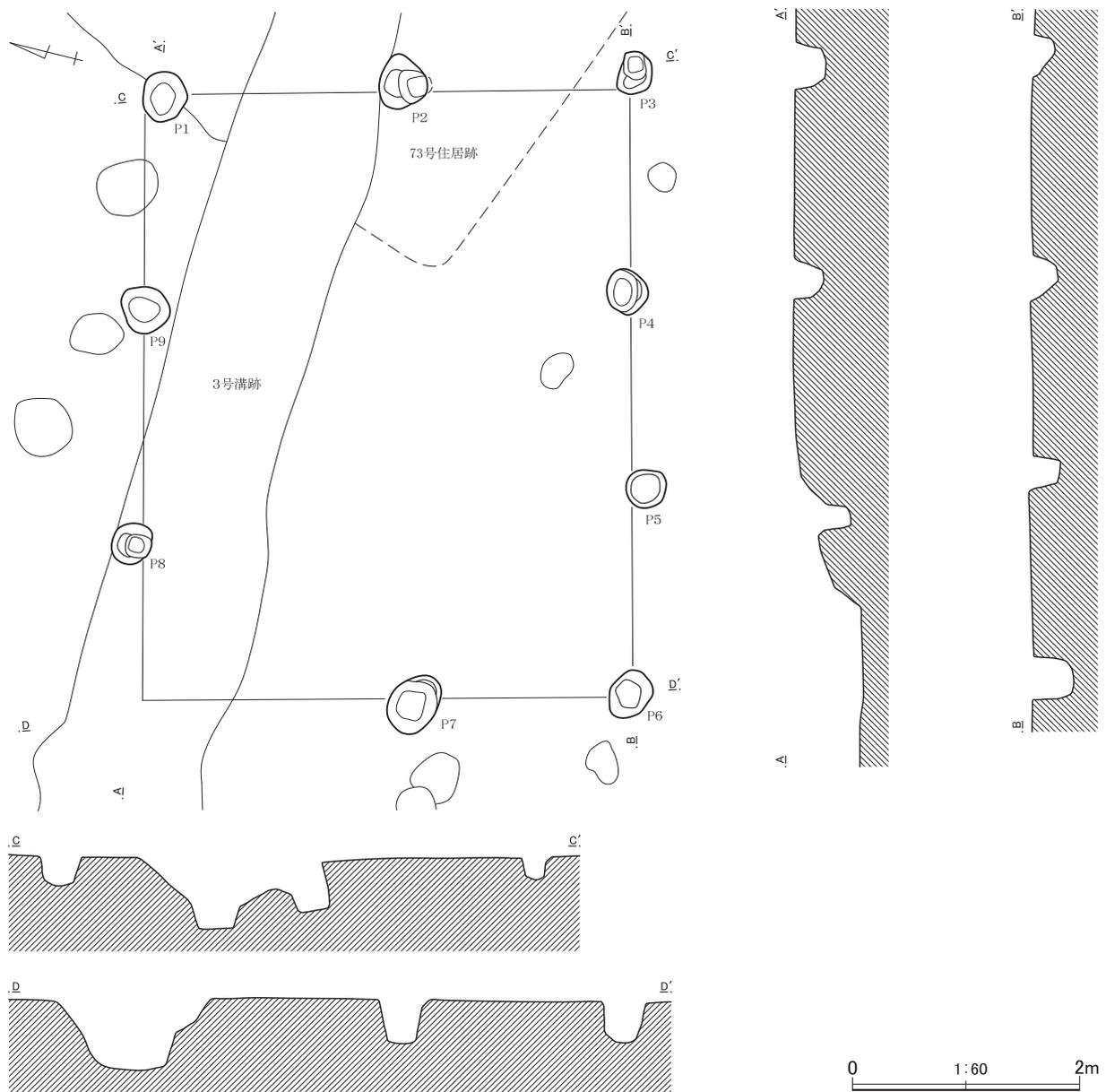
第138図 第1号掘立柱建物跡

物である。建物の長軸方向は、N-74° - Eをとる。規模は、北東~南西方向の桁行側が6.90m、北西~南東方向の梁行側が5.20mを測る。柱通りは比較的良く、桁行側・梁行側の柱穴とも、直線上に並んでいる。柱心間は、桁行側が1間2.30m、梁行側が1間2.60mの等間隔で、桁行側よりも梁行側の方が1

間の間隔が若干長くなっている。柱穴は、長さ60cm~110cmの比較的規模の大きな掘り方で、その平面形は円形から長方形ぎみのものまで様々である。確認面からの深さは、最低55cmから最高71cmま



第 139 図 第 1号掘立柱建物跡出土遺物



第 140 図 第 2号掘立柱建物跡

であり、いずれも60cm前後の深さで比較的揃っている。

出土遺物は、柱穴覆土中から土師器の坏・甕の破片や須恵器坏の破片が少量出土している。土器以外では、P 9の覆土中位から鉄製刀子が1点出土している。本建物跡の時期は、覆土の状態や出土遺物から見て、平安時代前期頃(9世紀前半)の所産と考えられる。

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表

1	鉄製品 (刀子)	A. 残存長12.2、最大幅1.7、最大厚0.4、残重20.34g。F. 両端部欠失。H. P 9内。
---	-------------	---

第2号掘立柱建物跡(第140図、図版65)

調査区中央部の北寄りに位置し、重複する第73号住居跡を切り、第3号溝跡に切られている。

建物の形態は、北東～南西方向3間、北西～南東方向2間の長方形を呈する側柱式建物である。建物の長軸方向は、N-76°-Eをとる。規模は、北東～南西方向の桁行側が5.40m、北西～南東方向の梁行側が4.20mを測る。柱通りは、梁行側は比較的良く柱穴は直線上に並んでいるが、桁行側は柱穴の配列がやや蛇行ぎみである。柱心間は、梁行側が1間2.60mの等間隔、桁行側は南東側壁が1間2.30mの等間隔であるのに対して、北西側壁は1間の間隔が不揃いである。柱穴は、いずれも長さ40cm～50cmの平面形が円形ぎみの比較的小規模な掘り方である。確認面からの深さは、最低21cmから最高51cmまであり、柱穴毎にかなりばらつきがある。P 2・P 3・P 8には、長さ25cm前後の方形ぎみの柱痕が見られる。

出土遺物は、柱穴覆土中から土器の破片が少量出土しただけである。本建物跡の時期は、柱穴や建物の形態から見ると、中世の可能性が高いと思われる。

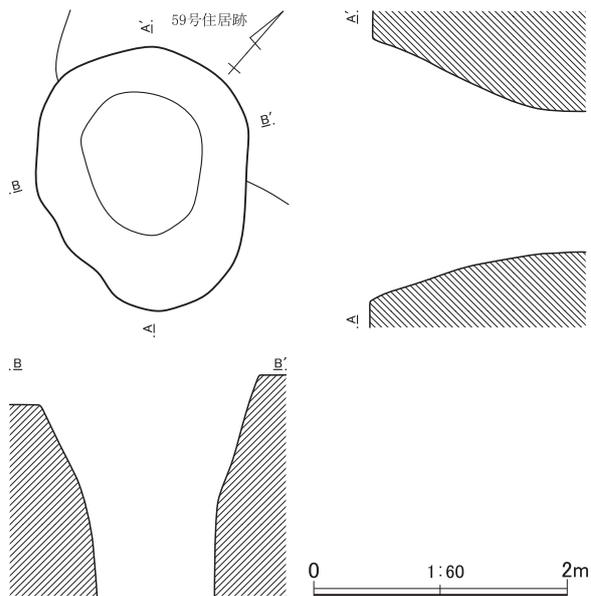


3. 井戸跡

第1号井戸跡 (第141図)

調査区東側の中央付近に位置し、重複する第59号住居跡を切っている。井戸掘り方の平面形は、北西～南東方向に長い楕円形ぎみの形態である。規模は、北西～南東方向2.10m、北東～南西方向1.80mを測る。確認面からの深さは、1.75m以上ある。断面は、いわゆる漏斗状の形態で、上半は壁が緩やかに傾斜して落ち込み、中位から筒状に深くなっている。掘り方内には、石組みや木枠等の井筒施設の痕跡は見られない。

出土遺物は、掘り方覆土中から古墳時代～平安時代の土器の破片が比較的多く出土しているが、これらはすべて周辺の該期遺構からの混入である。本井戸跡の時期は、掘り方覆土中に浅間山系A軽石を均一に含むことから、近世後半以降の所産と考えられる。

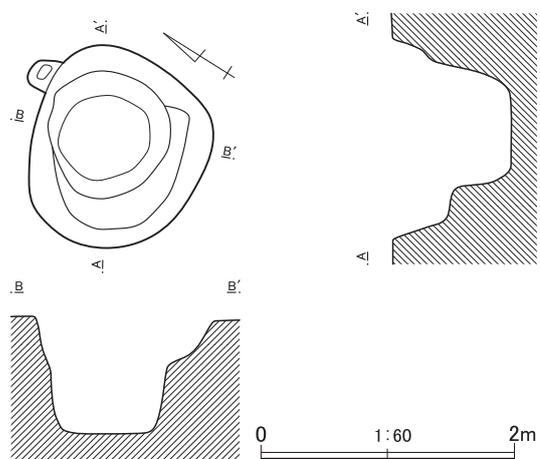


第141図 第1号井戸跡

第2号井戸跡 (第142図、図版66)

調査区中央部に位置する。井戸掘り方の平面形は、不整形円形ぎみの形態である。規模は、北東～南西方向1.60m、北西～南東方向1.45mを測る。確認面からの深さは、95cmしかなく、おそらく掘削途中で放棄したものではないかと思われる。断面は、2段に深くなっており、中位から直径1mの円筒状に落ち込んでいる。掘り方内には、石組みや木枠等の井筒施設の痕跡は見られない。

出土遺物は、掘り方覆土中から土器の破片が少量出土しただけである。本井戸跡の時期は、掘り方覆土中に浅間山系A軽石を均一に含むことから、近世後半以降の所産と考えられる。



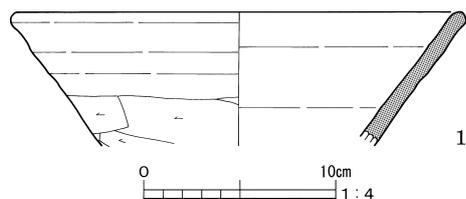
第142図 第2号井戸跡

第3号井戸跡 (第144図、図版66)

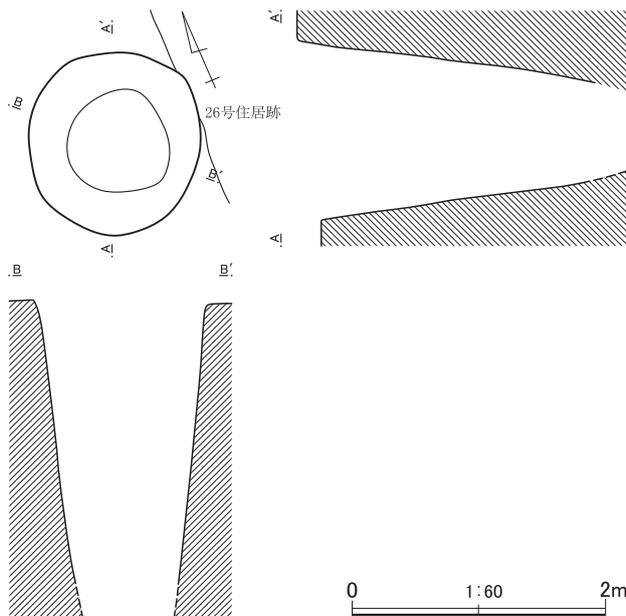
調査区中央部南寄りに位置し、重複する第26号住居跡を切っている。井戸掘り方の平面形は、若干北東～南西方向が長い円形ぎみの形態である。規模は、北東～南西方向1.45m、北西～南東方向1.35mを測る。確認面からの深さは、2.40m以上ある。断面は、井戸の上面を後世の水田造成によって削平されているためか、あまり変化は無く、単純に筒状に深くなっているだけである。掘り方内には、石組みや木枠等の痕跡は見られないが、覆土中からは長さ30cm～40cm程度の四角い角閃石安

山岩が6個出土しており、あるいは井戸上面にそれらの石を用いた石組みが施されていた可能性もある。

出土遺物は、覆土中から土師器片のほか常滑窯系片口鉢の破片(No 1)が出土している。本井戸跡の時期は、出土遺物や覆土の状態から、中世の所産と考えられる。



第 143 図 第 3 号井戸跡出土遺物



第 144 図 第 3 号井戸跡

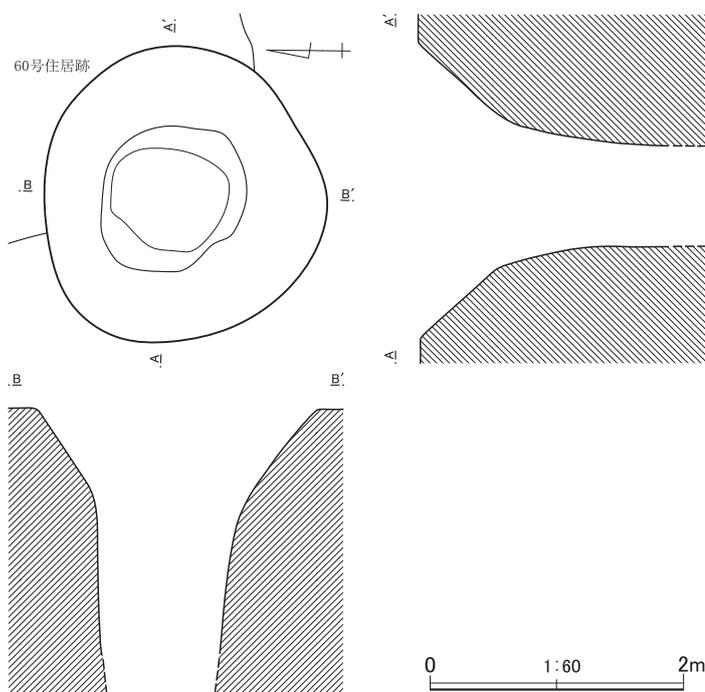
第 3 号井戸跡出土遺物観察表

1	常滑窯系片口鉢	A. 口縁部径(24.0)、残存高7.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面回転ナデ。体部外面下半ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-灰黄褐色、内-褐灰色。F. 口縁部~体部片。G. 内面に斑点状の自然釉がかかる。H. 覆土中。
---	---------	--

第 4 号井戸跡 (第145図)

調査区西側の北寄りに位置し、重複する第60号住居跡を切っている。井戸掘り方の平面形は、やや不整の円形ぎみの形態である。規模は、北東~南西方向2.30m、北西~南東方向2.35mを測る。確認面からの深さは、2m以上ある。断面は、いわゆる漏斗状の形態で、上半は壁が緩やかに傾斜して落ち込み、中位から筒状に深くなっている。掘り方内には、石組みや木枠等の井筒施設の痕跡は見られない。

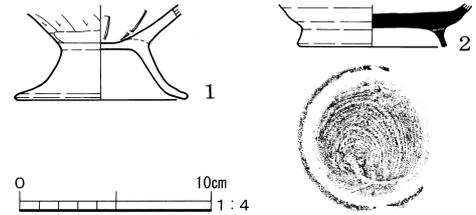
出土遺物は、掘り方覆土中から平安時代の土師器や須恵器の破片が比較的多く出土している。本井戸跡の時期は、出土遺物や覆土の状態から、平安時代前期の所産と考えられる。



第 145 図 第 4 号井戸跡

第4号井戸跡出土遺物観察表

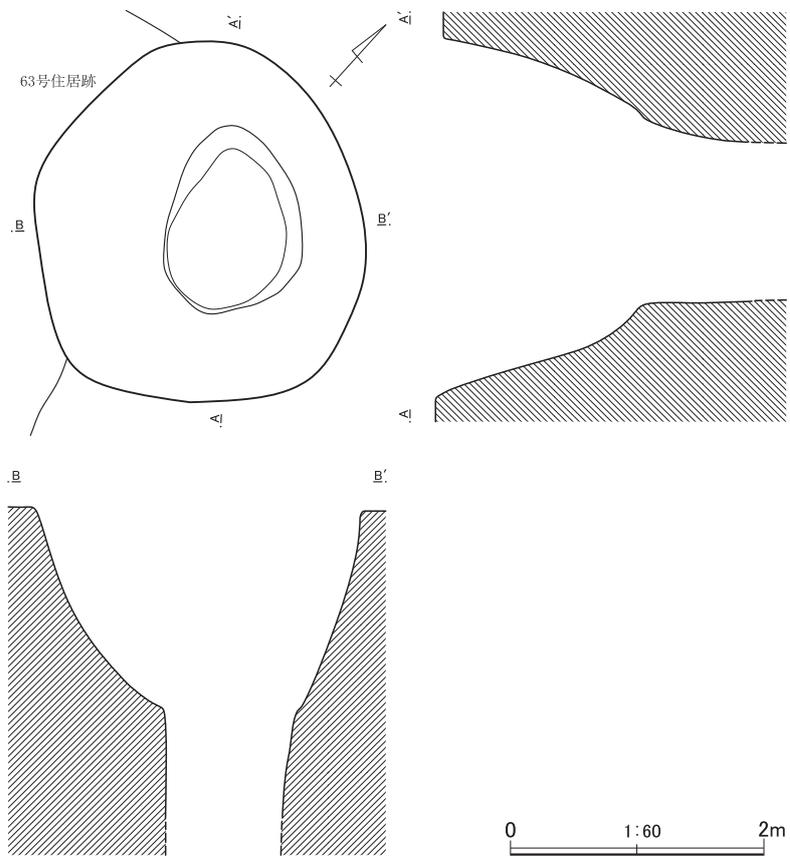
1	小形台付甕	A. 台端部径(9.0)、残存高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。台部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明褐色。F. 台部2/3。H. 覆土中。
2	須恵器高台付埴	A. 底部径8.0、残存高2.2。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。高台部回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-灰黄色。F. 底部のみ。H. 覆土中。



第146図 第4号井戸跡出土遺物

第5号井戸跡 (第147図、図版67)

調査区東側の中央付近に位置し、重複する第63号住居跡を切っている。井戸掘り方の平面形は、北西～南東方向に長いやや楕円形ぎみの形態である。規模は、北西～南東方向が2.88m、北東～南西方向は2.60mを測る。確認面からの深さは、2.48m以上ある。断面は、いわゆる漏斗状の形態で、上半は壁が緩やかに湾曲しながら傾斜して落ち込み、中位から筒状に深くなっている。掘り方内には、石組みや木枠等の井筒施設の痕跡は見られない。覆土は、黒褐色土を主体とし、上半には焼土や淡褐色粘土ブロックの投げ込みが顕著で、下半はローム粒子とロームブロックを均一に含んでいる。

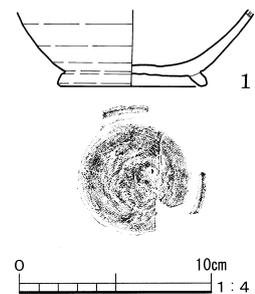


第147図 第5号井戸跡

出土遺物は、掘り方覆土中から土器の破片が比較的多く出土している。本井戸跡の時期は、出土遺物や覆土の状態から、平安時代の所産と考えられる。

第5号井戸跡出土遺物観察表

1	高台付埴	A. 底部径(7.9)、残存高4.1。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 内外-黄灰色。F. 底部2/3。G. 酸化焰焼成。H. 覆土中。
---	------	---



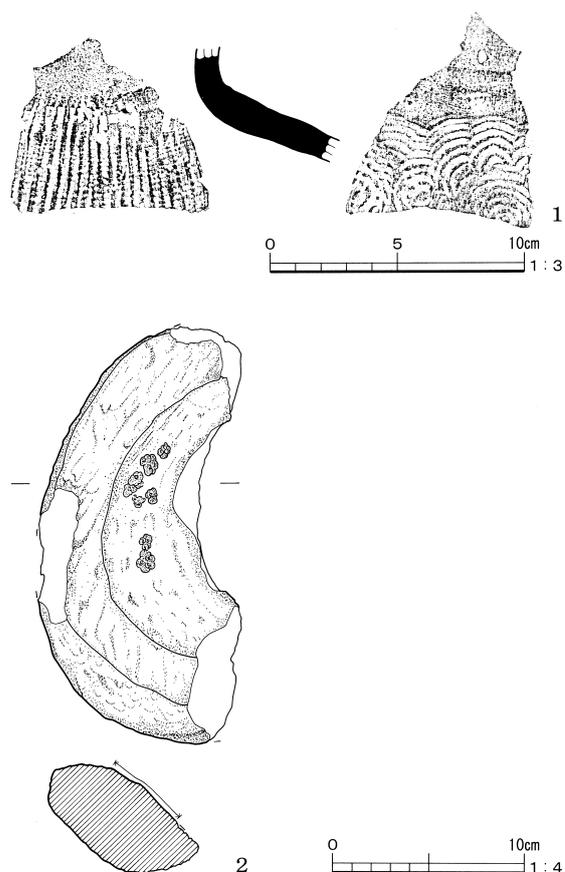
第148図 第5号井戸跡出土遺物

4. 土 壙

第1号土壙（第150図、図版67）

調査区東側の中央付近に位置し、重複する第15号住居跡を切っている。平面形は、コーナー部が丸みをもつ隅丸方形を呈しているが、若干平行四辺形状に歪んでいる。規模は、2.00m×2.00mで、軸方向はN—32°—Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で53cmある。底面は広く平坦で、北側コーナー部に楕円形を呈する深さ13cmのピットを伴う。覆土は、重複する第15号住居跡のカマドを切っているためか、白色粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子を均一に含む黒褐色土を主体としている。

出土遺物は、覆土中から土師器と須恵器の破片が比較的多く出土している。土器以外では、覆土中から縄文時代の石皿の破片(No2)が1個出土している。本土壙の時期は、覆土の状態や出土遺物から、白鳳時代～奈良時代(7世紀末～8世紀)の所産と考えられる。



第149図 第1号土壙出土遺物

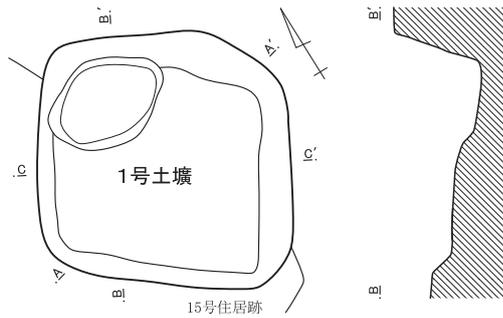
第1号土壙出土遺物観察表

1	須恵器 甕	B. 粘土紐積み上げ成形。C. 外面平行叩き。内面同心円文(青海波文)の当具痕。D. 白色粒。E. 内外一褐色。F. 胴部片。H. 覆土中。
2	石 皿	A. 残存長22.2、残存幅10.6、残存厚5.2、残重1829.01g。D. 片岩。F. 1/2。G. 表面は良く擦られている。叩き痕あり。H. 覆土中。

第2号土壙（第150図、図版68）

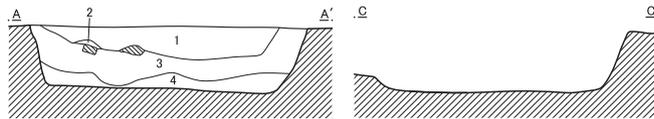
調査区東側の中央付近に位置し、重複する第30号住居跡を切っている。平面形は、北西～南東方向に細長い楕円形ぎみの形態を呈している。規模は、北西～南東方向3.31m、北東～南西方向1.52mを測る。長軸方向は、N—30°—Wをとる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で55cmある。底面は、広く平坦であるが、若干起伏が見られる。覆土中には、焼土粒子や炭化粒子が顕著に見られ、土壙北西側の覆土上半には、多くの土器とともに黄褐色粘土のブロックが多量に投げ込まれている。

出土遺物は、覆土の上半から多量の土器が出土している(第151図～第153図)。これらの土器には、壺・甕・大形甑・鉢・高坏・坏など、直口壺が見られない以外はほとんどの器種が出土しているが、いずれも二次的に投棄されたと考えられるものである。本土壙の時期は、覆土の状態や出土遺物から、古墳時代後期初頭(5世紀後半)の所産と考えられる。



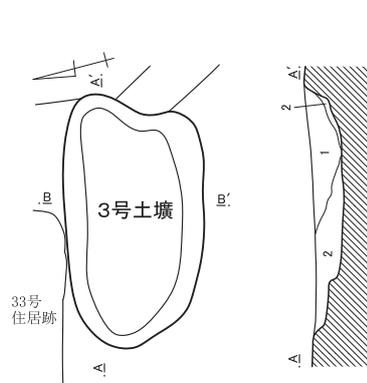
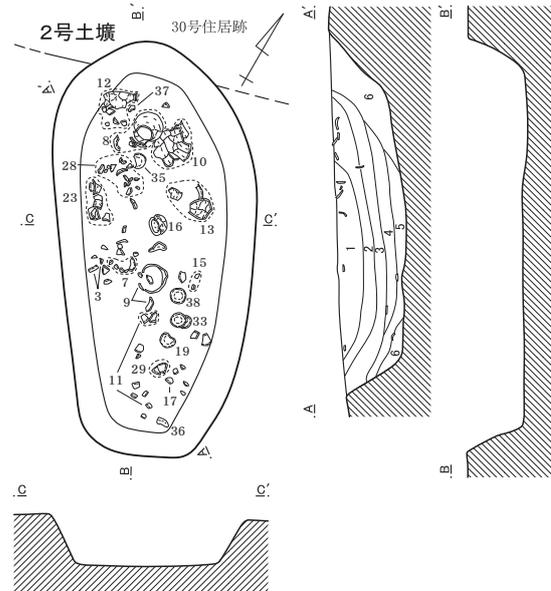
第1号土壙土層説明

- 第1層: 黒褐色土層(白色粒子・焼土粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗赤褐色土層(焼土粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 黒褐色土層(白色粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 黒褐色土層(焼土粒子を均一に、焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)



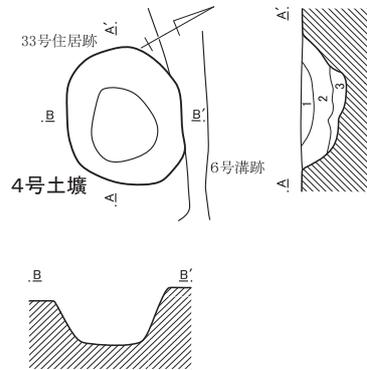
第2号土壙土層説明

- 第1層: 暗褐色土層(焼土粒子を均一に、焼土ブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗褐色土層(焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 黒褐色土層(炭化粒子を均一に、焼土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗褐色土層(焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第5層: 黒褐色土層(ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第6層: 暗褐色土層(ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)



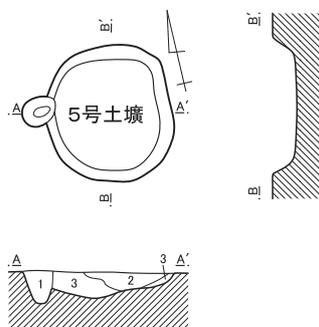
第3号土壙土層説明

- 第1層: 暗褐色土層(白色粒子を多量、ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗褐色土層(白色粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)



第4号土壙土層説明

- 第1層: 暗褐色土層(白色粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗褐色土層(白色粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 黒褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)



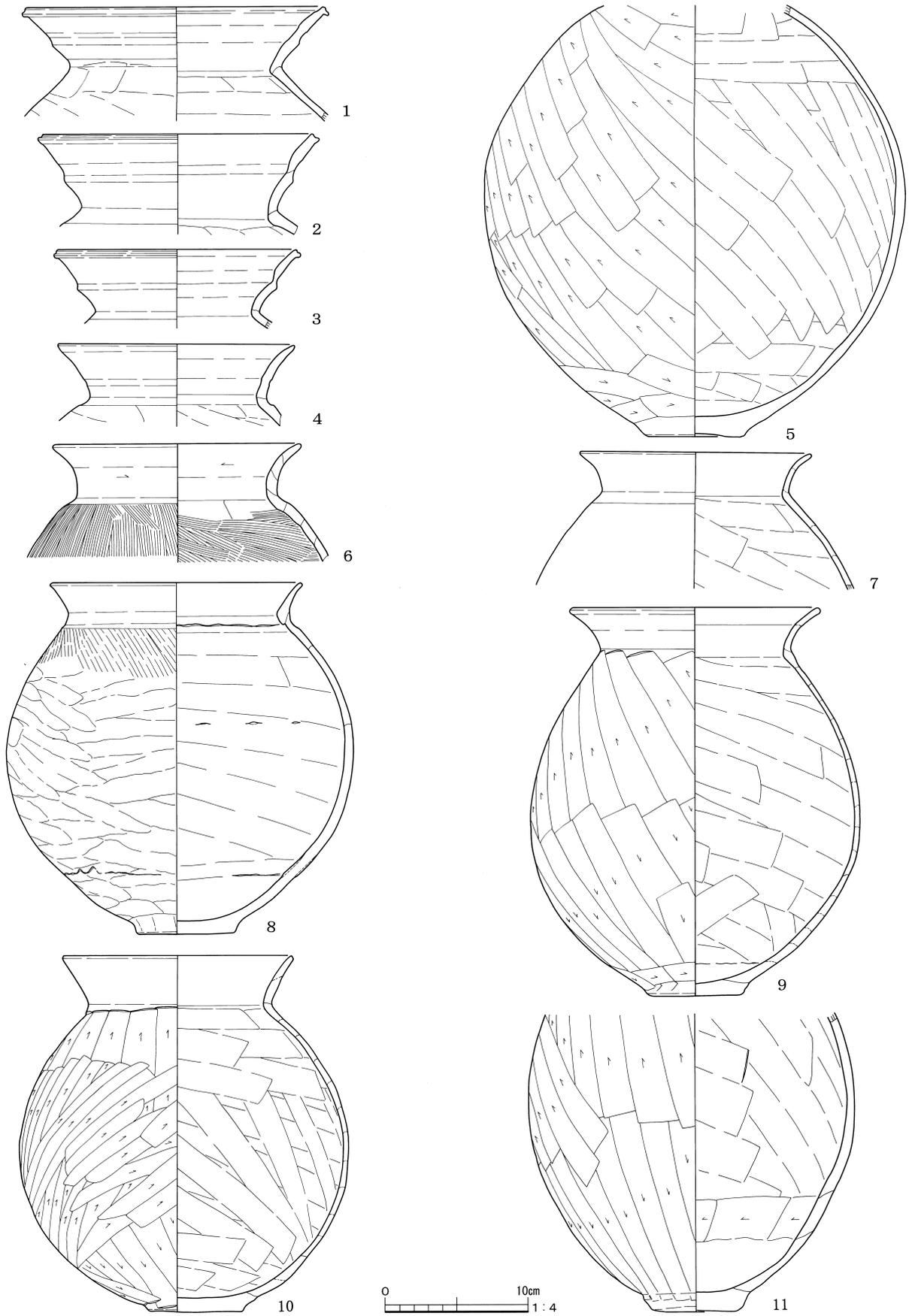
第5号土壙土層説明

- 第1層: 黒褐色土層(B軽石・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗黄褐色土層(ロームブロックを均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗茶褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

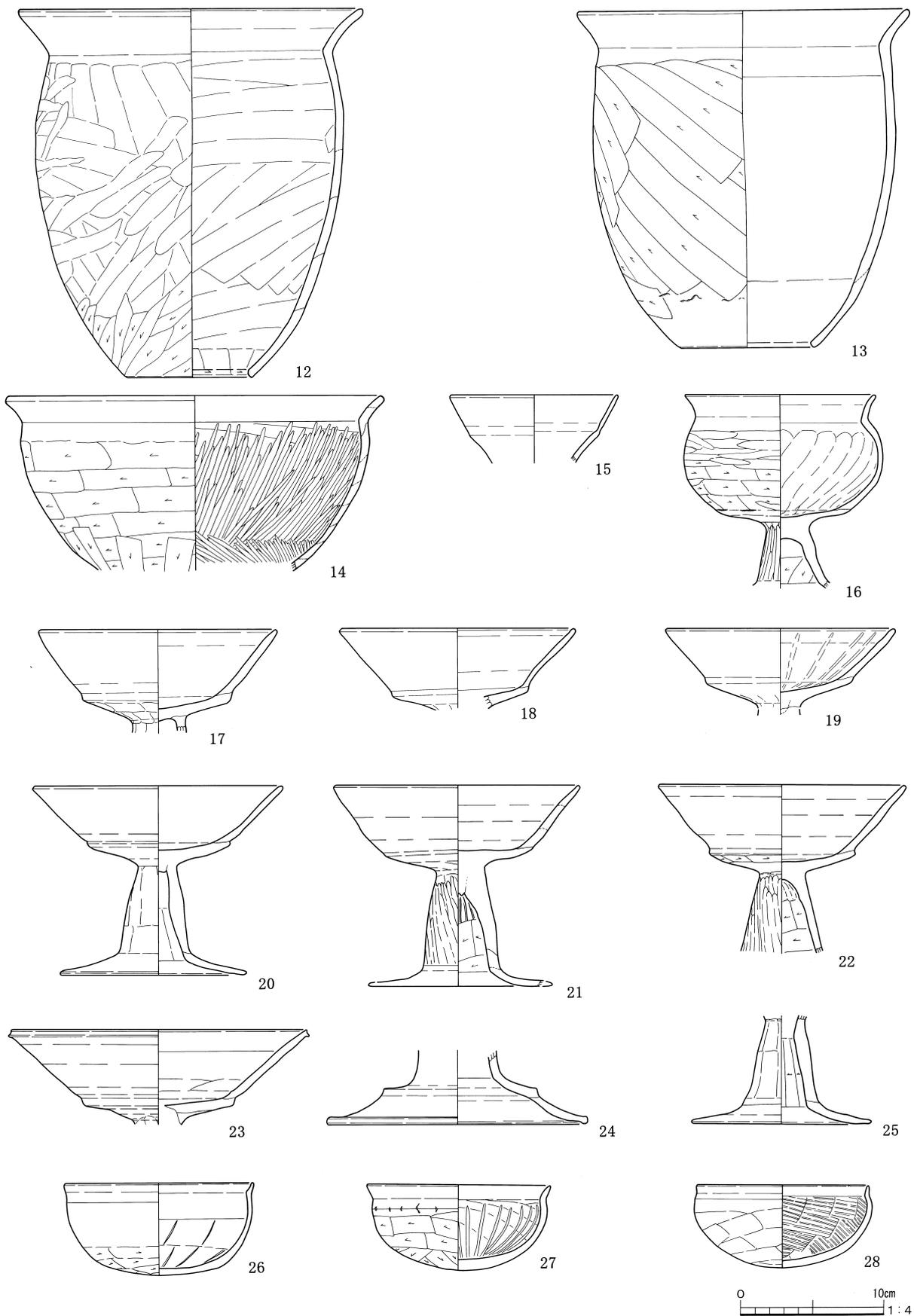


0 1:60 2m

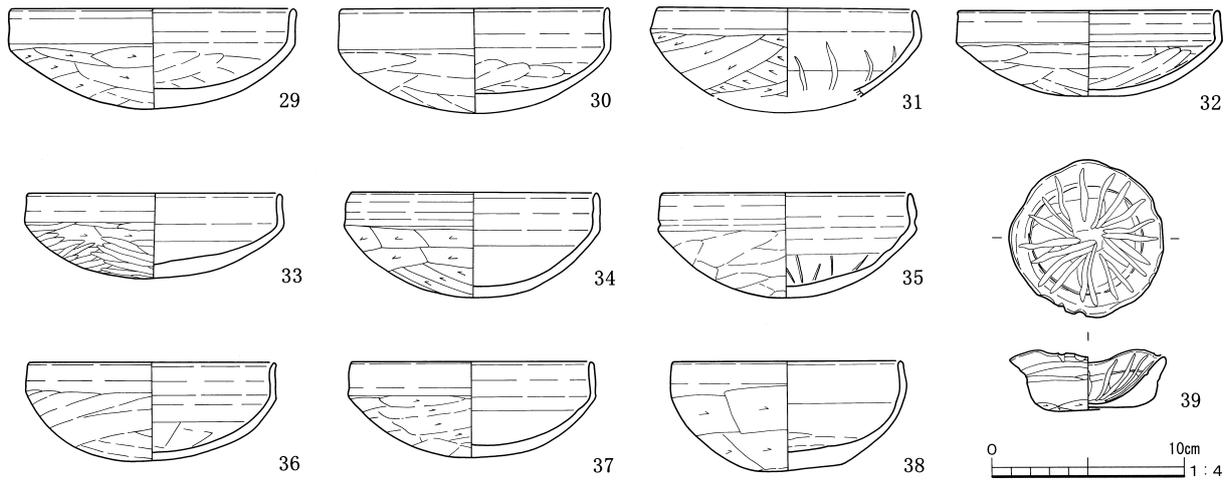
第150図 第1～5号土壙



第 151 图 第 2 号土壤出土遗物 (1)



第 152 图 第 2 号土壤出土遗物 (2)



第 153 図 第 2 号土壌出土遺物 (3)

第 2 号土壌出土遺物観察表

1	壺	A. 口縁部径(21.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部1/3破片。H. 覆土中。
2	壺	A. 口縁部径19.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗橙褐色。F. 口縁部2/3破片。H. 覆土中。
3	壺	A. 口縁部径17.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 口縁部2/3破片。H. 覆土中。
4	壺	A. 口縁部径(16.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/2強。H. 覆土中。
5	壺	A. 残存高30.5、底部径7.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-暗橙褐色。F. 1/2弱。G. 外面煤付着。H. 覆土中。
6	甕	A. 口縁部径17.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面篋ナデの後ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部~胴上半のみ。H. 覆土中。
7	甕	A. 口縁部径16.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部4/5。H. 覆土中。
8	甕	A. 口縁部径17.6、器高24.8、底部径6.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後上半木口状工具による篋ナデ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
9	甕	A. 口縁部径(17.6)、器高27.4、底部径6.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 2/3。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
10	甕	A. 口縁部径(16.0)、器高25.2、底部径6.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-暗褐色。F. ほぼ完形。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
11	甕	A. 残存高21.0、底部径6.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面上半篋ナデ・下半ナデの後ケズリ。底部外面ナデの後外周ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 1/3。G. 胴部外面は二次焼成を受けて荒れている。H. 覆土中。
12	大形甑	A. 口縁部径24.0、器高26.0、底部径8.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後上半強いナデ付け・下半ケズリ、内面篋ナデ。底部穿孔部内側ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。G. 胴部外面黒斑あり。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
13	大形甑	A. 口縁部径(23.2)、器高23.8、底部径(9.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。底部穿孔部内側ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
14	大形鉢	A. 口縁部径(26.4)、残存高12.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面篋ナデの後ミガキ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。

15	有段口縁直口壺	A. 口縁部径(11.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗橙褐色。F. 口縁部1/2弱。H. 覆土中。
16	脚付鉢	A. 口縁部径13.2、残存高13.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面指ナデ。台部外面ミガキ、内面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明橙褐色。F. 台端部欠失。H. 覆土中。
17	高 坏	A. 口縁部径16.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗橙褐色。F. 坏部2/3。H. 覆土中。
18	高 坏	A. 口縁部径16.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗橙褐色。F. 坏部1/2。G. 坏部外面煤付着。H. 覆土中。
19	高 坏	A. 口縁部径16.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一明橙褐色、内一暗赤褐色。F. 坏部3/4。G. 坏部内面に放射状暗文の痕跡あり。H. 覆土中。
20	高 坏	A. 口縁部径(17.3)、器高13.2、脚端部径13.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡橙褐色。F. 坏部1/2、脚部完形。G. 脚端部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
21	高 坏	A. 口縁部径(17.2)、残存高14.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 坏部2/3。H. 覆土中。
22	高 坏	A. 口縁部径(17.2)、残存高11.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚部外面ケズリの後ミガキ、内面ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
23	高 坏	A. 口縁部径(20.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部及び坏部内外面ナデの後ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 口縁部2/3。H. 覆土中。
24	有段高坏	A. 脚端部径18.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外一橙褐色。F. 脚端部3/4。H. 覆土中。
25	高 坏	A. 脚端部径12.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 脚部3/4。H. 覆土中。
26	坏	A. 口縁部径(13.2)、器高6.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後上半ナデ、内面篋ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
27	坏	A. 口縁部径12.8、器高6.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面篋ナデの後放射状暗文を施す。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
28	坏	A. 口縁部径(12.0)、器高5.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
29	坏	A. 口縁部径14.8、器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後雑なナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一黒茶褐色、内一暗茶褐色。F. 3/4。G. 外面全体に煤付着。H. 覆土中。
30	坏	A. 口縁部径14.2、器高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一暗褐色、内一明茶褐色。F. ほぼ完形。G. 外面に煤付着。H. 覆土中。
31	坏	A. 口縁部径(13.8)、残存高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後暗文を施す。D. 白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 口縁部1/2弱。G. 内面に赤彩の痕跡あり。H. 覆土中。
32	坏	A. 口縁部径13.6、器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 3/4。G. 体部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
33	坏	A. 口縁部径13.4、器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. ほぼ完形。G. 内面に黒斑あり。H. 覆土中。
34	坏	A. 口縁部径13.0、器高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明橙褐色。F. 1/2強。H. 覆土中。
35	坏	A. 口縁部径13.2、器高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
36	坏	A. 口縁部径13.0、器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
37	坏	A. 口縁部径12.6、器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 完形。G. 内外面に黒斑あり。H. 覆土中。

38	坏	A. 口縁部径12.2、器高5.8、底部径4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. ほぼ完形。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土中。
39	坏	A. 口縁部径8.2、器高3.2、底部径6.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面篋ナデの後放射状暗文。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一明褐色。F. 完形。H. 覆土中。

第3号土壙（第150図、図版68）

調査区西側の中央付近に位置し、北側を第33号住居跡と接している。平面形は、北西～南東方向に長い不整の楕円形ぎみの形態を呈している。規模は、北西～南東方向1.90m、北東～南西方向1.09mを測る。長軸方向は、N-85°-Wをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で26cmある。底面は、広く平坦であるが、細かな凹凸がある。覆土は、ロームブロックや焼土粒子を微量含む暗褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から縄文土器（中期後半）や土師器の坏や甕の破片が少量出土している。時期は、覆土の状態や出土土器から、おそらく奈良時代（8世紀）頃の所産と思われる。

第4号土壙（第150図、図版69）

調査区西側の中央付近に位置し、重複する第33号住居跡を切っている。平面形は、北西～南東方向に長い楕円形ぎみの形態を呈している。規模は、北西～南東方向1.10m、北東～南西方向90cmを測る。長軸方向は、N-65°-Wをとる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で45cmある。底面は、やや狭く丸みを帯びている。覆土は、ロームブロックや焼土ブロックを微量含む暗褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から土師器の坏や甕の破片が少量出土しただけである。本土壙の時期は、覆土の状態や出土土器から、おそらく奈良時代（8世紀）頃の所産と思われる。

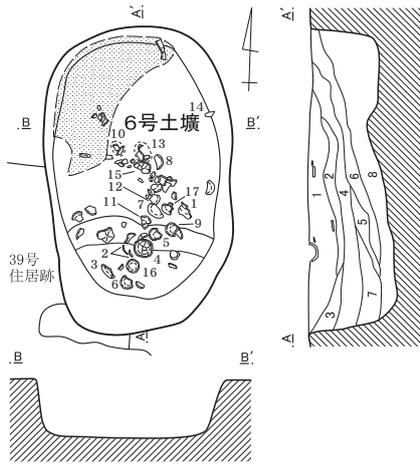
第5号土壙（第150図、図版69）

調査区中央部の北寄りに位置する。第73号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形は、若干南北方向に長くやや不整の円形を呈している。規模は、北西～南東方向1.00m、北東～南西方向1.07mを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。底面は、広くやや丸みを帯びている。覆土は、暗茶褐色土を主体にし、上面にはロームブロックを含む暗黄褐色土が部分的に被覆している。

出土遺物は、覆土中から縄文土器（中期後半）や土師器（古墳時代後期）の破片が少量出土しただけである。本土壙の時期は、覆土の状態からおそらく古代の所産と思われる。

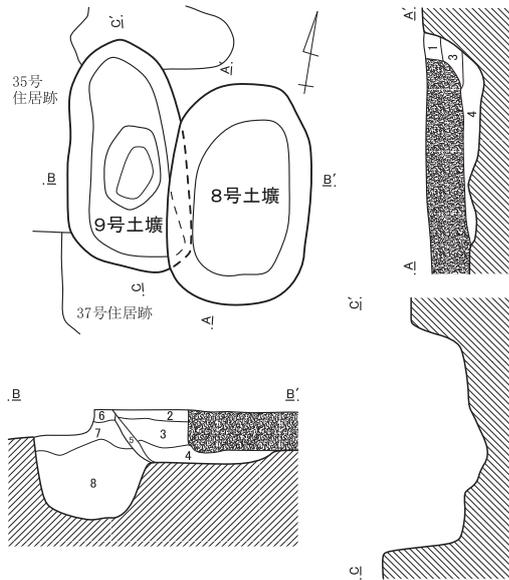
第6号土壙（第154図、図版70）

調査区西側の北寄りに位置し、重複する第39号住居跡を切っている。平面形は、南北方向に長い楕円形ぎみの形態を呈している。規模は、南北方向2.43m、東西方向1.44mを測る。長軸方向は、N-5°-Wをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で70cmある。底面は、広いがやや起伏と細かな凹凸がある。覆土は、焼土ブロック等を含む暗褐色土を主体にして



第6号土壌土層説明

- 第1層: 黒褐色土層(白色粒子を多量、焼土ブロック・焼土粒子を中量、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗褐色土層(褐色粘土ブロックを多量、焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗褐色土層(焼土ブロック・焼土粒子を中量、褐色粘土ブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗褐色土層(褐色粘土ブロック・ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層: 暗褐色土層(焼土ブロック・焼土粒子を中量、褐色粘土ブロック・ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第6層: 褐色土層(褐色粘土ブロックを主体とする。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第7層: 暗黄灰色土層(ロームブロック・ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第8層: 暗黄灰色土層(ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)



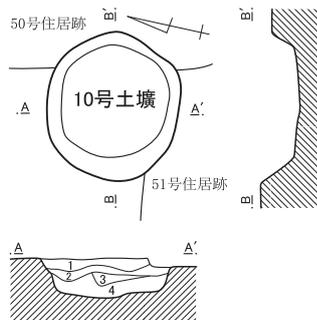
第8・9号土壌土層説明

〈第8号土壌〉

- 第1層: 暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を中量、焼土粒子・焼土ブロック・白色粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗褐色土層(白色粒子を中量、ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗褐色土層(ローム粒子・ロームブロック・白色粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗褐色土層(ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層: 黄褐色土層(ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

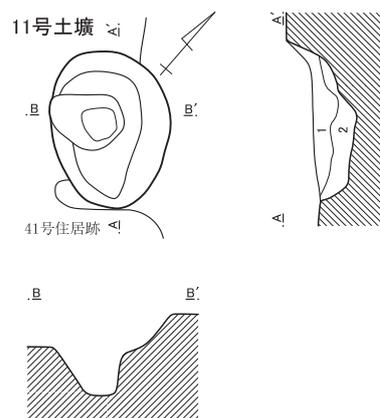
〈第9号土壌〉

- 第6層: 黒褐色土層(白色粒子を中量、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第7層: 暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子・白色粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第8層: 暗黄灰色土層(ロームブロック・ローム粒子を少量、白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)



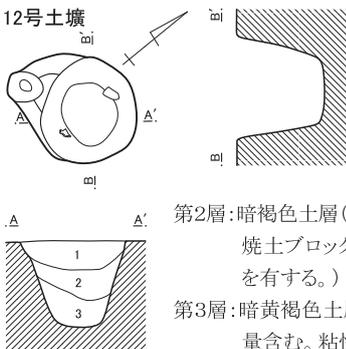
第10号土壌土層説明

- 第1層: 暗褐色土層(B軽石・ローム粒子を均一に、焼土粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 黒褐色土層(B軽石を均一に、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗褐色土層(ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗茶褐色土層(ロームブロックを均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量に含む。粘性に富み、しまりを有する。)



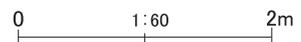
第11号土壌土層説明

- 第1層: 暗黄灰色土層(ローム粒子・ロームブロック・白色粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗黄灰色土層(ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)



第12号土壌土層説明

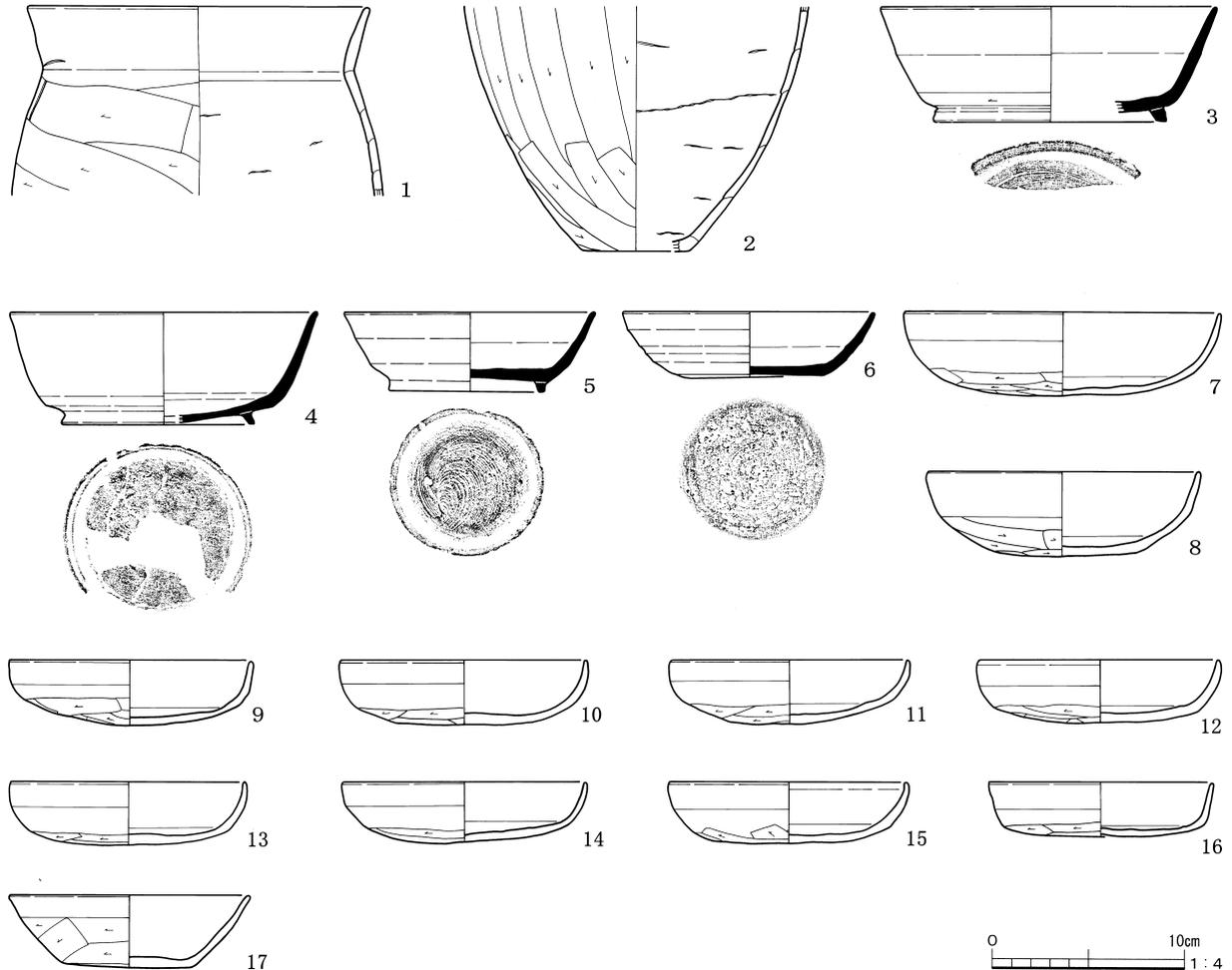
- 第1層: 黒褐色土層(白色粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗黄褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりはない。)



第154図 第6・8～12号土壌

いるが、多量の土器とともに褐灰色粘土塊の投棄も見られる。

出土遺物は、覆土中から多量の土師器の坏・甕と須恵器の高台付碗・坏などの破片が出土している。これらの土器は、覆土上半にまとめて投棄されたものであるが、その大半は土師器の坏で完形に近いものも多く見られる。本土壇の時期は、覆土の状態や出土遺物から、奈良時代後半(8世紀後半)頃の所産と考えられる。



第155図 第6号土壇出土遺物

第6号土壇出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(18.0)、残存高10.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-橙色、内-にぶい赤褐色。F. 口縁部~胴部片。H. 覆土中。
2	甕	A. 底部径5.7、残存高13.0。B. 粘土紐輪積み。C. 胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-黒褐色、内-褐色。F. 胴部~底部。G. 内面器表面剥離。H. 覆土中。
3	須恵器 高台付碗	A. 口縁部径(18.0)、器高6.1、底部径(12.2)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。体部下端~底部外面回転篋ケズリ。高台部回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-明褐色、内-明赤褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
4	須恵器 高台付碗	A. 口縁部径(16.2)、器高5.9、底部径10.1。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。高台部回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 3/4。G. 器表面は風化している。H. 覆土中。

5	須恵器 高台付坏	A. 口縁部径(13.3)、器高4.2、底部径8.2。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。高台部回転ナデ。D. 褐色粒、白色粒。E. 内外一灰黄色。F. 2/3。G. 器表面は風化している。H. 覆土中。
6	須恵器 坏	A. 口縁部径13.3、器高3.5、底部径7.5。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転篋ケズリ。D. 褐色粒、白色粒。E. 外一黄灰色、内一灰色。F. 2/3。G. 器表面は風化している。H. 覆土中。
7	坏	A. 口縁部径16.7、器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 2/3。H. 覆土中。
8	坏	A. 口縁部径14.2、器高4.5、底部径7.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 褐色粒、白色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 3/4。H. 覆土中。
9	坏	A. 口縁部径12.8、器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 2/3。H. 覆土中。
10	坏	A. 口縁部径(13.0)、器高3.4、底部径(7.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一橙色、内一にぶい橙色。F. 1/2。H. 覆土中。
11	坏	A. 口縁部径12.4、器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
12	坏	A. 口縁部径12.6、器高3.3、底部径10.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
13	坏	A. 口縁部径(12.3)、器高3.3、底部径(10.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/2。H. 覆土中。
14	坏	A. 口縁部径12.8、器高3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 完形。H. 覆土中。
15	坏	A. 口縁部径12.5、器高3.2、底部径10.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 3/4。H. 覆土中。
16	坏	A. 口縁部径11.7、器高2.9、底部径10.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
17	坏	A. 口縁部径(12.6)、器高3.8、底部径6.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい橙色、内一橙色。F. 1/2。H. 覆土中。

第7号土壌 (B2北側拡幅調査区、別途報告)

第8号土壌 (第154図、図版71)

調査区西側の北寄りに位置し、重複する第37号住居跡と第9号土壌を切っている。本土壌の上面は、重機による攪乱を受けており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。平面形は、南北方向に長い楕円形ぎみの形態を呈している。規模は、南北方向1.76m、東西方向1.25mを測る。長軸方向は、N-6°-Wをとる。壁は、ゆるやかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で42cmある。第9号土壌と重複する西側の壁面は、ロームブロックを主体とする黄褐色土(第5層)を貼り付けて貼壁にしている。底面は、広いがやや起伏と細かな凹凸がある。覆土は、ローム粒子や焼土粒子を含む暗褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から土師器甕の破片が少量出土しただけである。本土壌の時期は、覆土の状態からおそらく奈良時代以降(8世紀以降)の所産と思われる。

第9号土壙（第154図、図版71）

調査区西側の北寄りに位置し、重複する第35号住居跡・第37号住居跡・第8号土壙に切られている。平面形は、南北方向に長い楕円形ぎみの形態を呈している。規模は、南北方向1.82m、東西方向93cmを測る。長軸方向は、N-11°-Wをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で88cmある。底面は、広いがやや丸みをもつ。覆土は、ロームブロックやローム粒子を微量含む暗黄灰色土を主体にしている。

出土遺物は、縄文土器(中期後半)の破片が少量出土しただけである。本土壙の時期は、覆土の状態からおそらく縄文時代中期後半頃の所産と思われる。

第10号土壙（第154図、図版72）

調査区中央部に位置し、重複する第50号住居跡と第51号住居跡を切っている。平面形は、やや東西方向に長い不整の円形を呈している。規模は、北東～南西方向1.18m、北西～南東方向1.03mを測る。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で32cmある。底面は、広くやや丸みをもつ。覆土は、浅間山系B軽石を含む暗褐色土や暗茶褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から土師器の坏や甕の破片が少量出土しただけである。本土壙の時期は、覆土の状態から中世以降の所産と考えられる。

第11号土壙（第154図、図版72）

調査区西側の中央付近に位置し、重複する第41号住居跡に切られている。平面形は、北西～南東方向に長い楕円形を呈している。規模は、北西～南東方向1.24m、北東～南西方向94cmを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で65cmある。底面は、やや狭く丸みもち、中央部にピット状の掘り込みをもつ。覆土は、ロームブロックやローム粒子を微量含む暗黄灰色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から土師器の坏や甕の破片が少量出土しただけである。本土壙の時期は、覆土の状態や出土土器から、おそらく白鳳時代以降(7世紀後半以降)の所産と思われる。

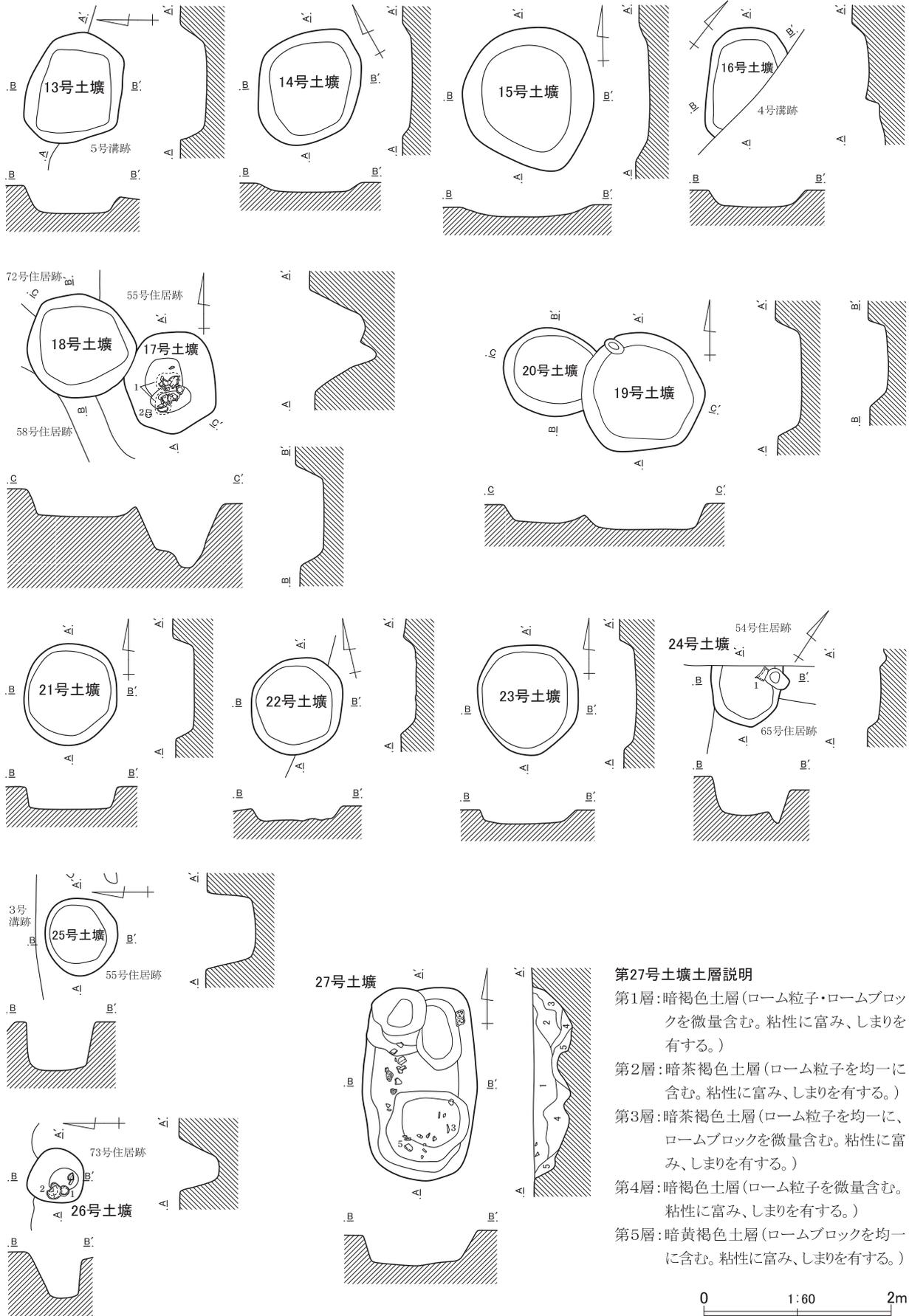
第12号土壙（第154図、図版73）

調査区西側の北寄りに位置する。平面形は、北西～南東方向に長い円形ぎみの形態を呈している。規模は、北西～南東方向84cm、北東～南西方向75cmを測る。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で82cmある。底面は、やや狭く若干丸みをもつ。覆土は、ロームブロックやローム粒子を微量含む暗褐色土や暗黄褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から土師器の甕・高坏・坏の破片が少量出土している。本土壙の時期は、覆土の状態や出土遺物から、古墳時代後期(5世紀後半)の所産と考えられる。

第13号土壙（第156図、図版73）

調査区西側の南寄りに位置し、重複する第5号溝跡に切られている。平面形は、東西方向に長い不整の四角形を呈している。規模は、北西～南東方向1.22m、北東～南西方向1.00mを測る。壁は、



第156図 第13～27号土壇

緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で30cmある。底面は、広く若干丸みをもつ。

遺物は、何も出土しなかった。本土壌の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、おそらく古代の所産と思われる。

第14号土壌（第156図、図版74）

調査区西側の南寄りに位置し、西側には第15号土壌がある。平面形は、北東～南西方向にやや長い不整形を呈している。規模は、北東～南西方向1.20m、北西～南東方向1.08mを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で10cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、浅間山系B軽石を含む暗灰褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から古墳時代後期の土師器甕の破片が出土しただけである。本土壌の時期は、覆土の状態から中世以降の所産と考えられる。

第15号土壌（第156図、図版74）

調査区西側の南寄りに位置し、東側には第14号土壌がある。平面形は、北西～南東方向にやや長い不整形を呈している。規模は、南北方向1.48m、東西方向1.40mを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で10cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、浅間山系B軽石を含む暗灰褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から土師器甕の破片が少量出土しただけである。本土壌の時期は、覆土の状態から中世以降の所産と考えられる。

第16号土壌（第156図、図版75）

調査区西側の南寄りに位置し、重複する第4号溝跡に遺構の東側半分を切られている。平面形は、残存する部分から推測すると、北西～南東方向に長く、コーナー部の丸みが強い隅丸長方形ぎみの形態であったと思われる。規模は、北西～南東方向が81cmまで、北東～南西方向が60cmまで測れる。長軸方向は、N-37°-Wをとる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で18cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、鉄斑・マンガン塊を含む暗褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から土師器の甕や坏の破片及び須恵器蓋の破片が少量出土しただけである。本土壌の時期は、覆土の状態や出土土器から、おそらく白鳳時代頃（7世紀末）の所産ではないかと思われる。

第17号土壌（第156図、図版76）

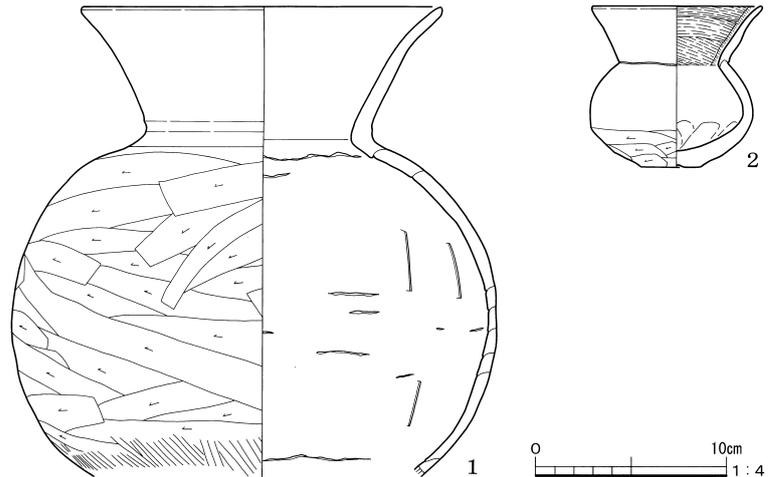
調査区の東側に位置し、重複する古墳時代前期の第68号住居跡を切り、古墳時代後期の第55号住居跡と近世後半以降の第18号土壌に切られている。平面形は、南北方向にやや長い不整形を呈している。規模は、南北方向1.09m、東西方向96cmを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは53cmある。底面は狭く、南側にピット状の掘り込みを伴う。覆土は、ローム粒子を含む暗褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から土師器の単純口縁壺(No 1)と小形丸底壺(No 2)及び高坏などの破片が出

土している。

本土壌の時期は、覆土の状態や出土遺物から、古墳時代中期前半（5世紀前半）の所産と考えられる。

本土壌は、北側にあるほぼ同時期と考えられる第72号住居跡の南側コーナー部付近にあたり、その位置からするとあるいは第72号住居跡の貯蔵穴であった可能性も考えられる。



第157図 第17号土壌出土遺物

第17号土壌出土遺物観察表

1	壺	A. 口縁部径19.0、残存高24.8。B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後ケズリ、内面篋ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 底部欠失。H. 覆土中。
2	小形丸底壺	A. 口縁部径9.0、器高8.5、底部径3.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面木口状工具によるナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ、内面指ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい橙色、内-橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。

第18号土壌（第156図、図版76）

調査区の東側に位置し、重複する第55号住居跡・第72号住居跡・第17号土壌を切っている。平面形は、東西方向にやや長い不整形円形を呈している。規模は、南北方向1.11m、東西方向1.16mを測る。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で30cmある。底面は広く平坦であるが、やや凹凸が見られる。覆土は、浅間山系A軽石を含む暗灰褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から縄文土器(中期後半)・土師器・須恵器の破片が少量出土しただけである。本土壌の時期は、覆土の状態から近世後半以降の所産と考えられる。

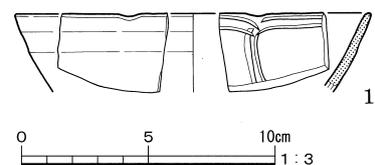
第19号土壌（第156図、図版77）

調査区中央部の南寄りに位置し、重複する第20号土壌を切っている。平面形は、やや不整形の円形を呈している。規模は、北西～南東方向1.34m、北東～南西方向1.30mを測る。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で28cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、浅間山系B軽石を含む暗褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から土師器や須恵器の破片が少量出土しただけである。本土壌の時期は、覆土の状態から中世以降の所産と考えられる。

第20号土壌（第156図、図版77）

調査区中央部の南寄りに位置し、重複する第19号土壌に切られている。平面形は、北西～南東方向に長い楕円形に似た形態を呈している。規模は、北東～南西方向93cm、北西～南東方向は87cmまで測れる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの



第158図 第20号土壌出土遺物

深さは最高で23cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、浅間山系B軽石を含む暗褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から土師器や龍泉窯系青磁碗の破片（第158図No1）が少量出土しただけである。本土壌の時期は、覆土の状態や出土遺物から中世以降の所産と考えられる。

第20号土壌出土遺物観察表

1	龍泉窯系 青磁碗	A. 口縁部径(14.0)、残存高3.1。C. 内外面回転ナデの後施釉。内面に文様あり。D. 密で硬い。E. 胎土-灰色、釉-灰オリーブ色。F. 口縁部片。G. 輪花碗。H. 覆土中。
---	-------------	--

第21号土壌（第156図、図版77）

調査区中央部の南寄りに位置し、北西側には第22号土壌がある。平面形は、若干南北方向に長い円形ぎみの形態を呈している。規模は、南北方向1.10m、東西方向99cmを測る。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で23cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、浅間山系B軽石やローム粒子を含む暗褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から縄文土器(中期後半)や土師器の破片が少量出土しただけである。本土壌の時期は、覆土の状態から中世以降の所産と考えられる。

第22号土壌（第156図、図版78）

調査区中央部の南寄りに位置し、南東側には第21号土壌がある。平面形は、若干歪んだ不整の円形を呈している。規模は、北東～南西方向1.04m、北西～南東方向97cmを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で16cmある。底面は、広く平坦であるが、細かな凹凸が見られる。覆土は、浅間山系B軽石を含む暗褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から土師器と須恵器の破片が少量出土しただけである。本土壌の時期は、覆土の状態から中世以降の所産と考えられる。

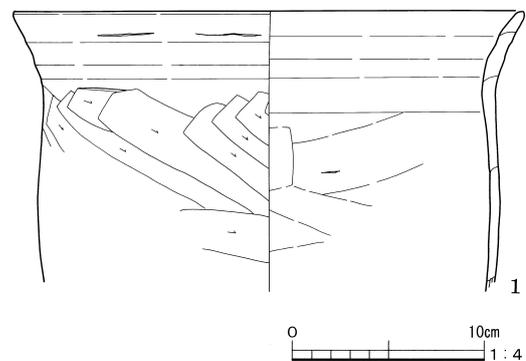
第23号土壌（第156図）

調査区中央部の南寄りに位置し、西側は第28号住居跡と接している。平面形は、南北方向に長い不整円形を呈している。規模は、南北方向1.18m、東西方向1.07mを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で18cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、浅間山系B軽石を含む暗褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から土師器甕の破片が少量出土しただけである。本土壌の時期は、覆土の状態から中世以降の所産と推測される。

第24号土壌（第156図、図版78）

調査区東側の中央付近に位置し、重複する第54号住居跡・第65号住居跡に切られている。平面形は、残存



第159図 第24号土壌出土遺物

する部分から推測すると、北西～南東方向に長い楕円形ぎみの形態であったと思われる。規模は、北東～南西方向76cm、北西～南東方向は64cmまで測れる。長軸方向は、N-34° -Wをとる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で42cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、ローム粒子やロームブロックを含む暗褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から土師器の大形甑や坏の破片が少量出土しただけである。本土壌の時期は、覆土の状態や出土遺物から、白鳳時代末(7世紀末)頃の所産と考えられる。

第24号土壌出土遺物観察表

1	大形甑	A. 口縁部径(26.8)、残存高14.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窠ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい赤褐色、内-黒色。F. 口縁部～胴部片。H. 覆土中。
---	-----	---

第25号土壌 (第156図、図版79)

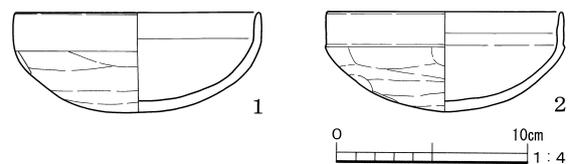
調査区の東側に位置し、重複する第55号住居跡に切られている。平面形は、東西方向が若干長い円形ぎみの形態を呈している。規模は、東西方向85cm、南北方向78cmを測る。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で52cmある。底面は、広く平坦であるが、若干丸みをもつ。覆土は、ローム粒子やロームブロックを含む黒褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から土師器の甕・高坏・坏の破片が少量出土しただけである。本土壌の時期は、覆土の状態や出土土器から、おそらく古墳時代後期(5世紀後半)頃の所産と思われる。

第26号土壌 (第156図、図版79)

調査区中央部の北寄りに位置する。第73号住居跡と重複しているが、相互の新旧関係は明確ではない。平面形は、やや不整の歪んだ隅丸方形を呈している。規模は、北東～南西方向60cm、北西～南東方向62cmを測る。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で50cmある。底面は、やや狭く丸みをもつ。覆土は、ローム粒子を含む暗褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から完形に近い土師器の坏や破片が少量出土している。本土壌の時期は、覆土の状態や出土遺物から、古墳時代後期初頭(5世紀末)頃の所産と考えられる。



第160図 第26号土壌出土遺物

第26号土壌出土遺物観察表

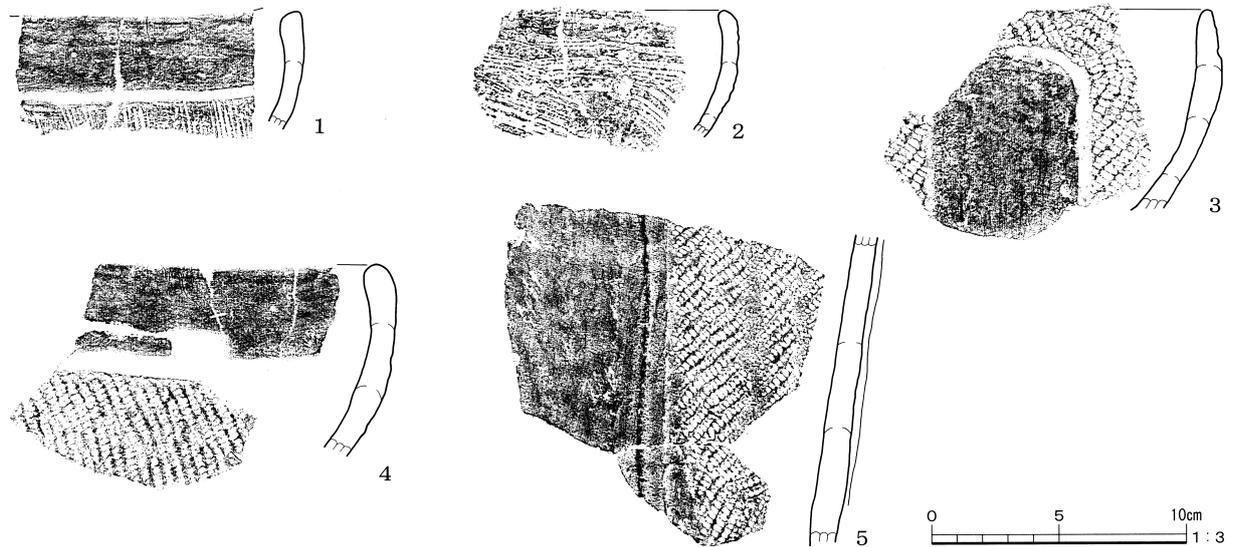
1	坏	A. 口縁部径12.8、器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面窠ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 完形。H. 覆土中。
2	坏	A. 口縁部径12.5、器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面窠ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 2/3。H. 覆土中。

第27号土壌 (第156図、図版80)

調査区東側の中央付近に位置し、重複する第55号住居跡・第59号住居跡に上面を切られ、第69号住居跡を切っている。平面形は、コーナー部の丸みが強い隅丸長方形ぎみの形態を呈している。規模は、南北方向2.08m、東西方向1.22mを測る。長軸方向は、N-2° -Eをとる。壁は、緩やかに

傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で42cmある。底面は広いが、かなり凹凸がある。覆土は、ローム粒子を含む暗茶褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から比較的多くの縄文土器(中期後半)の破片や拳大の自然石が3個出土している。本土壌の時期は、覆土の状態や出土遺物から、縄文時代中期末頃の所産と考えられる。



第 161 図 第 27 号土壌出土遺物

第27号土壌出土遺物観察表

1	深	鉢	B. 粘土紐輪積み。C. 波状口縁を呈するものと想定される。外面は口縁部無文、口縁部と体部を丸棒状工具による横位幅広沈線で隔した後、体部に条線を施す。内面は横位の磨き。D. 砂粒、チャート、黒色鈹物。E. 外-黄灰色。F. 口縁部～体部片。H. 覆土中。
2	深	鉢	B. 粘土紐輪積み。C. 平縁口縁。外面は横位・斜位の条線を施す。内面は篋状工具による横位の撫で。D. 砂粒、チャート、片岩粒。E. 外-暗灰黄色。F. 口縁部片。H. 覆土中。
3	深	鉢	B. 粘土紐輪積み。C. 平縁口縁。外面は0段多条RL縄文施文後丸棒状工具による逆「U」字状の幅広沈線を施す、沈線内は磨消縄文。内面は横位の磨き。D. 砂粒、チャート、片岩粒、黒色鈹物。E. 外-にぶい黄褐色。F. 口縁部片。H. 覆土中。
4	深	鉢	B. 粘土紐輪積み。C. 平縁口縁。外面は口縁部無文、体部文様帯に0段多条RL縄文を横位施文後口縁部と体部間に丸棒状工具による横位幅広沈線を施す。内面は横位の磨き。D. 砂粒、チャート、片岩粒、黒色鈹物。E. 外-黄褐色。F. 口縁部～体部片。H. 覆土中。
5	深	鉢	B. 粘土紐輪積み。C. 外面は0段多条RL縄文を縦位施文後縦位隆帯貼付け。内面はタール状の付着物顕著。D. 砂粒、チャート、黒色鈹物。E. 外-明黄褐色。F. 体部片。H. 覆土中。

5. 道路状遺構

第1号道路状遺構(第162図、図版80)

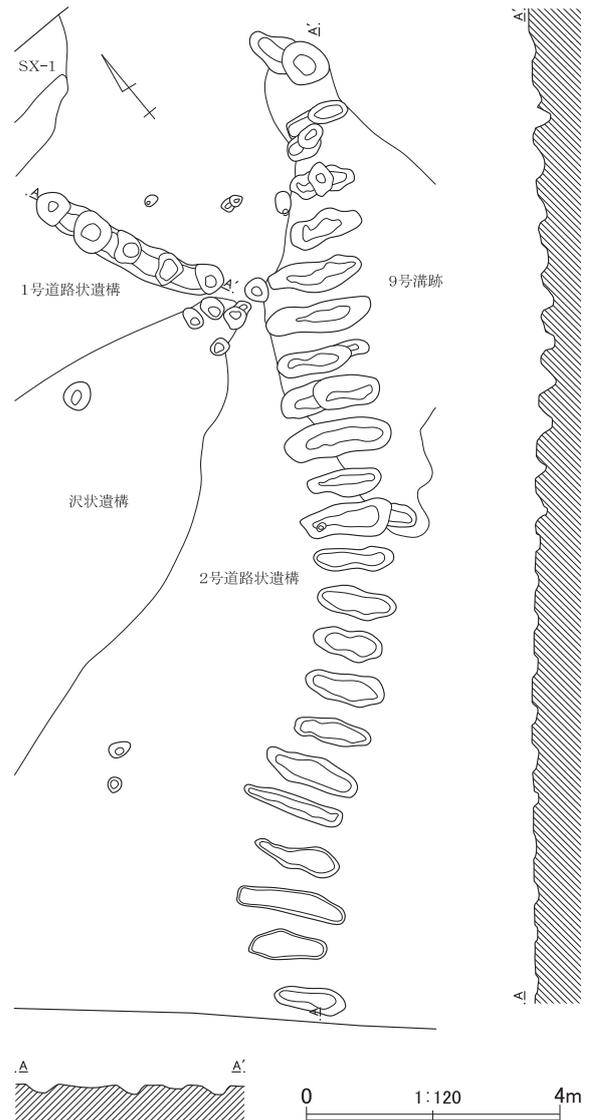
調査区の西端付近に位置し、重複する沢状遺構を切っている。道の形態は、幅50cm前後で深さ5cm程度の浅い溝の中に、長さ50cm～60cm・深さ15cm程度の不整円形の落ち込みが6個等間隔で列状に並んでいる。方向は、北西から南東方向に向き、北側は性格不明のSX-1につながり、南側は第2号道路状遺構と合流している。覆土は、砂を主体に小石を少量含む茶褐色土である。

出土遺物は、覆土中から縄文土器(中期後半)や土師器の破片が少量出土している。これらの土器片は、古墳時代後期(5世紀後半)のものが主体で、7世紀後半以降のものはほとんどない。本道路状遺構の時期は、覆土の状態や出土遺物から、白鳳時代以前(7世紀後半以前)の所産と考えられる。

第2号道路状遺構(第162図、図版80)

調査区の西端付近に位置し、重複する沢状遺構を切っている。道の形態は、長さ1.00m~1.70m、幅40cm~60cm、深さ5cm~20cmの溝状の掘り込みが、調査区内で21個ほぼ等間隔で横に列状に並んでいる。方向は、地形的には等高線とほぼ直交する北東から南西方向に向いているが、調査区内ではほぼ平坦である。この溝状の掘り込みは、やや蛇行ぎみの配列で、北東側に行くほどその幅が狭くなっている。覆土は、砂を主体に小石を少量含む茶褐色土である。

出土遺物は、覆土中から古墳時代後期(5世紀後半)の土器の破片が少量出土している。本道路状遺構の時期は、第1号道路状遺構と同様に明確ではないが、同じ白鳳時代以前(7世紀後半以前)の所産と考えられる。



第162図 第1・2号道路状遺構

6. 溝 跡

第1号溝跡(第10図、図版81)

調査区の東端に位置する。本溝跡は、ほ場整備以前に北側畑地と南側水田部との境を走っていた水路で、調査区内では、地形の等高線に沿うように、南西から北東方向に向いてほぼ直線的な流路をとっている。溝の北側と南側との確認面上での比高差は、約40cmある。2~3本の溝が並走しているが、これらは同一溝の掘り返しによるものと考えられ、いずれも覆土中には砂が堆積している。規模は、溝の上幅が推定で2m、底面の下幅は北側の溝が16cm~32cm、南側の溝が38cm~68cmを測る。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは北側で最高51cmある。底面は狭く平坦で丸みを持ち、全体的に細かな凹凸が見られる。

出土遺物は、覆土中から古墳時代の土師器を主体とする土器片が多数出土している。これらの土器片は、第1号溝跡周辺の黒色包含層から混入したもので、本溝跡に直接伴うものではない。本溝跡の時期は、近世後半~現代である。

第2号溝跡(第10図、図版81)

調査区の東端に位置する。調査区内では、地形の等高線に沿うように、南西から北東方向に向いてほぼ直線的な流路をとり、南側の第1号溝跡と並走している。規模は、溝の上幅が58cm~76cm、底面の下幅は35cm~56cmを測る。断面の形態は、逆台形の箱堀に近い。壁は直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で35cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、黒灰色土を主体とし、砂は含まない。

出土遺物は、覆土中から古墳時代の土師器を主体とする土器片が多数出土している。これらの土器片は、第1号溝跡と同様に本溝跡が切っている黒色包含層から混入したもので、本溝跡に直接伴うものではない。本溝跡の時期は、近世後半以降である。

第3号溝跡(第163図、図版82)

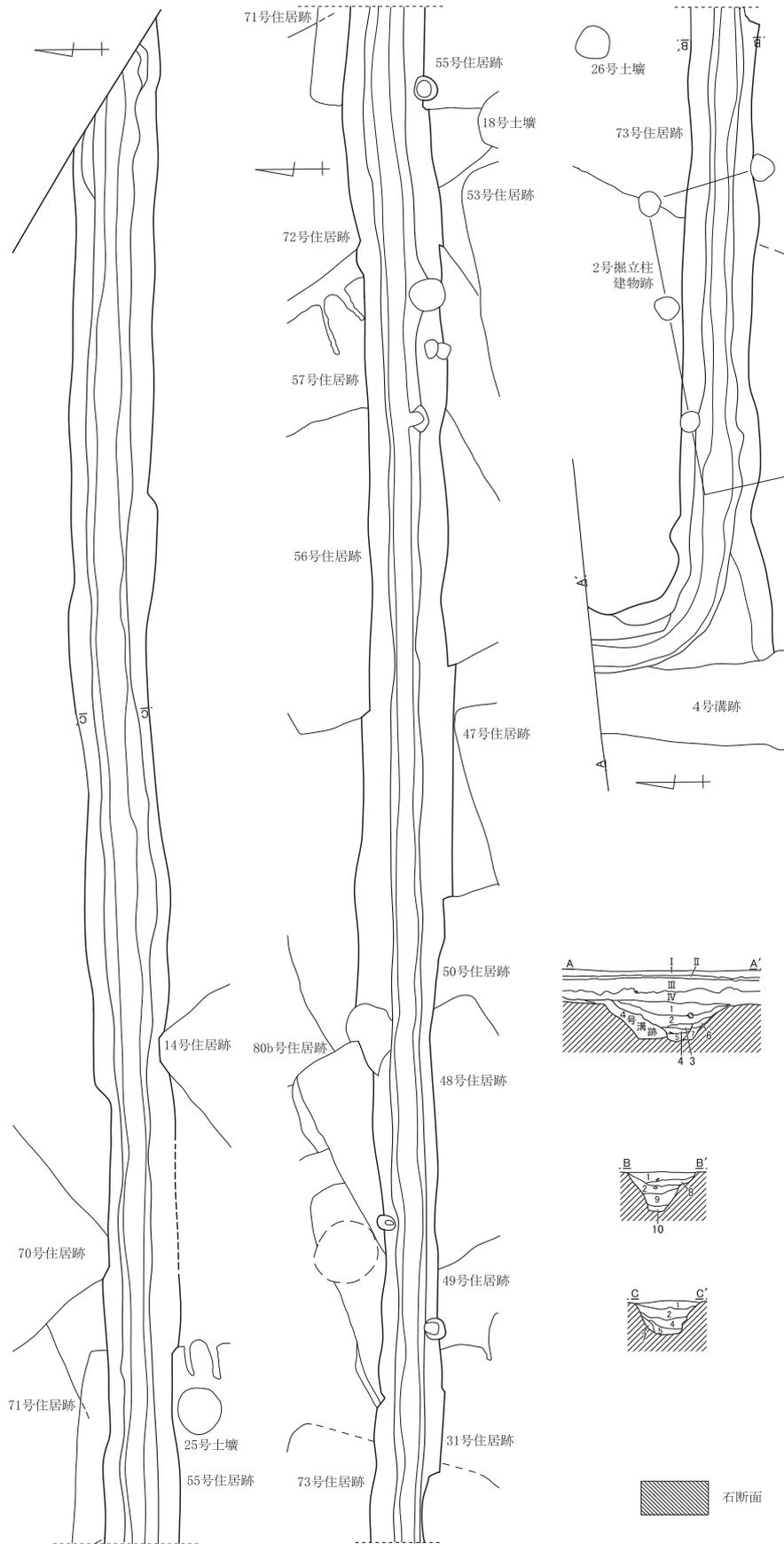
調査区の中央部から東側の北寄りに位置し、重複する古墳時代から平安時代の多数の住居跡及び中世の第2号掘立柱建物跡と第4号溝跡を切っている。本溝跡は、調査区中央部北端の南北方向に流路をとる第4号溝跡と重複する部分から、ほぼ90°の角度で東西に方向を変えて、直線的な流路をとっている。規模は、溝の上幅が1.00m~1.76m、底面の下幅が23cm~50cmを測る。断面の形態は、V字形の薬研堀である。壁は、上半は直線的で緩やかに傾斜して開き、下半は上半と方向を変えて垂直ぎみに落ち込んでいる。底面は、狭く平坦であるが、全面に掘削時の工具痕である鋤先痕が、規則的に列状になって残っている。確認面からの深さは、63cm~82cmある。調査区内における東西両端での溝底面の比高差は約30cmあり、東側に向かって徐々に深くなっている。

出土遺物は、覆土中から古墳時代から平安時代の多量の土器片とともに、少量ながら中世の龍泉窯系青磁碗・常滑窯系甕・山茶碗窯系片口鉢・在地産片口鉢等の破片が出土している(第164図)。本溝跡の時期は、覆土の状態や出土遺物から中世の所産と考えられる。

本溝跡は、その形状からおそらく屋敷の敷地を圍繞する区画堀の可能性が高いと考えられる。本溝跡の流路は、ほ場整備前の旧地割りにその痕跡は見られないが、東西方向の直線的な流路部分は、児玉条里から連続して繋がる西側の今井条里や四方田条里の条里形地割りの坪線の延長とほぼ一致しており、現在では地表面の条里形地割りが不明瞭になっている本遺跡周辺も、本溝跡が掘削された中世には屋敷の敷地の一部が周辺の条里形地割りに規制されていたことが窺える。なお、調査区中央部の南北方向の流路部分については、条里形地割りの方向にほぼ一致しているが、条里坪線の位置とは一致していないようである。

第3号溝跡出土遺物観察表

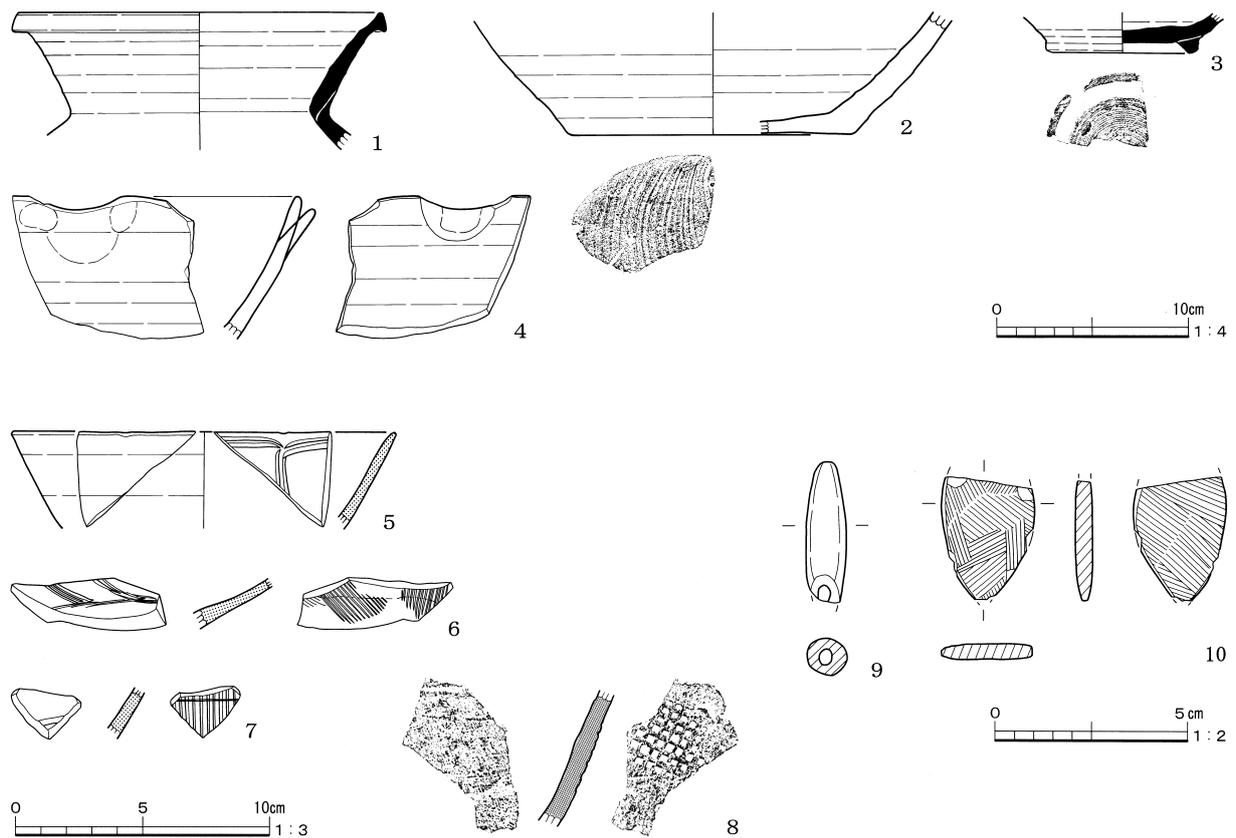
1	須恵器壺	A. 口縁部径(19.0)、残存高7.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-黒色、内-黄灰色。F. 口縁部片。G. 内面に斑点状の自然釉がかかる。H. 覆土中。
2	在地産片口鉢	A. 底部径(15.0)、残存高6.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-黄灰色、内-黄灰色。F. 底部片。G. 須恵質。H. 覆土中。
3	須恵器高台付碗	A. 底部径(8.0)、残存高2.1。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 内外-黄灰色。F. 底部片。H. 覆土中。
4	在地産片口鉢	B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-黄灰色。F. 口縁部片。G. 外面片口部に指頭痕。断面割れ口に黒色付着物あり。G. 須恵質。H. 覆土中。
5	龍泉窯系青磁碗	A. 口縁部径(15.0)、残存高3.8。C. 内外面回転ナデの後施釉。内面文様あり。D. 密で硬い。E. 器肉-黄灰色、釉-灰オリーブ色。F. 口縁部片。G. 輪花碗。H. 覆土中。



第3号溝跡土層説明

- 第I層: 灰色土層 (A軽石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第II層: 灰色土層 (A軽石を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第III層: 暗褐色土層 (A軽石・ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第IV層: 暗灰色土層 (A軽石・ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第1層: 暗褐色土層 (B軽石・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗褐色土層 (ローム粒子を中量、B軽石を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層: 暗褐色土層 (ローム粒子を中量、B軽石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層: 暗褐色土層 (ローム粒子を中量、B軽石を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層: 暗褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層: 暗褐色土層 (ローム粒子を中量、B軽石を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第7層: 暗黄褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第8層: 暗黄褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を多量に、B軽石を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第9層: 暗褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第10層: 暗褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第163図 第3号溝跡

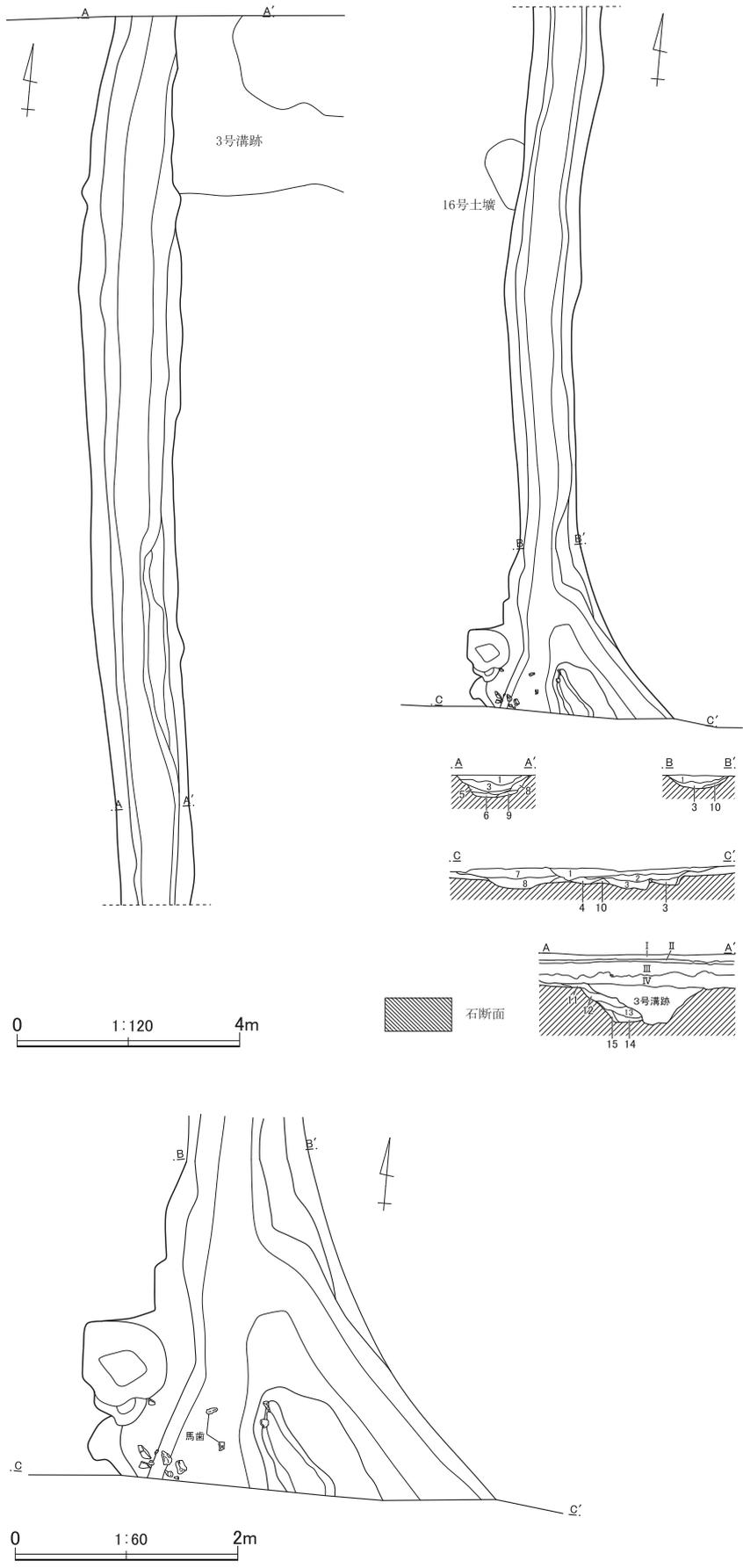


第 164 図 第 3 号溝跡出土遺物

6	同安窯系 青磁碗	B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデの後、密な櫛歯状工具により施文。外面上位施釉、内面施釉。D. 密で硬い。E. 胎土-黄灰色、釉-オリーブ黄色。F. 体部片。H. 覆土中。
7	龍泉窯系 青磁碗	B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。内外面施釉。D. 密で硬い。E. 胎土-黄灰色、釉-灰オリーブ色。F. 体部片。H. 覆土中。
8	常滑窯系 甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-灰黄色、内-灰色。F. 胴部片。G. 外面に格子目状の押印文を施す。H. 覆土中。
9	土 錘	A. 残存長3.7、最大幅1.0、厚さ0.4、残量3.93 g。C. ナデ。D. 黒色粒、白色粒。F. 端部欠損。H. 覆土中。
10	石製模造品 (剣形)	A. 残存長3.1、最大幅2.5、厚さ0.5、残量5.13 g。C. 表裏面とも丁寧な研磨。D. 片岩。F. 上端部欠損。H. 覆土中。

第 4 号溝跡 (第 165 図、図版 83・84)

調査区の中央部に位置し、重複する第 16 号土壌を切り、第 3 号溝跡に切られている。調査区内では、地形の等高線に直交して、ほぼ南北方向に直線的な流路をとっているが、調査区南端で溝が 1 条東側に向かって分岐している。規模は、溝の上幅が 113cm~184cm、底面の下幅が 35cm~68cm を測る。断面の形態は、逆台形の箱堀に近い。壁は、基本的に上半は直線的で緩やかに傾斜して開き、下半は上半と方向を変えて垂直ぎみに落ち込んでいる。底面は、広く平坦であるが、小さな浅い凹凸が顕著に見られる。確認面からの深さは、24cm~61cm ある。調査区内における南北両端での溝底面の比高差は約 10cm あり、南側に向かって徐々に深くなっている。本溝跡も、重複する第 3 号溝跡の地割りとの関係から、屋敷の敷地を区画する溝の一部と考えられる。

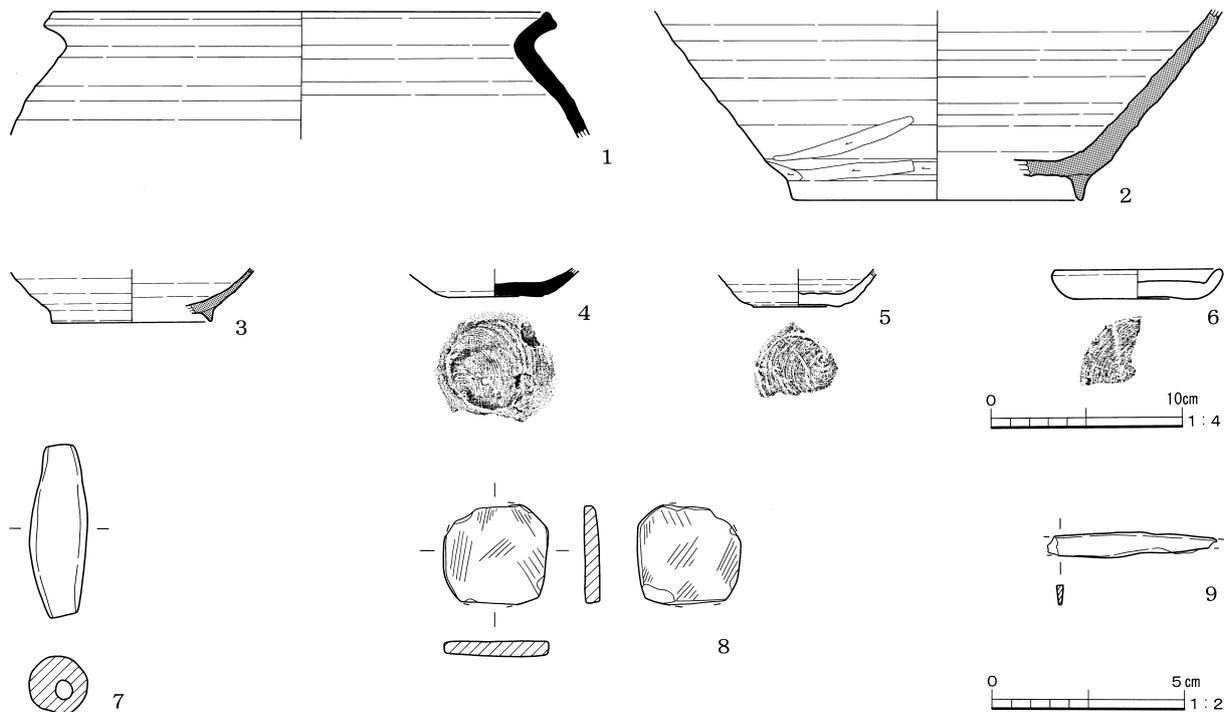


第4号溝跡土層説明

- 第1層:暗褐色土層(B軽石を多量、
橙褐色粒子を中量、ローム
粒子を微量含む。粘性に富
み、しまりを有する。)
- 第2層:暗褐色土層(B軽石・橙褐色
粒子を中量含む。粘性はな
く、しまりを有する。)
- 第3層:暗褐色土層(B軽石・橙褐色
粒子を少量含む。粘性に富
み、しまりを有する。)
- 第4層:暗褐色土層(B軽石を中量、
橙褐色粒子を少量含む。粘
性に富み、しまりを有する。)
- 第5層:暗褐色土層(B軽石・ローム
粒子・焼土粒子を微量含む。
粘性に富み、しまりを有す
る。)
- 第6層:暗褐色土層(B軽石・ローム
粒子を微量含む。粘性に富
み、しまりを有する。)
- 第7層:暗褐色土層(B軽石を中量、
橙褐色粒子を少量含む。粘
性に富み、しまりを有する。)
- 第8層:暗褐色土層(B軽石を多量、
橙褐色粒子を中量含む。粘
性に富み、しまりを有する。)
- 第9層:暗黄褐色土層(ローム粒子
を中量含む。粘性に富み、
しまりを有する。)
- 第10層:暗褐色土層(ロームブロック・
ローム粒子・焼土ブロックを
微量含む。粘性に富み、し
まりを有する。)
- 第11層:暗褐色土層(B軽石・ローム
ブロック・ローム粒子を少量
含む。粘性に富み、しまりを
有する。)
- 第12層:暗褐色土層(ローム粒子を
中量、ロームブロック・B軽
石を少量含む。粘性に富み、
しまりを有する。)
- 第13層:暗褐色土層(B軽石・ローム
粒子を中量、ロームブロック
を少量、焼土ブロックを微量
含む。粘性に富み、しまりを
有する。)
- 第14層:暗褐色土層(B軽石・ローム
ブロック・ローム粒子を少量、
焼土粒子を微量含む。粘性
に富み、しまりを有する。)
- 第15層:暗褐色土層(ロームブロック・
ローム粒子を中量、B軽石
を微量含む。粘性に富み、
しまりを有する。)

第165図 第4号溝跡

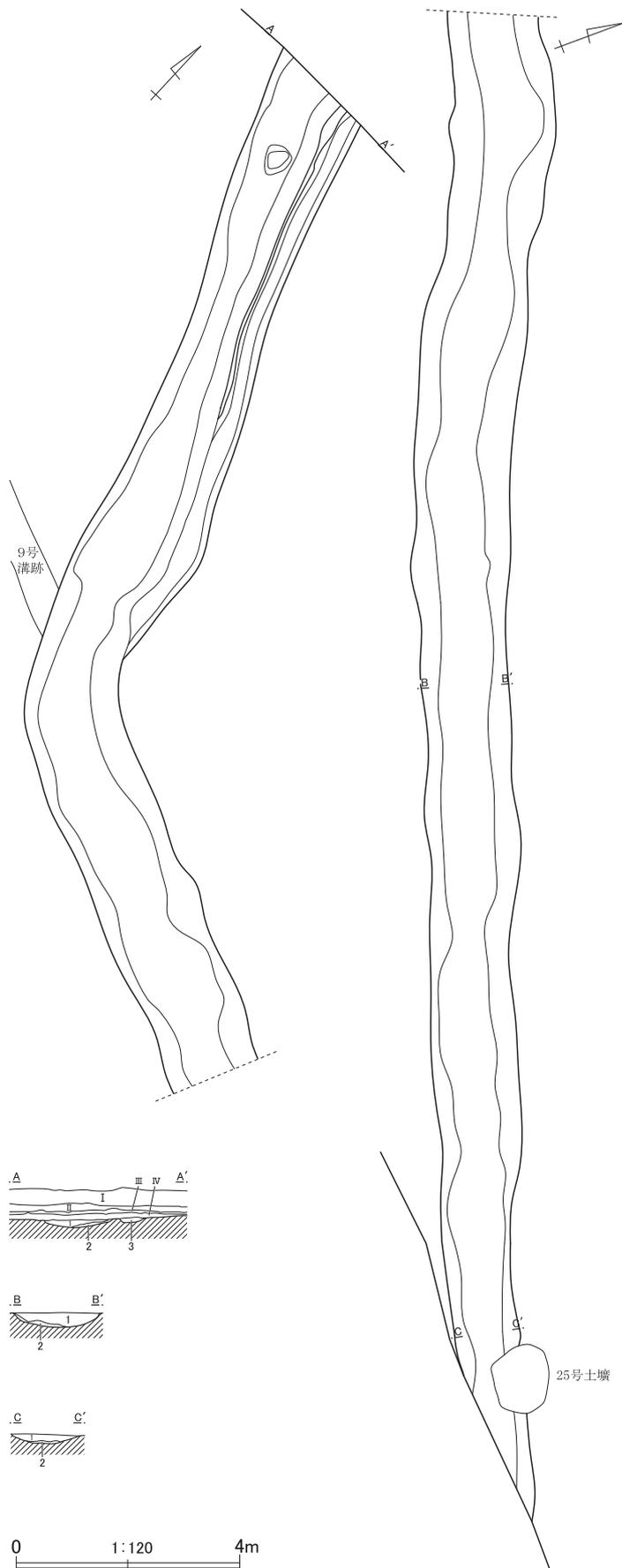
出土遺物は、覆土中から古墳時代中・後期を主体とする多量の土器片とともに、少量ながら中世のかわらけや山茶碗窯系片口鉢などの破片が出土している(第166図)。土器以外では、鉄器の破片や馬歯(図版116)及び獣骨の一部が覆土中から出土している。本溝跡の時期は、覆土の状態や出土遺物から中世の所産と考えられる。



第 166 図 第 4 号溝跡出土遺物

第 4 号溝跡出土遺物観察表

1	須恵器甕	A. 口縁部径(26.0)、残存高6.7。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 口縁部片。H. 覆土中。
2	山茶碗窯系片口鉢	A. 底部径(15.2)、残存高10.0。B. 粘土紐積み上げ。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。体部外面下端篋ケズリ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 内外-灰白色。F. 底部片。H. 覆土中。
3	灰釉陶器高台付碗	A. 底部径(8.4)、残存高2.8。B. 粘土紐積み上げ。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。D. 緻密。E. 外-灰黄色、内-灰白色。F. 底部片。G. 底部は無釉。H. 覆土中。
4	須恵器坏	A. 底部径5.0、残存高1.5。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 褐色粒、白色粒。E. 外-灰黄色、内-黄灰色。F. 底部。H. 覆土中。
5	かわらけ	A. 底部径(4.6)、残存高2.0。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 褐色粒、白色粒。E. 外-にぶい黄橙色、内-にぶい橙色。F. 1/3。H. 覆土中。
6	かわらけ	A. 口縁部径(6.0)、器高1.6、底部径(6.0)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 1/4。H. 覆土中。
7	土 錘	A. 残存長2.6、最大幅2.7、厚さ0.4、残量6.03g。C. 表裏面とも研磨。D. 黒色粒、白色粒。F. 一部欠損。H. 覆土中。
8	石 製 品	A. 残存長3.1、最大幅2.5、厚さ0.5、残量5.13g。C. 表裏面とも丁寧な研磨。D. 片岩。F. 一端部欠損。G. 未製品か。H. 覆土中。
9	鉄 製 品 (鉄 鏃)	A. 残存長4.5、最大幅0.6、最大厚0.15、残重2.18g。F. 両端部欠失。H. 覆土中。



第5号溝跡土層説明

- 第Ⅰ層：灰色土層（灰色粘土ブロックを主体に、A軽石を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第Ⅱ層：褐灰色土層（褐灰色粘土ブロックを主体に、A軽石を多量、B軽石を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第Ⅲ層：褐灰色土層（褐灰色粘土ブロックを主体に、A軽石・マンガン粒子を多量、B軽石を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第Ⅳ層：褐灰色土層（褐灰色粘土ブロックを主体に、白色粒子を中量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第Ⅴ層：黄褐色土層（マンガン粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第1層：暗褐色土層（暗褐色粘土ブロックを主体に、白色粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（暗褐色粘土ブロックを主体に、ロームブロック・ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第167図 第5号溝跡

第5号溝跡(第167図、図版85)

調査区の西側に位置し、重複する第9号溝跡と第13号土壇を切っている。調査区内では、地形の等高線と並走するように、北西から南東方向に流路をとっている。規模は、溝の上幅が1.00 m～1.92 m、底面の下幅が36cm～1.10mを測る。断面の形態は、逆台形状の箱堀に近い。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、底面は広く平坦である。確認面からの深さは、最高で32cmある。調査区内における北西端と南東端の溝底面の比高差は約20cmあり、南東側に向かって徐々に深くなっている。

出土遺物は、覆土中から古墳時代の土器片が多量に出土している。本溝跡の時期は、覆土の状態や出土遺物から、古墳時代中期～後期初頭頃の可能性があると思われる。

第6号溝跡(第10図)

調査区の西側に位置し、第7号溝跡を切っている。調査区内では、北西から南東方向に弓状に湾曲した流路をとっている。本溝跡は、ほ場整備前に存在した道路の地割りと一致するもので、おそらく道路の側溝的性格の溝と考えられる。規模は、溝の上幅が50cm～1.11m、底面の下幅が28cm～80cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は広く平坦である。確認面からの深さは、最高で10cmある。調査区内における北西端と南東端の溝底面の比高差は7 cmあり、南東側に向かって徐々に深くなっている。覆土中には、浅間山系A軽石を含んでいる。

出土遺物は、覆土中から土師器の破片とともに、近世の播鉢や内耳鍋の破片が少量出土している。本溝跡の時期は、覆土の状態や出土遺物から近世後半以降の所産と考えられる。

第7号溝跡(第10図)

調査区の西側に位置し、第6号溝跡に切られている。流路は、北西から南東方向に弓状に湾曲した形態をとっている。規模は、溝の上幅が50cm～1.06m、底面の下幅が28cm～67cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は広く平坦である。確認面からの深さは、最高で9 cmある。調査区内における北西端と南東端の溝底面の比高差は5 cmあり、南東側に向かって徐々に深くなっている。覆土中には、浅間山系A軽石を含んでいる。

出土遺物は、覆土中から土師器の破片が少量出土しただけである。本溝跡の時期は、覆土の状態から近世後半以降の所産と考えられる。

第8号溝跡(第168図)

調査区の南西端に位置する。流路は、北西から南東方向にやや弓状に湾曲した形態をとっており、おそらく地形の等高線と並走していたものと思われる。規模は、溝の上幅が27cm～47cm、底面の下幅が20cm～32cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は広く平坦である。確認面からの深さは、最高で5 cmある。調査区内における北西端と南東端の溝底面の比高差はほとんどない。

出土遺物は、覆土中から土師器甕の破片が出土しただけである。本溝跡の時期は、覆土の状態からおそらく古墳時代頃の所産ではないかと思われる。

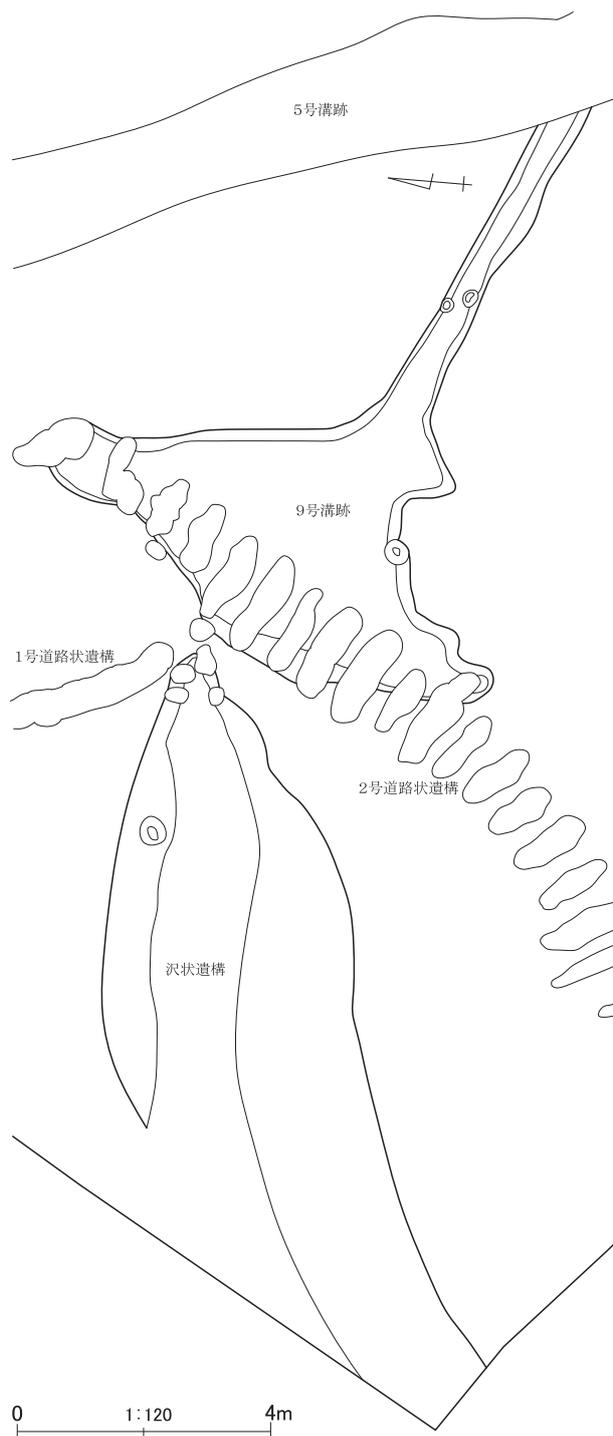


第 168 図 第 8 号溝跡

第 9 号溝跡 (第 169 図)

調査区の西側に位置し、重複する第 5 号溝跡や第 1・2 号道路状遺構に切られている。流路は、南東から北西方向に直線的に向いており、北西側は沢状遺構に繋がっている。規模は、溝の上幅が 50cm~66cm、底面の下幅が 27cm~38cm を測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は広く平坦である。確認面からの深さは、最高で 6cm ある。溝底面の比高差は、ほとんどない。

出土遺物は、覆土中から古墳時代中期の土器片が少量出土しただけである。本溝跡の時期は、重複関係や覆土の状態及び出土遺物から、おそらく古墳時代頃の所産ではないかと思われる。



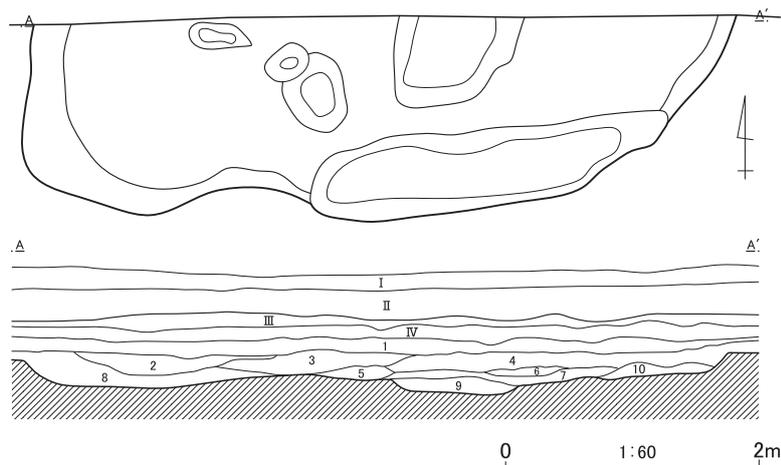
第 169 図 第 9 号溝跡

7. 性格不明遺構

調査区の北西端に位置する。調査区内では遺構の南側だけが検出されただけであるため、遺構の全容は不明である。規模は、東西方向5.54m、南北方向は1.65mまで測れる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは12cm～27cmある。底面は、広くやや凹凸が見られ、複数の溝状やピット状の落ち込みがある。覆土は、砂粒を含む黄褐色土を主体とする。

出土遺物は、覆土中から土器の破片が少量出土しただけである。本遺構の性格は残念ながら分からないが、覆土の状態から南側の第1号道路状遺構と関係する可能性もあり、おそらく道路状遺構と同じ古代の所産と思われる。

(恋河内昭彦)



SX—1土層説明

- 第1層: 暗褐色土層(橙褐色粒子・白色粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層: 暗黄灰色土層(橙褐色粒子を多量、白色粒子を中量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第3層: 暗黄灰色土層(橙褐色粒子を中量、白色粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第4層: 暗黄褐色土層(橙褐色粒子を中量、白色粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第5層: 黄褐色土層(橙褐色粒子を中量、白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第6層: 暗黄褐色土層(マンガン粒子を中量、橙褐色粒子・白色粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第7層: 黄褐色土層(橙褐色粒子・マンガン粒子を中量、白色粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第8層: 黄褐色土層(橙褐色粒子・マンガン粒子を中量、白色粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第9層: 暗黄褐色土層(橙褐色粒子・マンガン粒子を中量、白色粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

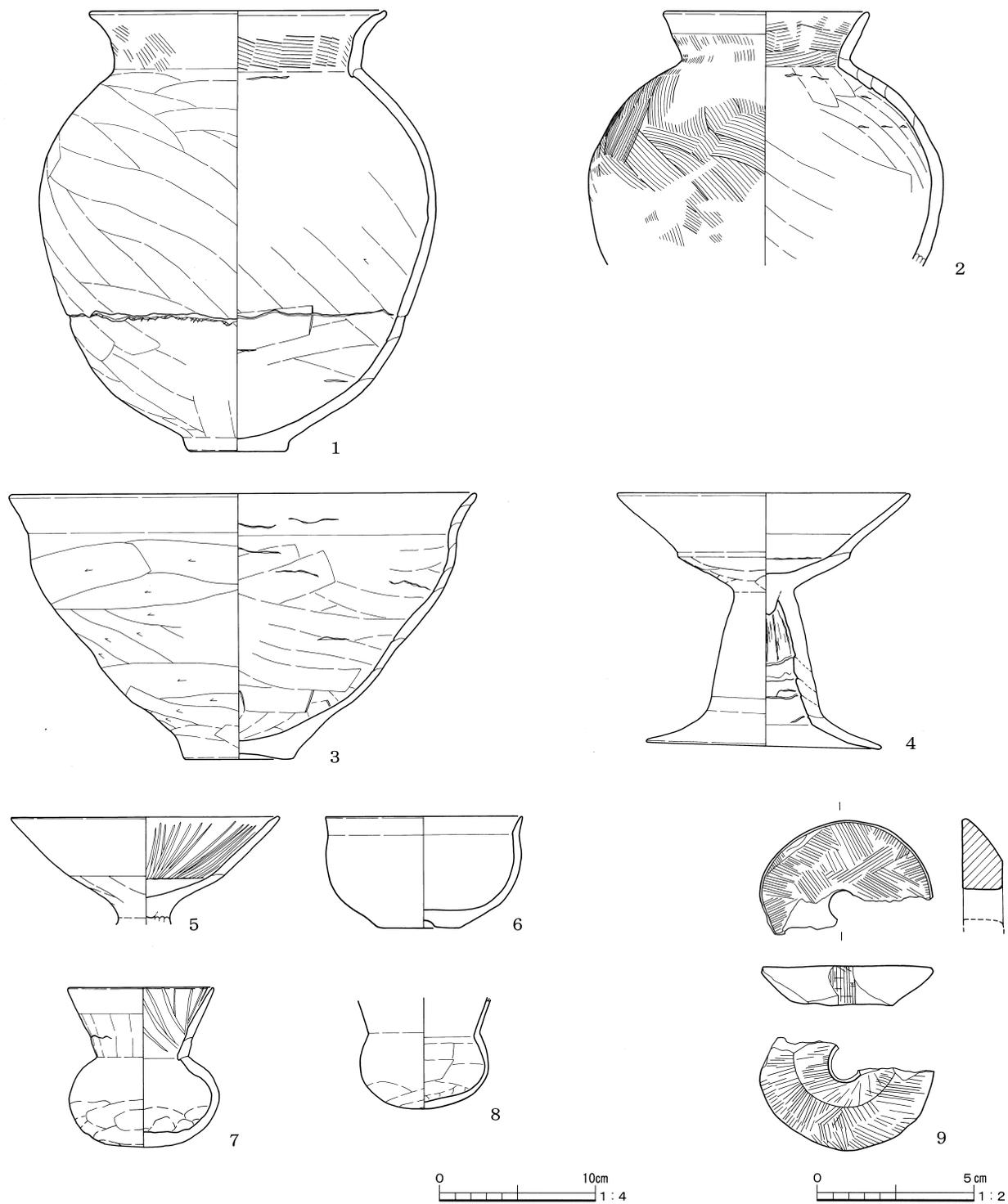
第10層: 黄褐色土層(マンガン粒子・白色粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第170図 性格不明遺構

8. 調査区東側黒色包含層出土遺物

調査区東側黒色包含層出土遺物観察表

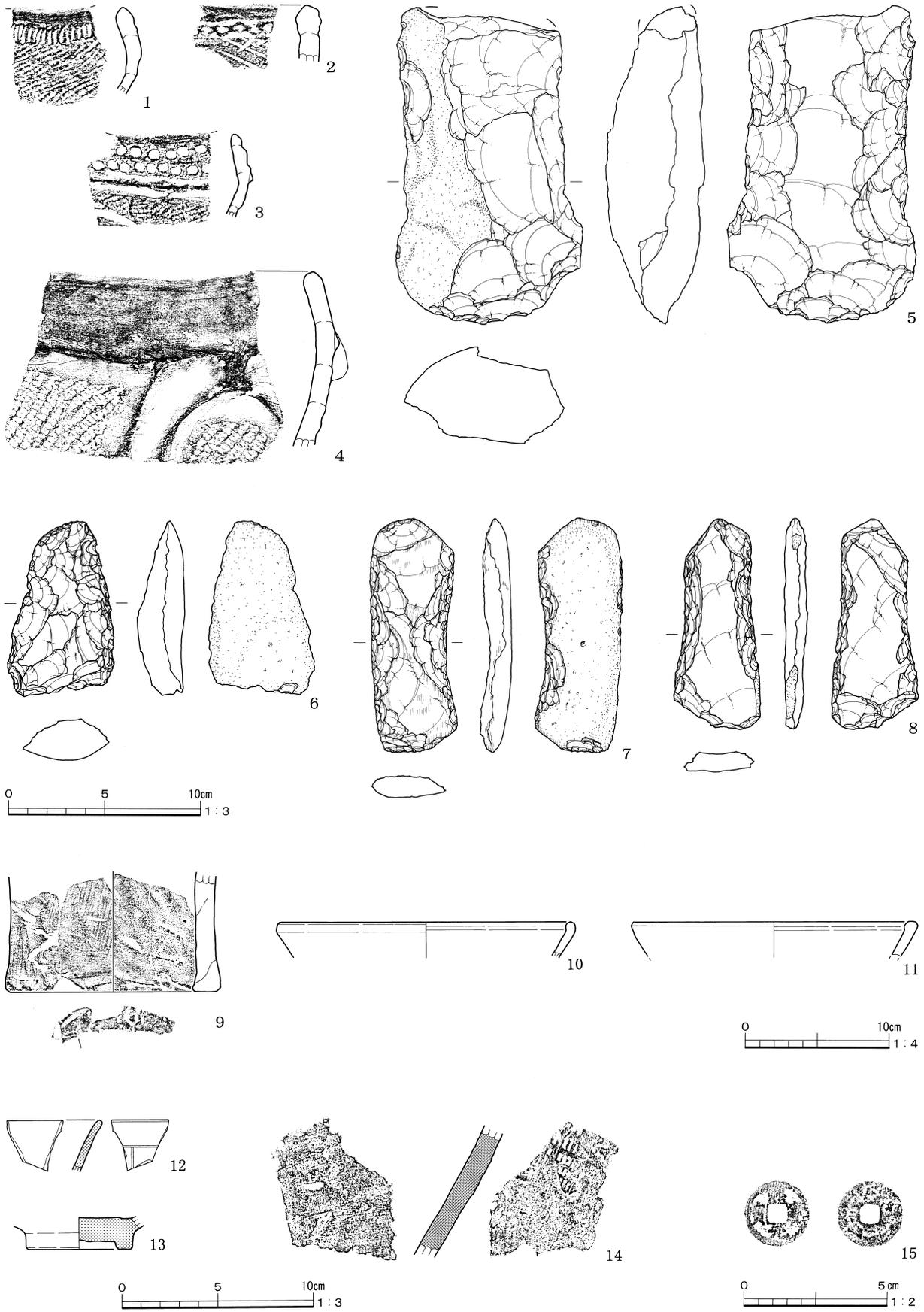
1	甕	A. 口縁部径(19.0)、器高28.5、底部径6.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ハケの後ナデ。胴部内外面篋ナデ。底部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 片岩粒、黒色粒。E. 内外一赤褐色。F. 2/3。G. 胴部接合部上下に刻みあり。H. 黒色包含層中。
2	甕	A. 口縁部径(13.0)、残存高16.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ハケの後ヘラナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 1/3。H. 黒色包含層中。
3	大形鉢	A. 口縁部径(30.0)、器高17.1、底部径7.0。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後下端篋ナデ、内面篋ナデ。底部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい赤褐色、内一にぶい橙色。F. 1/4。H. 黒色包含層中。
4	高 坏	A. 口縁部径(18.8)、器高16.4、底部径15.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面上半ヨコナデ・下半ナデ。坏部内外面ナデ。脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 1/3。H. 黒色包含層中。
5	高 坏	A. 口縁部径17.2、残存高6.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後放射状暗文。坏部内外面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒。E. 内外一橙色。F. 坏部のみ。H. 黒色包含層中。
6	坏	A. 口縁部径(12.7)、器高7.2、底部径5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 外一明赤褐色、内一にぶい黄褐色。F. 1/3。G. 器表面は荒れている。H. 黒色包含層中。



第 171 図 調査区東側黒色包含層出土遺物

7	小形丸底壺	A. 口縁部径(9.3)、器高10.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面篋ナデの後上半ヨコナデ、内面ヨコナデの後暗文。胴部内外面ナデ。底部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部1/2欠損。H. 黒色包含層中。
8	小形丸底壺	A. 残存高7.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面篋ナデ。底部外面ナデ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一明赤褐色、内一赤褐色。F. 1/2。H. 黒色包含層中。
9	石製紡錘車	A. 直径5.5、最大厚1.3、残重28.62g。C. 表裏・側面とも丁寧な研磨。D. 蛇紋岩。F. 1/2。H. 黒色包含層中。

9. その他の遺物

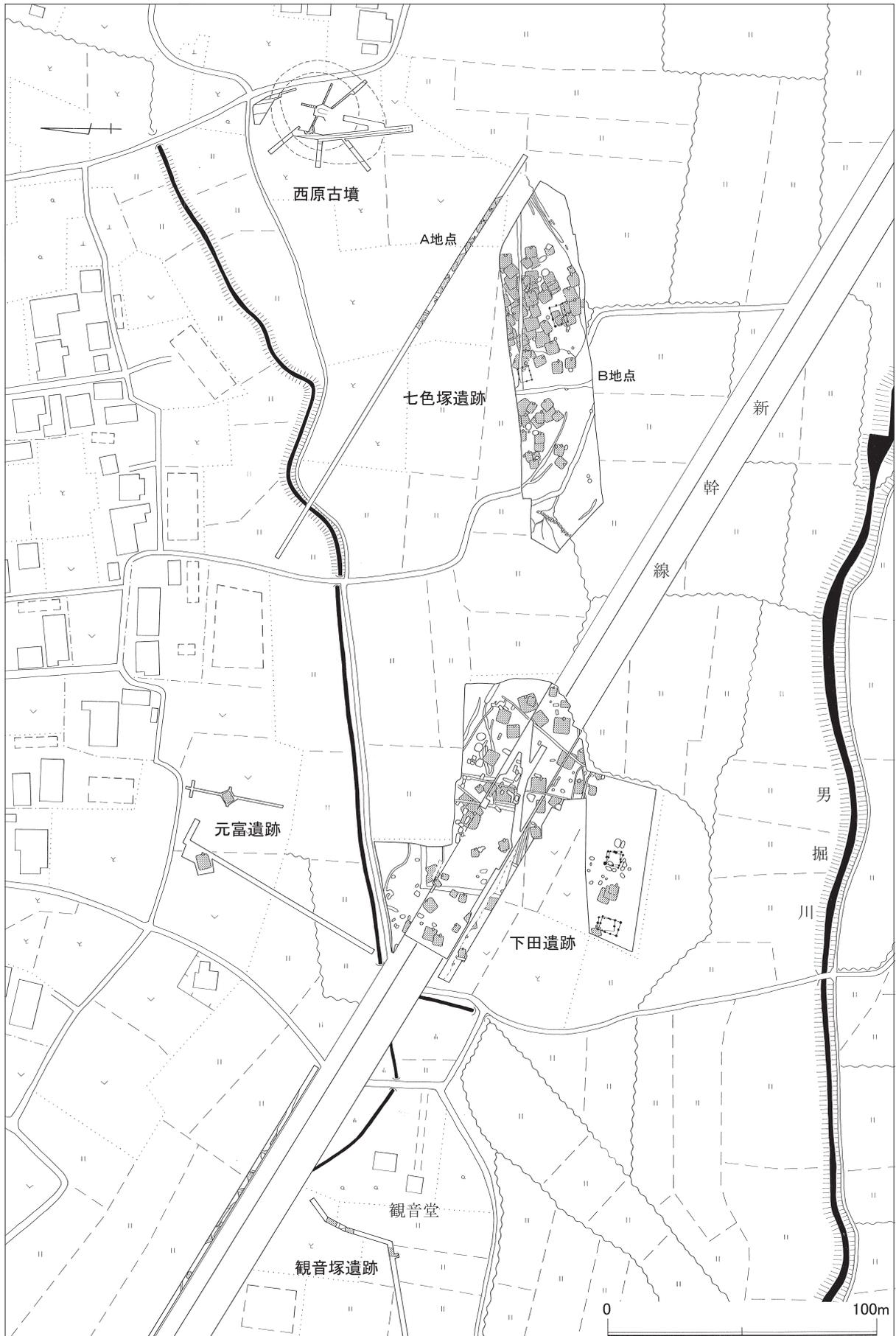


第172図 その他の遺物

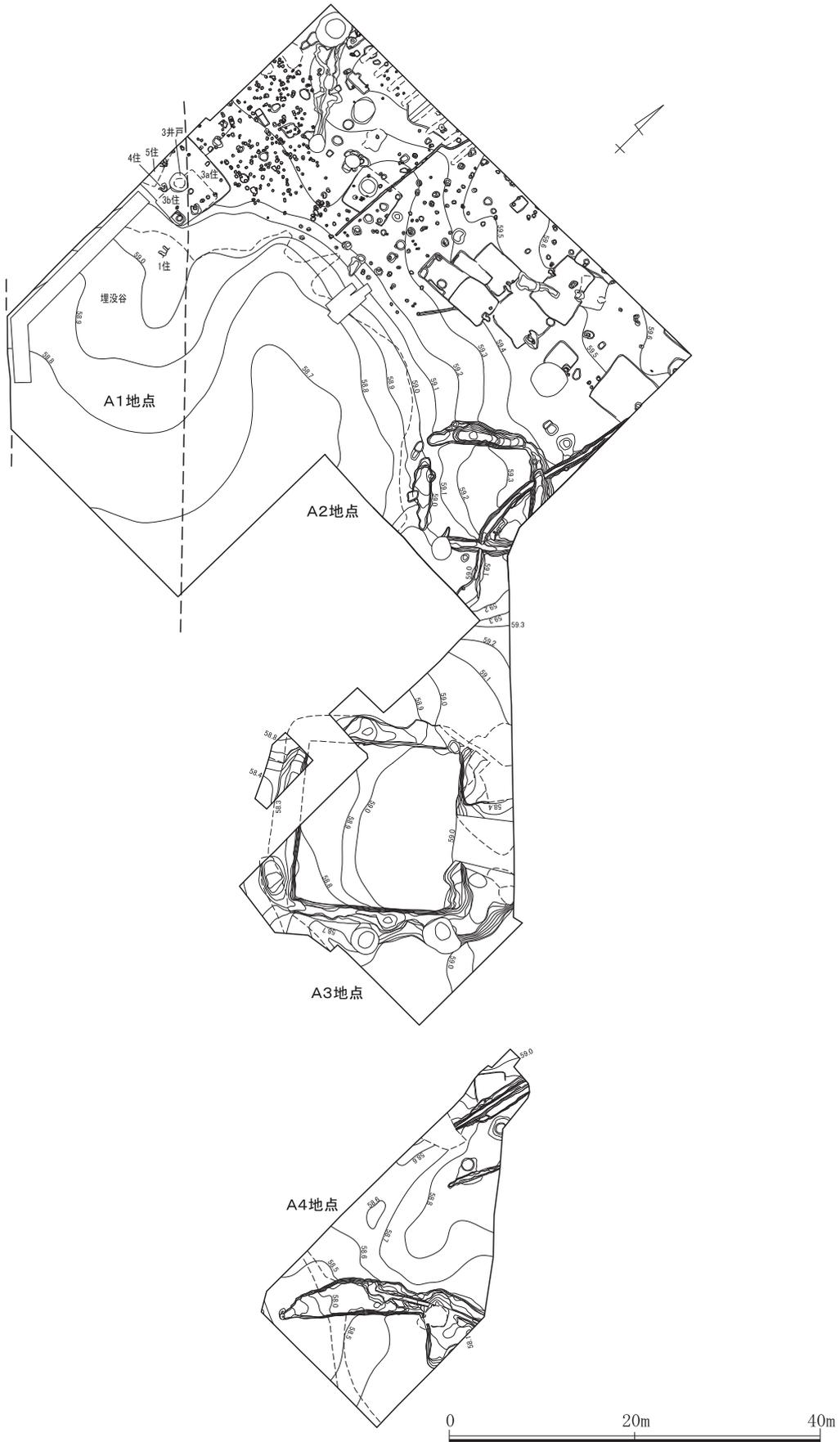
その他の出土遺物観察表

1	深鉢	B. 粘土紐輪積み。C. 波状口縁を呈するものと想定される。外面は無節L縄文を施文後、篋状工具による押引文を施す。内面は横位の磨き。D. 砂粒、チャート、黒色鉱物。E. 外一暗灰黄色。F. 口縁部片。H. 第55号住居跡覆土中。
2	深鉢	B. 粘土紐輪積み。C. 平縁口縁。外面は格子目状の沈線を施文後口縁下に2条の沈線を施す。2条の沈線間に丸棒状工具による交互刺突を施す。内面は横位の磨き。D. 砂粒、チャート、片岩粒。E. 外一橙色。F. 口縁部片。H. 第55号住居跡覆土中。
3	深鉢	B. 粘土紐輪積み。C. 波状口縁を呈するものと想定される。外面は口縁部文様帯に2列の連続刺突文を施す。口縁部と体部を脇に丸棒状工具による沈線が施される横位隆帯隔す。体部文様帯に単節LR縄文を多方向に施文後丸棒状工具による沈線を施す。内面は横位の磨き。D. 砂粒、チャート。E. 外一にぶい黄橙色。F. 口縁部～体部片。H. 第16号住居跡覆土中。
4	深鉢	B. 粘土紐輪積み。C. 平縁口縁。外面は口縁部無文。口縁部と体部を横位隆帯により隔す。体部文様帯に0段多条RL縄文を縦位に施文後横位隆帯より派生する2条1組の逆「U」字状を呈する隆帯を貼り付ける。隆帯脇に幅広の沈線を施す。内面は横位の磨き。D. 砂粒、チャート、片岩粒、黒色鉱物。E. 外一にぶい黄褐色。F. 口縁部～体部片。H. 第55号住居跡覆土中。
5	打製石斧	A. 残存長16.7、幅9.9、厚さ5.2、残重909.6g。C. 割礫の両面に水平打撃による調整を施す。摩耗痕は認められないが、側縁の一部に敲打痕がみられる。D. ホルンフェルス。F. 端部欠失。H. 第71号住居跡覆土中。
6	打製石斧	A. 全長9.2、幅5.6、厚さ2.5、重量118.2g。C. 礫皮を持つ剥片の周縁に片面調整を施す。摩耗痕は認められない。D. 頁岩。F. 完形。H. 第28号住居跡覆土中。
7	打製石斧	A. 全長12.3、幅4.6、厚さ1.7、重量119.8g。C. 薄型の割礫に両面調整を施す。全体に摩耗痕がみられる。D. 安山岩。F. 完形。H. 第55号住居跡覆土中。
8	打製石斧	A. 全長11.1、幅4.6、厚さ1.25、重量75.6g。C. 薄型の素材剥片に垂直打撃を施す。やや摩耗している。D. 片岩。F. 完形。H. 第48号住居跡覆土中。
9	円筒埴輪	A. 基底部径(15.0)、残存高8.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ(7～8/2cm)。内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 基底部片。G. 巻き上げ痕あり。H. 第3号溝跡覆土中。
10	在 地 産 片 口 鉢	A. 口縁部径(20.4)、残存高2.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 口縁部片。H. 黒色土中。
11	内 耳 鍋	A. 口縁部径(19.6)、残存高2.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 口縁部片。G. 在地産。H. 第63・64号住居跡覆土中。
12	龍泉窯系 青 磁 碗	C. 内外面回転ナデの後施釉。文様あり。内面施釉。D. 密で硬い。E. 地一灰黄色、内一灰オリーブ色。F. 口縁部片。H. 第54号住居跡覆土中。
13	龍泉窯系 青 磁 碗	A. 底部径(5.5)、残存高1.7。B. 高台部削り出し。C. 内外面回転ナデの後施釉。外面高台部見込みは無釉。D. 密で硬い。E. 地一灰黄色、内一灰オリーブ色。F. 底部片。H. 第48号住居跡覆土中。
14	常滑窯系 甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一灰色。F. 胴部片。G. 外面に格子目状の押印文を施す。H. 第48号住居跡覆土中。
15	古 銭	A. 直径2.3、孔径0.7、重量2.53g。D. 銅銭。F. 完形。G. 北宋銭「熙寧元寶」。表裏面は摩耗している。H. 調査区内。





第 173 図 七色塚遺跡周辺の既発掘調査遺跡 (昭和 60 年頃の原因を一部改変)



第174图 北堀新田前遺跡A地点全体图

第Ⅳ章 北堀新田前遺跡 A 1 地点の発掘調査

第 1 節 遺跡の概要

北堀新田前遺跡は、女堀川下流域の標高58.5m～59.6mの微高地上に位置する。この微高地は、さらに下流で小山川に合流する男堀川と女堀川の間形成された東西に長い微高地であり、遺跡は旧男堀川が目の前を流れ、沖積地をはさんだ南側間近に大久保山の残丘を望む位置に立地している。

周辺の遺跡としては、同じ微高地上に、久下東遺跡(増田1985)、久下前遺跡(松本2002)や七色塚遺跡(増田1987、本書)などの古墳時代前期にはじまる集落跡が見られるとともに、集落の北方、西方には、公卿塚古墳(太田他1991)や西原古墳(増田1987・1989)などの諸古墳が、また南面する大久保山の丘陵上には、前山1・2号墳(小久保他1978、松本他2002)をはじめとする諸古墳や古墳時代前期の方形周溝墓が確認されている宥勝寺北裏遺跡、宥勝寺裏埴輪窯跡(橋本・佐々木他1980、太田他2003)がある。

本遺跡は、平成18年12月に実施した試掘調査によりはじめて集落跡であることが判明したため、大字名に加え小字名を冠し、北堀新田前遺跡と命名した。今回の調査が本遺跡に関する最初の発掘調査である。ただし、本遺跡の集落跡部分に関しては、同じ微高地上の西方に近接して、時期的に重なる遺構を含む久下東・久下前遺跡があり、両遺跡と一体となった大規模な集落跡の一部となる可能性を残すようである。

調査範囲に関しては、全体をA地点と呼称し、今回報告する都市計画道路建設予定地をA1地点、市道や商業街区の建設予定地をA2～A4地点として区分した。A1地点に接する北東側の調査地点がA2地点、A2地点の南東側に連なる一角がA3地点、現道を挟みさらに南東に広がる調査地点がA4地点である(第174図)。

北堀新田前遺跡A地点は、南西縁を旧男堀川に関連する埋没浅谷により縁取られた微高地の、北西から南東にかけての縁辺にあたる。一帯は、調査以前にはおおむね畑地として利用されていたが、A1地点南縁を走り、A3地点西半で直角に折れ南に抜ける用水路より南側は、水田として利用されており、遺構の集中する微高地と沖積地とは、畑地と水田の違いとして、調査以前の土地利用形態においてもある程度識別することができた。

A地点の調査で検出した遺構は、方形周溝墓2基、前方後方墳1基、竪穴式住居跡22軒、掘立柱建物跡2棟、井戸跡7基、土坑39基、溝6条、多数のピットである。調査地点全体の概略を述べれば、調査範囲の西半、A1・A2地点では、主に竪穴式住居跡や掘立柱建物跡、井戸跡などからなる生活域が、A2地点の南東端からA3・A4地点にかけて、A1・A2地点の北半が生活域となる前、古墳時代前期に方形周溝墓と前方後方墳からなる墓域が形成された模様である。

今回報告するA1地点は、生活址を中心とするA地点北西半の一部であり、検出した遺構は、古墳時代中期の竪穴式住居跡1軒、白鳳～奈良時代の竪穴式住居跡3軒、中世の井戸跡1基である。奈良時代の第5号住居跡からは、畿内系の暗文付土器が出土しており、周辺遺跡を含め稀少な資料である。また遺構のある微高地に彎入する浅谷(埋没谷)については、集落の占地、遺構の展開に深い関わりをもった微地形として、集落景観の復元という問題をも念頭に調査を行った。

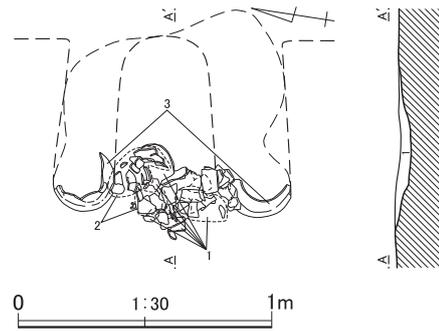
第2節 検出された遺構と遺物

1. 竪穴式住居跡

第1号住居跡（第175図、図版120）

調査区の北西端近くに位置し、埋没谷の堆積土である黒色土中に掘り込まれた住居跡である。カマドの袖甕を残し、全体を掘り下げてしまったため、カマドの痕跡しか検出することができなかった。よって住居跡の平面形など不明である。覆土は、谷埋めの黒色土に類似した黒色土と思われる。

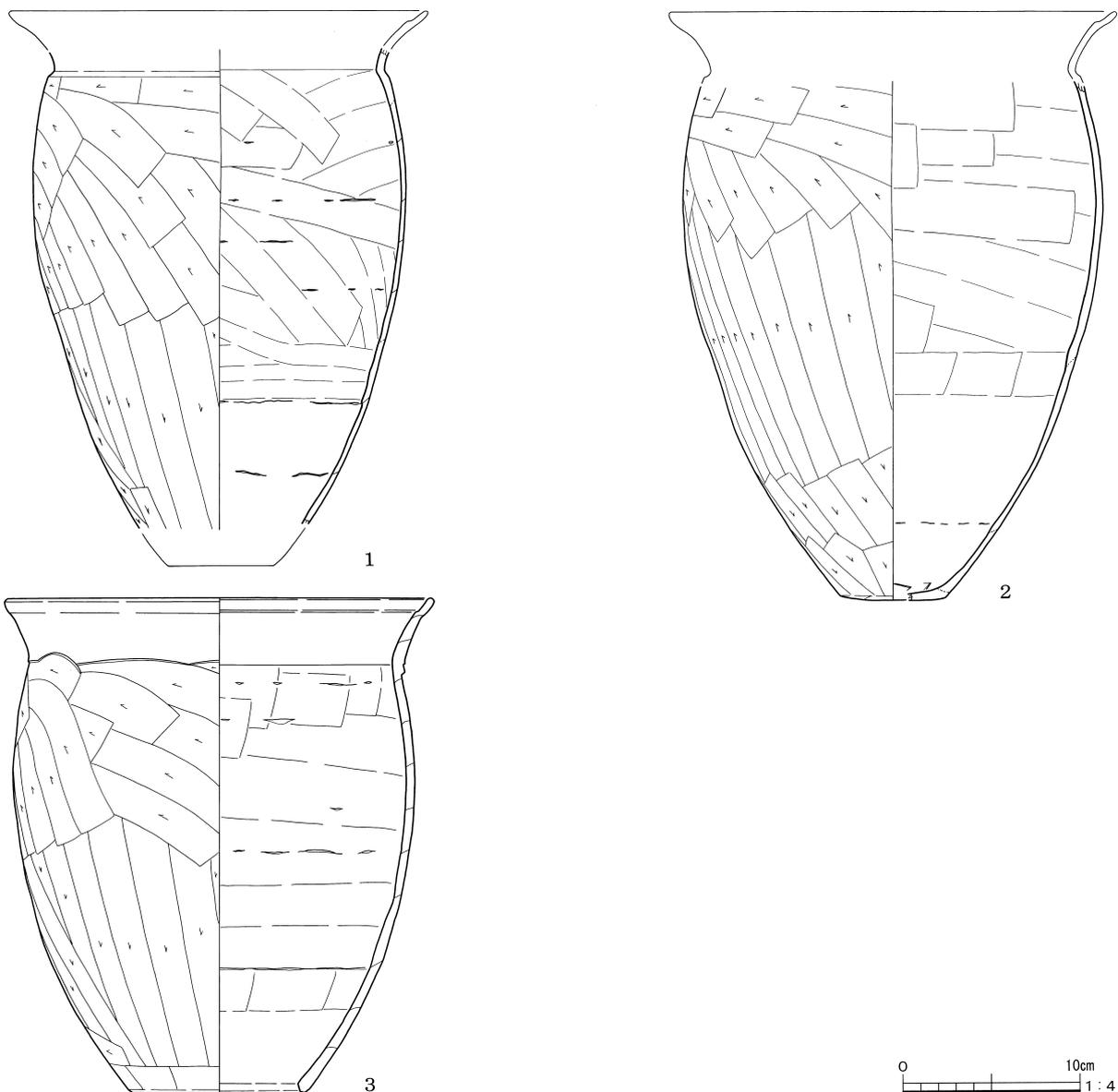
袖とカマド燃焼部の痕跡と見られるわずかな焼土の分



第1号住居跡カマド土層説明

第1層: 黒褐色土層(黒褐色土を主に、焼土・粘土を含む。)

第175図 第1号住居跡カマド



第176図 第1号住居跡出土遺物

布状況から、東側がカマドの燃焼部、つまり住居の奥壁側となるらしく、東カマドで、西側に入り口部をもつ住居跡と推定できる。

本住居跡に確実に伴う遺物は、2つに分割され倒置して左右の袖先端の補強として用いられた大形甔(第176図No 3)、焚き口天井部の補強に用いられていたと思われる2個体の長胴甔(第176図No 1・2)のみである。

第1号住居跡出土遺物観察表

1	甔	A. 残存高27.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面下半ナデ・上半籠ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 胴部3/4。H. カマド内。
2	甔	A. 残存高29.8、底部径6.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面下半ナデ・上半籠ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 胴部1/2弱。H. カマド内。
3	大形甔	A. 口縁部径24.4、器高28.4、底部径(9.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面籠ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一暗橙褐色、内一黒褐色。F. 胴部1/2弱。H. カマド内。

第2号住居跡 (A 2 調査区、別途報告)

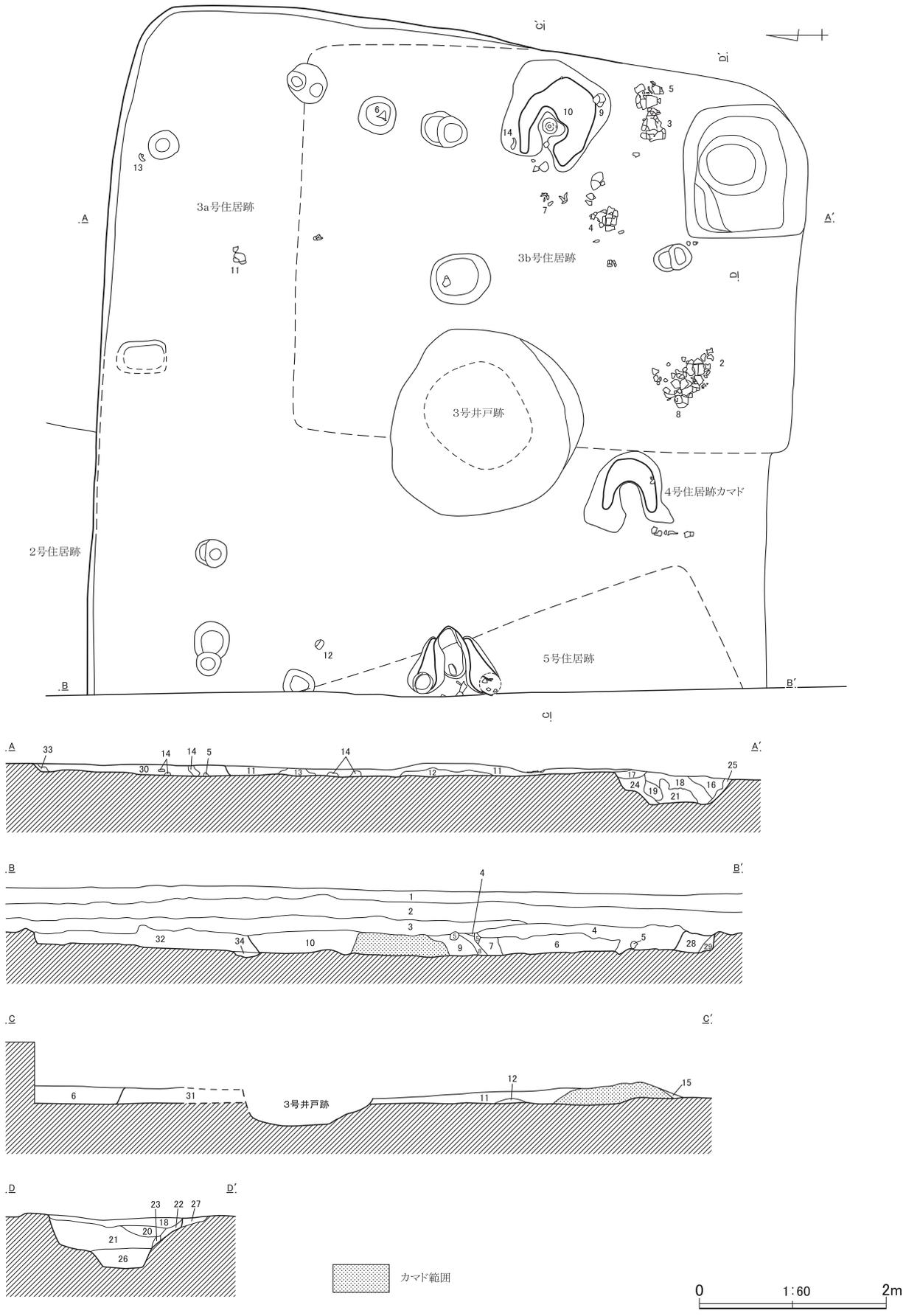
第3 a b号住居跡 (第177図、図版121~123)

調査区の北西端、南側に埋没谷が広がる緩斜面の縁に位置する住居跡である。覆土が浅く残る状態であり、重複する住居跡との関係を面的に捉えることができなかったが、南壁でローム層に掘り込まれた輪郭線が明瞭な段をなし、土層断面でも立ち上がりが見られることから、時期的に近い大小2軒の住居跡が重複していると考えられた。大型の住居跡を第3 a号住居跡、南東側で入れ子状に重複する小型の住居跡を第3 b号住居跡と呼称した。第3 a号住居跡は、第3 b号住居跡に切られている。さらに南西側で第4・5号住居跡に切られ、住居跡中央には、中世の第3号井戸跡が掘られている。また西壁側は調査範囲外である。

第3 a号住居跡の平面形は、北東隅がやや鋭角的になるが、ほぼ方形と見てよいであろう。規模は南北方向で7.10m、東西方向で現存7m前後を測る。第3 b号住居跡と重複する東壁中央にカマドがあったとすれば、主軸方位はN-93°-E前後になる。壁が残存したのは、北壁、及び東壁・南壁の一部である。最も残りのよい北壁でも残存高は、12cm~13cmである。南壁側では覆土も浅く、調査区界の壁面、土層断面B-B'で立ち上がり確認できたのみである。床面は、ロームブロックと黒褐色土が不均一に混合した土を埋め戻しほぼ平坦に作出されているが、全体に軟弱である。住居跡中央を試掘トレンチが掘り抜いており、この床面以下には、掘り方覆土と凹凸の著しいロームの粗掘り面以外見られないことが確認できる。

主に住居跡北半で図示したピットを検出したが、位置、深さなど支柱穴と思われるものは見られなかった。南東隅の土壌状の掘り込みは、いわゆる貯蔵穴であろう。土層断面(A-A')によれば、第3 b号住居跡の覆土が上に被さっており、本住居跡に伴うものと考えられる。平面形は長方形に近く、方形の掘り込みの下面中央が円形にさらに深く掘り込まれている。上端での大きさは140cm×133cm、最深部での深さは52cmである。覆土には、ロームブロックがかなり目立ち、埋め戻された可能性がある。

覆土中から土師器小破片がかなり出土したが、復元し図化できたのは、住居跡北半の床面近くで



第177図 第3～5号住居跡

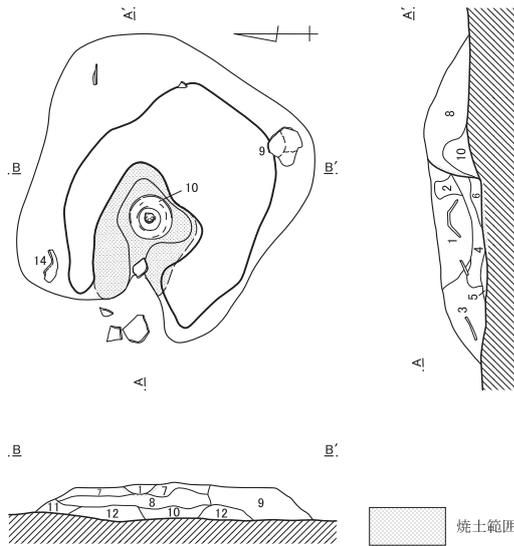
第3～5号住居跡土層説明

- 第1層:灰黄褐色土層(表土。As-Aを多く含む。)
- 第2層:暗褐色土層(As-Aを含む暗褐色土。表土の一種。)
- 第3層:暗褐色土層(ローム粒を含む暗褐色土。この層の上半半までAs-Aを含む。)
- 第4層:暗褐色土層(暗褐色土を主に、ローム粒を含む。第3層より黒味が強い。)
- 第5層:黄褐色土層(ロームブロック。)
- 第6層:暗褐色土層(暗褐色土を主に、ローム粒を多量に、径5～10mm大のローム小ブロックを含む。ローム粒は所々偏在、集中する。)
- 第7層:暗褐色土層(暗褐色土を主に、黄褐色粘土を所々ブロック状にモヤモヤ含む。焼土を少量含む。)
- 第8層:暗褐色土層(やや黒みの強い暗褐色土を主に、ローム粒を含む。焼土を少量含む。)
- 第9層:暗褐色土層(暗褐色土を主に、粘土粒を少量含む。)
- 第10層:暗褐色土層(第6層に近いがローム粒が少ない。ローム小ブロックも殆ど含まない。)
- 第11層:暗褐色土層(暗褐色土を主に、ローム粒を含み、焼土を少量含む。局所的に径20～40mm大のローム粒の密集部がある。)
- 第12層:暗褐色土層(暗褐色土を主に、ローム粒を多く含み、径30mm大のロームブロックを含む。)
- 第13層:暗褐色土層(暗褐色土を主に、径5mm大のローム小ブロック、径50～60mm大のロームブロックを不規則に混合する。)
- 第14層:黄褐色土層(ローム粒・ロームブロックの密集部分。)
- 第15層:暗褐色土層(暗褐色土を主に、シルト化した褐色ロームと焼土を含む。)
- 第16層:暗褐色土層(やや黒みの強い暗褐色土を主に、ローム粒を含む。極局所的に雲状にロームまとまる。焼土を少量含む。)
- 第17層:黄褐色土層(径6～10cm大のロームブロック間に黒褐色土が詰まっている。)
- 第18層:暗褐色土層(第16層に近いが、5mm大のローム小ブロックを含む。)
- 第19層:暗褐色土層(暗褐色土とローム同量混合。どちらも1～3cm大のブロックをなす部分が大半。)
- 第20層:暗褐色土層(第18層に近いが、径2～3cm大のロームブロックを水玉状に含む。)
- 第21層:暗褐色土層(暗褐色土とロームが同量斑状に混合。)
- 第22層:暗褐色土層(第18層に近いが、ローム粒・ローム小ブロックが少ない。ローム小ブロックは5mm大がほとんど。)
- 第23層:暗褐色土層(暗褐色土を主に、白みがかかったロームを斑状・雲状に混合。)
- 第24層:暗褐色土層(暗褐色土を主に、ローム粒・5mm大あるいはそれ以下のローム小ブロックを含む。)
- 第25層:黄褐色土層(崩落ロームブロックのまとまり。)
- 第26層:暗褐色土層(暗褐色土を主に、ローム粒・ローム小ブロックを局所的に含む。粘性ややあり、しまっている。)
- 第27層:暗褐色土層(暗褐色土とロームを斑状に同量混合。第3b号住居掘り方埋土。)
- 第28層:黒褐色土層(黒褐色土を主に、ローム粒を含み、径2～5mm大のローム小ブロックが点在する。)
- 第29層:黒褐色土層(黒褐色土と径5～20mm大のロームブロックを斑状に混合。)
- 第30層:暗褐色土層(暗褐色土を主に、ローム粒をポツポツ均等に含む。焼土を少量含む。)
- 第31層:暗褐色土層(第13層に近いが、ロームがブロック状をなす部分が見られない。)
- 第32層:暗褐色土層(暗褐色土を主に、ローム粒・ロームブロックを含む。)
- 第33層:暗褐色土層(第24層に近いが、ローム粒が多く、径30mm大のロームブロックを含む。)
- 第34層:暗褐色土層(暗褐色土を主に、ローム粒・ロームブロックを多く含む。)

出土した3点の坏(第180図No11～13)のみである。

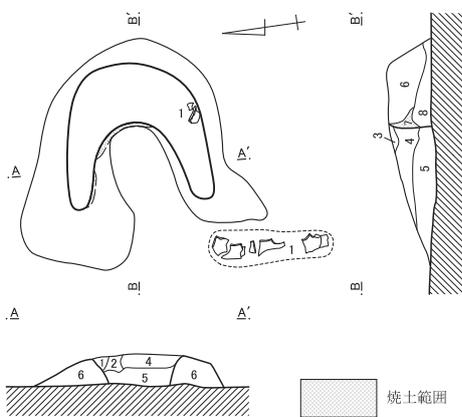
第3b号住居跡は、第3a号住居跡の南東部分を壊して造られた住居跡である。覆土が浅く住居の平面形を面的に確認することができなかったが、南側床面の残存範囲と床面の硬化範囲、土層断面(A-A')に見られる北壁の立ち上がりなどから、おおよそ南北に長い長方形に近い形態に推定復元できる。以下、この推定にしたがい記載する。西壁側の一部を、第3号井戸跡に壊されている。

規模は東西方向で4.12m、南北方向で5.30mを測り、主軸方位はN-94°-E前後である。壁は土層断面(A-A')で確認できたのみではあるが、緩やかに立ち上がるようである。壁高は、北壁で16cm、南壁側では表土下に床面が露出する状態であった。床は掘り方にロームと黒褐色土の不均一な混合土を敷き詰め作出されている。一線をもって分かťことはできなかったが、調査時の所見では、第3a号住居跡の床材に比べロームがやや多いようであった。床面は総じて軟弱であるが、カマドの焚口周辺は多少硬化しており、全体に本住居跡の床面と思われる範囲は、第3a号住居跡の床面と見られる範囲に比べ、微妙に硬化しているようであった。床面上で4個のピットを検出したが、いずれも位置的に見て、主柱穴とは考えにくい。



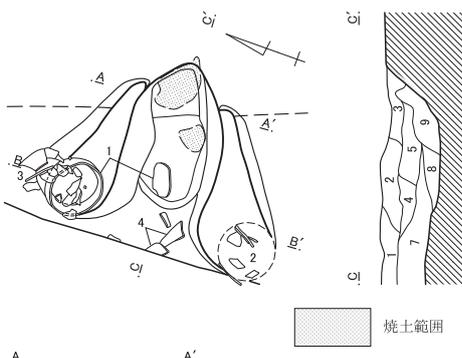
第3b号住居跡カマド土層説明

- 第1層: 黒褐色土層(黒褐色土を主に、シルトがかつた褐色ロームと焼土を含む。)
- 第2層: 赤褐色土層(焼土ブロックを含む。)
- 第3層: 黒褐色土層(黒褐色土を主に、ローム粒・ロームブロック・焼土を斑状に含む。)
- 第4層: 黒褐色土層(黒褐色土を主に、焼土を多量に、ローム粒を含む。)
- 第5層: 黒褐色土層(第4層に近いが、ロームが多い。)
- 第6層: 黒褐色土層(第4層に近いが、焼土が多い。)
- 第7層: 黒褐色土層(粘土混じりの黒褐色土と焼土がほぼ同量混含する。)
- 第8層: 黒褐色土層(黒褐色土を主に、焼土を多量に含み、ローム粒を含む。第4層に比べ、しまっている。)
- 第9層: 褐色土層(シルト化の著しい褐色ロームと黒褐色土の混含土。焼土を含む。)
- 第10層: 黒褐色土層(黒褐色土を主に、ローム粒・径1~2cm大のロームブロックを含む。焼土はほとんど含まない。)
- 第11層: 褐色土層(第9層に近いが、シルト化した褐色ロームが少ない。)
- 第12層: 褐色土層(褐色ロームを突き出し固めた層。カマドの芯。)



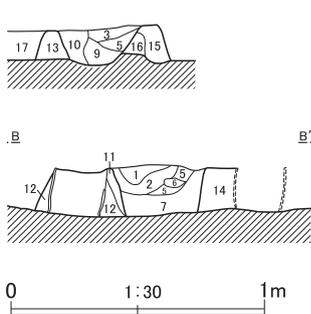
第4号住居跡カマド土層説明

- 第1層: 黒褐色土層(黒褐色土を主に、ローム粒を多く含む。焼土粒を含む。)
- 第2層: 黒褐色土層(第1層に近いが、焼土粒が少ない。)
- 第3層: 黒褐色土層(黒褐色土を主に、シルト化したロームが点在する。)
- 第4層: 黒褐色土層(第3層土を主に、焼土粒・ローム粒を多く含む。)
- 第5層: 黒褐色土層(第4層に近いが、ローム粒が少ない。)
- 第6層: 黒褐色土層(黒褐色とロームの混含土を主に、焼土粒・焼土小ブロックを多量に含む。しまっている。袖材。)
- 第7層: 赤褐色土層(焼土。)
- 第8層: 黄褐色土層(ローム粒・ロームブロックと暗褐色の混含土。)



第5号住居跡カマド土層説明

- 第1層: 淡黄色土層(下半がやや赤化しシルトがかつた浅黄色土。径10mm大の黒色土小ブロックを少量含む。ややしまっている。)
- 第2層: 暗褐色土層(暗褐色土を主に、焼土粒を含み、5mm大の炭化物を含む。)
- 第3層: 黒褐色土層(黒褐色土を主に、ローム粒・5mm大のローム小ブロックを含み、5~10mm大の焼土ブロックを含む。)
- 第4層: 黒褐色土層(黒褐色土を主に、焼土粒・5mm大の白色粘土小ブロックを含む。)
- 第5層: 黒褐色土層(黒褐色土を主に、3~10mm大の焼土を多く含む。)
- 第6層: 赤褐色土層(焼土を主に、5~10mm大の黒褐色土小ブロックを含む。)
- 第7層: 淡黄褐色土層(ロームと暗褐色土の混含土を主に、焼土・5~10mm大の白色粘土小ブロックを含む。)
- 第8層: 淡黄褐色土層(第7層に近いが、焼土・白色粘土が多い。)
- 第9層: 黒褐色土層(黒褐色土を主に、炭化物を少量含み、白色の灰状のものを層状に少量含む。)
- 第10層: 黒褐色土層(黒褐色土を主に、ローム粒を含む。5mm大の焼土小ブロックを含む。)



- 第11層: 褐色土層(第6層に似た焼土であるが、第6層に似た焼土であるが、第6層ほど赤化していない。黒褐色土粒を含む。)
- 第12層: 灰赤褐色粘土層(灰赤褐色粘土を主に、黒褐色土を含む。5~15mm大のローム小ブロックを含む。)
- 第13層: 灰褐色粘土層(かなり純粋な粘土を主に、黒褐色土粒を含む。)
- 第14層: 灰褐色粘土層(灰褐色粘土を主に、5~10mm大のローム小ブロックを含む。部分的に赤化して硬い。)
- 第15層: 赤色焼土層(焼土を主に、黒褐色土を含む。)
- 第16層: 黒褐色土層(黒褐色土を主に、3~10mm大の焼土小ブロックを多量に含む。炭化物粒を含む。)
- 第17層: 暗褐色土層(暗褐色土を主に、ローム粒・ロームブロックを雲状に含む。)

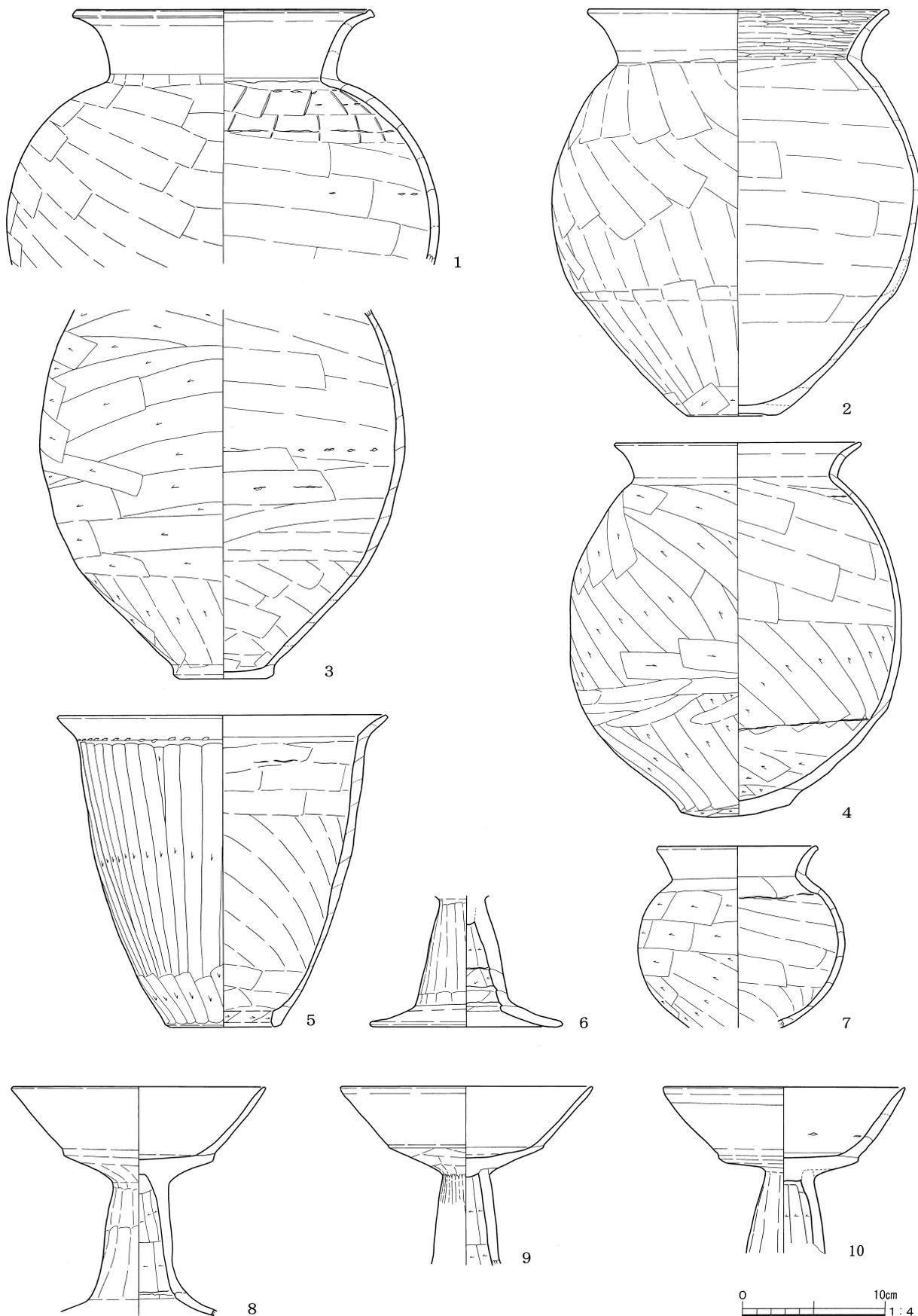
第178図 第3b~5号住居跡カマド

カマドは、東壁のほぼ中央、壁からわずかに離れ、壁に対しほぼ直角に付設されている。全長120cm、最大幅103cmを測る。調査時の所見では、シルト化した褐色ロームを芯に用い、その周りに部分的に褐色土や黒褐色土を突き固めてカマド本体を構築している部分は検出が容易であったが、構築材にむらや硬軟があり、カマド本体を見極めるのが難しい部分も多かった。燃焼部底面は、住居床面とほぼ同じ高さで、燃焼部内面の被熱による赤色化は全体に著しくないが、所々強く赤色化している。燃焼部のほぼ中央、底面よりやや高い位置で、脚下半を欠く高坏が逆位で出土している。

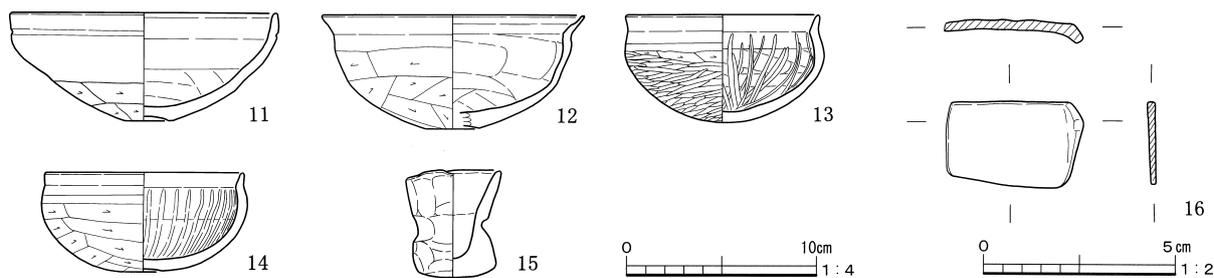
覆土全体から満遍なく土師器片を主とする遺物が出土しているが、復元可能な個体の多くは、カマド内やカマドの周辺、住居南西隅付近の床面あるいは床面近くから出土している。

第3 a b号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A. 口縁部径21.0、B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 胴部1/3。H. 覆土中。
2	甕	A. 口縁部径21.0、器高28.7、底部径6.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ミガキ風のナデツケ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面篋ナデ。底部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗橙褐色。F. ほぼ完形。G. 胴部外面煤付着。H. 床面付近。
3	甕	A. 残存高26.0、底部径(7.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリの後下半雑なナデ、内面篋ナデ。底部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 1/3。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 床面付近。
4	甕	A. 口縁部径17.2、器高26.3、底部径7.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後中位ナデ、内面上半篋ナデ・下半ナデの後ケズリ。底部外面ケズリ・内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一暗褐色。F. 2/3。G. 胴部外面黒斑あり。H. 床面付近。
5	甗	A. 口縁部径(23.0)、器高21.9、底部径8.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ・内面ナデ。底部穿孔部内側ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 1/4。H. 床面付近。
6	高 坏	A. 残存高9.2、脚端部径13.4。B. 粘土紐輪積み。C. 脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 脚部2/3。G. 脚端部に黒斑あり。H. P内。
7	小形甕	A. 口縁部径10.5~11.2、残存高12.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一暗赤褐色、内一暗褐色。F. 3/4。G. 器表面は二次焼成を受けて荒れている。H. 床面付近。
8	高 坏	A. 口縁部径(17.6)、残存高16.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 坏部2/3、脚端部欠失。G. 坏部内面斑点状剥落顕著。H. 床面付近。
9	高 坏	A. 口縁部径(17.6)、残存高12.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚柱部外面ケズリの後ミガキ、内面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 1/2、脚端部欠失。H. カマド内。
10	高 坏	A. 口縁部径16.8、残存高11.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 坏部完形、脚下半欠失。H. カマド支脚。
11	坏	A. 口縁部径14.0、器高5.7、底部径2.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗橙褐色。F. 2/3。H. 床面付近。
12	坏	A. 口縁部径(13.8)、器高6.0、底部径(2.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒、淡褐色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 1/4強。H. 床面付近。
13	坏	A. 口縁部径10.2、器高5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 3/4。G. 内面に放射状暗文を施す。H. 床面付近。
14	坏	A. 口縁部径(10.4)、器高5.2、底部径1.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗橙褐色。F. 1/2弱。G. 内面に放射状暗文を施す。H. カマド内。
15	小形土器	A. 口縁部径5.0、器高5.7、底部径4.1。B. 手捏ね。C. 内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
16	鉄製品	A. 長さ3.6、最大幅2.3。C. 板状で右端が若干曲がる。F. 破片。G. 錆は地金部分まで浸透。H. 覆土中。



第 179 图 第 3 a b 号住居跡出土遺物 (1)



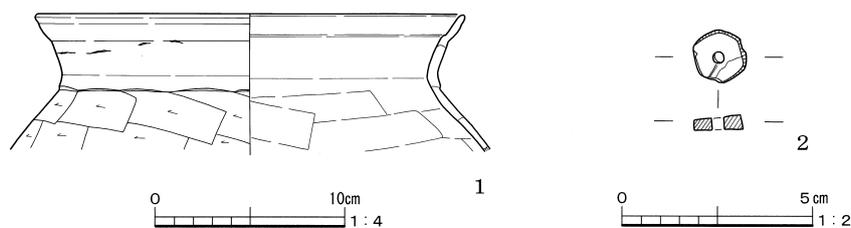
第180図 第3 a b号住居跡出土遺物(2)

第4号住居跡(第177図、図版121・124)

調査区の北西端に位置するカマドのみ検出することができた住居跡である。住居の平面形はもとより、他の住居跡との重複関係を確認することができなかつたが、位置的に見て、第3 a b号住居跡より後出し、第5号住居跡に先行する遺構と見てよいであろう。カマドの形態から見て、東壁側にカマドのある住居跡で、南半は覆土の多くが失われてしまったものと思われる。

カマドは、全長90cm、最大幅96cmを測る。カマド本体の形態に即し図示したが、あるいはやや斜めになった燃焼部の中軸線が住居主軸の向きに近いのかもしれない。その場合、第5号住居跡と同じような主軸方向の住居を想定することになる。カマドは、ロームと黒褐色土、暗褐色土などの混合土を馬蹄形に突き固め造られている。燃焼部内面の赤色化は部分的で、側壁の一部しか赤色化していない。燃焼部底面は、ほぼ床面と同じ高さと考えたが、焼土がとぎれる断面図の第5層上面も底面の可能性がある。

本住居跡に確実に伴う遺物は、カマド内から出土した白玉1点と、カマド脇から出土した甕口頸部片1点のみである。ただし時期的に見て、白玉については、本住居跡に伴うか検討の余地がある。



第181図 第4号住居跡出土遺物

第4号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(22.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗橙褐色。F. 口縁部1/2弱。H. 床面付近。
2	石製品 (白玉)	A. 直径1.4、厚さ0.4。C. 表裏面未調整。側面研磨。D. 滑石。F. 完形。H. カマド内。

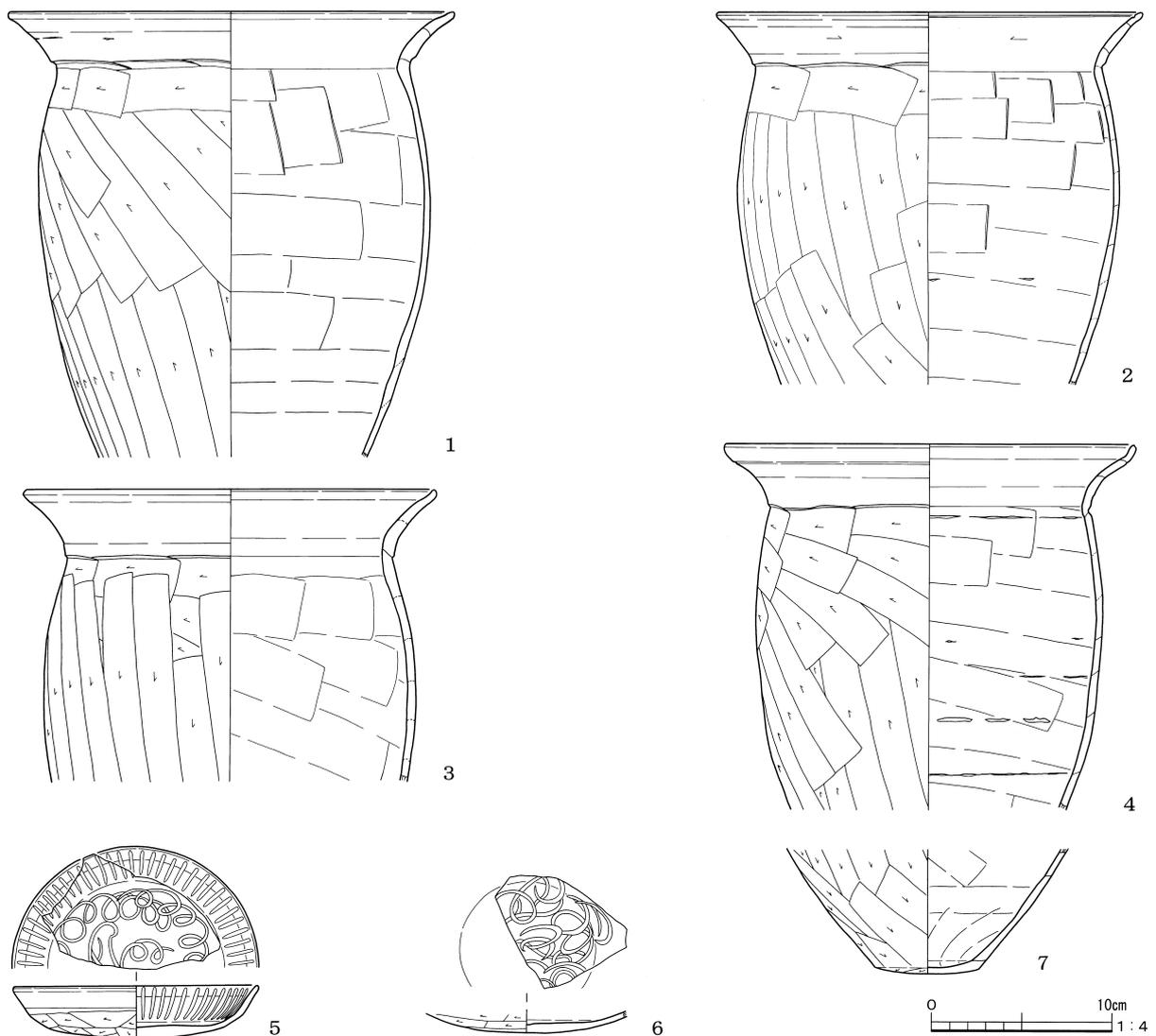
第5号住居跡(第177図、図版121・124)

調査区の北西端に位置する住居跡である。調査区界の壁際にあつたこともあり、確認面でカマドの形態、住居内での位置などが見極めきれず、カマド燃焼部の向き、土層断面での壁の位置などを頼りに破線のような平面形を推定する結果となった。

推定したような方形に近い形態であるとすれば、カマドのある北東壁の長さが5m余の規模になる。カマドの中軸線は、N-72°-Eであるから、それに近い主軸方位が想定できる。壁はやや傾斜して直線的に立ち上がるらしく、壁高は16cm~20cmを測る。床はロームを含む暗褐色土を埋め戻し平坦に造られているが、全体に硬化は著しくない。床面の高さは、第3a号住居跡のそれとほぼ同じであり、床面がともかなり軟弱なため、両者を識別することができなかった。

カマドは、北東壁に設けられていたのであろう。全長78cm、最大幅100cmを測る。住居の奥壁を掘り窪め、そこに灰褐色粘土を貼り付け、同種粘土を突き固めてやや開いた袖を作り出している。燃烧部の煙道につながる奥壁にも粘土が貼られていたようであるが、面的にとらえきれず圴化し得ていない。袖の先端には、図示した長胴甕が埋置されていた。燃烧部の底面は、床面を浅く掘り窪め造られており、内面の赤色化は奥壁及び底面の一部に限られる。

第182図No 1~4の4個体の長胴甕は、袖甕を含めいずれもカマド内から出土している。同図No 5・6の内面に螺旋状暗文のある坏は、覆土中出土であるが、調査時の住居跡内発掘区画から見て、



第 182 図 第 5 号住居跡出土遺物

本住居跡に伴う可能性が極めて高いと判断した資料である。

第5号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径24.8、残存高25.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 胴部3/4。G. 外面煤附着。H. カマド内。
2	甕	A. 口縁部径23.8、残存高20.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一明茶褐色、内一暗茶褐色。F. 1/2弱。G. 口唇部内面に細い沈線が廻る。H. カマド内。
3	甕	A. 口縁部径23.0、残存高16.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一茶褐色、内一明茶褐色。F. 1/2。H. カマド内。
4	甕	A. 口縁部径22.8、残存高25.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 1/4。H. カマド内。
5	坏	A. 口縁部径(13.6)、器高2.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 1/3。G. 口縁部内面に放射状暗文、体部内面に左回りの螺旋状暗文を施す。体部外面黒斑あり。H. 覆土中。
6	坏	B. 粘土紐積み上げ。C. 体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 体部1/4破片。G. 体部内面に左回りの螺旋状暗文を施す。内面煤附着。H. 覆土中。
7	甕	A. 底部径5.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 1/3。H. カマド内。

2. 井戸跡

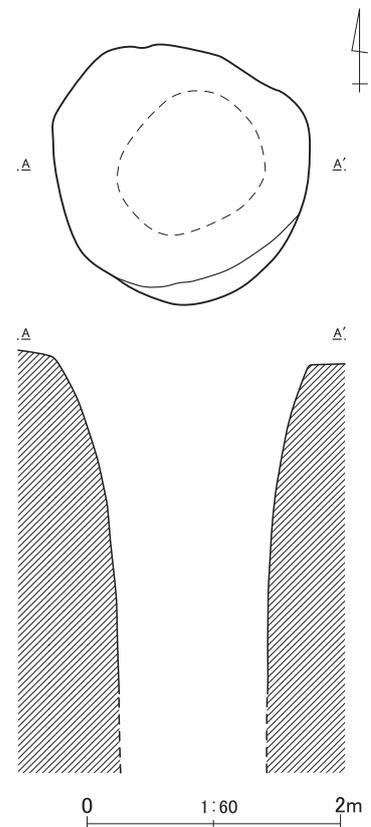
第1・2号井戸跡 (A2調査区、別途報告)

第3号井戸跡 (第183図、図版125)

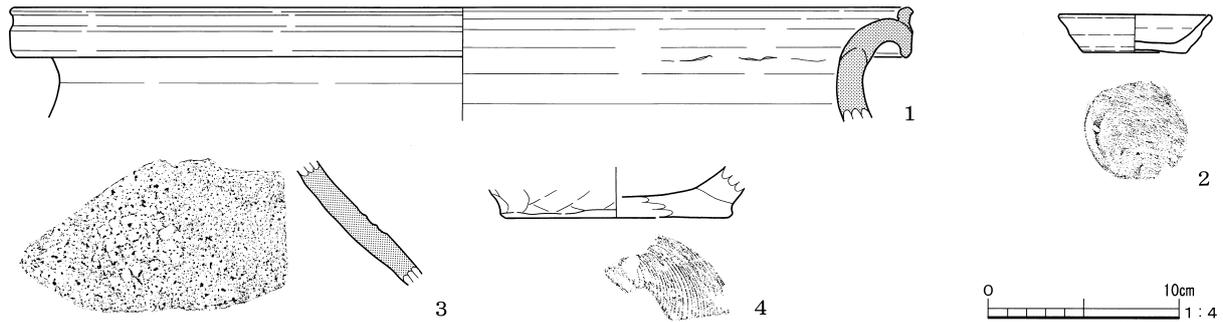
調査区北西端に位置し、重複する第3a・3b号住居跡を切って掘り込まれている。第4号住居跡の一部も壊しているようである。確認面下60cm前後掘り下げた時点で覆土がかなり水気を帯びてきたため、小型重機により掘り上げ、遺物を選別、回収する方法を採用した。重機のアームが届かず、底面まで掘り切ることができなかった。

井戸掘り方の上端の平面形は、不整円形であり、最下部はやや歪な楕円形である。上端での規模は、南北方向で205cm、東西方向で203cmを測る。上半は漏斗状に開き、以下ほぼ垂直に掘り込まれている。掘り方内には、井戸枠など井筒の痕跡は見られなかった。覆土の大半は、やや灰色みを帯びた粘性のある黒褐色土である。確認面からの深さは、265cm以上である。

出土遺物は、土師器小破片などが多いが、それらは重複する住居跡から混入した遺物と見られる。覆土上層から中層にかけて出土した常滑の甕やかかわらけなどから見て、中世の井戸跡と考えられる。



第183図 第3号井戸跡



第 184 図 第 3 号井戸跡出土遺物

第 3 号井戸跡出土遺物観察表

1	常滑窯系 大甕	A. 口縁部径(48.6)。B. 回転台上での粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色、肉一淡灰色。F. 口縁部約1/8破片。G. 口縁部内外面及び頸部外面下半に降灰による斑点状の自然釉がかかる。H. 覆土中層。
2	かわらけ	A. 口縁部径8.0、器高2.0、底部径5.4。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中層。
3	常滑窯系 大甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一淡緑褐色、内一暗茶褐色。F. 胴部破片。G. 外面に格子目状の押印文を施す。外面の全体に降灰による自然釉がかかる。H. 覆土中。
4	在 地 産 片 口 鉢	A. 底部径(12.2)。B. ロクロ上での粘土紐積み上げ。C. 体部外面指ナデ、内面ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外一淡灰色。F. 底部1/4破片。G. 内面は良く摺れて摩滅している。H. 覆土中層。

3. 埋 没 谷

試掘調査の時点で、調査範囲の南半に黒色土(あるいは黒褐色土)が広く分布しており、この黒色土の分布範囲が浅い谷地形をなすことが推定された。この埋没谷に関しては、微高地上の黄褐色ロームを切り込んで谷自体が形成されていること、谷埋めの黒色土を掘り込んで第1号住居跡(前述)が造られていることなど、事前の情報は極めて限られたものであった。また、試掘調査時に開掘したサブトレンチの所見では、黒色土上の表土層中までは多時期にわたる遺物をかなり含むものの、黒色土中には遺物がいたって少ないことが判明していた。ただし、微高地上の住居跡などの生活址や墓址は、この浅谷に大きく制約されたかのようにそれを取り巻き営まれており、何らかの形で集落の営為に影響を与え、人々の生活に関わりをもった特徴的な地形であることは明らかであった。

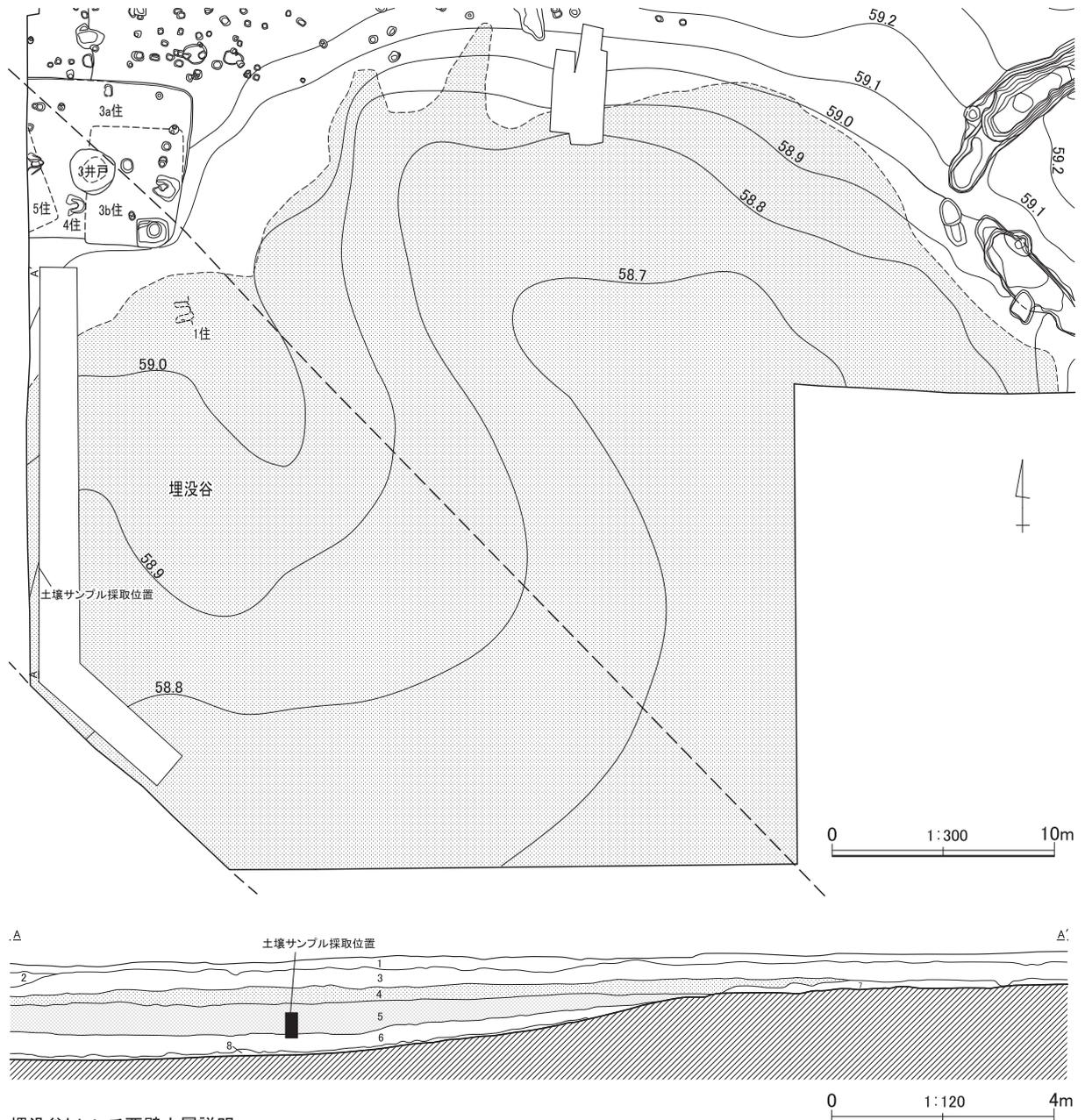
埋没谷の調査に関しては、まず表土層を除き、黒色土の上面で遺構・遺物の有無を確認することから着手した。調査範囲全面表土層を除去したが、遺構を検出することできなかったため、引き続き調査区界の西壁に沿ってトレンチを設定・開掘し、黒色土を含む埋没谷堆積土中の遺物の有無を確認し、合わせて谷地形の形成時期や谷埋めの黒色土の堆積環境について自然科学的な分析を行うべくトレンチ壁面より土壌サンプルを採取した(第V章第2節)。

谷の堆積土は、第185図の第4～6層である。第5層とした黒色土は、断面中央での層厚55cm前後、上・下部が乱れる他は混入土も少なく比較的均質で、粘性が強く密な点から、極感覚的ではあるが、卑湿ではあるが水流などの乏しい堆積環境で少しずつ谷を埋めた堆積土であるかの印象を受けた。第5・6層に確実に伴う遺物は、検出できなかった。

一応第6層下面を谷の底面と考えたが第6層の上面も著しく乱高下し不整合を成し、あるいはこ

こもひとつの底面になるのかもしれない。第6層下面を谷底と見るなら、上面からの深さが115cm前後、緩やかな傾斜をもち、谷底がほぼ平坦な浅い谷地形ということになる。

埋没谷に関しては、谷埋めの堆積土である黒色土あるいは黒褐色土の分布をとらえ得たに過ぎな



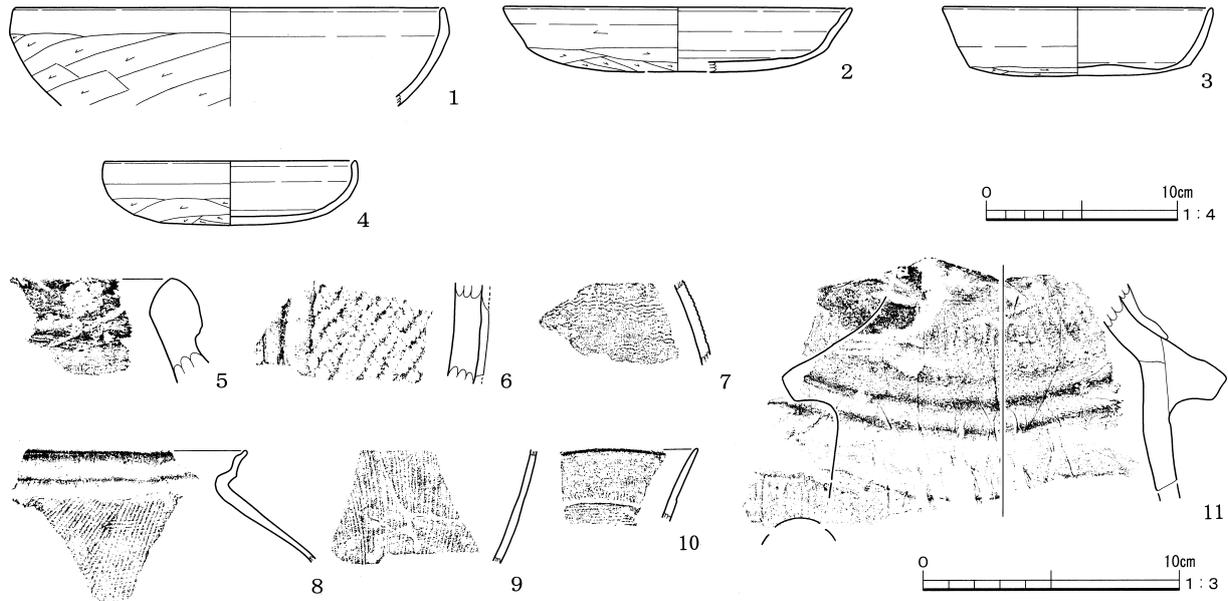
埋没谷トレンチ西壁土層説明

- 第1層: 灰黄褐色土層 (As-Aをかなり含む現表土。)
- 第2層: 黄褐色土層 (客土。灰色シルト・白みがかったローム・砂層が不規則な層状をなす。)
- 第3層: 暗褐色土層 (くすんだ色調の暗褐色土。下面は細かく乱れ、黒褐色土が不規則にこいこんでいる。所々黒褐色土の大ブロック混入。)
- 第4層: 黒褐色土層 (黒褐色土あるいは黒色土を主に、ローム粒を含む。第3層土が大きなブロックをなし不規則に混入。)
- 第5層: 黒色土層 (黒色土を主に、くすんだ色調の暗褐色土が上部に混入。下部は粘性が強く、しまっている。上部にバミスかと思われる白い粒子が混入する。)
- 第6層: 褐色土層 (水の影響によるのか変色し、粘性の強い褐色ローム層。上下の境は不規則に乱高下する。)
- 第7層: 黄褐色土層 (ローム層と暗褐色土層あるいは黒褐色土層の漸移層。)
- 第8層: 黄褐色シルト (粘性強く、多量に水分を含む黄褐色シルト層。下部は鉄分が付着している。)

第185図 埋没谷

いため、不明な点を多々残している。形成時期は不明であるが、男堀川の旧流路に關係する微高地縁辺に形成された浅谷と見てよいであろう。谷の方向は、南側ないしは南東側が谷口と思われるが、A1・A2地点の南側部分での試掘調査所見などをも参考にするなら、それほど単純ではないらしく、彎入する谷の主要部分は、南北、あるいは南東-北西に軸をもつが、複数のより細かな浅谷や流路が入り組みむような場所も、南側沖積地に近づくにつれ見られるようである。(松本 完)

4. その他の遺物



第 186 図 A1 地点調査区内出土遺物

A1 地点調査区内出土遺物観察表

1	鉢	A. 口縁部径(22.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗橙褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 表土。
2	皿	A. 口縁部径(18.4)、器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 表土。
3	坏	A. 口縁部径14.2、器高3.6、底部径11.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡茶褐色、内-淡褐色。F. 1/2強。H. 黒色土上面。
4	坏	A. 口縁部径(13.4)、器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-淡茶褐色。F. 口縁部1/5破片。H. 表土。
5	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。口縁部外面下に横方向の太い沈線を施す。D. 白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部破片。H. 第3号住居跡12区。H. 第3 a b号住居跡覆土。
6	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面LRの後縦方向の隆帯を施す。内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-明茶褐色、内-淡褐色。F. 胴部破片。H. 第3 a b号住居跡覆土。
7	甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ナデの後櫛描波状文を施す。内面ミガキ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-明褐色。F. 胴部破片。H. 第3 a b号住居跡覆土。
8	S字状口縁台付甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡灰褐色、肉-黒褐色。F. 口縁部破片。G. 外面肩部に横線を伴う。H. 第3 a b号住居跡覆土。
9	S字状口縁台付甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ハケ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外-明茶褐色、内-暗褐色、肉-黒褐色。F. 胴部破片。H. 第3 a b号住居跡覆土。
10	不明	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデの後下半ハケ、内面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗茶褐色、肉-黒褐色。F. 口縁部破片。H. 第3 a b号住居跡覆土。
11	人物埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケの後裾部ヨコナデ、内面ナデ。D. 小石、片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-暗橙褐色、内-淡茶褐色、肉-暗茶褐色。F. 1/4強。H. 第3 a b号住居跡覆土。

第V章 自然科学的分析

第1節 七色塚遺跡B地点第28号住居跡出土炭化材の樹種同定

1. はじめに

七色塚遺跡は埼玉県本庄市に位置する遺跡である。ここでは、B地点の第28号住居跡(5世紀末)より出土した、建築材と推定される炭化材10試料の樹種同定結果について報告する。

2. 炭化材樹種同定の方法

炭化材樹種同定を実施する炭化材を選び出す際には、材の3方向の断面(横断面・接線断面・放射断面)を作成することが可能な大きさの炭化材を選び出した。クリについては実体顕微鏡下で観察を行うことが可能なため、写真撮影を行う試料以外についてはこの時点で同定を行なった。次に、走査電子顕微鏡写真を撮影するため、材の3方向の断面を作成し材組織を観察、撮影した。走査電子顕微鏡用の試料は3断面を5mm角程度の大きさに整形したあと、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料台を作成した。この後試料台を乾燥させ、金蒸着を施し走査電子顕微鏡(日本電子(株)製JSM-T100型)で撮影を行った。同定を行った試料のうち、各分類群を代表する試料については写真図版(図版129)を添付し、同定結果を記載した。

3. 結果と考察

各試料の樹種同定結果を一覧表に示した。同定の結果、コナラ属コナラ亜属クヌギ節(以下クヌギ節と呼ぶ)が1試料とクリ6試料、クワ属3試料が同定された。

最も多く同定されたクリは縄文時代において東日本で広く用いられている(千野1991)。クリの材質は、やや硬めであるが割りやすく、刃物で加工しやすい。保存性に優れ、特に水湿に強く土木材として最適であり、縄文時代から土木建築材、燃料材ばかりでなく、容器、丸木舟、農具など、きわめて広い用途に用いられてきた(鈴木2002)。クワ属の材質は、代表的なクワ属の一種であるヤマグワについてみると、重硬で切削その他の加工はやや困難であるが、材質は強靱であるとされる(平井1996)。このように本遺跡では、材質の丈夫な樹種を選択的に用いられていたことが考えられた。

関東地方にある二次林は、クヌギ-コナラ群集とされ、この群集にはクリも伴っている(宮脇1977)。クヌギ節、クリの2分類群のほかに産出したクワ属は、開けた向陽地を好む樹種であるため、遺跡周辺に開けた二次林要素を持つ森林が成立していたことを示している。今回同定された分類群から、遺跡周辺には二次林に相当するような樹種組成を持つ森林が成立していたと考えられた。

埼玉県大宮市(現さいたま市)の寿能泥炭層遺跡の古墳時代にあたる自然木の樹種同定結果(鈴木ほか1984)では、ヤナギ類、クヌギ、クリが多くこれにハンノキ類、ヤマグワ、ナラ類などが同定されており、この樹種組成は本遺跡とも似ていた。このことから、本遺跡の建築材の樹種は周辺植生に生育している中から建築材として適した樹種を用いていたことが考えられた。

次に同定された樹種の材組織について記載を行なう。

(1) コナラ属コナラ亜属クヌギ節 *Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris*

樹種同定結果
一覧表

No	樹種
1	クヌギ節
2	クリ
3	クワ属
4	クワ属
5	クリ
6	クリ
7	クリ
8	クリ
9	クワ属
10	クリ

ブナ科 図版129 (1a~1c) No. 1

大型の道管が年輪界において並び、孔圏外の道管は径を減じた円形の小道管が放射方向に並ぶ環孔材である。放射組織は同性で単列であるが集合放射組織も伴う。道管の穿孔は単穿孔で、道管と放射組織の壁孔には柵状の壁孔が認められる。

クヌギ節にはクヌギとアベマキがあり、本州（岩手県・山形県以南）・四国・九州に分布する高さ30mの落葉高木であり、丘陵から山地に生育する。

(2) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 図版129 (2a~2c) No. 2

大型の道管が年輪界で一列に並び、それ以外の部分では径を減じた道管が火炎状に配列する環孔材。放射組織は単列で同性である。道管の穿孔は単穿孔であり、放射組織と道管の壁孔は柵状である。

クリは北海道（石狩・日高地方以南）・本州・四国・九州の丘陵から山地に分布する落葉高木で高さ20mほどになる。材は耐朽性が強く、水湿に耐え、保存性はきわめて高い。

(3) クワ属 *Morus* クワ科 図版129 (3a~3c) No. 4

大型の道管が年輪界において並ぶ環孔材である。道管は孔圏部において単独あるいは2、3個複合し、孔圏外では小塊状に複合して分布する。放射組織は紡錘形で1~6細胞幅となり主に平伏細胞から構成されるが、上下端には直立細胞が見られる。道管の穿孔は単穿孔であり、壁孔は交互壁孔となる。小道管にはらせん肥厚が存在する。

クワ属は高さ3~10mになる落葉低木であり、ケグワ、マグワ、ヤマグワなど5種がある。

(野村敏江：パレオ・ラボ)

第2節 北堀新田前遺跡A1地点埋没谷内堆積物中の軽石質テフラの同定

1. はじめに

本庄市北堀新田前遺跡A1地点の調査では、調査区南側の埋没谷内に、厚さが最大で80cmの黒色土壌が堆積していた。A1地点の調査区界、西壁沿いに設けたトレンチの壁面の、主に黒色土壌からなる第5層(第185図)とした土層から柱状サンプルを採取した。

第5層中には白色軽石が分散して堆積している状況が観察された(図版130-1)。なお、埋没谷内からは時期が判別可能な遺物は出土していない。

ここでは、埋没谷内堆積物第5層中に散在する軽石質テフラの同定を行った。

2. テフラ分析

a. 試料と分析方法

試料は、埋没谷内堆積物である第5層中に含まれる白色の軽石粒子である。

白色の軽石粒子を多く含む土壌を1φ~4φ(0.063mm)のフルイを重ねて湿式フルイ分けした。この4φ篩残渣を用いて、鉍物組成および火山ガラスの形態について偏光顕微鏡観察し、火山ガラスの屈折率測定を行った。火山ガラスの形態分類は、町田・新井(2003)に従った。

火山ガラスの屈折率測定は、温度変化型屈折計を用いて30片のバブル型火山ガラスの屈折率を計測した。

b. 結果

4φ残渣を偏光顕微鏡で観察した結果、重鉍物では角閃石やガラスが付着した斜方輝石(0px)が特

微的に含まれていた(図版130-2・7・8)。軽鉱物では、ガラスが付着した斜長石が多く含まれ(図版130-3)、バブル型や軽石型の火山ガラスが含まれていた(図版130-5・6)。

火山ガラスの形態分類と計数結果

ガラス形態		個数	割合 (%)
バブル型	平板状	23	11.50
	Y字状	22	11.00
軽石型	繊維状	101	50.50
	スポンジ状	54	27.00
合計		200	100.00

火山ガラスを分類・計数した結果、軽石型火山ガラスが全体の77.50%、バブル型火山ガラスが全体の22.50%含まれていた。軽石型火山ガラスは、繊維状火山ガラスが50.50%、スポンジ状火山ガラスが27.00%含まれていた。バブル型火山ガラスは、板状火山ガラスが11.50%、Y字状火山ガラスが11.00%含まれていた。なお、板状火山ガラスは、大半が厚手の火山ガラスであり(図版130-4)、薄手の火山ガラスは見られなかった。

火山ガラスの屈折率測定では、範囲1.5001-1.5046、平均値1.5024であった(図版130)。

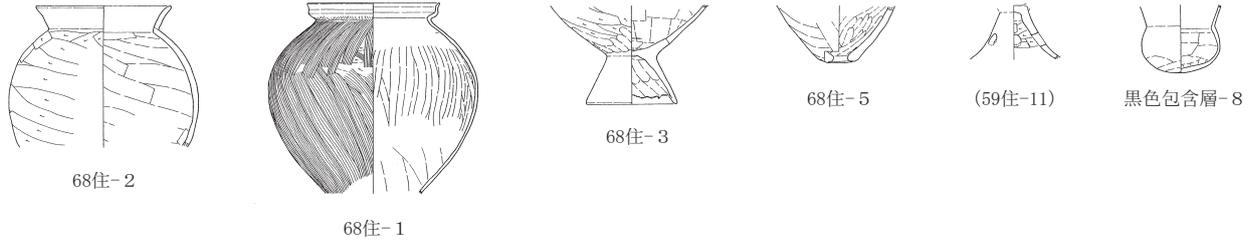
以上の特徴から、6世紀中葉に榛名火山の二ツ岳から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)または同様に6世紀初頭に噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)のいずれかと考えられる。これらのテフラは、軽石型火山ガラスからなり、斑晶鉱物として角閃石と斜方輝石を特徴的に含む軽石質テフラである。また、榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)の軽石ガラスの屈折率が範囲1.501-1.504、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)の軽石ガラスの屈折率が1.500-1.502であり、いずれも比較的狭い範囲を示すテフラである(町田・新井, 2003)。ガラスの屈折率のみで両者を同定することは困難であるが、テフラの分布軸は榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)が北東方向、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)が東南東方向である。このテフラの分布軸を考慮すると、この軽石質テフラは榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)の可能性が高い。

3. ま と め

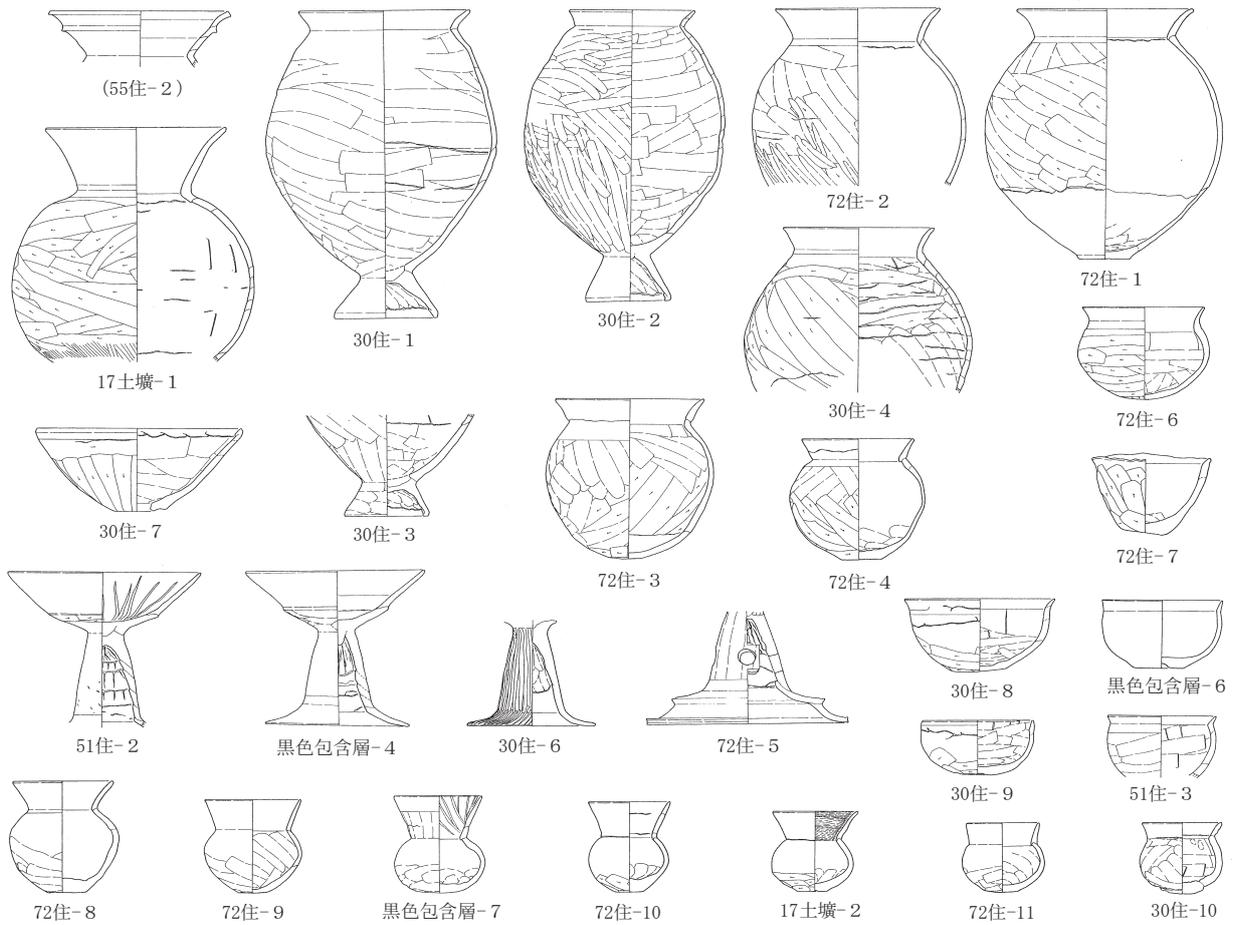
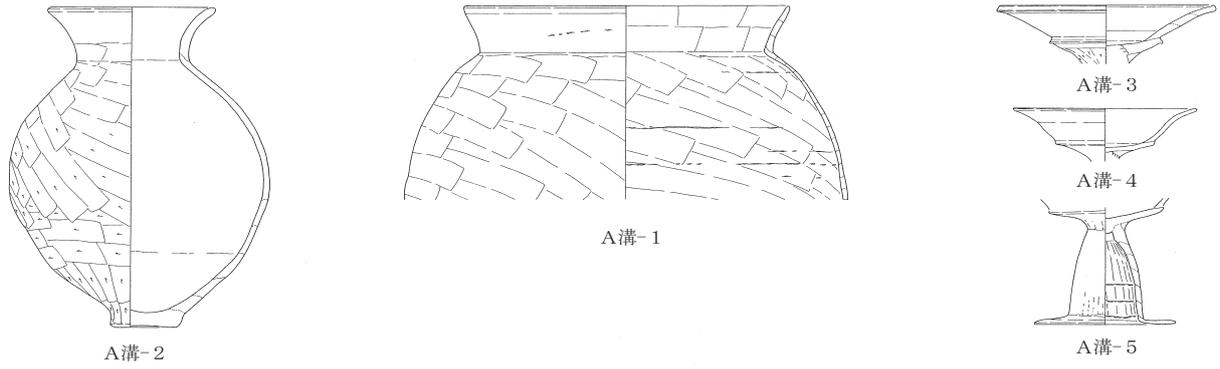
北堀新田前遺跡A1地点南側の埋没谷内堆積物第5層中から、6世紀中葉の榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)または6世紀初頭の榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)が検出されたことから、この埋没谷には、A1地点で検出された第3a b号住居跡やA2~A4地点で検出された方形周溝墓、前方後方墳が造られた後の堆積物が堆積していることが推定された。また、A1地点では、唯一埋没谷内堆積物である黒色土壌を掘り込んで設けられた第1号住居跡が8世紀前半頃に属することとも矛盾しない。

今回のテフラ分析により、この種の埋没谷の埋没過程が、6世紀初頭の榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)降灰以降であることが推定できたわけであるが、今後テフラの同定だけでなく自然科学的な手法を用いた古環境分析のデータを集積することで、谷形成-埋没過程に伴う環境変化と集落立地、土地利用の変化の問題などを考えるための基礎資料が得られるかと思われる。

(藤根 久:パレオ・ラボ)



第187図 第I期の土器



第188図 第II期の土器

第Ⅵ章 ま と め —七色塚遺跡B1地点出土土器の様相—

第1節 古墳時代土器の時期区分と様相

七色塚遺跡B1地点で出土した古墳時代の土器は、前期末～後期初頭にわたるもので、概ね以下の第Ⅰ期～第Ⅳ期の4期に分けられるが、第Ⅰ期と第Ⅱ期、第Ⅱ期と第Ⅲ期の間には断絶が認められる。

＜第Ⅰ期＞ 第68号住居跡出土土器が該当する(第187図)。量的には非常に少ないが、甕や小形甗などの器種が見られる。甕は、単純(く字)口縁甕(68住-2)とS字状口縁台付甕(68住-1・3)がある。単純(く字)口縁甕は、胴部外面が篋ケズリされたままのもので(68住-2)、台が付く可能性もある。S字状口縁台付甕は、胴部外面が篋ケズリのままでハケが省略されたもの(68住-3)と、ケズリの後に雑なハケを施し、形態がS字甕のD類に類似したもの(68住-1)がある。小形甗は、底部が小さく胴部の傾きがやや急な形態のもの(68住-5)で、あまり一般的な形態とは言えないが、当地域の該期に見られる小形甗は、該期土器の系統の複雑さを反映してバラエティーに富んでおり、その多様な形態の一つとして捉えられるものであろう。

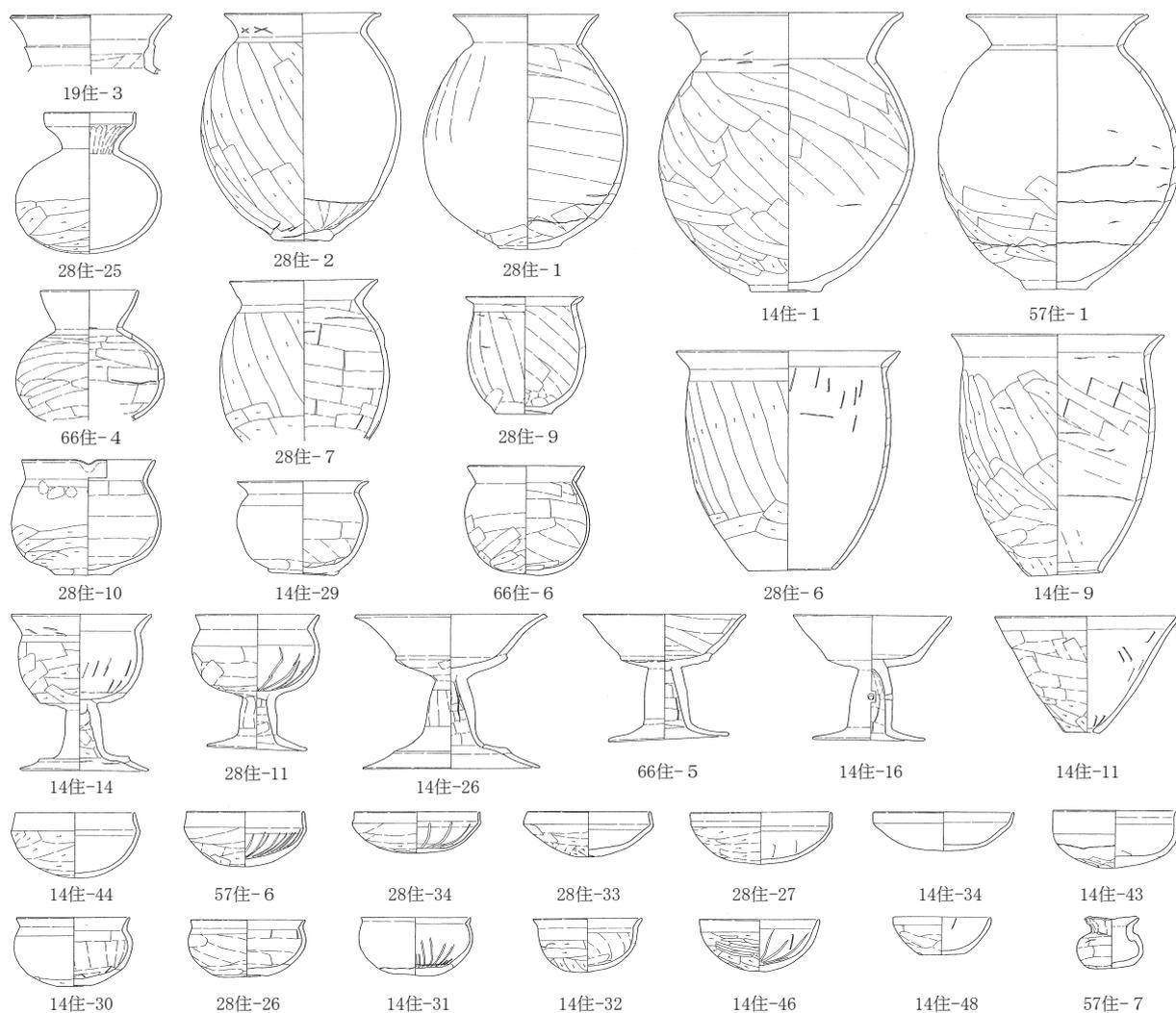
この他、前期に属すると考えられる土器には、古墳時代後期の第59号住居跡の覆土中から出土した高坏(59住-11)と、調査区東側の黒色包含層中から出土した小形丸底壺(黒色包含層-8)がある。高坏は、脚部が短くハの字状に開く形態であることから、東海西部地方の元屋敷系高坏の影響を受けて在地化した高坏の系譜を引くものと思われる。第Ⅰ期の段階では、すでに畿内地方の布留式系高坏の影響による長脚の柱状高坏が一般化していると思われるため、この高坏は該期よりも一段階古い可能性が高いと考えられる。小形丸底壺は、口縁部が胴部と同じ高さかそれよりも長い縦長で壺形の形態と思われる。第Ⅰ期の段階では、胴部が低いか扁平ぎみの浅鉢形の丸底壺が主体的になるとと思われるため、この小形丸底壺も該期より一段階古いものかもしれない。

＜第Ⅱ期＞ 第30号住居跡・第51号住居跡・第72号住居跡・第17号土壙出土土器などが該当し、この他に古墳時代後期の第55号住居跡から出土したNo2の壺とNo6の小形丸底壺及び黒色包含層出土土器の一部も該期のものと考えられる(第188図下段)。第Ⅱ期は、前段階の第Ⅰ期とは時間的に連続せず、間には1～2段階の時期があるものと推測されるが、試掘調査で検出されたA溝からはこの第Ⅱ期の前段階の土器が出土しており(第13図)、本遺跡ではこの前段階の遺構が調査区外に存在する可能性もある。このA溝からは、単純口縁壺や高坏の他に、超大型の鉢と思われる土器の上半部(A溝-1)が出土しており、本遺跡周辺でも前期では後張遺跡C地点第213号住居跡(恋河内2005)や川越田遺跡C地点黒色土中(恋河内1993)で、中期では城の内遺跡C地点第72号土壙(恋河内1997)などで超大型の鉢が出土している。このような超大型の鉢は、畿内地方の庄内式から布留式古段階の時期に類例が見られることから、おそらくそれらの影響を受けて当地方に定着した器種の一つではないかと思われる。

第Ⅱ期の土器は、壺・甕・小形甕・小形甗・鉢・高坏・坏・埴・小形丸底壺などの器種が見られる(第188図下段)。壺は、二重口縁壺と単純口縁壺がある。二重口縁壺(55住-2)は、前期からの系譜を引くものであるが、口縁部内外面ともナデ調整で、形態は口縁部上半が短くなり、外反度も強くなっている。単純口縁壺(17土壙-1)は、口縁部が緩やかに外反し胴部が球形に張る形態で、胴部外面は篋ケズリのままである。甕は、台付甕と平底甕がある。台付甕(30住-1・2・3)は、前期からのS字状口縁台付甕の系譜を引くその最終末段階のものである。胴部は雑なナデかケズリのままで、形態

は長胴化して台部は小さくなり、台端部内側の折り返しにその系譜の痕跡を留めるだけである。平底甕(72住-1)は、胴部が強く張る形態で、外面はナデかケズリのままである。小形甕は、丸底のもの(72住-3)と平底のもの(72住-4)がある。小形甕(30住-7)は、該期に一般的な浅鉢形のもので、口縁部は内側に折り返している。鉢は、小形品が主体で丸底(72住-6)と平底(72住-7)のものが見られる。高坏は、前段階のものに比べて全体的にやや小形化し、ミガキ調整もあまり多用されなくなる。有段高坏(72住-5)は、脚中位に比較的大きめの円孔を4箇所もつもので、段は高く脚端部は面取りを施し、段の突出もしっかりしている。坏・埴は、丸みをもった体部から口縁部が短く外反するいわゆる和泉型坏(埴)の初源的な形態で、平底のものが主体である。量的にはまだ少なく、小形丸底壺の方が多きようである。小形丸底壺は、口縁部の高さが胴部より短めのものが多く、底部は小さな平底を残すものが主体である。

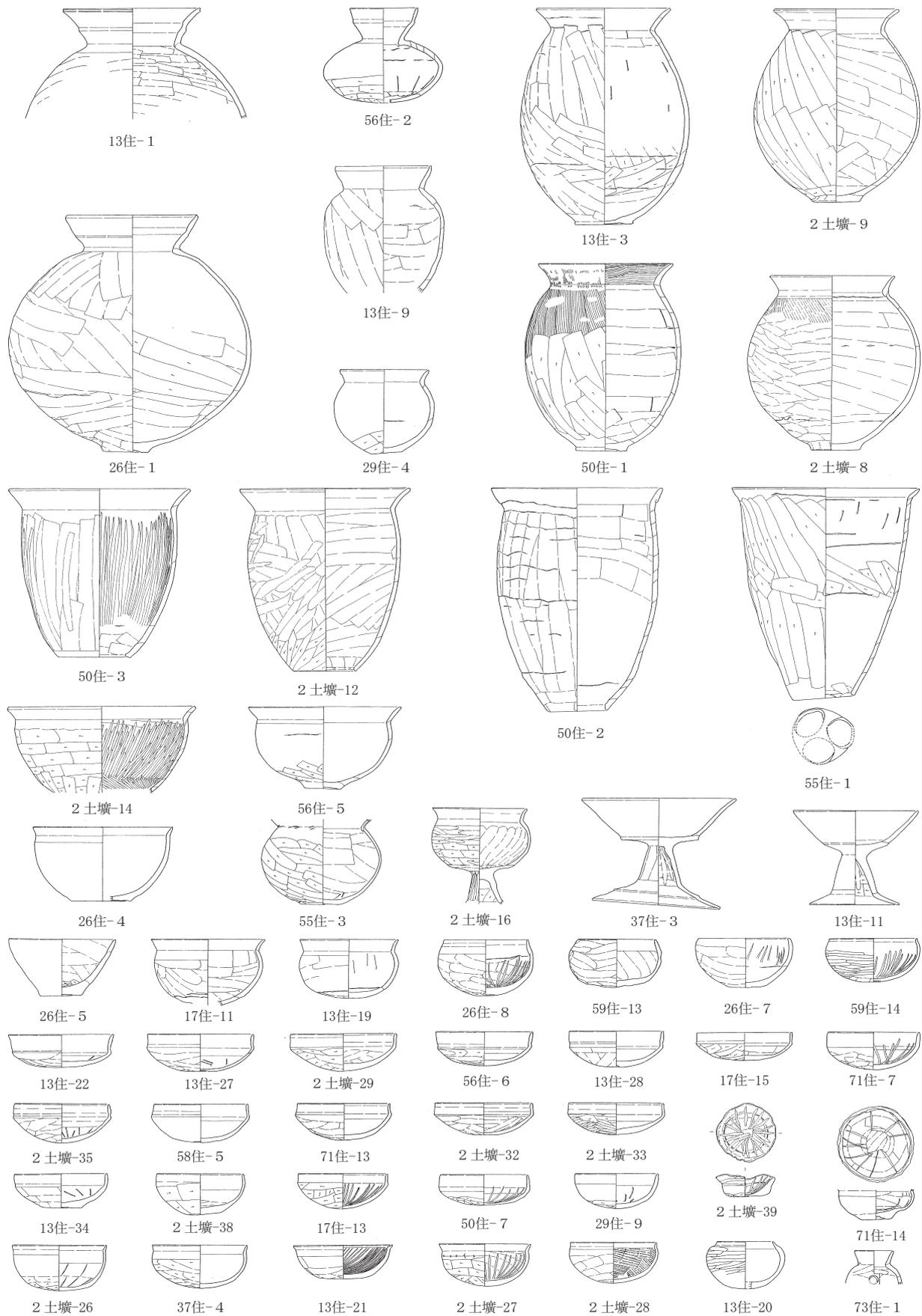
＜第Ⅲ期＞ 第19号住居跡・第14号住居跡・第28号住居跡・第57号住居跡・第66号住居跡出土土器などが該当する。該期は、前段階の第Ⅱ期とは連続せず、間に1時期(和泉型の坏埴が主体になる時期)存在すると考えられる。器種は、壺・直口壺・甕・小形甕・大形甕・小形甕・鉢・脚付鉢・高坏・



第189図 第Ⅲ期の土器

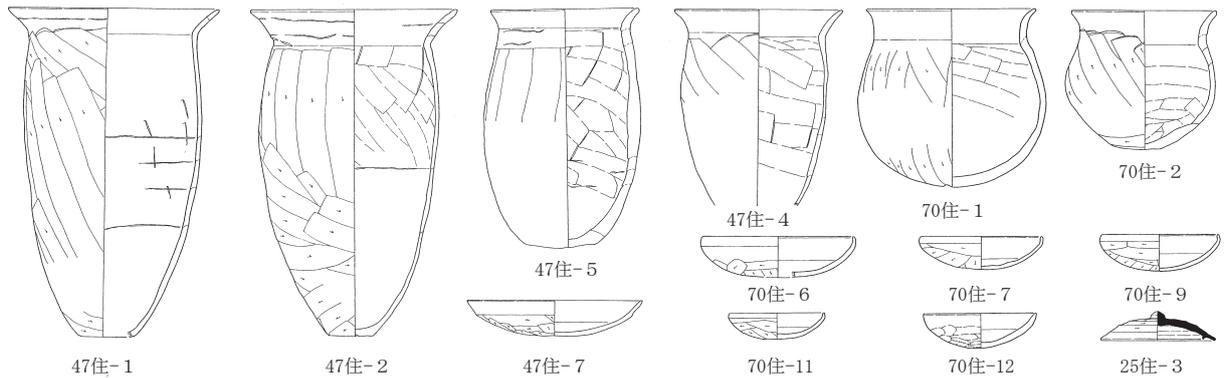
坏・埴などが見られる(第189図)。壺は、二重口縁壺(19住-3)が見られるだけである。この二重口縁壺は、口頸部が直立ぎみで、口縁部上半が長い形態であり、第Ⅱ期までの二重口縁壺とは系譜を異にするものと思われる。直口壺は、有段口縁のもの(28住-25)と単純口縁のもの(66住-4)がある。いずれも胴部が強く張って若干扁平ぎみの形態になっている。甕は、長胴系のもの(28住-1・2)と胴張系のもの(14住-1、57住-1)がある。長胴系の甕は、胴部がまだやや張る形態で、最大径を胴部の中位にもつもの(28住-2)と胴部の下位にもつもの(28住-1)が見られる。胴張系の甕は、長胴系の甕よりも胴部が強く張る形態で、頸部の収縮が強いもの(57住-1)と弱いもの(14住-1)があり、前者は前段階の平底甕からの系譜を引くものである。小形甕(28住-9)は、胴部の張りが弱く胴部外面にケズリの後ナデを加えるものである。大形甕は、いずれも定型化した砲弾型をしており、器高がやや高い一般的な形態のもの(14住-9)と、口縁部径が広く器高がやや短い形態のもの(28住-6)の二者がある。小形甕(14住-11)は、胴部から口縁部まで直線的に開く器形で、該期に一般的に見られる形態である。鉢は、頸部に括れを持つ形態が主体で、平底(14住-29、28住-10)と丸底(66住-6)があり、28住-10は片口をつけている。脚付鉢は、鉢に高坏の脚を付けたもので、脚端部が有段のもの(14住-14)と普通のもの(28住-11)がある。高坏は、第Ⅱ期のものよりもさらに小形化し、ミガキ調整はほとんど施されなくなっている。有段高坏は、脚端部に段を持つものが主体で、段は低く段の突出もやや緩やかになっている。坏・埴は、口縁部が深めの体部から稜をもって直立もしくは内傾する坏が主体であるが、典型的な須恵器模倣坏のように、屈曲部に段や沈線を施すものはほとんど見られない。底部は丸底が多いが、小さな窪み底を残すものも見られる。和泉型の坏(埴)は、量的に少なくなり、形態も器高が低く丸底のものが主体になっている。

＜第Ⅳ期＞ 第13号住居跡・第17号住居跡・第26号住居跡・第37号住居跡・第50号住居跡・第56号住居跡・第58号住居跡・第59号住居跡・第71号住居跡・第2号土壇出土土器などが該当し、前段階の第Ⅲ期から連続する時期と考えられる。器種は、第Ⅲ期と概ね同じく、壺・直口壺・甕・小形甕・大形甕・大形鉢・鉢・脚付鉢・高坏・坏・埴・甗などが見られる(第190図)。壺は、二重口縁壺だけで、前段階に比べて口縁部の外反が強くなっている(13住-1、26住-1)。直口壺は、すべて有段口縁のものである。口縁部の外傾が強くなるとともに段の屈曲も緩やかになり、胴部は張りが強く扁平化が進んだ形態である(56住-2)。甕は、第Ⅲ期と同じく長胴甕と胴張甕がある。長胴甕は、最大径を胴部の中位にもつもの(13住-3)と胴部の下位にもつもの(2土壇-9)があり、いずれも第Ⅲ期のものに比べて胴部の張りが弱くなっている。胴張甕は、頸部の収縮が弱い形態のもの(2土壇-8)が見られる。小形甕は、明確ではないが一般の甕と同じく長胴化した形態のものが出土している(13住-9)。大形甕は、第Ⅲ期で見られた砲弾型の二者をセットで持つ住居が多く、内面に縦方向の長いミガキを施すものが顕著になる。この他では、複合口縁の甕(50住-2)や須恵器の影響による多孔の甕(55住-1)など他系統のものも見られる。鉢は、大形の鉢(2土壇-14、56住-5)が安定した器種として存在する。脚付鉢(2土壇-16)は、該期まで見られるようであるが、第Ⅲ期のものと大差ない。高坏は、第Ⅲ期のものに比べてさらに小形化している。有段高坏も、該期まで残存している。坏は、口縁部と体部の境に明瞭な段をもつ須恵器模倣坏が主体となる。口縁部は、直立かやや内傾するものがほとんどで、体部は第Ⅲ期の坏よりも浅くなるが、器高に占める割合はまだ口縁部よりも体部のほうが高い。第Ⅲ期と同じく、体部外面はケズリの後にナデやミガキを施すものがほとんどである。また、体部内面に

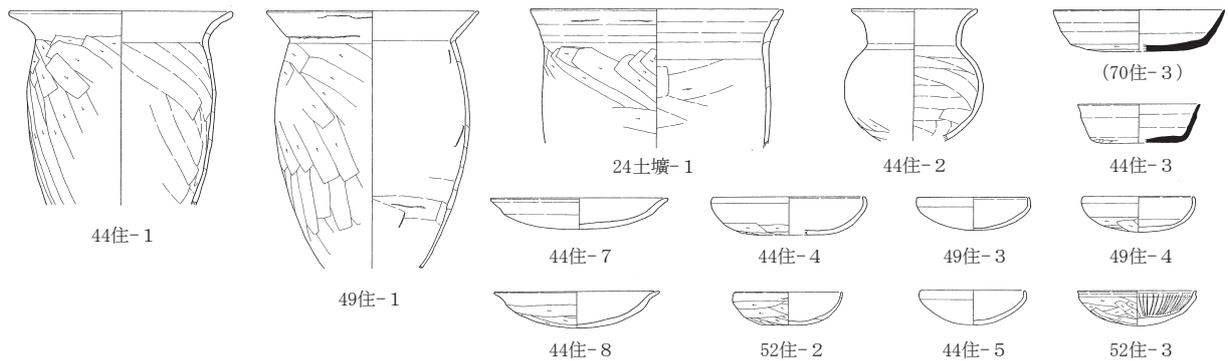


第190図 第Ⅳ期の土器

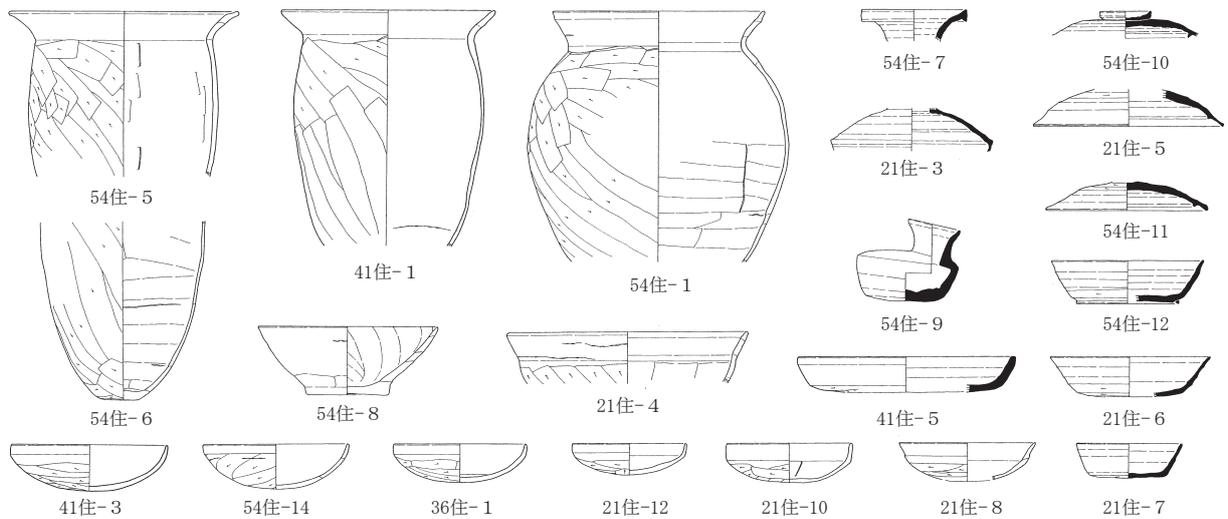
間隔の粗い放射状暗文を施すものも多く見られる。和泉型の坏(埴)は、量的に少ないながら、体部が浅く口縁部と体部の境がほとんど収縮しない形態のものが主体である。これらの在地のものとは別に、群馬県地方に多く見られる系譜を異にした体部内面に密な斜方向の傾斜暗文を施す坏(13住-21)もこの段階から当地方でも見られるようである。甗は、口縁部が短い小形丸底壺のような形態の土器の体部に円孔を開けたもの(73住-1)で、類似した形態のものは、本遺跡の西隣に位置する下田遺跡の第6号住居跡(柿沼他1979)からも出土している。



第191図 第V期の土器



第192図 第VI期の土器



第193図 第VII期の土器

第2節 白鳳～平安時代土器の時期区分と様相

七色塚遺跡B1地点で検出された白鳳～平安時代の土器は、7世紀後半～9世紀後半にわたるもので、概ね以下の第Ⅴ期～第ⅩⅢ期の9期に分けられる。

＜第Ⅴ期＞ 第25号住居跡・第47号住居跡・第70号住居跡出土土器などが該当する。量的には少ないが、器種は土師器の甕・小形甕・皿・坏と須恵器の坏蓋などが見られる(第191図)。甕は、古墳時代からの系譜を引く長胴甕だけで、大と中の法量差がある。胴部があまり張らない形態が主体であるが、以後の長胴甕に特徴的な胴部の外面上半に斜方向の篋ケズリを施すものが見られるようになる。小形甕は、平底(70住-2)と丸底(70住-1)のものがある。該期頃に出現する皿は、多様な口縁部形態のものが存在するが、本遺跡では口縁部がやや長めに外反する形態のもの(47住-7)だけが見られる。坏は、口縁部が短く内屈する形態のもの(内屈口縁坏)で、口縁部ヨコナデの直下からケズリを施すものが主体である。この時期の内屈口縁坏は、金属器の重錠の影響により、出現当初より概ね大・中・小の3～4タイプに法量分化している(坂野・富田1996)が、量的には小のタイプが一番多く見られる。

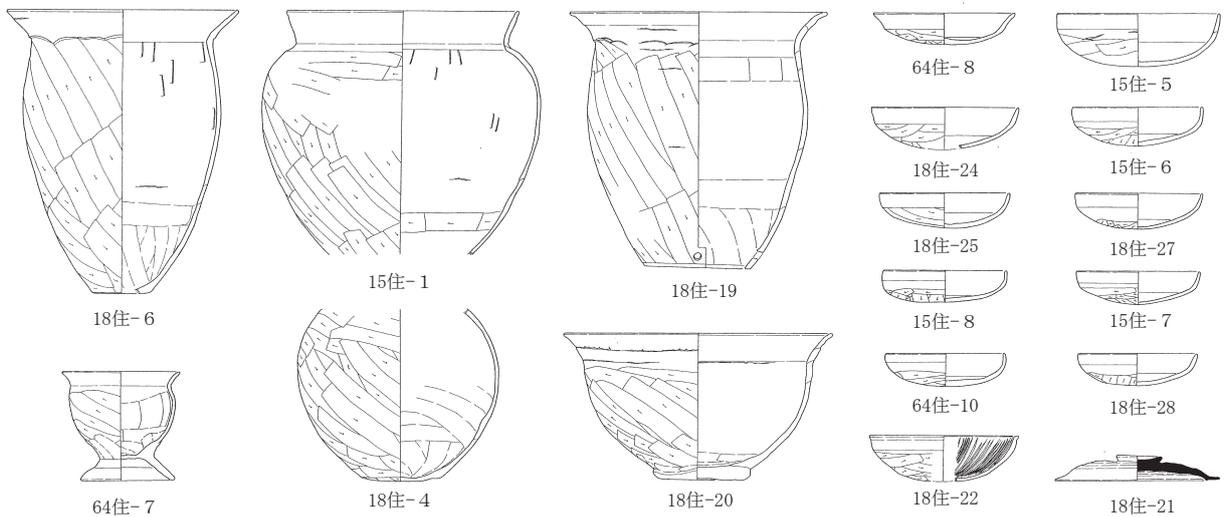
＜第Ⅵ期＞ 第44号住居跡・第49号住居跡・第52号住居跡出土土器などが該当する。器種は、土師器の甕・小形甕・大形甌・皿・坏・暗文付坏と須恵器の坏などが見られる(192図)。甕は、第Ⅴ期に比べて胴部上半がやや張り、胴部外面上半の斜方向篋ケズリが多く見られるようになり、器高が短くなり始める。皿は、前段階と同形態のものであるが、器高がやや低くなり、口縁部の外反が強くなる。坏は、内屈口縁坏の系譜を引くもので、中・小の2タイプがあり、いずれも前段階に比べて口縁部が短く直立ぎみになる。須恵器坏は、大形(70住-3)と小形(44住-3)のものが見られる。このうち大形の坏は、児玉古窯跡群の山崎上ノ北第1号窯跡(恋河内2006)出土の坏(高台付坏)と同じく、底部の外周に1条の沈線を廻らせている。

＜第Ⅶ期＞ 第21号住居跡・第41号住居跡・第36号住居跡・第54号住居跡出土土器などが該当する。器種は、土師器の甕・鉢・坏と須恵器の長頸壺・平瓶・盤・坏蓋・高台付坏・坏などが見られる(第193図)。甕は、長胴甕と胴張甕がある。長胴甕は、胴部外面上半の斜方向篋ケズリが一般化し、口縁部外面上半にヨコナデによる緩い稜や、内面上半に幅広の凹線か段をもつのが特徴的である。胴張甕も長胴甕と類似した口縁部形態を呈するが、胴部形態は最大径を上位にもつもの(54住-1)と中位にもつもの(54住-2・3)がある。鉢は、大形(21住-4)と小形(54住-8)のものがある。坏は、中・小の2タイプがあり、口縁部が第Ⅵ期に比べてやや長めに直立する形態で、体部ケズリの範囲が下がり、口縁部ヨコナデの直下までケズリが及ばないものが一般的である。須恵器坏蓋は、いずれも大形で内側にかえりをもつもので、54住-10は上野産須恵器坏蓋の特徴である環状つまみをもつ。須恵器高台付坏は、貼り付け高台である。

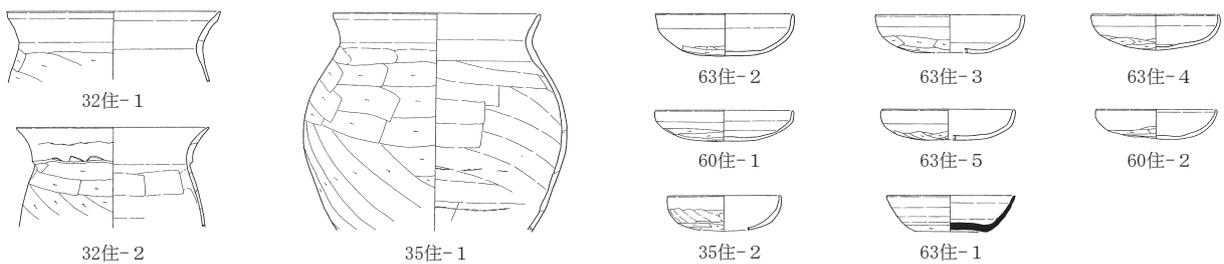
＜第Ⅷ期＞ 第15号住居跡・第18号住居跡・第64号住居跡出土土器などが該当する。器種は、土師器の甕・小形台付甕・大形甌・大形鉢・皿・坏・暗文付坏と須恵器の坏蓋が見られる(第194図)。甕は、長胴甕と胴張甕がある。長胴甕は、第Ⅶ期に比べて胴部がやや張る形態で、口縁部は前段階よりも薄くなり、外面に成形時の粘土紐積み上げ痕を部分的に残すものが多い。口縁部外面上半にはヨコナデによる緩い稜をもつものが多いが、第18号住居跡出土の長胴甕のほとんどは、内面に1条の細い沈線を施すのが特徴的である。胴張甕は、第Ⅶ期と同じく最大径を上位にもつもの(15住-1)と中位にもつもの(18住-1)がある。小形台付甕(64住-7)は、小形甕に直線的に開く比較的大きな台部が付く形

態のものである。大形甑は、古墳時代後期からの系譜を引くもので、7世紀後半～8世紀前半頃では量的に少ないものの、胴部下端に一對の円孔をもつものも多く見られる(18住-19)。大形鉢も古墳時代後期からの系譜を引くものである。18住-20は、底部が分厚い突出底であるが、これは底部を削り落とさなかっただけであり、該期に一般的な底部形態ではない。皿(64住-8)は、かなり法量が小形化している。坏は、第Ⅶ期に比べて口縁部は長くやや開きぎみで、体部は扁平化が進行しケズリの範囲もやや下がりぎみになっている。須恵器坏蓋(18住-21)は、第Ⅶ期と同じく内面にかえりをもつ環状つまみのものであるが、内面のかえりはあまりしっかり突出せず丸みが強く蚯蚓腫れ状に近い。

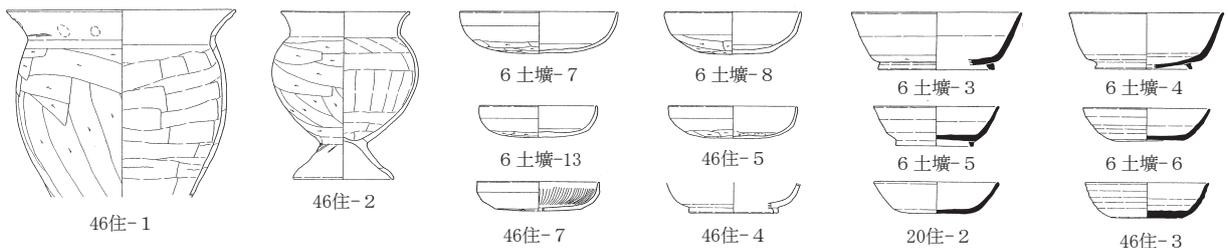
<第Ⅷ期> 第32号住居跡・第35号住居跡・第60号住居跡・第63号住居跡出土土器などが該当する。器種は、土師器の甕・坏と須恵器の坏が見られる(第195図)。甕は、長胴甕と胴張甕がある。長胴甕は、口縁部の外傾が弱くなる。胴張甕も、長胴甕と類似した口縁部形態で、最大径を胴部の中位にもつものである。坏は、前段階に比べて体部がさらに扁平化している。須恵器坏(63住-1)は、口縁部



第194図 第Ⅶ期の土器



第195図 第Ⅷ期の土器

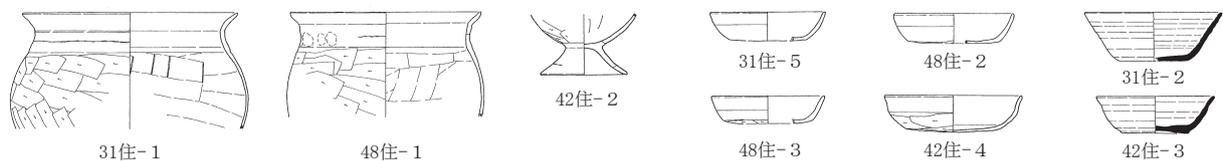


第196図 第Ⅸ期の土器

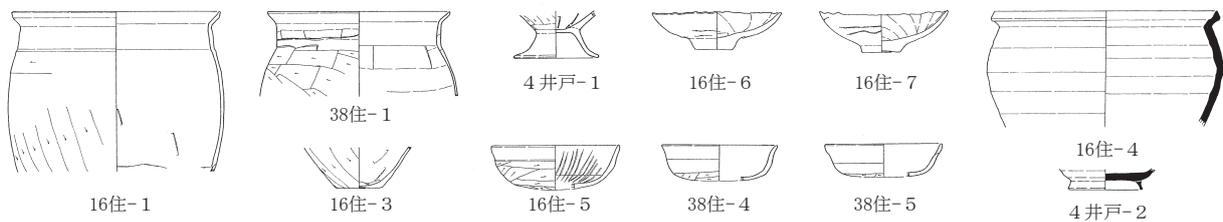
径が13.5cm程度で、底部外面回転糸切り後に外周回転篋ケズリを加えるものである。

＜第X期＞ 第6号土壙・第20号住居跡・第33号住居跡・第46号住居跡出土土器などが該当する。器種は、土師器の甕・小形台付甕・坏・暗文付坏・高台付壙と須恵器の高台付壙・高台付坏・坏が見られる(第196図)。甕は、胴部の張りが強くなり、器高は低くなる。口縁部は、下半がやや立ちぎみになって上半が緩やかに外傾する形態で、いわゆるコの字状口縁甕成立の直前段階の様相に近い。小形台付甕(46住-2)は、口縁部よりも胴部に最大径をもつ形態の小形甕にハの字状に開くやや大きめの台部が付くものである。坏は、体部の扁平化の進行により、体部と底部の境が明確化しつつあるような形態で、体部のケズリの範囲もより下がり底部付近だけになる。暗文付坏(46住-7・8)は、普通の坏よりも器高が若干低く扁平化したような形態の坏に、比較的密で細い線の放射状暗文を施したもので、6土壙-8のような体部が深く口縁部ヨコナデの直下から体部外面の篋ケズリが施される形態の坏も、よく内面に放射状暗文が施されるタイプである。土師器の高台付壙(46住-4)は、ロクロ使用と思われる比較的珍しいものであるが、周辺では該期と近い時期の将監塚・古井戸遺跡H-155号住居跡(赤熊1988)からもロクロ使用の類似した土師器高台付坏が複数出土しており注目される。須恵器高台付壙は、口縁部径が18cmと16cmのもの(6土壙-3・4)で、体部は直線的に開き、底部は回転糸切り後高台貼り付けである。須恵器坏は、口縁部径が13cm強で、底部は回転篋ケズリか回転糸切り後外周篋ケズリを施すものである。

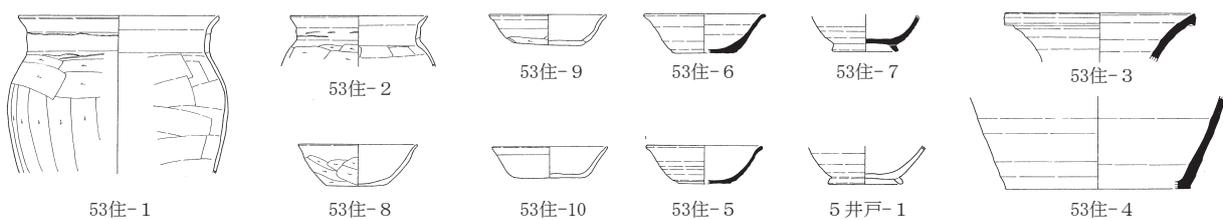
＜第XI期＞ 第31号住居跡・第42号住居跡・第48号住居跡出土土器などが該当する。量的には少ないが、器種は土師器の甕・小形台付甕・坏と須恵器の坏が見られる(第197図)。甕は、口縁部の上半が稜をもってやや長めに外傾する定型化したコの字甕が見られる。おそらくこの定型化したコの字甕



第197図 第XI期の土器



第198図 第XII期の土器



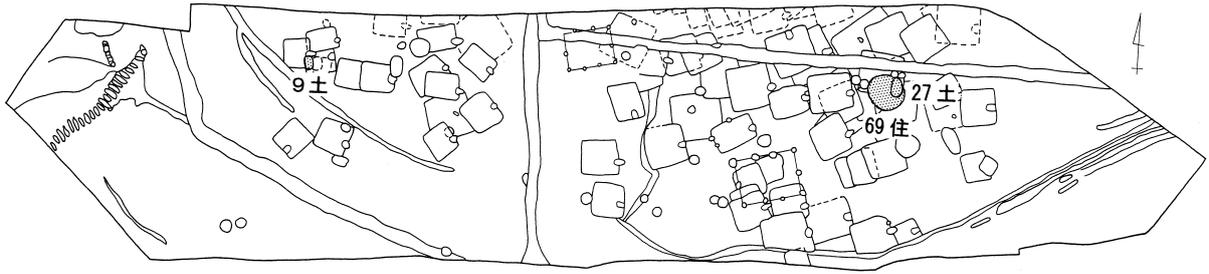
第199図 第XIII期の土器

が出現する時期に近い頃、古墳時代から伝統的に存在していた甕に見られる長胴甕と胴張甕の二者のうち、胴張甕の方が姿を消すものと思われる。小形台付甕(42住-2)は、前段階の第X期よりも台部が小さくなり、台端部がやや強く外反する形態である。坏は、さらに扁平化してほぼ平底化した底部が明確になる。やや大振りの坏(42住-4)は、第X期の6土壙-8の系譜を引くものであるが、これも器高が低くなり体部が扁平化している。須恵器坏は、やや大振りで器高の高いもの(31住-2)と、口縁部径が12cm前後、器高が3.5cm前後で、口縁部が体部からそのまま開く形態もの(31住-3、42住-3)があるが、後者が一般的な形態のもので、底部外面は回転糸切りのままである。

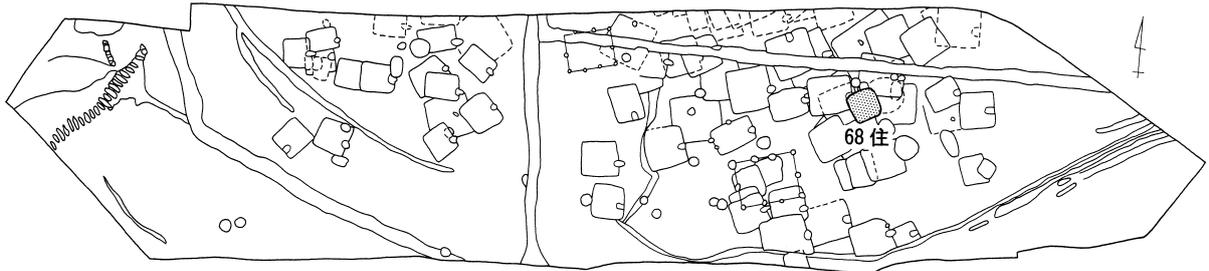
<第XII期> 第16号住居跡・第38号住居跡・第4号井戸跡出土土器などが該当する。量的には少ないが、器種は土師器の甕・小形台付甕・坏・暗文付坏と須恵器の鉢・高台付埴などが見られる(第198図)。甕は、形態的に安定したコの字甕で、口唇部外面に平坦面をもつものが多く見られる。小形台付甕(4井戸-1)は、前段階の第XI期よりもさらに台端部の外反が強い形態になっている。坏は、前段階からの系譜を引くもの(38住-4・5)と、浅い埴状の体部に分厚い突出した平底を付けたような形態のもの(16住-6・7)がある。前者は、前段階に比べて若干器高が深くなり、口縁部が体部から外反ぎみにやや開く一般的な形態である。後者は、あまり例を見ないもので、体部が浅く口縁部が未調整で雑な作りであることから、あるいは蓋の可能性も考えられよう。暗文付坏(16住-5)は、第X期の6土壙-8や第XI期の42住-4の系譜を引くものと思われる。須恵器の高台付埴(4井戸-2)は、高台部が高くスマートな形態で、底部外面回転糸切り後高台部貼り付けである。

<第XIII期> 第53号住居跡・第5号井戸跡出土土器などが該当する。量的には少ないが、器種は土師器の甕・坏と須恵器の坏・高台付埴・甕などが見られる(第199図)。甕は、定型化したコの字甕が崩壊しはじめる前夜段階のコの字甕で、口縁部に見られる上下2段のヨコナデのうち、上半の屈曲部以上の部位のヨコナデの方が重視されるようになることから、口縁部上半の屈曲部にヨコナデによる明瞭な段をもつものが多くなる。坏は、前段階の第XII期からの系譜を引くもの(53住-9・10)と、器高がやや高く、体部外面に篋ケズリが施されるもの(53住-8)がある。前者は、前時期に比べて体部の外傾と口縁部の外反がより強くなっている。後者も、該期によく見られる形態で、内面に放射状暗文が施されるものもある。須恵器坏は、口縁部径が12.5cm程度で、口唇部が外反して玉縁状に肥厚する形態のもので、底部外面は回転糸切りのままである(53住-5・6)。高台付埴は、法量が小さく高台付坏の可能性もあるもので、底部外面回転糸切り後に短くやや太い高台を貼り付けた形態である(53住-7、5井戸-1)。この中の5井戸-1は、酸化焰焼成で高台部の作りも雑なもので、あるいは次期に下がる可能性もある。

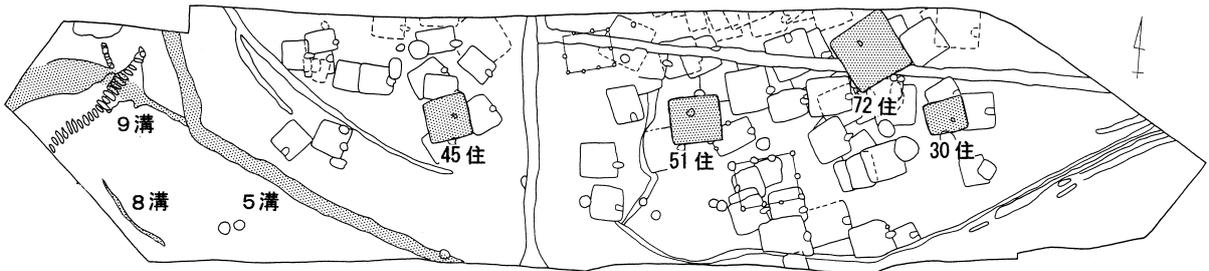
以上のように、七色塚遺跡B1地点から出土した白鳳～平安時代前期の土器を第V～XIII期の9期に区分した。これらは時期が新しくなるにつれて土器量が少なくなり、特に第XI期以降は十分とは言えないやや粗い区分ではあるが、概ねこの9時期は継続的な推移として見ることはできるとは思われる。周辺遺跡の時期区分と年代比定(鈴木1984、赤熊1988、篠崎1992、田中・末木1997、福田2002)を参考にすると、大雑把ではあるが第V期と第VI期が7世紀後半、第VII期が7世紀末～8世紀初頭、第VIII期が8世紀前半、第IX期が8世紀後半、第X期が8世紀末、第XI期が9世紀前半、第XII期が9世紀後半、第XIII期が9世紀末頃にほぼ比定できよう。(恋河内昭彦)



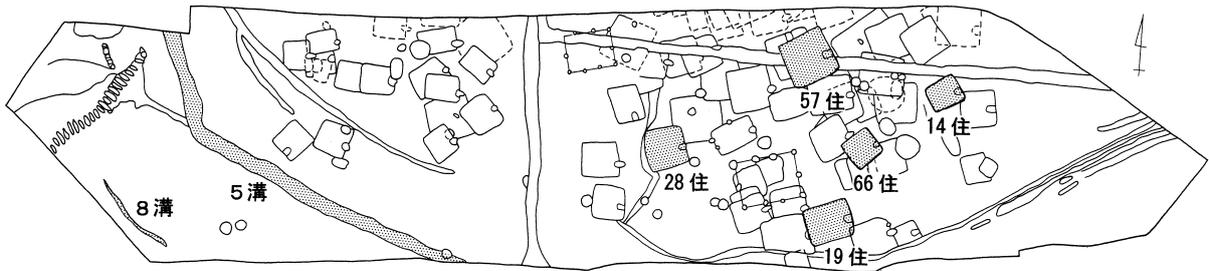
縄文時代中期(加曾利EⅢ・Ⅳ式)



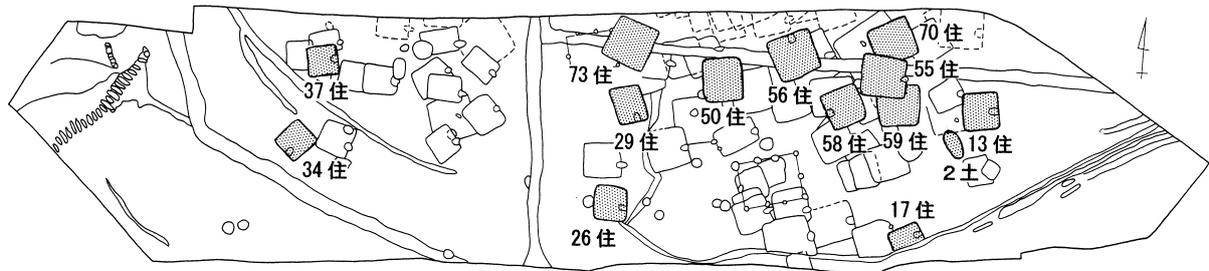
I期



II期

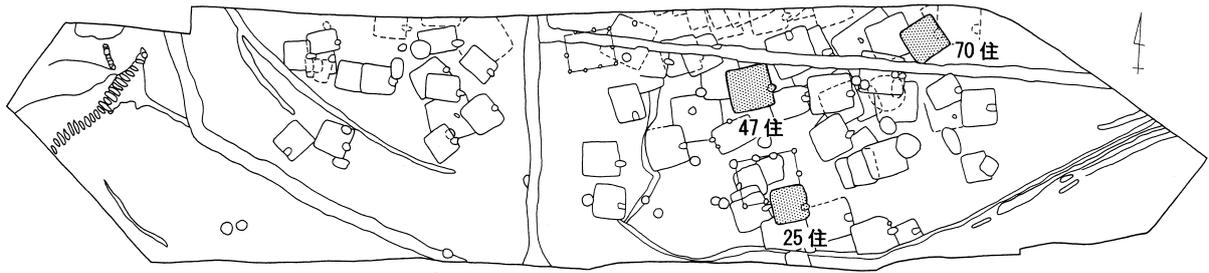


III期

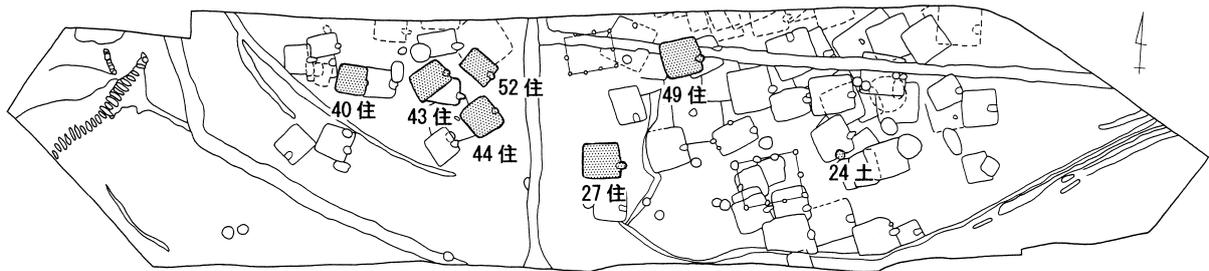


IV期

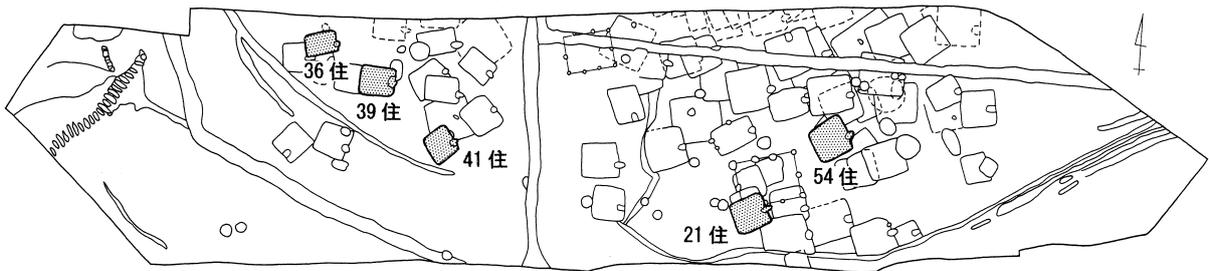
第200図 B1地点時期別遺構配置図(1)



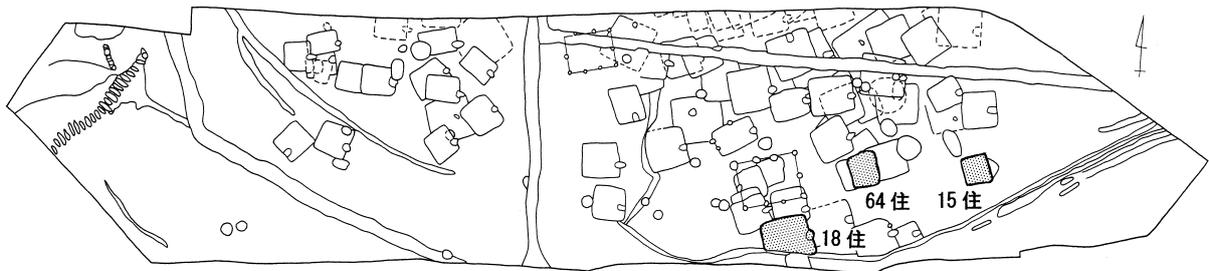
V期



VI期



VII期

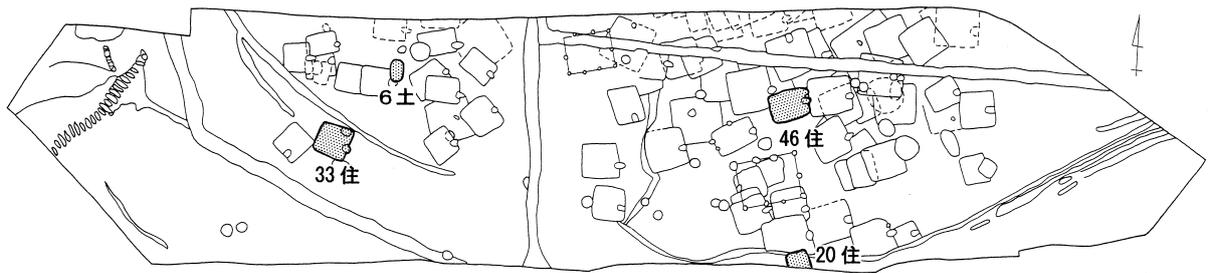


VIII期

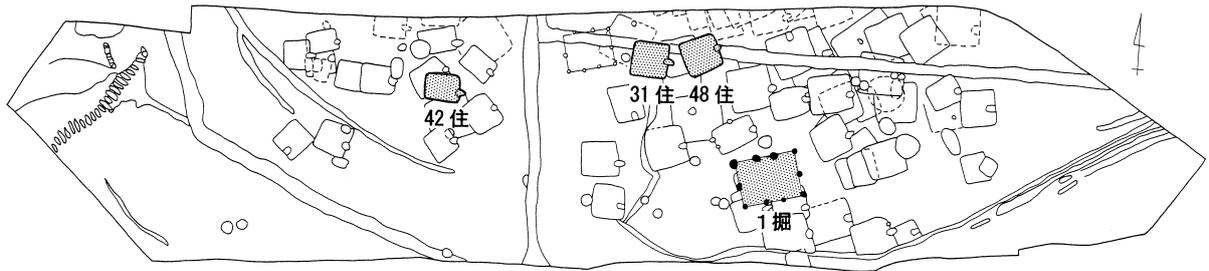


IX期

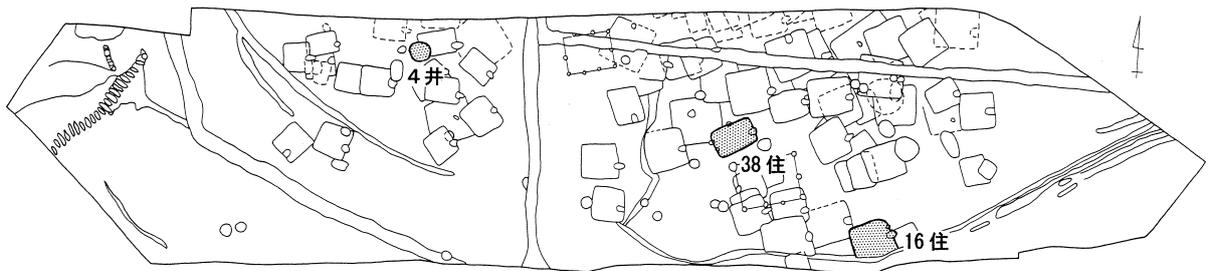
第201図 B1地点時期別遺構配置図(2)



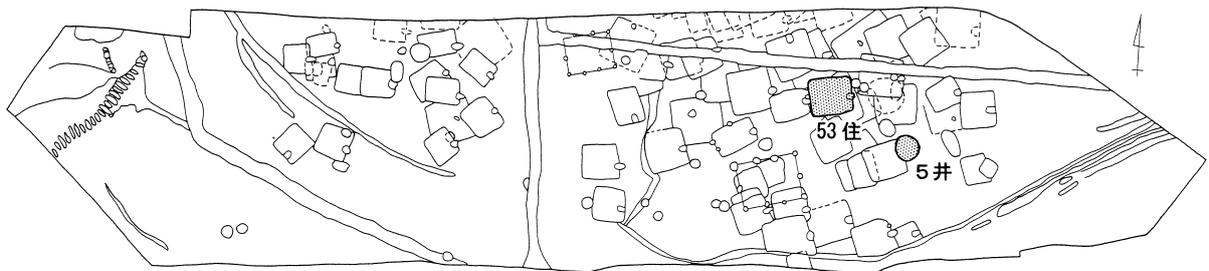
X期



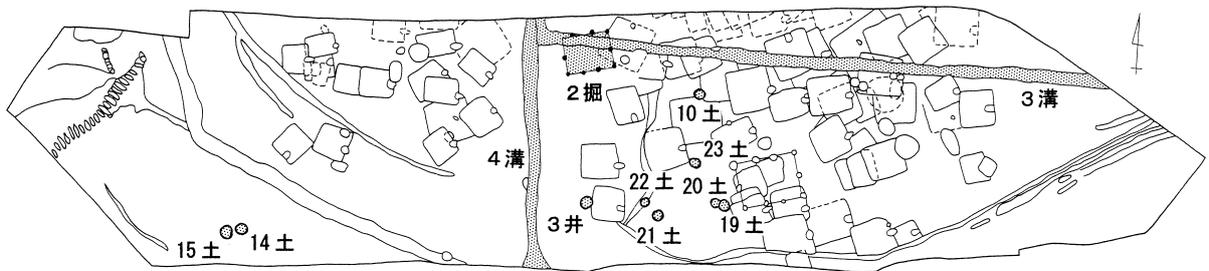
XI期



XII期



XIII期



中世

第202図 B1地点時期別遺構配置図(3)

<引用・参考文献>

- 赤熊 浩一 (1988) 『将監塚・古井戸 一歴史時代編Ⅱ一』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第71集
- 太田 博之 (2003) 『市内遺跡発掘調査報告書 宥勝寺裏埴輪窯跡・宥勝寺北裏』 本庄市埋蔵文化財調査報告第26集
- 太田 博之 他 (1991) 『本庄遺跡群発掘調査報告書Ⅴ 一公卿塚古墳一』 本庄市埋蔵文化財調査報告第19集
- 柿沼 幹夫 他 (1979) 『下田・諏訪』 埼玉県遺跡発掘調査報告書第21集
- 恋河内昭彦 (1993) 『川越田遺跡Ⅱ』 児玉町遺跡調査会報告書第5集
- (1995) 『飯玉東Ⅱ・高縄田・樋越・梅沢Ⅱ・東牧西分・鶴蒔・毛無し屋敷・石橋』 児玉町文化財調査報告書第17集
- (1996) 『辻堂遺跡Ⅰ』 児玉町文化財調査報告書第19集
- (1997) 『城の内・日延・東田・浅見境北遺跡』 児玉町文化財調査報告書第23集
- (2003) 『大久保遺跡(B地点の調査)』 児玉町遺跡調査会報告書第14集
- (2005) 『後張遺跡Ⅲ(C地点の調査)』 児玉町遺跡調査会報告書第20集
- (2006) 「児玉古窯跡群」『古代武蔵国の須恵器流通と地域社会』 埼玉考古学会
- 小久保 徹 他 (1978) 『東谷・前山2号墳・古川端』 埼玉県遺跡発掘調査報告書第16集
- 坂本 和俊 (1984) 「埼玉県」『古墳時代土器の研究』 古墳時代土器研究会
- 篠崎 潔 (1992) 『皂樹原・檜下遺跡Ⅳ(奈良・平安時代編3)』 皂樹原・檜下遺跡調査会報告書第4集
- 鈴木 徳雄 (1984) 「いわゆる北武蔵系土師器坏の動態」『土曜考古』第9号 土曜考古学研究会
- 鈴木 三男 (2002) 「縄文時代の巨木文化とクリ」『日本人と木の文化』 P117-144, 八坂書房
- 鈴木三男・能城修一・植田弥生(1984) 「加工木の樹種」『寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書(分析調査・考察・総括)』 P699-724, 埼玉県教育委員会
- 田中広明・末木啓介(1997) 『中堀遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第190集
- 千野 裕道 (1991) 「縄文時代に二次林はあったかー遺跡出土の植物遺物からの検討ー」『東京都埋蔵文化財センター研究論集Ⅹ』 P215-249, 東京都埋蔵文化財センター
- 中村 倉司 (1979) 「児玉郡における鬼高式土器の編年について」『宇佐久保遺跡』 埼玉県遺跡調査会報告書第38集
- (1984) 「器種組成の変遷と時期区分」『土曜考古』第9号 土曜考古学研究会
- 橋本博文・佐々木幹雄 他(1980) 『宥勝寺北裏遺跡』 宥勝寺北裏遺跡調査会
- 坂野和信・富田和夫(1996) 「飛鳥時代の関東と畿内」『東アジアにおける古代国家成立期の諸問題』 国際古代史シンポジウム実行委員会
- 平井 信二 (1996) 「ヤマグワ」『木の百科』 P195-197, 朝倉書店
- 福田 聖 (2002) 『大寄遺跡Ⅱ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第280集
- 増田 一裕 (1985) 『本庄遺跡群発掘調査報告書 一久下東遺跡・遺構編一』 本庄市埋蔵文化財調査報告第7集

- (1987) 『東富田遺跡群発掘調査報告書』 本庄市埋蔵文化財調査報告第10集
- (1989) 『四方田・後張遺跡群発掘調査報告書』 本庄市埋蔵文化財調査報告第14集
- (2002) 「消滅した男堀川条里型地割について」『土曜考古』第26号 土曜考古学研究会
- 町田 洋・新井房夫 (2003) 『新編火山灰アトラス—日本列島とその周辺—』P336, 東京大学出版会
- 松本 完 (2002) 『久下前遺跡第3地点発掘調査報告書』 本庄市埋蔵文化財調査報告第25集
- 松本 完 他 (2002) 『大久保山遺跡浅見山I地区(第2次)・北堀前山古墳群(第2・3次)発掘調査報告書』 本庄市遺跡調査会報告第6集
- 宮脇 昭 (1977) 「二次林I クヌギ-コナラ林」『日本の植生』 P94-99, 学習研究社
- 山田 昌久 (1993) 「日本列島における木質出土遺跡文献集成—用材からみた人間・植物関係史」『植生史研究』特別第1号 P242, 日本植生史学会

写 真 图 版



七色塚遺跡B地点全景(西より)



七色塚遺跡B地点全景(東より)



B地点調査区西側(西より)



B地点調査区東側(東より)



B地点調査区西側(上より)



B地点調査区中央部(上より)



B地点調査区東側(上より)



B地点調査風景



第 13 号住居跡



第 13 号住居跡カマド



第 13 号住居跡遺物出土状態 (1)



第 13 号住居跡遺物出土状態 (2)



第 14 号住居跡



第 14 号住居跡カマド



第 14 号住居跡遺物出土状態



第 13・14 号住居跡



第 15 号住居跡



第 15 号住居跡遺物出土状態



第 16 号住居跡



第 16 号住居跡カマド



第 17 号住居跡



第 17 号住居跡遺物出土狀態



第 17 号住居跡カマド遺物出土状態



第 17 号住居跡カマド



第 18 号住居跡



第 18 号住居跡遺物出土狀態



第 18号 住居跡カマド



第 18号住居跡貯蔵穴



第 19 号住居跡



第 19 号住居跡カマド遺物出土状態



第 19 号住居跡カマド



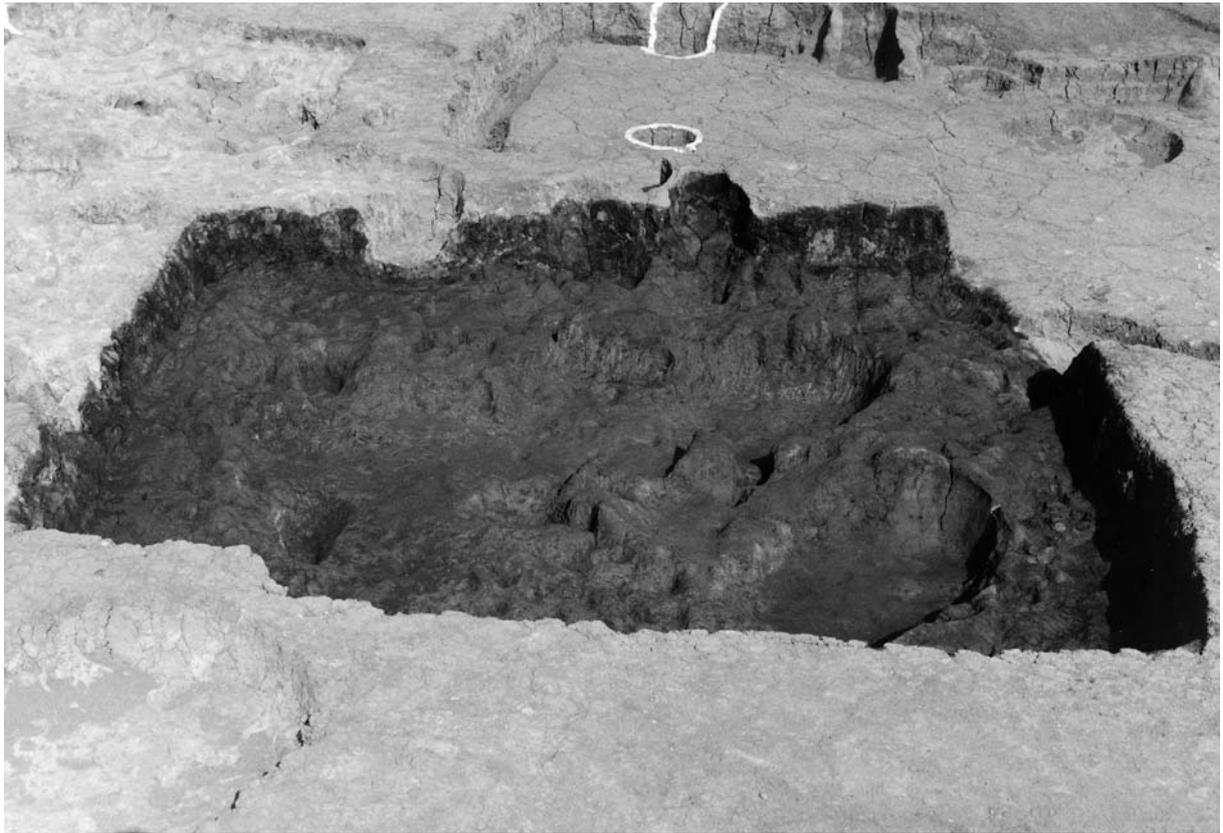
第 20 号住居跡



第 21・22 号住居跡



第 21 号住居跡カマド



第 21・22 号住居跡掘り方



第 23・24 号住居跡掘り方



第 25 号住居跡



第 25 号住居跡カマド遺物出土状態



第 26 号住居跡



第 26 号住居跡カマド



第 27 号住居跡



第 27 号住居跡カマド



第 28 号住居跡



第 28 号住居跡炭化材出土状態



第 28 号住居跡カマド遺物出土状態



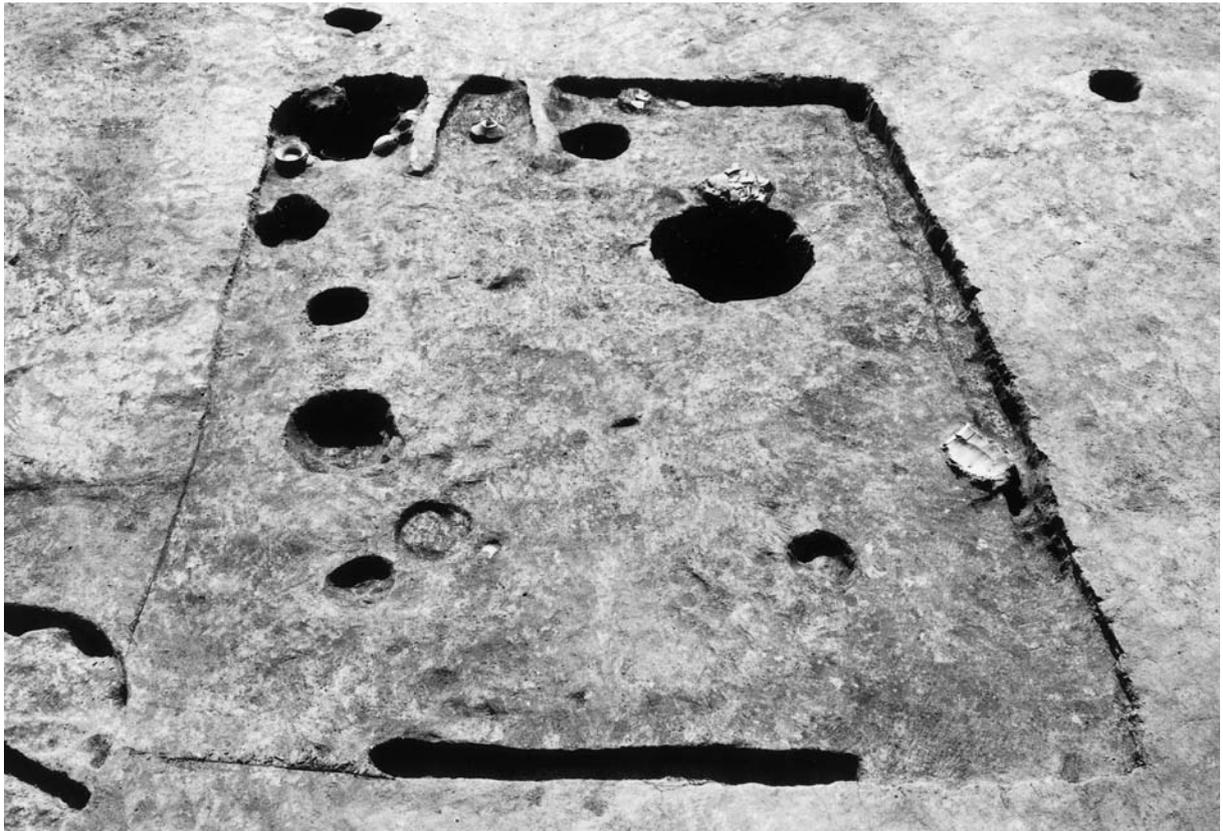
第 28 号住居跡カマド



第 28 号住居跡貯藏穴 (P 1) 遺物出土状態



第 28 号住居跡貯藏穴 (P 1)



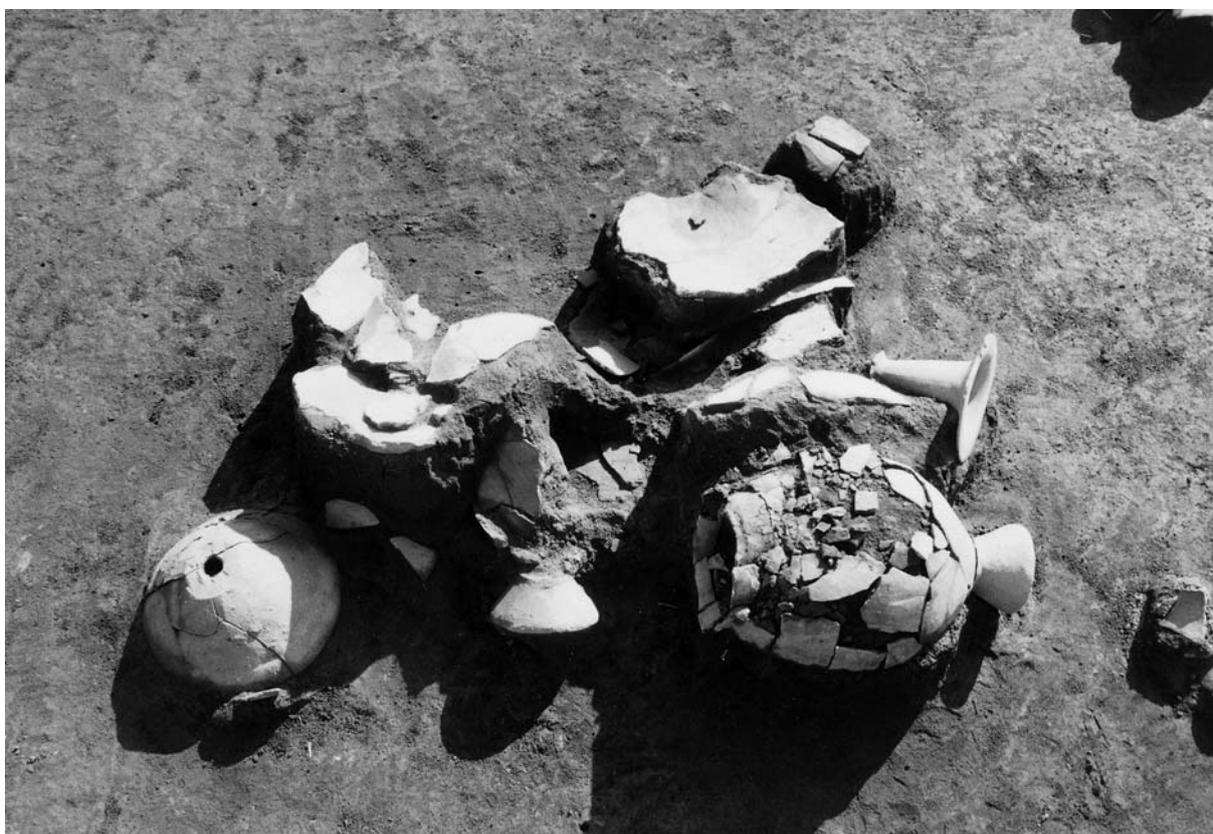
第 29 号住居跡



第 29 号住居跡カマド



第 30 号住居跡



第 30 号住居跡遺物出土状态



第 31・32 号住居跡



第 31 号住居跡カマド



第 32 号住居跡遺物出土状態



第 32 号住居跡床下粘土土壤



第 33 号住居跡



第 33 号住居跡カマド



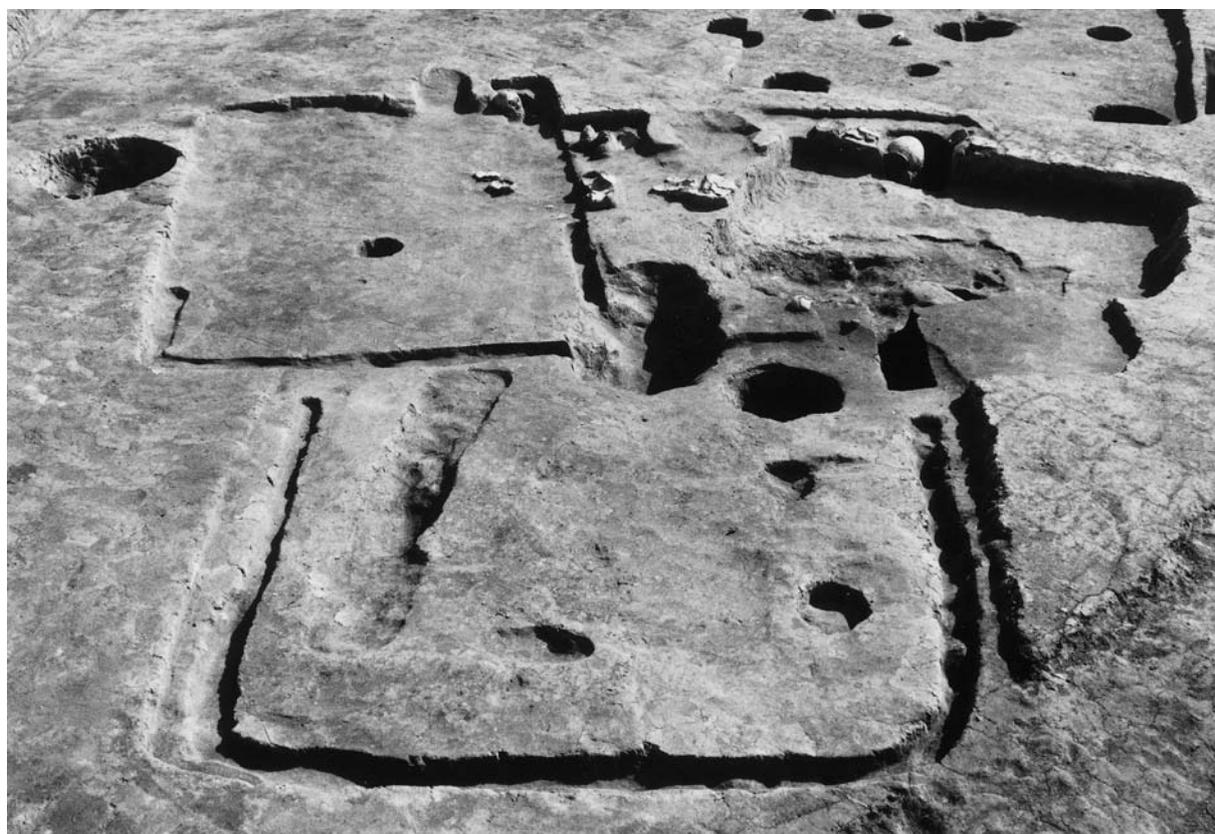
第 34 号住居跡



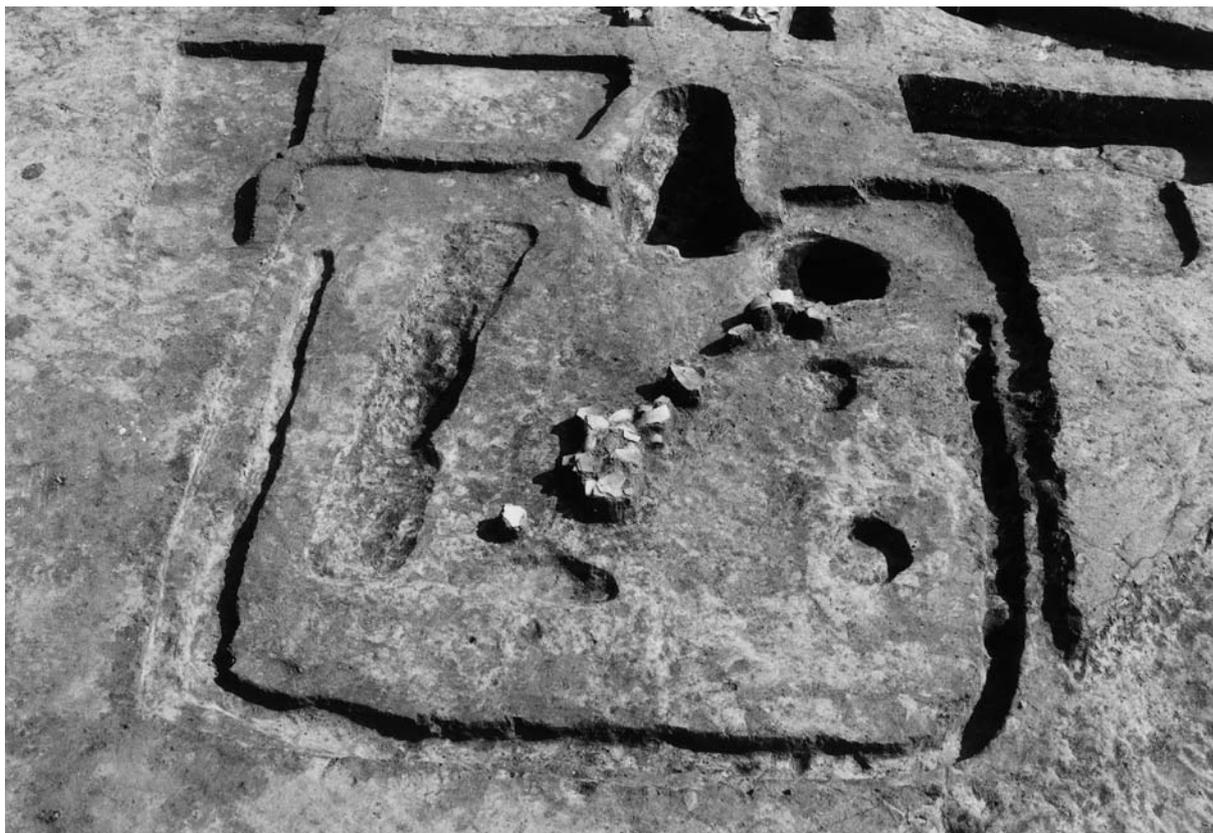
第 34 号住居跡カマド



第 33 · 34 号住居跡



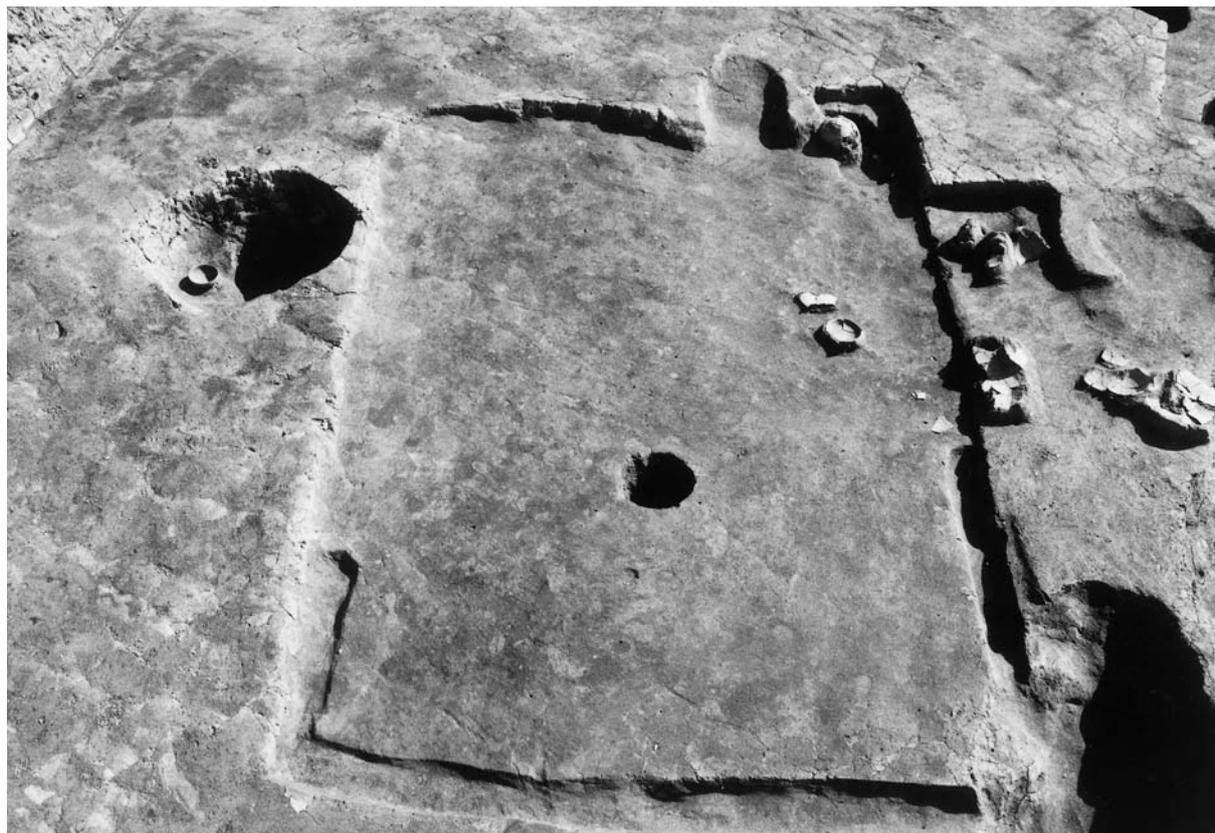
第 35 · 36 · 37 号住居跡



第 35 号住居跡



第 35 号住居跡カマド



第 36 号住居跡



第 36 号住居跡カマド



第 37 号住居跡



第 37 号住居跡カマド



第 38 号住居跡



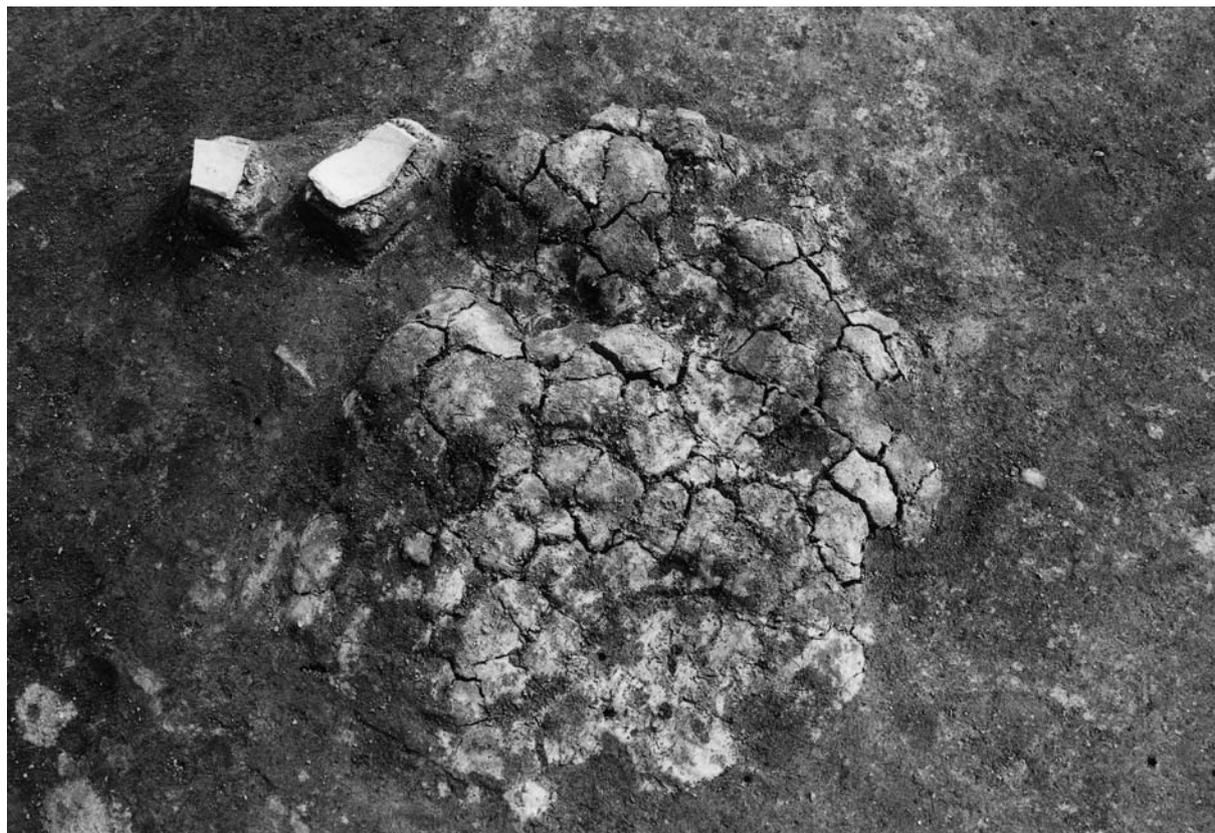
第 38 号住居跡カマド



第 39 号住居跡



第 39 号住居跡カマド



第 39 号住居跡床面上粘土塊



第 40 号住居跡



第 41 号住居跡



第 41 号住居跡カマド



第 42 号住居跡



第 42 号住居跡カマド



第 43 号住居跡



第 43 号住居跡カマド



第 44 号住居跡



第 44 号住居跡カマド



第 44 号住居跡貯藏穴



第 45 号住居跡



第 46 号住居跡



第 46 号住居跡カマド



第 47 号住居跡



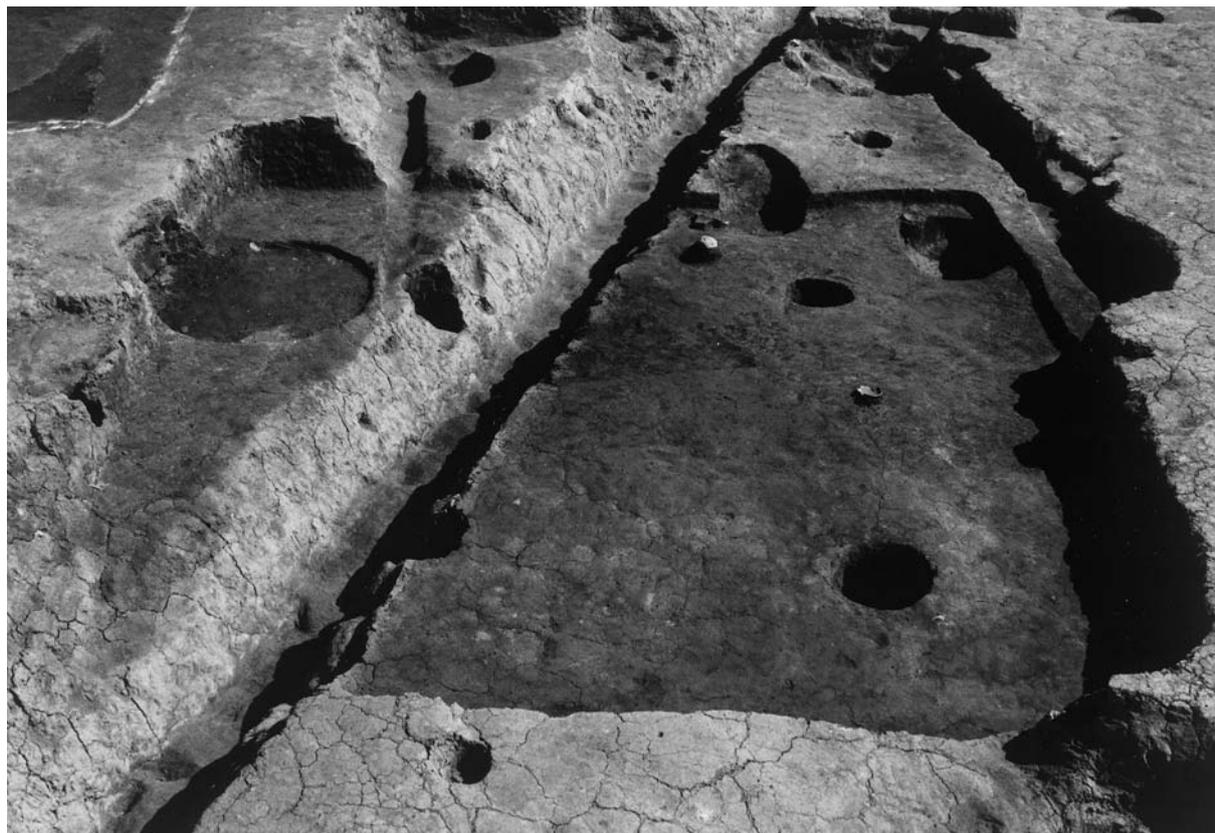
第 47 号住居跡カマド



第 48 号住居跡



第 48 号住居跡カマド



第 49 号住居跡



第 49 号住居跡カマド



第 50 号住居跡



第 50 号住居跡遺物出土狀態



第 50 号住居跡土堤



第 50 号住居跡土堤内ピット



第 51 号住居跡



第 52 号住居跡



第 52 号住居跡カマド



第 52 号住居跡集石出土状態



第 53 号住居跡



第 53 号住居跡カマド



第 54 号住居跡



第 54 号住居跡カマド



第 55 号住居跡



第 55 号住居跡カマド



第 56 号住居跡



第 56 号住居跡カマド



第 57 号住居跡



第 57 号住居跡カマド



第 58 号住居跡



第 59 号住居跡



第 60 号住居跡



第 60 号住居跡カマド



第 63 · 64 · 65 号住居跡



第 66 号住居跡



第 68 号住居跡



第 68 号住居跡炉



第 69 号住居跡



第 69 号住居跡炉



第 69 号住居跡埋甕



第 70 · 71 · 72 号住居跡



第 70 号住居跡



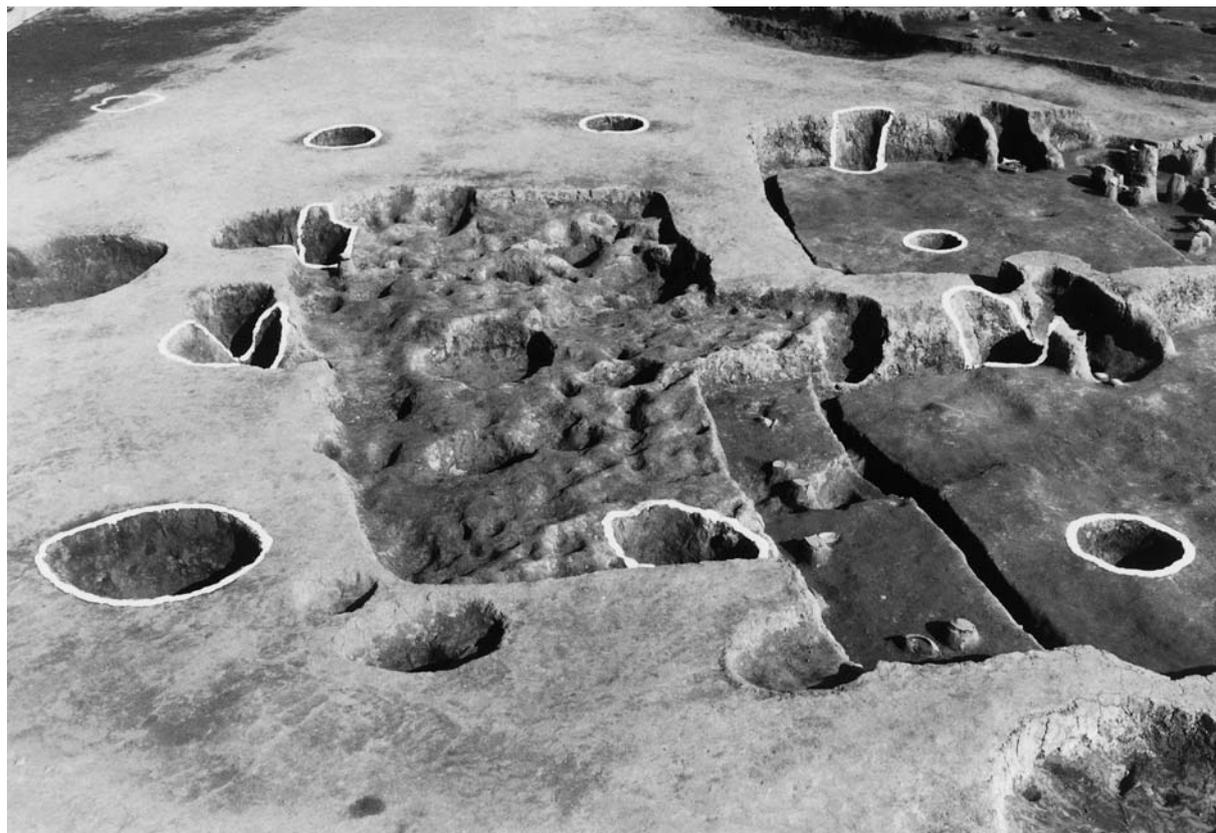
第 71 号住居跡



第 72 号住居跡



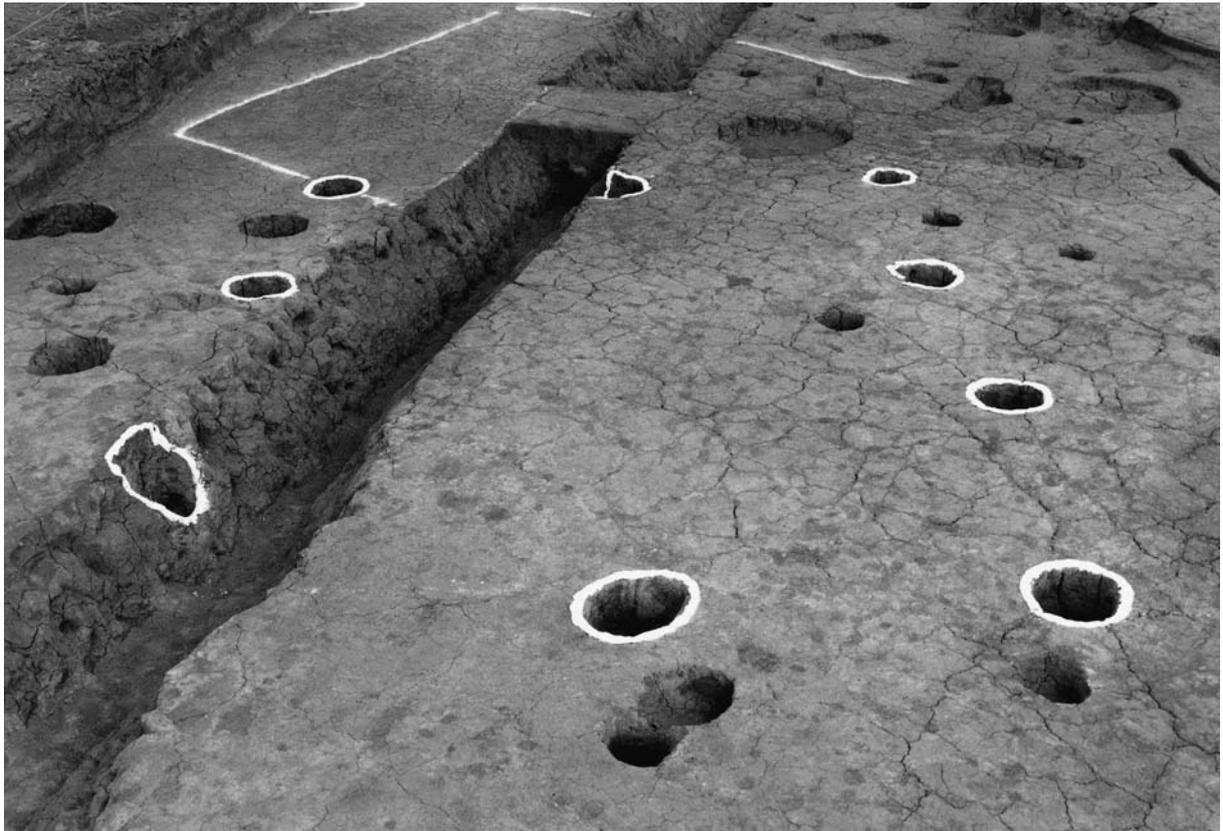
第 73 号住居跡



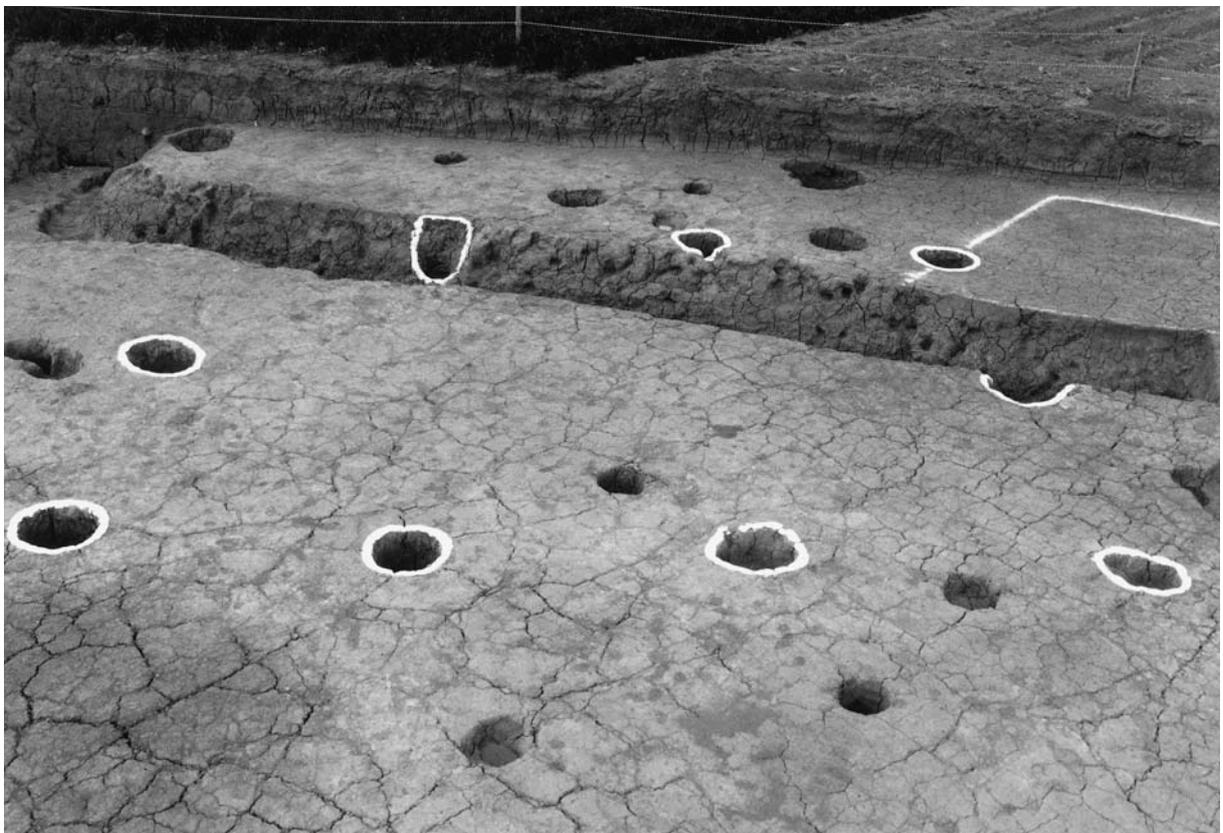
第 1 号掘立柱建物跡



第 1 号掘立柱建物跡鉄製刀子出土状態



第2号掘立柱建物跡(西より)



第2号掘立柱建物跡(南より)



第 2 号井戸跡



第 3 号井戸跡



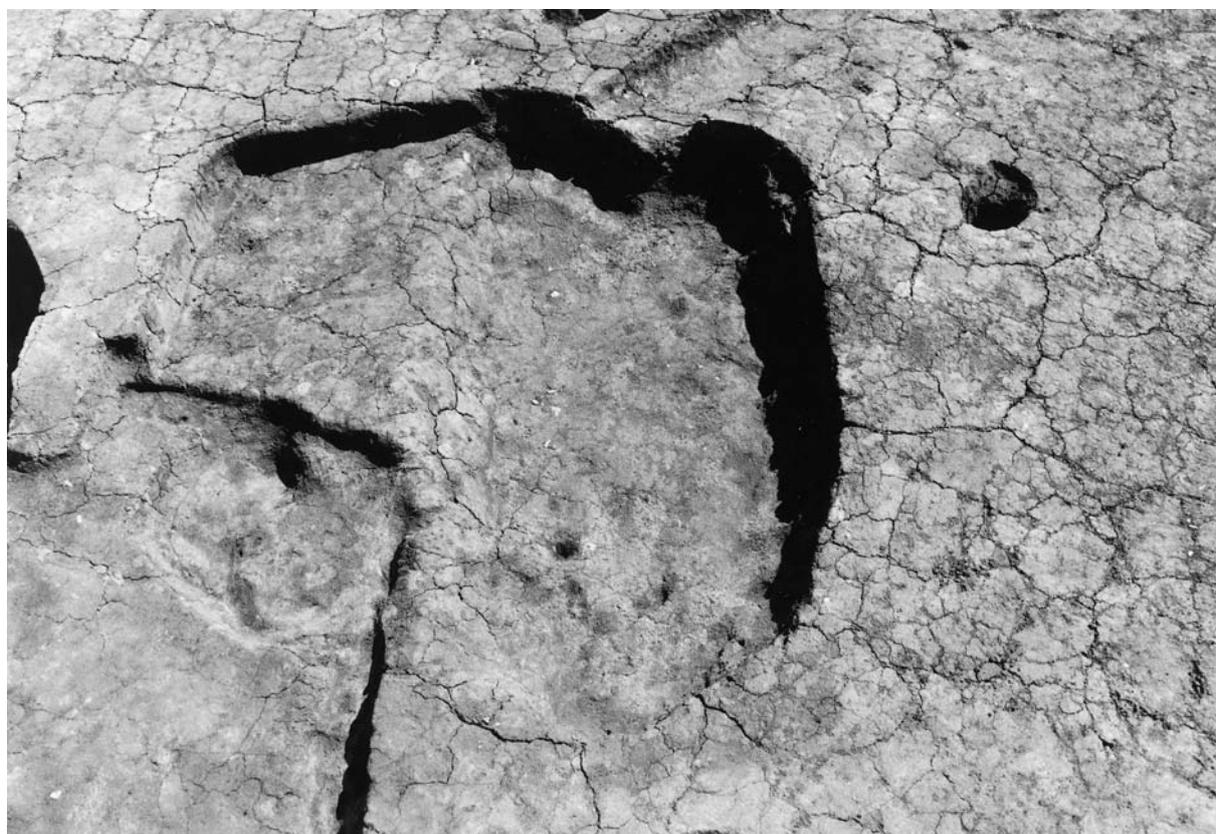
第 5 号井戸跡



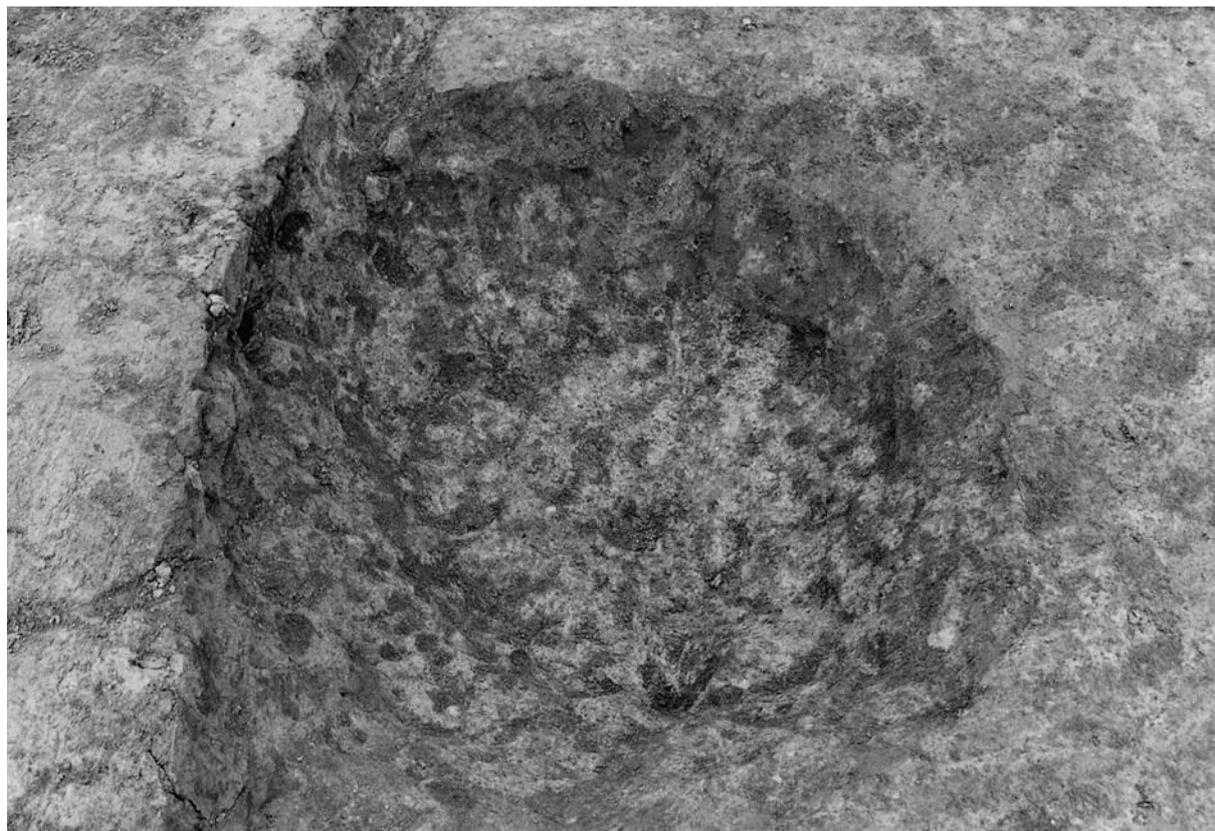
第 1 号土坑



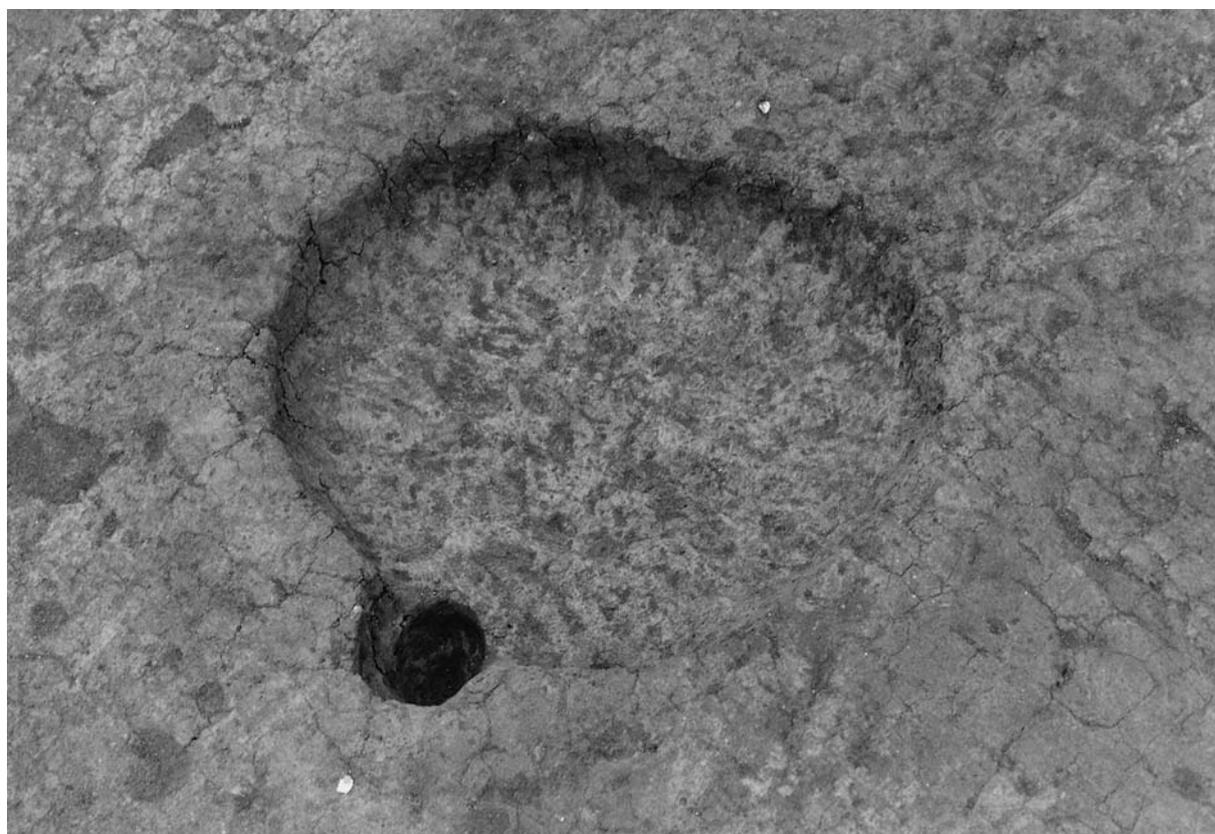
第 2 号土壙



第 3 号土壙



第 4 号土坑



第 5 号土坑



第 6 号土壙遺物出土狀態



第 6 号土壙



第 8 号土壤



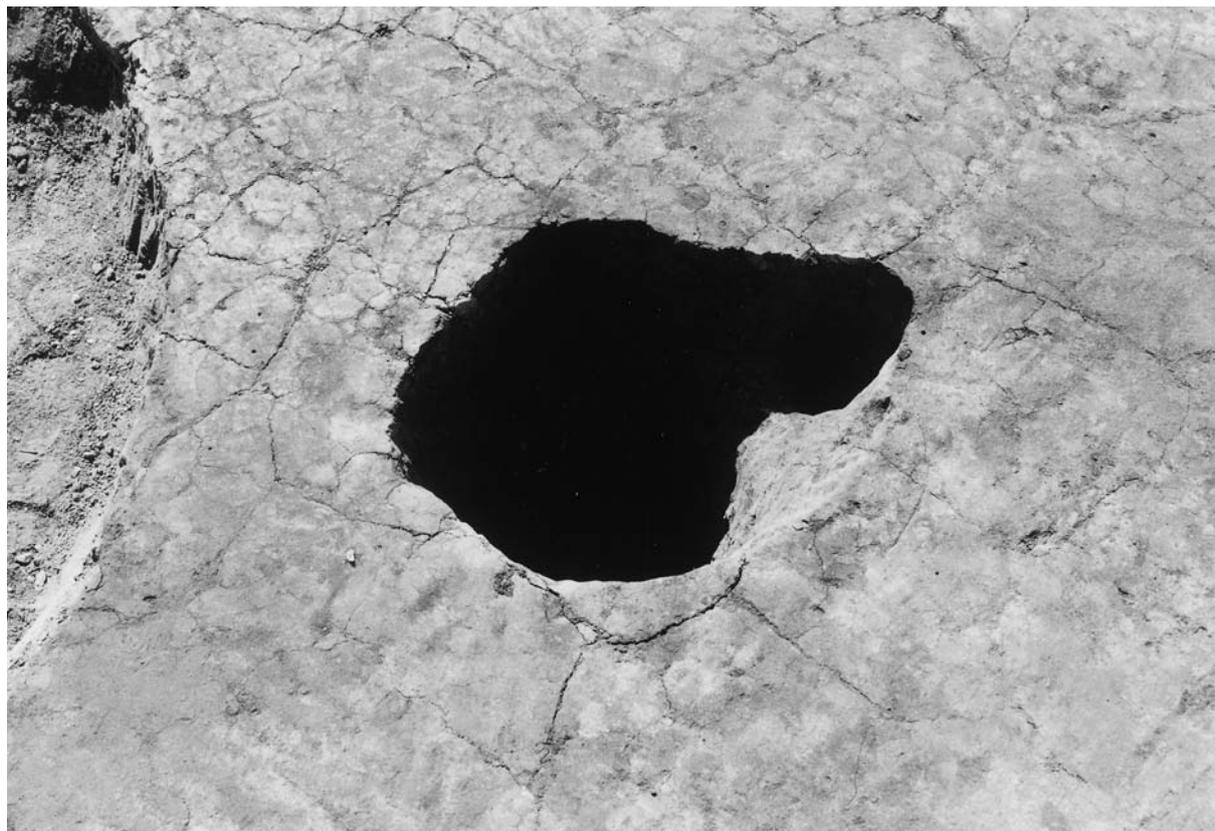
第 9 号土壤



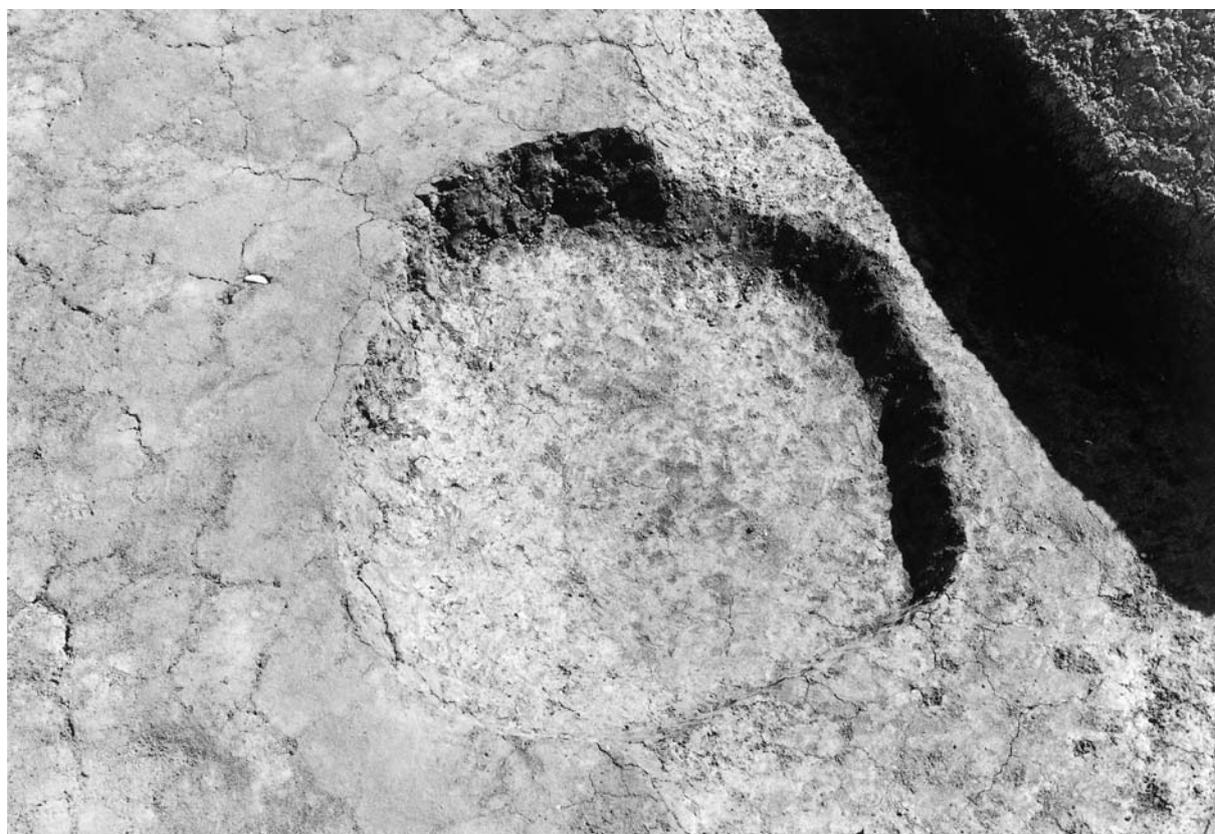
第 10 号土坑



第 11 号土坑



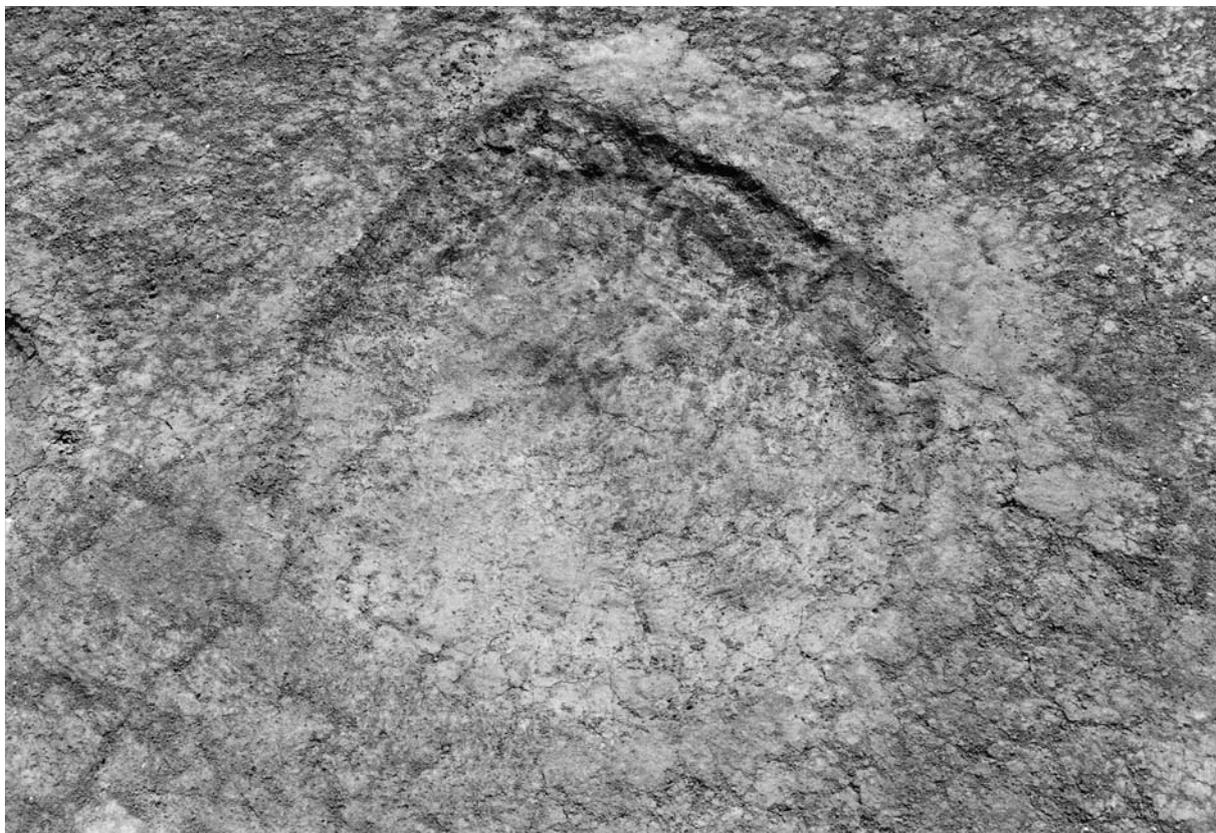
第 12 号土坑



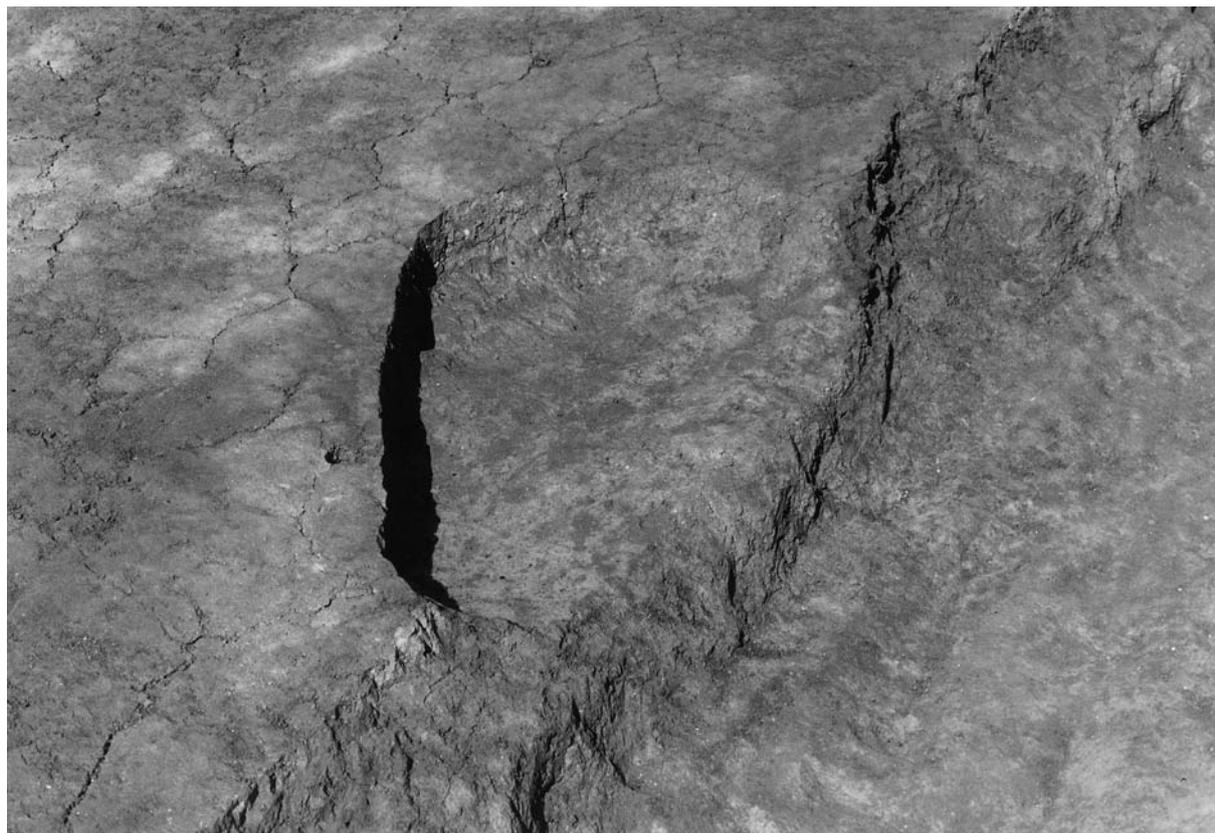
第 13 号土坑



第 14 号土壤



第 15 号土壤



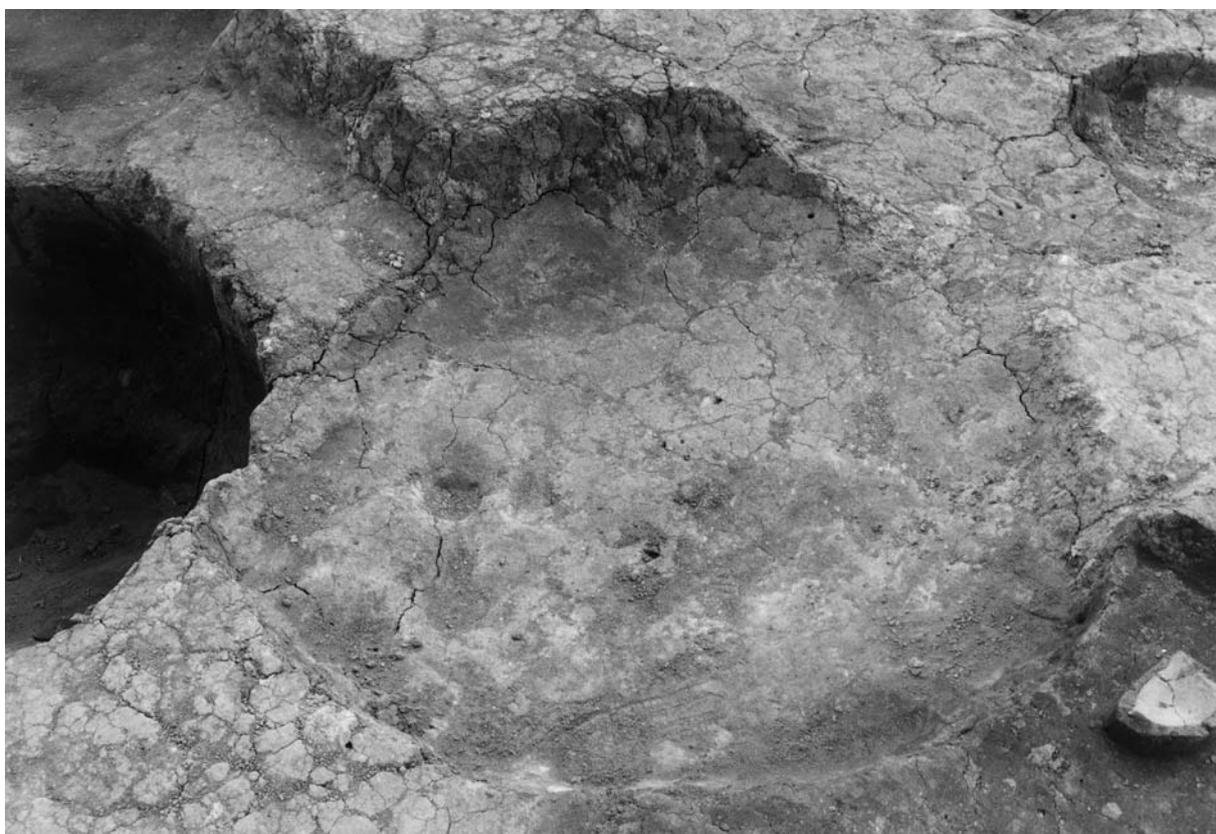
第 16 号土壤



第 17 · 18 号土壤



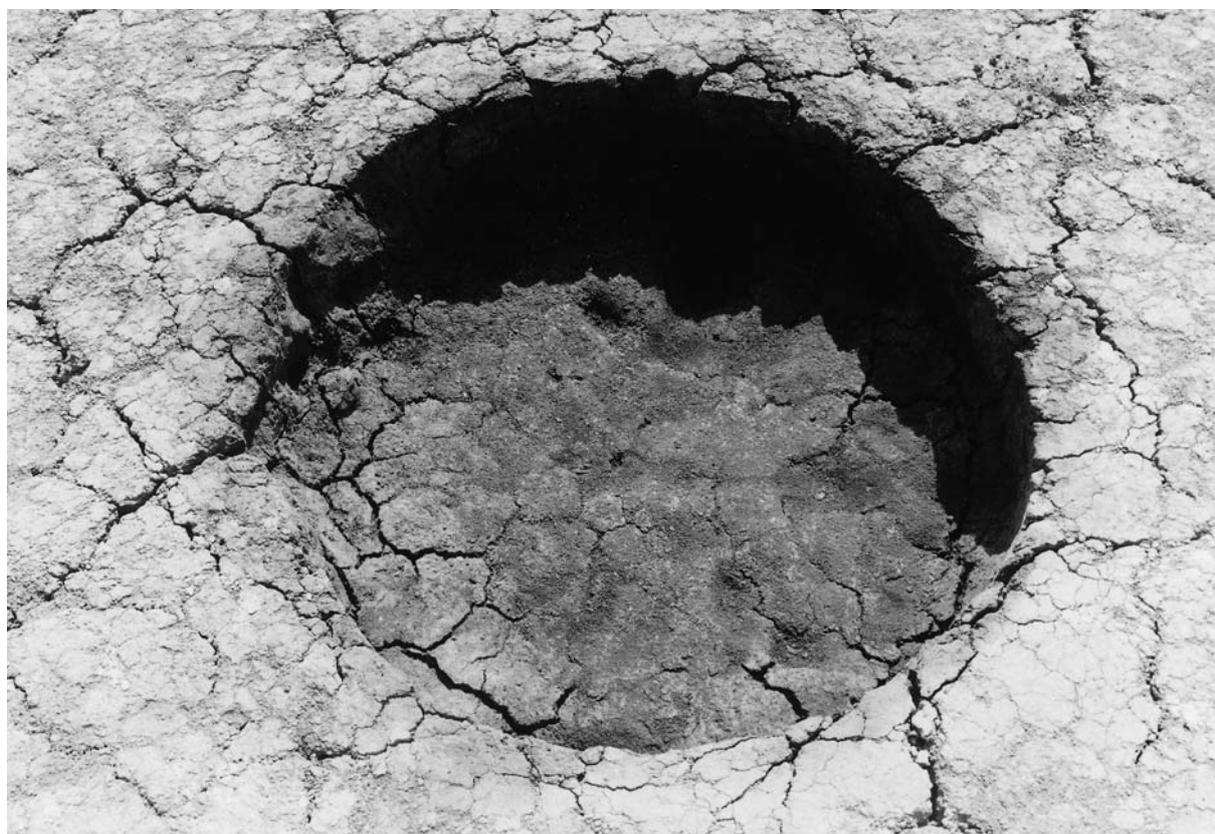
第 17 号土壙



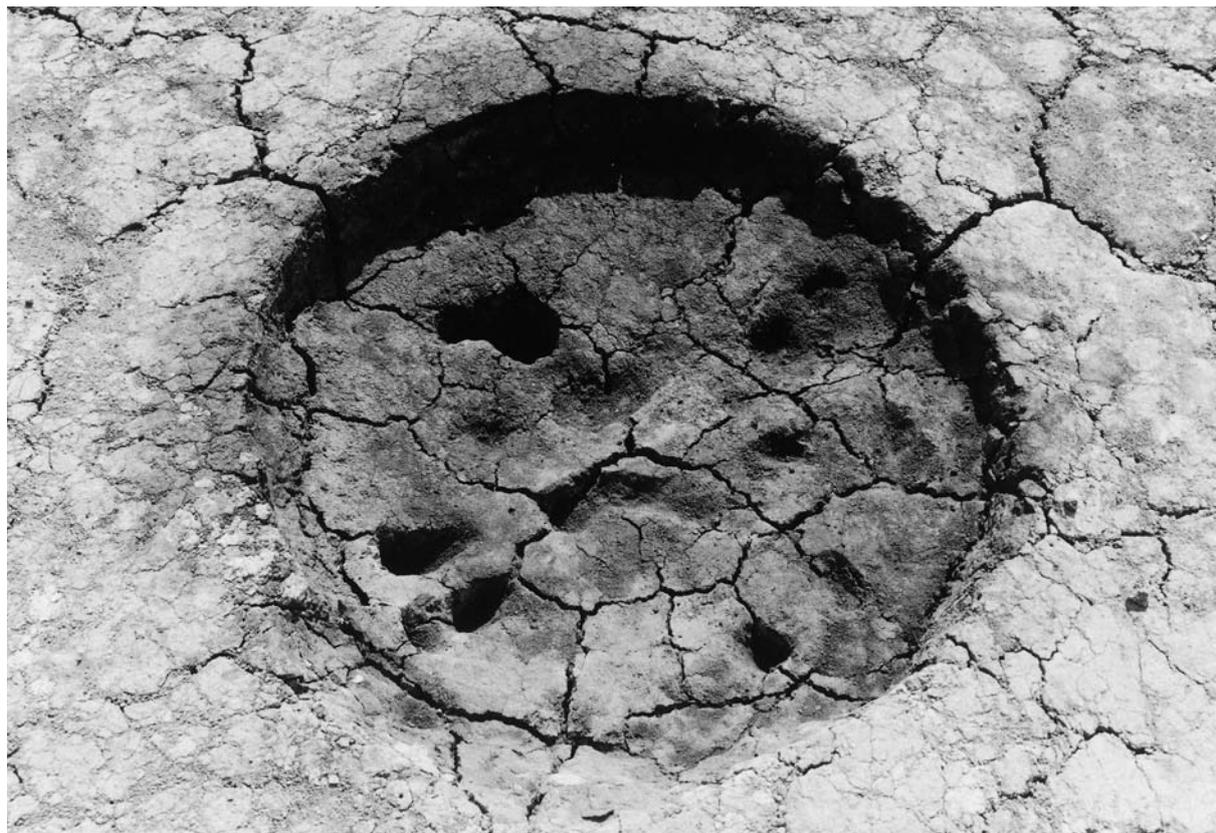
第 18 号土壙



第 19 · 20 号土壙



第 21 号土壙



第 22 号土坑



第 24 号土坑



第 25 号土坑



第 26 号土坑



第 27 号土坑



第 1・2 号道路状遺構



第 1 · 2 号溝跡



第 2 号溝跡



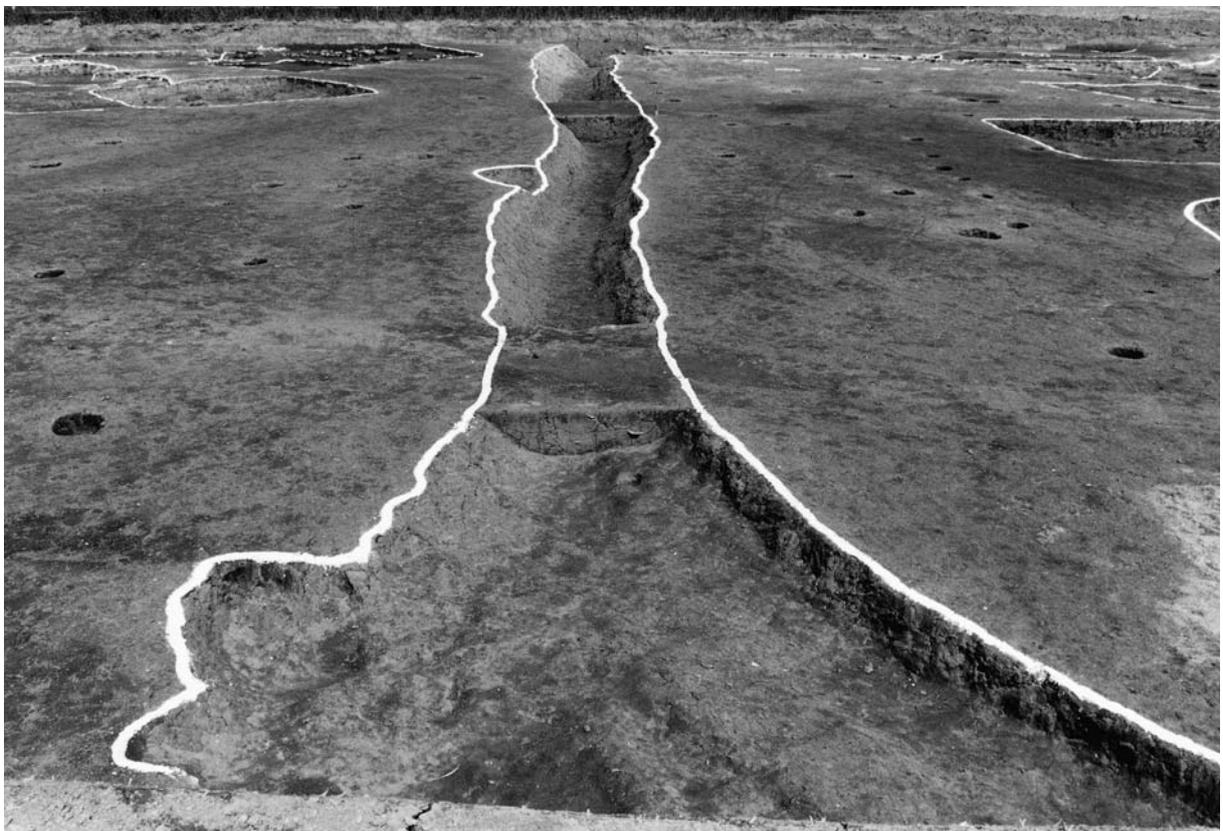
第3号溝跡(東より)



第3号溝跡(西より)



第 4 号溝跡(北より)



第 4 号溝跡(南より)



第 4 号溝跡馬歯出土状態



第 3・4 号溝跡土層断面



第5号溝跡(北より)



第5号溝跡(東より)



調査区東端黑色包含層



調査区東端黑色包含層



13住-1



13住-2



13住-3



13住-4



13住-5



13住-6



13住-7



13住-8



13住-9



13住-10



13住-11



13住-12



13住-13



13住-14



13住-15



13住-17



13住-18



13住-19



13住-20



13住-22



13住-23



13住-24



13住-25



13住-26



13住-27



13住-28



13住-29



13住-30



13住-31



13住-32



13住-33



13住-34



13住-35



14住-1



14住-2



14住-3



14住-4



14住-5



14住-6



14住-7



14住-8



14住-9



14住-10



14住-11



14住-12



14住-13



14住-14



14住-15



14住-16



14住-17



14住-18



14住-19



14住-20



14住-21



14住-22



14住-23



14住-24



14住-25



14住-26



14住-27



14住-28



14住-29



14住-30



14住-31



14住-32



14住-33



14住-34



14住-35



14住-36



14住-37



14住-38



14住-39



14住-40



14住-41



14住-42



14住-43



14住-44



14住-45



14住-46



14住-47



14住-48



14住-49



15住-2



15住-5



15住-6



15住-8



16住-5



16住-6



16住-7



17住-1



17住-3



17住-4



17住-5



17住-6



17住-7



17住-8



17住-11



17住-12



17住-13



17住-14



17住-15



17住-16



18住-1



18住-2



18住-3



18住-6



18住-7



18住-8



18住-9



18住-10



18住-11



18住-12



18住-13



18住-19



18住-20



18住-21



18住-23

住居跡出土土器 (6)



18住-24



18住-25



18住-27



18住-28



18住-31



18住-32



19住-1



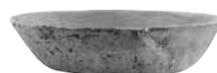
19住-2



19住-4



20住-1



20住-2



21住-3



21住-7



21住-8



21住-9



21住-10



21住-11



21住-12



21住-13



22住-2



22住-4



24住-1



25住-1



25住-2



25住-3



26住-1



26住-2



26住-3



26住-4



26住-5



26住-6



26住-7



26住-8



26住-9



26住-10



26住-11



26住-12



26住-13



26住-14



26住-15



26住-16



26住-17



28住-1



28住-2



28住-4



28住-5



28住-6



28住-7



28住-8



28住-9



28住-10



28住-11



28住-12



28住-13



28住-14



28住-15



28住-16



28住-18



28住-19



28住-20



28住-21



28住-22



28住-23



28住-24



28住-25



28住-26



28住-27



28住-28



28住-29



28住-30



28住-31



28住-32



28住-33



28住-34



28住-35



29住-1



29住-2



29住-3



29住-4



29住-5



29住-6



29住-7



29住-8



29住-9



30住-1



30住-2



30住-3



30住-4



30住-6



30住-7



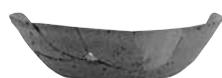
30住-8



30住-9



30住-10



31住-3



31住-5



32住-1



33住-1



34住-1



35住-1



36住-1



37住-1



37住-2



37住-3



37住-4



37住-5



37住-6



38住-2



38住-4



38住-5



39住-1



39住-2



39住-3



41住-1



41住-2



41住-3



41住-5



42住-2



42住-3



44住-4



44住-5



44住-6



44住-7



44住-8



45住-2



46住-2



47住-1



47住-2



47住-3



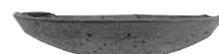
47住-4



47住-5



47住-6



47住-7



48住-1



48住-2



49住-2



49住-4



50住-1



50住-2



50住-3



50住-4



50住-5



50住-6



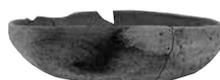
50住-7



51住-1



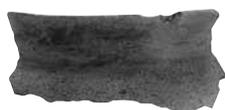
51住-4



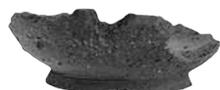
52住-2



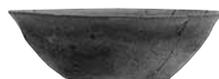
52住-3



53住-2



53住-7



53住-8



53住-9



54住-1



54住-4



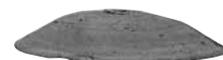
54住-6



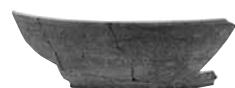
54住-8



54住-9



54住-11



54住-12



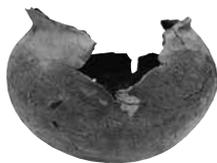
54住-13



54住-14



55住-1



55住-3



55住-4



55住-5



55住-6



55住-7



56住-1



56住-2



56住-3



56住-5



56住-6



56住-7



56住-8



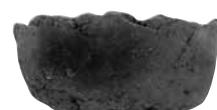
56住-9



56住-10



56住-11



56住-12



57住-1



57住-2



57住-3



57住-4



57住-5



57住-6



57住-7



58住-3



58住-4



58住-5



58住-6



59住-1



59住-2



59住-3



59住-4



59住-5



59住-6

住居跡出土土器 (17)



59住-7



59住-8



59住-9



59住-13



59住-14



59住-15



59住-16



60住-2



63住-1



63住-2



63住-5



64住-1



64住-2



64住-3



64住-4



64住-5



64住-6



64住-7



64住-8



64住-9



64住-10



64住-12



66住-1



66住-2



66住-3



66住-4



66住-5



66住-6



66住-7



66住-9



68住-1



68住-2



68住-3



68住-4



68住-5



70住-1



70住-2



70住-4



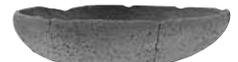
70住-5



70住-6



70住-7



70住-8



70住-9



70住-10



70住-11



70住-12



71住-1



71住-2



71住-3



71住-4



71住-7



71住-8



71住-9



71住-10



71住-11



71住-12



71住-13



71住-14



71住-15



71住-16



71住-17



72住-1



72住-2



72住-3



72住-4



72住-5



72住-6



72住-7



72住-8



72住-9



72住-10



72住-11



15住-3



15住-4



16住-4



53住-3



54住-7

住居跡出土須恵器破片



黒色包含層-1



黒色包含層-4



黒色包含層-5



黒色包含層-7

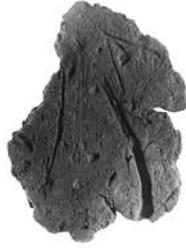


A溝-2

黒色包含層・A溝出土土器



14住-50



14住-51



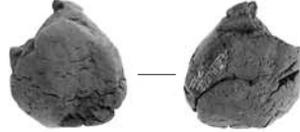
14住-52



18住-33



18住-34



18住-35



18住-36



18住-37



18住-土塊



31住-6



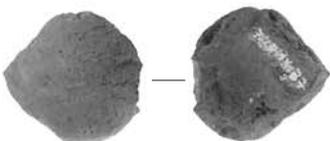
39住-4



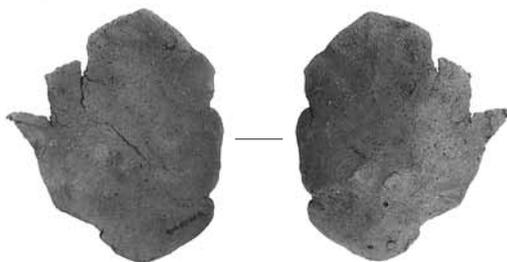
46住-9



46住-10



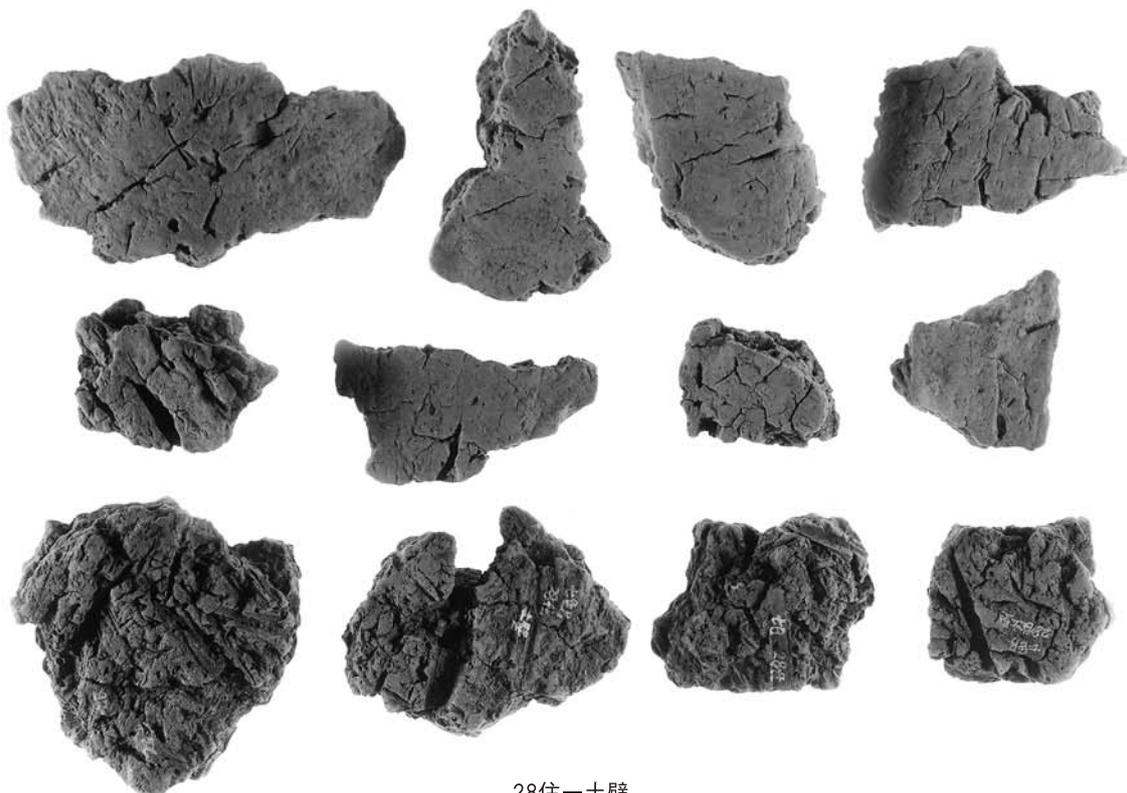
49住-5



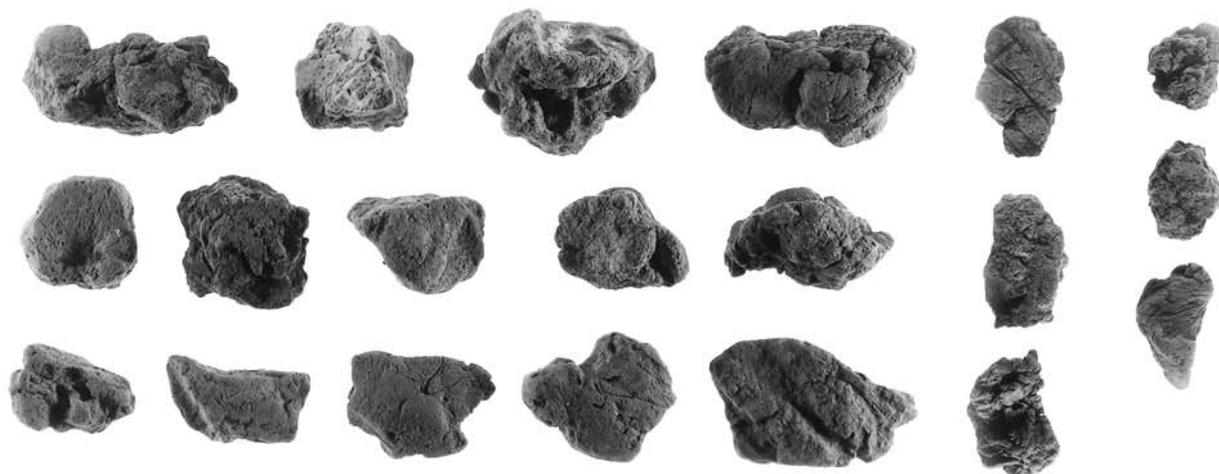
64住-13



70住-13



28住一土壁



18住一土塊



39住一土塊

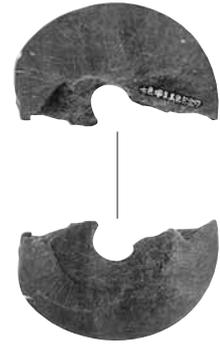
住居跡出土土壁・土塊



16住-8



60住-3

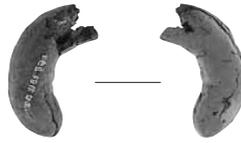


黒色包含層-9

住居跡・黒色包含層出土紡錘車



27住-2



58住-7



13住-36



15住-9



54住-15



66住-10

住居跡出土勾玉・石製模造品



14住-53



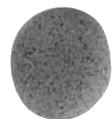
14住-54



16住-9



16住-10



21住-14

住居跡出土砥石・磨石 (1)



24住-2



28住-36



59住-17



56住-13



63住-6

住居跡出土砥石・磨石 (2)



18住-38



18住-39



18住-40



46住-11



54住-16



46住-12



64住-14



1 掘立-1



53住-11

住居跡・掘立柱建物跡出土鉄製品



2土壙-2



2土壙-3



2土壙-4



2土壙-5



2土壙-6



2土壙-7



2土壙-8



2土壙-9



2土壙-10



2土壙-11



2土壙-12



2土壙-13



2土壙-15



2土壙-16



2土壙-17



2土壙-19



2土壙-20



2土壙-21



2土壙-22



2土壙-24



2土壙-25



2土壙-26



2土壙-27



2土壙-28



2土壙-29



2土壙-30



2土壙-31



2土壙-32



2土壙-33



2土壙-34



2土壙-35



2土壙-36



2土壙-37



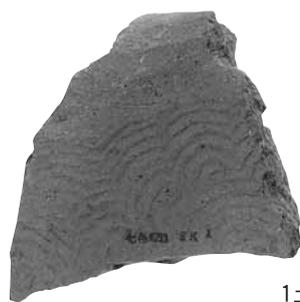
2土壙-38



2土壙-39



1土壙-1



1土壙-2



6土壙-3



6土壙-4



6土壙-5



6土壙-6



6土壙-7



6土壙-8



6土壙-9



2土壙-10



6土壙-11



6土壙-12



6土壙-14



6土壙-15



6土壙-16



6土壙-17



26土壙-1



26土壙-2



17土壙-1



17土壙-2

土壙出土遺物 (3)



3井戸-1



4井戸-1



5井戸-1



4井戸-2

井戸跡出土遺物



3溝-1



3溝-2



3溝-3



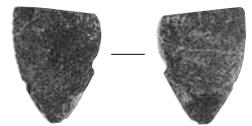
3溝-4



3溝-8



3溝-9



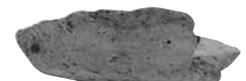
3溝-10



4溝-1



4溝-2



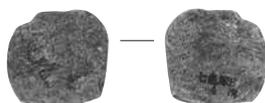
4溝-5



4溝-6



4溝-7



4溝-8

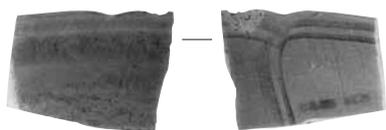


4溝-9

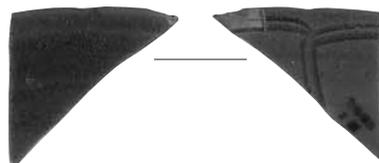


4溝-馬齒

溝跡出土遺物



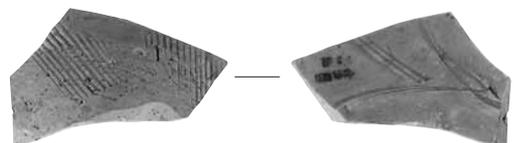
20土壙-1



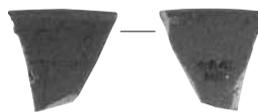
3溝-5



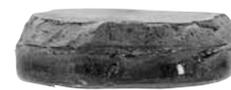
3溝-7



3溝-6



その他-12



その他-13

中国青磁



69住-1



69住-2



27土壙-1



27土壙-2



27土壙-3



27土壙-4



27土壙-5

縄文土器 (1)



その他-1



その他-2



その他-3



その他-4

縄文土器 (2)



その他-5



その他-6



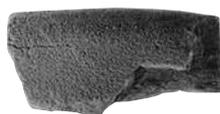
その他-7



その他-8



その他-9



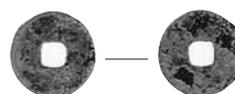
その他-10



その他-11



その他-14



その他-15

その他の出土遺物



北掘新田前遺跡A地点全景(南より)



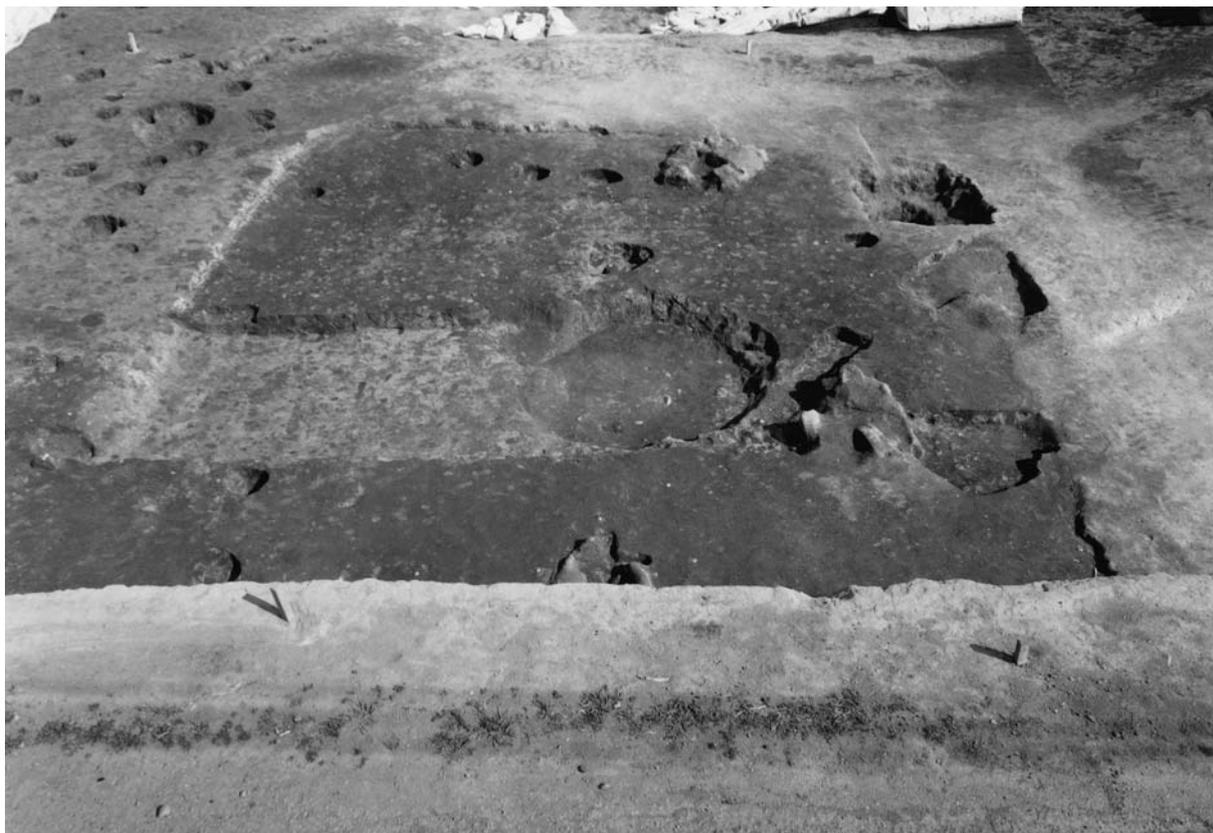
北掘新田前遺跡A 1地点全景(真上より)



A 1 地点全景



第 1 号住居跡カマド



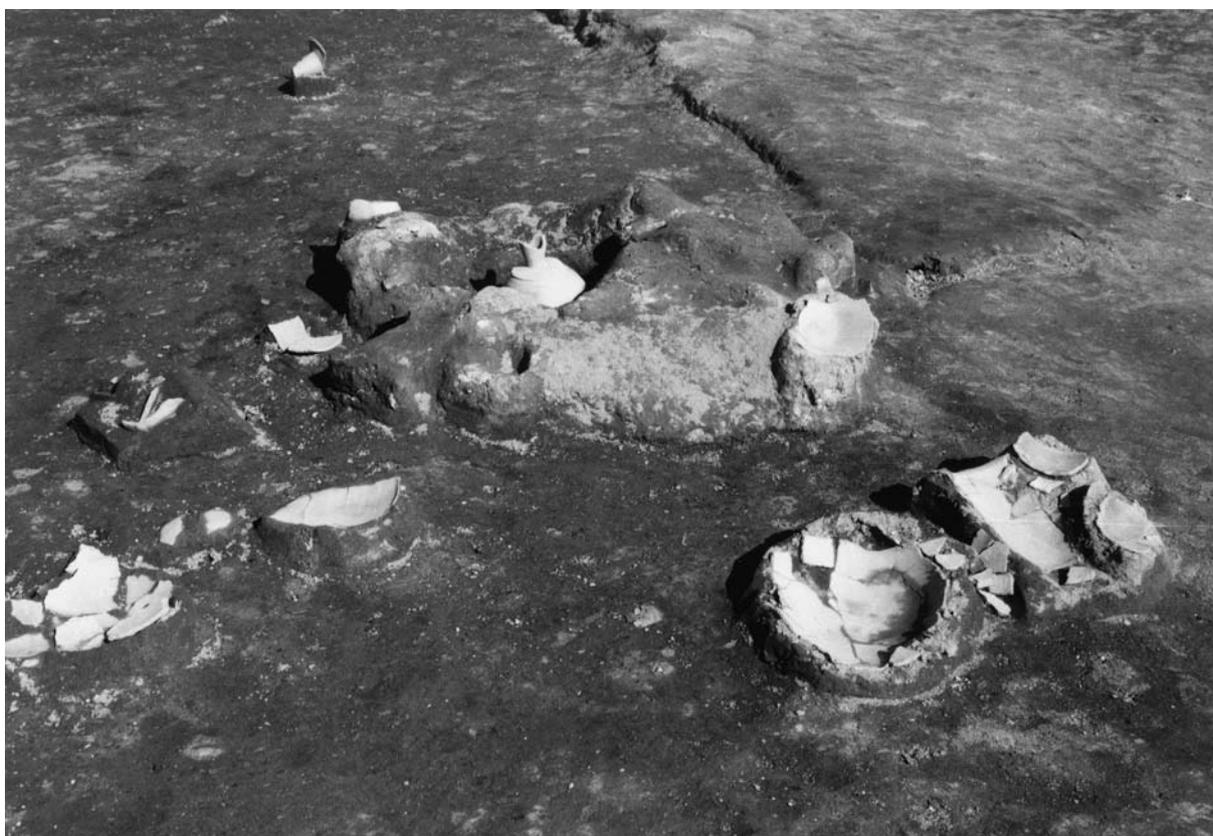
第3～5号住居跡



第3～5号住居跡遺物出土状態



第 3 b 号住居跡



第 3 b 号住居跡遺物出土状態



第3b号住居跡カマド



第3b号住居跡カマド遺物出土状態



第4号住居跡カマド



第5号住居跡カマド



第 3 号井戸跡



A 1 地点埋没谷全景(北西より)



A 1 地点埋没谷全景(南東より)



A 1 地点トレンチ調査区



1住-3



3住-1



3住-2



3住-4



3住-7



3住-8



3住-9



3住-10



3住-11



3住-13



3住-15



5住-1



5住-2



5住-4



5住-3



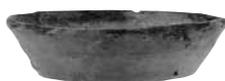
3住-16



4住-2



3井戸-1



3井戸-2



3井戸-3



調査区内-3



調査区内-5



調査区内-6



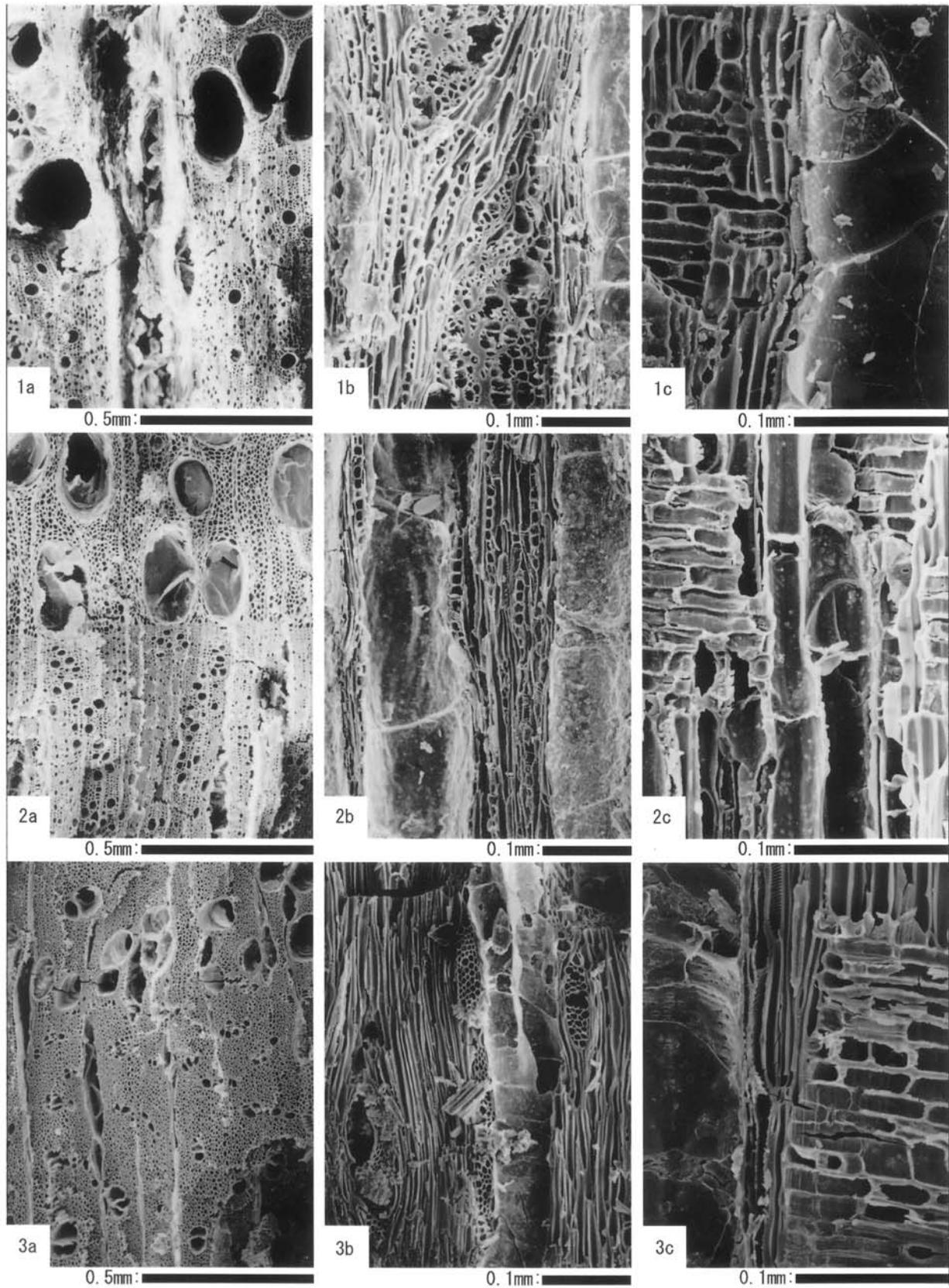
調査区内-7



調査区内-8



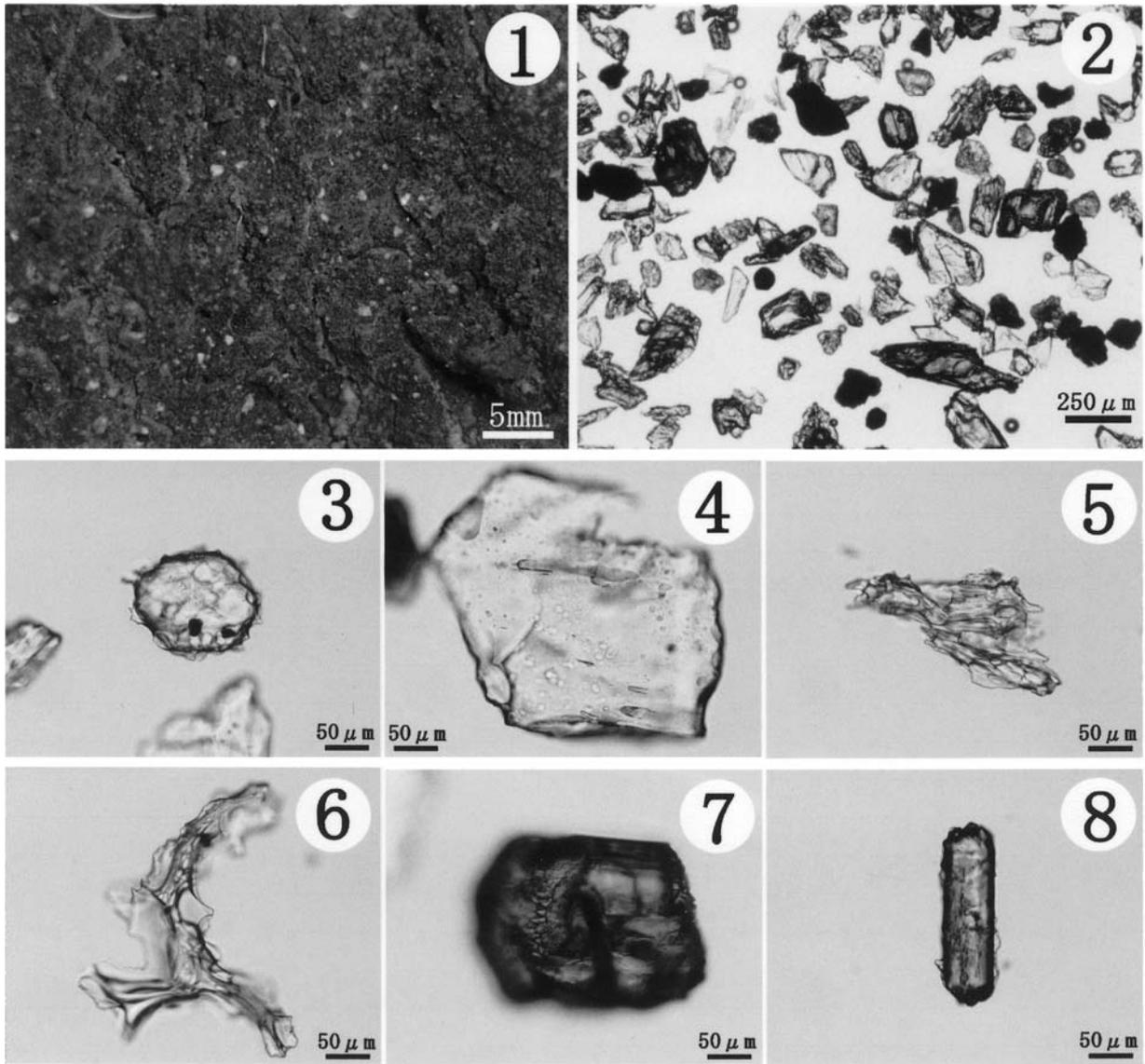
調査区内-11



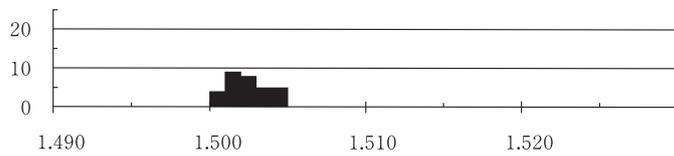
七色塚遺跡B地点第28号住居跡出土炭化材の材組織の走査電子顕微鏡写真

1a～1c：クヌギ節(No1)、2a～2c：クリ(No2)、3a～3c：クワ属(No4)

a：横断面、b：接線断面、c：放射断面



[9]



範囲 (range)	平均 (mean)
1.5001 - 1.5046	1.5024

谷堆積物中の軽石質テフラと火山ガラスの屈折率測定結果

- 1. 黒色土壌中のテフラ
- 2. 4 φ 篩残渣の顕微鏡写真
- 3. ガラス付着斜長石
- 4. 厚手の板状ガラス
- 5. 繊維状ガラス
- 6. スポンジ状ガラス
- 7. 角閃石
- 8. ガラス付着斜方輝石
- 9. 火山ガラスの屈折率測定結果

報 告 書 抄 録

フリガナ	ナナイロヅカイセキⅡ－B 1 チテンー・キタボリシンデンマエイセキーA 1 チテンー							
書名	七色塚遺跡Ⅱ－B 1 地点ー・北堀新田前遺跡－A 1 地点ー							
副書名	本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1							
シリーズ	本庄市埋蔵文化財調査報告書	巻次	第7集					
編著者	恋河内昭彦、松本 完							
編集機関	本庄市教育委員会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 TEL 0495-25-1185							
発行日	西暦2008年(平成20年)3月14日							
フリガナ	フリガナ	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡	(° ' ")	(° ' ")			
なないろづかいせき 七色塚遺跡 (B 1 地点)	ほんじょうしひがしとみた 本庄市東富田 ほか 196-2他	112119	53-071	36° 13' 15"	139° 10' 37"	20061218 ～20070323	3250 ㎡	土地区画整理
きたぼりしんでんまえいせき 北堀新田前遺跡 (A 1 地点)	ほんじょうしきたぼり 本庄市北堀 ほか 1958-1他	112119	53-063	36° 13' 17"	139° 11' 5"	20070109 ～20070131	540 ㎡	〃
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
七色塚遺跡 (B 1 地点)	集落	縄文時代 中期後半	竪穴住居1、土壇2	縄文土器(加曾利EⅢ・Ⅳ式)、石器(打製石斧、石皿)				
	集落	古墳時代 前～後期	竪穴住居25、土壇6、溝3	土師器、土製品(勾玉)、石製品(紡錘車、模造品)				
	集落	白鳳・奈良 平安時代	竪穴住居32、掘立柱建物1、井戸2、土壇8、道路状遺構2	土師器、須恵器、土製品(紡錘車)、石製品(紡錘車)、鉄製品(刀子、鑿形)				
	屋敷	中世	掘立柱建物1、井戸1、土壇8、溝2	龍泉窯系青磁碗、常滑甕・鉢、瀬戸窯系瓶子、在地産土器、金属製品(古銭)				
北堀新田前遺跡 (A 1 地点)	集落	古墳時代 中～後期	竪穴住居1	土師器、鉄製品				
	集落	白鳳・奈良	竪穴住居3	土師器、滑石製白玉				
	屋敷	中世	井戸1	常滑甕、かわらけ(灯明皿)、在地産片口鉢				

本庄市埋蔵文化財調査報告書第7集

七色塚遺跡Ⅱ

-B1地点-

北堀新田前遺跡

-A1地点-

-本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1-

平成20年3月14日 印刷

平成20年3月14日 発行

発行／本庄市教育委員会

埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号

印刷／山進社印刷株式会社